

仙台市文化財調査報告書第 441 集

西台畑遺跡第 9 次調査

—仙台市あすと長町17街区・集合住宅建設に伴う発掘調査報告書—

2016 年 3 月

仙台市教育委員会

住友不動産株式会社

仙台市文化財調査報告書第 441 集

西台畑遺跡第 9 次調査

—仙台市あすと長町17街区・集合住宅建設に伴う発掘調査報告書—

2016 年 3 月

仙台市教育委員会

住友不動産株式会社



東区北側全景(西から)



東区南側全景(西から)



SI154-SK1 完掘状況(北から)



SI154 遺物出土状況(南から)



SI138 遺物出土状況(南東から)



SI162-P4 遺物(E-027)出土状況(東から)



S82 全景(南から)



下層調査区A V7a層水田跡全景(西から)



下層調査区A V7a層畦畔上溝跡全景(西から)



下層調査区A V7a層畦畔上溝跡断面(西から)



下層調査区A V7a層畦畔断面(西壁)(東から)



下層調査区B VIIa層水田跡全景(南から)



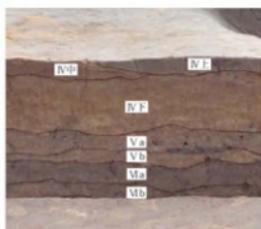
下層調査区B VIIa層畦畔断面(東壁)(東から)



下層調査区B VIIa層畦畔断面(北壁)(南から)



下層調査区B VIIa層畦畔断面(東壁)(西から)



1-1. 東区北側下層調査区南壁上段 (北から)



3-1. 下層調査区C東壁上段(西から)



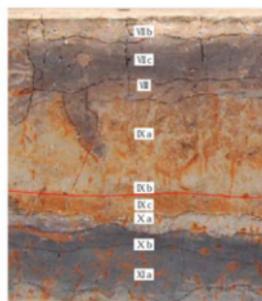
4-1. 下層調査区A西壁上段(東から)



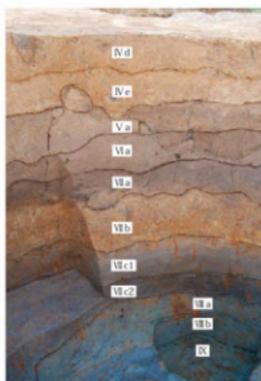
1-2. 東区北側下層調査区南壁下段 (北から)



3-2. 下層調査区C東壁下段(西から)



4-2. 下層調査区A西壁中段(東から)



2. 西区北東部SK178断面(西から)



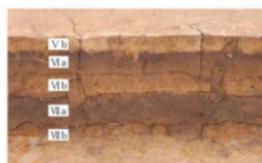
5. 東区南西隅南壁(北から)



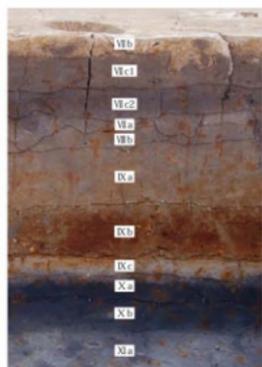
4-3. 下層調査区A西壁下段(東から)



6-1. 下層調査区B南壁上段(北から)



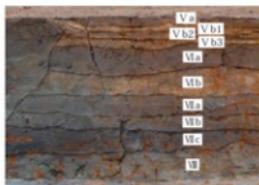
6-2. 下層調査区B南壁中段(東から)



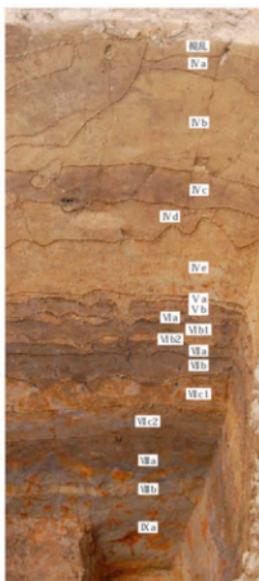
6-3. 下層調査区B南壁下段(東から)



7-1. 下層調査区D東壁上段(西から)



7-2. 下層調査区D東壁下段(西から)



8. 西区トレンチ1北壁(南から)



9-1. 西区トレンチ2西壁上段(東から)



9-2. 西区トレンチ2西壁下段(東から)





SI154 出土遺物



SI143 出土遺物



SI136出土遺物



第9次調査出土須恵器

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、市民協働による仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された、西台畑遺跡第9次発掘調査の成果をまとめたものです。区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から始まり、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。

西台畑遺跡は、昭和32年、煉瓦工場地内での粘土採掘中に弥生土器が発見され、遺跡の所在が明らかになりました。この時の資料は、弥生時代中期の仙台平野における葬制を考える上で重要な資料となっており、学史的にも注目される遺跡であります。今回の調査地点は、西台畑遺跡の南西部にあたり、官衙が営まれていた時期の竪穴住居跡が密集して確認されましたが、特に古墳時代前期の住居跡が確認されたことから、集落の初現がこの時期にあることが明らかになりました。

ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者である住友不動産株式会社様には、発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、5年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ 仙台」を掲げて、復興5か年計画を進めてまいりました。昨年12月には、被災した東部と中心部を結ぶ地下鉄東西線が営業を開始するなど、復興に向けた動きが一層進むものと思います。そうした中、発掘調査及び調査報告書刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成28年3月

仙台市教育委員会

教育長 大越 裕光

例 言

1. 本書は、仙台市あすと長町17街区地内の集合住宅建設に伴う西台畑遺跡第9次調査の発掘調査報告書である。
2. 本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社四門が行なった。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 工藤 信一郎、小泉 博明、結城 慎一の監理の下、遺構図トレース、出土遺物の登録・実測およびトレース・写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を株式会社四門が担当した。
4. 本書の執筆・図版作成は、第1章・第3章と第6章冒頭を工藤 信一郎、第2章・第4章を高橋 直崇(株式会社四門東北支店、以下同じ)が担当した。第5章の遺構・遺物事実記載は、第1節1.(1)・(2)、2.(2)～(6)と第2節を春日 貴明が、その他を高橋 直崇が担当した。編集は、春日貴明が担当し、高橋 直崇が協力した。
5. 陶磁器の年代・産地の確認は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤 洋が行った。
6. 石器・石製品の実測・石材の同定及び観察表作成については、工藤 信一郎、高橋 直崇、熊谷 亮介(東北大学大学院)が行なった。
7. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、住友不動産株式会社に協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
8. 本書の調査成果については、これまで宮城県遺跡調査成果発表会などにおいて、その内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
9. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 第1図・第3図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1:10,000、「仙台南東部」「仙台南西部」1:25,000を使用した。
2. 遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第X系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は、基本座標北を基準としているが、それ以外の図に関しては別途、以下に示した方位を表示した。

① 方位(真北)

3. 本文中の土色の記載には「新版 標準土色帖」2000年度版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
4. 断面図の数値は、海拔高度(T.P)を示す。
5. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
SB:掘立柱建物跡 SD:溝跡 SI:竪穴住居跡 SK:土坑 SX:性格不明遺構 Pit:ピット
また、SBを構成する柱穴及びSI付属施設のピットはPと表記し、個別のピットと区別した。ただし、第204・205図のピット位置図では煩雑を避けるため、個別ピットをPで表記している。
6. 竪穴住居跡における主軸方位の算出、壁面呼称の基準については『西台畑遺跡第1・2次調査』(仙台市教委2010b)に準じた。
7. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。また、各図に必要な応じて凡例を付した。



柱痕跡



柱底面粘土化範囲



被熱範囲



炭化材

8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別毎にアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたり遺物記号Kの後に小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

A:縄文土器 B:弥生土器 C:土師器(非クロコ調整) E:須恵器 Ka:打製石器 Kc:礫石器 Kd:石製品 N:金属製品 P:土製品 Q:骨角器

9. 遺物実測図の縮尺は、打製石器・骨角器と小型の金属製品・石製品は2/3、このほかは1/3を基本とした。

10. 土師器の実測図に使用したスクリーンパターンは、以下の通りである。これ以外のものについては、その都度図中に示した。



黒色処理

11. 土師器の器種および部位呼称、計測位置は『西台畑遺跡第1・2次調査』(仙台市教委 前掲)に準じた。

12. 本書における石器の器種分類については、『西台畑遺跡第1・2次調査』(仙台市教委 前掲)に準じた。

13. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーンパターンは、以下の通りである。



敲打痕

14. 遺構・遺物の観察表内における()付の計測値は、土器類の各径については推定、その他については残存値を示す。

15. 掲載した遺物写真の縮尺は原則として遺物実測図に準じた。但し、その縮尺での掲載が困難な場合は、適宜縮尺を変更した。

16. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄子1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』

仙台市教育委員会 2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史 2003「古代東北の広域テララをめぐる問題-十和田aと白頭山(長白山)を中心に-」『日本律令の展開』吉川弘文館

17. 本文中の時期区分は以下の本書時期区分表に従う。

西台畑遺跡第9次調査 時期区分表

時期区分	時代・時期		土器型式 産地	土地利用 (自然堤防)	西台畑 第1・2次 (第359集)	西台畑 第3次 (第388集)	西台畑 第4・5・7次 (第388集)									
1期	縄文時代	後期	中葉	宝ヶ塚式	包含地	-	1期	1期	a	i						
			後葉	金剛寺式(輪付土器)					b	ii						
			初葉～前葉	大洞B1、B2、B C式					i	iii						
		前期	中葉	大洞C1、C2式					b	iv						
			後葉	大洞A1、A2式					-	-						
			末葉	大洞A式					-	-						
-	-	前葉	寺下四式並行	-	-	a	-									
2期	弥生時代	中期	中葉(古段階)	樹形筒式	-	-	2期	2期	a	-						
中葉(中段階)			中在家南式	c					-							
-			-	-					-	-						
3期	古墳時代	前期	後葉	壺釜式	-	-	3期	4期	a	-						
後期			-	住社式(新)					b	-						
4期		終末期	-	栗田式					居住域	1期	3b期	4期	b	-		
-			-	+									2期	4a期	a	-
5期			-	+									3期	4b 1期	i	-
6期			-	+									4期	4b 2期	ii	-
-	奈良時代	平安時代	-	国分寺下層式	-	-	5期	6期	-	-						
-			-	表杉ノ入式					6期	7期	-	-				
7期	中世	近世	-	常滑・白石窯(系) 他	-	-	7期	8期	-	-						
8期			-	堤・大堀馬 他					7期	8期	-	-				
-	-	-	-	居住域	-	-	-	-	-	-						
-	-	-	-	散布地	-	-	-	-	-	-						

目 次

巻頭カラー写真

序文

例言

凡例

第1章	調査にいたる経過	1
第1節	調査事由	1
第2節	調査要項	3
(1)	第9次調査(平成25年度)調査体制	3
(2)	第9次調査(平成26年度)調査体制	4
(3)	調査報告書作成体制(平成27年度)	4
第2章	遺跡の立地と環境	4
第3章	調査の方法と概要	7
第1節	調査の方法	7
(1)	調査区の設定	7
第2節	調査概要	7
(1)	調査経過	7
(2)	測量基準・図面の作成	7
(3)	遺物の取り上げ・調査記録の作成	8
(4)	遺構登録番号	8
(5)	調査報告書作成作業	9
第4章	基本層序	9
第5章	検出遺構と出土遺物	21
第1節	古墳時代～中世の遺構と遺物:IV層上面の調査	21
1. 古代～中世の遺構と遺物		21
(1)	溝跡	21
(2)	井戸跡	24
(3)	遺構外出土遺物	33
2. 古墳時代～古代の遺構と遺物		33
(1)	竪穴住居跡	33
(2)	掘立柱建物跡	181
(3)	溝跡	199
(4)	土坑	208

(5) 性格不明遺構	217
(6) ビット	229
(7) 河川跡	238
3. 遺構外出土遺物	239
(1) 土師器	239
(2) 須恵器	239
第2節 縄文時代～弥生時代の遺構と遺物:IV層～X層の調査	241
1. 検出遺構	243
(1) VII a 層上面検出遺構	243
(2) VII c1 層上面検出遺構	247
(3) VIII層上面検出遺構	248
2. 出土遺物	248
(1) V層出土遺物	248
(2) VI層出土遺物	250
(3) VII a 層出土遺物	254
(4) VII b 層出土遺物	258
(5) VII c 層出土遺物	259
(6) X層出土遺物	262
(7) 層位不明出土遺物	263

第6章 総括	264
第1節 出土遺物	264
1.1期:縄文時代後期～晩期の遺物	265
2.2期:弥生時代中期の遺物	265
3.3期:古墳時代前期の土器	265
4.4～6期の土器	267
(1)4期:住社式期新段階の土器	268
(2)5期:郡山I期宮衙期の土器	268
(3)6期:郡山II期宮衙期の土器	271
第2節 検出遺構	278
1.1～2期:縄文時代後期～弥生時代中期	278
2.3期:古墳時代前期	280
3.4～6期:古墳時代前期～奈良時代	281
(1) 竪穴住居跡について	281
(2) その他の遺構	288
4.7期:平安時代～中世	289
5.8期:近世	289
第3節 まとめ	289
引用・参考文献	293

挿図目次

第1図	郡山遺跡・西台畑遺跡の位置と調査地点	1	第43図	SI134 竪穴住居跡(4)	52
第2図	調査区位置図	3	第44図	SI134 竪穴住居跡出土遺物	53
第3図	西台畑遺跡と周辺の遺跡	6	第45図	SI135 竪穴住居跡	54
第4図	調査区配置図	8	第46図	SI135 竪穴住居跡出土遺物	54
第5図	基本層序 下層調査区A・下層調査区B(1)	11-12	第47図	SI136 竪穴住居跡(1)	55
第6図	基本層序 下層調査区B(2)	13-14	第48図	SI136 竪穴住居跡(2)	56
第7図	基本層序 下層調査区C・下層調査区D	15-16	第49図	SI136 竪穴住居跡(3)	57
第8図	基本層序 東区北側下層調査区	17-18	第50図	SI136 竪穴住居跡(4)	58
第9図	基本層序柱状模式図	19	第51図	SI136 竪穴住居跡出土遺物(1)	61
第10図	古代～中世の遺構全体図	22	第52図	SI136 竪穴住居跡出土遺物(2)	62
第11図	東区・中区北側SD溝跡(古代～中世)	22	第53図	SI136 竪穴住居跡出土遺物(3)	63
第12図	SD84 溝跡出土遺物	24	第54図	SI137 竪穴住居跡	64
第13図	SK139 井戸跡	25	第55図	SI137 竪穴住居跡出土遺物	65
第14図	SK139 井戸跡出土遺物	25	第56図	SI138 竪穴住居跡	66
第15図	SK141 井戸跡	26	第57図	SI138 竪穴住居跡出土遺物(1)	68
第16図	SK141 井戸跡出土遺物	26	第58図	SI138 竪穴住居跡出土遺物(2)	69
第17図	SK148 井戸跡	27	第59図	SI138 竪穴住居跡出土遺物(3)	70
第18図	SK148 井戸跡出土遺物	27	第60図	SI138 竪穴住居跡出土遺物(4)	71
第19図	SK149・150 井戸跡	28	第61図	SI138 竪穴住居跡出土遺物(5)	72
第20図	SK150 井戸跡出土遺物	28	第62図	SI139 竪穴住居跡(1)	73
第21図	SK151 井戸跡	29	第63図	SI139 竪穴住居跡(2)	75
第22図	SK151 井戸跡出土遺物	29	第64図	SI139 竪穴住居跡出土遺物(1)	76
第23図	SK154・155 井戸跡	30	第65図	SI139 竪穴住居跡出土遺物(2)	77
第24図	SK161 井戸跡	31	第66図	SI140 竪穴住居跡(1)	78
第25図	SK161 井戸跡出土遺物	31	第67図	SI140 竪穴住居跡(2)	79
第26図	SK162・178 井戸跡	32	第68図	SI140 竪穴住居跡(3)	80
第27図	SK162 井戸跡出土遺物	33	第69図	SI140 竪穴住居跡出土遺物	82
第28図	古墳時代～古代の遺構全体図	34	第70図	SI141 竪穴住居跡(1)	83
第29図	東区竪穴住居跡位置図	35	第71図	SI141 竪穴住居跡(2)	84
第30図	中区竪穴住居跡位置図	36	第72図	SI141 竪穴住居跡出土遺物(1)	85
第31図	SI132 竪穴住居跡	38	第73図	SI141 竪穴住居跡出土遺物(2)	86
第32図	SI132 竪穴住居跡出土遺物	39	第74図	SI142 竪穴住居跡(1)	87
第33図	SI133 竪穴住居跡(1)	40	第75図	SI142 竪穴住居跡(2)	88
第34図	SI133 竪穴住居跡(2)	41	第76図	SI142 竪穴住居跡出土遺物(1)	90
第35図	SI133 竪穴住居跡(3)	42	第77図	SI142 竪穴住居跡出土遺物(2)	91
第36図	SI133 竪穴住居跡(4)	43	第78図	SI142 竪穴住居跡出土遺物(3)	92
第37図	SI133 竪穴住居跡出土遺物(1)	46	第79図	SI143 竪穴住居跡	93
第38図	SI133 竪穴住居跡出土遺物(2)	47	第80図	SI143 竪穴住居跡出土遺物(1)	95
第39図	SI133 竪穴住居跡出土遺物(3)	48	第81図	SI143 竪穴住居跡出土遺物(2)	96
第40図	SI134 竪穴住居跡(1)	49	第82図	SI144 竪穴住居跡(1)	97
第41図	SI134 竪穴住居跡(2)	50	第83図	SI144 竪穴住居跡(2)	98
第42図	SI134 竪穴住居跡(3)	51	第84図	SI144 竪穴住居跡出土遺物	99
			第85図	SI145 竪穴住居跡	100
			第86図	SI145 竪穴住居跡出土遺物	102

第87図	SI146 竪穴住居跡	103	第139図	SI163 竪穴住居跡出土遺物	166
第88図	SI146 竪穴住居跡出土遺物	105	第140図	SI164 竪穴住居跡(1)	167
第89図	SI147 竪穴住居跡(1)	106	第141図	SI164 竪穴住居跡(2)	168
第90図	SI147 竪穴住居跡(2)	107	第142図	SI164 竪穴住居跡出土遺物	169
第91図	SI147 竪穴住居跡出土遺物	109	第143図	SI165 竪穴住居跡	170
第92図	SI148 竪穴住居跡(1)	110	第144図	SI165 竪穴住居跡出土遺物	171
第93図	SI148 竪穴住居跡(2)	111	第145図	SI166 竪穴住居跡	172
第94図	SI148 竪穴住居跡出土遺物(1)	113	第146図	SI167 竪穴住居跡	173
第95図	SI148 竪穴住居跡出土遺物(2)	114	第147図	SI167 竪穴住居跡出土遺物	174
第96図	SI148 竪穴住居跡出土遺物(3)	115	第148図	SI168 竪穴住居跡	175
第97図	SI149 竪穴住居跡	116	第149図	SI169 竪穴住居跡	176
第98図	SI149 竪穴住居跡出土遺物	118	第150図	SI169 竪穴住居跡出土遺物	177
第99図	SI150 竪穴住居跡	119	第151図	SI170 竪穴住居跡(1)	178
第100図	SI150 竪穴住居跡出土遺物	120	第152図	SI170 竪穴住居跡(2)	179
第101図	SI151 竪穴住居跡	121	第153図	SI170 竪穴住居跡出土遺物	179
第102図	SI152 竪穴住居跡	122	第154図	SI172 竪穴住居跡	180
第103図	SI152 竪穴住居跡出土遺物	122	第155図	中区SB 掘立柱建物跡位置図 (古墳時代～古代)	181
第104図	SI153 竪穴住居跡(1)	123	第156図	東区SB 掘立柱建物跡位置図 (古墳時代～古代)	182
第105図	SI153 竪穴住居跡(2)	124	第157図	SB1 掘立柱建物跡	183
第106図	SI153 竪穴住居跡出土遺物	126	第158図	SB1 掘立柱建物跡出土遺物	184
第107図	SI154 竪穴住居跡(1)	127	第159図	SB2 掘立柱建物跡(1)	184
第108図	SI154 竪穴住居跡(2)	128	第160図	SB2 掘立柱建物跡(2)	185
第109図	SI154 竪穴住居跡(3)	129	第161図	SB3 掘立柱建物跡(1)	186
第110図	SI154 竪穴住居跡(4)	131	第162図	SB3 掘立柱建物跡(2)	187
第111図	SI154 竪穴住居跡出土遺物	132	第163図	SB4 掘立柱建物跡	188
第112図	SI155 竪穴住居跡(1)	134	第164図	SB2 掘立柱建物跡(1)	189
第113図	SI155 竪穴住居跡(2)	135	第165図	SB5 掘立柱建物跡(2)	190
第114図	SI155 竪穴住居跡(3)	136	第166図	SB5 掘立柱建物跡出土遺物	190
第115図	SI155 竪穴住居跡出土遺物	138	第167図	SB6 掘立柱建物跡	191
第116図	SI156 竪穴住居跡	139	第168図	SB7 掘立柱建物跡(1)	192
第117図	SI156 竪穴住居跡出土遺物(1)	140	第169図	SB7 掘立柱建物跡(2)	193
第118図	SI156 竪穴住居跡出土遺物(2)	141	第170図	SB8 掘立柱建物跡	194
第119図	SI157 竪穴住居跡	142	第171図	SB9 掘立柱建物跡	195
第120図	SI157 竪穴住居跡出土遺物	143	第172図	SB9 掘立柱建物跡出土遺物	196
第121図	SI158 竪穴住居跡(1)	144	第173図	SB10 掘立柱建物跡	197
第122図	SI158 竪穴住居跡(2)	145	第174図	SB11 掘立柱建物跡	198
第123図	SI158 竪穴住居跡(3)	146	第175図	SD82 溝跡	200
第124図	SI158 竪穴住居跡出土遺物(1)	149	第176図	SD82 溝跡出土遺物	201
第125図	SI158 竪穴住居跡出土遺物(2)	150	第177図	SD83-87 溝跡	202
第126図	SI159 竪穴住居跡(1)	151	第178図	東区・中区北側SD溝跡 (古墳時代～古代)(1)	203
第127図	SI159 竪穴住居跡(2)	152	第179図	東区・中区北側SD溝跡 (古墳時代～古代)(2)	204
第128図	SI159 竪穴住居跡出土遺物	153	第180図	中区南側SD溝跡(古墳時代～古代)	206
第129図	SI160 竪穴住居跡	154	第181図	SD102 溝跡	207
第130図	SI161 竪穴住居跡(1)	155	第182図	東区南側SK土坑位置図 (古墳時代～古代)	208
第131図	SI161 竪穴住居跡(2)	156	第183図	中区SK土坑位置図(古墳時代～古代)	209
第132図	SI161 竪穴住居跡出土遺物	158	第184図	東区北側SK土坑位置図 (古墳時代～古代)	210
第133図	SI162-171 竪穴住居跡(1)	159			
第134図	SI162-171 竪穴住居跡(2)	160			
第135図	SI162-171 竪穴住居跡(3)	161			
第136図	SI162 竪穴住居跡出土遺物	163			
第137図	SI163 竪穴住居跡(1)	164			
第138図	SI163 竪穴住居跡(2)	165			

第185図	SK140・145土坑	211	第220図	VI層出土遺物(1)	252
第186図	SK140土坑出土遺物	211	第221図	VI層出土遺物(2)	253
第187図	SK146・147土坑	212	第222図	東区北側下層調査区 VIIa層遺物出土状況	254
第188図	SK152・153土坑	213	第223図	下層調査区A VIIa層遺物出土状況	255
第189図	SK156・157土坑	214	第224図	下層調査区B VIIa層遺物出土状況	256
第190図	SK158～160・164土坑	215	第225図	VIIa層出土遺物	257
第191図	SK165・169土坑	216	第226図	東区北側下層調査区 VIIb層遺物出土状況	258
第192図	SK176土坑	217	第227図	VIIb層出土遺物	258
第193図	東区南側・中央区SX性格不明遺構位置図	218	第228図	東区北側下層調査区 VIIc層遺物出土状況	259
第193図	東区北側・中区北側SX性格不明遺構位置図	219	第229図	下層調査区B VIIc層遺物出土状況	260
第195図	SX1・2性格不明遺構	220	第230図	VIIc層出土遺物	260
第196図	SX3・4性格不明遺構	221	第231図	下層調査区A X層遺物出土状況	261
第197図	SX5～11性格不明遺構	223	第232図	下層調査区B X層遺物出土状況	262
第198図	SX11性格不明遺構出土遺物	224	第233図	X層出土遺物	262
第199図	SX12・13性格不明遺構	225	第234図	層位不明出土遺物	263
第200図	SX14・15性格不明遺構	226	第235図	下層調査区出土縄文土器集成	265
第201図	SX16性格不明遺構	227	第236図	下層調査区出土弥生土器修正	266
第202図	SX16性格不明遺構出土遺物	228	第237図	3期竪穴住居跡土器集成	267
第203図	SX18・19性格不明遺構	229	第238図	4～6期竪穴住居跡土器集成(1)	269
第204図	東区ビット位置図	230	第239図	4～6期竪穴住居跡土器集成(2)	270
第205図	中区ビット位置図	231	第240図	4～6期竪穴住居跡土器集成(3)	272
第206図	ビット出土遺物	232	第241図	4～6期竪穴住居跡土器集成(4)	273
第207図	西区トレンチ2 旧河道	238	第242図	4～6期竪穴住居跡土器集成(5)	274
第208図	遺構外出土遺物	240	第243図	4～6期竪穴住居跡土器集成(6)	275
第209図	下層調査区配置図	241	第244図	4～6期竪穴住居跡土器集成(7)	276
第210図	VIIa層上面検出遺構	243	第245図	4～6期竪穴住居跡土器集成(8)	277
第211図	下層調査区A・B VIIa層水田跡(1)	245	第246図	西台畑遺跡水田跡全体図	279
第212図	下層調査区A・B VIIa層水田跡(2)	246	第247図	西台畑遺跡第9次調査	283
第213図	下層調査区C VIIc層水田跡	247	第248図	4～6期竪穴住居跡の重複関係模式図	284
第214図	VIII層上面検出遺構	248	第249図	主要遺構変遷図(1)	284
第215図	下層調査区B VIIa層遺物出土状況	249	第250図	主要遺構変遷図(2)	285
第216図	V層出土遺物	249	第251図	主要遺構変遷図(3)	286
第217図	東区北側下層調査区 VI層遺物出土状況	251	第251図	第9次調査周辺の小溝状遺構群配置図	288
第218図	下層調査区A VIb層遺物出土状況	252	第252図	郡山官衙西辺と西台畑遺跡	292-293
第219図	下層調査区B VIb層遺物出土状況	252			

写真図版目次

写真図版1	調査区全景(1)	295	写真図版39	竪穴住居跡(38)	333
写真図版2	竪穴住居跡(1)	296	写真図版40	竪穴住居跡(39)	334
写真図版3	竪穴住居跡(2)	297	写真図版41	竪穴住居跡(40)	335
写真図版4	竪穴住居跡(3)	298	写真図版42	竪穴住居跡(41)・掘立柱建物跡・溝跡(1)	336
写真図版5	竪穴住居跡(4)	299	写真図版43	溝跡(2)	337
写真図版6	竪穴住居跡(5)	300	写真図版44	溝跡(3)・土坑(1)	338
写真図版7	竪穴住居跡(6)	301	写真図版45	土坑(2)・性格不明遺構・調査区全景	339
写真図版8	竪穴住居跡(7)	302	写真図版46	西区トレンチ・東区北側下層調査区・下層調査区A(1)	340
写真図版9	竪穴住居跡(8)	303	写真図版47	下層調査区A(2)・下層調査区B(1)	341
写真図版10	竪穴住居跡(9)	304	写真図版48	下層調査区B(2)・下層調査区C・下層調査区D・作業風景	342
写真図版11	竪穴住居跡(10)	305	写真図版49	竪穴住居跡出土遺物(1)	343
写真図版12	竪穴住居跡(11)	306	写真図版50	竪穴住居跡出土遺物(2)	344
写真図版13	竪穴住居跡(12)	307	写真図版51	竪穴住居跡出土遺物(3)	345
写真図版14	竪穴住居跡(13)	308	写真図版52	竪穴住居跡出土遺物(4)	346
写真図版15	竪穴住居跡(14)	309	写真図版53	竪穴住居跡出土遺物(5)	347
写真図版16	竪穴住居跡(15)	310	写真図版54	竪穴住居跡出土遺物(6)	348
写真図版17	竪穴住居跡(16)	311	写真図版55	竪穴住居跡出土遺物(7)	349
写真図版18	竪穴住居跡(17)	312	写真図版56	竪穴住居跡出土遺物(8)	350
写真図版19	竪穴住居跡(18)	313	写真図版57	竪穴住居跡出土遺物(9)	351
写真図版20	竪穴住居跡(19)	314	写真図版58	竪穴住居跡出土遺物(10)	352
写真図版21	竪穴住居跡(20)	315	写真図版59	竪穴住居跡出土遺物(11)	353
写真図版22	竪穴住居跡(21)	316	写真図版60	竪穴住居跡出土遺物(12)	354
写真図版23	竪穴住居跡(22)	317	写真図版61	竪穴住居跡出土遺物(13)	355
写真図版24	竪穴住居跡(23)	318	写真図版62	竪穴住居跡出土遺物(14)	356
写真図版25	竪穴住居跡(24)	319	写真図版63	竪穴住居跡出土遺物(15)	357
写真図版26	竪穴住居跡(25)	320	写真図版64	竪穴住居跡出土遺物(16)	358
写真図版27	竪穴住居跡(26)	321	写真図版65	竪穴住居跡出土遺物(17)	359
写真図版28	竪穴住居跡(27)	322	写真図版66	竪穴住居跡出土遺物(18)	360
写真図版29	竪穴住居跡(28)	323	写真図版67	竪穴住居跡出土遺物(19)・掘立柱建物跡・溝跡出土遺物	361
写真図版30	竪穴住居跡(29)	324	写真図版68	井戸・土坑・ビット出土遺物	362
写真図版31	竪穴住居跡(30)	325	写真図版69	性格不明遺構・遺構外出土遺物	363
写真図版32	竪穴住居跡(31)	326	写真図版70	V層・VI層・VIb層・V～VII層出土遺物	364
写真図版33	竪穴住居跡(32)	327	写真図版71	VIIa層・VIIb層・VIIc層・X層・層位不明出土遺物	365
写真図版34	竪穴住居跡(33)	328			
写真図版35	竪穴住居跡(34)	329			
写真図版36	竪穴住居跡(35)	330			
写真図版37	竪穴住居跡(36)	331			
写真図版38	竪穴住居跡(37)	332			

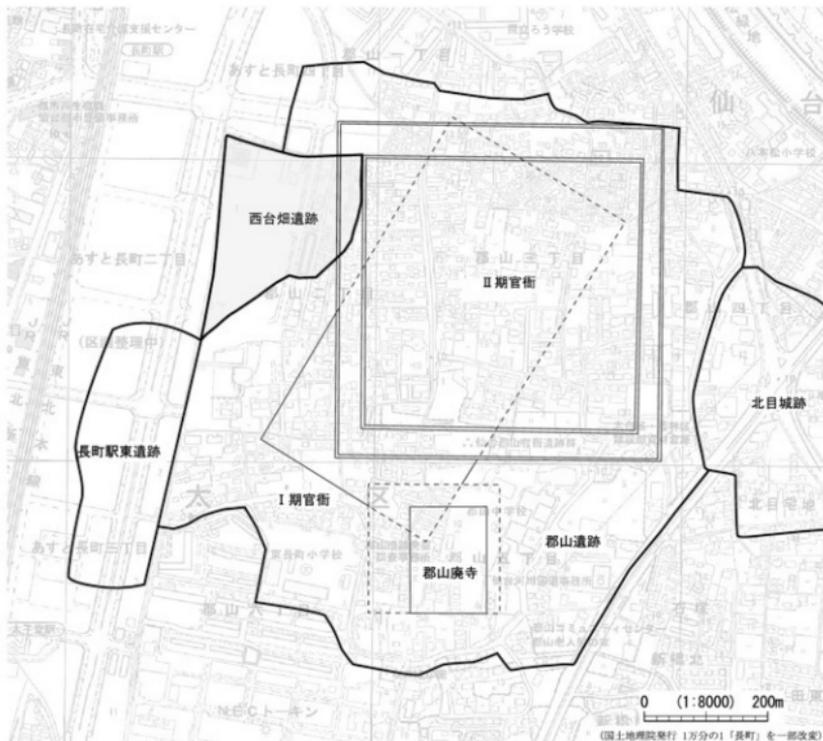
第1章 調査にいたる経過

第1節 調査事由(第1図)

仙台市南部の太白区長町地区では、旧国鉄長町貨物ヤード跡地一帯に計画された副都心整備事業である「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅・都市整備公団（現 独立行政法人都市再生機構）が本事業の施行に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業地内の計画路線にかかる長町駅東遺跡・西台畑遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として発掘調査を行ってきた。

また、郡山遺跡では、区画整理事業とは別に、昭和54年以来継続して発掘調査が行われ、陸奥国府である多賀城に先行する2時期の官衙（Ⅰ期官衙→Ⅱ期官衙）があったことが明らかになっている。

あすと長町土地区画整理事業に伴う道路等の公共用地を対象とした発掘調査（野外調査）は、平成21年度に終了したが、その後は供用が開始された事業用地での開発計画に伴い、事業者と協議の上、発掘調査を行ってきた。事業地内での発掘調査は、平成10年の西台畑遺跡から現在まで継続して行われているが、7世紀中頃から8世紀初めの時期を中心とする竪穴住居跡が総数600軒以上発見されている。



第1図 郡山遺跡・西台畑遺跡の位置と調査地点

今回の調査は、あすと長町土地区画整理事業地内17街区において住友不動産株式会社により計画された集合住宅建設に伴い、平成25年3月13日付けで仙台市教育委員会に事業地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出されたことに始まる。開発予定地は西台畑遺跡の北西部にあたり、土地区画整理事業に伴い平成12年に行った西台畑遺跡第3次調査区の西、平成13・17・19年に行った第4・5・7次調査区の北に隣接している。

当該地については、平成24年度当初から、事業者から建築計画に伴う発掘調査の実施について問合せがあり、その後いくつかの建築計画に基づいた協議を続けていたが、最終的な建築計画が固まったことから協議書の提出となった。その間、事業者が自主的に行った汚染土壌検査により、開発予定地内の一部の表土(表層1m程度)を中心に、自然由来の汚染土壌があることが明らかになったことから、発掘調査に伴う表土除去作業に関して、汚染土壌の取扱いについての協議も行った。

教育委員会と事業者の協議の結果、発掘調査は3年計画で行うこととなり、計画された建物部分を対象に初年度は東半部及び中央部の一部、2年次は中央部及び西半部を対象として実施し、発掘調査報告書の作成は3年次に行うことになった。

西台畑遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査回数	調査区	調査成果	所収報告書
昭和57年度 (1982)	-	遺跡北西部・病院建設に伴う調査	河川跡	仙台市文化財 調査報告書 第57集
平成10年度 (1998)	第1次調査	I・IIIV・Ⅲ区 遺構範囲確認調査	第六区跡跡31軒、竪立柱建物跡4棟、溝跡、土坑 中世屋敷区画溝、井戸跡、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第359集
平成11年度 (1999)	第2次調査	II区南・Ⅲ区西 I区・II区南・Ⅲ区下層調査 遺構範囲確認調査	第六区跡跡3科、溝跡、土坑 弥生時代遺物包含層、土器埋設遺構、土壌墓 第六区跡跡、溝跡、ピット	
平成12年度 (2000)	第3次調査	I区北・Ⅲ区東 II区北東部・Ⅲ区	第六区跡跡4軒、竪立柱建物跡、溝跡、土坑 第六区跡跡25軒、第六区遺構、溝跡、井戸跡、土坑 弥生時代遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第359集 仙台市文化財 調査報告書 第388集
平成17年度 (2005)	第5次調査	V区西 17街区遺構範囲確認調査	第六区跡跡18軒、竪立柱建物跡1棟、溝跡 第六区跡跡、溝跡	仙台市文化財 調査報告書 第411集
平成19年度 (2007)	第6次調査 第7次調査	個人住宅建設 17街区南側く南道路	第六区跡跡2軒、溝跡2条、土坑 第六区跡跡26軒、竪立柱建物跡3棟、材木1条、溝跡、土坑 弥生時代水出路、遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第326集 仙台市文化財 調査報告書 第411集
平成24年度 (2012)	第8次調査	26街区・高齢者福祉施設建設に伴う調査	第六区跡跡3軒、溝跡、土坑、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財 調査報告書 第409集
平成25年度 (2013)	第9次 第10次	17街区集合住宅建設に伴う調査 (東区・中区・東区北側下層調査) 26街区共同住宅・駐車場建設に伴う調査	第六区跡跡41軒、竪立柱建物跡11棟、区画溝跡1条、溝跡、井戸跡、土坑、 弥生時代遺物包含層 第六区跡跡1軒、溝跡	本書 仙台市文化財 調査報告書 第427集
平成26年度 (2014)	第9次 第11次 第12次	17街区集合住宅建設に伴う調査 (西区・下層調査) 17街区商業施設建設に伴う調査 26街区・商業施設建設に伴う調査	河川跡、弥生時代水出路、遺物包含層 第六区跡跡45軒、竪立柱建物跡2棟、区画溝跡1条、材木1条、井戸跡、土坑、 溝跡、河川跡、弥生時代遺物包含層 第六区跡跡34軒、一本柱列跡1条、溝跡、土坑、 弥生時代遺物包含層	本書 仙台市文化財 調査報告書 第442集 仙台市文化財 調査報告書 第433集
平成27年度	第13次	26街区集合住宅建設に伴う調査	第六区跡跡28軒、竪立柱建物跡2棟、溝跡、井戸跡、土坑、ピット	整理中

第2節 調査要項

(1) 第9次調査(平成25年度)調査体制

遺跡名称:西台畑遺跡(宮城県遺跡地名番号01005・仙台市文化財登録番号C-317)

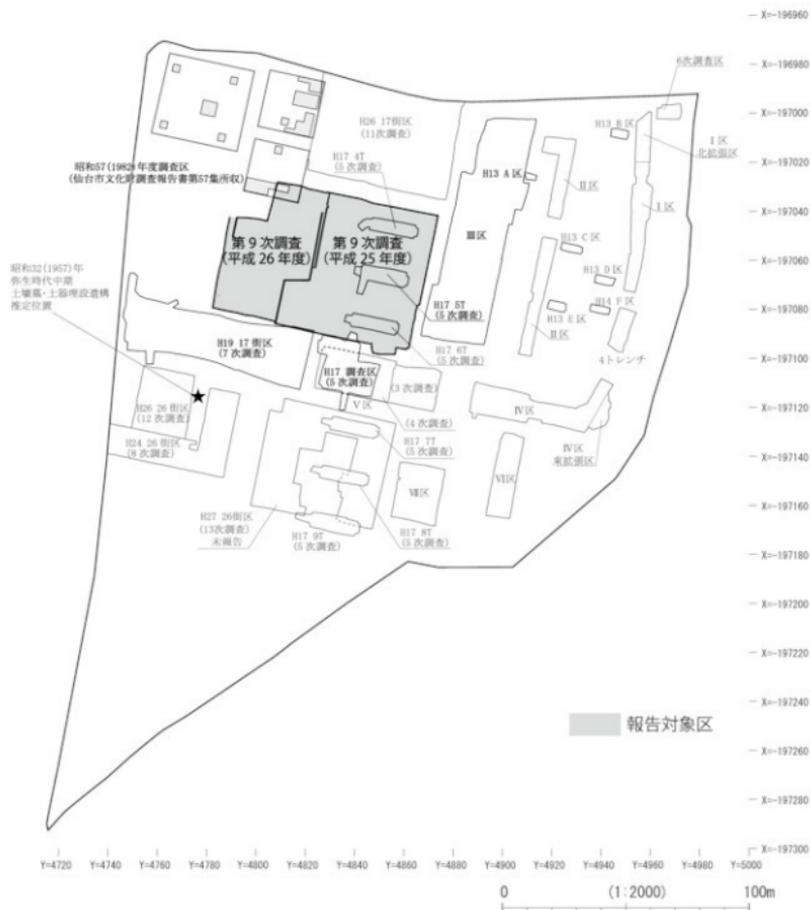
所在地:仙台市太白区郡山2丁目

調査原因:仙台市あすと長町17街区・集合住宅に伴う埋蔵文化財の事前調査

調査期間:平成25(2013)年7月17日～平成26(2014)年2月18日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係 工藤 信一郎 水野 一夫



調査組織:株式会社四門 主任調査員 野神 伸 調査員 三澤 壮太
調査面積:東区 1547.66㎡ 中区 1277.09㎡・東区北側下層調査260.38㎡

(2)第9次調査(平成26年度)調査体制

調査原因:あすと長町17街区・集合住宅建設に伴う事前調査

調査期間:平成26(2014)年5月2日～8月6日

調査主体:仙台市教育委員会

調査担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査係 工藤 信一郎 水野 一夫

調査組織:仙台市教育委員会 主任調査員 工藤 信一郎 水野 一夫

株式会社四門 調査員 高橋 直崇 調査補助員 春日 貴明

調査面積:東区・中区(下層調査) 467.53㎡

下層調査区A	127.67㎡
下層調査区B	180.07㎡
下層調査区C	159.79㎡
西区	185.94㎡
下層調査区D	98.09㎡
西区北東部	45.60㎡
西区トレンチ1	16.01㎡
西区トレンチ2	6.26㎡
西区トレンチ3	7.42㎡
西区トレンチ4	7.65㎡
西区トレンチ5	4.91㎡

(3)調査報告書作成体制(平成27年度)

整理担当:仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係 工藤 信一郎 小泉 博明 結城 慎一

整理組織:株式会社四門 主任調査員 高橋 直崇 調査補助員 春日 貴明

整理期間:平成27(2015)年4月28日～平成28(2016)年3月18日

第2章 遺跡の立地と環境

西台畑遺跡(第3図1)は、仙台市南東部、太白区郡山二丁目に拡がる遺跡で、広瀬川と名取川に挟まれた沖積地(郡山低地)の東側、標高約11mの自然堤防上に位置する。本遺跡の東には多賀城以前の陸奥国府跡と考えられる郡山遺跡(第3図2)が、南西には本遺跡とともに郡山遺跡の官衙と関連する長町駅東遺跡(第3図3)が隣接する。また、本遺跡を含めた3遺跡からは、縄文時代後期中葉～晩期末葉の遺物や弥生時代中期中葉を中心とした時期の遺構・遺物が確認されている。このように、3遺跡の性格は時代毎に共通・関連する部分が多く、発掘調査を通じて郡山低地東部における各時代の様相が明らかになりつつある。

名取川及び広瀬川周辺地域には、旧石器時代から近代に至るまでの遺跡が数多く分布している。両河川の合流点付近に位置する代表的な遺跡を概観する。

旧石器時代

富沢遺跡(第3図4)で約二万年前の後期旧石器時代後半期の焚き火跡とみられる炭化物集中地点と石器が出土している。針葉樹林を中心とした湿地林が広がり、狩猟と共に石器の製作・修理が行われたものと推測されている。

縄文時代

郡山低地では縄文時代を通して遺構・遺物が発見されている。下ノ内浦遺跡(第3図5)からは、早期前葉(日計式期)の竪穴住居跡2軒が確認されており、仙台市内の集落として最も古い時期の検出例となっている。中期には、下ノ内遺跡(第3図6)で中期末葉(大木10式期)の竪穴住居跡が検出されている。後期になると大野田遺跡(第3図7)からは後期前半の墓域や祭祀に関わる遺構が多くみられ、墓域と祭祀の場が一体となった場所と考えられている。

弥生時代

弥生時代中期には、西台畑遺跡、長町駅東遺跡、富沢遺跡、南小泉遺跡(第3図8)のほか、名取川と広瀬川の合流地点より約1km東に位置する高田B遺跡で水田跡が検出されている。特に富沢遺跡では中期前半から後期にかけて8期にわたる水田跡が継続的に営まれる。また、西台畑遺跡と長町駅東遺跡からは土器埋設遺構や土壇墓が検出され、長町駅東遺跡では榊形Ⅱ式期の竪穴住居跡も検出されている。

古墳時代

古墳時代になると、郡山低地を含む仙台平野で大規模な古墳築造が始まる。広瀬川の北側に位置し、古墳時代前期末～中期初頭に築造されたと考えられる遠見塚古墳(第3図9)は、全長110mの前方後円墳で仙台市内最大規模を測る。広瀬川の南側に位置する大野田古墳群(第3図10)は中期後半～後期にかけて築造された古墳群で、円墳が大半を占め、この中に前方後円墳である鳥居塚古墳(第3図11)を含む。南小泉遺跡で前期～終末期にかけての大規模な集落跡が確認されている。西台畑遺跡では古墳時代前期の竪穴住居跡が検出されている。

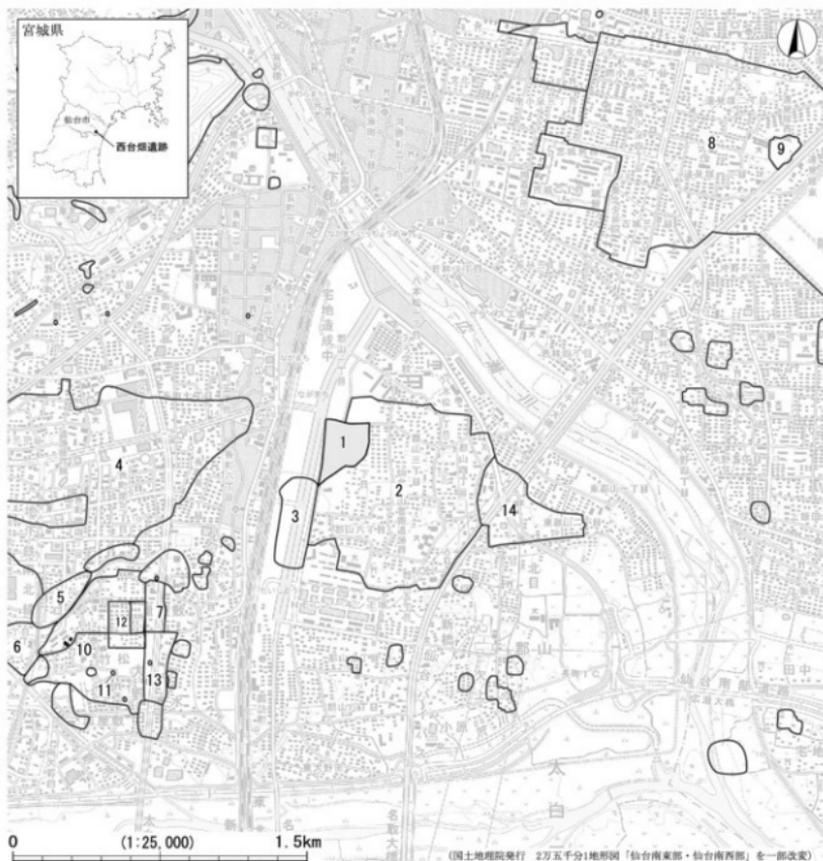
飛鳥・奈良・平安時代

陸奥国支配における最初の拠点として郡山遺跡に官衙が造営される。郡山遺跡の官衙遺構は2時期にわたり、7世紀半ば頃から末葉にかけて存続したと考えられるⅠ期官衙は、陸奥国の建国に関わった重要な標跡と考えられる。7世紀末葉から8世紀前葉にかけて存続したと考えられるⅡ期官衙は、多賀城以前の陸奥国府と考えられ、付属寺院(郡山庵寺)を伴っている。建物群の方位は真北を基準に構築され、中樞部からは正殿や石組池等が検出されている。Ⅱ期官衙を取り囲む材木列、外郭大溝の外側約50m離れて、Ⅱ期官衙外溝が西台畑遺跡の東端を南北に伸びている(SD31)。こうした調査成果から、平成18(2006)年7月に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山庵寺」として国史跡の指定を受けている。

郡山遺跡に隣接する西台畑遺跡と長町駅東遺跡は、郡山遺跡における官衙の造営・運営に関連する集落跡と考えられ、その盛衰は官衙と連動しており多賀城成立以降の遺構・遺物の検出は激減する。長町駅東遺跡では、これまでに多数の竪穴住居跡が検出されており、集落の北側では官衙成立以前に一本柱列による区画施設が造られ、官衙期に通路状遺構を伴う大溝跡と材木列による区画施設に造り替えが行われている。郡山遺跡の南西約1.5kmにある大野田官衙遺跡(第3図12)では、真北方向を軸とする掘立柱建物跡6棟と建物群を区画する大溝が検出され、出土遺物の年代幅や建物配置などから郡山遺跡Ⅱ期官衙に関連する官衙跡と考えられている。

中世以降

中世になると、郡山低地の交通の要衝に武士階級や上層農民の屋敷が作られるようになる。王ノ壇遺跡(第3図13)では鎌倉時代の屋敷跡や火葬墓、信仰に関わる遺構・遺物が検出されている他、中世の幹線道路である奥大道と推定される道路遺構も検出されている。郡山遺跡の東側に位置する北目城跡(第3図14)は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部にかけて勢力を奮った名取郡旗頭栗野大膳の居城である。



No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	西台畑遺跡	自然塚防	官衙関連・集落跡・堀城	縄文(後・晩)・弥生(中)・飛鳥・奈良・平安・中世
2	藪山遺跡	自然塚防	官衙跡・寺院跡・散布地	縄文(晩・晩)・弥生(中)・飛鳥・奈良・平安・中世
3	長町東家遺跡	自然塚防	官衙関連・集落跡・水田跡・堀城	縄文(後・晩)・弥生(中)・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
4	宮沢遺跡	後背原地	集落跡・水田跡・散布地	縄文(前・前)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
5	下ノ内遺跡	自然塚防	集落跡	縄文(中)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
6	下ノ内遺跡	自然塚防	集落跡	縄文(晩)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
7	大野田遺跡	自然塚防	官衙跡・集落跡	縄文(後)・弥生(中)・古墳・奈良・平安

No.	遺跡名	立地	種別	時代
8	高小原遺跡	自然塚防	館敷跡・集落跡	弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
9	遠見塚古墳	自然塚防	前方後円墳・散布地	弥生・古墳(前・中)
10	大野田古墳群	自然塚防	集落跡・円墳群	縄文・弥生・古墳・平安・中世
11	湯原塚古墳	自然塚防	前方後円墳	古墳(中)
12	大野田官衙遺跡	自然塚防	官衙関連	飛鳥・奈良
13	王ノ塚遺跡	自然塚防	集落跡・館敷跡	縄文(晩)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
14	北日輪跡	自然塚防	堀跡・集落跡・水田跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世

第3図 西台畑遺跡と周辺の遺跡

第3章 調査の方法と概要

第1節 調査の方法

(1) 調査区の設定

建築予定面積が約4,450㎡となることから、野外調査については、平成25・26年の2箇年計画で行うことにした。

調査対象範囲を便宜上3分割し、それぞれ東区・中区・西区と呼称した。平成25年度は、東区及び中区の調査を行い、平成26年度は、東区・中区の下層調査と西区の調査を行うこととした。そのうち西区については、周辺での調査成果から、広範囲に河川跡が確認されることが想定された。調査区南側に、4・5・7次調査区、東側に3次調査区、北側に11次調査区が隣接している。

第2節 調査概要

(1) 調査経過

① 平成25年度

調査は、東区から重機を用いて表土を除去し、その後人力によって遺構検出、精査を行った。その結果、中央部分では、田国鉄資材センターの建築物の影響により古代の遺構検出面が大きく削平を受けていたが、それ以外の部分では、古代の遺構検出面が残存していることが確認され、当初の想定を超える数の竪穴住居跡が確認された。検出された遺構は、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡3棟、溝跡20条、井戸跡8基、土坑31基、性格不明遺構18基、小ピット238基となった。古代の遺構調査を終えた段階で、東区北に縄文・弥生時代の遺構や遺物包含層の有無を確認するための下層調査区を設定し、重機による掘り下げを行い、遺物包含層の調査を行った。

野外調査終了後、26年度調査に備えて、文化財課職員の立会いにより東区南及び中区の下層調査区の掘削と、西区の表土除去に合わせて汚染土壌の一部の場外搬出を行った。

② 平成26年度

前年度に表土掘削等を終了していたことから、東区南及び中区の下層調査区の遺構検出、精査から開始し、5・7次調査区から伸びることが想定される弥生時代の水田跡の確認を行った。西区については、これまでの調査成果から河川跡が広範囲にあることや、南側の7次調査区から続く攪乱があることが想定されていたが、表土除去の結果、西区の大部分で古代の遺構確認面が削平されていることが確認された。そのため西区については、わずかに遺構確認面が残存する北東部の調査と、下層調査区1箇所、トレンチ調査区を5箇所設定し調査を行った（第4図）。この間、野外調査と並行して前年度出土遺物の基礎整理と計測データの整理を行った。

検出された遺構は、井戸跡1基、溝跡1条、河川跡、弥生時代中期中葉(古段階)の楔形圃式期の水田跡である。

(2) 測量基準・図面の作成

測量については、世界測地系を基準として、調査対象地の全域を網羅するように、5×10mを単位とする平面区配図(1/20)を作成した。平面区配図は、北西端を1とし、115までの番号を付して遺構図の作成を行った。

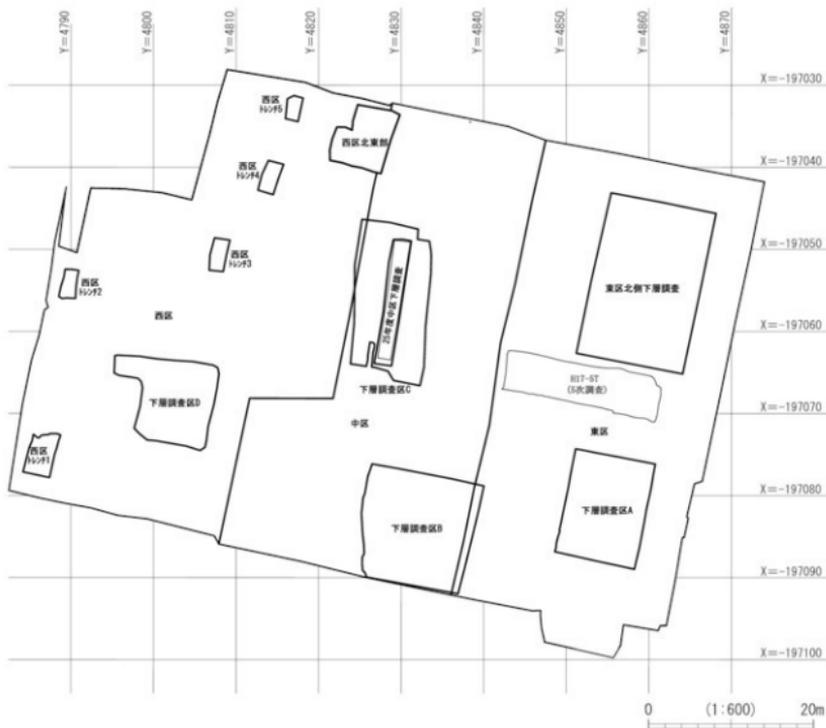
(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、調査区名、遺構名、出土位置を明記し取り上げている。特に必要と認められた遺物については、詳細な出土状態図とレベルを記録している。

整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

遺構登録番号については、あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査からの通し番号としたが、性格不明遺構、小ピットについてはそれぞれ1番から番号を付した。また、隣接する3・4・5・7次調査で検出された遺構と同一遺構と判断できた場合は、同じ遺構番号を使用した。今回、第9次調査と並行して、隣接する地点で第11・12次調査が行なわれたことから、遺構番号については調査時点で相互に調整して使用している。



第4図 調査区配置図

(5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成に向けた整理作業は、2箇年にわたり作業を行った。発掘調査支援業務として調査を実施した平成26年度は、野外調査と並行して出土遺物の基礎整理(水洗・註記・接合)を現地調査事務所で行った。野外調査終了後は、仙台市向田文化財整理室敷地内に整理事務所を設置し、出土遺物の接合・修復、実測対象遺物の抽出・登録・実測図作製を行った。遺構図面整理、調査記録を行ない、遺構図版・写真図版の作成をおこなった。平成27年度は、株式会社四門高砂整理事務所で遺物図版の作成、編集及び原稿執筆を行った。整理作業中には必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、弥生土器・土師器・須恵器・石器等の実測図及び遺構・遺物トレス図については、仙台市向田文化財整理室において点検を行った。

第4章 基本層序

西台畑遺跡の一部は、昭和30年代前半には煉瓦工場の粘土採掘地、その後は国鉄仙台資材センターとして利用されていた経緯があり、本書所収の発掘調査においても、当時の土取りや整地などによる擾乱の影響が著しい箇所が少なくない。また、汚染土壌の存在が確認されたことから、土壌の巻き取り作業を広範囲に実施している。従って、古墳時代までの遺構面の遺存状況は決して良いとは言えない状況にあり、東区・中区においては大きな擾乱により調査範囲が南北に分断されている。西区では古墳時代の遺構面は殆ど残存せず、西区北東部と、西区南西隅に位置する西区トレンチ1のみ遺存している。調査区の現地表面の標高は10.3～11.3mを測る。

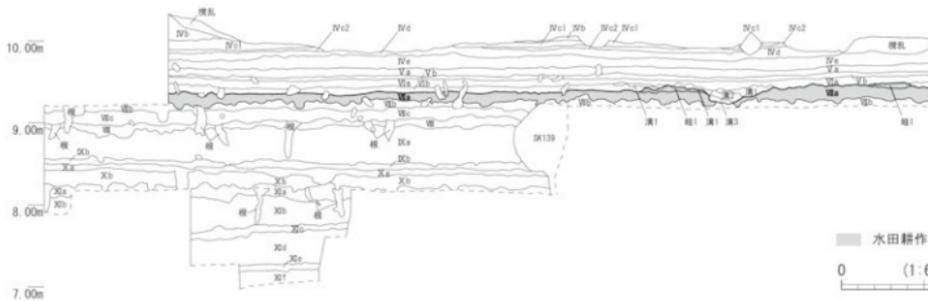
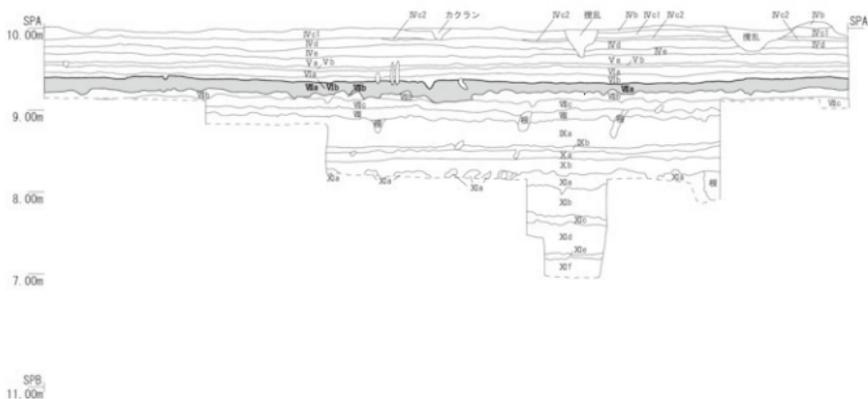
調査区が上記のような状況下にあるため今次調査では過去の西台畑遺跡の調査成果を基に基本層序の把握を行った。層位名については、今次調査区の中で調査が先行した箇所(Ⅰ層)の層位名称を基準とし、他の調査地点で新規に層が認められた場合には細別層により区別している。今次調査区では調査区南西に向かって層数が増えること、また調査順序が北東から南西に向かって進行していたこともあり、特にⅣ～Ⅶ層については周辺の基本層序と齟齬が生じている可能性がある。周辺の基本層序との対応関係については第6章第2節1にて検討する。表土から古墳時代の遺構面まで良好に残存する箇所が存在しないことから、表土から下層調査までの連続した基本層序の記録はない。古墳時代以下の基本層序については、下層調査実施時の断面及び調査終了後の遺構壁面に於いて記録した。

今次調査区の基本層序はⅠ～Ⅺ層に大別される。大別分層は、土質や混入物の差異により細別されるが、地点により層序や層厚等の状況は様々であるため同一層であっても細別分層での記録が可能であった箇所とそうでない箇所が存在する。また、一部で個別に上位から下位に層序名を付したものがあつた。これらについては整理段階で対応関係を照合し、調査区全体の基本層序として層序名を振り直した。本書ではこの振り直した層名を使用している。なお、第5～8図に下層調査区断面図を、第9図に基本層序の柱状模式図を示した。

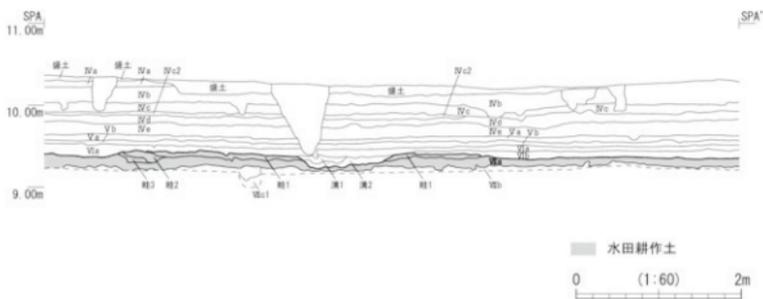
今次調査区の基本層序を概観すると、Ⅰ層は近・現代の整地層である。Ⅱ層は今次調査においては確認されていないが、過去の調査地点においては中世～近世の耕作土・水田土壌である。Ⅲ層は中世の遺構検出面及び古代の遺物包含層であるが、今次調査区においては殆ど残存しておらず、東区南西隅でわずかに認められるのみである。Ⅳ層上面は古墳時代から古代の遺構検出面で、Ⅳ～Ⅵ層は弥生時代中期の遺物を少量包含する。Ⅶ層からは、弥生時代中期中葉の土器や水田跡が確認されている。Ⅷ層と層厚の厚い砂層のⅨ層を挟み、Ⅹ層から縄文時代後期～晩期に位置づけられる遺物が出土している。Ⅺ層は縄文時代以前の自然堆積層である。以下、各層の特徴について記載する。

- I層：層厚は10～60cmを測り、近・現代の整地層で、現地表である。砂利や碎石が多く、中区中央や西区では石炭ガラや煉瓦がまぎって出土する。
- II層：今次調査では確認されていない。
- III層：東区南西隅で確認された。層厚は約41cmを測り、a～c層に細分される。過去の調査において中世の遺構検出面及び古代の遺物包含層とされる。
- IV層：層厚は、IV層の遺構検出面から30～74cmを測り、平成25年度に実施した東区北側下層調査では上・中・下の3層に細分され、26年度調査ではa～g層に細分された。平成25年度のIV-上・中・下層は、層準と色調から、平成26年度のIVc～e層にそれぞれ対応するものとみられる。IV層は、b層、c2層、e層は色調が明るく砂質で、a層、c1層、d層がやや暗く粘性が高い粘土質シルトを主体としており、薄い濃淡が互層をなしている。a層は下層調査区B・東区南西隅・西区トレンチ1で検出した。b層は下層調査区A～Cと西区トレンチ1で検出された。c層は下層調査区A～Cと西区トレンチ1で検出され、下層調査区A及びCではさらにIVc1層とIVc2層に細分される。d層は下層調査区A～Cと西区トレンチ1、西区北東部で検出した。e層は下層調査区A～Dと西区トレンチ1、西区北東部で検出した。f層は西区トレンチ1と下層調査区Dのみ、g層は下層調査区Dでのみ検出している。
- V層：V層以下はいずれの下層調査区でも確認されている。層厚は7～16cmを測り、いずれの断面でもa・b層に分かれ、下層調査区Dではb層がさらに1～3層に細分される。a層は黄褐色を基調とする粘土質シルト層、b層は明黄褐色を基調とするシルト層である。下層調査区Dで検出されたb1～3層はVa層とVb層の色調・土性が繰り返される堆積で、b1層とb3層の下部には炭化物が帯状に薄く堆積する。
- VI層：層厚は6～18cmを測り、a・b層に細分されるが、東区北側下層調査及び西区北東部ではb層は部分的に途切れ、西区トレンチ1ではb層はさらにb1・b2層に細分される。a層は黒褐色を基調とする粘土質シルト層で、b層は黄褐色を基調とする砂質土である。
- VII層：層厚は13～54cmを測り、a～c層に細分され、下層調査区A～C・西区トレンチ1・西区北東部ではc層がさらにc1・c2層に細分される。a・c層は粘性の高い黒褐色土を主体とし、b層は砂質の黄褐色土を主体とする。東区北側下層調査では部分的にb・c層が無い箇所がある。東区北側下層調査ではいわゆる椀形凹式の遺物が出土した。下層調査区A・BではVIIa層で、下層調査区CではVIIc層でそれぞれ水田跡が確認されている。
- VIII層：層厚は8～27cmを測り、下層調査区B・C・西区トレンチ1・西区北東部ではa・b層に細分される。灰黄褐色シルトを主体とする。
- IX層：下層調査区A・BでXI層まで調査しており、層厚は46～59cmを測る。a～c層に細分される。にぶい黄褐色～灰黄褐色、グライ化した部分では灰オリーブ色を呈する砂を主体とするが、下層調査区D・西区トレンチ1へと、今次調査区の南西に向かってやや粒径が細かく、粘性を持つようになる。下層調査区Bで確認されたIXc層は灰白色の粘土である。
- X層：下層調査区A・Bで検出しており、層厚は21～24cmを測り、a・b層に細分される。粘土質シルトを主体とし、a層は黒色、b層は黒褐色を呈する。炭化物が混入し、縄文時代後期～晩期にかけての遺物が出土している。今次調査区において遺物が出土した最下層に相当する。
- XI層：下層調査区Aで深掘りトレンチで断面を確認している。グライ化する砂～砂質シルトを主体とし、白色粒子が混入する。土性や粒径からa～f層に細分される。XI d層には炭化物が混入する。他調査区ではX層以下を最大XI層まで分けているが、調査回数により細分がみられ、それぞれの層の土性や粒径の今次調査区との対応関係は不明である。

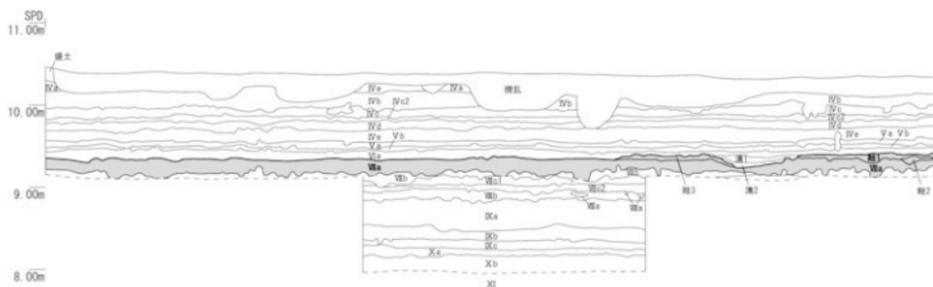
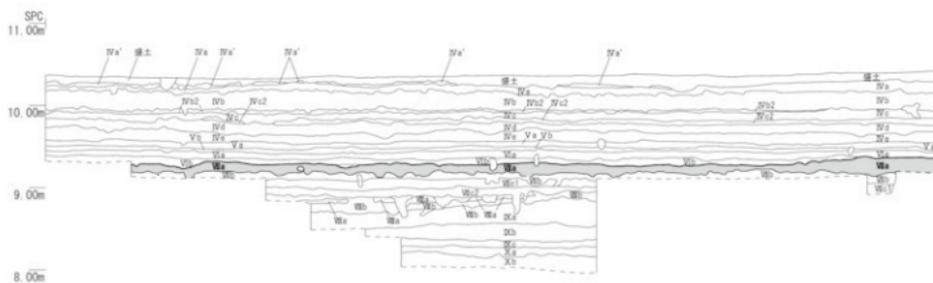
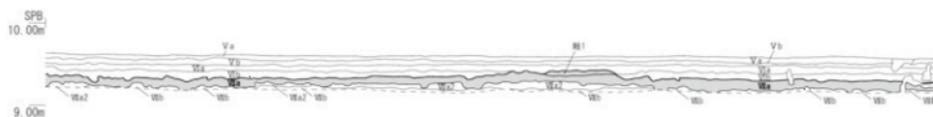
下層調査区A



下層調査区B

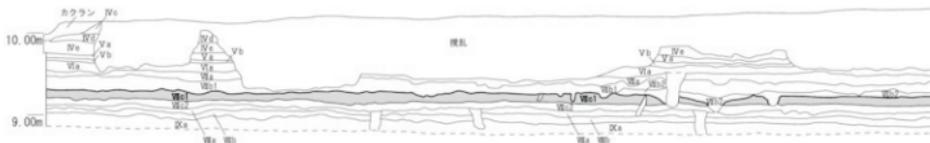


下層調査区B



下層調査区C

SPA
11.00m



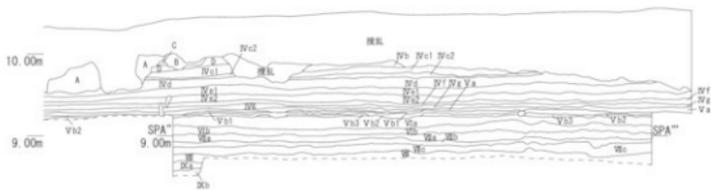
下層調査区C 土層観察表

層位	土色	土性	土粒	粘性	締り	備考
Vc1	10YR5/4	にじみ黄褐色	シルト	粘	普通	普通
Vc2	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト	粘	普通	普通
Vc3	10YR5/4	にじみ黄褐色	シルト	粘	普通	普通
Vc4	10YR6/6	黄褐色	砂質シルト	粘	普通	普通
Vc5	10YR5/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	粘	普通	普通
Vc6	10YR6/3	にじみ黄褐色	シルト	粘	普通	普通
Vc7	10YR5/2	黄褐色	粘土質シルト	粘	強	強
Vc8	10YR7/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	粘	弱	弱
Vc9	10YR5/2	黄褐色	粘土質シルト	粘	強	強
Vc10	10YR6/4	にじみ黄褐色	シルト	粘	普通	普通
Vc11	10YR7/3	暗褐色	シルト質粘土	粘	強	強
Vc12	10YR5/1	黒褐色	粘土	粘	強	強
Vc13	10YR5/2	黄褐色	シルト	粘	普通	普通
Vc14	7.5Y4/1	灰色	シルト	粘	普通	普通
Vc15	7.5Y6/2	灰青緑色	砂	粘	弱	弱

下層調査区D

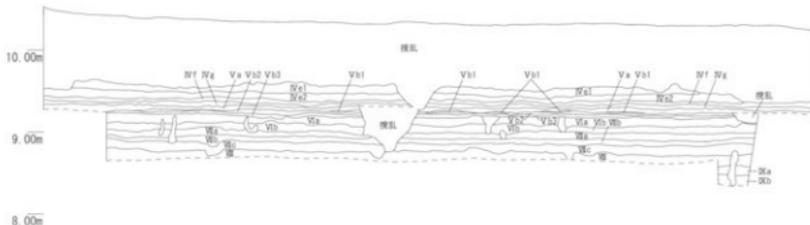
SPA
11.00m

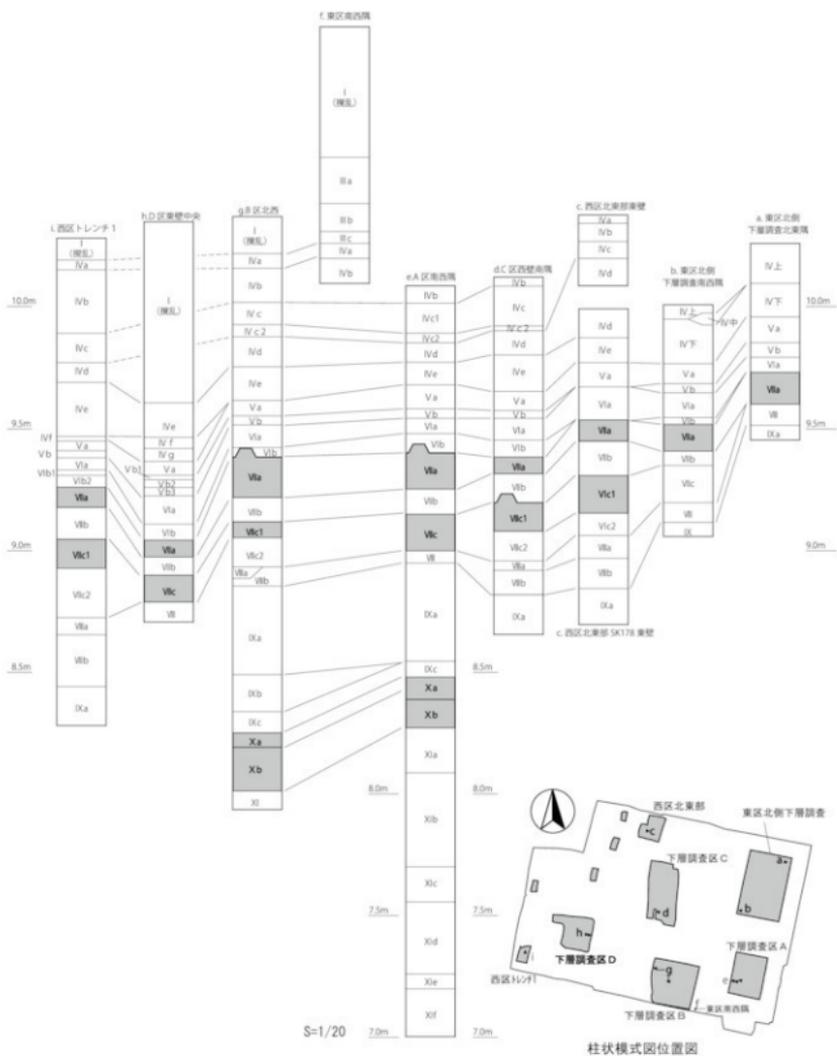
SPA'



SPB
11.00m

SPB'





第9図 西台畑第9次調査基本層序柱状模式図

東区南西隅 土層観察表

層位	土色	土性	土粒	粘性	締まり	備考
IVa	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	普通
IVb	10YR3/2	にぶい黄褐色	砂質シルト	泥	普通	普通
IVc	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	普通
IVd	10YR3/1	にぶい黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	普通
IVe	10YR3/6	黄褐色	砂質シルト	泥	普通	普通

東区北側下層調査 土層観察表

層位	土色	土性	土粒	粘性	締まり	備考
IV上	10YR3/6	褐色	シルト	凝結	強	マンガン多量
IV中	10YR3/2	黄褐色	砂質シルト	凝結	弱	東側中央付近、東側東側でのみ確認
IV下	10YR3/6	褐色	シルト	凝結	普通	凝結
Va	10YR3/2	にぶい黄褐色	シルト	凝結	弱	西・東側だけのみ確認する
Vb	10YR3/4	にぶい黄褐色	シルト	凝結	普通	凝結
Vc	10YR3/2	黄褐色	シルト	凝結	普通	凝結
Vd	10YR3/2	にぶい黄褐色	シルト	凝結	普通	凝結
Ve	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	凝結	普通	凝結
Vf	10YR3/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	凝結	普通	凝結
Vg	10YR3/1	黄褐色	粘土質シルト	凝結	普通	凝結
Vh	10YR3/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	凝結	弱	鉄0.3~0.5mm(白色)小礫片少量
IX	10YR3/3	にぶい黄褐色	砂	中・中粗	無	鉄0.3~0.5mm(白色)小礫片少量

西区北東部 土層観察表

層位	土色	土性	土粒	粘性	締まり	備考
1	10YR3/6	褐色	シルト	泥	普通	普通
2	10YR3/6	黄褐色	シルト	泥	普通	マンガン少量
IVa	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	10YR3/2(にぶい)黄褐色土、鉄1~2mm少量、酸化鉄、鉄1~2mm少量、マンガン少量
IVb	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	10YR3/6黄褐色土、鉄1~3mm少量、マンガン少量
IVc	10YR3/6	褐色	砂質シルト	泥	普通	マンガン少量
IVd	10YR3/6	黄褐色	砂質シルト	泥	普通	酸化鉄少量、マンガン少量
IVe	10YR3/4	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色シルト少量、下部多量、マンガン少量
IVf	10YR3/4	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色シルト少量、酸化鉄・マンガン少量
IVg	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色シルト少量、酸化鉄・マンガン少量
IVh	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色シルト少量、酸化鉄・マンガン少量
IVi	10YR3/6	黄褐色	砂質シルト	泥	普通	酸化鉄少量、マンガン少量
IVj	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色シルト少量、酸化鉄・マンガン少量、下部グライ化
IVk	10YR3/1	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色シルト少量、酸化鉄・マンガン少量、グライ化
IVl	5YR3/1	橙黄色	粘土	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)黄褐色粘土少量、酸化鉄、鉄1~10mm少量、グライ化
IVm	5YR3/1	橙黄色	粘土	泥	普通	酸化鉄、鉄1~10mm少量
IVn	5YR3/1	橙黄色	砂	中・中粗	無	酸化鉄、鉄1~10mm少量

西区トレンチ1北壁 土層観察表

層位	土色	土性	土粒	粘性	締まり	備考
1	10YR3/2	にぶい黄褐色	シルト	泥	弱	鉄1~3mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト多量、塊石
IVa	10YR3/2	黄褐色	シルト	泥	弱	鉄1~3mm(10YR3/2)黄褐色土少量
IVb	10YR3/4	にぶい黄褐色	シルト	泥	普通	鉄1~3mm(10YR3/2)黄褐色土少量
IVc	10YR3/2	黄褐色	シルト	泥	普通	鉄0.5~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量
IVd	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄0.5~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量
IVe	10YR3/2	黄褐色	砂質シルト	泥	普通	鉄1~3mm(10YR3/3)にぶい黄褐色土少量、酸化鉄少量
IVf	10YR3/4	黄褐色	シルト	泥	普通	4層上部土塊、酸化鉄少量
Va	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄0.5~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vb	10YR3/4	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	4層上部土塊、酸化鉄少量
Vc	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~3mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vd	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~3mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Ve	10YR3/1	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vf	10YR3/1	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vg	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vh	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vi	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vj	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vk	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vl	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vm	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
Vn	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	鉄1~10mm(10YR3/3)にぶい黄褐色粘土質シルト少量、酸化鉄少量
IX	10YR3/1	黄褐色	粘土質シルト	泥	普通	下部10YR3/1黄褐色粘土質シルトの塊石に包まれる、酸化鉄中量
IXa	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	凝結	普通	酸化鉄中量
IXb	10YR3/1	黄褐色	粘土質シルト	凝結	普通	酸化鉄中量
IXc	10YR3/1	黄褐色	砂質シルト	泥	普通	酸化鉄中量

第5章 検出遺構と出土遺物

前章でも触れたように、本遺跡は近・現代の攪乱による影響を受けている箇所が多く、調査区によって自然堆積層や、遺構・遺物の残存状況は異なる。こうした状況と過去の調査成果(仙台市教委2010b・2011・2013)を踏まえ、今次の本調査に着手した。

今次調査は近・現代の攪乱の影響により第1・2次調査で中世の遺構検出面とした基本層Ⅲ層が殆ど残存していない状況であった。そのため基本層Ⅳ層上面において、最初の遺構検出作業を行った。検出された遺構は、重複関係、堆積状況、出土遺物から古代～中世と古墳時代～古代の遺構の大別2時期に分類し、調査段階において区分した。古代～中世の遺構として溝跡・井戸跡が検出され、古墳時代～古代の遺構は竪穴住居跡や掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構を検出している。なお、井戸跡は調査時点ではSKの番号を付しており、井戸跡と判明した後もSE等への名称変更は行っていない。また溝跡の中には隣接する調査地点の遺構との関係から小溝状遺構群と考えられるものも含まれるが、遺構名はSDのままとし、遺構の性格については第6章第2節3(2)にて検討している。なお、遺構の検出場所については、東区・中区共に中央を攪乱に削平され北側と南側に分断されていることから「東区北側」・「中区南側」等と呼称している。これら、各調査区のⅣ層上面において検出した遺構の調査終了後、Ⅳ層以下を対象とした下層調査を行った。東区北側の下層調査は平成25年度、それ以外の下層調査は平成26年度に実施している。これらの下層調査は弥生時代以前の遺構・遺物の残存状況の確認とその記録保存を目的として行い、下層調査区A・BのⅦa層上面では弥生時代の水田跡が確認された。

以下、本章では古代～中世、古墳時代～古代、縄文時代～弥生時代の各時代別に報告する。

第1節 古墳時代～中世の遺構と遺物：Ⅳ層上面の調査(第10～208図)

1. 古代～中世の遺構と遺物(第10～27図)

本項では、基本層Ⅳ層上面で検出した遺構のうち、重複関係や遺構の観察所見等から当該期と考えられる遺構および遺構内出土遺物について報告する。該当する遺構は、溝跡5条、井戸跡11基である(第10図)。井戸跡はいずれも円形素掘りの井戸とみられ、南側ではSK 150と155の間が5基東西に、SK 150と139の間が南北に4基「L」字状に直線的に並んでいる。この並びは北側の溝跡と方向がほぼ一致することから、土地の区割りを反映しているものとみられる。

遺構内からは、土師器、須恵器、中世陶器、金属製品、石製品、礫石器、銭貨が出土しているが、いずれも堆積土からの出土であり出土状況から明確に遺構に伴うと考えられる遺物はなく、殆どが埋没過程での流入と考えられる。

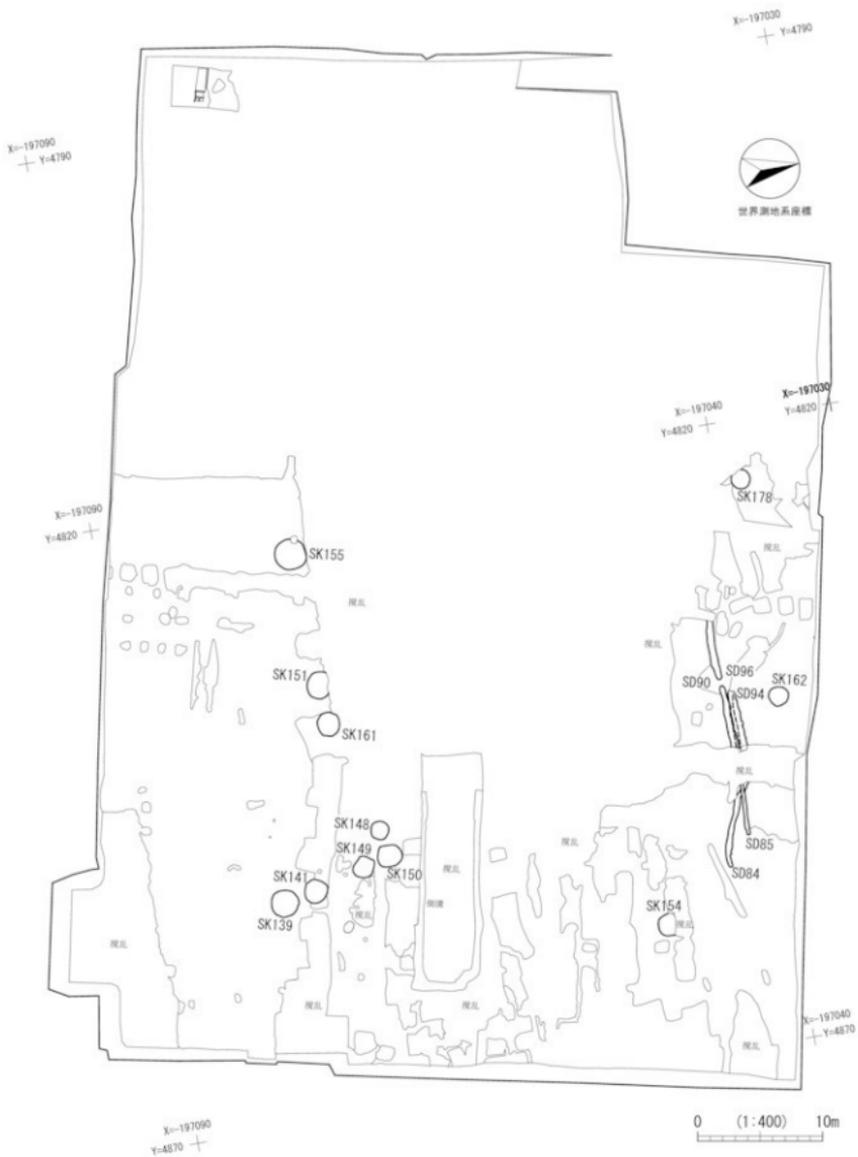
また、遺構外からは中近世陶器の破片が極少量出土しているが、図化できるような遺物はなかった。

今次調査の成果をみる限りでは、一定の土地区画が存在し、周辺に井戸を伴う居住域ないしは生産域が広がっていたと考えられる。

以下、当該期と考えられる遺構および出土遺物について、遺構の種別ごとに報告する。

(1) 溝跡(第11・12図)

古代～中世の溝は東区北側で2条(SD 84・85)、中区北側で3条(SD 90・94・96)の計5条を検出した。いずれも東西方向に走る。堆積土は黒褐色土を主体としており、古墳時代～古代の遺構とは明確に区分可能である。東区北側のSD 85と中区北側のSD 90は間に攪乱を挟んでいるが直線上に位置し、溝の底面標高もほぼ一致することから、同一の溝の可能性もある。また、SD 90とSD 94、SD 96は走行方向が一致し、ほぼ直線上に位置することから、SD 90と同一の性格の溝を掘り直した可能性がある。いずれの溝も、SD 82やSI 161などの本調査地点におけるⅡ期官衙の遺構群の中でも最も新しい遺構の埋没後に構築されている。SD 90及びSD 96からは中世陶器が出土した。



第10図 古代~中世の遺構全体図

以下、古代～中世と考えられる5条の溝跡について個別に報告する。

SD84 溝跡(第11・12図)

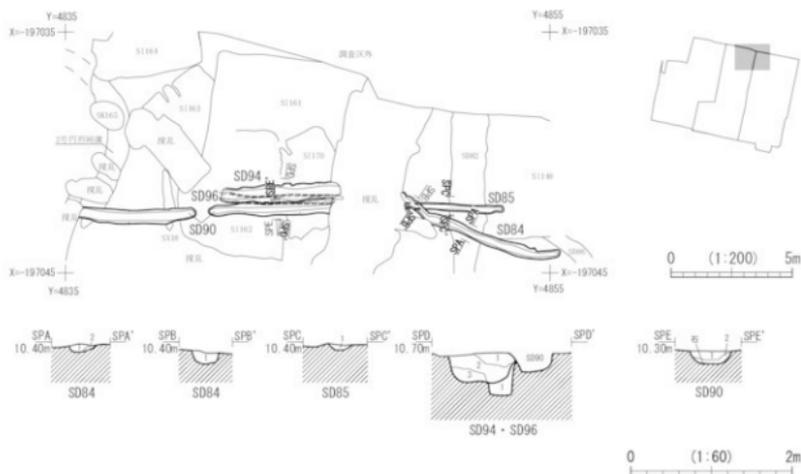
東区北側に位置する。SI 148・149、SD 82・85と重複関係にあり、SD 85より古く、その他の遺構より新しい。検出した規模は全長7.00m以上、上端幅53cm、下端幅29cm、深さ17cmを測る。N-71°-Wに延び、西側は攪乱により失われている。東端はやや北側に湾曲する。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。

堆積土中から出土した土師器甕を1点掲載した(第12図-1)。第12図-1は長胴の土師器甕口縁部で、体部外面はハケメ、体部内面はヘラナデが施される。器形・調整から郡山官衛の時期の遺物で、混入であり、本遺構の時期を示すものではない。

SD85 溝跡(第11図)

東区北側に位置する。SI 148・149、SD 82・84と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。検出した規模は全長4.08m以上、上端幅34cm、下端幅21cm、深さ8cmを測る。N-88°-Wに延び、西側は攪乱により失われている。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。

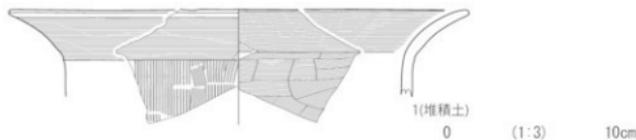
堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。



SD溝跡観覧表

溝跡名	調査区	方向	規模(cm)			層位	土色	土粒	備考						
			全長	上端幅	下端幅					深さ					
SD84	東区北側	N-71°-W	7000	53	29	17	1	S. 砂3/1	黒褐色	粘土質シルト	同化物を微量に含む。				
											2	S. 砂3/2	黒褐色	粘土質シルト	層1～5cmの基本層IV層土粒を微量に含む。
SD85	東区北側	N-88°-W	4080	34	21	8	1	S. 砂3/2	黒褐色	粘土質シルト	同化物を微量に含む。				
SD90	中区北側	N-48°-E	8953	31	18	16	1	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	白色砂質シルトが5cm以下の層状に数層入る。				
											2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	上層の白色砂が少なく、粘土質土を微量、同化物を少量含む。
											1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘土質土を微量に含む。
SD94	中区北側	N-88°-E	6240	200	24	30	2	10YR4/3	濃い黄褐色	粘土質シルト	同化物を微量に含む。				
											3	10YR4/3	濃い黄褐色	粘土質シルト	同化物を微量に含む。
											1	10YR4/3	濃い黄褐色	粘土質シルト	同化物を微量に含む。基本層IV層以下を多数に含む。
SD96	中区北側	N-80°-W	10553	140	10	43	1	10YR4/3	濃い黄褐色	粘土質シルト	粘土質土を微量に含む。ペレット状のみ焼土ブロッコを多数に含む。				

第11図 東区・中区北側SD溝跡(古代～中世)



図面 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	部材	法尺 (cm)			外面測深	内面測深	備考	写真 撮影
							11径	底径	高さ				
1	C-192	東区北側	SD84	堆積土	土師器	溝	116	128.0	17.0	116	123.0	116	67-11

第12図 SD84溝跡出土遺物

SD90 溝跡(第11図)

中区北側に位置する。SI 162・170、SD 94・96と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。検出した規模は全長9.95m以上、上端幅31cm、下端幅18cm、深さ16cmを測る。N-88°-Eに延び、東西両端及び中央は擾乱により失われている。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。

堆積土中から土師器破片と在地産の中世陶器鉢が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD94 溝跡(第11図)

中区北側に位置する。SI 161・162・170・171、SB3、SD 90・96と重複関係にあり、SD 90より古く、その他の遺構より新しい。検出した規模は全長2.49m以上、上端幅39cm以上、下端幅24cm、深さ38cmを測る。N-88°-Wに延び、東側は擾乱により失われている。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD96 溝跡(第11図)

中区北側に位置する。SD 94・96と重複関係にあり、いずれの遺構より古い。検出した規模は全長2.53m以上、上端幅18cm以上、下端幅10cm、深さ43cmを測る。N-89°-Wに延び、東側は擾乱により失われている。断面形は「凹」字状を呈し、底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。SD 90・94は本遺構のほぼ直上に掘り込まれている。堆積土中に焼土ブロックを多量含む範囲がみられるが、位置関係からSI 162のカマド由来と考えられる。

堆積土中から土師器破片と陶器が少量出土しているが、図示遺物はない。陶器は在地産の裏で、13世紀前葉～14世紀前葉であり、本遺構の所属時期を示しているものと推測される。

(2)井戸跡(第13～27図)

中世以降の井戸跡は、東区南側で5基(SK 139・141・148～150)、東区北側で1基(SK 154)、中区南側で3基(SK 151・155・161)、中区北側で1基(SK 162)、西区北東部で1基(SK 178)の計11基を検出した。本調査地点では井戸跡は土坑としてSK番号を付している。いずれも底面まで調査していないが、円柱状に掘り込まれた素掘りの井戸とみられる。年代を特定できる遺物は出土していないものの、これらの土坑はいずれも他遺構より新しく、堆積土は粘性の高い黒褐色～暗褐色土を主体とし、古代の遺構とは明確に区分できる。これらの井戸跡は、調査区内においてN-13°-Wの軸でほぼ直線的に並んでいる。

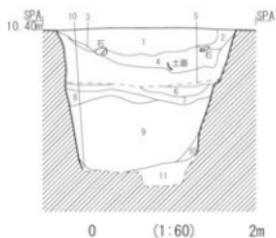
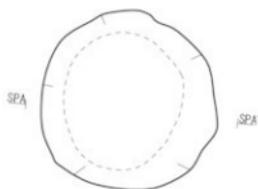
以下、中世以降の井戸について個別に報告する。

SK139 井戸跡(第13・14図)

東区南側に位置する。SI 141・142、SB2、Pit 101・238と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した平面規模は220cm×218cm、深さ195cm以上を測る。断面形は筒状を呈し、上方に向かってやや開く。堆積土は11層に分層された。

Y=4850
X=197078

Y=4854
X=197078



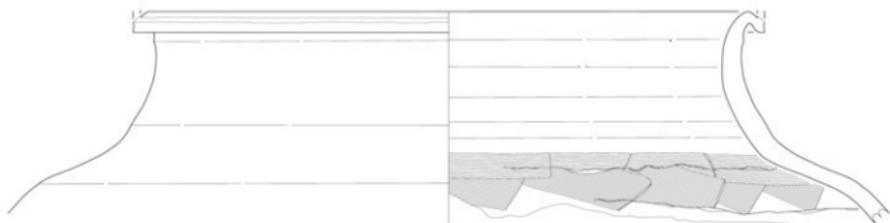
X=197081
Y=4850

X=197081
Y=4854

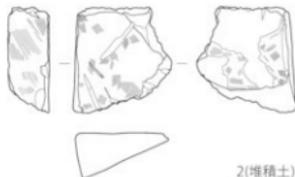
SK139観察表

遺構名	調査区	平面形	埋没深さ(m)		層位	土色	土性	備考	遺物	
			表層の深さ	底の深さ						
SK139	東区南側	円形	220×220	(190)	1	10YR5/3	暗褐色	砂質シルト	厚1~10mmの基本層内層土を少量、粘土を微量に含む。	SI41・142, S32-F4, P101・228, 29新L3,
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	厚1~50mmの10YR5/4黄褐色土と厚1~50mmの10YR3/3暗褐色土の層土。	
					3	10YR5/8	黄褐色	砂	厚1~20mmの10YR3/3暗褐色土を少量含む。	
					4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	厚1~20mmの基本層内層土プロック+厚100~300mmの緑少量。	
					5	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	厚1~5mmの基本層内層土粒を少量含む。	
					6	10YR5/4	じい・黄褐色	粘土質シルト	厚1~50mmの基本層内層土プロックを多量、厚1~20mmの10YR3/3暗褐色土を少量、酸化鉄を微量に含む。	
					7	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	厚1~5mmの基本層内層土粒+厚1~20mmの10YR3/3黒褐色土を微量、酸化鉄中量、下層グライ化。	
					8	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	厚1~20mmの基本層内層土プロックを中量、酸化鉄を少量含む。	
					9	2.5YR3/1	暗オリーブ色	粘土質シルト	厚1~10mmの基本層内層土大プロックを多量、酸化鉄を少量含む、グライ化。	
					10	10YR5/1	暗灰色	粘土質シルト	グライ化。	
					11	5YR2/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	厚1~20mmの基本層内層土プロックを少量含む、グライ化。	

第13図 SK139井戸跡



1(堆積土)



2(堆積土)

0 (1:3) 10cm

図面番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	高さ				
1	L001	東区南側	SK139	埋積土	陶器	壺	口縁~胴 (36.4)	-	(13.0)	外面調整	内面調整	一部欠け	遺構内、13世紀後半	68-1
図面番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			石材	備考	写真図版	
								全径	口径	厚				重厚
2	Kd-013	東区南側	SK139	埋積土	石製土	硯石	底	(6.4)	(5.9)	2.5	98.5	R71	表面5mm	68-2

第14図 SK139井戸跡出土遺物

下半は粘土と基本層IV層ブロックの互層を呈し、グライ化する。

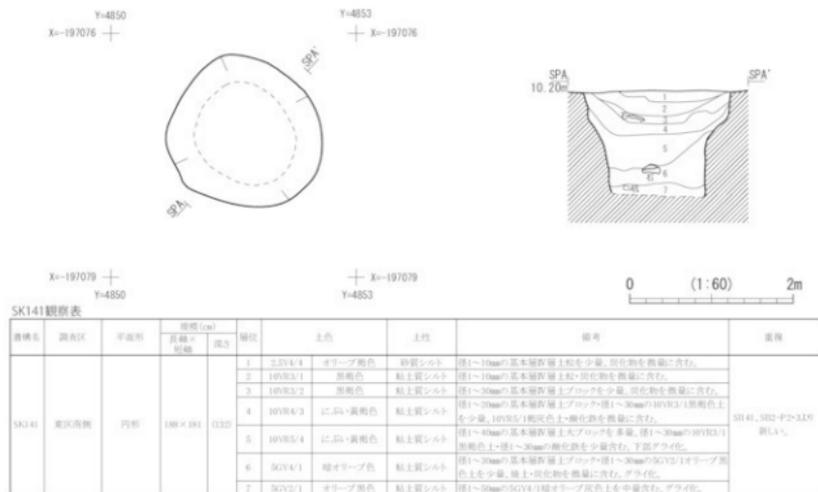
堆積土中から土師器や陶器、石が出土しており、陶器1点、石製品1点の計2点を掲載した。第14図-1は常滑産の陶器甕で、胴部と頸部に明瞭な境界を持たず緩やかに湾曲しながら立ち上がり、口縁端部は強く外に屈曲して短く下方に折り返す。N字状口縁であったとみられるが、口縁部の上方向への屈曲部は剥離している。胴部内面上方にヘラナデが施される。年代は13世紀後半か。2の石材は泥岩の砥石で、砥面を3面有し断面は二等辺三角形である。SK141 井戸跡(第15・16図)

東区南側に位置する。SI141・SB2と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸188cm、短軸181cm、深さ132cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、上方はやや開く。堆積土は7層に分けられ、下半は基本層IV層ブロックを含みグライ化する。

堆積土中から土師器や石、木材が出土しており、石製品1点を掲載した。第16図-1は円盤形石製品で、側面も一部平滑に仕上げられている。石材は石英安山岩質凝灰岩である。

SK148 井戸跡(第17・18図)

東区南側に位置する。SD82と重複関係にあり、SD82より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸150cm、短軸148cm、深さ102cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面は崩落により上部に乱れがみられる。堆積土は5層に分層された。5層は壁面崩落土と



第15図 SK141井戸跡



1(堆積土)

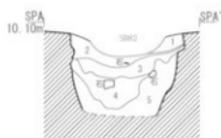
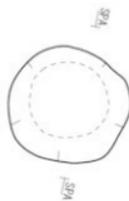


図面番号	登録番号	調査区	出土地	階位	種別	器種	法量(mm)			重量(g)	石材	備考	写真No.
							全長	幅	厚				
1	KJ-014	東区南側	SK141	堆積土	石製品	円盤型	1.7	1.6	0.7	1.6	石英安山岩質凝灰岩	上下及び側面の一部を平滑に仕上げ	08.3

第16図 SK141井戸跡出土遺物

Y=4846
X=197070

Y=4849
X=197070



X=197073
Y=4846

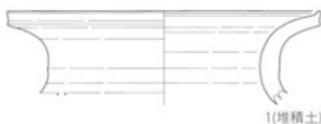
X=197073
Y=4849

0 (1:60) 2m

SK148観覧表

遺構名	調査区	平面形	規模 (cm)		層位	土色		土性	備考	遺構	
			長軸	短軸		1	2				
SK148	東区南側	円形	100	148	III(2)	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層IV-ワンゴン-粘り強。	SD82より新しい。
						2	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	層1~10mmの基本層IV粘り強多量。黄化粘りワンゴン粘り強。	
						3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性物少量。	
						4	10YR4/1	黄褐色	粘土質シルト	層1~20mmの10YR3/1黄褐色土・粘性物微量。	
						5	10YR4/1	黄褐色	粘土質シルト	層1~10mmの基本層IV粘り強多量。層1~10mmの10YR3/1黄褐色土中量。粘土・粘性物微量。	

第17図 SK148井戸跡



0 (1:3) 10cm

図記番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	口径	高さ				
1	E-033	東区南側	SK148	埋積土	須恵器	甕	118	81	119	調整	調整		08-4

第18図 SK148井戸跡出土遺物

みられる基本層IV層ブロックを含み、下半はグライ化する。

堆積土中から土師器や須恵器、礫が出土し、うち須恵器1点を掲載した。遺物は混入と考えられる。第18図-1は須恵器甕口縁部で、頸部は湾曲して開き、口唇部は上方に立ち上がる。

SK149 井戸跡(第19図)

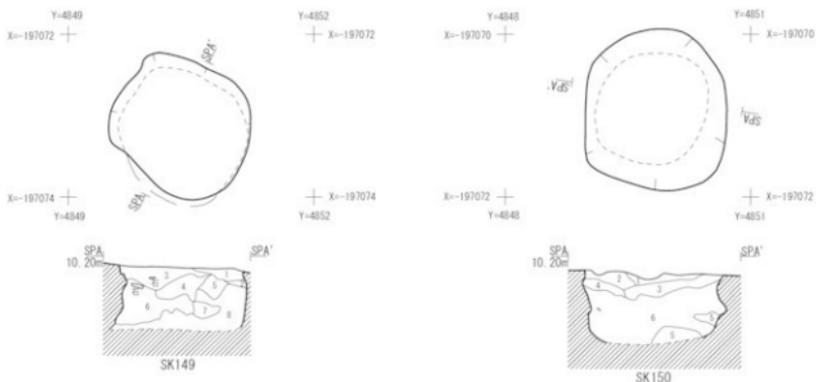
東区南側に位置する。SD82と重複関係にあり、SD82より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸171cm、短軸159cm、深さ81cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、下方は南側に向かいオーバーハングする。堆積土は8層に分層された。北側から基本層IV層ブロックで埋め戻されている。

堆積土中から土師器や礫が出土しているが、図示遺物はない。

SK150 井戸跡(第19・20図)

東区南側に位置する。SD82と重複関係にあり、SD82より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸197cm、短軸173cm、深さ92cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面は水の影響か中位でオーバーハングがみられる。堆積土は6層に分層された。基本層IV層ブロックにより埋め戻されている。

堆積土中から土師器及び礫が出土しており、うち土師器1点を掲載した。遺物は混入と考えられる。第20図-1



SK149-150観察表

遺構名	調査区	平面図	埋蔵 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複	
			長軸×短軸	深さ						
SK149	東区南側	内堀	171×139	8(3)	1	HV32/1	黒褐色	粘土質シルト	径30～20mm基本層数層上大ブロンク多量、径5～10mm燻化鉄少量	SK149新シ、
					2	HV37/2	灰色	粘土質シルト	径5～10mm燻化鉄少量	
					3	HV32/1	黒褐色	粘土質シルト	径1～10mm基本層数層上粘土少量、径5～10mm燻化鉄少量	
					4	HV33/1	黒褐色	粘土質シルト	径1～100mm基本層数層上大ブロンク多量、径5～10mm燻化鉄少量	
					5	HV34/2	灰黄褐色	粘土質シルト	径30～50mmHV34/1焼灰色上土径10～30mmHV33/1黒褐色上	
					6	HV32/1	黒色	粘土質シルト	径1～100mm基本層数層上大ブロンク径5～10mm燻化鉄少量	
					7	HV36/4	灰色	粘土質シルト	径1～30mmHV33/1黒褐色上少量	
					8	HV36/6	明黄褐色	粘土質シルト	径1～3mm基本層数層上粘土少量	
SK150	東区南側	内堀	197×173	9(2)	1	T23/1	灰色	粘土質シルト	径1～30mm基本層数層上大ブロンク少量、径1～3mm白色粒子少量	SK150新シ、
					2	T23/1	灰色	粘土質シルト	径1～30mm基本層数層上粘土少量、径1～3mm白色粒子少量	
					3	T23/2/1	セリア質褐色	粘土質シルト	径1～10mm基本層数層上粘土少量、径1～3mm白色粒子少量	
					4	HV32/1	黒色	粘土質シルト	径1～10mm基本層数層上粘土燻化鉄少量	
					5	T236/6	明黄褐色	粘土質シルト	径1～3mm基本層数層上粘土燻化鉄少量	
					6	T23/1	灰色	粘土質シルト	径1～30mm基本層数層上大ブロンク径1～10mmHV32/1黒色上少量	

第19図 SK149・150井戸跡



1(堆積土)



図面番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真枚数
								上径	底径				
1	C-179	東区南側	SK150	堆積土	土師器	甕	台	10.00	6.80	径:104・台上端:193・径:134	径:109E、台上端:197・径:134		68-5

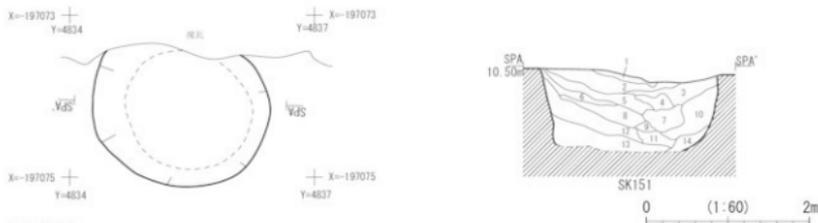
第20図 SK150井戸跡出土遺物

は土師器の器台台部で、直線的に開く。調整は外面ハケメの後、上端はヘラケズリ、下端はヨコナデが施される。内面はヘラケズリの後、下端にヨコナデが施される。

SK151 井戸跡(第21・22図)

中区南側に位置する。SI152・156、SD92と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸219cm、短軸172cm以上、深さ102cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面は上方に向かって開く。堆積土は14層に分けられ、東側から基本層IV層ブロックで埋め戻されている。

堆積土中から土師器、陶器が出土しており、陶器1点を掲載した。第22図-1は陶器壺の口縁部で、ゆるやかに



SK151観覧表

層番号	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構
			長軸(外縁)	短軸(内縁)					
1	SK151	四角	219	172	0102	にぶい・黄褐色	砂質シルト	径1~50mmの10V/R2/3黒褐色土・ゾル、粘を少量含む。	
2						黒褐色	砂質シルト	径1~50mmの10V/R4/3C5・黄褐色土・径1~30mmの10V/R6/4Cにぶい・黄褐色土を少量、壁上・底面物を微量を含む。層中へ下部にのみゾル、粘を少量含む。	
3						黒褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R4/3C5・黄褐色土を少量、壁上を微量、底面物を極微量を含む。	
4						暗褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R4/1焼灰土・径1~30mmの10V/R2/1黒褐色土の壁上、径10~30mmの基本層IV層ブロックを少量、壁上を微量を含む。	
5						にぶい・黄褐色	粘土質シルト	径1~70mmの10V/R4/1焼灰土・10V/R6/23C黄褐色土・10V/R5/8黄褐色土の壁上。	
6						暗褐色	粘土質シルト	径10~30mm基本層IV層ブロック・径1~30mmの10V/R3/1黒褐色土を少量、壁上・底面物を微量含む。	
7						にぶい・黄褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R3/1焼灰土・径1~30mmの10V/R6/23C黄褐色土を少量を含む。	SI152・156、SD92との関係あり。
8						黒褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R3/8黄褐色土・径1~30mmの10V/R2/1黒褐色土の壁上。	
9						黒褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R6/23C黄褐色土を少量含む。	
10						黒褐色	粘土質シルト	径1~10mmの10V/R6/23C黄褐色土を少量含む。	
11						にぶい・黄褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R5/1焼灰土・10V/R6/23C黄褐色土・10V/R4/1黒褐色土の壁上、底面物を微量含む。	
12						褐色	粘土質シルト	径1~50mmの10V/R5/6黄褐色土・径1~30mmの10V/R3/1黒褐色土の壁上、底面物を微量含む。	
13						黒褐色	砂質シルト	径1~50mmの10V/R4/1焼灰土・径1~30mmの10V/R2/1黒褐色土の壁上。	
14						にぶい・黄褐色	砂質シルト	径1~50mmの10V/R4/1焼灰土・径1~30mmの10V/R2/1黒褐色土の壁上、径10~30mmの基本層IV層ブロックを少量含む。	

第21図 SK151井戸跡



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
								口径	底径	高さ				
1	1-002	中区南側	SK151	堆積土	陶器	甕	口縁-胴	20.3	-	(7.2)	70°調整	当て具縁かへつ調整	在地から1.30m深平〜1.40m深平間	68-6

第22図 SK151井戸跡出土遺物

湾曲して立ち上がり、口縁端部付近で強く外反する。口唇部は上方に立ち上がる。内面に当て具痕の可能性がある調整がみられる。年代は13世紀後半から14世紀前半か。

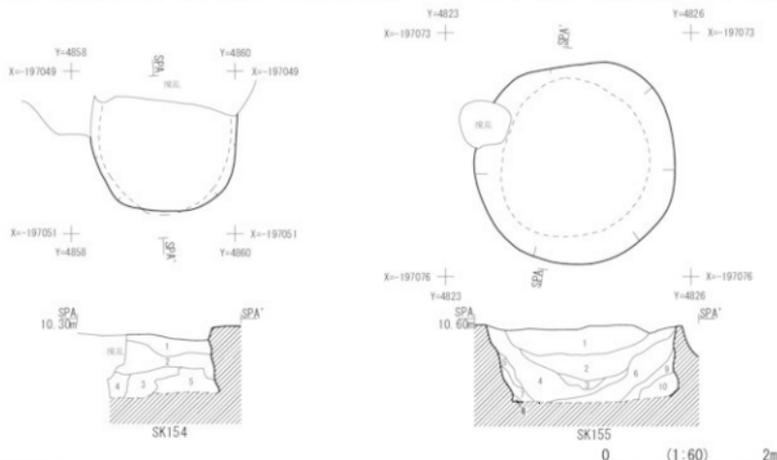
SK154 井戸跡(第23図)

東区北側に位置する。SX2と重複関係にあり、SX2より新しい。北半は掘乱により欠失する。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸178cm以上、短軸135cm以上、深さ80cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面はほぼ垂直である。堆積土は5層にわけられ、基本層IV層ブロックを主体とする。

堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。

SK155 井戸跡(第23図)

中区南側に位置する。SI155・168、SD101、Pi122と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸260cm、短軸



SK154・155観察表

遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺物	
			長軸	短軸						
SK154	東区北側	円形	178×135	80	1	10YR5/6	黒褐色	砂質シルト	径1~30mmの基本層IV層上ブロック(径1~30mm)10YR3/1黒褐色土を多数含む。	SK154より新しい。
					2	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径1~10mmの基本層IV層上土粒を多数、径10~30mmの基本層IV層上ブロックを多数含む。	
					3	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径1~10mmの基本層IV層上土粒を少量、径10~30mmの基本層IV層上ブロックを多数、径1~10mmの炭化物を多数含む。	
					4	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	径1~30mmの基本層IV層上土粒を中量、径1~5mmの10YR3/2黒褐色土を少量含む。	
					4	10YR3/3	にじみ黒褐色	粘土質シルト	径1~30mmの基本層IV層上ブロックを多数、径1~30mmの基本層IV層上土粒を多数、径1~10mmの炭化物を多数含む。	
SK155	中区南側	円形	260×240	90	1	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	径10~30mmの基本層IV層上ブロックを多数、径10~30mmの炭化物を多数含む。	SI155・168、SD101、Pi122より新しい。
					2	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	径10~30mmの基本層IV層上ブロックを多数、炭化物を多数含む。	
					3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	径1~10mmの基本層IV層上土粒を少量、炭化物を多数含む。	
					4	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	径1~10mmの基本層IV層上土粒を多数、炭化物を多数含む。	
					5	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径1~30mmの基本層IV層上土粒を多数、炭化物を多数含む。	
					6	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径1~30mmの10YR3/2土を中量、径1~30mmの10YR3/1黒褐色土の遺土。	
					7	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	径1~30mmの基本層IV層上土粒を少量、径1~10mmの炭化物を多数含む。	
					8	10YR2/4	暗褐色	粘土質シルト	径1~30mmの10YR3/2黒褐色土を中量、径1~10mmの炭化物を多数含む。	
					9	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	径1~30mmの10YR3/2黒褐色土を中量、径1~10mmの炭化物を多数含む。	
					10	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	径30mmの基本層IV層上大ブロック(径1~10mm)10YR3/2黒褐色土を少量含む。	

第23図 SK154・155井戸跡

248cm、深さ95cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面は上方に向かって開く。堆積土は10層に分層された。調査した部分までは基本層IV層ブロックの混入は少ない。

堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。

SK161 井戸跡(第24・25図)

中区南側に位置する。SI152と重複関係にあり、SI152より新しい。掘削に上部を大きく削平される。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸195cm以上、短軸175cm以上、深さ112cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面はやや屈曲し上方に開く。堆積土は4層に分層された。下部はグライ化している。

堆積土中から土師器や石製品が出土しており、石製品1点を掲載した。第25図-1は石英安山岩質凝灰岩の円盤形石製品で、中央を両面から穿孔し、側面は一部平坦に磨られ、側面からの打痕がみられる。

SK162 井戸跡(第26・27図)

中区北側に位置する。SI161・163・172、SB3と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。井戸枠等のない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸154cm、短軸154cm、



SK161観測表

遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	写真 図説	
			長軸×短軸	深さ						
SK161	中区南側	円形	195×175	112	1	10YR5/4	暗褐色	粘土質シルト	層1~10mの基本層IV層土粒・灰化物を微量に含む。	SI152より新しい。
					2	10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト	層1~5mの基本層IV層土粒を微量に含む。	
					3	10YR5/2	灰褐色	粘土質シルト	層1~10mの基本層IV層土粒・灰化物を微量に含む。	
					4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	層1~10mの基本層IV層土粒を微量に含む。	

第24図 SK161井戸跡



図説 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	図様	寸法(mm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図説
							全長	軸	厚				
1	Kd-016	中区南側	SK161	堆積土	石製品	円盤型	8.4	7.3	2.3	96.7	石英安山岩質凝灰岩	中央に穿孔、側面一部断面を有する平坦面及び側面からの打痕あり。	68-7

第25図 SK161井戸跡出土遺物

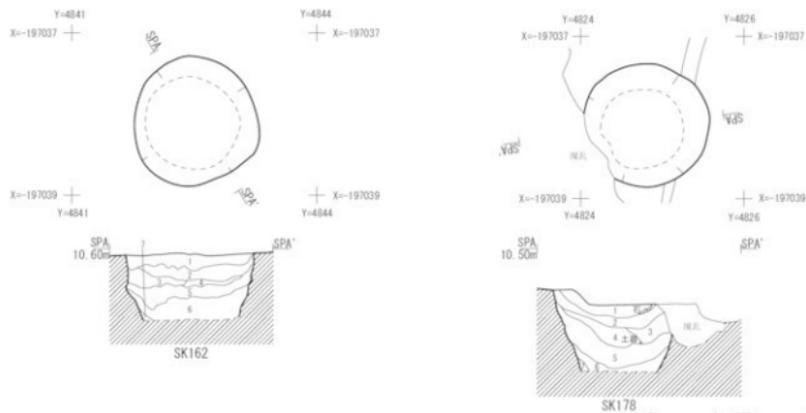
深さ83cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面は中位以下で円錐状に窄まっている。堆積土は7層に分層され、基本層IV層ブロックを混入する層と暗褐色土主体の層が互層をなす。

堆積土中から出土した土師器2点と須恵器1点を掲載した。いずれも混入と考えられる。第27図-1は土師器环で、器高に対し口径が広く、丸底で口縁部と体部の境界に段を有す内面黒色処理が施される。外面に二次被熱らしき痕跡がみられる。2は土師器甕で、口縁部と胴部の境界に段を有し、頸部内面にヘラミガキが施される。3は須恵器甕の頸部破片で、2条の波状沈線の間に並行沈線が施されている。

SK178 井戸跡(第26図)

西区北東部に位置する。井戸枠等を持たない素掘りの井戸跡である。安全を考慮したため底面は完掘に至っていない。検出した規模は長軸154cm以上、短軸152cm、深さ101cm以上を測る。断面形は筒形を呈し、壁面は上方に向かって開く。堆積土は7層に分けられ、下部は基本層IV層ブロックを混入し、4層以下はグライ化する。

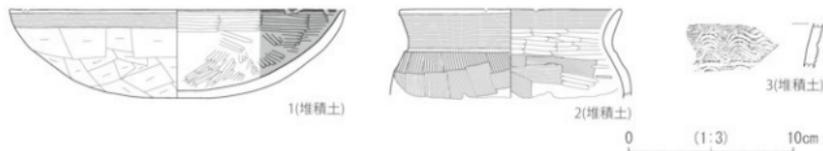
堆積土中から土師器や礫が出土しているが、図示遺物はない。



SK162・178観測表

遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺物	
			長軸×短軸	深さ						
SK162	中区北東部	円形	154×154	83	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	深部～50mmの7.5YR5/6暗褐色砂質土ブロックを散在に多量、礫化砂・灰化物を少量含む。	3161・903・172、303・PT1.9鉄片、
					2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	深50mmの7.5YR5/4暗褐色砂質土ブロックを散在に中量、灰化物を少量含む。	
					3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	深1～10mmの2.5YR4/6暗褐色礫鉄屑を多量、深50mmの砂ブロックを散在に中量、灰化物を微量含む。	
					4	10YR2/4	暗褐色	粘土質シルト	深3～10mmの2.5YR4/6暗褐色砂ブロック・灰化物を少量含む、5mm程度の礫化鉄の塊中存在。	
					5	2.5YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	7.5YR3/4暗褐色土と2.5YR4/6暗褐色土を互層状に含む。灰化物を微量含む。	
					6	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	深部～100mmの7.5YR4/6暗褐色砂ブロックを散在に3条互層状に含む。地上・灰化物を微量含む。	
					7	7.5YR4/6	褐色	砂	上部に6層土を少量含む。	
SK178	西区北東部	円形	154×152	101	1	10YR2/3	暗褐色	シルト	深1～2mmの基本層IV層土と2～50mmの10YR2/2暗褐色土を微量含む。	
					2	10YR3/3	暗褐色	シルト	基本層IV層ブロック・深5～20mmの10YR2/2暗褐色土を少量、礫化鉄を微量含む。	
					3	10YR3/4	黄褐色	粘土質シルト	深1～20mmの10YR3/2暗褐色土を散在に多量に含む。	
					4	10YR3/3	暗褐色	シルト	基本層IV層ブロック・深5～20mmの10YR2/2暗褐色土・礫化鉄を少量、地上に2条互層状に含む。	
					5	10YR4/1	暗灰色	粘土質シルト	基本層IV層大ブロックを多量、礫化鉄を中量含む。グライ化、深グライ化部分の土色は10YR3/3暗褐色。	
					6	5GY4/1	緑オリーブ灰色	粘土質シルト	グライ化。	
					7	5GYR/1	オリーブ灰色	粘土質シルト	深1～10mmの5GY4/1緑オリーブ灰色土を少量含む。グライ化。	

第26図 SK162・178井戸跡



図面番号	登録番号	調査区	土地地	期位	種類	部種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
								上径	底径	器高				
1	C-144	中区北側	SK162	堆積土	土師器	杯	口縁~底	(20.8)	(19.0)	(5.4)	口縁:23.2", 体:19.2"	外口縁	内面彩色処理, 外面 二次焼跡か	68-8
2	C-143	中区北側	SK162	堆積土	土師器	甕	口縁~胴	13.6	-	(5.4)	口縁:23.2", 胴:13.6", 胴:19.6"~21.2"	口縁:23.2", 胴:19.6"~21.2"		68-9
3	E-029	中区北側	SK162	堆積土	須恵器	甕	胴	-	-	-	2nd調整→平行沈降→底沈 調整	2nd調整		68-10

第27図 SK162井戸跡出土遺物

(3) 遺構外出土遺物

西台畑遺跡第9次調査では、遺構及び表土・攪乱から計12点の中近世の陶磁器類が出土した。このうち、中世陶磁器は6点、近世～近代の陶磁器は6点で、このうちSD90・96、SK139・151から出土した中世陶器4点を除いた遺物について報告する。いずれも小破片のため図示していない。

中世陶磁器の内訳はSI146内の攪乱出土の常滑鉢、SI148内の攪乱出土の中国龍泉窯(同安窯の可能性もあり)の青磁である。近世～近代の陶磁器は6点出土した。内訳はSI150内P4混入の鉄軸輪(19世紀前葉以降、産地不明)、SI146内攪乱出土の瓶類(19世紀前葉以降、産地不明)、SD82混入の陶製仏花器(江戸～明治、産地不明)、表土出土の鉢2点(いずれも是焼きで19世紀前葉以降)と攪乱出土の素焼き手焙もしくは植木鉢(時期、産地不明)である。

2. 古墳時代～古代の遺構と遺物(第28～208図)

本項では、基本層IV層上面で検出した遺構やそれらの遺構内出土遺物のうち、遺構の性格や重複関係、出土遺物の年代等から、当該期と考えられるものについて、遺構の種別毎に報告する。

該当する遺構は、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡11棟、溝跡16条、土坑15基、性格不明遺構18基、ピット235基である。このうち、竪穴住居跡のSI164は整理作業時にA・Bに細分され、42軒となっている。これらの遺構・遺物の所属時期は、ほぼ全てが郡山官衙及びそれに先行する時期の古墳時代後期～奈良時代で、SI153のみ古墳時代前期に所属し、SI153周辺の遺構にはわずかに古墳時代前期の遺物が混入している。

(1) 竪穴住居跡(第29～154図)

竪穴住居跡は東区南側で13軒(SI132～144)、東区北側で6軒(SI146～151)、中区南側で13軒(SI145・152～160・166・168・169)、中区北側で10軒(SI161～165・167・170～172)の計42軒を検出した(第29・30図)。最大で4軒の竪穴住居跡が重複関係にあり、後述する掘立柱建物跡はいずれの竪穴住居跡よりも新しい。

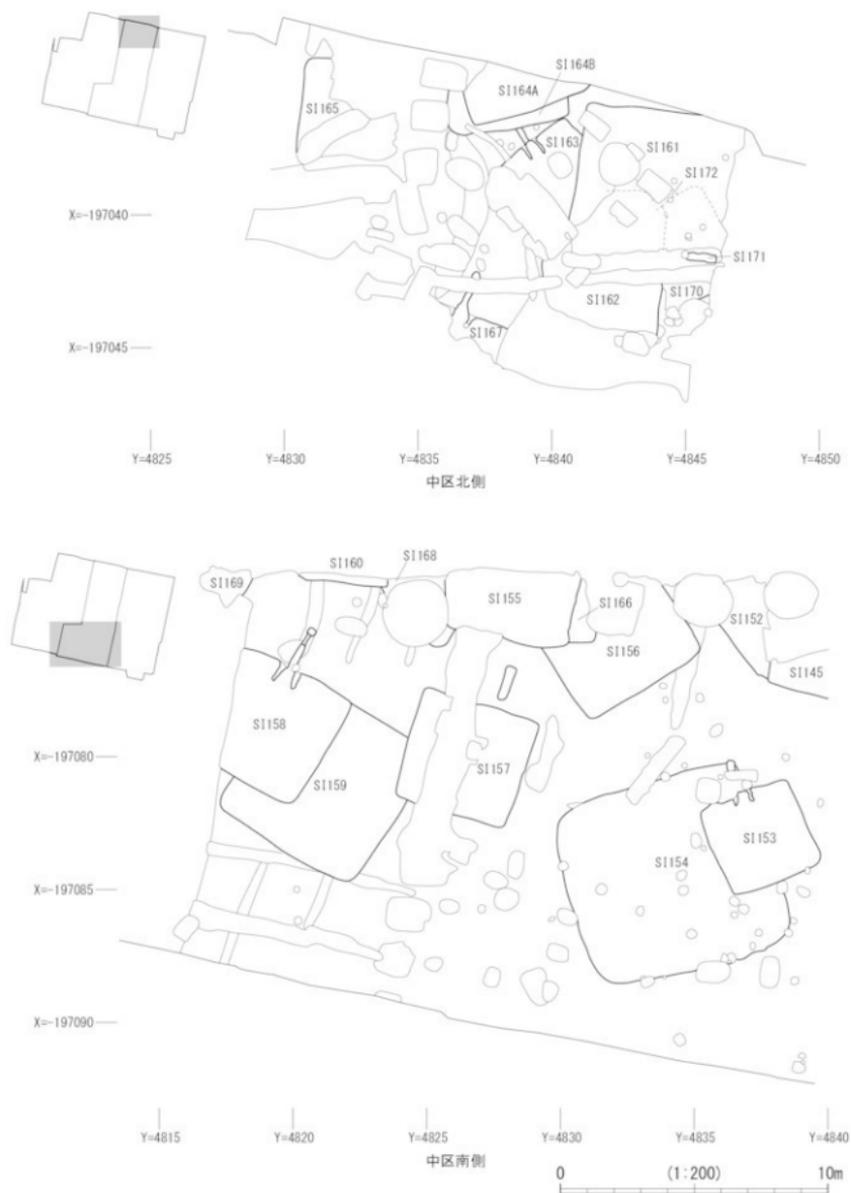
平面形状がわかるものは方形ないし隅丸方形が殆どである。竪穴住居跡の多くは4本柱の主柱穴を有するがSI133のように主柱穴の他に壁柱穴を持つものや、SI155のように壁柱穴のみの竪穴住居跡もみられる。また比較的小規模な竪穴住居跡では住居内に主柱穴を持たない竪穴住居跡もみられる。カマドは今次調査で検出された竪穴住居跡のうち約半数の21軒で確認された。袖は大半が盛土によって構築されており、袖先端に土師器や自然礫が芯材として用いられているものもある。燃焼部はいずれも住居奥壁を利用しており、燃焼部より一段高い位置にあるトンネル状の煙道



第28図 古墳時代～古代の遺構全体図



第29図 東区竪穴住居跡位置図



第30图 中區豎穴住居跡位置圖

部へ続く構造である。煙道部は先端に向かって傾斜し先端がピット状に落ち込み竪穴住居跡床面より深くなるものと、水平ないしやや上方へ傾斜するものみられる。支脚は石製のものが多いが、土製支脚も使用している。SI 154・155は床面に竪を有している。

検出した竪穴住居跡の時期は、共伴遺物の特徴から大半は本書の時期区分5～6期(古墳時代後期～奈良時代)に位置づけられるが、3期(古墳時代前期)や4期(古墳時代後期)に帰属する竪穴住居跡も検出されている。また、共伴遺物が出土しなかった遺構についても、新旧関係から大半が5～6期に帰属するものと考えられる。

以下、竪穴住居跡について個別に報告する。

SI132 竪穴住居跡(第31・32図)

【位置・確認】東区南側に位置し、東半は調査区外に続く。北側は攪乱に削平される。本遺構は複数の床面を断面観察で確認しているが、検出時に上部の床面は削平され最下面の床面3面のみ調査を実施している。

【重複】SD83と重複関係にあり、SD83より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北463cm、東西331cm以上を測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】西壁基準でN-0°-Eである。

【堆積土】大別17層、細別20層に分層された。1～4層は住居堆積土で、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。住居北半の床面直上の3層下部には炭化粒、焼土粒を含む。6～8層はにぶい黄褐色土を主体とする貼床土である。5層は2面貼床の8層を掘り込んでおり、断面形状から周溝の可能性がある。9・10、16・17層は住居掘り方堆積土で、基本層IV層ブロックを含むが、SD83の上部の10a層はSD83の堆積土の影響により暗い。11a～16層は焼土や炭化物が混入する層と貼床との互層で、カマドか、カマド周辺の可能性がある。

【壁面】ゆるやかに立ち上がる。残存する壁高は調査区東壁南側で41cmを測る。

【床面】断面観察により3面確認された。いずれの床面もほぼ平坦である。6～8層、10a・10b層のそれぞれ上面を床面としている。このうち7層は灰黄褐色粘土質シルト層で、上下層よりやや粘性が強く、灰を含む。8層は住居北側では部分的に互層をなし複数回貼り付けている単位がわかる。住居南端では床面が1枚しか認められず、掘り方も南端部では基本層IV層ブロックが少ないことから、床面2面以降、住居を拡張した可能性もある。

【柱穴】ピットは4基検出した。規模と位置関係からP2とP3は4本柱の主柱穴に相当すると考えられる。

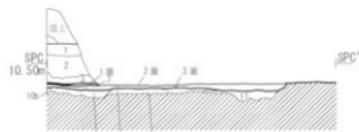
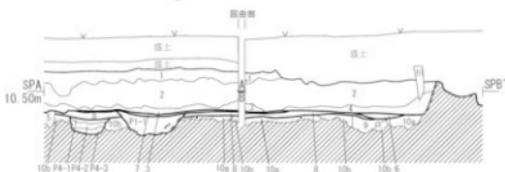
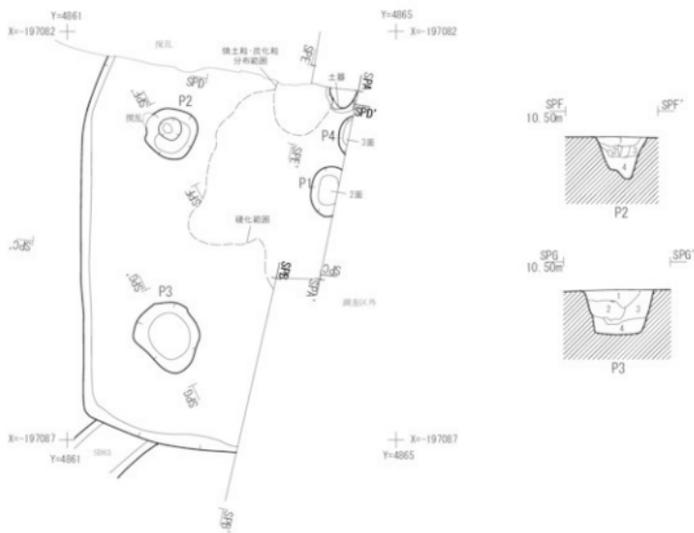
【周溝】検出した範囲においては、周溝は認められないが、Bベルト断面南端の9層と10a層については時期の異なる周溝の可能性がある。

【カマド】明確に捉えられる痕跡は無いが、住居北壁中央の床面3面に、床面に対しわずかに窪んでいる部分がある。この周囲床面に一次被熱は無いが、堆積土は焼土粒・炭化物を含む層と後の貼床との互層をなしており、カマドないしカマド周辺の痕跡であると考えられる。その窪みの東側はわずかに高まり、その南側先端で土師器甕の口縁部が出土しており、カマド袖構築材の可能性がある。高まりは1～2面の床面に覆われている。

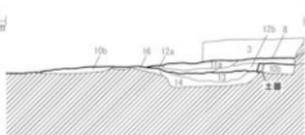
【その他の施設】P1は床面2面貼床の8層を掘り込み1面床面の7層に覆われる。P4は3面の床とした掘り方10b層を掘り込み2面貼床の8層に覆われる。P4最下層は焼土を多量混入する。P1、P4ともに貼床により上面を封じられている。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。その他、SD83直上はSD堆積土の影響により、黒褐色土を多量含むため10a層として細分した。

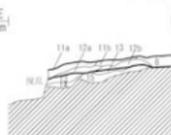
【出土遺物】土師器1点、須恵器1点の計2点を掲載した(第32図)。いずれも堆積土からの出土であるが、前述したように、本遺構検出時にはほぼ床面2面まで削平されているためいずれも本遺構に伴うと考えられる。うち土師器環(第32図-1)はカマドの可能性のある11～16層の調査中に出土している。1は口縁と体部の境界内外面に稜を有しやや



SPd
10.50m



SPe
10.50m



0 (1:60) 2m

0 (1:30) 1m

SI132 施設観視表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	溝(口形)	49.5×48.2	21	床面2面に付与。
P2	平盤(口形)	6.2×6.1	33	

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P3	平盤形	24×20	55	
P4	不明	11.7×11.7	34	床面2面に付与。

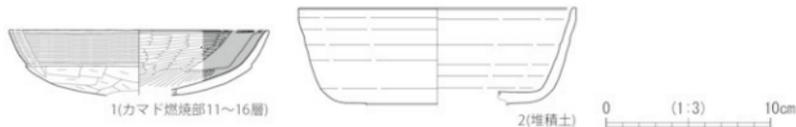
第31図 SI132竪穴住居跡

S132 土層観察表

部位	層位	土色	土質	粘性	締まり	埋入物			備考	
						基本層位置 プロフィール	礎土	炭化物		
住居 基礎土	1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	弱	非流				
	2	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強				
	3	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約5mm 1層少量	約1~3mm 下部少量		
	4	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強				
基面 構築土	5	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強		約1~3mm 少量		
	6	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約3~10mm 上部少量		上部陥没。	
	7	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強	約5~10mm 上部少量		穴少量、上部第六層底部床底。	
掘削方	8	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約5~10mm 少量	約1~3mm 少量	上部陥没2面。	
	9	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約5~10mm 少量	約1~3mm 少量	付属施設の可能性あり。	
	10a	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約5~10mm 少量		約20mm 10YR4/3ブロック中量、S132直上133D3準礎土を埋入するため埋め。	
	10b	10YR6/4	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強				
礎土粒・ 炭化物 分布層	11a	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	約3~5mm 少量	約1~5mm 微量	約1~3mm 微量	2面陥没。
	11b	10YR6/4	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約1~10mm 少量	約1~5mm 微量		2面陥没。
	12a	10YR2/1	黒色	砂質シルト	普通	強	約1~3mm 微量	約1~5mm 少量		3面陥没。
	12b	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	約3~10mm 少量	約1~10mm 少量	約1~3mm 微量	3面陥没。
	13	5YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強		約1~3mm 微量		3面陥没。
	14	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	弱	強				礎土粒・炭化産物混入あり。
掘削方	15	10YR3/2	黄褐色	砂質シルト	普通	強	約1~20mm 少量	約1~5mm 微量	約1~5mm 微量	礎土粒・炭化産物混入あり。
	16	2.5Y7/6	明黄褐色	砂質シルト	強	強	約1~30mm 少量			暗褐色土中量。
	17	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	強	強	約1~2mm 少量			

S132 地盤土層観察表

部位	層位	土色	土質	粘性	締まり	埋入物			備考	
						基本層位置 プロフィール	礎土	炭化物		
P1	1	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	強	強	約1~30mm 少量		約1~10mm 微量	
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	強	強	約1~30mm 少量		約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.3~2mm散量、左側壁の影響でややグライ化。
P2	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	強	強	(1)Y2/1 少量		約1.0~2mm 微量	掘削鉄分粒約0.5mm散量。
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	強	強			約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.1mm散量。
	3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	強	強			約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.1~1mm散量。
	4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	強	強			約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.5mm散量、遺物包含。
P3	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	強	強	約1.0~1mm 微量		約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.5mm散量、遺物包含。
	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	強	強	約1.0~1mm 微量		約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.5mm散量、遺物包含。
	3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	強	強			約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.3~2mm少量。
	4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	強	強			約1.0~1mm 微量	掘削鉄分粒約0.1~1mm散量。
P4	1	10YR4/3	じいい黄褐色	砂質シルト	強	強	約20mm 少量		約1mm 微量	
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	普通		約1~5mm 少量		炭粉ブロック少量。
	3	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	非流		約1~20mm 少量	約1.0~2mm 微量	穴少量。



図例 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	寸法 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真 掲載	
							口径	底径	高さ					
1	C-002	東区南側	S132	11~16層	土師器	杯	1層~底	15.8	12.6	14.0	1層:22°、体~底:9°	約3層	内面黒色処理	49.1
2	E-001	東区南側	S132	埋土上	須恵器	高台付杯	1層~杯底	17.0	12.0	15.0	約5調整	約5調整		49.2

第32図 S132竪穴住居跡出土遺物

内湾して立ち上がる器形を呈する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラナデがなされ、内面に黒色処理が施される。第32図・2は須恵器高台付杯で、平底から屈曲し、直線的に外傾する器形を呈する。
【時期】 上記の遺物のうち、2は郡山II期官衙以降、本書の時期区分の6期の特徴を有しており、竪穴住居跡の時期を示している。

SI133 竪穴住居跡(第33～39図)

【位置・確認】東区南側に位置する。南側は掘乱に削平される。北壁にカマドを有する長軸666cmを測る大型の竪穴住居跡で、床面から炭化材が多量に出土する状況からいわゆる焼失住居であると考えられる。

【重複】SI134・SK140・SX19と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北594cm以上、東西666cm以上を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】北壁基準で、主軸方位はN-10°-Eである。

【堆積土】大別53層、細別54層に分層された。1～10層は住居堆積土で、暗褐色から褐色を呈する粘土質シルトを主体とし、炭化物と焼土を混入する。特に床面直上の8層は炭化物及び形状を残す炭化材を多量混入しており、住居の焼失に伴う建築部材と推測される。11層は周溝堆積土で、8層同様炭化材を混入する。12～47層はカマド堆積土床面構築土で、新旧二時期に分層された。48～53層は掘り方堆積土である。このうち48層は黄褐色粘土質シルトの貼床である。

【壁面】急角度で立ちあがる。東壁南側はやや緩やかである。残存する壁高は16cmを測る。



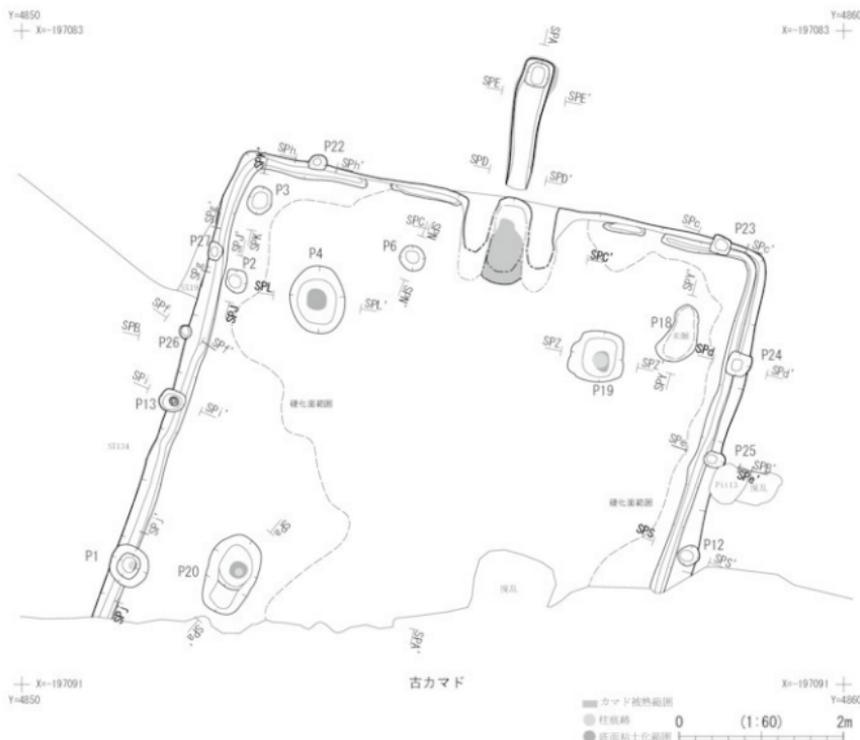
第33図 SI133竪穴住居跡(1)

【床面】ほぼ平坦で、硬化面が広く確認された。48層上面を床面としている。床面からは多量の炭化物が出土する。南北方向に延びる材が多く、住居の構造材とみられる。

【柱穴】ピット27基(4本柱支柱穴・壁柱穴含む)、SK 5基を確認した。このうち、P 4・19・20は4本柱の支柱穴で、P 19・20では柱痕跡を、またいずれの柱穴底面でも柱の影響による粘土化範囲を確認した。支柱穴はいずれも床面では確認できず、掘り方調査時に検出している。南東の支柱穴は攪乱に削平されている。また、壁柱穴を9基確認している。

【周溝】検出した範囲においては、周溝は北壁の一部を除き全体に巡る。極浅い窪み状に存在し、窪み底面に炭化材が乗る。

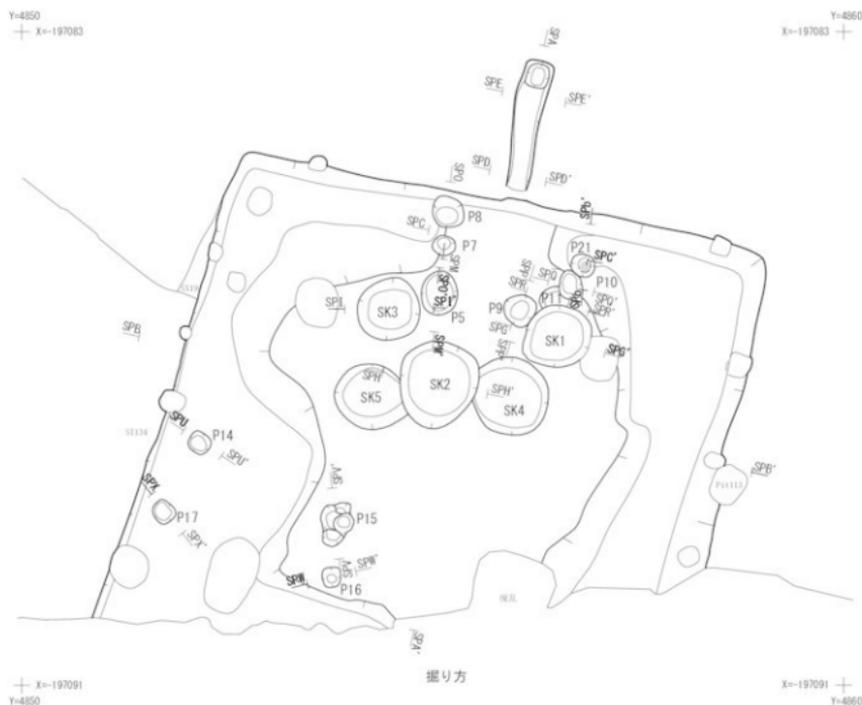
【カマド】北壁中央に位置する。カマドは燃焼部側面の一次被熱面が2面あり、新旧2時期あると考えられる。燃焼部、煙道部ともに床面、壁面を貼り直している様子がある。燃焼部奥壁が住居壁と一致する。煙道は燃焼部から一段上がり奥に向かって下り傾斜を呈し、先端は住居床面よりも深くなる。煙道底部は天井部の被熱ブロックが崩落している。



第34図 S1133竪穴住居跡(2)

【その他の施設】カマド手前のP5・11・18・SK1の堆積土は焼土・炭化物を多量含むが、住居の焼失時以前に人為的に埋め戻されている。その他のピット・土坑、周囲のいずれもが、上面に炭化材が存在することから、確認された土坑・ピットは全て廃絶直前の床面機能時には埋まっている。周溝は検出した床面を全周し、カマド周辺で途切れる。

【掘り方】掘り方は外周が深く、中央及びカマド手前は高く残る。

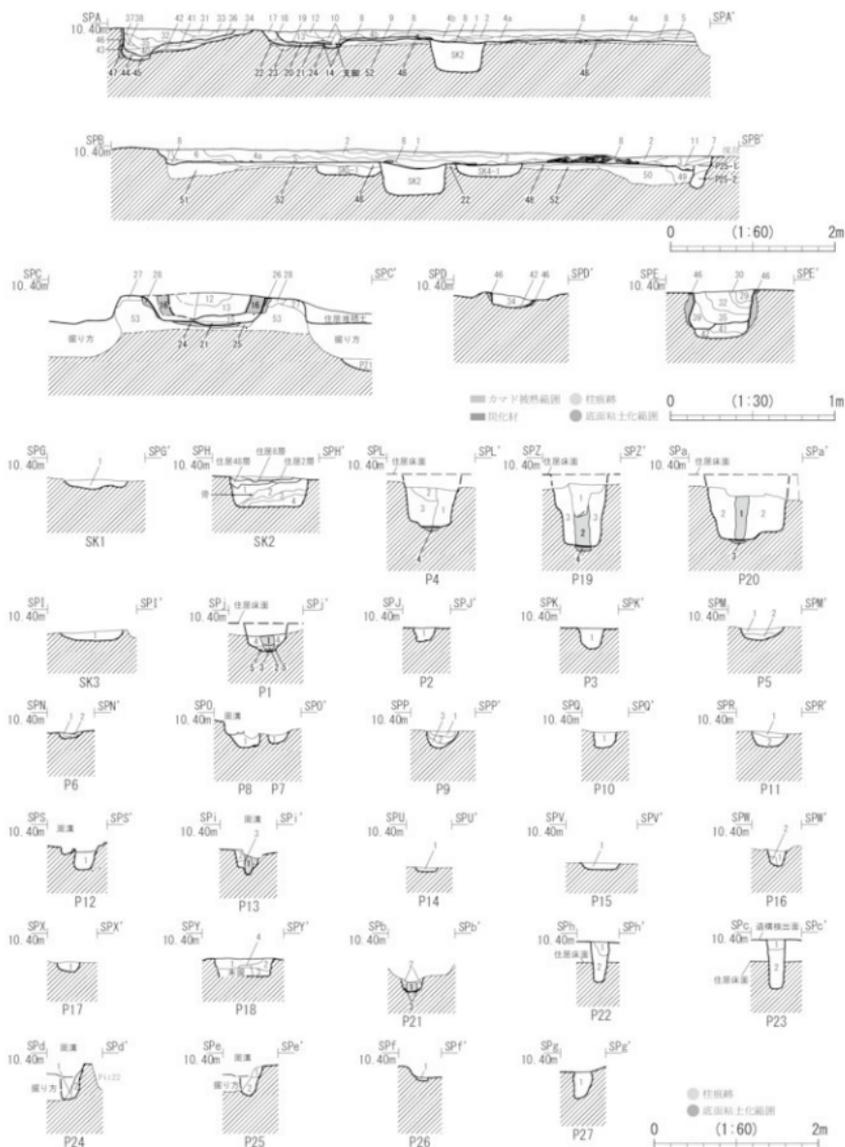


第35図 S1133竈穴住居跡(3)

S1133 施設観覧表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	30×46	24	併S1134-P13
P2	本型円形	28×36	17	
P3	楕円形	24×30	25	
P4	楕円形	40×66	65	主柱穴
P5	楕円形	24×42	15	
P6	円形	30×38	9	
P7	円形	28×24	14	
P8	円形	280×36	19	
P9	本型円形	40×36	21	
P10	楕円形	36×38	20	
P11	楕円形	44×24	19	
P12	円形	26×24	23	
P13	円形	30×36	31	併S1134-P14
P14	隅丸方形	28×26	6	
P15	本型矩	30×40	9	
P16	隅丸方形	26×22	20	

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P17	隅丸方形	28×24	12	
P18	本型楕円形	22×42	23	
P19	本型方形	66×62	88	主柱穴
P20	楕円形	100×62	81	主柱穴
P21	円形	28×26	16	
P22	円形	22×18	26	併S1132-P28
P23	方形	24×22	68	
P24	方形	28×28	20	
P25	楕円形	26×18	26	
P26	円形	16×14	6	
P27	本型円形	22×18	23	
SK1	円形	28×25	13	
SK2	円形	162×94	27	
SK3	円形	26×25	13	
SK4	円形	32×30	26	
SK5	円形	30×29	12	



第36図 S1133雙穴住居跡(4)

S113 土層観察表

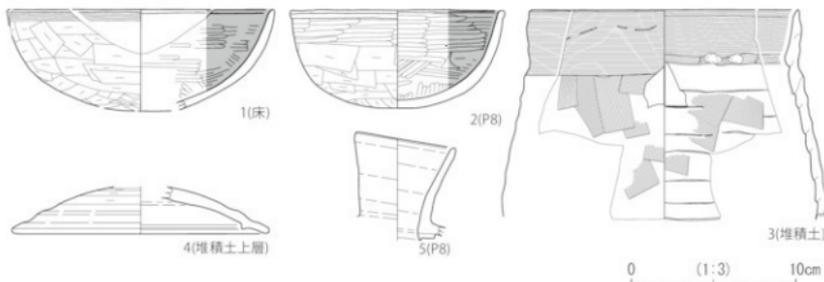
部位	層位	土色	土質	粘性	締り	基本層IV層 プツツの殻		土上	土下	備考
						量	量			
低層 埋戻土	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~10mm 少量		
	3	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~3mm 少量		
	4a	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		
	4b	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~5mm 少量		
	5	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		
	6	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		
	7	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径5mm 少量		
	8	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	無	強	径1~30mm 少量	径1~50mm 少量		
	9	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~10mm 少量		カマツの周り、堀り直した。
埋戻	10	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~10mm 少量		カマツの周り、堀り直した。
	11	10YR2/1	黒色	炭化物	無	強	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量		堀り直した埋戻土。
カマツ	12	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	無	強	径5~30mm 少量	径1~5mm 少量		カマツの天井部直上。
	13	5YR4/4	に濃い赤褐色	粘土質シルト	無	強	径1~10mm 少量	径1~3mm 少量		
	14	2.5YR5/8	明赤褐色	粘土質シルト	無	強	径1~3mm 少量	径1~10mm 少量		
	15	7.5YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	無	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		
	16	7.5YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	無	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		鉄カマツ跡、焼熱する。
	17	2.5YR4/6	赤褐色	粘土質シルト	無	強	径1~30mm 少量	径1~10mm 少量		
	18	5YR3/2	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		被熱した基本層IV層10YR5/4に濃い黄褐色土、径5~10mm少量。
	19	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		被熱した基本層IV層10YR5/4に濃い黄褐色土、径5~10mm少量。
	20	7.5YR3/3	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		
	21	2.5YR4/4	に濃い黄褐色	粘土質シルト	無	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		被熱した基本層IV層10YR5/4に濃い黄褐色土、径5~10mm少量。
カマツの 埋戻り方	22	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量		10YR3/2黄褐色土、径1~20mm少量。
	23	7.5YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		10YR3/2黄褐色土、径1~20mm少量。
	24	2.5YR3/4	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	強				床表面。
	25	10YR5/4	に濃い黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量		10YR3/2暗褐色土、径1~5mm少量。
	26	5YR4/6	赤褐色	砂質シルト	普通	強				被熱により赤褐色化する。
	27	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強				10YR4/4褐色土、径1~5mm少量。
	28	10YR4/2	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 少量		
	29	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	無	強				
	30	5Y5/4	暗赤褐色	粘土質シルト	無	強				被熱した天井部直上。
	埋戻	31	2.5YR4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	無	強	径5~20mm 少量	径1~3mm 少量	
32		5Y5/3	反オリーブ色	砂質シルト	無	強	径5~20mm 少量	径1~3mm 少量		
33		5Y5/4	オリーブ色	砂質シルト	無	強	径1~5mm 少量	径1~10mm 少量		
34		5YR4/4	に濃い赤褐色	粘土質シルト	無	強	径1~10mm 少量	径1~3mm 少量		
35		2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	無	強	径5~10mm 少量	径1~3mm 少量		
36		5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	無	強	径5~30mm 少量	径1~3mm 少量		
37		7.5YR3/2	暗褐色	砂質シルト	無	強	径5~10mm 少量	径1~10mm 少量		
38		10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	無	強	径1~10mm 少量	径1~3mm 少量		
39		2.5Y7/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強				天井部直上。
40		7.5YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径5~10mm 少量			
41		5YR5/4	に濃い赤褐色	砂質シルト	普通	強				被熱した天井部直上。
42		5YR3/2	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強				被熱により赤色化した天井部直上。
43		7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量			
44		7.5YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量			
45		10YR4/3	に濃い黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			
埋り方	46	2.5YR4/6	赤褐色	砂質シルト	普通	強				被熱により赤褐色化する。
	47	5YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強				被熱により赤褐色化する。
	48	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強				10YR6/6明黄褐色土、径1~10mmと10YR3/2暗褐色土、径1~5mm混在。
	49	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強				10YR6/6明黄褐色土、径1~30mmと10YR3/2暗褐色土、径1~30mm混在。
	50	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量		
	51	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1mm 少量	径1~3mm 少量		
	52	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	強	強		径1~3mm 少量		
	53	10YR2/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強				カマツ埋戻り方、基本層IV層に接して埋戻し、内面やや被熱。

S133 施設土層観察表(1)

層位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層内層 区分	試人物			備考
							粒上	粒中	粒下	
SK1	1	7.0YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	径1~10mm 少量	
	2	2.5Y2/4	黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	径1~5mm 少量	
SK2	2	10YR/6	黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~100mm 少量	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
	3	10YR/8	褐色	粘土質シルト	無	無	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	径1~5mm 無	10YR3/4(緑褐色土、径1~20mm)少量、
	4	10YR/6	黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~10mm 無	径1~3mm 無	径1~5mm 無	10YR3/4(緑褐色土、径1~10mm)少量、
	3	10YR/8	黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~20mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
SK4	1	10YR/4	褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	径1~10mm 少量	
	1	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	無	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無		
P1	1	10YR/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~10mm 少量		柱間隙、
	2	10YR/2	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		柱間隙、
	3	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無		
	4	10YR/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		
	5	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		
P2-3	1	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	
	1	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	
P4	2	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
	3	10YR/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
	4	10YR/1	黒灰色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	柱による粘土化範囲、
	1	7.0YR/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
P5	2	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~20mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	
	1	10YR/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	
P6	2	10YR/8	黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	
	1	7.0YR/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
P7	1	7.0YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mmの白色の塊や?現象、
	1	2.5Y2/3	黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
P9	2	10YR/4	褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	
	3	2.5Y2/3	黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
P10	1	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	無	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
	1	10YR/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
P11	2	7.0YR/3	緑褐色	粘土質シルト	無	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
	1	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	無	無	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	径1~5mm 無	
P12	1	10YR/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無		柱間隙、
	2	10YR/1	黒灰色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無		
	3	10YR/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		
P13	4	10YR/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量		
	5	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無		
	1	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無		
	1	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	
	2	10YR/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	
P17	1	10YR/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	径1~5mm 無	
	2	10YR/4	褐色	粘土質シルト	無	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
P18	2	5YR/2	緑黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~20mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	
	3	10YR/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
	4	10YR/8	黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
	3	10YR/4	褐色	粘土質シルト	無	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径5~10mm(10YR4/2)灰黄褐色粘土質シルト少量、
P19	1	10YR/8	黄褐色	粘土質シルト	無	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	柱間隙、
	2	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	10YR3/4(緑褐色土、径1~10mm)少量、
	3	10YR/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	
	4	10YR/1	黒灰色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	柱による粘土化範囲、
P20	1	10YR/2	黒褐色	粘土質シルト	無	無	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	径1~10mm 少量	柱間隙、
	2	10YR/4	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	柱による粘土化範囲、
	3	10YR/1	黒灰色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	柱による粘土化範囲、
P21	1	10YR/4	褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	層下部に基本層内層ブロック多し、
	2	10YR/4	褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
P22	3	10YR/4	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	
	1	10YR/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	径1~5mm 無	
	2	10YR/3	緑褐色	粘土質シルト	普通	無	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1~5mm 無	

SI133 施設土層観察表(2)

部位	層位	土色	土性	粘性	縮率 ¹⁾	掘入物		備考
						基本掘削層 (シルト層)	掘土 掘込物	
P23	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~10mm 少量	
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~10mm 少量	
P24	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~5mm 少量	
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~10mm 少量	
P25	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~5mm 少量	
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~5mm 少量	
P26	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~5mm 少量	
P27	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	深1~20mm 少量	



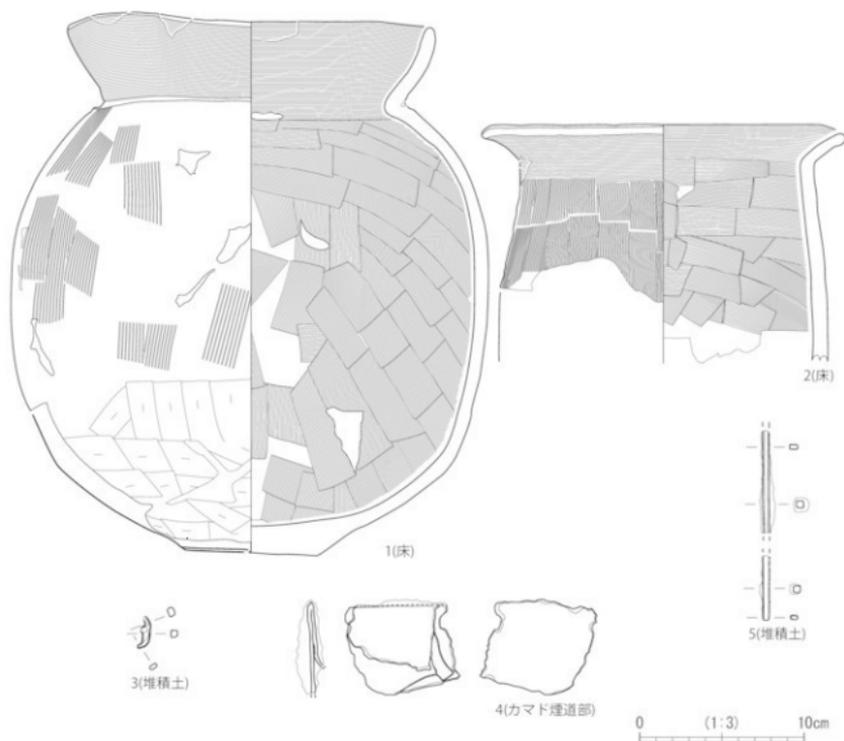
P8掘 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真 図例	
								上径	底径					高さ
1	C-003	東区南側	SI133	床	土師器	杯	口縁~底	(16.2)	(16.2)	(6.2)	口縁:2PP、胴:9PP	9P8	内面黒色処理 外面二次焼結	49-3
2	C-004	東区南側	SI133	P8	土師器	杯	口縁~底	13.0	-	(6.0)	口縁:2PP、口縁~体上半部 塗土、体下半部塗土	9P8	内面黒色処理	49-4
3	C-008	東区南側	SI133	堆積土	土師器	甕	口縁~胴	(16.0)	-	(12.9)	口縁:2PP、胴:9PP	9P8	内面輪組み痕跡	49-6
4	E-004	東区南側	SI133	堆積土上層	須恵器	蓋	天井~口縁	15.7	-	(2.0)	9P8調整	9P8調整	つまみ穴欠	49-7
5	E-005	東区南側	SI133	P8	須恵器	平鉢	口縁~胴	6.0	-	(5.9)	9P8調整	9P8調整	内面一部黒塗り	49-8

第37図 SI133竪穴住居跡出土土遺物(1)

【出土遺物】土師器5点、須恵器3点、土製品1点、金属製品2点の計11点を掲載した(第37～39図)。第37図-1はカマド西側床面から出土した半球形を呈する土師器杯で、調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2はP8出土の半球形を呈する土師器杯で、1より口縁径が小さい。調整は、体部外面はヘラケズリ、外面の口縁部と内面にヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。3は堆積土出土の土師器甕で、直線的に内傾する胴部上半から口縁部がわずかに屈曲してほぼ垂直に立ち上がる器形を呈する。調整は、内外面ともに胴部ヘラナデ、口縁部ヨコナデが施され、内面口縁部に指頭圧痕がみられる。内面には輪積み痕が顕著に認められる。第38図-1は住居床面北東隅にて横位で出土した球形の甕で、頸部外面に強い段を有して屈曲し、口縁部は内湾して立ち上がる。調整は、体部外面の下半はヘラケズリ、上半はハケメ、体部内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。2は1と共に住居床面北東隅で逆位で出土した長胴の土師器甕上半部で、口縁部と胴部の境界に段はなく、内傾する胴部から口縁部の途中で強く屈曲し外方に開く器形を呈する。調整は、胴部外面は細かいハケメ、胴部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。第37図-4は堆積土上層出土のカエリを有する須恵器蓋で、内湾して開き、天井部はヘラケズリが施される。5はP8出土の須恵器平鉢口縁部破片で、やや外反して開く。内面に一部漆が付着する。第39図-1は堆積土出土の須恵器甕胴部破片で、内面には青海波文が

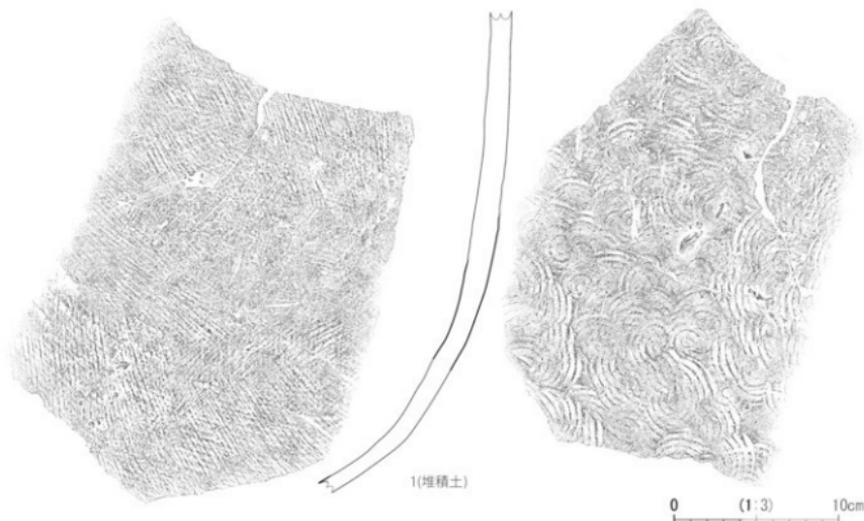
みられる。第38図-3は堆積土出土の土製勾玉で、胴部は直線的で尾部が屈曲する。ナデ調整が施される。4はカマド煙道部出土の板状鉄製品で、薄い板状を折り曲げている。5は堆積土出土の棒状鉄製品である。

【時期】上記の遺物のうち、第37図-1・2・5、第38図-1・2の5点は本遺構に帰属する。第37図-1・2は口縁部と体部の境に段を持たず内湾し内面は黒色処理が施される。郡山Ⅱ期官衙の特徴を有し、本書の時期区分では6期の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	名称	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真枚数
								口径	底径	高さ				
1	C-010	東区南側	SI133	床	土器	甕	口縁~底	(21.1)	(8.0)	(32.0)	口縁:ナデ、胴上平つば、胴下平つばあり	口縁:ナデ、胴:ナデ		49-5
2	C-011	東区南側	SI133	床	土器	甕	口縁~胴	21.2		(14.5)	口縁:ナデ、胴:ナデ	口縁:ナデ、胴:ナデ		49-8
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	名称	部位	法量 (mm)			調整	特徴・備考	写真枚数	
								全長	幅	厚				
3	P-005	東区南側	SI133	埋積土	土製品	勾玉		(2.0)	0.4	0.4	ナデ		49-10	
4	N-008	東区南側	SI133	カマド煙道部	金属製品	板状鉄製品		(5.8)	(8.4)	1.7	3段以上の板が折り曲げられてつくられる。		49-11	
5	N-004	東区南側	SI133	埋積土	金属製品	棒状鉄製品		(6.2)	0.9	0.9	全長(4.0cm)同一個体あるが、複合しない。		49-12	

第38図 SI133竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	部材	法製 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真採取
							上径	底径	高さ				
1	E-006	東区南側	SI133	埋積土	須恵器	壁	胴~底	-	-	平行90°	-	古陶文	49-13

第39図 SI133竪穴住居跡出土遺物(3)

SI134 竪穴住居跡(第40～44図)

【位置・確認】東区南側に位置する。南側を攪乱に、東側をSI133に削平される。

【重複】SI133、SB5～7、SX19、Pit30と重複関係にあり、SI133、SB5～7、Pit30より古い。SX19との新旧関係は不明である。

【規模・形態】検出した範囲の住居規模は、南北638cm、東西546cm以上を測る。平面形状は方形と推定される。

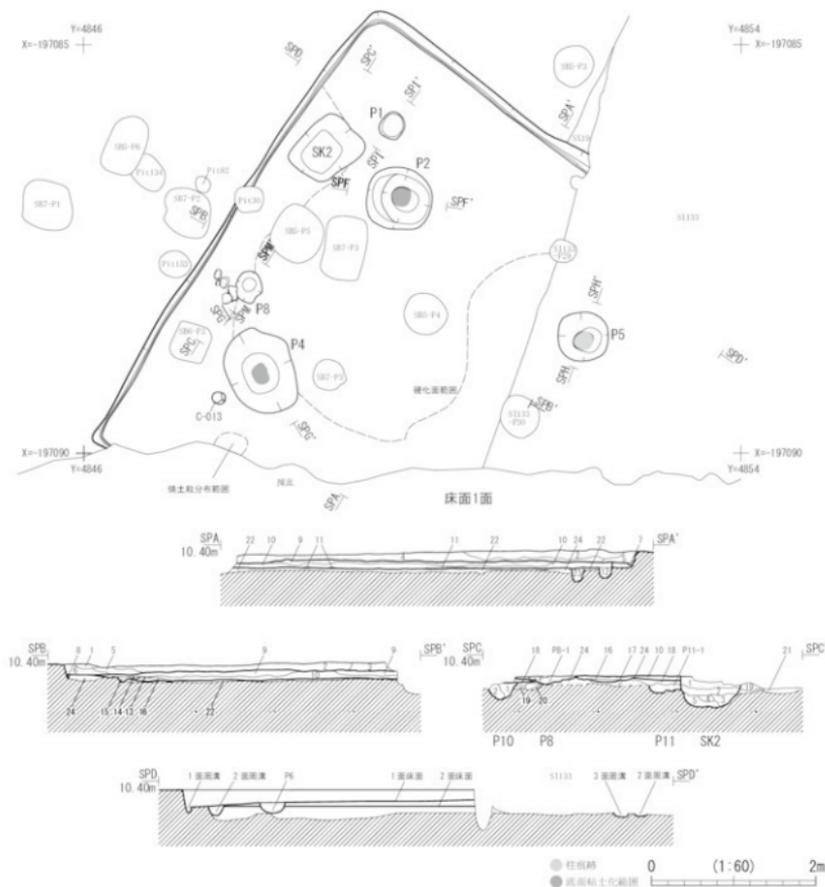
【方向】1面床面に伴う北壁基準で主軸方位はN-57°-Wであるが、主柱穴の並びは5°北に軸が傾きN-52°-Wを測る。

【堆積土】24層に分層された。1～7層は住居1面床面堆積土で、褐色から暗褐色の粘土質シルトで基本層IV層ブロックを混入する。周溝堆積土は7層及び8層で、北壁際の8層ではカマドの影響か焼土・炭化物を混入する。9～11層は2面床面堆積土で、9層は1面床面の貼り床である。12層は2面周溝堆積土である。13～17層はカマド燃焼部堆積土、18～24層は掘り方堆積土で、そのうち24層は基本層IV層に近い土で構築されたカマド袖である。その他、2面床面中央付近と南北ベルト北側周溝付近に赤色顔料とみられる物質を確認した。

【壁面】住居壁は西壁と北壁東半及び南壁の西端が確認された。壁面は急角度で立ち上がる。

【床面】床面は2枚検出された。床面は2面とも住居中央部に硬化面が認められる。上の床は南西側に向かって薄くなる。後述の周溝で、3時期の変遷が確認され、住居床面はその都度拡張されている。掘り方で確認された最も古い時期の周溝と2面床面は床面が同じまま拡張している様子が伺える。

【柱穴】ピットを11基とSK2基を確認した。このうちSK2とP1・2・4・5・8は1面、P11は掘り方、それ以外は2面床面に伴う。P2・4・5は4本柱の主柱穴である。いずれも底面に柱当たりの粘土化がみられる。P9は片側から被熱した



第40図 SI134竪穴住居跡(1)

基本層IV層ブロックが多量混入しており古い時期のカマド袖を廃棄したものとみられる。またP8及びP11はカマド両袖脇に位置し、カマド由来とみられる焼土を多量混入する。

【周溝】周溝は2つの床面でいずれも確認された。1面の周溝は床面が残存する範囲を全周する。周溝は幅が狭く、深さも浅い。2面周溝は北半部のみで確認され、1面の周溝より約35cm内側を巡る。また、掘り方北東側では2面周溝よりさらに内側に周溝が確認できる。この周溝の新旧関係から、住居が2段階にわたり拡張され、3時期の変遷があるものとみられる。

【カマド】1面では認められず、2面床の西壁中央で燃焼部が確認された。2面のカマドはSB5・7、Pit30に削平され

Y=4846
X=197085

Y=4854
X=197085



第41図 SI134竪穴住居跡(2)

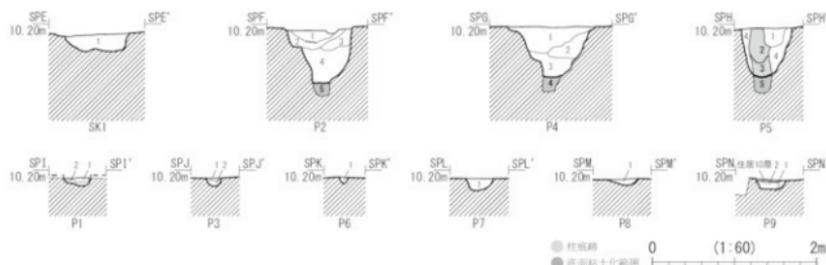
SI134 施設観覧表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	36×32	16	1面検出, 0106
P2	円形	28×24	82	1面検出
P3	円形	32×18	18	2面検出, 0109
P4	不整形円形	106×50	61	1面検出
P5	円形	60×58	39	1面検出
P6	円形	10×10	7	2面検出, 0110
P7	不整形円形	38×34	15	2面検出, 0111

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P8	不整形円形	38×50	9	1面検出, 0113
P9	円形	49×23	12	2面検出, 0115
P10	円形	44×34	21	2面検出, 0116
P11	楕円形	50×50	10	掘り方検出, 0117
SK1	円形	26×21	42	2面検出
SK2	個人長方形	82×46	38	1面検出, 0123

SI134 土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り方	埋入物		備考
						基本層IV層(カマツ)に 対して	炭化物	
床面土層 上	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	5	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	6	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	7	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	8	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 埋入物	
	9	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	鉛筆
	10	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 埋入物	
2面 車線上	11	N2/0 黒色	泥	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 埋入物	
	12	10YR5/4 に5Y7黄褐色	粘土質シルト	普通	強		10YR6/6明黄褐色土, 径1~30mm; 10YR3/2黒褐色土, 径1~30mm混在。	
2面 溝溝	13	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	14	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR6/6明黄褐色土, 径1~20mm; 10YR4/1黄灰色土, 径1~20mm混在。	
2面 カマツ	15	7.5YR4/4 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 少量	径1~5mm 埋入物	
	16	10YR4/4 に5Y7黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~10mm 埋入物	
	17	10YR4/6 褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 埋入物	径1~5mm 埋入物	
	18	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強		10YR6/6明黄褐色土, 径1~20mm; 10YR4/1黄灰色土, 径1~20mm混在。	
	19	10YR3/7 黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 埋入物	
掘り方	20	10YR5/4 に5Y7黄褐色	粘土質シルト	普通	強		10YR3/2黒褐色土, 径1~10mm少量。	
	21	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR3/2黒褐色土, 径1~10mm少量。	
	22	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 埋入物	
	23	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 埋入物	
	24	10YR7/6 明黄褐色	粘土質シルト	普通	強		カマツ掘り方, 基本層IV層に準じて掘削, 本調査のための形状不明。	



第42図 S1134竪穴住居跡(3)

S1134 施設土層観察表

跡位	層位	土色	土性	粘性	締り	成人跡		備考
						基本層IV層 下の2/3付近	礎土	
SK1	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	強	強			10YR6/6明黄褐色土、径1~30mm①10YR2/3暗褐色土、径1~30mm同状。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強			10YR6/6明黄褐色土、径1~30mm①10YR4/1褐色土、径1~30mm同状。
SK2	2	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	径10mmの白色粘土少量。 1層よりやや薄い。
	3	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	4	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
						径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
P1	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	10YR6/3灰白色の混合の強い礫状の物、径1~30mm中量。
	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
P2	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	柱状取柄。
	2	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	柱状取柄。
	3	10YR3/6 黄褐色	粘土質シルト	強	強	径1~20mm 中量		
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量		
	5	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強			柱による粘土化副産物。
P3	1	10YR2/1 黒褐色	粘土質シルト	強	強			
	2	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強			
P4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	柱状取柄。
	2	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
P5	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
	4	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強			柱による粘土化副産物。
P6	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量		柱状取柄。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量		柱取柄。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量		柱取柄。
	4	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量		柱取柄。
	5	10YR3/6 黄褐色	粘土質シルト	強	強	径1~30mm 中量		
P7	1	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	強	強			
P8	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
P9	1	10YR4/3 にごり黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	基本層IV層ブロック主体。
	2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	普通	強			
	3	5YR4/4 にごり赤褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 中量	径1~50mm 中量	片側から斜断する基本層IV層ブロック主体、カマド跡由来。
P10	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~30mm 中量	径1~5mm 少量	
	2	10YR2/1 黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
P11	1	5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 中量	径1~50mm 中量	

る。1面では2面カマドと同位置に焼土粒の分布が認められるが、一次被熱や袖は確認できず、異なる方位にカマドが設けられた可能性がある。2面で確認したカマドは、燃焼部及び両袖が遺存し、カマド袖は基本層IV層に極めて近い土で構築される。カマド掘り方を調査していないため、掘り方形状は不明である。煙道部は検出時に範囲のみ確認している。

【掘り方】掘り方は外周が深く、中央が高い。

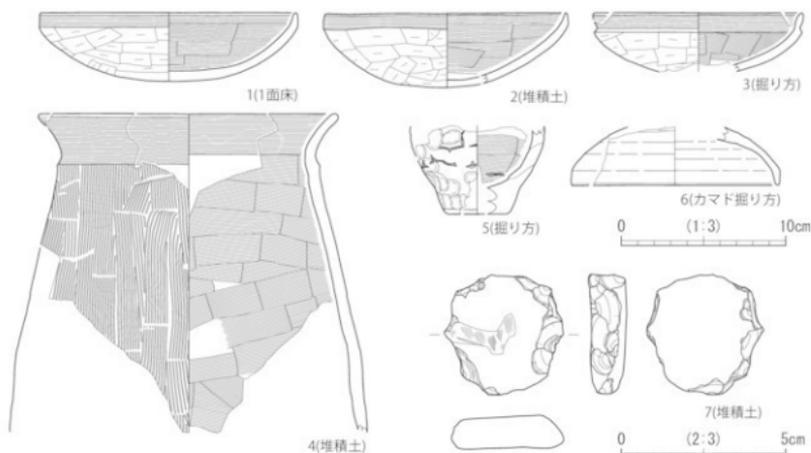


第43図 S1134竪穴住居跡(4)

【出土遺物】土師器5点と須恵器1点、石製品1点の計7点を掲載した。第44図-1は1面床面出土の土師器環で、住居床面南西から逆位で出土した。1は須恵器環蓋模倣で、体部は内湾し、口唇部で短く屈曲し垂直に立ち上がる器形を呈する。調整は体部外面はヘラケズリ、体部内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともヨコナデが施され、内面に黒漆が塗布される。2は堆積土出土の須恵器環蓋模倣の土師器環で、器形、調整は1と同一で1同様内面に黒漆が施される。3は掘り方出土の北武蔵型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する土師器環で、半球形に内湾する体部から「S」字状に緩やかに外傾する口縁部に至る器形を呈する。4は堆積土出土の土師器長胴甕で、胴部最大径は胴下半に位置し、口縁部と胴部の境界に稜を有し、口縁部は外反して開く。調整は、胴部外面はハケヌ、胴部内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。5は掘り方出土の手捏ね土器の底部である。調整は、外面は指押さえ、内面はヘラナデが施され、内外面とも輪積み痕が顕著である。6はカマド掘り方出土の須恵器蓋で、カエリを持たず内湾し口唇部は屈曲し短く垂下する器形を呈する。7は堆積土出土の円盤型石製品で、側面は打痕がみられ、磨り調整はみられない。石材は石英安山岩質凝灰岩である。

その他、図示していないが、2面床面北西隅で編み物石状の礫が、堆積土中からいわゆる鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)の環破片が3～4個体と丸底の須恵器環破片が出土している。

【時期】上記の遺物のうち、土師器類は鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)や北武蔵系土師器(清水型関東系土師器)を主体としており、1面床から出土した第44図-1は本遺構に伴うと考えられる。本書の時期区分では、4b～5期の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (mm)			外面調整		内面調整		備考
								口径	底径	高さ	口縁調整	体調整	口縁調整	体調整	
1	C-013	東区南側	SI134	1面床	土器底	杯	口縁~底	15.5	15.7	4.2	口縁:22F, 体:59F	口縁:22F, 体:59F	内面無調整	内面無調整	50-1
2	C-014	東区南側	SI134	堆積土	土器底	杯	口縁~底	17.6	14.8	4.6	口縁:22F, 体:59F	口縁:22F, 体:59F	内面無調整	内面無調整	50-2
3	C-017	東区南側	SI134	掘り方	土器底	杯	口縁~体	12.8	12.6	3.6	口縁:22F, 体:59F	口縁:22F, 体:59F	内面無調整	内面無調整	50-3
4	C-015	東区南側	SI134	堆積土	土器底	盤	口縁~胴	(17.8)	-	(19.5)	口縁:22F, 胴:70F	口縁:22F, 胴:70F	内面無調整	内面無調整	50-4
5	C-016	東区南側	SI134	掘り方	土器底	手押石	体~底	-	(3.6)	(5.4)	手押石	調整	調整	外面輪縁のみ調整	50-5
6	E-007	東区南側	SI134	カマド掘り方	須恵系	器	天井~口縁	(12.8)	-	(3.9)	調整→天井:59F	調整	調整	調整	50-6

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (mm)			石材	備考		
							全長	幅	厚				
7	Kd-003	東区南側	SI134	堆積土	石製品	内磨石	3.7	3.7	11.0	12.2	石製(石臼用)	石製	50-7

第44図 SI134竪穴住居跡出土遺物

SI135 竪穴住居跡(第45・46図)

【位置・確認】東区南側に位置する。北側と中央部を掘乱により溝状に削平されている。住居南東隅と北側の一部を確認した。

【重複】SI136、SB10-P-3・4、Pit123～125と重複関係にあり、SB10-P-3・4より古く、SI136、Pit123～125よりも新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北379cm以上、東西327cmを測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】住居南壁基準でN-26°-Eである。

【堆積土】4層に分層された。1・2層は住居堆積土で、住居南側の1層は褐色粘土質シルトを主体とし基本層IV層ブロックを混入し、住居北側の2層はにぶい黄褐色粘土質シルトで炭化物を混入する。3層は床面構築土で、暗褐色粘土質シルトを主体とし、堆積土より大きい基本層IV層ブロックを中量混入する。4層は住居掘り方堆積土で住居南側のみ確認される。

【壁面】遺存状況の比較的良好な住居南壁ではほぼ垂直に立ちあがる。残存する壁高は住居南壁で10cmを測る。

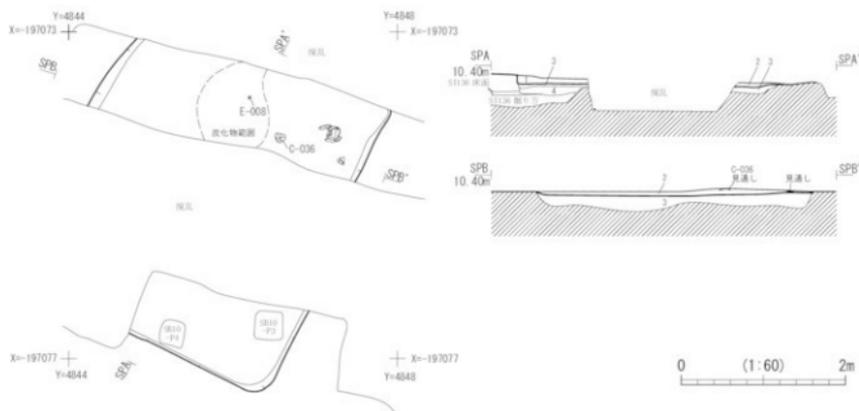
【床面】床面は平坦で、掘乱を挟んだ北部分がやや低い。3層上面を床面としている。

【施設】住居に伴う施設は認められないが、住居北側中央付近の床面に炭化物の範囲が認められることから、掘乱に削平された北壁にカマドを有していたと推測される。

【掘り方】中央部を掘乱に削平され詳細は不明だが、住居南側断面では中央に向かって高くなる。また、北側中央がやや高くなっている。

【出土遺物】土師器1点と須恵器1点の計2点を掲載した(第46図)。いずれも床面出土の破片である。第46図-1は平底で体部と口縁部の境界に段を有し、内湾して立ち上がる器形を呈する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2は口縁部径の小さい須恵器坏で、口縁部と体部の境界外面に段を有し、屈曲して直線的に開いて立ち上がる器形を呈する。その他土師器甕破片と住居北東部で長楕円の礫が8点まとまって出土した。

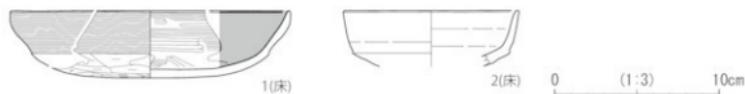
【時期】上記の掲載遺物はいずれも本遺構に伴うと考えられる。本書の時期区分では6期の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。



第45図 SI135竪穴住居跡

SI135 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	硬さ	基本層厚(層厚)	遺入物		備考
							焼土	炭化物	
住居 南壁土	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	約10mm 中量		径1~6mm 焼土層	
	2	10YR4/3	紅褐色	粘土質シルト	普通	約10mm 中量		径1~6mm 焼土層	
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	約10mm 中量			焼土層、70~80cm基本平方同率。
壁の方	4	10YR2/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	約10mm 中量		径1~10mm 焼土層	



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法層(6m)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
								上段	下段					
1	C-036	東区南側	SI135	床	土師器	坏	口縁~底	(17.0)	(14.4)	S1	口縁:27F、体:191X3	口縁:27F、体:191X3、体:191X3	内面黒色処理	50.8
2	E-008	東区南側	SI135	床	須恵器	坏	口縁~体	(10.6)	10.6	C39	調整	調整		50.9

第46図 SI135竪穴住居跡出土遺物

SI136 竪穴住居跡(第47～53図)

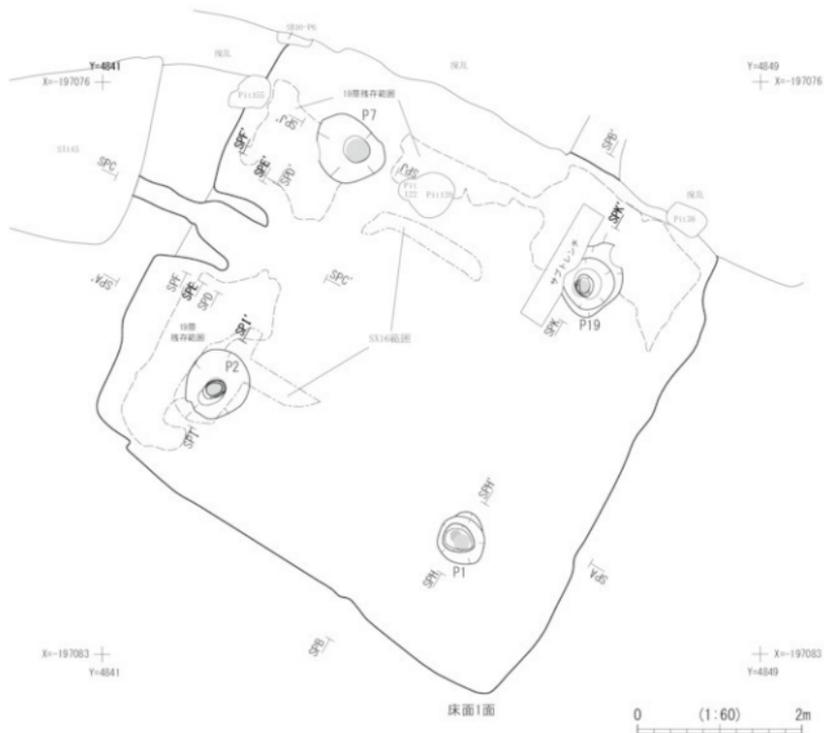
【位置・確認】東区南側に位置する。平面形状や堆積土の状況等からは、本来、複数の竪穴住居跡であった可能性もある。

【重複】SI135・143・145、SB9・10、SX16と重複関係にあり、SI135・145、SB10、SX16より古く、SI143、SB9より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北618cm、東西652cmを測る。平面形状は、方形を呈するが、南壁西側及び東壁北側に10cm程の壁面の凹凸を有しており、わずかに位置がずれる複数の竪穴住居跡の痕跡の可能性はある。

【方向】東壁基準でN-60°-Wである。

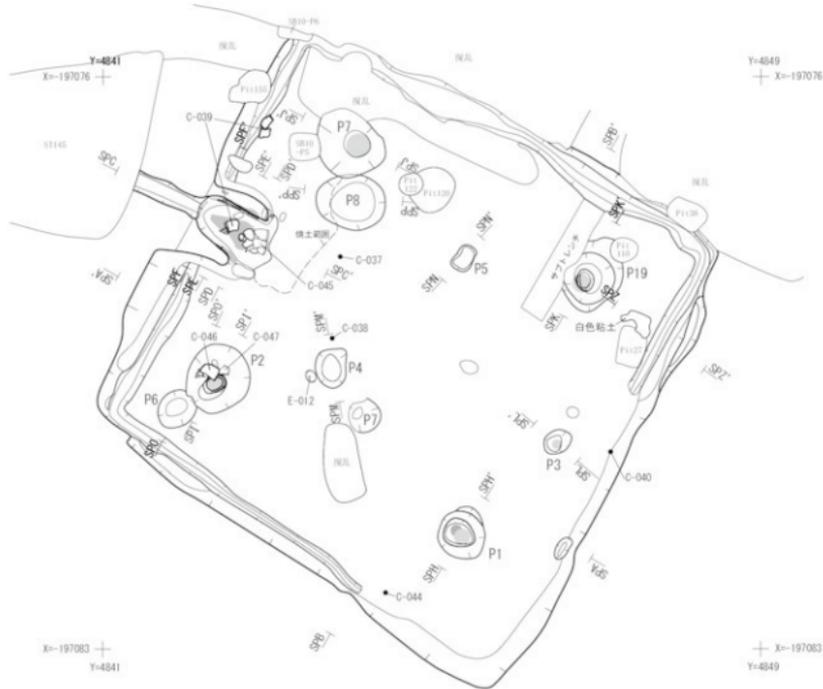
【堆積土】62層に分層された。1～19層は住居堆積土で、このうち19層は床面の残存の可能性はある。堆積土上層はにぶい黄褐色及び褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックを含む。20～34層はカマド堆積土、35～51層はカマド掘り方堆積土、52～55層は2面の床面貼床、56～62層は3面の床面掘り方である。黒褐色シルト・暗褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックを含む。



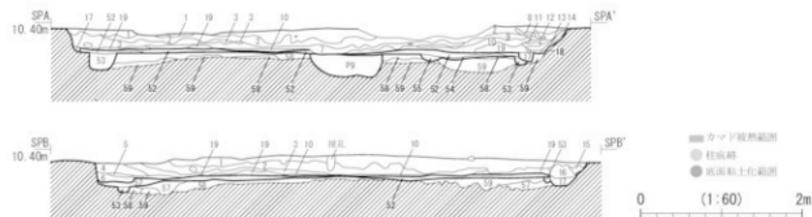
第47図 SI136竪穴住居跡(1)

【壁面】緩やかに外傾して立ち上がる。残存する壁高は、最大33cmを測る。

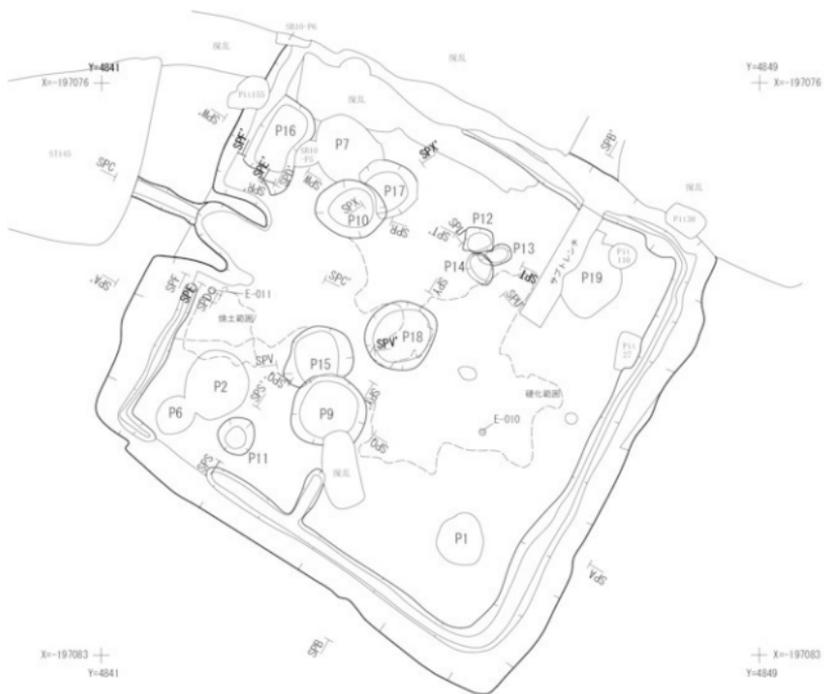
【床面】平面的には2つの床面を調査している。また2枚の床の直上に床面堆積土と類似する19層が部分的に確認されている(第47図)。前述したように同時に掘削した別遺構に削平された可能性がある。この19層を1面床面の残存、平面的に確認された2つの床面を2面床面、3面床面としている。2面床を構築した貼り床の層厚は最大で4cmで、にぶい黄橙色粘土と焼土を含む黒褐色土の互層として観察される。このうちにぶい黄橙色粘土は固く締まり、硬化する。



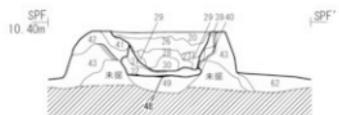
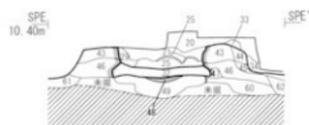
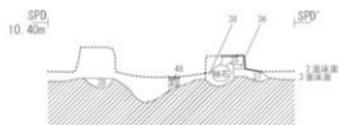
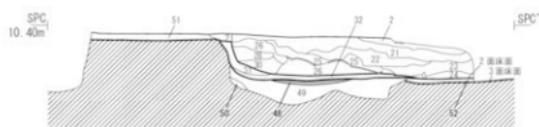
床面2面



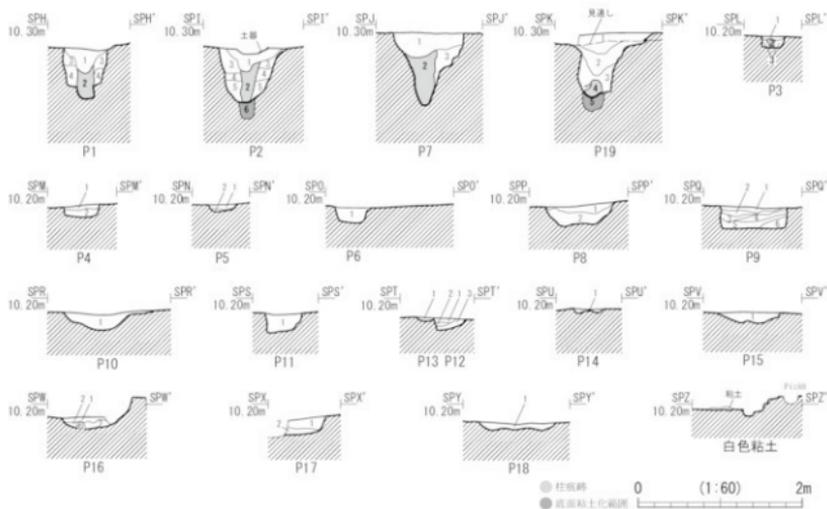
第48図 S1136竪穴住居跡(2)



珠面3面



第49図 S1136竪穴住居跡(3)



第50図 SI136竪穴住居跡(4)

SI136 施設観覧表

施設名	平面形	幅長(cm)	長さ(cm)	構造
P1	本竪穴部	62×98	64	3柱穴・3面焼出
P2	円形	86×76	82	3柱穴・3面焼出
P3	本竪穴円部	24×28	14	出入り口部分・3面焼出
P4	本竪穴円部	48×36	17	3面焼出
P5	本竪穴円部	34×22	9	3面焼出
P6	焼円部	46×44	26	3面焼出
P7	本竪穴部	84×78	39	3柱穴・導線土層で焼出・SPW・SPQ
P8	焼円部	86×68	29	3面焼出
P9	円形	92×70	28	3面焼出
P10	円形	82×70	24	3面焼出

施設名	平面形	幅長(cm)	長さ(cm)	構造
P11	円形	46×46	24	3面焼出
P12	方形	36×22	15	3面焼出
P13	焼円部	280×26	13	3面焼出
P14	焼円部	42×30	7	3面焼出
P15	本竪穴部	88×60	14	3面焼出
P16	焼円部	88×60	15	3面焼出
P17	円形	70×40	24	3面焼出
P18	円形	84×60	15	3面焼出・土層で焼出
P19	本竪穴部	96×72	82	3柱穴・導線土層で焼出・SPW・SPQ

互層の枚数は場所により異なるが、カマド手前では2面床面から3面床面の間に最大7枚の互層が観察された。床の部分的な補修が繰り返し行なわれたとみられる。

【柱穴】19基検出した。このうちP1・2・7・18は形状・位置・規模から4本柱の主柱穴である。複数の床面が存在するが柱の建て替えの痕跡はP1底面に柱痕底部にみられる粘土化範囲が複数認められるのみである。主柱穴のうちP7及びP19は遺構確認面に近い高さで検出されている。またP2直上には遺物を多量に伴うSX16が認められる(第47・201図)。検出面の高さ及びSX16の様相から、本遺構が廃絶し遺構確認面まで埋まった後に柱が抜き取られた可能性がある。P3は東壁際中央のカマドの対方向に位置し柱痕が残ることから出入口施設の可能性がある。

【周溝】2面及び3面でそれぞれ確認された。2面は掘り過ぎた南東部を除き全周する。3面も南壁西端と西壁北側を除いて4周を巡る。3面周溝の南側中央では張り出しが認められる。2時期の周溝はほぼ同位置を巡っている。

【カマド】カマドは2面に伴うカマドが認められた。カマド掘り方は2面貼土の上から掘り込まれ、カマド掘り方にはカマド由来とみられる被熱ブロックが混入することから、床面の貼り直しに伴いカマドを再構築したとみられる。2面のカマド燃焼部及び奥壁は貼り直されており、二時期の使用が認められる。カマドは燃焼部、袖、煙道を検出した。袖下部は基本層IV層と極めて類似した土で構成されるが、上部は被熱したブロックを含む。両袖先端には袖石が据えられている。

【その他の施設】P18は3面の硬化面に上部を覆われている。

【掘り方】掘り方は外周が深く、中央とカマド周辺は浅い。

S1136 土層観覧表(1)

部位	層位	土色	土性	粘性	結核	混入物			備考		
						基本層石層 ゾーンの類	塊土	炭化物			
住居 専断土	1	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	弱	普通			径5mm 塊土	引込層の層内のみ。	
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径5mm 塊土	北側コームブロック多量。	
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通					
	4	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			径7mm 塊土		
	5	10YR4/2	反黄褐色	粘土質シルト	強	普通					
	6	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	強	普通					
	7	10YR4/2	反黄褐色	シルト質粘土	強	普通					
	8	10Y2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	普通					
	9	10Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 多量	径10mm 塊土	径10mm 塊土		
	10	10YR4/2	反黄褐色	シルト質粘土	普通	普通					
	11	10Y5/2	にじい黄褐色	砂質シルト	弱	普通					穿通層土の塊土。
	12	10YR4/2	反黄褐色	砂質シルト	弱	普通					穿通層土の塊土。
	13	10YR6/3	にじい黄褐色	砂質シルト	弱	普通					穿通層土の塊土。
	14	10Y5/2	にじい黄褐色	砂質シルト	弱	普通					穿通層土の塊土。
	15	10Y6/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通					穿通層土の塊土。
	16	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	強	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土		
	17	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	強	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土		岩路の混入。
	18	10Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	弱		径10mm 塊土	径10mm 塊土		
	19	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径5mm 極少量	径10mm 塊土	径10mm 塊土		床面直上の土。粘土土に類似。
	20	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強			径10mm 塊土		
	21	10YR4/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強			径10mm 塊土		
	22	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強					
23	10YR4/2	反黄褐色	粘土質シルト	強	強					住居専断土で、9層に対応。	
24	10Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土			
25	10Y2/2	黒褐色	粘土質シルト	弱	普通	径10mm 多量		径10mm 塊土		塊土。	
26	10Y5/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 塊土				カマシ井部積層土。	
27	2.5YR3/1	緑赤灰色	粘土質シルト	普通	普通					カマシ井部積層土。 植物のフケ。	
28	10Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	普通	径10mm 少量	径10mm 少量	径10mm 塊土			
29	10Y2/2	黒褐色	粘土質シルト	弱	普通	径10mm 極少量				塊土。	
30	10YR4/2	反黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 少量			
31	10R4/3	赤褐色	シルト	弱	強					前期カマシ直前、側面積層。	
32	10Y2/2	黒褐色	シルト	強	弱	径10mm 少量				焼熱粘土層径30mm中量、径少量。	
33	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強			径10mm 塊土		カマシ積層上。	
34	10YR4/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径10mm 少量	径10mm 塊土			カマシ積層上。	
35	10YR6/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通					径10mm(0YR4)にじい黄褐色粘土質シルト中量。	
36	10Y2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 少量			
37	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土		床面直下方。	
38	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土		積石層直下方。	
39	2.5YR3/1	緑赤灰色	粘土質シルト	普通	普通						
40	10Y5/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 塊土					
41	10R4/3	赤褐色	シルト	普通	普通					粘土土焼熱ブロックの直層、径少量。	
42	10Y2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 極少量	径10mm 少量			上部粘土土の互層。	
43	10Y7/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	弱	普通					内層積層。	
44	10YR6/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通					10YR4/3にじい黄褐色粘土質シルト少量、床面実測時の層の付け直し。	
45	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土			
46	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量				内層積層。	
47	10Y7/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	弱	普通					内層積層。	
48	2.5YR4/3	灰赤色	粘土質シルト	弱	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土		上面積層。穴床底。	
49	10YR4/3	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土		粘土ブロックは古カマシの焼熱ブロック由来。	
50	10YR4/2	反黄褐色	粘土質シルト	弱	普通	径10mm 少量		径10mm 塊土			
51	2.5YR3/1	緑赤灰色	粘土質シルト	普通	普通					カマシ層直下。	

S136 土層観察表(2)

深度	層位	土色	土性	粘性	締り	掘入物			備考		
						基本層内容 プロット記	機土	質化物			
上面 結束	52	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量	機土	質化物	細砂状、機土を含む黄褐色土(薄)1層層を有す。	
	53	10YR5/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	強	普通	径10mm 少量				普通。
	54	10YR4/2	赤褐色	シルト	普通	普通	径10mm 少量	機土 少量	機土 少量		機土混雜。
上面 観下方	55	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量	機土 少量	機土 少量	機土混雜。	
	56	10YR3/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通				細砂状。	
	57	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通				細砂状。	
	58	10YR6/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	極強	強				上部一部硬化。	
	59	10YR3/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通					
	60	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量	機土 少量	機土 少量	径20mm ØYR7/2:1:0:1(黄褐色)粘土少量。	
	61	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通				径20mm ØYR6/2:1:0:1(黄褐色)粘土質シルト少量。	
	62	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通				径15mm 少量	
粘土	1	10YR7/1	灰白色	粘土	解強	強				灰白色粘土層。	

S136 施設土層観察表(1)

深度	層位	土色	土性	粘性	締り	掘入物			備考	
						基本層内容 プロット記	機土	質化物		
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	普通	強	径25mm 少量			主柱穴。
	2	10YR2/2	黒褐色	シルト質粘土	強	普通	径25mm 少量			打抜物。
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト質粘土	強	普通	径10mm 少量			掘り方。
	4	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径20mm 少量			掘り方。
P2	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	普通	径25mm 少量			主柱穴、柱頭部。
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	普通	径15mm 少量	径15mm 少量		柱頭部。
	3	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径25mm 少量			掘り方。
	4	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径25mm 少量			掘り方。
	5	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	強	普通	径25mm 少量			掘り方。
	6	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	普通				柱による粘土化混雜。
P3	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量			
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	普通	径15mm 少量			打抜物。
	3	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量			
P4	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強			径15mm 少量	
	2	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径20mm 少量		径15mm 少量	
P5	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通			径15mm 少量	
	2	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	強	普通			径15mm 少量	径20mm粘土少量。
	3	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	強	普通	径15mm 少量		径15mm 少量	
P6	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量	径15~20mm 少量	径15~20mm 少量	径20mm ØYR2/2(黒褐色)シルト質粘土少量。
	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			主柱穴、S136機土土層で掘出。
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			柱頭部。
P7	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	シルト質粘土	普通	強				1~10mm ØYR3/1(黒褐色)粘土質シルト混雜。
	1	7.5YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量		径15mm 少量	白色粘土少量。
	2	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量		径15mm 少量	10YR7/2:1:0:1(黄褐色)粘土径10mm少量。
P9	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	シルト	普通	普通				灰多量。
	3	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	強	普通	径10mm 少量		径15mm 少量	灰中量。
	4	10YR5/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量			10YR7/2:1:0:1(黄褐色)粘土径10mm少量。
	5	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量			10YR7/2:1:0:1(黄褐色)粘土径10mm少量。
P10	1	10YR4/2	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通				10YR6/3:1:0:1(黄褐色)シルト質粘土ブロック多量。 10YR2/2(黒褐色)ブロック少量。
	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通			径10mm 少量	10YR6/3:1:0:1(黄褐色)シルト質粘土ブロック中量。
P12	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR6/3:1:0:1(黄褐色)シルト質粘土混雜。
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量		径15mm 少量	
	3	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量		径15mm 少量	径20mm ØYR7/2:1:0:1(黄褐色)シルト質粘土少量。
P13	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通				10YR6/3:1:0:1(黄褐色)シルト質粘土少量。
P14	1	10YR7/2	2:0:1(黄褐色)	粘土	強	普通	径10mm 少量			
P15	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通				径20mm ØYR3/2(黒褐色)粘土質シルト中量。
	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	普通				径20mm ØYR7/2:1:0:1(黄褐色)粘土多量。
	2	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 少量		径15mm 少量	灰多量。
P17	1	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	シルト	強	普通	径1~20mm 少量	径1~10mm 少量		径10mm ØYR3/2(黒褐色)土中量、径20mm 機土ブロック混雜。
	2	10YR4/3	2:0:1(黄褐色)	粘土質シルト	普通	普通			径1~10mm 少量	径20mm 機土ブロック混雜。

S1136 施設土層観察表(2)

階位	層位	土色	土性	粘性	締り方	遺人物			備考	
						基本層位面 のシリア数	機土	炭化物		
P18	1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			600mmの下面で検出	
	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通			主柱穴、S1136準種土層で検出	
		2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通			1~1.6mm:0YR4/2(炭褐色粘土質シルト)中量。
		3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~25mm 少量		
	4	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	弱			柱痕。	
5	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	普通			柱による粘土粘着面。		

【出土遺物】土師器16点、須恵器4点、金属製品1点の計21点を掲載した(第51～53図)。

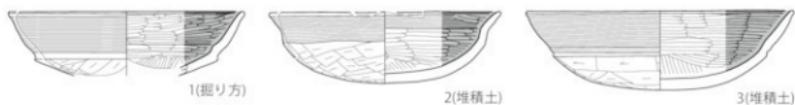
このうち、第51図-3、第52図-4、第53図-1はカマド出土、第52図-9はカマド及び2面床面出土、第53図-4と5は3面床面出土、第53図-2と3は主柱穴P2出土、第52図-5は2面床面に伴うP8出土であり、これらは遺構に伴う遺物である。なお、堆積土出土としたものうちの一部はSX 16を同時に掘削したためSX 16に伴う遺物の可能性がある。土師器環は9点出土し、第51図-2を除くいずれも内面は黒色処理される。平底の環はなく、いわゆる鬼高系や北武蔵系の関東系の器形も認められない。土師器環のうち、第51図-3は口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を有し、第52図-2は口縁部と体部の境は外面にわずかな段をもち口縁部が屈曲して開く。7は土師器鉢で球状を呈し、底部はヘラケズリされ平底である。口縁部は内側に窄まりつつ上方に反る。8は土師器壺で口縁部は直線的に開く。底部はヘラケズリが施される。9は土師器甕で口縁部と胴部の境に段を有し、胴部最大径は胴部中位である。10は土師器甕で口縁部と体部に明瞭な段は無く、胴部は直線的で最大径は胴部下半とみられる。第53図-1は土師器甕で口縁部と胴部の境に明瞭な段は無く、口縁部は屈曲して直線的に開く。底部は外周に薄く粘土貼り付けが施され、中央に木葉痕が残る。2は土師器甕で球形を呈し口縁部と胴部の境に段を有する。3は土師器甕で口縁部と胴部に明瞭な段はなく、口縁部はわずかに外反して開く。4は須恵器の蓋で擬宝珠状つまみを有し口縁部にカエリがみられる。5は須恵器の環で、体部と口縁部の境界に段を有し、口縁部は垂直に立ち上がる。底部はヘラキリ後にヘラケズリが施される。同一床面上で出土した4の蓋と比べやや口縁径が大きい。6は須恵器高環で環部は盤状を呈し環底部は回転ヘラケズリ調整が施される。7の須恵器は器種不明で三角フラスコ状の底部を呈する破片で底部は静止ヘラケズリが施される。8は刀子の刃部である。

【時期】上記の遺物のうち、第51図-3、第52図-2は栗園式土器に後続する土器型式のうち比較的古い様相を示している。本書の時期区分では5～6期の土器であり、本竈穴住居跡の時期を示している。



図面番号	登録番号	調査区	出土地	階位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真階位
								口径	底径	高さ				
1	C-037	東区南側	S1136	準種土層	土師器	環	1.1m~底	10.0	9.0	3.0	1.1m~1.015, 1.1m~底~0.915	0.915	内面黒色処理	50-10
2	C-040	東区南側	S1136	堆積土	土師器	環	1.1m~底	10.4	10.4	3.5	1.1m~1.015, 1.1m~底~0.915	1.1m~1.015, 1.1m~0.915		50-11
3	C-041	東区南側	S1136	カマド焼痕部	土師器	環	1.1m~底	16.0	11.4	5.0	1.1m~1.015, 1.1m~底~0.915	0.915	内面黒色処理	50-12

第51図 S1136竈穴住居跡出土遺物(1)



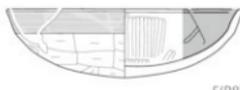
1(掘り方)

2(堆積土)

3(堆積土)



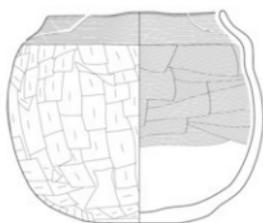
4(カマド燃焼部)



5(P8)



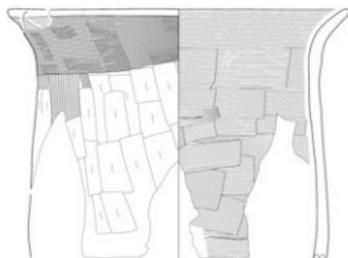
6(堆積土)



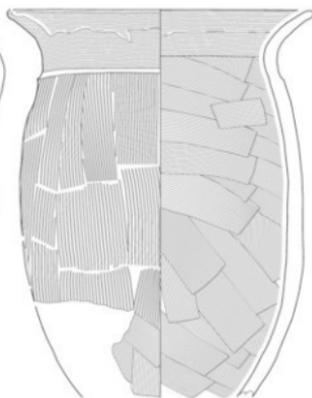
7(堆積土)



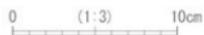
8(堆積土上層)



10(堆積土)

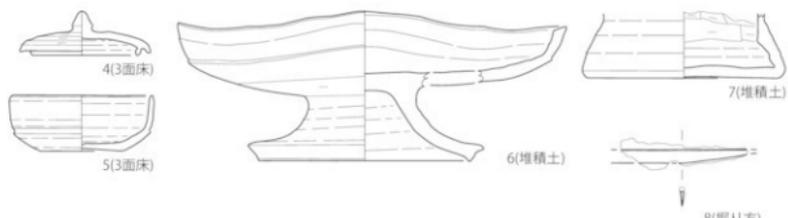


9(床・カマド燃焼部)



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法層(m)			外面調整	内面調整	備考	写真ID
								1層	底層	高さ				
1	C-048	東区南側	SI136	掘り方	土師器	杯	口縁~体	(14.2)	(11.2)	(3.0)	口縁:DPF,体:SPPT	SPZ	内面黒色処理	50-13
2	C-173	東区南側	SI136	堆積土	土師器	杯	口縁~底	(14.1)	(10.3)	4.3	口縁:DPF,体:SPPT	口縁:DPF,体:SPZ	内面黒色処理	50-14
3	C-193	東区南側	SI136	堆積土	土師器	杯	口縁~体	(16.0)	(12.2)	(5.1)	口縁:DPF,体:SPPT	SPZ	内面黒色処理	50-15
4	C-194	東区南側	SI136	カマド燃焼部	土師器	杯	口縁~体	(16.2)	(14.4)	(5.1)	口縁:DPF,体:SPPT	SPZ	内面黒色処理	50-16
5	C-195	東区南側	SI136	P8	土師器	杯	口縁~底	(14.4)	(13.4)	4.1	口縁:DPF,体:SPPT+SPZ	SPZ	内面・口縁・カマド燃焼部・底:SPZ 内面黒色処理	50-17
6	C-211	東区南側	SI136	堆積土	土師器	杯	口縁~体	(16.5)	(15.8)	(4.8)	口縁:DPF,体:SPPT+SPZ	SPZ	内面黒色処理	50-18
7	C-044	東区南側	SI136	堆積土	土師器	鉢	口縁~底	(10.0)	4.9	12.9	口縁:DPF,体:SPPT,底:SPZ	口縁:DPF,体:SPPT		50-19
8	C-038	東区南側	SI136	堆積土上層	土師器	皿	口縁~底	9.8	4.6	14.0	口縁:DPF,体:SPPT+体上平:SPZ,底:SPZ	口縁:DPF,体:SPPT		50-20
9	C-039	東区南側	SI136	床・カマド燃焼部	土師器	甕	口縁~胴	16.4	-	(23.7)	口縁:DPF,胴:SPZ,胴上平:SPZ	口縁:DPF,胴:SPPT		51-1
10	C-042	東区南側	SI136	堆積土	土師器	甕	口縁~胴	20.7	-	(15.3)	口縁:DPF+DPZ,胴:SPZ+SPPT	口縁:DPF,胴:SPPT		51-2

第52図 SI136竈穴住居跡出土遺物(2)



0 (1:3) 10cm

ID(発 番)	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真 採取	
								上径	底径	器高					
1	C-045	東区南側	SI136	カマド燃焼部	土師器	甕	1.胴~底	22.2	7.0	30.0	1.胴: 叩 ₁ →叩 ₂ *, 製 ₁ →製 ₂ →叩 ₁ →叩 ₂ *	1.胴: 叩 ₁ *, 製 ₁ →叩 ₁ *		51-3	
2	C-046	東区南側	SI136	P2	土師器	甕	1.胴~胴	24.4	-	(20.3)	1.胴: 叩 ₁ *, 製 ₁ →叩 ₁ *	1.胴: 叩 ₁ *, 製 ₁ →叩 ₁ *		51-5	
3	C-047	東区南側	SI136	P2	土師器	甕	1.胴~胴	(24.0)	-	(12.7)	1.胴: 叩 ₁ *, 製 ₁ →叩 ₁ →叩 ₂ *	1.胴: 叩 ₁ *, 製 ₁ →叩 ₁ *		51-4	
4	E-011	東区南側	SI136	3面床	須恵器	皿	完成	8.0	6.5	2.7	叩 ₁ 調整→叩 ₁ →叩 ₂ *	叩 ₁ 調整		51-6	
5	E-012	東区南側	SI136	3面床	須恵器	鉢	1.胴~底	8.6	5.0	3.4	叩 ₁ 調整, 底: 叩 ₁ →叩 ₂ *	叩 ₁ 調整		51-7	
6	E-012	東区南側	SI136	埴輪上	須恵器	高坏	1.胴~胴	23.7	14.2	9.1	叩 ₁ 調整→坏底: 叩 ₁ →叩 ₂ *	叩 ₁ 調整		51-8	
7	E-009	東区南側	SI136	埴輪上	須恵器	不明	体~底	-	(11.5)	(3.5)	体: 叩 ₁ 調整, 底: 叩 ₁ →叩 ₂ *	叩 ₁ 調整→叩 ₂ *		51-9	
ID(発 番)	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真 採取	
								全長	軸 厚	器 厚					
8	N-006	東区南側	SI136	掘り方	金属製品	刀子		(7.6)	1.7	0.7	10.3				51-10

第53図 SI136竪穴住居跡出土遺物(3)

SI137 竪穴住居跡(第54・55図)

【位置・確認】東区南側に位置する。南側隅を掘乱により削平されている。

【重複】SI138・139、SB6・7と重複関係にあり、SB6・7より古く、SI138・139より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、カマドを有する主軸方位の南北方向で286cm、東西方向で318cmを測る。平面形状は、やや東西に長い方形と推定される。

【方向】東壁基準でN-42°-Wである。

【堆積土】13層に分層された。1～6層は住居堆積土で、住居中央の1層は褐灰色粘土質シルトを主体とし、灰を中量混入する。堆積土は粘土質シルトを主体とするが、SI138を掘り込んでいる6層のみ粘性が弱く、砂質シルトを主体とする。7～9層はカマド堆積土で、黒褐色から暗赤褐色を呈し、土粒が粗く、焼土を混入する。9層は住居壁外に位置し、カマド煙道部とみられるが、調査手順の違いにより煙道の形状は不明である。10～13層は住居掘り方堆積土でいずれも基本層IV層ブロックを中～多量混入し、貼り床をなしている。

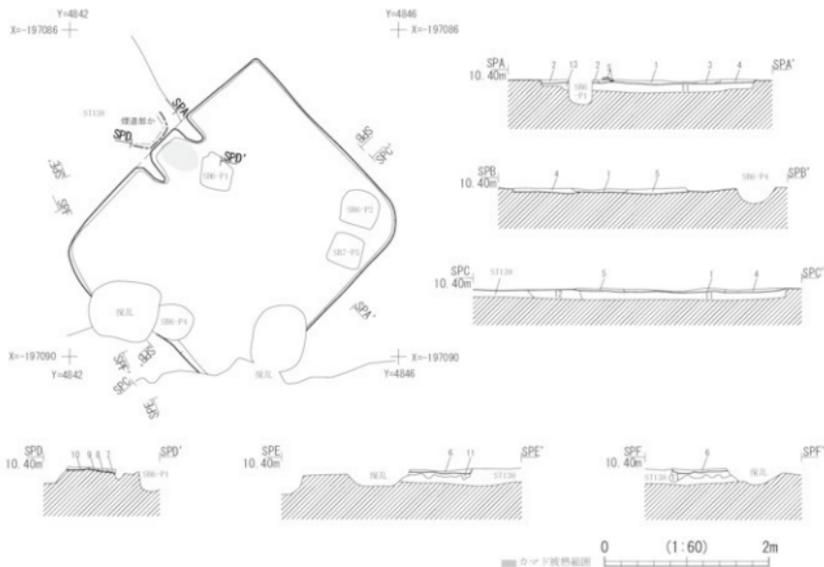
【壁面】遺存状況の比較的良好な住居壁では急角度に立ち上がる。残存する壁高は住居南壁で10cmを測る。

【床面】床面は平坦で、西側がわずかに高い。10～12層上面を床面としている。

【施設】北西壁ほぼ中央にカマドが認められる。主柱穴や周溝は確認されていない。

【カマド】カマドは北西壁ほぼ中央に位置する。カマド北西側袖及び燃焼部が認められる他、住居壁外に煙道とみられる焼土を混入する堆積土が認められるが、煙道の範囲や形状は不明である。

【掘り方】掘り方は、全体に掘り下げられており、底面に工具痕による顕著な起伏が認められる。



第54図 SI137竪穴住居跡

S137 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	土人相		備考	
						基本層IV層 ブロック状	残土		
住居 堆積土	1	10YR4/7	緑灰色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 炭粒	径2~10mm 炭粒	灰中混
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 炭粒	径2~10mm 炭粒	
	3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 炭粒	径1~5mm 炭粒	
	4	10YR4/3	濃い黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 少量	径1~5mm 炭粒	
	5	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 少量	径1~5mm 炭粒	
	6	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 多量	径1~5mm 炭粒	
カマド	7	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	無	普通	径1~10mm 多量	径1~5mm 炭粒	
	8	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	無	普通	径1~20mm 少量	径5~10mm 少量	
	9	2.5YR3/3	暗赤褐色	粘土質シルト	無	普通	径5~10mm 少量		溝道部は、
掘り方	10	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~30mm 多量		
	11	10YR3/4	濃い黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 多量	径1~5mm 炭粒	
	12	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~40mm 中量	径1~5mm 炭粒	
	13	10YR4/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強			カマド掘り方、基本層IV層に準じて採照。



1(掘り方)

0 (1:3) 10cm

採照 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法長 (cm)	重量 (g)	石材	備考	写真 採照
1	Kd-004	東(西)側	S137	掘り方	石製品	内径型 3.3 3.2 0.6 6.0	6.0	石炭(山行黄層灰)	定形。	S1-11

第55図 S137竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】土師器破片及び礫が出土しているが、床面に確実に伴う遺物はない。掘り方から出土した円盤形石製品(第55図-1)1点を掲載した。両面及び側面は磨りが施され、平滑に仕上げられている。

【時期】上記の遺物のうち、確実に本遺構に伴うと考えられる遺物はない。他遺構との新旧関係により、本書の時期区分では、本竪穴住居跡の時期は6期以降であると考えられる。

S138 竪穴住居跡(第56~61図)

【位置・確認】東区南側に位置する。南端は攪乱に削平される。

【重複】S1137・139、Pit 154と重複関係にあり、S1137、Pit 154より古く、S1139より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北420cm、東西266cm以上を測る。平面形状は、カマドに面して奥行き長い長方形である。

【方向】カマド基準でN-27°-Wである。

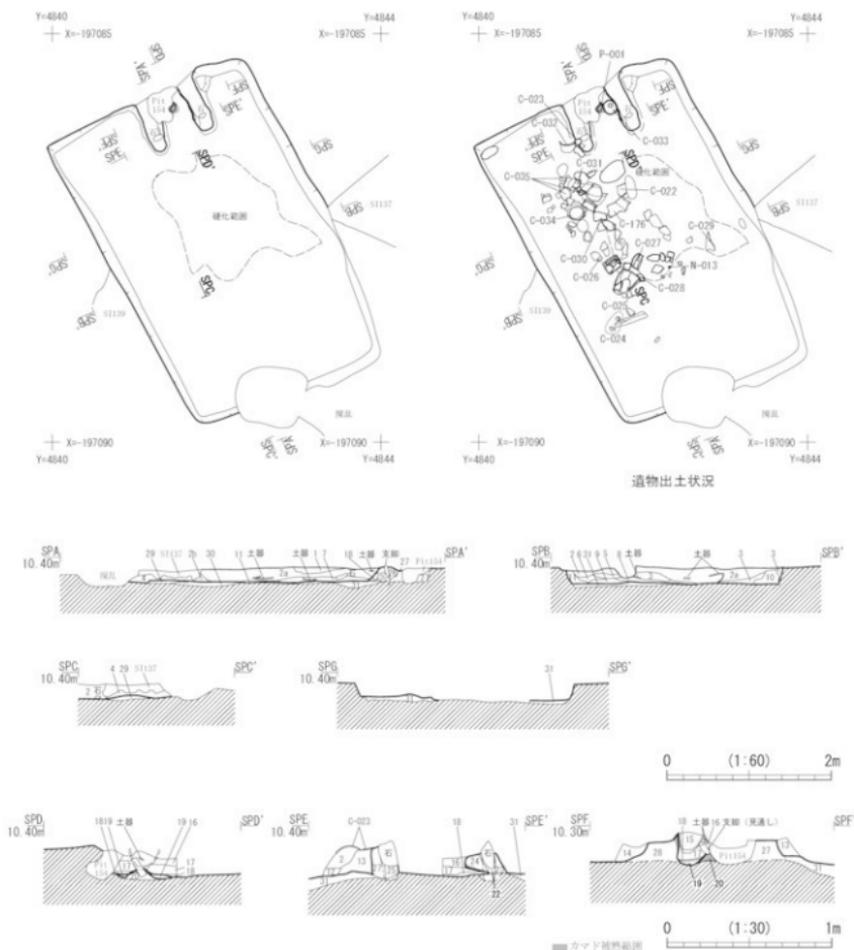
【堆積土】31層に分層された。1~14層は住居堆積土で、暗褐色から褐色の粘土質シルトを主体とし基本層IV層ブロック粒と炭化物を混入する。3層のみ明るい黄褐色を呈し、基本層IV層ブロックも粒径が大きい。遺物の殆どは2層から出土する。2層は床面から遺構確認まで堆積しており、住居北側では2層下面に沿うように遺物が床面から浮いている状況から、遺構廃絶後、あまり間を置かずに住居外から遺物が廃棄されたものとみられる。15~19層はカマド燃焼部堆積土で、炭化物、焼土の他に灰を含み、16層では天井部崩落土とみられる被熱した基本層IV層ブロックが混入する。20~28層はカマド袖構築土で、一部基本層IV層に類似する土が用いられている。29層~31層は掘り方堆積土で、基本層IV層ブロックを混入するしまりの強い粘土質シルト層である。

【壁面】急角度に立ち上がり、北壁ではほぼ垂直を呈する。残存する壁高は住居西壁で19cmを測る。

【床面】1面確認された。ほぼ平坦である。29～31層上面を床面としている。

【柱穴】本遺構に伴うピットは認められない。

【カマド】北壁中央よりやや東寄りに位置する。カマドは両袖及び燃烧部を確認した。燃烧部奥壁はカマド住居壁と一致する。燃烧部奥壁底面から奥壁にかけてPit 154により削平される。カマド袖先端には袖石が埋め込まれている。支脚



第56図 S1138竪穴住居跡

は土製で、カマド燃焼部の東側に著しく寄っている。その東側の袖隙に長胴の甕が正位で出土した。また、カマド堆積土のうち西側袖石付近の上層で焼土を含む円形ビット状のプランが確認されている。カマド袖は基本層IV層と類似する土で構築される。

【その他の施設】周溝やその他の施設は認められない。

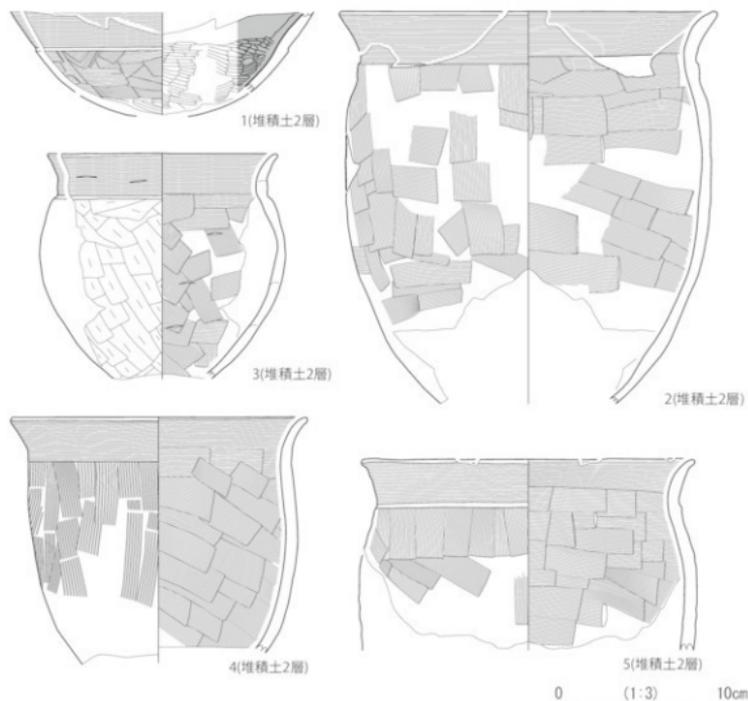
【掘り方】全体に掘り下げているが、浅い。南側では工具痕が観察できる部分もあったが、SI 139の床面が一部見えたため、掘り下げを中断している。北壁際は掘り方がやや深いが、明瞭な段差はつかない。

【出土遺物】遺物は、カマドから正位出土した甕(第59図-3)とカマド支脚(第61図-1)の2点、掘り方出土の石製品(第61図-3)1点の計3点を除いていずれも堆積土2層の住居中央から北側にかけて出土している。この2層出土遺物からは、坏1点(第57図-1)、甕10点(第57図-2～5、第58図-1、第59図-1～5)、甕2点(第60図-1・2)、金属製品1点(3)の13点の計16点を掲載した(第57～60図)。2層出土遺物は土器器裏が多く、坏は破片まで含めても少量である。

SI38 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	遺人類		備考	
						基本製品層 (フロンテラ)	焼土		
住居 堆積土	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 多数	径1～5mm 散見	
	2	10YK3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少数	径1～10mm 散見	遺物を多く含む層。
	3	10YK3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～10mm 散見	別遺物層土の可能性あり。
	4	10YK3/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～10mm 散見	
	4	10YK3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 散見	径1～5mm 散見	別遺物層土の可能性あり。
	5	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～5mm 少量	層下部に穴ナ穴状の炭化粒子が散見。
	6	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～5mm 少量	層下部に穴ナ穴状の炭化粒子が散見。
	7	10YK3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		
	8	10YK3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～5mm 少量	
	9	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～5mm 少量	
	10	10YK3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～5mm 少量	
	11	10YK3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 散見後	
	12	10YK3/6	明黄褐色	シルト	普通	強			10YK3/3暗褐色土、径1mmを中量含む。
13	10YK3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1～5mm 散見	径1～5mm 散見	10YK3/2黒褐色土、径1～5mmを少量含む。	
14	10YK3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径2～5mm 散見	径1～5mm 散見	
15	10YR4/2	にじみ黄褐色	シルト	弱	強	径1～5mm 散見	径1～5mm 散見		
16	10YR4/2	にじみ黄褐色	シルト	弱	強	径1～5mm 少量	径1～10mm 中量	天井積層土と見られる焼土ブロック、径5～50mmを少量含む。	
17	10YR4/2	明黄褐色	粘土質シルト	強	普通	径1～10mm 中量	径1～5mm 散見	灰を少量含む。	
18	10YK1/1	黒色	炭化物	強	普通	径1～5mm 散見	径1～5mm 少量	灰を少量含む。カマド開口に広がる。	
19	10YK1/1	暗灰色	シルト	強	普通	径1～20mm 多数	径1～20mm 中量	灰を中量含む。	
20	10YK2/2	黒褐色	シルト	普通	普通	径1～5mm 散見		上部10～30mmが焼熱により暗赤褐色化。	
21	10YK3/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 散見	焼土上、径1～10mmを中量含む。	
22	10YK3/2	暗褐色	シルト	普通	普通	径1～5mm 散見	径1～10mm 少量		
23	10YR4/6	褐色	シルト	普通	強		径1～5mm 散見	10YK3/3暗褐色土、径1mmを中量含む。	
24	10YR4/2	にじみ黄褐色	シルト	弱	強	径1～5mm 散見		下部が焼熱により暗赤褐色化。	
25	2.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 中量	径1～5mm 散見		
26	10YK3/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 中量	径1～5mm 散見	焼土上、径5～30mmを中量含む。	
27	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	普通	径1～5mm 散見			
29	10YK3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 中量	径1～5mm 少量		
30	10YK3/6	黄褐色	粘土質シルト	強	強		径1～5mm 少量	10YK3/2黒褐色土、径1～10mmを少量含む。	
31	10YR4/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1～10mm 多数			

第57図-1は土師器環で、丸底から口縁部が直線的に外傾して開く器形を呈し、口縁部と体部の境界外面に段、内面に緩やかな稜を有する。調整は、体部外面はヘラナデ後下端にヘラミガキ、口縁部にヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。1の胎土は明るく均質で、他の出土遺物とは明確に異なる。2は球形の土師器甕で、胴部最大径は胴上部に位置する。口縁部と胴部境界に段を有し、口縁部は外反して開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。3は長胴の土師器甕で、胴部最大径は胴上部に位置する。口縁部と胴部の境界に段を有し、口縁部は外反し開く。調整は内外面共に胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。4は土師器甕で、胴部最大径は口縁部との境界に位置し、口縁部は段を持たずに外反して開く。調整は、胴部外面はハケメ、内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。5は土師器甕の上部で、内湾する胴部から段を持つ



図号 (表)	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	度量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
								口径	底径	器高				
1	C-023	東区南側	SI138	埋藏土2層	土師器	環	体	(18.4)	(11.4)	(5.4)	口縁: 22FF、 体: 22FF → 23FF ±	内面黒色処理	52-1	
2	C-022	東区南側	SI138	埋藏土2層	土師器	甕	胴部	(23.0)	-	(24.0)	口縁: 22FF、胴部: 22FF	口縁: 22FF、胴部: 22FF	52-4	
3	C-024	東区南側	SI138	埋藏土2層	土師器	甕	胴部	(13.8)	-	(13.8)	口縁: 22FF、胴部: 22FF ±	口縁: 22FF、胴部: 22FF	52-5	
4	C-026	東区南側	SI138	埋藏土2層	土師器	甕	胴部	18.1	-	(15.1)	口縁: 22FF、胴部: 22FF	口縁: 22FF、胴部: 22FF	52-3	
5	C-027	東区南側	SI138	埋藏土2層	土師器	甕	胴部	(20.0)	-	(11.6)	口縁: 22FF → 胴部: 22FF、 胴部: 22FF	口縁: 22FF、胴部: 22FF	52-2	

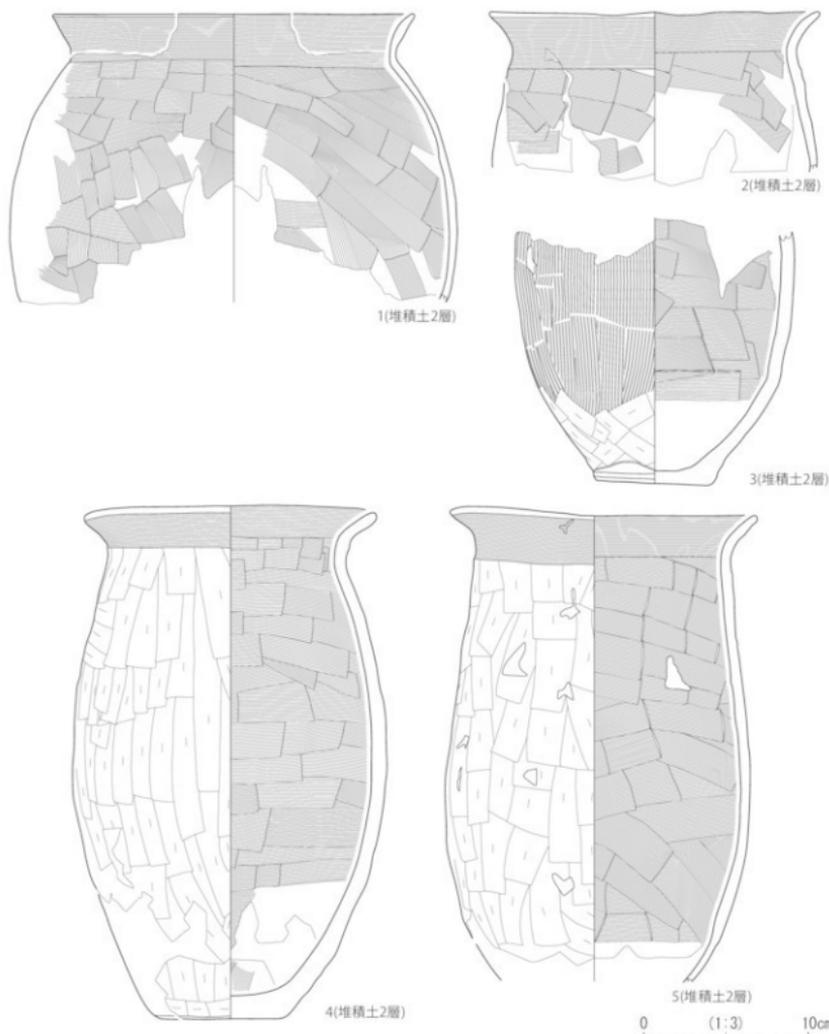
第57図 SI138竪穴住居跡出土遺物(1)

つ口縁部との境界で外反し開く。調整は、胴部は内外面共にヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第58図-1は大型の土師器甕で、胴部中位より下方に位置する最大径部位で屈曲、胴上部は口縁部までほぼ直線的に内傾する菱形を呈する。口縁部と胴部境界に段はなく、口縁部は湾曲して立ち上がりやや外方に開き、口唇部は顎状の強い外反がみられる。調整は、胴部下半に幅の狭いハケメ後全体にヘラナデ、胴部下端にヘラケズリ、胴部内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第59図-1は球形の甕で、器壁は薄く、内湾する胴部から口縁部と胴部の境界で屈曲し、やや外反する口縁部が外傾して開く。調整は、内外面ともに胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。2は土師器



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-029	東区南側	S138	埋蔵土2層	土師器	甕	口縁~底	21.8	8.0	43.3	口縁: 217°~胎押之式。 胴下部: 218°~胎(217°)。 胴下部: 219.5°	口縁: 217°、胎: 217°		52.6

第58図 S138竈穴住居跡出土遺物(2)

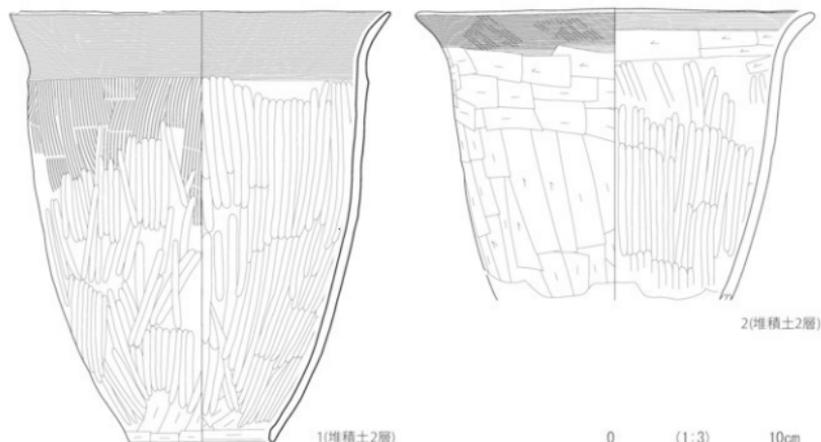


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (mm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版	
								口径	底径					
1	C-030	東区南側	SI138	堆積土2層	土師器	甕	1線~胴 (21.8)	-	117.0	1線: 229°, 胴: 299°	1線: 229°, 胴: 299°		53-1	
2	C-032	東区南側	SI138	堆積土2層	土師器	甕	1線~胴 (20.0)	-	110.0	1線: 229°, 胴: 299°	1線: 229°, 胴: 299°	内外面厚不均	53-2	
3	C-033	東区南側	SI138	堆積土2層	土師器	甕	胴~底	(7.4)	116.2	胴: 229°~胴下平: 299°	胴: 299°		53-4	
4	C-035	東区南側	SI138	堆積土2層	土師器	甕	1線~底	17.8	7.2	31.4	1線: 229°, 胴~底: 299°	1線: 229°, 胴: 299°		53-3
5	C-176	東区南側	SI138	堆積土2層	土師器	甕	1線~胴	18.7	-	128.5	1線: 229°, 胴: 299°	1線: 229°, 胴: 299°		53-6

第59図 SI138竪穴住居跡出土遺物(3)

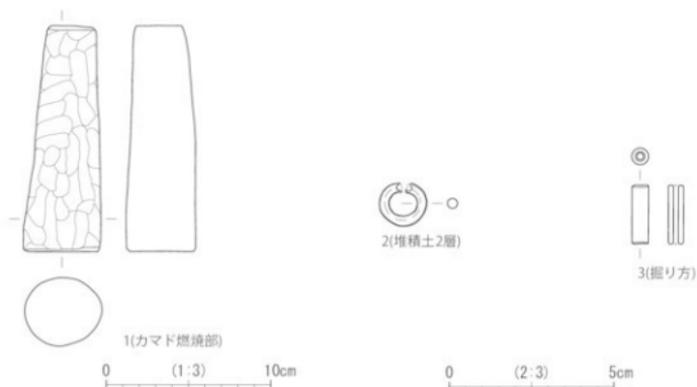
裏で、内傾する胴部と口縁部の境界に浅い段を有し、口縁部は途中で屈曲し外反して開く。調整は、内外面ともに胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第59図-3は土師器長胴甕の胴部下半部で、調整は、外面はハケメ後下部にヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。4は土師器長胴甕で、胴部中位に最大径を持ち、口縁部は屈曲して直線的に外方へ開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。5は土師器の長胴甕で、胴部下位に最大径を有し、胴上部は直線的に内傾する。口縁部は屈曲して直線的に外方に開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、胴部内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第60図-1は土師器甕で、単孔式で胴部最大径は口縁部との境界に位置する。口縁部と胴部境界に稜を有し、口縁部はわずかに外反して開く。調整は、胴部外面は上部にハケメ、下部にヘラケズリ後ヘラミガキが施され、下部内外面共にヘラケズリ、胴部内面はヘラミガキ、口縁部はヨコナデが施される。2は単孔式とみられる土師器甕で、胴部最大径は口縁部との境界に位置し、段や稜を持たずに口縁部は外反して開く。調整は、外面は、外面は胴部ヘラケズリ、胴部内面はヘラミガキが施される。口縁部は外面ではハケメ後ヨコナデ、内面はヘラケズリ後ヨコナデが施される。第61図-1はカマド燃焼部に元位置を保って出土した土製支脚である。上方がやや径の小さくなる円柱状で、ナデ調整が施される。2は銅箔銀箔貼りの耳環で金鍍金は不明である。3は掘り方出土の管玉で、石材は蛇紋岩である。管玉はSI 139に伴う可能性もある。

【時期】上記の遺物のうち、2層から出土した土器は本遺構廃絶後、それ程間を置かない時期に廃棄された一括資料と考えられる。2層の土器は郡山II期官衙の時期の特徴を有しており、本書の時期区分6期の土器とみられ、本竪穴住居跡の時期はそれ以前であることを示している。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真番号
								口径	底径	器高				
1	C-025	郡山南側	SI 28	堆積土2層	土師器	甕	1口縁~孔	23.0	8.8	26.4	口縁部:227°、体上部:107°+体下部:197°→一体:202°、孔開口:209°	口縁部:199°、体下部:199°→一体:202°、孔開口:209°		54-1
2	C-034	郡山南側	SI 28	堆積土2層	土師器	甕	1口縁~体	23.8	-	(17.7)	口縁部:184°+217°、体:192°	口縁部:217°→192°、体:202°→192°		54-2

第60図 SI 138竪穴住居跡出土遺物(4)



図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	特徴・備考	写真枚数		
							全長	幅	厚					
1	P-001	東区南側	SI138	カマド燃焼部	土製品	支脚	13.8	4.6	4.2	309.5	片	53.5		
2	N-013	東区南側	SI138	埋積土層	金属製品	耳環	1.5	0.7	0.8	11.0	銅(純銅製), 全鍍金は不明		53.6	
図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真枚数	
							全長	幅	厚					
3	Rd-005	東区南側	SI138	掘り方	石製品	碧玉	1.8	0.5	0.5	0.8				53.7

第61図 SI138竪穴住居跡出土遺物(5)

SI139 竪穴住居跡(第62～65図)

【位置・確認】東区南側に位置する。南東側は擾乱に削平され、北半上部は他遺構に削平される。

【重複】SI137・138、SB6・7と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

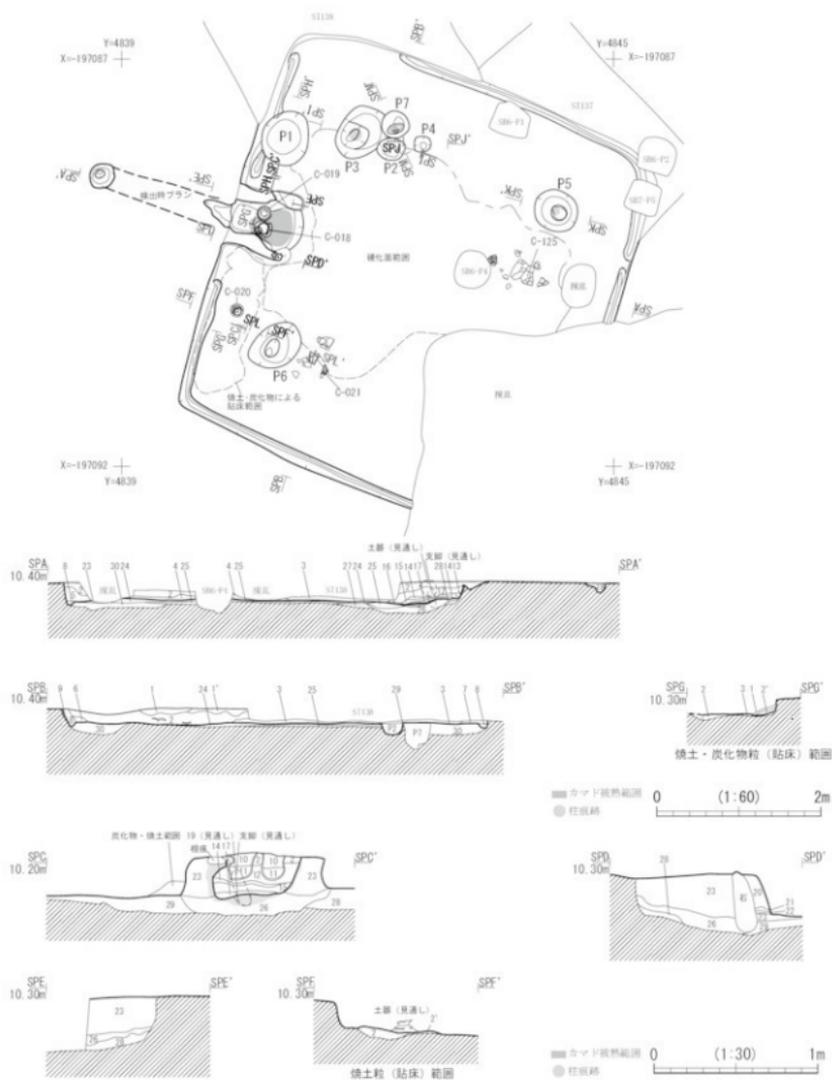
【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北486cm、東西521cmを測る。平面形状は方形であるが、縦横で垂直から3°歪み、やや菱形を呈する。

【方向】カマドを有する西壁基準でN-20°-Wである。

【堆積土】大別30層、細別31層に分層された。1～7層は住居堆積土で、1層は黒褐色、3層以下は概ね暗褐色の粘土質シルトを主体とする。1層は基本層IV層ブロックを多量に含む部分(1層)とあまり含まない部分(1層)に区分され、うち1層は住居南西隅に集中し、検出面においてL字状のプランとして認められる。検出段階で削平された上面の竪穴住居跡掘り方の可能性もある。4～7層は壁面付近の自然堆積層であるのに対し、1～3層は基本層IV層ブロックを混入する人為的な埋め戻し層である。8層は周溝堆積土で、住居南西側では検出面までほぼ垂直に立ち上がる。9層は周溝外側にみられる基本層IV層ブロックを混入する堆積土で、壁面の崩壊ないし周溝壁材の裏込めと推測される。10～22層はカマド堆積土で、焼土と炭化物を混入し、うち14層は被熱した基本層IV層ブロックを含むことから、カマド天井部崩落土とみられる。16層は炭化物層、17層は灰を主体とする層である。18層は煙道部先端堆積土である。19～23層はカマド掘り方で、うち23層は基本層IV層に極めて近い土で構築されている。24層～25層は床面構築土で、黄褐色砂質シルトを主体とし、締まりが強く、24層は硬化面を形成する。26層はカマド周辺を掘り込んだ層で、27～30層の住居掘り方堆積土を掘り込んでいる。

【壁面】急角度で立ち上がる。残存する壁高は最も堆積土が厚く堆積する箇所まで21cmを測る。

【床面】1面確認された。ほぼ平坦である。25層上面を床面としている。カマド手前から中央付近が硬化する。住居南西隅では床面がわずかに窪んでおり、焼土・炭化物が充填されている。この焼土の直上に土師器高環が逆位で出土し



第62図 SI139竪穴住居跡(1)

SI139 土層観察表

階位	掘り出し	土色	土性	粘性	結核	基本調査層 (ピット土)	埋入物		備考
							焼土	炭化物	
住居 築構土	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	極微	径1~20mm 多量		階位に等量の混合土。人為的埋戻し。
	1'	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	極微	径1~10mm 少量		人為的埋戻し土。
	2	10YR4/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~20mm 少量		10YR2/2黒褐色土、径1~10mmを微量含む。人為的埋戻し。
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~5mm 少量		人為的埋戻し土。
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~5mm 微量	径1~10mm 微量	自然堆積土。
	5	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~5mm 微量		10YR3/3黒褐色土、径10~20mmを微量含む。
	6	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 微量		
	7	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~10mm 少量		10YR3/3黒褐色土、径10~20mmを少量含む。
	8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~10mm 少量		炭燻層積土。南壁では確認面まで上り、
	9	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 多量		華道積土。
カマド	10	10YR4/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	弱	微	径1~3mm 微量	径1~10mm 微量	
	11	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~3mm 微量	径1~2mm 微量	径1~2mm 微量
	12	10YR4/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~10mm 少量	径1~10mm 微量	径1~2mm 微量
	13	10YR4/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	普通	微	径1~2mm 微量		径1~2mm 微量
	14	10YR2/2	暗赤褐色	粘土質シルト	微	普通	径1~20mm 微量多量	径1~3mm 微量	径1~3mm 微量
	15	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	弱	普通	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量
	16	10YR2/1	黒色	炭化物	強	弱	径1~3mm 微量		径1~3mm 微量
	17	10YR6/2	灰黄褐色	泥	強	弱	径1~5mm 少量	径1~2mm 微量	径1~2mm 微量
	18	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	微	径1~10mm 少量		径1~2mm 微量
	19	10YR2/2	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	弱	径1~10mm 少量		径1~2mm 微量
掘り方	20	10YR7/4	にがい黄褐色	シルト	普通	極微		径1~10mm 少量	径1~2mm 微量
	21	10YR2/4	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	普通			径1~2mm 微量
	22	10YR2/2	黒褐色	炭化物	強	普通	径1~5mm 微量		径1~2mm 微量
	23	10YR7/4	にがい黄褐色	シルト	強	極微			径1~2mm 微量
	24	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	弱	極微			径1~10mm 少量
	25	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	弱	微			径1~5mm 微量
	26	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	普通	径1~10mm 少量		径1~2mm 微量
	27	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	普通	径1~5mm 微量		径1~2mm 微量
	28	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	微			径1~10mm 少量
	29	10YR6/4	にがい黄褐色	砂質シルト	弱	強			径1~2mm 微量
30	10YR2/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~40mm 少量		径1~2mm 微量	

ており、焼土上面が床面として機能していたと考えられる。

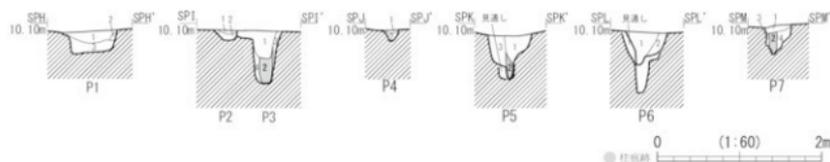
【柱穴】ピットは7基検出した。規模と位置関係からP3・5・6は4本柱の主柱穴に相当すると考えられる。P3・5からは柱遺跡が認められる。

【周溝】検出した範囲においては、周溝はカマド付近と北壁西端、東壁の一部を除き巡る。周溝堆積土は検出面まで立ち上がっていることを確認しており、壁板等の構築材が遺存したまま埋戻された可能性がある。

【カマド】住居西壁中央に位置する。両袖、燃焼部、煙道部を確認した。煙道部は検出時にプランを確認し、先端のピット状の窪みのみ調査している。カマド北袖はSI 138に先端を削平される。カマド燃焼部壁は住居壁と一致し、煙道部の長さは180cmを測る。燃焼部火床面及び側面は強く被熱する。カマド内部に裏が2点横方向に並んで正位で出土している。支脚は石製で、火床面の被熱範囲に対し南西に偏り、南側袖に近い位置にある。カマド支脚より奥には殆ど被熱がみられず、煙道の上がり際のみわずかに被熱する。カマド袖は基本層IV層に極めて近い土で構築される。

【その他の施設】P1・2・4は住居北西部に位置する。P1は周溝を切る。いずれも焼土は混入しない。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。



第63図 SI139竪穴住居跡(2)

SI139 施設観覧表

遺構名	平面形	幅幅(cm)	深さ(cm)	備考
P1	本體埋門形	47×37	29	
P2	本體埋門形	30×30	14	
P3	本體埋門形	48×42	47	本柱穴
P4	竪穴形	39×19	14	

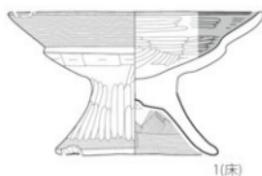
遺構名	平面形	幅幅(cm)	深さ(cm)	備考
P5	円形	34×30	30	本柱穴
P6	本體埋門形	48×49	75	本柱穴
P7	円形	30×30	30	本柱穴、BS2に準ず

SI139 施設土層観覧表

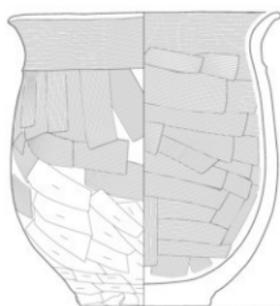
部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	図人物		備考
						基本層IV層 下の介層	機土	
P1	1	10YR4/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量	10YR2/1黒色土、径1~20mm中量含む。
	2	10YR3/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	普通		10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む、酸化鉄、径1~2mm微量含む。
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~40mm 少量	10YR7/1灰白色土、径1~10mm微量含む。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 微量	
	2	10YR3/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 中量	10YR4/2灰黄褐色土、径1~2mm中量含む、酸化鉄、径1~2mm微量含む。
P3	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量	径1~10mm 微量
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	普通		柱状跡、10YR3/4暗褐色土、径1~10mm少量含む。
	3	10YR3/6	黄褐色	粘土質シルト	強	普通		10YR4/4褐色土、径1~2mm中量含む。
	4	10YR4/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通		10YR9/1灰白色土、径1~10mm微量含む。
P4	1	10YR4/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 微量	径1~2mm 微量
	2	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 微量	径1~10mm 微量
P5	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	普通		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通		柱状跡、10YR3/2黒褐色土、径1~2mm少量含む。
	3	10YR3/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通		10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む。
P6	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通		10YR4/3にぶい黄褐色土、径1~30mm中量含む。
	2	10YR4/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 微量	径1~10mm 微量
P7	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	普通	径1~20mm 少量	径1~10mm 微量
	2	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	普通	径1~2mm 少量	径1~5mm 微量
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 中量	径1~5mm 微量
	4	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 中量	径1~5mm 中量
機土 取掘 範囲	1	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 中量	径1~5mm 中量
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	径1~2mm 微量
	3	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	普通	径1~10mm 微量	灰土少量含む、1層に1以上の機土の塊が多く、ブロック・粒状・細粒状を含む、3層の上のブロックに混入。
	3	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	普通		10YR3/2黒褐色土、径1~10mm微量含む。

【出土遺物】土師器5点、石製品1点を掲載した(第64・65図)。床面に確実に伴う遺物は住居南西隅の焼土の上に乘る土師器高坏(第64図-1)と甕(第64図-4、第65図-1)の3点である。また、カマド焼燃部から正位で甕が2点(第64図-2・3)出土した。

第64図-1は土師器高坏で、坏部は丸底で体部と口縁部の境界内外面に段を有し、口縁部は直線的に開く。脚部は無柱で裾に向かってわずかに外反し開く。調整は、坏体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、坏内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。脚部は外面端部にヨコナデ後ヘラミガキ、内面はヘラナデ後裾部にヨコナデが施される。2は土師器甕で、器高が口径に対し低く、胴部最大径は胴部やや下方にある。口縁部と胴部の境界に段を有し、口縁部は強く外反し開く。調整は、外面は胴上部にヘラナデ後下半にヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部



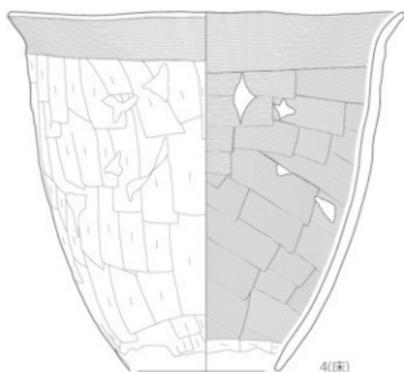
1(床)



2(カマド燃焼部)



3(カマド燃焼部)



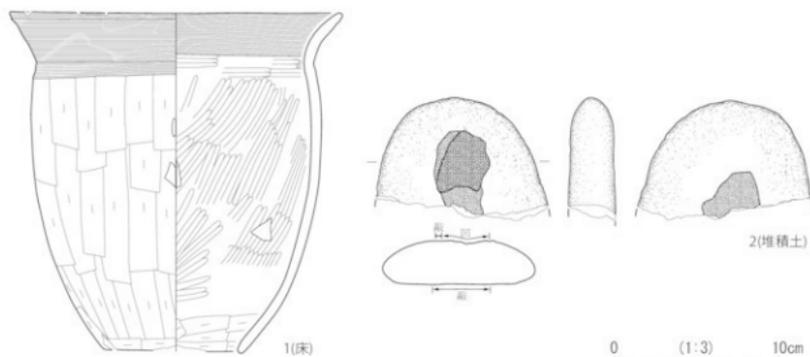
4(床)

0 (1:3) 10cm

図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法測寸			外面調整	内面調整	備考	写真
								口径	底径	高さ				
1	C-020	東区南側	SI139	床	土師器	高杯	口縁~脚	15.6	9.9	8.7	口縁:22F, 杯:20F, 脚:20F → 脚:20F	杯:20F, 脚:20F	杯部内面黒色処理	54-3
2	C-019	東区南側	SI139	カマド燃焼部	土師器	甕	完形	16.4	7.7	18.0	口縁:22F, 甕:20F → 甕下半:20F	口縁:22F, 甕:20F		54-5
3	C-018	東区南側	SI139	カマド燃焼部	土師器	甕	胴~底	4.2	24.8		口縁:22F, 甕:20F	口縁:22F		54-4
4	C-125	東区南側	SI139	床	土師器	甕	口縁~孔	24.1	9.2	21.9	口縁:22F, 甕:20F	口縁:22F, 甕:20F → 甕下半:20F		55-2

第64図 SI139竪穴住居跡出土遺物(1)

はヨコナデが施される。第64図-3は長胴の土師器甕で胴部最大径は胴部下半にある。調整は、内外面共にヘラナデが施される。4は単孔式の土師器甕で、胴部最大径は口縁部と胴部の境界に位置し、口縁部は屈曲し外方に開く。調整は、内面にヘラナデ、内面下端と外面にヘラケズリ、口縁部にヨコナデが施される。第65図-1は単孔式の土師器甕で、胴部最大径は胴部上方にあり、口縁部は内湾する胴部から屈曲して開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、胴部内面はヘラミガキ、下部でヘラケズリ、口縁部はヨコナデが施される。2は扁平な凹口の破片で両面の中央に痕跡がみられ、石材は石英安山岩質凝灰岩である。その他、図示していないが塩釜期の土師器壺の破片が2点出土している。【時期】掲載した土師器はいずれも本遺構に伴うと考えられるが、時期を特定する資料に欠ける。第64図-1の器形は



図例番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真階級	
								1径	底径	高さ					
1	C-021	東区南側	SI139	床	土師器	甕	1径~孔	20.2	8.4	20.6	1径:2377、孔(19)57、孔(20)57	1径:2377、孔(19)57、孔(20)57		55-1	
2	Kc-001	東区南側	SI139	埋藏土	埋石器	四石	法量 (cm)	重量 (g)	石材			備考	写真階級		
							全長	幅	厚	169.4	10.3	2.9	石炭山(石炭)製成	両面に敲き目	54-6

第65図 SI139竪穴住居跡出土遺物(2)

郡山II期官面以降の特徴を有しており、また本遺構より新しいSI 138 出土遺物の時期もほぼ同様で、本書の時期区分6期の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。

SI 140 竪穴住居跡(第66～69図)

【位置・確認】東区南側に位置する。中央は攪乱に溝状に削平される。本遺構は3面の床面を確認している。

【重複】SI 142・144、SK 140、Pit 6・236と重複関係にあり、SK 140、Pit 6・236より古く、SI 142より新しい。SI 144との新旧関係については不明である。

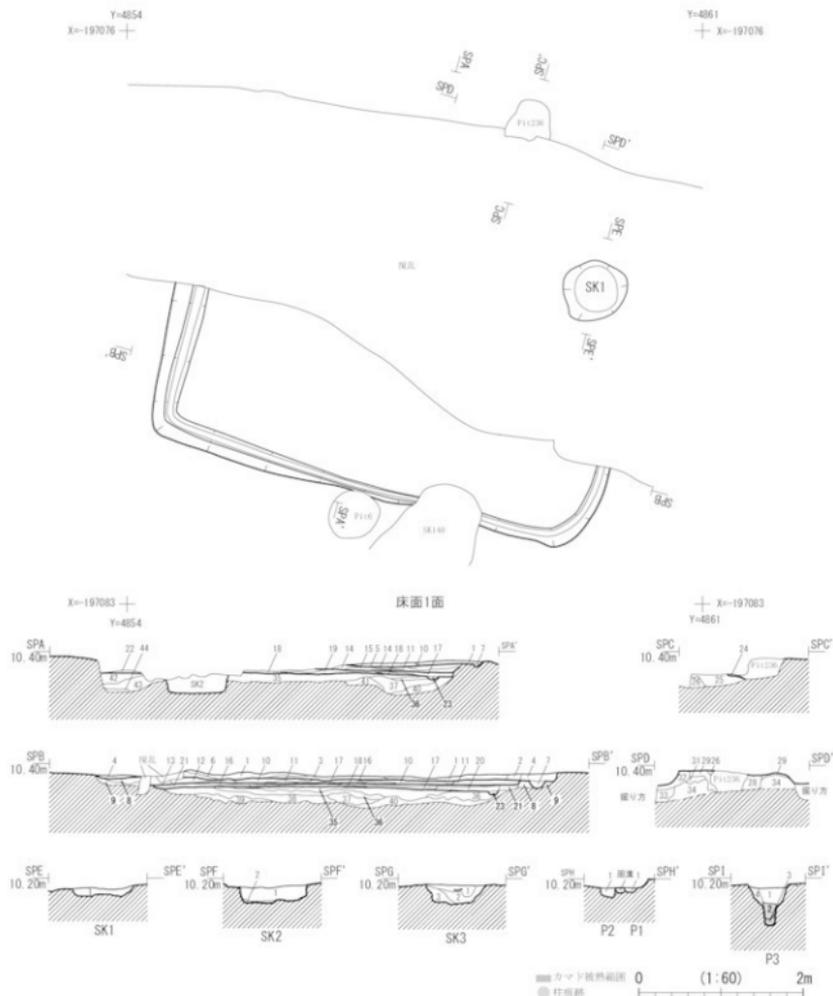
【規模・形態】本遺構は3面の床面を確認しており、古い床面ほど規模が小さくなる。検出した範囲の規模は、床面1面で東西560cm以上、南北は推定で435cm、床面2面で東西457cm、南北437cm、床面3面で東西414cm以上、南北408cmである。南北平面形状は、方形と推定される。

【方向】住居南壁基準ではいずれの床面もN-15°Eで、主柱穴もほぼ同じ方向を示すが、1面床面の西壁基準では西に3°傾いている。

【堆積土】44層に分層された。1～6層は床面1面堆積土で、褐色～暗褐色の粘土質シルトで、基本層IV層ブロックを混入する。7層は褐色粘土質シルトを主体とする1面床面の周溝堆積土で、断面でのみ確認している。8・9層は床面1面の掘り方で、住居西壁際のみ遺存する。10～15層は床面2面堆積土で、1面床面を構成する。16～22層は床面3面堆積土で床面2面を構成する。23層は床面3面の周溝で、断面でのみ確認している。24～33層はカマド掘り方である。27層は火床面で、被熱により赤褐色化する。また、28～31層はカマド袖で、被熱したブロックを混入することから、カマドは作り直しが行われたとみられる。34～44層は掘り方堆積土で、黄褐色～明黄褐色土と黒褐色土が互層にみられる。

【壁面】緩やかに立ちあがる。残存する壁高は1面で8cm、2面で14cm、3面で20cmを測る。

【床面】3面確認された。いずれもほぼ平坦である。また、土層観察用ベルトの裏側では、19層がさらに细分され、複

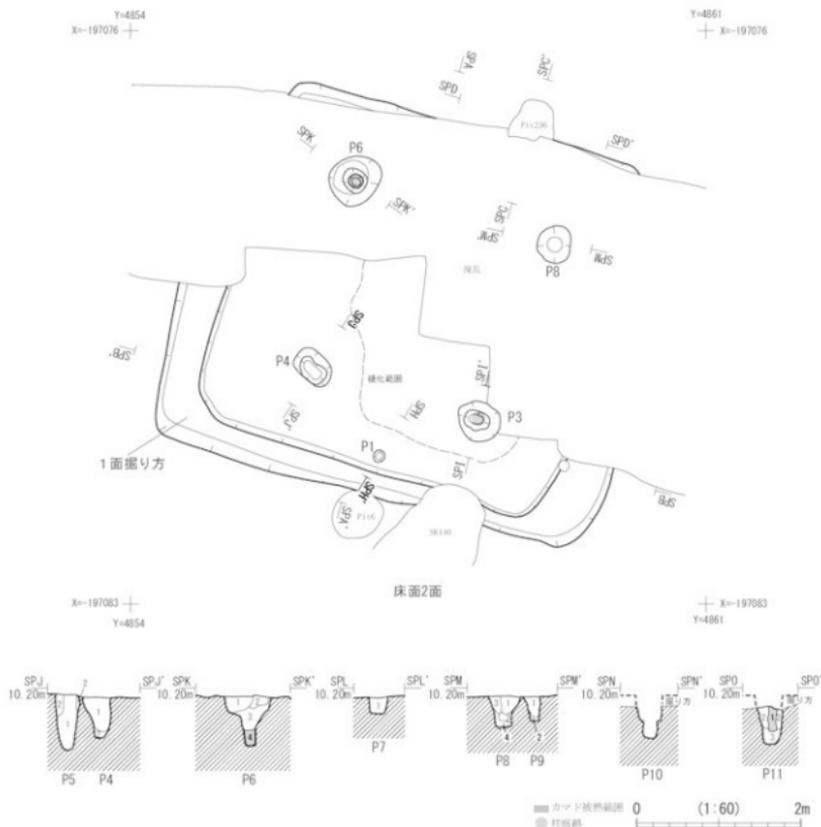


第66図 S1140竪穴住居跡(1)

数の床面が存在することを確認している。

【柱穴】ピットはいずれも3面で調査を行なっているが、配置や新旧関係から2面と3面に所属するものと推定した。このうち、2面ではP3・4・6・8が4本柱の主柱穴をなし、またその内側に並ぶP5・9・10・11の4本柱が3面の床面の主柱穴と考えられる。床面拡張時に後者の4本柱から前者の4本柱へと建て直されたとみられる。

【周溝】住居南壁際の1面及び3面で周溝を検出している。



S1140 施設観覧表

遺構名	平面形	幅径(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	14×14	5	3面検出
P2	円形	18×16	11	3面検出
P3	不整形円形	30×30	50	3柱式、3面検出
P4	楕円形	30×18	31	3柱式、3面検出
P5	円形	28×28	70	3柱式、3面検出
P6	不整形円形	46×38	42	3柱式、3面検出
P7	円形	24×20	21	3面検出

遺構名	平面形	幅径(cm)	深さ(cm)	備考
P8	不整形円形	46×40	39	3柱式、3面検出
P9	楕円形	38×22	30	3柱式、3面検出
P10	円形	24×22	23	3柱式、3面検出
P11	円形	30×28	41	3柱式、3面検出
SK2	不整形円形	82×72	14	1面検出
SK3	円形	88×81	22	3面検出
SK3'	円形	72×72	25	3面検出

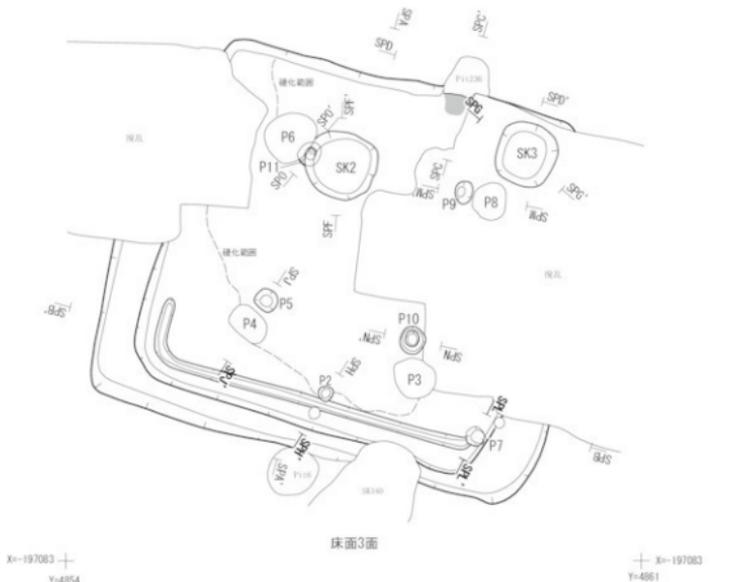
【カマド】3面床面の北壁やや東寄りにカマドを有する。攪乱及び他遺構に削平され、火床面と袖の一部のみ残存する。煙道部は確認できなかった。一方で側面上半は比較的明確に被熱による赤色化がみられる。カマド袖は基本層IV層に近い土の上に被熱したブロックを含む土を盛り上げたものである。

【その他の施設】P1・2はカマドの対面の壁際に位置し、出入り口施設の可能性があるが、柱穴は認められない。その他、SK3基とピット1基を確認している。このうちSK1は配置から1面床面に伴うものと判断した。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。

Y=4854
X=197076

Y=4861
X=197076



X=197083
Y=4854

X=197083
Y=4861



第68図 SI140竪穴六住居跡(3)

SI140 土層観察表(1)

階位	層位	土色	土性	粘性	結核	基本層厚 700mm以下	混入物		備考	
							焼土	消化物		
住居1面 南壁土	1	10YR4/4	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 焼土		径1~3mm 焼土量		
	2	10YR3/3	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 焼土		径1~3mm 焼土量		
	3	10YR2/4	埴縄色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 中量		径1~3mm 焼土量	
	4	10YR2/4	埴縄色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 多量		径1~5mm 焼土	
	5	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量			
	6	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 多量		径1~3mm 焼土量	
住居1面 東壁土	7	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 焼土		径1~3mm 焼土量	
	8	10YR3/2	埴縄色	砂質シルト	普通	強	径1~20mm 中量	径1~3mm 焼土量	径1~3mm 焼土	
住居1面 南壁土	9	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/1黒褐色土、径1~10mm少量	
	10	10YR2/4	埴縄色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 中量		径1~3mm 焼土量	
	11	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量		径1~3mm 焼土	
	12	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 焼土量	径1~3mm 焼土量	
	13	10YR3/2	埴縄色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 中量		径1~3mm 焼土量	
住居1面 西壁土	14	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量		径1~3mm 焼土量	
	15	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 少量		径1~3mm 焼土量	

S1140 土層観察表(2)

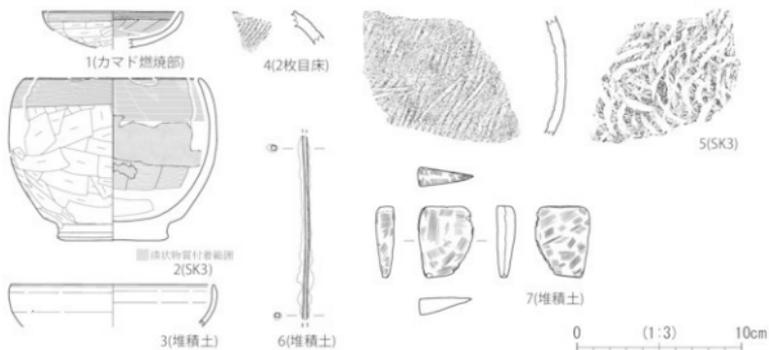
調査区	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層名(層プロット)付		備考	
						土質	層名		
10層以上	16	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	17	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状	
	18	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~3mm 塊状	
	19	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	20	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~3mm 塊状	
	21	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量		
	22	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~3mm 塊状	
	23	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~3mm 塊状	
	カマツ	24	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 少量	
		25	10YR2/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 塊状
26		10YR2/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
27		7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 塊状	層下部は鉄質に乏し赤褐色。	
28		10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	観察した10YR3/1黒褐色土層1~5mm多量。	
29		10YR5/4	黄褐色	砂質シルト	普通	強		観察した10YR3/1黒褐色土層1~5mm塊状。	
30		10YR5/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~3mm 塊状	観察した10YR3/1黒褐色土層1~5mm塊状。	
31		10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状	
32		10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	観察した10YR3/1黒褐色土層1~5mm塊状。	
33		10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
層0.5m	34	10YR5/4	黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR5/4黄褐色土、径1~30mm;10YR3/1黒褐色土、径1~30mm塊状。	
	35	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	強	強	径1~30mm 多量		
	36	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	
	37	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状	
	38	10YR5/4	黄褐色	粘土質シルト	強	強		10YR5/4黄褐色土、径1~30mm;10YR3/1黒褐色土、径1~30mm塊状。	
	39	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~3mm 塊状	
	40	10YR6/6	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強		26層とほぼ同一層厚。	
	41	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR3/1黒褐色土、径1~50mm中量。	
	42	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 中量	径1~5mm 塊状	
	43	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~30mm 少量	径1~3mm 塊状	
	44	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 塊状	径1~5mm 塊状	

S1140 施設土層観察表(1)

調査区	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層名(層プロット)付		備考
						土質	層名	
SK1	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量
	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 多量	径1~5mm 塊状
SK2	2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 塊状
	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 塊状	径1~5mm 塊状
SK3	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 塊状	径1~20mm 少量
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	強	径1~30mm 少量	径1~10mm 少量
	1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 塊状	
P2	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 塊状	
	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~30mm 塊状	径1~3mm 塊状
P3	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 塊状	
	3	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	強	強		柱状部。
	4	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	
	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 塊状
P4	2	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	強	強		
	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状
P5	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	強		
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	強		10YR5/6黄褐色土、径1~30mm;10YR4/2灰黄褐色土、径1~30mm塊状。

S140 施設土層観察表(2)

階別	層位	土色	土性	粘性	結核	柱状物	基本層色層 ゾーン分け	埋入物	備考
F6	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	4	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	強	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
F7	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	塊	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	4	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
F8	1	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	塊	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	3	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	10YR5/6黄褐色土、径1~30mm; 10YR4/2灰黄褐色土、径1~30mm程度
F9	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	塊	径1~3mm 少量	径1~3mm 塊状	10YR3/6黄褐色土、径1~30mm; 10YR4/2灰黄褐色土、径1~30mm程度
	2	7.5YR4/1	褐色	砂質シルト	普通	塊	径1~30mm 少量		
	3	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	塊			
F10	1								不明、記述内容一致なし。
F11	1	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	塊	径1~10mm 少量	径1~3mm 塊状	径1~3mm 塊状
	2	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	塊	径1~10mm 少量		
	3	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	塊			10YR5/6黄褐色土、径1~30mm; 10YR4/2灰黄褐色土、径1~30mm程度



000 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整			内面調整			備考	写真 90%
								全長	幅	厚	全長	径	高さ	全長	径	高さ		
1	C-209	東区南側	S140	カマド燃焼部	土器器	鉢	口縁-体	86.0	86.2	(2.2)	11段: 177°, 体: 91°	11段: 177°, 体: 91°	11段: 177°, 体: 91°			55.3		
2	C-174	東区南側	S140	SK3	土器器	鉢	口縁-底	10.6	6.6	9.9	11段: 191°, 体: 91°	11段: 191°, 体: 91°	11段: 191°, 体: 91°	内面漆状物付着痕		55.4		
3	E-013	東区南側	S140	埋積土	須恵器	杯	口縁	(12.4)	-	(2.6)	0°調整	0°調整	0°調整			55.4		
4	E-014	東区南側	S140	2枚目床	須恵器	壺	体(口)	-	-	-	0°調整→0°押し型、 平行調整	0°調整	0°調整			55.6		
5	E-015	東区南側	S140	SK3	須恵器	壺	胴	-	-	-	平行調整	0°調整	0°調整			55.6		
000 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種		法量 (cm)			重量 (g)			特徴・備考	写真 90%			
6	N-003	東区南側	S140	埋積土	金属製品	種別未詳品	(11.3)	1.0	0.5	8.7						若干の曲りあり。	55.7	
000 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種		法量 (cm)			重量 (g)			石材	備考	写真 90%		
7	R4-006	東区南側	S140	埋積土	石製品	砥石	4.3	3.4	1.1	16.3	(3.7)							砥石4面

第69図 S140竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】土師器2点、須恵器3点、金属製品1点、石製品1点の計7点を掲載した(第69図)。第69図-1はカマド燃焼部出土の土師器器環で、内湾する浅い皿状の器形を呈する。調整は、体部外面はヘラケズリ、体部内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。2はSK3出土の土師器鉢で、厚い平底からくびれをもって球形に立ち上がり、口縁までなめらかに内湾し口縁部が内傾する器形を呈する。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。2の内面には漆状の付着物が認められる。3は堆積土出土の須恵器杯口縁部破片で、器壁が薄く、内湾してわずかに内傾し立ち上がる。第69図-4は2面目の床面出土の須恵器小型壺体

部破片で、外面にクシ押し型と平行沈線がみられる。5はSK3出土の須恵器喪胴部破片で、内面に青海波文がみられる。6は堆積土出土の棒状金属製品である。7は底面を4面有する砥石で、石材は泥岩である。

【時期】本遺構より新しいSI133は6期、本遺構より古いSI142が4～5期に属する。また、本遺構から出土した遺物は少量であるが郡山II期官衙の特徴を示しており本遺構は本書時期区分6期に属するとみられる。

SI141 竪穴住居跡(第70～73図)

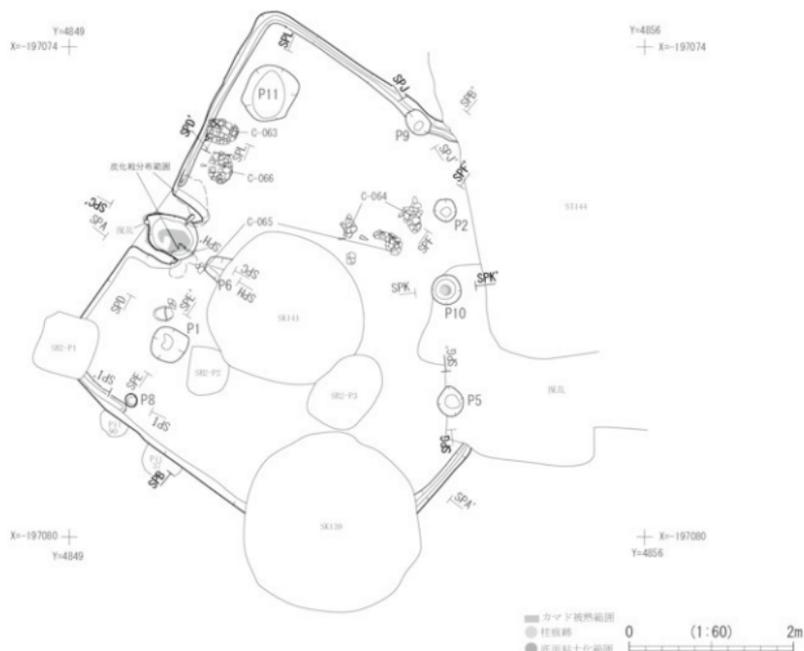
【位置・確認】東区南側に位置する。東側や中央を他遺構に削平される。

【重複】SI140、SB2、SK139・141、Pit37・90・238と重複関係にあり、SI1140、SB2、SK139・141よりも古く、Pit37・90・238より新しい。

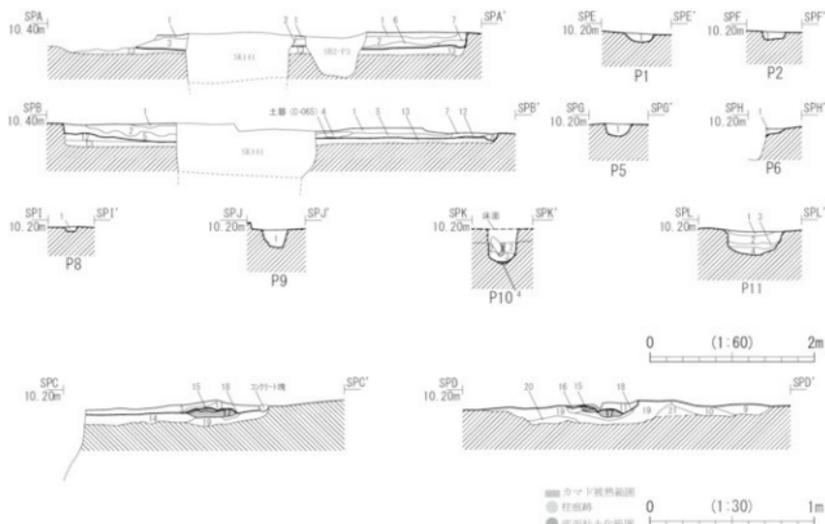
【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西502cm、南北544cmを測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】カマド主軸基準でN-58°-Wである。

【堆積土】21層に分層された。1～8層は住居堆積土で、褐色ないし暗褐色粘土質シルトを主体とし基本層IV層小ブロックを混入する。7・8層は周溝内にも連続する。9・10層はカマド北側の床面窪みに充填された砂質シルト層で、10層下部には灰白色の小ブロックが中量混入する。11層はカマド内堆積土で、焼土を混入する。12～14層は掘り方堆積土で、このうち12層は、基本層IV層の小ブロックを主体とする貼り床土である。15～21層はカマド掘り方堆積土で、そのうち15層と17層は被熱により赤褐色化するカマド燃焼部火床面であり中央は著しく被熱する。



第70図 SI141竪穴住居跡(1)



第71図 S1141竈穴住居跡(2)

S1141 施設総表

施設名	平面形	幅径(cm)	径(cm)	備考
P1	竈穴(竈)	44×49	12	
P2	門	38×36	11	
P5	本敷門	38×36	10	
P6	木厨	38×32	6	

施設名	平面形	幅径(cm)	径(cm)	備考
P7	門	38×36	8	
P9	柱門	38×36	22	
P10	門	38×36	41	
P11	本敷門	38×36	34	

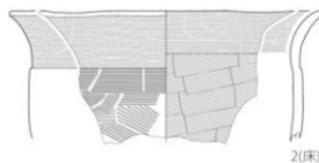
※P4・P12は遺構に不詳。

S1141 土層総表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層厚(層厚)の約率	採人物		備考
							種土	炭化数	
住居上	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~2mm 微量	
	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~30mm 多量	径1~5mm 微量	
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~2mm 微量	
	4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		径1~5mmの粘土粒散見。
	5	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量	径1~5mm 微量	
	6	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	7	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 多量		
	8	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
竈の方	9	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径0.1~2mm 粒状に少量	径0.1~0.5mm 微量	10YR4/2に5~10黄褐色砂質土中量。
	10	2.5Y2/2	黑色	砂質シルト	普通	強	径0.1~5mm 中量	径0.1~1mm 微量	下部にN8/灰白色粘土ブロック径30~40mm中量。
	11	10YR3/1	赤褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量		カマシ層積土。
	12	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~3mm 多量	径1~3mm 微量	磁床。
	13	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径1~10mm 少量	径0.1~1mm 微量	竈の方内構築材の層積土上。
	14	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径0.1~2mm 粒状に少量	径0.1~0.5mm 微量	10YR4/2に5~10黄褐色砂質土中量。
カマシ層の方	15	2YR5/8	明赤褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量		大床底。
	16	10YR3/1	赤褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量		磁器により赤褐色化した大床底。
	17	2.5YR3/4	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	強			
	18	2YR3/2	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	19	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	普通		径0.1mm 微量	10YR4/2に5~10黄褐色砂質土中量。
	20	2.5YR4/6	赤褐色	砂質シルト	普通	普通	径1~5mm 少量	径1mm 微量	
	21	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	普通			基本層IV層に属して知らず。未製の。

S1141 竪穴土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	遺人物		備考
						基本層(遺物ゾーンの厚)	炭化物	
P1	1	2.0Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~10mm 少量	
P2	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	1~2mm 炭炭
P5	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	普通	径1~10mm 少量	
P6	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 多量	1~2mm 炭炭
P8	1	2.0Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	
P9	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	
P10	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	
	2	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	普通		10YR3/4(暗褐色)土層(1~10mm)少量。
	3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	
	4	5YR4/3	暗オリーブ色	粘土質シルト	強	別	径1~2mm 少量	表面粘土を剥離。
P11	1	10YR4/7	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~5mm 少量	
	2	10YR4/2	黄褐色	粘土質シルト	普通	強		10YR3/4(1~5mm)黄褐色土、径1~10mm(10YR4/7)褐色土、径1~10mm混在。
	3	10YR5/1	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	
	4	10YR3/4	褐色	粘土質シルト	普通	強		



0 (1:3) 10cm

図名	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	注記(土)			外面調整		内面調整		備考	写真図版
								1目	2目	高さ						
1	C-067	東区高根	S1141	カマド燃焼部	土師器	杯	1186-体	114.0	114.6	0.7	1186-227	体-2377	1186-227	体-2377		56-1
2	C-191	東区高根	S1141	床	土師器	盤	1186-底	118.0		0.0	1186-317	底-374	1186-317	底-377		56-2

第72図 S1141竪穴住居跡出土遺物(1)

【壁面】ほぼ垂直に立ちあがる。残存する壁高は南壁際で21cmを測る。

【床面】ほぼ平坦であるが、中央に向かって緩やかに傾斜する。12層及び13層上面を床面としている。

【柱穴】ピットは8基検出した。このうち柱痕跡が確認されたのはP10のみである。住居床面対角線に位置するP1は単層としているが、掘り足りないと思われる。

【周溝】西壁南半と南壁中央を除き、周溝が巡る。

【カマド】カマドは西壁やや南寄りに位置する。上部を覆乱に削平され、遺存状況が悪く、袖は極めて不明瞭である。煙道は確認できない。北側袖先端には袖石が認められる。火床面は著しく被熱する。

【掘り方】全体に掘り下げ、底面はほぼ平坦であるが、南側はやや窪む。

【出土遺物】土師器6点を掲載した。床面で5個体(第72図-1、第73図-1~4)の土師器甕が横位に潰れて出土した他、カマド燃焼部から土師器杯1点(第72図-1)が出土している。第72図-1は土師器杯で、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。底部は丸底で、内湾する体部から直線的に内傾する口縁部にいたる器形を呈する。2は土師器甕で、ほぼ垂直に立ち上がる胴部から口縁部との境界でわずかに段を有し外反して開く器形を呈する。調整は、体部外面はハケメ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。第73図-1は長胴の土師器甕で、胴部最大径は胴部中位ないしやや下位にある。口縁部と胴部の境界に明確な段はなく、口縁部は屈曲し、わずかに外反して開く。調整は、胴部外面はハケメ、外面下端にヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナ



図号 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	寸法 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
								上径	底径	高さ				
1	C-063	東区南側	SI141	床	土師器	甕	完整	190	7.0	31.5	外面: 3DFP・製・A/F 製下地: A/F E 1	内面: 3DFP・製・A/F F		55-10
2	C-066	東区南側	SI141	床	土師器	甕	口縁-胴	(17.0)	-	(30.3)	外面: 3DFP 製下地: 製下地・A/F E 1	内面: 3DFP・製・A/F F		56-3
3	C-065	東区南側	SI141	床	土師器	甕	口縁-胴	16.4		(22.3)	外面: 3DFP・胴縁・製・A/F 製下地: 製下地・A/F E 1	内面: 3DFP・製・A/F F	製器内面下層厚減	56-4
4	C-064	東区南側	SI141	床	土師器	甕	口縁-底	(19.6)	7.0	27.9	外面: 3DFP・2DFP 製下地: 製下地・A/F E 1	内面: 3DFP・製・A/F F		55-11

第73図 SI141竪穴住居跡出土遺物(2)

デが施される。第73図-2は長胴の土師器甕で、直線的に開く下部から、胴部やや下位に位置する胴部最大径で屈曲し内傾し立ち上がる。口縁部と胴部の境界に沈線状の段を有し、胴部からならぬかに続く口縁部が外方に湾曲し開く器形を呈する。調整は、胴部外面はハケメ後下半にヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。3は長胴の土師器甕で、口縁部と胴部の境界に浅い段を有し、口縁部は途中で屈曲して直線的に外傾し開く。歪みがみられ、口縁部に対し胴部がやや斜めに付く。調整は、胴部外面は手順に規則性がみられないハケメが縦横に施され、内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。4は球形の土師器甕で、口縁部と胴部の境界に浅い段を有し、口縁部は屈曲し外反して開く。調整は、胴部外面は目の粗いハケメ後下半にヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。

【時期】掲載遺物は、いずれも本遺構に伴う。鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)の特徴を有する第72図-1や、胴部下半にヘラケズリが施される第73図-1・2・4などいずれも郡山1期官衝以前の特徴を有している。本書の時期区分では4期の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。

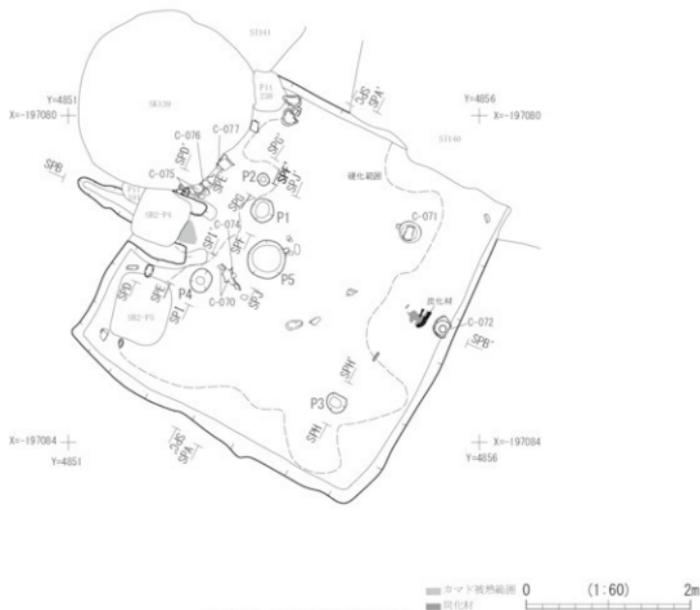
SI142 竪穴住居跡(第74～78図)

【位置・確認】東区南側に位置する。

【重複】SI140・141、SB2、SK139、Pit101・238と重複関係にあり、そのいずれよりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、カマドを有する主軸方向(東西)で410cm、南北435cmを測る。平面形状は方形である。

【方向】カマド主軸基準でN-63°-Wである。



第74図 SI142竪穴住居跡(1)

【堆積土】大別22層、細別28層に分層された。1～3層は住居堆積土で、いずれも人為的な埋め戻しである。そのうち2層は焼土・炭化物を多量含む層で、レンズ状に窪んだ住居堆積土上層に炭化物を投棄し、3層に類似する1層で埋められている。3層は基本層ブロックや炭化物を多量に含み、土色の違いや混入物の混入具合で3a～3g層に細分した。3層の細分は層順を示すものではない。4～12層はカマド堆積土で、このうち8層は焼土層、10層は炭化物層である。11～12層は煙道部堆積土で天井部崩落とみられる被熱した基本層IV層ブロックを混入する。13～21層はカマド掘り方で、18・19層は焼土・炭化物を混入しており、カマド袖は造り直されたものとみられる。22層は掘り方堆積土で、にぶい黄褐色砂質シルトに明黄褐色土と黒褐色土を混入する。

【壁面】ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は北壁で34cmを測る。

【床面】床面は中央がやや高く、外周部は6～8cm低い。22層上面を床面としている。

【柱穴】ピットは5基検出した。いずれも浅く、柱痕跡も認められないことから、柱穴ではないとみられる。

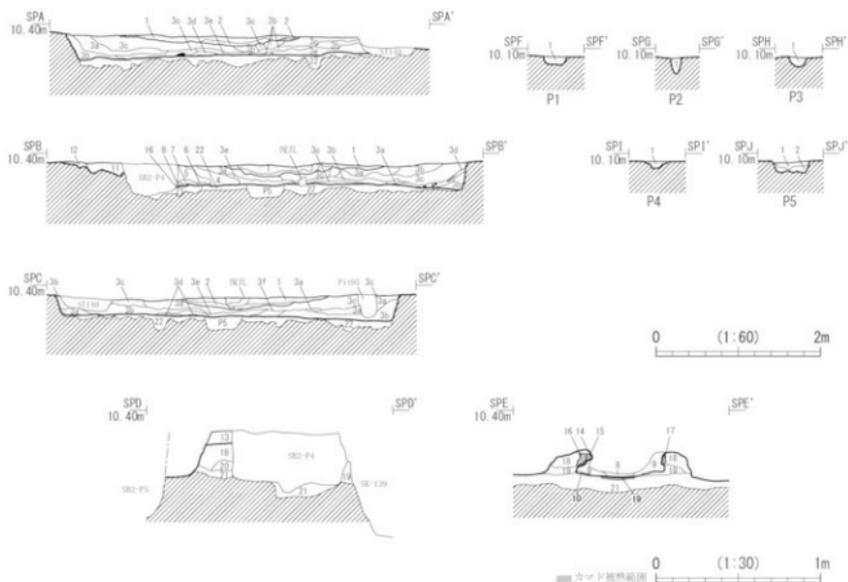
【周溝】周溝は認められない。

【カマド】西壁中央に位置する。カマドは、SB2-P4により燃焼部の側面及び奥壁がほぼ全て削平されている。両袖及び火床面の手前側と煙道部が遺存する。カマドの袖は土を積み上げ築かれている。煙道部との接続の段差は掘立柱に削平され不明だが、燃焼部から一段あがり、そのまま緩やかに上昇する形状を示す。

【その他の施設】ピットのうちカマド手前に位置するP1は焼土で埋め戻されている。

【掘り方】底面に起伏が認められ、全体に掘り下げられている。

【出土土物】土師器14点、須恵器1点、石製品1点の計16点を掲載した(第76～78図)。堆積土はいずれも人為的



第75図 S1142竪穴住居跡(2)

S142 施設観察表

遺構名	平面形	規模(m)	深さ(m)	備考
P1	円形	29×28	11	
P2	円形	15×14	20	
P3	不明形状	25×21	12	

遺構名	平面形	規模(m)	深さ(m)	備考
P4	楕円形	29×24	9	
P5	円形	47×46	15	

S142 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	埋入物			備考	
						基本層内埋入物の状況	礎土	灰化物		
住居 南側土	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～5mm 少量	径1～10mm 少量	人為堆積。
	2	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	弱	径1～5mm 少量	径1～15mm 少量	径1～10mm 少量	人為堆積。
	3a	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	人為堆積。
	3b	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	人為堆積。10YR4/7暗灰土、径1～10mm程度、黄銅はブライド、D.V.4オーブ色土も含まれる。
	3c	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	人為堆積。
	3d	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	人為堆積。
	3e	7.5YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	人為堆積。
	3f	2.0Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	弱	径1～5mm 少量	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	人為堆積。2層に類似。
	3g	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	人為堆積。
	4	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～15mm 少量	径1～20mm 少量	
カマド	5	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
	6	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
	7	5YR3/6	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	礎土層。
	8	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
	9	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
	10	10YR2/1	黒色	灰	普通	強		径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	灰化物の堆積。
	11	10YR3/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～20mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	焼熱により黒色化した土10YR2/1、径1～10mm中量。
	12	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～20mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	焼熱により黒色化した土10YR2/1、径1～20mm中量。
	13	10YR4/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	層下部に径1～10mmの礎土が堆積する箇所あり。
	14	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
カマド 北方	15	10YR4/6	赤褐色	砂質シルト	弱	強		径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	焼熱により赤色化した基本層砂質土。
	16	10YR3/2	暗赤褐色	砂質シルト	弱	強		径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	焼熱により赤色化した基本層砂質土。
	17	10YR4/4	にじみ赤褐色	砂質シルト	弱	強		径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	焼熱により赤色化した基本層砂質土。
	18	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
	19	10YR4/8	褐色	砂質シルト	弱	強	径1～10mm 少量	径1～15mm 少量	径1～5mm 少量	
	20	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	弱	強		径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	10YR2/1黒色土、径1～10mm少量。
	21	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	10YR3/1黒色土、径1～5mm少量。
22	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強			径1～5mm 少量	10YR6/6明黄褐色土、径1～20mm；10YR3/2黒褐色土、径1～30mm程度。	

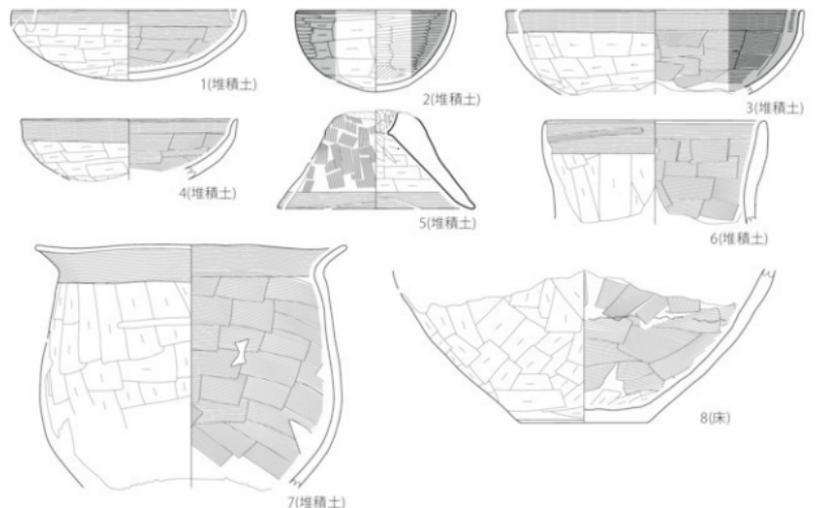
S142 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	埋入物			備考
						基本層内埋入物の状況	礎土	灰化物	
P1	1	7.5YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	
P2	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
P3	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量	
P4	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 少量	径1～5mm 少量	
P5	1	7.5YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	径1～5mm 少量
	2	10YR5/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強		径1～5mm 少量	径1～5mm 少量

に埋め戻されており、遺物の大半は床面より浮いて出土しているため、本遺構と直接関係があるかは不明である。カマドの北側床面から土師器甕2点(第77図-1・3)と土師器甕(第78図-2)がまとまって出土している。その他、住居北東側床では土師器甕(第78図-1)が、東壁際では土師器甕(第76図-8)が床面よりやや浮いて逆位で出土している。床面からは凹石(第78図-4)も出土している。P8からは土師器裏胴部(第77図-4)が出土した。その他堆積土中から鬼高系の環(第76図-1)、内面黒色処理が施された環(同図2)、環(同図4)、鉢の口縁部(同図6)、甕(第77図-2)、器台の台部(第76図-5)、甕(同図7)、環(同図2)、須恵器蓋(第78図-3)が出土した。

第76図-1は須恵器蓋模倣の土師器環で、内湾する体部から、口縁部がわずかに屈曲し垂直に立ち上がる器形を呈

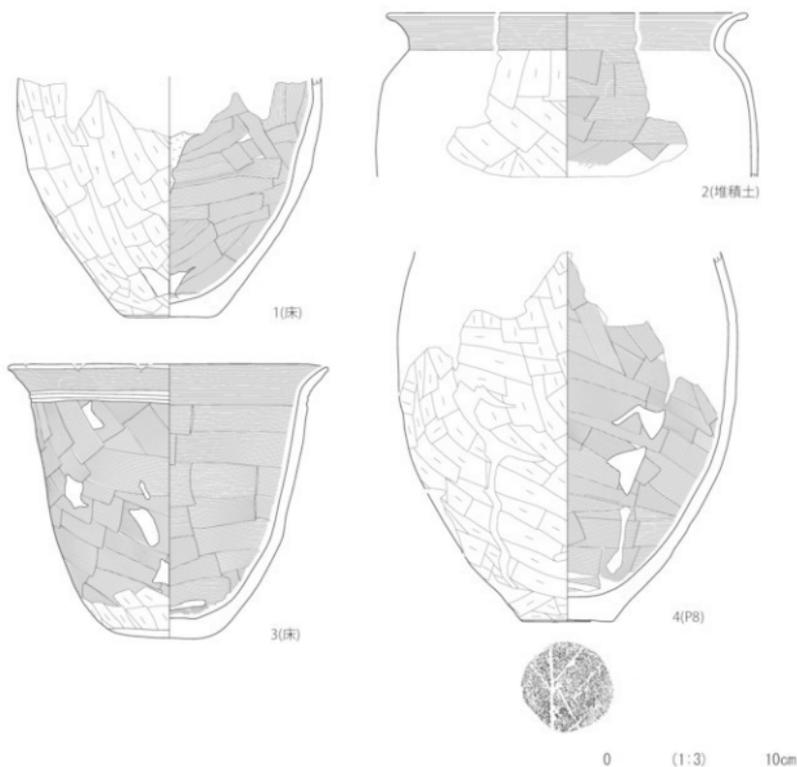
する。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施され、内外面に黒漆が塗布される。2は器壁の薄い半球形の土師器環で、口縁分と体部の境界はみられない。調整は、外面はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ、内面は全面ヘラミガキがなされ、内外面共に黒色処理が施される。3は土師器環で、内湾する体部から口縁部と体部の境界にわずかな稜を経て口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデがなされ、内面に黒色処理が施される。4は土師器環で、内湾する体部から口縁部と体部の境界でわずかに屈曲し、口縁分はやや外傾し立ち上がる。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。5は土師器器台の裾部で、直線的に外傾し開く。調整は、外面はハケメ、内面はヘラナデ、穿孔部はヘラナデの後に指押さえが施される。6は土師器鉢の口縁部で、やや湾曲しながらほぼ垂直に立ち上がる。調整は、外面はヘラケズリ口縁端部をヨコナデ、内面はヘラナデ後口縁端部をヨコナデする。外面口縁端部に棒状施工具による痕跡がある。7は土師器裏で、胴部最大径は下半にあり、胴上部は直線的に内傾する。口縁部と胴部の境界に段はなく、口縁部は屈曲して開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第76図・8は球形の土師器裏底部で、平底の底部から内湾し開く。調整は、胴部外面はヘラケ



図録番号	登録番号	調査区	出土地	期位	種類	器種	部位	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
								口径	底径					
1	C-068	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	環	口縁-底	(14.2)	(4.2)	4.3	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 52°P, 体: 59°E → 59°E	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 52°P, 体: 59°E	内外面黒漆塗布	56-5
2	C-073	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	環	口縁-体	9.4	-	5.0	外面: 52°P, 体: 59°E → 59°E 内面: 52°P, 体: 59°E	59°E	内外面黒色処理	56-6
3	C-204	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	環	口縁-体	(18.1)	(5.2)	(5.2)	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 32°P, 体: 59°E	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 32°P, 体: 59°E	内外面黒色処理	56-7
4	C-205	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	環	口縁-体	(13.2)	(2.8)	(3.8)	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 32°P, 体: 59°E	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 32°P, 体: 59°E	内外面黒漆塗布	56-8
5	C-069	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	器台	台	-	(2.0)	(6.0)	台: 59°P-底: 32°P 台: 59°P-底: 32°P	台: 59°P-底: 32°P 台: 59°P-底: 32°P	台上端: 59°P-指押さえ 台: 59°P-底: 32°P	56-9
6	C-203	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	鉢	口縁-体	(13.6)	-	(6.3)	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 32°P, 体: 59°E	外面: 32°P, 体: 59°E 内面: 32°P, 体: 59°E	内面: 口縁部、縁口部 文具による痕跡(図56-10 参照)	56-10
7	C-070	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	裏	口縁-胴	19.0	-	(10.7)	外面: 32°P, 胴: 59°E 内面: 32°P, 胴: 59°E	外面: 32°P, 胴: 59°E 内面: 32°P, 胴: 59°E		56-11
8	C-072	東区南側	SI142	埴輪上	土師器	裏	胴-底	-	7.6	(9.3)	胴: 59°E 底: 59°E	胴: 59°E, 胴下端: 59°E		56-12

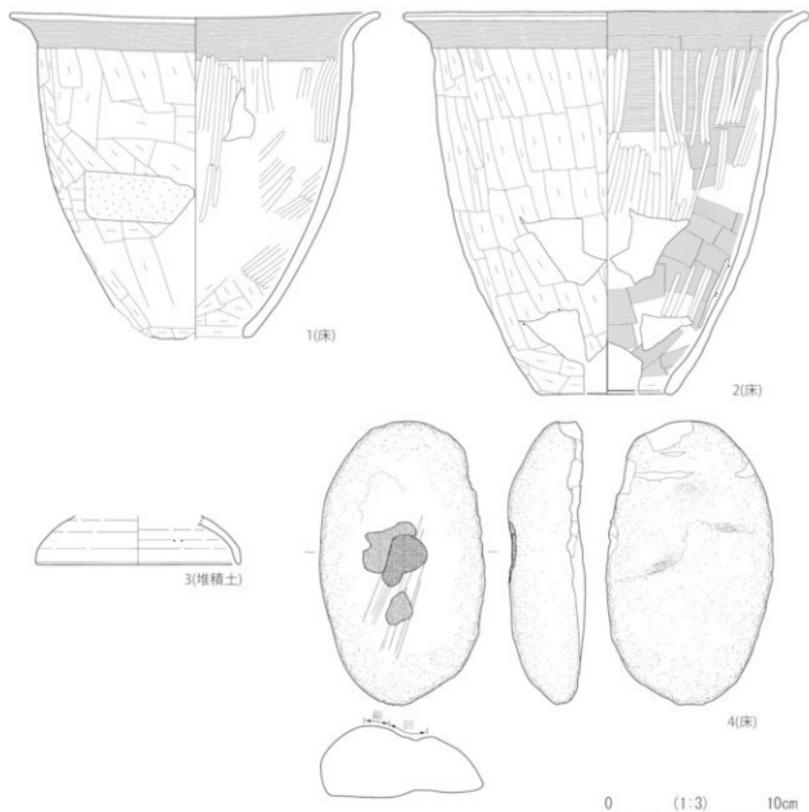
第76図 SI142竅穴住居跡出土遺物(1)

ズリ、内面はヘラナデで底部付近のみヘラケズリが施される。第77図-1は長胴の土師器甕底部で、内湾して立ち上がる。調整は、外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。2は土師器甕の上半部で、垂直に立ち上がる胴部から肩にかけて強く内湾し、口縁部と胴部の境界で屈曲し、外反し開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面に共ヨコナデが施される。3は胴部最大径が口縁部と胴部の境界に位置する土師器甕で、口縁部と口縁部の境界には螺旋状に段が一周半施される。口縁部は屈曲し直線的に外傾し開く。調整は、胴部外面はハケメの後、底部付近のみヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面に共ヨコナデが施される。4は長胴の土師器甕で胴部最大径は胴部ほぼ中央でラグビーボール形の器形を呈する。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。底面には木葉痕がみられる。第78図-1は土師器甕で、底部は単孔式、内湾して立ち上がり、胴部最大径



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	寸法 (mm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版	
								口径	底径					高さ
1	C-076	東区南側	SI142	床	土師器	甕	胴～底	-	85.0	114.6	胴:ヨヅリ	胴:ヨヅリ	57-1	
2	C-074	東区南側	SI142	堆積土	土師器	甕	口縁～胴	22.0	-	110.0	口縁:ヨヅリ、胴:ヨヅリ	口縁:ヨヅリ、胴:ヨヅリ	内面:口縁と外面:ヨヅリ	57-2
3	C-077	東区南側	SI142	床	土師器	甕	口縁～底	19.1	5.6	16.8	口縁:ヨヅリ、胴部:ハケメ、胴:ヨヅリ	口縁:ヨヅリ、胴:ヨヅリ		57-3
4	C-172	東区南側	SI142	P8	土師器	甕	胴～底	-	15.4	121.6	胴:ヨヅリ、底:木葉痕	胴:ヨヅリ		57-4

第77図 SI142竪穴住居跡出土土遺物(2)



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 掲載		
								口径	底径	器高						
1	C-071	東区南側	SI142	床	土師器	甗	口縁~孔	φ2.50	4.60	19.5	1.縁:20°付、体:40°付、孔:高さ:40°付、	1.縁:20°付、体:40°付、孔:高さ:40°付、		57.5		
2	C-075	東区南側	SI142	床	土師器	甗	口縁~孔	24.4	8.0	23.4	1.縁:20°付、体:40°付、	1.縁:20°付、体:40°付、		57.6		
3	E-038	東区南側	SI142	埴輪土	須恵器	蓋	天井~口縁	-	(12.4)	(3.0)	90°調整	90°調整		57.7		
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	部種	法量 (cm)			石材	備考	写真 掲載				
4	Kc-002	東区南側	SI142	床	礫石器	貯石	全長	幅	厚				17.0	10.0	4.7	6.32.0

第78図 SI142竪穴住居跡出土遺物(3)

は口縁部との境界にある。口縁部と胴部の境界に段はもたず、口縁は屈曲して外反し開く。調整は、外面は胴部にヘラケズリ後口縁部ヨコナデ、内面は口縁部にヨコナデ後胴部にヘラミガキ、胴下部にヘラケズリが施される。2は土師器甗で、底部は単孔式、内湾して立ち上がり、胴部最大径は口縁部との境界にある。口縁部と胴部の境界に段はもたず、口縁部は外反し開く。調整は、外面は胴部にヘラケズリ後口縁部ヨコナデ、内面は口縁部にヨコナデ後胴部全面にヘラナデ、その後部分的にヘラミガキ、胴下端にヘラケズリが施される。第78図-3はカエリを持たない須恵器の蓋で、内

湾し、口唇部はわずかに屈曲し垂下する。2は石英安山岩質凝灰岩製の凹石で、半割された円礫の自然面中央に敲面と刃物痕がみられる。刃物痕は敲面より古い。その他、堆積土中から弥生土器片が出土している。

【時期】住居堆積土は全て人為堆積による埋め戻しであるが、上記の遺物のうち、床面から出土した5点(第76図・8、第77図・1・3、第78図・1・2)は本遺構に伴うと考えられる。また、その他の出土土器を含め、いずれも郡山1期官衙以前～1期官衙の特徴を有している。本書の時期区分では、4～5期の土器であり、本竪穴住居跡の時期を示している。

SI143 竪穴住居跡(第79～81図)

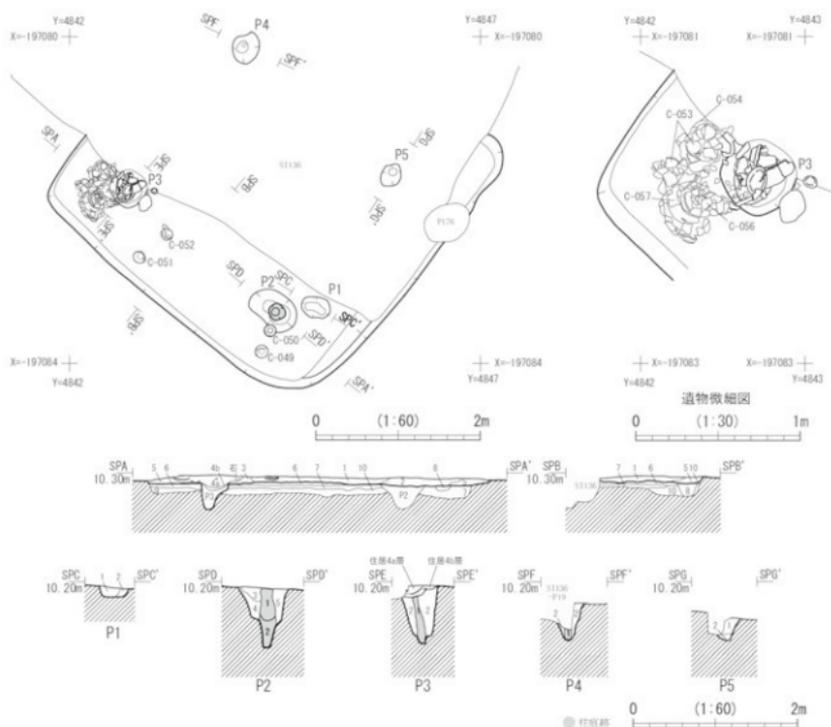
【位置・確認】東区南側に位置する。他遺構に削平され、住居南壁際及び東壁際、主柱穴のみ遺存する。

【重複】SI136、P176と重複関係にあり、これらの遺構より古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西442cm、南北410cm以上を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】南壁基準でN-40°Eである。

【堆積土】大別10層、細別11層に分層された。1～5層は住居堆積土、6～10層は掘り方である。にぶい黄褐色な



第79図 SI143竪穴住居跡

S143 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	高さ(cm)	備考
P1	木製埋門部	35×28	14	
P2	埋門部	61×40	75	主柱穴
P3	門部	44×41	71	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)	高さ(cm)	備考
P4	木製埋門部	41×33	46	主柱穴
P5	木製埋門部	36×24	38	主柱穴

S143 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	埋入物		備考	
						基本層(石層ブロック)部	灰化跡		
住居 南壁上	1	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～5mm 微量	
	2	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	
	3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 多量	径1～5mm 微量	
	4a	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～10mm 微量	P9直上層構上。
	4b	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 少量		P9直上層構上。
掘り方	5	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～20mm 少量	径1～5mm 微量	
	6	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	結核。
	7	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～20mm 少量		
	8	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量		
	9	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～20mm 少量		
	10	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～20mm 多量		

S143 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	埋入物		備考
						基本層(石層ブロック)部	灰化跡	
P1	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～5mm 微量	
	2	10YR4/1	黄褐色	粘土質シルト	強	強		
P2	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～5mm 微量	柱痕跡。
	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強		柱痕跡。
	3	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 微量
	4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	強	径1～20mm 少量	
	5	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～20mm 少量	径1～5mm 微量
P3	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～10mm 微量
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 少量	
P4	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	
	2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 少量	
P5	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量
	2	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	

いし暗褐色の砂質シルトを主体とする。6層は床面貼床であるが、硬化はみられない。

【壁面】やや外傾して立ち上がる。残存する壁高は住居南壁で8cmを測る。

【床面】床面はほぼ水平で、わずかに起伏がみられる。

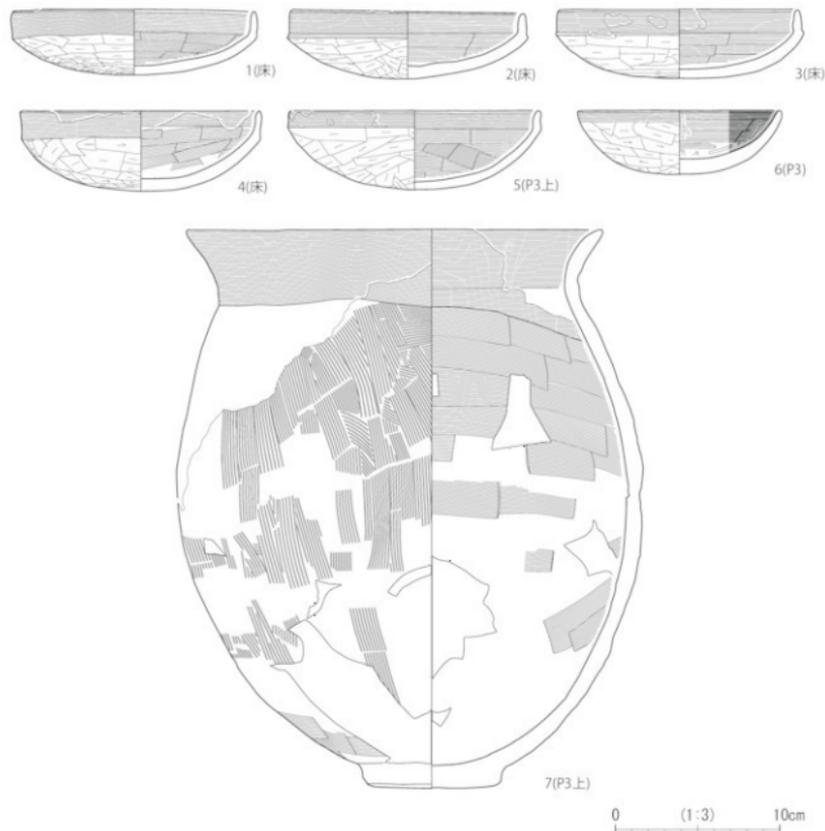
【柱穴】ピットは5基検出した。規模と位置関係からP2～5は4本柱の主柱穴に相当する。P2～4には柱痕跡が確認された。P3堆積土上部の柱痕跡直上から住居堆積土まで遺物がまもって出土している。本遺構の主柱穴が抜き取られた後、窪みに遺物がまもって遺棄されたものとみられる。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。基本層IV層のブロックを主体とするが、中央部は黒褐色土がやや多い。

【出土遺物】床面及びP3堆積土とP3上部から遺物がまもって出土している。土師器9点を掲載した。第80図-1～4は床面で出土した須恵器機敏の土師器環で、これらはほぼ同一の器形・法量を呈する。内湾する体部を持ち、口縁部と体部の境界に稜を有し、口唇部は屈曲しほぼ垂直に立ち上がる。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施され、1・2は内外面に黒漆が塗布される。5はP3上面から出土した土師器環で、口縁部は1～4より短く、口唇部はわずかに外反しほぼ垂直に立ち上がる。内外面に黒漆が塗布される。6はP3堆積土から出土した丸底の土師器環で、内湾する体部から外傾する口縁部まで稜や屈曲はない。内面に黒色処理が施される。第80図-7、第81図-1・2はP3の上部からまもって出土した土師器裏である。第80図-7はやや縦に長い卵形の裏で、胴部最大径は胴

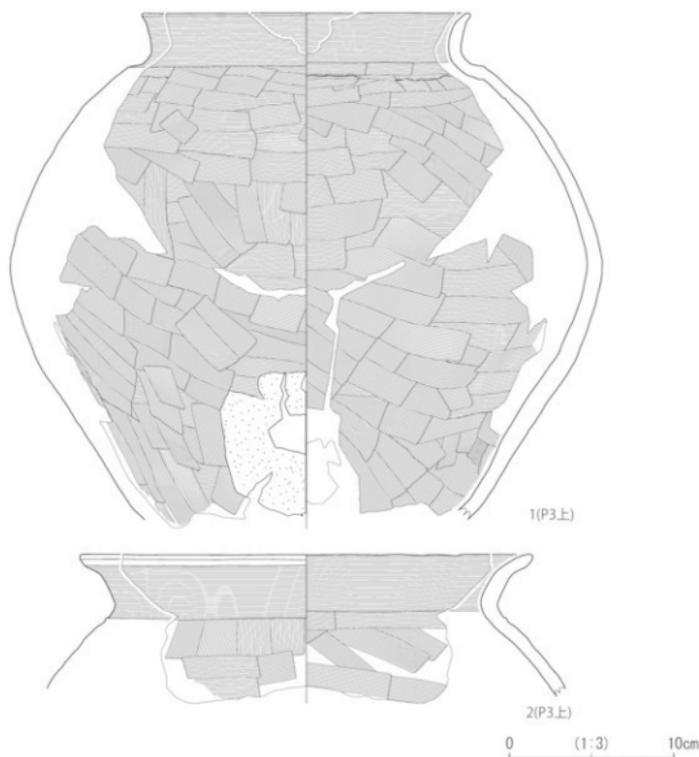
部ほぼ中央、口縁部と胴部の境界に段はなく、口縁部は湾曲して外反し開く。第81図-1の胴部最大径の位置する胴部ほぼ中央でやや屈曲気味に曲がる。口縁部と胴部の境界には稜を有し、口縁部は強く外反して立ち上がり、やや外傾する。2は土師器甕口縁部で、球形に内湾する胴部と口縁部の境界に浅い段を有し、口縁部は屈曲して直線的に外傾し上方でさらに屈曲し開く。

【時期】床面から出土した第80図-1～4はいずれも本遺構に伴う。これらの須恵器環模倣の土師器環から、本遺構の



図版番号	登録番号	調査区	出土地	形状	種類	部位	法原 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版	
							口径	底径					
1	C-049	東区南側	SI143	床	土師器 環	完整	14.6	14.8	4.0	口縁:239°, 体:209°	口縁:239°, 体:209°	内外面黒漆塗布	58-1
2	C-050	東区南側	SI143	床	土師器 環	完整	14.2	14.6	4.1	口縁:239°, 体:209°	口縁:239°, 体:209°	内外面黒漆塗布	58-2
3	C-051	東区南側	SI143	床	土師器 環	口縁～底	14.6	15.0	4.2	口縁:239°, 体:209°	口縁:239°, 体:209°		58-3
4	C-052	東区南側	SI143	床	土師器 環	口縁～底	14.4	14.5	4.9	口縁:239°, 体:209°	口縁:239°, 体:209°		58-4
5	C-054	東区南側	SI143	P3上	土師器 環	完整	15.2	15.4	4.8	口縁:239°, 体:209°	口縁:239°, 体:209°	内外面黒漆塗布	58-5
6	C-055	東区南側	SI143	P3	土師器 環	口縁～底	12.2	-	3.9	口縁:239°, 体:209°	口縁:239°, 体:209°	内外面黒漆塗布	58-6
7	C-053	東区南側	SI143	P3上	土師器 甕	口縁～底	25.1	8.0	34.2	口縁:239°, 胴:209°, 胴下段:209°	口縁:239°, 胴:209°		58-7

第80図 SI143竪穴住居跡出土遺物(1)



第81図 SI143竪穴住居跡出土遺物(2)

P3取番付	P3取番付	調査区	出土地	地階	種別	種類	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 種別
								上径	底径	高さ				
1	C-056	東区南側	SI143	P3上	土師器	甕	口縁~胴	19.0	-	13.5	114E:37F、82^上F	114E:37F、82^上F	外面調整済	58.9
2	C-057	東区南側	SI143	P3上	土師器	甕	口縁~胴	27.4	-	18.2	114E:37F、82^上F	114E:37F、82^上F		58.8

所属時期は郡山1期宮衝に先行する本書時期区分4期に属する。

SI144 竪穴住居跡(第82～84図)

【位置・確認】東区南側に位置する。

【重複】SI140・141、SD82、SB8、Pit26・28・103～105・236と重複関係にあり、SB8、SD82とピットより古く、SI141より新しい。SI140との新旧関係は不明である。住居中央はSD82により削失し、SD82以北は掘乱により床面が削平される。また、住居南西部は上部掘乱による凹凸が激しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西666cm、南北641cm以上を測る。平面形状は方形である。床面は2面存在する。

【方向】竪穴南壁基準でN-11°-Wである。

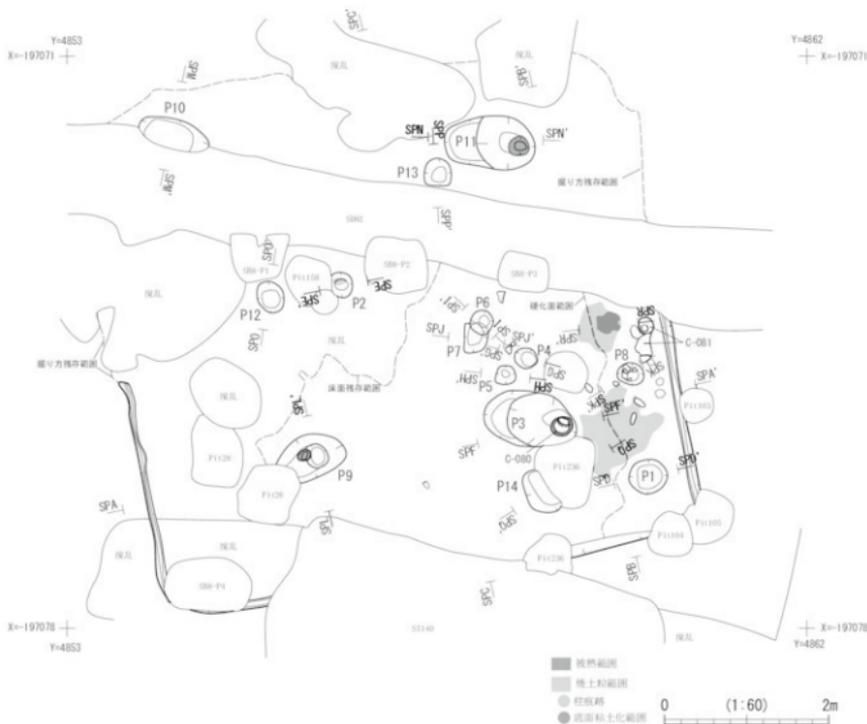
【堆積土】21層に分層された。1～8層は住居1面床面までの堆積土で、基本層IV層ブロックを含み、人為的な埋め戻しである。9層は周溝堆積土で、暗褐色シルト層である。10～19層は2面床面堆積土で、このうち10・12・19層は基本層IV層を主体とする明るいシルト層で、1面の貼り床である。20層は掘り方堆積土で、暗褐色シルトを主体とし基本層IV層ブロックを多量混入する。

【壁面】やや開いて直線的に立ちあがる。壁高は住居中央で16cmを測る。

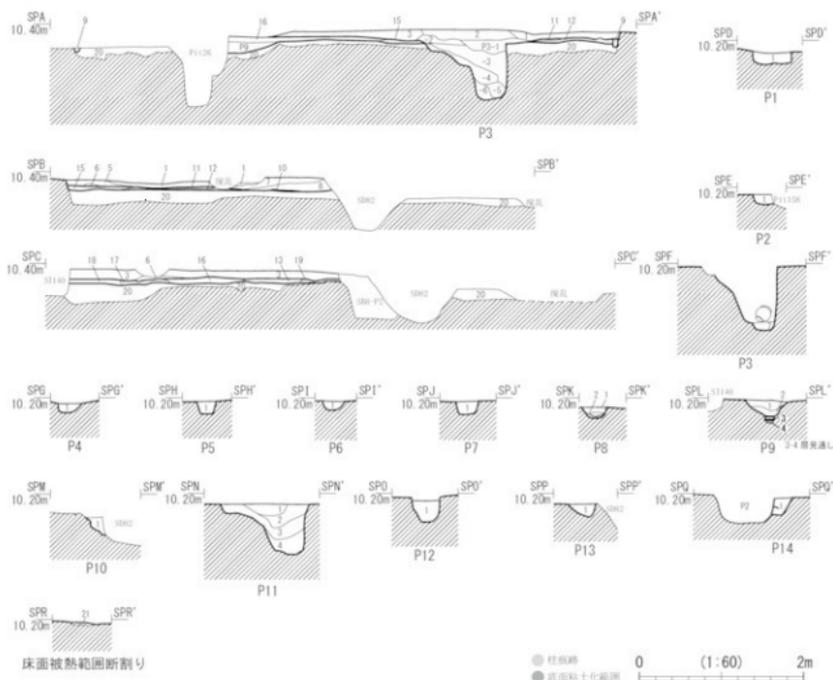
【床面】床面は比高差6cmの緩やかな凹凸がみられる。

【柱穴】ピットは14基検出した。このうち、P3・9・11は4本柱の主柱穴である。北西の主柱穴はSD 82に削平され欠失している。P3の底面から小型の甕(C-080)が横位で出土しており、住居廃絶後に柱が抜き取られ埋設されたと推測される。出土時には口縁部側に半球形の空洞が確認されている(写真図版17)。土器の蓋が腐食するなど埋納時の状況を示しているとみられる。P2とP9は底部に粘土化範囲が認められる。

【周溝】周溝は住居東西壁及び南壁南西隅で確認された。溝の幅は5～12cmと狭い。



第82図 S1144竪穴住居跡(1)



第83図 S1144竪穴住居跡(2)

S1144 施設観覧表

遺構名	平面形	幅員(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	46×42	16	
P2	円形	30×24	13	
P3	楕円形	110×66	29	土柱穴、SP15
P4	円形	38×38	11	
P5	円形	24×24	12	
P6	円形	30×28	12	
P7	楕円長方形	327×28	16	

遺構名	平面形	幅員(cm)	深さ(cm)	備考
P8	楕円形	30×28	14	
P9	楕円形	40×14	25	土柱穴
P10	楕円形	88×20	22	
P11	楕円形	110×66	29	土柱穴
P12	楕円形	38×32	21	
P13	楕円長方形	34×32	16	
P14	不明	60×31	21	

S1144 土層観覧表(1)

階位	層位	土色	土性	粘性	結核	基本層厚(層厚) 700mm以下	埋入物		備考
							埋土	筒状物	
住居(土 床)土	1	10YR3/2	暗褐色	シルト	弱	埋1~5mm 散見			
	2	10YR4/2	1:2.5~1黄褐色	シルト	弱	埋1~20mm 多量			
	3	10YR3/2	暗褐色	シルト	弱	埋5~15mm 中量			
	4	10YR3/2	暗褐色	シルト	弱	埋1~10mm 散見			
	5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	弱	埋1~5mm 散見			
	6	10YR6/2	1:2.5~1黄褐色	砂質シルト	弱	強			
	7	10YR6/2	1:2.5~1黄褐色	砂質シルト	弱	強			10YR4/2灰黄褐色土層1~10mm中量
	8	10YR6/2	1:2.5~1黄褐色	砂質シルト	弱	強			
	9	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	埋1~10mm 中量		

S144 土層観察表(2)

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物			備考
						基本層内層 プロット径	積土	炭化物	
住居東壁 階上土	10	10YR6/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	弱	強			
	11	10YR2/2	黒褐色	シルト	弱	普通	径1~5mm 中量	径1~5mm 少量	積土範囲。
	12	10YR6/2	にぶい黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 中量	径1~5mm 微量	10YR2/2黒褐色土、径1mm中量を含む。積土範囲。
	13	10YR4/4	暗褐色	シルト	弱	強	径1~5mm 少量		
	14	10YR3/2	暗褐色	シルト	弱	強	径1~15mm 中量		径1~5mm 微量
	15	10YR3/2	暗褐色	シルト	弱	強	径1~10mm 少量		
	16	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	弱	強	径1~5mm 微量		
	17	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	弱	強	径1~10mm 微量		
	18	10YR3/2	黒褐色	シルト	弱	強	径1~5mm 微量	径1~2mm 微量	径1~3mm 微量
	19	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	普通	強			
	20	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1~30mm 多量		
	21	2.5Y5/8	明赤褐色	砂質シルト	弱	強			

S144 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物			備考
						基本層内層 プロット径	積土	炭化物	
P1	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量		10YR7/1灰白色土、径1~5mm微量を含む。
	3	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 微量		10YR7/2にぶい黄褐色土、径1~20mm中量を含む。酸化鉄を中量含む。柱状収縮。
	4	10YR3/2	にぶい黄褐色	シルト	弱	強			10YR4/2灰黄褐色土と2.5YR/2にぶい黄色土(1~30mm)両方に混ざる。柱状収縮。
	5	10YR7/2	にぶい黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR4/1褐色土土、径1~30mm中量を含む。酸化鉄を中量含む。柱状収縮。
	6	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 多量		酸化鉄を微量含む。柱状収縮。
	7	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径1~5mm 微量		10YR3/2暗褐色土、径1~20mm中量を含む。
P4~7	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 中量	径1~3mm 微量	灰白色土、径1~10mmを少量含む。酸化鉄を少量含む。
	2	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	
P6	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	普通	普通	径1~5mm 多量		
	1	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1~20mm 少量		
	2	10YR6/6	明黄褐色	シルト	普通	強			10YR3/2暗褐色土、径1mm中量を含む。
P9	3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 微量		柱状収縮。
	4	10YR6/1	褐色	粘土質	強	普通			径10~10mmの厚で酸化鉄が電線する。柱による粘土化範囲。
	1	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1~50mm 中量	径1~20mm 微量	径1~10mm 微量
	2	10YR6/6	明黄褐色	シルト	弱	強	径1~20mm 微量	径1~10mm 微量	径1~15mm 微量
P11	3	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1~10mm 微量	径1~10mm 微量	径1~5mm 微量
	4	10YR3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径1~10mm 微量	径1~10mm 微量	径1~5mm 微量
	3	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	強	普通	径1~20mm 少量		
	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 微量		
P12	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 微量		10YR3/1褐色土土、径1mm中量を含む。酸化鉄を微量含む。
P13	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 微量	径1~2mm 微量	径1~5mm 微量
P14	1	10YR3/2	にぶい黄褐色	シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	径1mm 微量

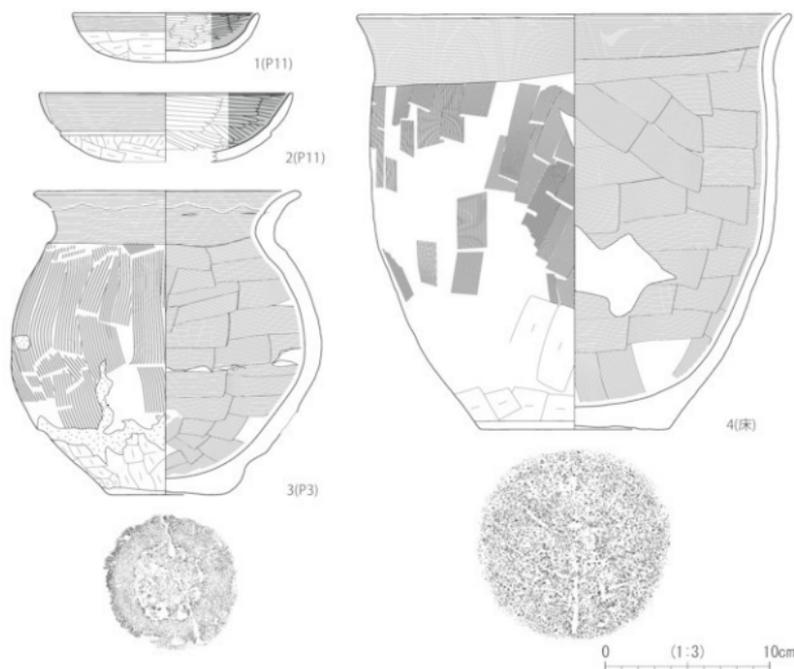
【その他の施設】住居東壁際中央に地床が1基確認された。床面が被熱しているが、床面に窪みはない。地床がの周辺及び南側床面に焼土が分布する。P2・12・13は床面が削平された地点で確認されたため、本遺構より新しい個別ピットの可能性がある。

【掘り方】掘り方は外周が深く、中央が高い。

【出土遺物】土師器4点を掲載した(第84図)。第84図-1はP11出土の土師器環で、底部はやや平底気味で、体部にかけて緩く湾曲し外傾して開く器形で、口縁部と体部の境界に稜はない。調整は、体部外面にはヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2はP11出土の土師器環で、口縁部と体部の境界に段を有し、体部から口唇部まで湾曲する。器高に対し口縁部の立ち上がりの割合が高い。調整は、体部外面

はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。第84図-3はP3の底面から出土した球形の土師器甕で、厚手で底部外縁に粘土が貼付される。口縁部に稜があり口縁部は外反して開く。調整は、胴部外面は間隔の大きいハケメ、外面下部部にヘラケズリが施される。胴部内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。4は地床がの東側床面から出土した甕である。緩やかに湾曲してほぼ垂直に立ち上がる器形で、胴部最大径は口縁部との境界に位置し、その境界にはわずかに稜がみられる。口縁部は緩やかに外反し開く。調整は、胴部外面は幅が密なハケメ後下半部にヘラケズリが施される。

【時期】上記の掲載遺物はいずれも本遺構に伴うと考えられる。第84図-2は栗閉式土器に後続する型式のうち新しい段階に位置づけられ、郡山Ⅱ期官衙、本書時期区分6期に相当し、本竪穴住居跡の所属時期を示している。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-078	東区南側	S144	P11	土師器	杯	口縁~底	(11.3)	(10.8)	3.0	口縁:22折、体:9折式	内面黒色処理	59-2	
2	C-079	東区南側	S144	P11	土師器	杯	口縁~体	(15.3)	(12.8)	(4.0)	口縁:23折、体:9折式	内面黒色処理	59-2	
3	C-080	東区南側	S144	P3	土師器	甕	口縁~底	15.8	6.6	18.6	口縁:22折、胴:7折式、胴下部:9折式、器底:9折式土器(器底粘土層付)	口縁:23折、胴:9折式		59-3
4	C-081	東区南側	S144	床	土師器	甕	口縁~底	(26.2)	11.5	25.4	口縁:22折、胴:9折式、底:本葉面	口縁:22折、胴:9折式		59-4

第84図 S1144竪穴住居跡出土遺物

SI145 竪穴住居跡(第85・86図)

【位置・確認】中区南側に位置する。北半を攪乱に削平される。

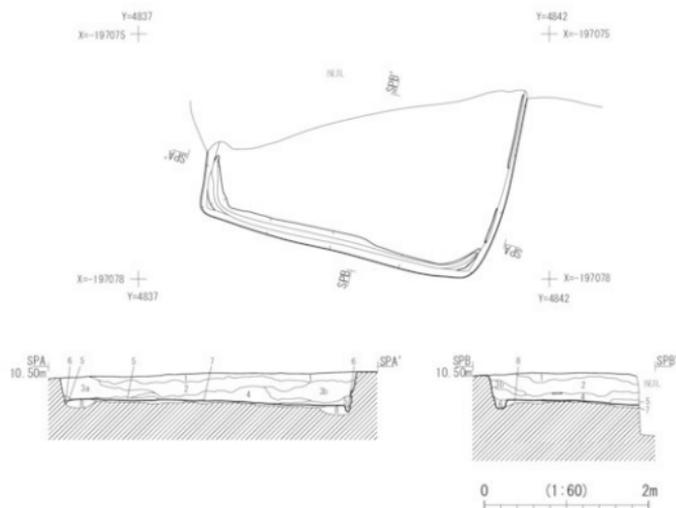
【重複】SI136・152と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は東西365cm、南北236cm以上を測る。平面形状は方形であるが、隅はやや丸い。

【方向】南壁基準でN-14°-Eである。

【堆積土】大別8層、細別9層に分層された。1～5層は住居堆積土で、うち上層の1層と2層は基本層IV層ブロックを多量含む。以下3～5層には基本層IV層ブロックは殆どみられないことから、自然な埋没の過程で、上層のレンズ状の窪みが人為的に埋め戻されたと考えられる。6層は周溝堆積土、7層と8層は掘り方堆積土で、うち7層は基本層IV層ブロックを主体とし、住居中央部に分布する粘床である。8層は掘り方外周部の深い部分に認められる7層よりも暗い堆積土である。

【壁面】やや開いて直線的に立ち上がる。壁高は住居西側で36cmを測る。



第85図 SI145竪穴住居跡

SI145 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物		備考	
						基本層IV層ブロック	灰化土		
住居 堆積土	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 多量	径1～10mm 微量	人為堆積。
	2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 多量	径1～5mm 微量	人為堆積。
	3a	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 少量		自然堆積。
	3b	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 多量	径1～3mm 微量	自然堆積。
	4	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 微量		自然堆積。下半部はややグライ化がみられる。
周溝	5	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 多量		自然堆積。ややグライ化する。
	6	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	強	強	径1～5mm 少量		
掘り方	7	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 多量		
	8	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	強	強	径1～10mm 多量	径1～3mm 微量	



図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
								口径	底径	高さ				
1	C-082	中区南側	SI145	堆積土	土師器	甕	1146~孔	117.5	11.8	21.3	1146:377, 底:377	1146:377, 底:377, 孔周辺:377	内外面に黒炭	39-3

第86図 SI145竪穴住居跡出土遺物

【床面】床面はほぼ片端だが、南壁側から北側へ6cm、東壁から西壁側へ8cmのゆるやかな傾斜がみられる。

【床面施設】検出された住居南半では周溝のみ確認され、カマド、ピットやその他施設はない。

【周溝】周溝は検出された範囲を途切れながら巡る。周溝は東西壁では幅4cm、深さ6cm程度と狭く、南壁では最大幅16cm、深さ10cmとやや規模が大きい。調査時には幅、深度ともに掘り過ぎていた。

【掘り方】掘り方は外周が深く、中央が高い。

【出土遺物】堆積土中から出土した土師器甕1点を掲載した(第86図)。その他、堆積土中からは土師器杯や須恵器の杯・高杯が出土している。第86図-1は単孔式の甕で、胴部は1寸胴で口縁部から底に近い部分までほぼ同じ径を呈し、底部のみやや内湾して窄まる。口縁部に段はなく、口縁部は外反して開く。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される。

【時期】掲載遺物の第86図-1は堆積土上層からの出土であり、本遺構の年代を確実に示すものではない。新旧関係のあるSI136は郡山1期～II期、本書時期区分5～6期の遺物を伴うことから本竪穴住居跡の時期はそれ以降である。

SI146 竪穴住居跡(第87・88図)

【位置・確認】東区北側に位置する。住居中央部や北西隅を掘削に削平される。

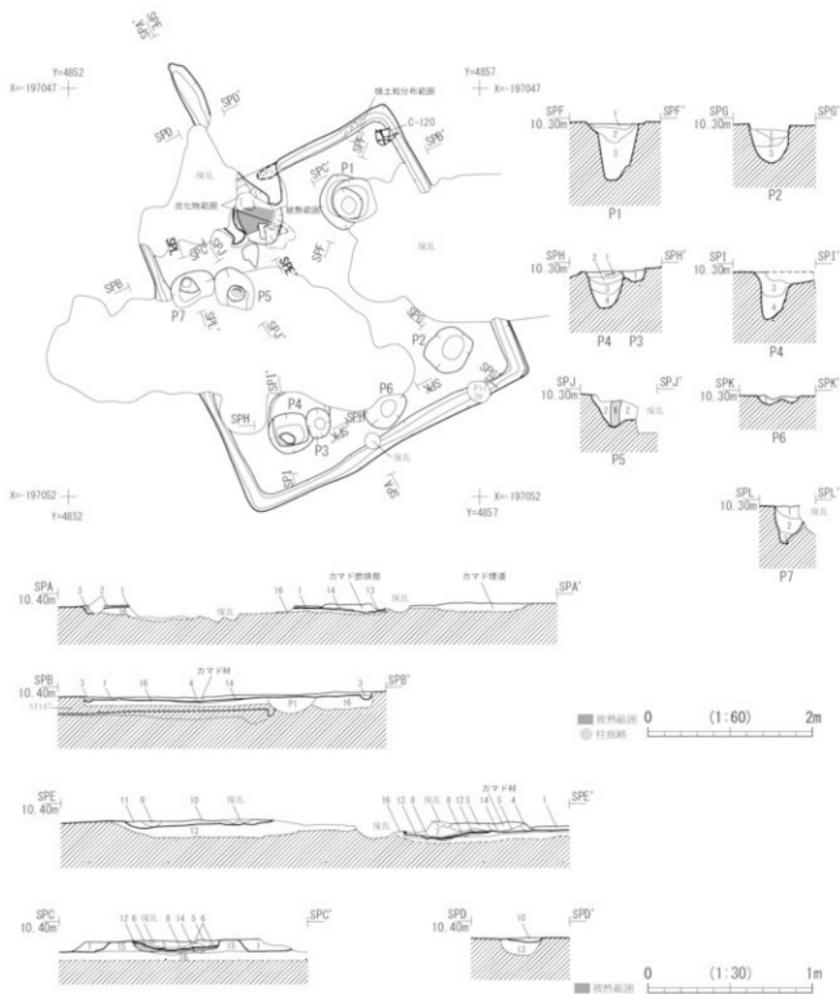
【重複】SI147、SD91、Pit59と重複関係にあり、Pit59より古くSI147。SD91より新しい。

【規模・形態】住居の規模は南北377cm、東西378cmを測る。平面形状はほぼ正方形である。

【方向】カマド主軸基準でN-27°-Wである。

【堆積土】16層に分層された。遺構検出面から住居床面まで薄く、住居堆積土の大部分を占める1層はグライ化し暗青灰色を呈し、基本層IV層ブロックを混入する。2層は南壁際の堆積土、3層は周溝堆積土である。4～8層はカマド燃焼部堆積土で、5層は焼土を多量混入する。8層は黒色で灰を混入する火床面直上層である。9～11層はカマド煙道部で、10層は基本層IV層を主体とした土が被熱した、天井部崩落土である。12～16層は掘り方堆積土で、12層はカマド火床面、13層はカマド煙道部、14・15層はカマド掘り方、16層は掘り方堆積土である。

【壁面】やや開いて立ち上がる。遺構検出面から床面まで浅く、残存する壁高は調査区南壁際で4cmを測る。



第87図 S1146竪穴住居跡

S1146 施設観表

遺構名	平面形	短径(cm)	長径(cm)	構造
P1	木骨門形	68×67	73	土柱穴
P2	木骨方形	55×56	47	土柱穴
P3	楕円形	37×22	17	土柱穴
P4	木骨楕円形	(150)×(30)	36	土柱穴

遺構名	平面形	短径(cm)	長径(cm)	構造
P5	不明	580×180	80	土柱穴
P6	楕円形	440×240	12	土柱穴
P7	楕円形	34×28	47	土柱穴

S1146 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋人物		備考
						基本層位置 (プロット-数)	埋込物	
住居 階上土	1	B64/1	緑青灰色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 中量	径1～3mm 微量
	2	B64/1	緑青灰色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～3mm 微量
周溝	3	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	
	4	5YR3/6	緑褐色	粘土質シルト	普通	強		
	5	5YR3/4	緑赤褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 中量
	6	7.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～3mm 微量
	7	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～1mm 中量	
	8	2.0Y2/1	灰色	泥	普通	強		
	9	2.5Y7/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強		天井散積基土。
	10	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 多量	径1～3mm 微量
	11	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～10mm(5YR3/2)黒褐色土少量。
	12	10Y4/6	赤褐色	粘土質シルト	普通	強		カマド層下方、焼熱した火床面。
カマド 層下方	13	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強		径1～10mm(明黄褐色土と5YR3/1)黒褐色土が混在、標準層下方。
	14	2.5Y4/2	オリーブ褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm暗褐色土微量。
	15	7.5Y4/1	灰色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm暗褐色土微量、粒散方、グライ化。
	16	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 中量	ややグライ化。

S1146 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋人物		備考
						基本層位置 (プロット-数)	埋込物	
P1	1	B74/1	灰色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	普通	強		
	3	10YR4/1	にじい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 中量	
P2	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量
	2	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	普通	強		2.5Y6/4に5Y黄褐色土に径1～10mm(5Y3/1)黒褐色土少量。
	3	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強		2.5Y6/4に5Y黄褐色土に径1～10mm(5Y3/1)黒褐色土少量。
P3	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～10mm 微量
	3	10YR4/2	にじい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	
P4	1	10YR4/2	にじい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	
	2	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強		7.5Y3/1オリーブ褐色土に10mm多量 グライ化。
	3	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強		7.5Y3/1オリーブ褐色土に10mm少量 グライ化。
	4	10YR4/2	にじい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	
P5	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	柱痕跡、グライ化。
	2	5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 中量	径1～5mm 微量
P6	1	7.0Y3/1	オリーブ灰色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 微量
	2	5Y4/3	暗オリーブ色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 微量
P7	1	7Y3/2	オリーブ灰色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量
	2	2Y2/2	オリーブ灰色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量

【床面】ほぼ平坦であるが、東から西に向かって約5cmの傾斜がみられる。

【柱穴】ピットは7基検出した。規模と深度からP1・2・4・5・7は柱穴と推測され、うちP5からは柱痕跡が確認されている。位置関係からP1・2・4は4本柱の主柱穴に相当すると考えられるが、P5・7はどちらも並びが悪く、主柱穴と断定できない。

【周溝】検出した範囲において周溝は全周する。カマド東袖下部に周溝の続きが検出されたことから、カマドは周溝掘削後に構築している。

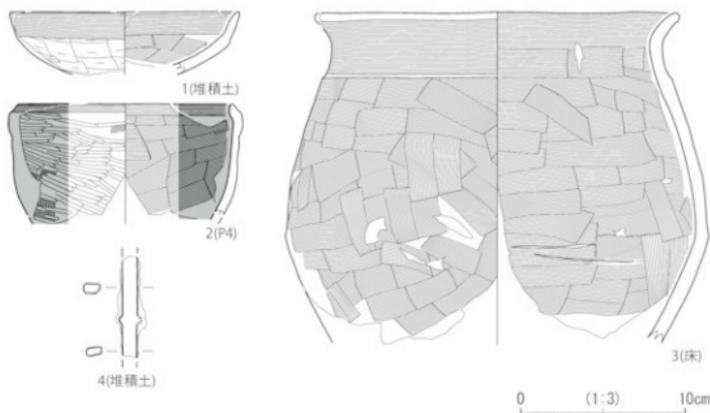
【カマド】カマドは北壁やや西寄りに位置する。袖及び火床面、煙道部は攪乱に削平されるものの遺存する。燃焼部奥壁は住居北壁と一致し、煙道に続くが攪乱に削平され、燃焼部と煙道部の比高差は不明である。煙道は住居外の163cm北側まで続き、緩やかに下がる。煙道部先端底面は住居床面よりも高い。カマド袖石や支脚は認められないが、砂岩のカマド構築材が出土している。

【その他の施設】P6は南壁際中央に位置することから、出入り口ピットの可能性があるが、柱材等の痕跡は認められない。

【掘り方】全体に浅く、平坦に掘り下げている。中央部はSI 147 堆積土と明確に区分できないが、わずかに掘り下げた段階でSI 147 のプランが認められることから、殆ど掘れない。また、中央やや南側は攪乱の影響によるグライ化と酸化鉄の集積により、掘り方堆積土と基本層IV層の判別がつかない。

【出土遺物】土師器3点、金属製品1点の計4点を掲載した(第88図)。第88図-1は堆積土出土の土師器環で、体部は内湾し、口縁部と体部の境界は内外面共にわずかな稜を有し、口縁部は直線的に外傾し開く。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁分は内外面共にヨコナデが施され、内外面に黒漆が塗布される。2はP4出土の土師器環で、体部はほぼ垂直に立ち上がり、短い口唇部は屈曲し内傾する。調整は、体部外面はハケメの後ヘラミガキ、内面はヘラナデ、口唇部内外面にヨコナデがなされ、内外面共に黒色処理が施される。3は住居北東隅床面で出土した土師器裏で、胴部最大径部分で屈曲し、わずかに内湾して内傾する胴部から口縁部が外反して開く。口縁部と胴部の境界には段を有する。調整は、内外面ともに胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。4は堆積土中出土の棒状鉄製品である。その他、図化していないが、須恵器の環と蓋の破片、土師器内黒環などが出土している。

【時期】掲載した遺物のうち、第88図-2・3は本遺構に伴い、郡山I期～II期官衛に位置づけられる。また、本遺構より古いSI 147 は郡山遺跡I期に位置づけられる遺物が出土していること、本遺構より新しいSD 82 が郡山II期官衛関連と考えられることから、本遺構は郡山I期～II期、本書時期区分の5～6期に位置づけられる。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								全長	幅	厚				
1	C-121	東区北側	SI146	堆積土	土師器	環	口縁～体	(1.38)	(13.0)	0.8	口縁: 22F、体: 40Y 0	口縁: 22F、体: 40F	内外面黒漆塗布	50-6
2	C-122	東区北側	SI146	P4	土師器	環	口縁～体	(13.0)	-	0.8	口縁: 22F、体: 30F→40F 1	口縁: 22F、体: 40F	内外面黒色処理	50-7
3	C-120	東区北側	SI146	床	土師器	器	口縁～胴	(21.8)	-	(20.3)	口縁: 22F、胴: 40Y 0	口縁: 22F～胴: 40F		50-8
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種		法量 (mm)			重量	特徴・備考	写真図版	
4	N-010	東区北側	SI146	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	0.2	0.8	0.9	12.9				

第88図 SI146竪穴住居跡出土遺物

SI147 竪穴住居跡(第89～91図)

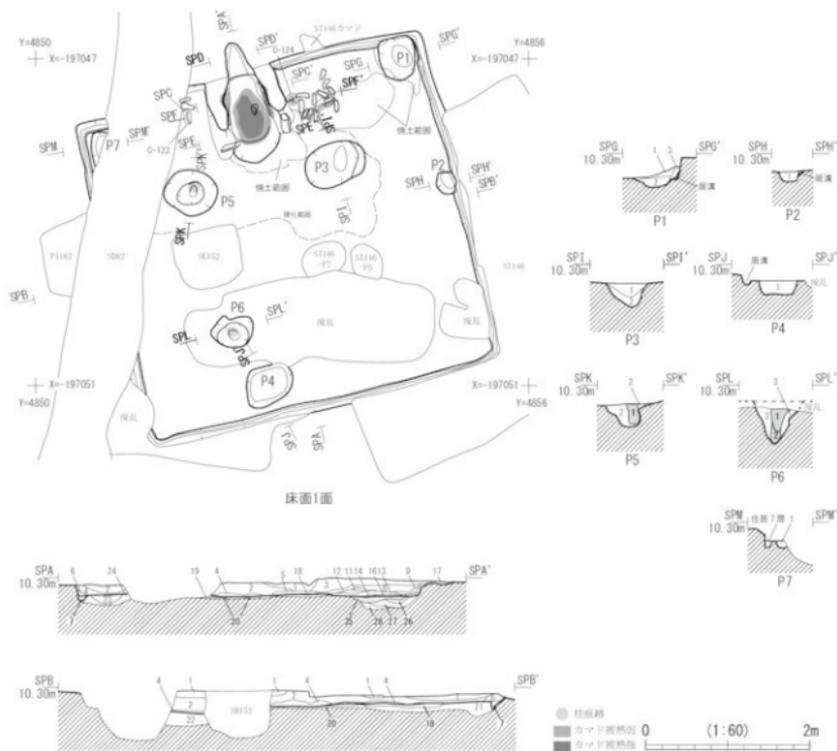
【位置・確認】東区北側に位置する。住居床面南半は擾乱に削平される。

【重複】SI146・SD82・SK152と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北420cm、東西447cm以上を測る。平面形状はやや東西に長い方形である。

【方向】カマド主軸基準でN-12°-Wである。

【堆積土】30層に分層された。グライ化し全体にオリ-ブ色を呈する。1～6層は住居堆積土で、ブロックを多量混入する人為的な埋め戻し層である。7層は周溝堆積土である。P1の堆積土3層は住居壁に沿って分布することから、周溝堆積土と連続する可能性がある。8層～17層はカマド堆積土で、8層、9層、11層、17層は基本層IV層ブロックを主体とし天井部崩落土とみられる。13層～16層はカマド使用時の炭化物・焼土を混入する層である。このカマド由来の焼土・炭化物層はカマド前面及び東側床面に分布し、住居北東隅に位置するP1内部及びその上部に認められる。



第89図 SI147竪穴住居跡(1)

18層～24層は掘り方堆積土で、18層は灰白色粘土質シルトの貼床である。25層～30層はカマド掘り方堆積土で、基本層Ⅳ層ブロックを主体として構築される。

【壁面】やや開いて立ち上がる。残存する壁高は調査区東壁南側で14cmを測る。

【床面】ほぼ平坦だが、住居中央西側が窪む。貼床の18層は灰白色と暗褐色土粘土質シルトの互層で、わずかな補修の繰り返しによる結果とみられる。

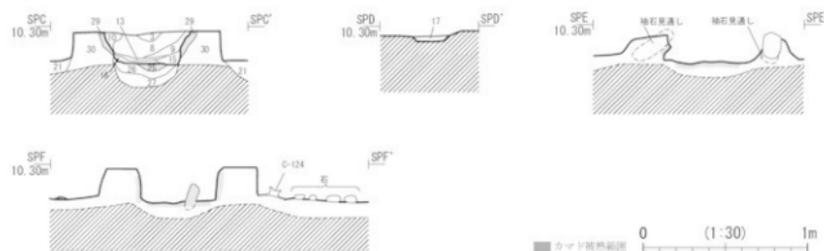
【柱穴】ピットは6基検出した。規模と位置関係からP3・5・6は4本柱の主柱穴に相当すると考えられる。P5・6は柱痕跡が認められる。南東部の主柱穴は攪乱に削平されている。

【周溝】検出した範囲において北壁カマド西側を除いて周溝は全周する。周溝は細い。住居の断面では堆積土上方まで延びないが、住居北東部ではP1上部の焼土が壁際に達せず一部周溝堆積土が住居壁に沿って立ち上がっているとみられる。

【カマド】カマドは北壁中央に位置する。袖及び火床面は良好に遺存する。焼境部奥壁は住居北壁と一致し、煙道は序々に上がり住居外42cm北側で欠失する。カマド袖はほぼ垂直に形成され、カマド袖先端には袖石とみられる礫が袖にもたれかかるように直立する。西側の礫はおおよそ45度の角度で傾いており、元位置をやや動いているものとみられる。石製の支脚はカマド焼境部中央やや東寄りに位置する。カマド火床面及び側面は支脚手前及び東壁が著しく被熱する。

【その他の施設】P1は焼土を少量混入する土(P1-3層)で床面とほぼ同じ高さまで埋まり、その上方には多量の焼土を含む堆積土範囲が検出された。また、カマドとP1の延長線上に焼土範囲が認められる。P1は焼土を含むことから、カマド由来の焼土を北東隅に集めたものとみられる。また、焼土を含む1・2層に対し3層は壁に沿ってほぼ直立し、周溝と連続する可能性があることから、住居壁の板材等の痕跡の可能性はある。その他、P2・4・7はいずれも住居壁際に位置し、浅く柱痕跡はない。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層Ⅳ層ブロックを主体とする。



第90図 S1147竪穴住居跡(2)

S1147 施設観覧表

施設名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	方形	34×40	12	
P2	方形	27×28	18	
P3	楕円形	24×32	39	主柱穴
P4	方形	40×40	18	

施設名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P5	円形	42×52	29	主柱穴
P6	方形	46×44	45	主柱穴
P7	方形	50×140	8	

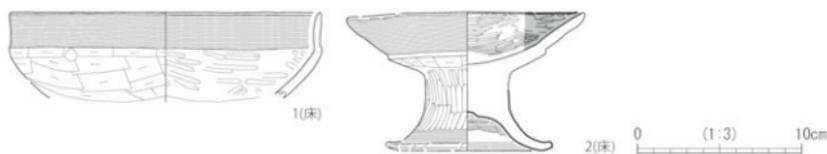
S147 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粒径	縮まり	基本層IV層 ブロック状	混入物		備考
							焼土	炭化物	
自然 堆積土	1	5V5/4	オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			グライ化した5V5/4オリーブ色土層1～30mmと5V4/3層1～30mmオリーブ褐色土層との境目
	2	2.5V4/1	黄灰色	粘土質シルト	普通	強			一部グライ化した5V5/2オリーブ灰色を含有する
	3	5V5/6	オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			5V6/6オリーブ黄色の基本層IV層土と5V4/2灰オリーブ色土層1～5mm多量に混入
	4	5V4/1	灰色	粘土質シルト	普通	強			グライ化
	5	5V5/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			グライ化
	6	5V3/2	オリーブ灰色	粘土質シルト	普通	強			
調査	7	2.5V4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト	普通	強			2.5V4/1オリーブ褐色土層1～5mm少量、南端で5V4/1層に接し、5V5/1オリーブ灰色土層を呈する
	8	10V3/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強			基本層IV層土主体、焼熱した天井焼落土
カマド	9	10V3/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼10mm 少量
	10	10V3/6	明黄褐色	砂質シルト	普通	強			焼10mm 少量
	11	2.5V4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強			焼熱した天井焼落土
	12	5V3/3	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	強			焼熱した天井灰吹落土
	13	7.5V3/1	灰色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
	14	7.5V3/2	灰褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～3mm 少量
	15	2.5V4/2	灰褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
	16	10V3/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～5mm 少量
	17	10V3/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼熱した基本層IV層土の5V3/4(2.5V5/6)褐色土層1～10mm多量
	18	5V7/2	灰白色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
灰の方	19	2.5V3/2	黄褐色	粘土質シルト	強	強			焼1～3mm 少量
	20	5V3/4	暗赤褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～3mm 少量
	21	10V3/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強			焼1～10mm 少量
	22	2.5V5/2	黄褐色	砂質シルト	弱	強			
	23	5V4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	弱	強			2.5V6/4にじみ黄褐色土層1～20mmと2.5V5/1黄灰色土層1～30mm混在
	24	5V3/2	灰オリーブ色	砂質シルト	弱	強			5V5/1(灰色土-5V3/3)RCオリーブ色土-5V3/1オリーブ灰色土の混在、グライ化
	25	2.5V4/6	赤褐色	砂質シルト	弱	強			5V4/1(灰色土層)1～10mm少量、グライ化、 大床面、焼熱した土
	26	10V3/6	黄褐色	砂質シルト	弱	強			焼熱した結晶の10V3/2(灰色土層)1～10mm少量
	27	10V3/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強			焼熱した結晶の10V3/2(灰色土層)1～10mm少量
	28	10V3/6	黄褐色	砂質シルト	弱	強			焼熱した結晶の10V3/2(灰色土層)1～5mm少量
カマド 灰の方	29	5V4/6	赤褐色	砂質シルト	弱	強			焼熱する
	30	10V3/6	黄褐色	砂質シルト	弱	強			焼1～20mm 少量
									焼1～10mm 少量

S147 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粒径	縮まり	基本層IV層 ブロック状	混入物		備考
							焼土	炭化物	
P1	1	2.5V3/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
	2	2.5V3/1	黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～3mm 少量
	3	10V3/4	褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
P2	1	5V4/2	暗オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
	2	7.5V4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			焼1～3mm 少量
P3	1	5V6/6	オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
	2	5V6/6	オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			焼1～3mm 少量
P4	1	5V4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			焼1～2mm 少量
	2	10V3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼1～10mm 少量
P5	1	10V3/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強			焼10mm 少量
	2	10V3/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強			10V3/1(灰色土層)1～30mmと2.5V3/6(明黄褐色土)20%混在
P6	1	5V3/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			5V5/3RCオリーブ色土と5V4/1(灰色土)混在、グライ化、柱痕跡
	2	5V4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			5V4/1(灰色土層)1～10mm少量、グライ化、柱痕跡
P7	1	5V3/4	オリーブ色	粘土質シルト	普通	強			5V3/1(灰色土層)1～10mm少量、グライ化
	2	2.5V4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト	普通	強			2.5V2/1(灰色土層)1～5mm少量

【出土遺物】カマド際の床面から出土した土師器2点を掲載した(第91図)。第91図-1はカマドの西側床出土の須臾器模倣の土師器高環で、口縁部と体部の境界に稜を有し、口縁部はわずかに外反しほぼ直立する。調整は、口縁部内外面ヨコナデ、外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキが施される。2はカマドの東側床から逆位で出土した土師器高環で、環部は扁平な底部から上方に直線的に開き、底部と口縁部の境界に段を有する。脚部は柱状中空で裾部は外反し開く。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
								口径	底径					
1	C-123	東区北側	SI147	床	土器	杯	口縁～体	18.8	19.0	(5.5)	口縁:32F、体:49F	口縁:32F、体:49F		59-10
2	C-124	東区北側	SI47	床	土器	高杯	口縁～胴	(14.3)	8.7	8.5	口縁:32F、杯:49F、胴:12F～胴:49F	杯:49F、胴:49F、胴:12F	杯部内面黒色処理	59-11

第91図 SI147竪穴住居跡出土遺物

調整は、坏部口縁部外面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキが施され、内面は黒色処理されている。脚部は、外面はヨコナデ後柱状部をヘラミガキ、内面の裾端部はヨコナデ、内面はヘラナデが施される。その他カマド袖東側では編み物石状の礎が14個体まとまって出土している。カマド袖西側にも編み物石状の礎が2個体出土しているが、その東側はSD82に削平されており、本来の個数は不明である。

【時期】掲載した2点の遺物は本遺構に伴う。第91図-2は住社式土器新段階以降の特徴を有し、1は栗園式土器の古～中段階の特徴を持つ。本遺構の所属時期は郡山I期官衙以前、本書の時期区分4期であることを示している。

SI148 竪穴住居跡(第92～96図)

【位置・確認】東区北側に位置する。中央を掘乱とSD82に削平される。北側は調査区外に続く。本遺構床面からは炭化材が出土しており、焼失住居である。

【重複】SI149・151、SD82・84～86、SX13と重複関係にあり、SD82・84・85よりも古く、SI149・151、SD86、SX13より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西755cm、南北499cm以上を測る。平面形状はやや南壁が内側に湾曲するが、概ね方形とみられる。

【方向】東西壁基準でN-5°-Wである。

【堆積土】13層に分層された。このうち、1～8層は住居堆積土、9～13層は掘り方である。床面に堆積する3～5層を中心に焼土・炭化物を混入し、床面からは南西隅を中心に形状の残存する炭化材が出土している。3層は住居東西壁際で確認され、床面が一段窪んで炭化材がその底面に達していることから、本遺構には周溝が存在していた可能性がある。掘り方は基本層IV層ブロックを多量含む。

【壁面】やや開いて立ち上がる。残存する壁高は調査区北壁で31cmを測る。

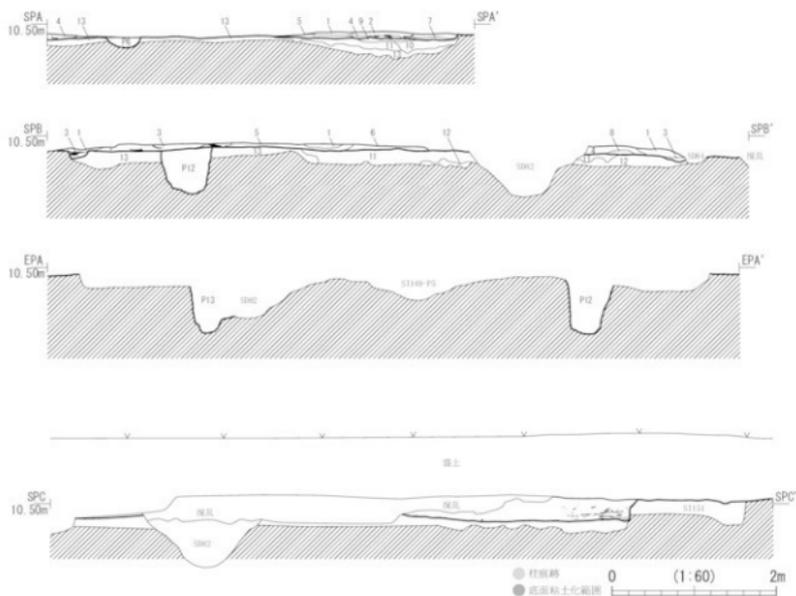
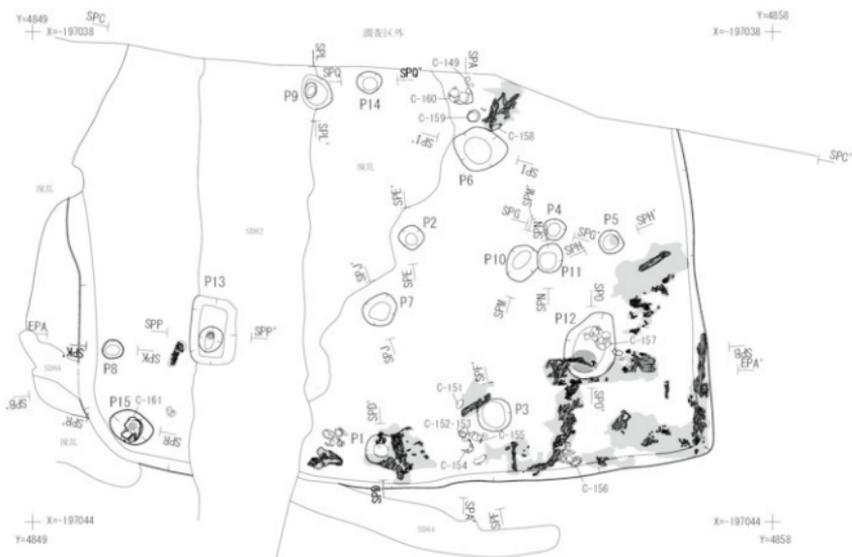
【床面】ほぼ平坦で、東に向かって9cm下がる。

【柱穴】ピットは15基検出した。規模と位置関係からP12・13は4本柱の主柱穴に相当すると考えられる。P12は柱痕跡が確認され、P12・13共に底部に粘土化する範囲が認められる。

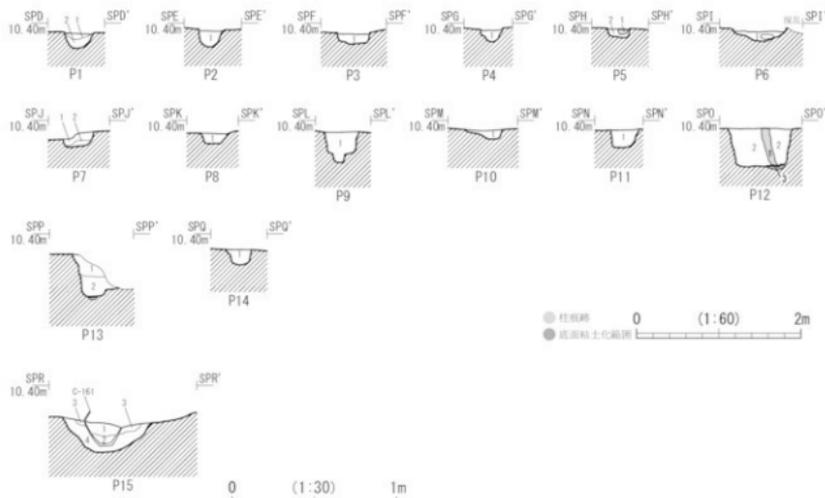
【周溝】平面的に周溝は確認できなかったが、断面観察では、炭化材が住居床面壁際においてわずかに沈み込んでいることから、本来、浅い周溝が住居壁に沿って巡っていたと考えられる。

【その他の施設】P15は住居南西隅に位置し、土師器甕(第95図-4)を正位で埋設したピットで、甕上部は遺構確認時に削平されている。甕の内面には炭化物が多量混入することから、住居焼失時には甕は空洞であったとみられる。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。



第92図 SI148竪穴住居跡(1)



第93図 S1148竪穴住居跡(2)

S1148 施設観覧表

遺構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	円形	28×28	22	
P2	円形	28×28	22	
P3	円形	40×40	15	
P4	円形	28×28	17	
P5	円形	22×28	12	
P6	本型円形	56×24	15	
P7	本型円形	42×28	19	
P8	円形	18×22	12	

遺構名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P9	楕円形	64(1)×42(1)	27	
P10	楕円形	46×24	12	
P11	円形	36×30	22	
P12	本型楕円形	80×62	22	土柱立
P13	隅丸長方形	82×56(1)	27	土柱立
P14	円形	38×28	20	
P15	楕円形	55×28	22	

S1148 土層観覧表

観覧位置	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層厚 (cm)	採入物		備考
							雑土	炭化物	
住居南端上	1	10YR4/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~10mm 少量	
	3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~10mm 少量	炭化物
	4	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	5	10YR4/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~10mm 少量	
	6	10YR4/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
	7	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	8	10YR4/2	にじい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
	9	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
	10	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
観覧下	11	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~20mm 少量	径1~5mm 少量	
	12	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	強	強	径1~20mm 少量	径1~5mm 少量	
	13	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	強	強			10YR3/2黒褐色土、径1~10mm少量含む。

S1148 施設土層観覧表(1)

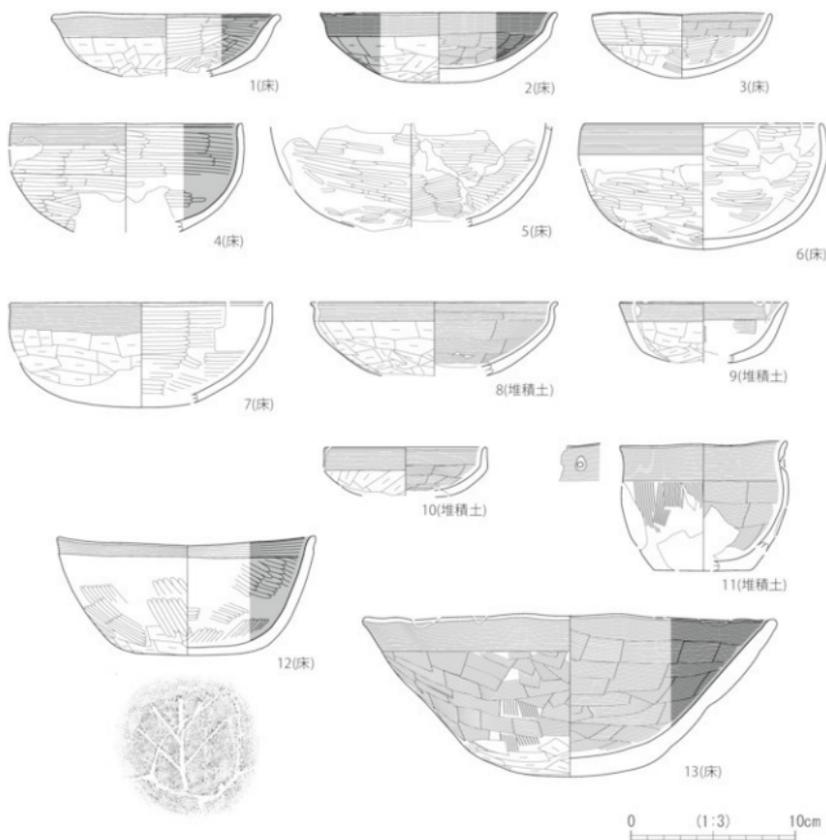
観覧位置	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層厚 (cm)	採入物		備考
							雑土	炭化物	
P1	1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 少量	径1~20mm 少量	
	2	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	

SI148 施設上層観察表(2)

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	遺失物		備考
						基本調査層 ゾーンの付	検土 炭化物	
P2	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 程度	
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	
P5	1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 程度	柱状跡。
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	
P7	1	10YR/4	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 程度	
	2	10YR/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強		
P8	1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 程度
P9	1	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 程度	
P10	1	10YR/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 程度	
P11	1	2.5Y/6	黄褐色	粘土質シルト	強	強		10YR3/6黄褐色土、径1~10mmと10YR3/4暗褐色土、径1~10mm程度。
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量
P12	1	2.5Y/6	黄褐色	粘土質シルト	強	強		10YR3/6黄褐色土、径1~10mmと10YR3/4暗褐色土、径1~10mm程度。
	2	2.5Y/6	黄褐色	粘土質シルト	強	強		柱状跡粘土の跡。
	3	2.5Y/4	にじみ黄色	粘土質シルト	強	強		
P13	1	2Y/3	灰オレンジ色	粘土質シルト	普通	強		2Y4/2Rオレンジ色、径1~10mmと2Y2/4オレンジ色、径1~10mm程度、クワイ化。
	2	10Y/2	オレンジ灰色	粘土質シルト	普通	強		10YR3/7暗灰色、径1~10mmと2Y2/4オレンジ色、径1~10mm程度、クワイ化、最上部に黒褐色土を伴う。
	3	2.5Y/4	にじみ黄色	粘土質シルト	強	強		柱状跡粘土の跡。
P14	1	10YR/1	暗灰色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 程度	
P15	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量
	2	XZ/0	黒色	泥	普通	普通		
	3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~10mm 程度	径1~10mm 程度
	4	2.5Y/6	オレンジ褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量

【出土遺物】確認面から住居床面まで浅く、遺構堆積土は少ないが、焼失住居で床面に遺存した遺物が多い。住居中央付近で土師器の環や鉢4点、住居南壁際中央で環が5点まとまって床面から出土している。これら床面出土土器を含め、土師器17点、須恵器1点、金属製品2点、石製品2点の計22点を掲載した(第94~96図)。

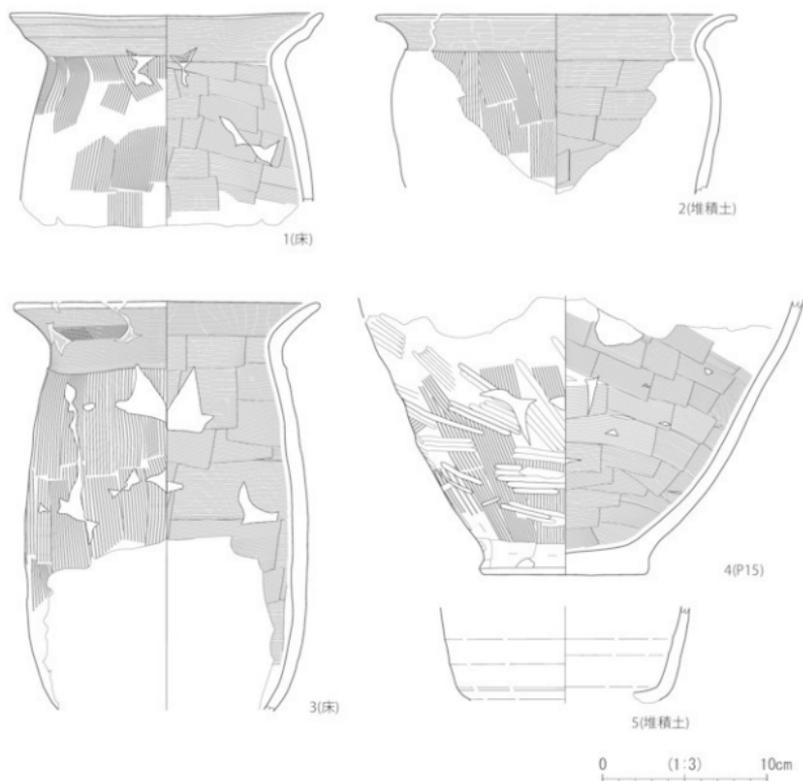
第94図-1は床面出土の土師器環で、底部から体部にかけてゆるやかに屈曲し、口縁部は直線的に開き口唇部はわずかに外反する。口縁部と体部の境界に稜はない。調整は、口縁部外面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキの後黒色処理が施される。2は床面出土の土師器環で、底部から緩やかに内湾し、体部と口縁部の境界で屈曲し、口縁部はわずかに外反し開く。調整は、口縁部は内外面ともヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施され、内外面とも黒色処理がなされる。3は床面出土の丸底で内湾する薄手の土師器環で、口縁部と体部の境界に稜をもたない。調整は、外面の体部はヘラケズリ後ヘラミガキ、口縁部にヘラミガキを施し、体部内面は下半ヘラミガキ、上部にヘラナデ後口縁部にヨコナデが施される。4は床面出土の半球形の土師器環で、口縁部はわずかに内湾する。調整は内外面ともにヘラミガキの後外面のみ口縁部にヨコナデがなされ、内面は黒色処理が施される。5は床面出土の内湾する器形の土師器環で、内外面ともにヘラミガキによる調整がなされる。6は床面出土の半球形の土師器環で口縁部は内湾する。口縁部と体部の境界に稜はもたない。調整は内外面ともヘラミガキの後、外面口縁部にヨコナデが施される。7は床面出土のやや扁平な半球形の土師器環で、口縁部は垂直である。調整は、外面口縁部にヨコナデ、外面体部にヘラケズリ、内面はヘラミガキがなされ、内外面ともに黒漆が塗布されている。8は堆積土出土で、北武蔵型土師器(清水型関東系土器)の特徴を有する。やや扁平な半球形に内湾する体部から「S」字状に緩やかに外傾する口縁部に至る器形を呈する。調整は、体部外面はヘラケズリ、内部ヘラナデの後、口縁部内外面にヨコナデが施される。9は堆積土出土の土師器環で、平底気味の底部から緩く屈曲し直線的に外傾して開く。口縁部と体部の境界に稜はもたない。調整は体部外面にヘラケズリ、内面はヘラナデがなされ、内面には黒漆が塗布される。10は堆積土出土の土師器環で、内湾する体部から屈曲し垂直に立ち上がる器形を呈する。内外面ともに屈曲部に稜を有し、調整は



図番	登録番号	調査区	出土地	方位	種別	器種	部位	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真 図番	
								口径	底径					
1	C-149	東区北側	S1148	床	土師器	杯	1 編~体	14.0	13.6	3.8	1 編:22F、体:25F 0	25F 3	内面黑色処理	59-12
2	C-151	東区北側	S1148	床	土師器	杯	1 編~底	14.4	13.6	4.3	1 編:22F、体:25F 0	1 編:22F、体:25F 0	内外面黑色処理	59-13
3	C-152	東区北側	S1148	床	土師器	杯	1 編~底	10.7	-	4.0	1 編:25F 1、 体:25F 2~25F 3 0	1 編:22F、体:25F 0 体:25F 2~25F 3 0	内面黑色処理、底熟	59-14
4	C-153	東区北側	S1148	床	土師器	杯	1 編~体	13.8	14.2	6.6	1 編:22F、体:25F 0	25F 3	内面黑色処理、底熟	60-1
5	C-154	東区北側	S1148	床	土師器	杯	体	-	-	6.1	25F 3	25F 3		60-2
6	C-155	東区北側	S1148	床	土師器	杯	1 編~底	14.4	15.2	7.7	1 編:22F、 体:25F 2~25F 3 0	25F 3		60-3
7	C-158	東区北側	S1148	床	土師器	杯	1 編~底	16.0	16.0	6.5	1 編:22F、体:25F 0	25F 3	内外面黒塗埋布	60-4
8	C-163	東区北側	S1148	埴積土	土師器	杯	1 編~体	15.0	14.6	4.5	1 編:22F、体:25F 0	1 編:22F、体:25F 0		60-5
9	C-164	東区北側	S1148	埴積土	土師器	杯	1 編~体	10.0	9.4	3.7	1 編:22F、体:25F 0	1 編:22F、体:25F 0	内面黒塗埋布	60-6
10	C-201	東区北側	S1148	埴積土	土師器	杯	1 編~体	9.8	-	2.6	1 編:22F、体:25F 0	1 編:22F、体:25F 0		60-7
11	C-150	東区北側	S1148	埴積土	土師器	鉢	1 編~底	10.0	6.0	7.9	1 編:22F、体:25F 4 底:木製面	1 編:22F、体:25F 0	1 編部斜角2箇所に 内径4mmの横成残穿孔	60-8
12	C-159	東区北側	S1148	床	土師器	鉢	1 編~底	15.8	15.6	7.2	1 編:22F、体:25F 2~25F 3 底:木製面	1 編:22F、体:25F 0	内面黑色処理	60-10
13	C-160	東区北側	S1148	床	土師器	鉢	1 編~底	24.6	12.0	10.0	1 編:22F、体:25F 2~25F 3 底:25F 1 0	1 編:22F~1 編:25F 0	内面黑色処理	60-9

第94図 S1148竪穴住居跡出土遺物(1)

体部外面にヘラケズリ、体部内面にヘラナデ、口縁部内外面にヨコナデが施される。第94図-11は堆積土出土の土師器鉢で、内湾し立ち上がる体部から緩く「S」字状に外傾する口縁部にいたる。調整は、体部外面はハケメ、内面はヘラナデが施され、口縁部は内外面ともにヨコナデがなされる。口縁部対角線上に二箇所焼成後穿孔されている。12は床面出土の土師器鉢で、木葉痕のある底部から緩やかに内湾し外傾して立ち上がる器形を呈する。調整は体部外面にヘラケズリ後ヘラミガキ、体部内面にヘラミガキの後、口縁部内外面にヨコナデがなされ、内面には黒色処理が施される。13は床面出土の土師器鉢で、扁平な丸底から直線的に外傾し開く器形を呈する。調整は、底部外面はヘラケズリ、体部外面はハケメ後ヘラナデ、口縁部内外面にヨコナデがなされた後内面にヘラナデが施される。内面は黒色処理が施

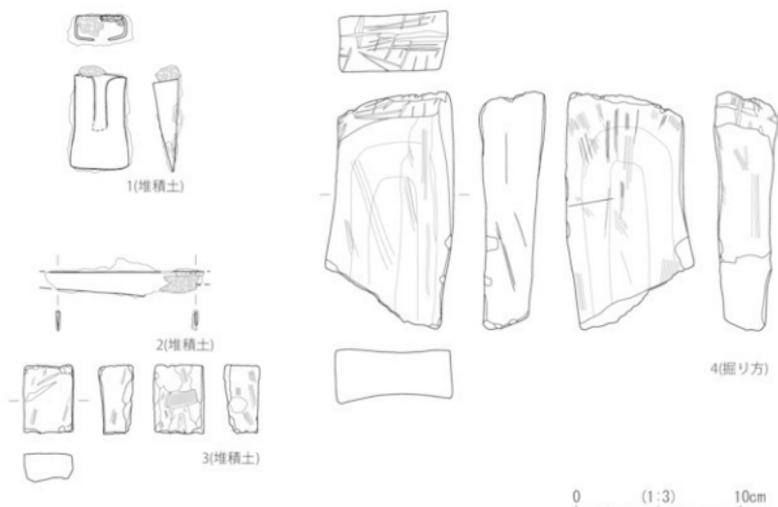


図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	径長 (mm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版	
								口径	底径					
1	C-157	東区北側	SI48	床	土師器	鉢	1縁~胴	19.0	-	(12.9)	1縁:339°, 胴:39°	1縁:339°, 胴:39°		60-11
2	C-162	東区北側	SI48	埋積土	土師器	甕	1縁~胴	(22.0)	-	(11.0)	1縁:339°, 胴:39°	1縁:339°, 胴:39°		61-1
3	C-156	東区北側	SI48	床	土師器	甕	1縁~胴	18.6	-	(25.0)	1縁:339°~379°, 胴:39°	1縁:339°, 胴:39°		60-12
4	C-161	東区北側	SI48	P15	土師器	甕	胴~底	-	9.0	(16.5)	胴:339°~379°, 底:339°	339°		60-13
5	E-032	東区北側	SI48	埋積土	土師器	高台付甕	1縁~体	-	-	(5.0)	270°調整	270°調整	高台部割落	61-4

第95図 SI148竪穴住居跡出土遺物(2)

される。第95図-1は床面出土の土師器甕で、口縁部と胴部の境界に稜はなく、口縁は屈曲して外傾し開く。調整は、胴部外面はハケメ、内面はヘラナデの後、口縁部内外面にヨコナデが施される。2は堆積土出土の土師器甕で、胴部最大径は胴部上端際に位置し、口縁部と胴部の境界に段を有し、口縁部は外反し開く。調整は胴部外面にハケメ、内面にヘラナデの後、口縁部にヨコナデが施される。3は床面出土の長胴を呈する土師器甕で、胴部最大径は胴部中位からやや下位にかけて位置する。口縁部と胴部の境界に段を有し、口縁は屈曲して直線的に外傾し開く。調整は、胴部外面にハケメ、内面にヘラナデ後、口縁部内外面にヨコナデが施される。4はP15に埋設された土師器甕で、胴部下半部は直線的に外傾し開く。調整は、外面はハケメ後ヘラミガキが部分的に施され、胴部下端部はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。5は堆積土出土の須恵器高台付碗で底部から屈曲し直線的にやや外傾して立ち上がる。内外面ともロクロ調整である。第96図-1は堆積土出土の袋状鉄斧である。刃部はわずかに撥状に広がる。袋内部には柄の木質部が残存している。2は堆積土出土の刀子で、木質が付着する。3は堆積土出土の砥石で、4面を砥面とし、一部窪みがみられる。石材は石英安山岩質凝灰岩である。4は掘り方出土の砥石で、5面と砥面とし、磨面と刃物痕が確認される。石材は砂岩である。

【時期】掲載した遺物のうち、床面出土の遺物は本遺構に伴う。郡山遺跡1期～Ⅱ期の特徴を有し、本竪穴住居跡の時期は、本書の時期区分では5～6期である。



図録番号	発掘番号	調査区	出土地	層位	種別	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特徴・備考	写真枚数	
						全長	幅	厚					
1	N-011	東区北側	S148	埋積土	金属製品	袋状鉄斧	9.6	4.1	2.0	57.3	若駒原木質残存	61.2	
2	N-012	東区北側	S148	埋積土	金属製品	刀子	09.71	2.3	0.6	17.7	若駒原木質残存	61.3	
96	Rd-007	東区北側	S148	埋積土	石製品	砥石	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真枚数
							全長	幅	厚				
							4.2	3.0	2.1				
4	Rd-008	東区北側	S148	掘り方	石製品	砥石	14.3	7.8	4.1	603.0 (97)	砥面5面、刃物痕有	61.6	

第96図 S148竪穴住居跡出土遺物(3)

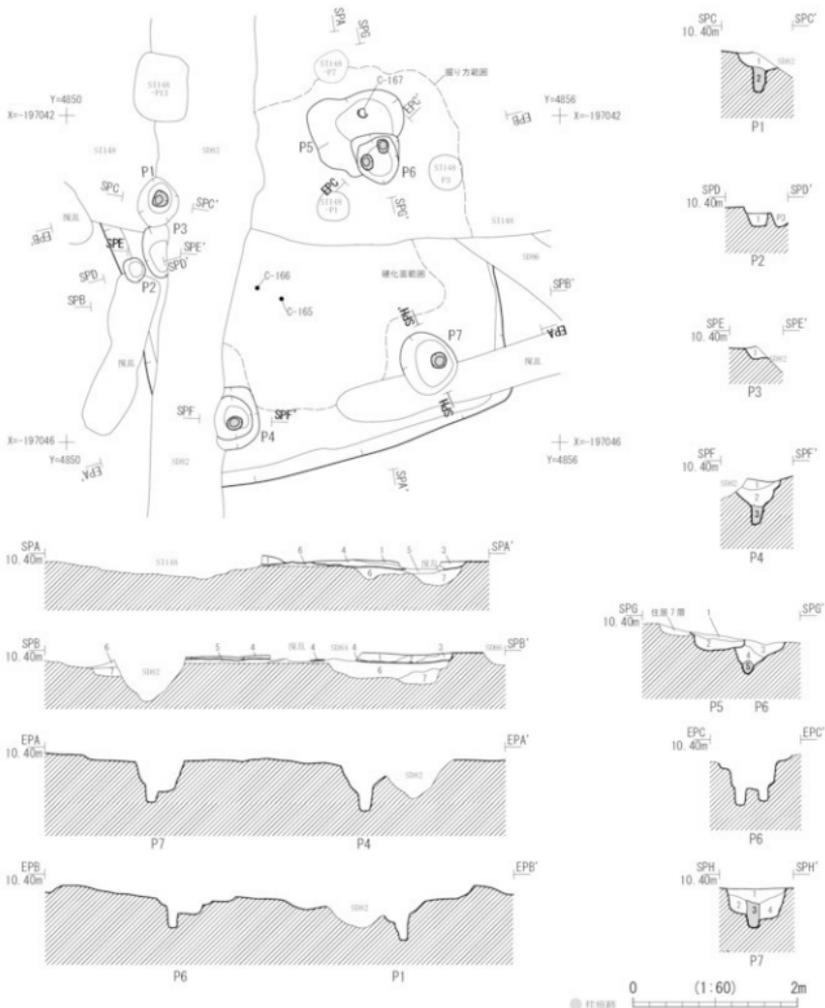
SI149 竪穴住居跡(第97・98図)

【位置・確認】東区北側に位置する。住居北半と西側を他遺構に削平されるが、北半は掘り方と柱穴が遺存する。

【重複】SI148、SD82・86、SX13と重複関係にあり、SI148、SD82・86よりも古く、SX13より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西438cm、南北455cm以上を測る。平面形状は方形と推測される。

【方向】南壁基準でN-17°-Wである。



第97図 SI149竪穴住居跡

【堆積土】7層に分層された。1～4層は住居堆積土、5～7層は掘り方である。住居堆積土は全体に基本層IV層のブロックを多量含んでおり、人為的に埋め戻されたものとみられる。

【壁面】やや傾斜して立ち上がる。残存する壁高は東壁際で7cmを測る。

【床面】床面はやや中央が高く、外周が約5cm低い。

【柱穴】ピットは7基検出した。このうち、位置と規模からP1・4・6・7は4本柱の主柱穴である。いずれも柱痕跡を確認している。なお、P6では柱痕跡の窪みが2箇所確認されていることから、上屋の建て替えが行われた可能性がある。

【その他の施設】主柱穴より後に掘り込んだP5から土師器環(第98図-1)が半分に分れ、重ねられた状態で出土している。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】土師器3点と骨角器1点を掲載した(第98図)。第98図-1はP5出土の土師器環で、丸底から口縁部と体部の境界で屈曲しやや外傾して立ち上がる。口縁部と体部の境界な内外面共に段を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ後、口縁部内外面にヨコナデが施される。2は床面出土の土師器鉢で、体部から口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。口唇部は外側に向かって断面三角形を呈する。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面は

S149 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	不整形円形	80×500	49	
P2	円形	30×23	17	
P3	楕円形	82×230	14	
P4	楕円形	75×64	35	

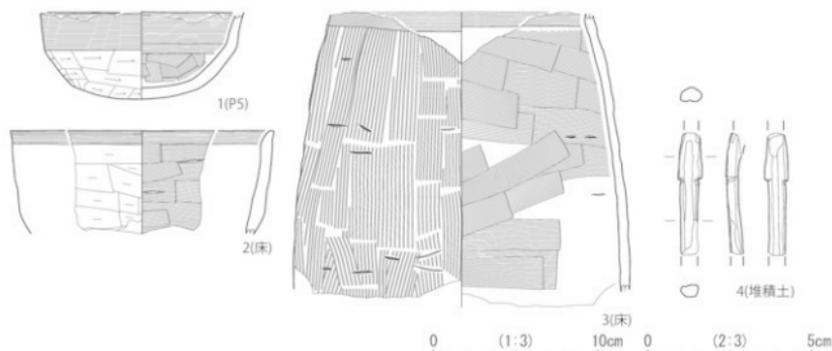
遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P5	不整形	112×53	22	
P6	不整形	63×55	43	
P7	楕円形	72×62	49	

S149 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	細砂	基本層IV層ブロック	埋込物		備考	
							礎土	炭化物		
住居 堆積土	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量		人為堆積。
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多量			人為堆積。
	3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 多量			人為堆積。
掘り方	4	10YR4/0	褐色	粘土質シルト	普通	強	径5～30mm 少量			人為堆積。
	5	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多量	径1～5mm 微量		
	6	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 多量			
	7	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 多量			

S149 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	細砂	基本層IV層ブロック	埋込物		備考	
							礎土	炭化物		
P1	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 多量			
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1～5mm 少量			柱痕跡。
	P2	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 少量		
P3	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多量			焼酎、た基本層IV層土、10YR3/1を層下面に少量含む。
	P4	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		
P4	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 多量			
	3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1～5mm 少量			柱痕跡。
	P5-6	1	5YR/4	オリーブ色	粘土質シルト	強	強			
2		7.5YR5/1	緑灰色	粘土質シルト	強	強				径1～10mm 微量
3		2.5Y/4	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 少量			10YR3/1褐色土、径1～30mm少量含む、ブライ化、層上に径1～10mmの礎土ブロックも少量含む黄褐色土あり。
4		2.5Y/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強				10YR5/1褐色土、径1～10mm少量含む、ブライ化。
5		2.5Y/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量			径1～10mm 少量
P7	1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 少量			柱痕跡。
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 少量			
	3	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量			10YR7/1灰白色土、径1～30mm少量含む。
	4	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～30mm 少量			



ID/図番	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整		内面調整		備考	写真掲載
							全長	幅	厚	口縁	底径	底高	口縁		
1	C-167	東区北側	SI149	PS	土師器	杯	口縁~底	12.4	11.8	5.3	口縁:32°、体:59°	口縁:32°、体:59°		61-7	
2	C-166	東区北側	SI149	床	土師器	鉢	口縁~体	(15.8)	-	(6.3)	口縁:32°、体:59°	口縁:32°、体:59°		61-8	
3	C-165	東区北側	SI149	床	土師器	甕	口縁~胴	(16.0)	-	(17.8)	口縁:33°、胴:59°	口縁:33°、胴:59°	輪郭の上に粘土目	61-9	
ID/図番	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考		素材	写真掲載		
4	Q-001	東区北側	SI149	埋積土	骨角器	加工品	(3.75)	0.7	0.45	1.4	骨を縦方向に割り面取り加工、側面に粘土目。骨髄少。			骨	61-10

第98図 SI149竪穴住居跡出土遺物

ヘラナデ後、口縁部内外面にヘラナデが施される。第98図-3は床面出土の土師器甕で、胴部最大径は中位以下にあり、口縁部と胴部の境界に稜を持たない。調整は、胴部外面は間隔の太いハケメ、内面はヘラナデで、口縁部はヨコナデが施される。4は堆積土出土の骨角器で、骨を縦方向に割り面取りを施し、側面に刻み痕がみられる。両端は欠損しているが、形状から骨鏃と推測される。

【時期】本遺構より新しいSI148竪穴住居跡は本書時期区分5～6期に属するため、本遺構はそれ以前の時期である。

SI150 竪穴住居跡(第99・100図)

【位置・確認】東区北側に位置する。遺構北側は調査区外に続く。平面では南西と南東隅の掘り方とピットのみ確認し、調査区北壁で床面及び掘り方堆積土を確認している。

【重複】SK145・Pit53・237と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】攪乱に削平され、住居南東隅と南西隅の掘り方部分及び付属ピットのみ検出しているが、調査区北壁断面で床面及び掘り方を確認でき、おおよその形状が判明した。検出した範囲の規模は、東西380cm、南北445cm以上を測る。平面形状はやや南北に長い方形である。

【方向】南壁・西壁基準でN-23°Eである。

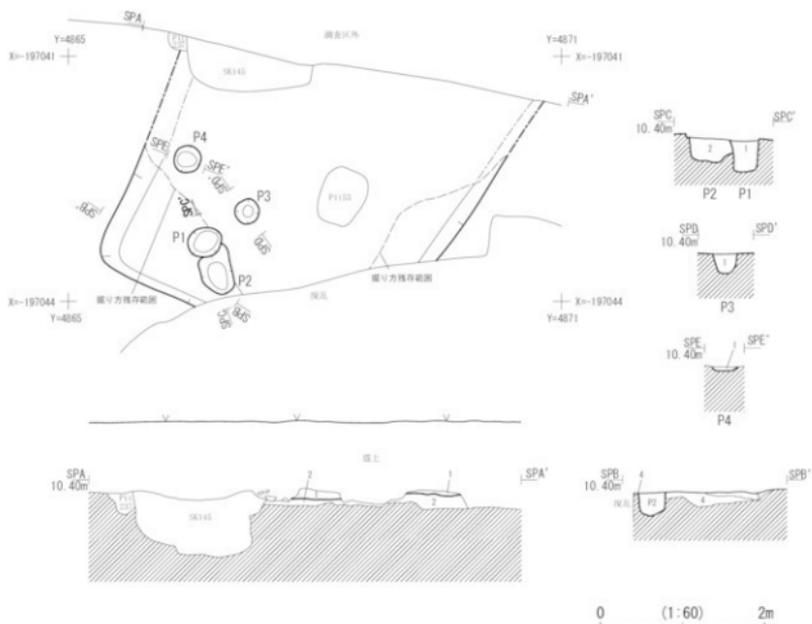
【堆積土】4層に分層された。1層は床面直上の堆積土で、黒褐色粘土質シルトを主体とする。2～4層は掘り方堆積土で、住居堆積土より明るく、基本層IV層ブロックを含む。

【壁面】住居壁は平面・調査区断面共に遺残しない。住居堆積土の層厚は調査区北壁で12cmを測る。

【床面】調査区北壁では中央に向かって7cm程下がる。

【柱穴】ピットは住居南西で4基検出した。いずれも柱痕跡は認められず、位置関係からも主柱穴は不明である。

【掘り方】外周隅が深く、中央が高いと推測される。住居中央は暗褐色土を主体とするが、住居外周部は基本層IV層P



第99図 S1150竪穴住居跡

S1150 施設観察表

遺構名	平面形	幅横(cm)	長さ(cm)	備考
P1	円形	41×37	45	
P2	半楕円形	50×39	34	

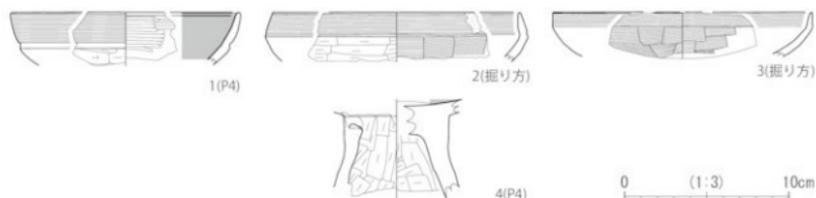
遺構名	平面形	幅横(cm)	長さ(cm)	備考
P3	円形	30×29	24	
P4	円形	24×21	0	

S1150 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り方	埋入物			備考
						基本層(層厚)	焼土	灰化物	
百層 基礎土	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	10YR3/2 少量	10YR3/2 少量	
	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	10YR3/3 少量	10YR3/3 少量	
掘り方	3	10YR5/4	にがい黄褐色	粘土質シルト	強	強	10YR5/4 少量	10YR4/1褐色土、10YR5/4少量含む。	
	4	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	強	強	10YR6/6 少量	10YR4/1褐色土、10YR6/6少量含む。	

S1150 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り方	埋入物			備考
						基本層(層厚)	焼土	灰化物	
P1	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	10YR3/2 少量		
	2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	10YR4/4 少量		
P2	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	10YR3/2 少量		
	2	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強	10YR6/6 少量		



図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
								口径	底径	器高				
1	C-196	東区北側	SI150	P4	土師器	環	口縁～体	(13.8)	(12.8)	(4.2)	口縁:32F、体:59F	90.1F	内面黒色処理	61-11
2	C-197	東区北側	SI150	掘り方	土師器	環	口縁～体	(15.0)	(16.0)	(3.0)	口縁:32F、体:59F	口縁:32F、体:59F	内外面黒色処理	61-12
3	C-198	東区北側	SI150	掘り方	土師器	環	口縁～体	(15.8)	(15.8)	(2.8)	口縁:32F、体:59F	口縁:32F、体:59F	内面黒色処理 外面土色剥離か	61-13
4	C-169	東区北側	SI150	P4	土師器	高環	脚	-	-	-	脚:59F	脚:59F	外面内面黒色処理 脚部スリット状透孔	61-14

第100図 SI150竪穴住居跡出土土遺物

ロックを主体とする。

【出土遺物】土師器4点を掲載した(第100図)。第100図-1はP4出土の土師器環の口縁部で、内湾しながら立ち上がり、口縁部と体部の境界には段を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面は黒色処理が施される。2・3は掘り方出土の土師器環で、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴を有する。2が内湾する体部から直線的に内傾する口縁部にいたる器形を呈すのに対し、3の口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。2は内外面ともに黒塗が塗布され、口縁部と体部の境界は外面に段、内面に稜をもつ。3は内面のみ黒塗が塗布され、口縁部と体部の境界は内外面ともに稜を有する。4はP4出土の土師器高環で、柱状中空で下方にむかってやや開く。脚部に縦にスリット状の透孔があり、調整は脚部は透孔を含め内外面ともヘラケズリが施され、環部内面は黒色処理が施される。

【時期】P4出土の第100図-1は栗岡式土器に後続する土器型式の特徴を有し、郡山II期官衙、本書の時期区分で6期に相当するが、破片であり、本遺構の時期を確実に示す資料とは言えず、詳細な時期は不明である。

SI151 竪穴住居跡(第101図)

【位置・確認】東区北側に位置する。北側は調査区外に続く。

【重複】SI148と重複関係にあり、SI148よりも古い。

【規模・形態】SI148により大部分を欠失し、住居南東隅の掘り方のみ検出した。また、床面上上面盛土に削平され遺存しない。検出した範囲の規模は、東西115cm以上、南北182cm以上を測る。平面形状は不明だが、方形と推測される。

【方向】東壁基準でN-33°-Wである。

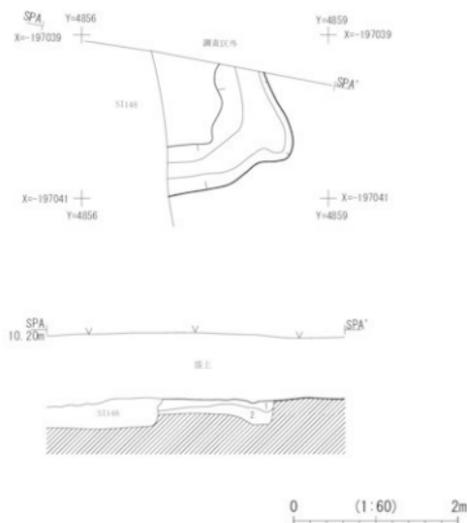
【堆積土】2層に分層された。いずれも掘り方堆積土で、2層は基本層IV層のブロックを主体とする。

【壁面】調査区北壁でも床面は遺存しない。

【掘り方】外周が深く、中央が高いと推測される。

【出土遺物】出土遺物はない。

【時期】SI148より古いことから、本書時期区分5期ないしそれ以前と推測される。



第101図 SI151竪穴住居跡

SI151 土層観察表

層位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層(貫通) ゾーンの粒	埋入物		備考
							礎土	間仕物	
掘り方	1	10YR4/2	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			
	2	10YR4/4	にじみ黄褐色	粘土質シルト	強	強	径1~50mm 極多量		10YR4/2黄褐色土、径1~10mmを少量含む。

SI152 竪穴住居跡(第102・103図)

【位置・確認】中区南側に位置する。他遺構と攪乱に削平され、住居東壁及び床面の一部のみ遺存する。

【重複】SI145、SK151・161と重複関係にあり、いずれの遺構より古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北403cm以上、東西234cm以上を測る。平面形状は不明であるが、西壁は直線的である。

【方向】東壁基準でN-37°-Wである。

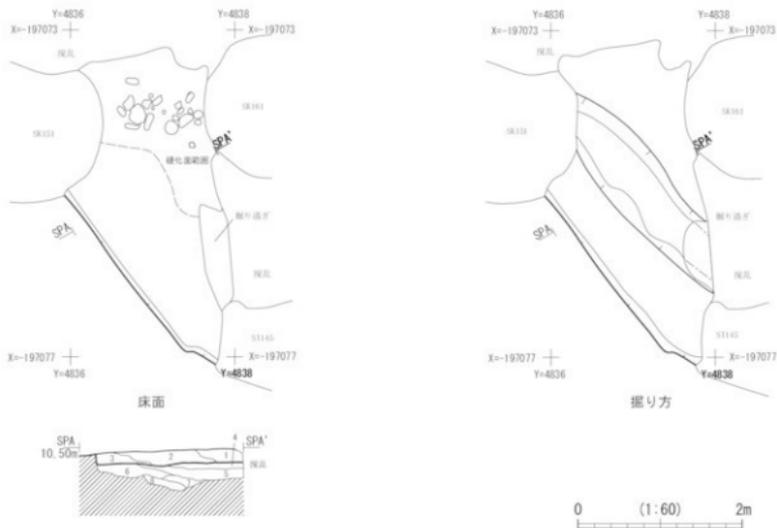
【堆積土】8層に分層された。1~3層は住居堆積土で、4~8層は掘り方堆積土である。4層は基本層IV層を主体とする貼床土で、4層上面は硬化する。

【壁面】ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は西壁で14cmを測る。

【床面】床面は水平で平坦である。ピットや周溝等の付属施設はない。

【掘り方】全体に掘り下げられているが、住居壁から60cm離れて壁に並行して溝状に深い掘り込みがみられる。この溝状の掘り込みは堆積土7・8層に対応し、本遺構拡張前の壁際掘り方や他遺構の可能性もある。

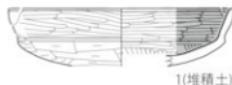
【出土遺物】床面付近で礫が21点出土しているが、使用された痕跡は認められない。その他、堆積土から出土した土師器2点を掲載した(第103図)。第103-1は土師器環で、扁平な底部が内湾し、口縁部と体部の境界で屈曲し、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる器形を呈する。口縁部と体部の境界は外面に段、内面に稜を有する。調整は、体



第102図 SI152竪穴住居跡

SI152 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	結核	草木遺留部 /フック状	炭化物		備考
							堆土	炭化物	
住居 集積土	1	10W4/2	2.5:5:黄褐色	砂質シルト	普通	強	101~10mm 少量	101~5mm 他炭質	
	2	10W3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	101~5mm 少量	101~5mm 他炭質	
	3	10W2/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	101~10mm 少量	101~5mm 他炭質	
掘り方	4	10W4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	101~10mm 多量		陥床。
	5	10W5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	101~10mm 少量		
	6	10W4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	101~10mm 多量		
	7	10W3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	101~10mm 多量		字遺構の可能性有。
	8	10W4/2	2.5:5:黄褐色	砂質シルト	普通	強	101~5mm 少量		字遺構の可能性有。



0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 P06
								口径	底径	高さ				
1	C-083	中谷南側	SI152	埋積土	土師器	杯	1口縁~1体	(13.7)	(12.6)	(3.5)	1口縁2口縁 4体+2口縁	内面黒色処理	61-15	
2	C-199	中谷南側	SI152	埋積土	土師器	甕	台	-	-	(2.4)	1口縁	台部下位に円形透孔 3箇所	61-16	

第103図 SI152竪穴住居跡出土遺物

部外面はヘラケズリ、外面口縁部と内面はヘラミガキがなされ、内面は黒色処理が施される。第103図-2は土師器器台の台部破片で、台部上位に円形の透孔が3箇所みられる。調整は、外面はヘラナデ、内面はヘラケズリが施される。【時期】第103図-1は栗罎式土器の中段階の特徴を有しているが、堆積土出土であり本遺構の所属時期を確定できない。また、他遺構との新旧関係からは、本遺構より新しいSI145竪穴住居跡が5~6期以降と推測されており、本遺構はそれ以前と考えられる。

SI153 竪穴住居跡(第104～106図)

【位置・確認】中区南側に位置する。

【重複】SI154、SK157・Pit156と重複関係にあり、SK157、Pit156よりも古く、SI153より新しい。

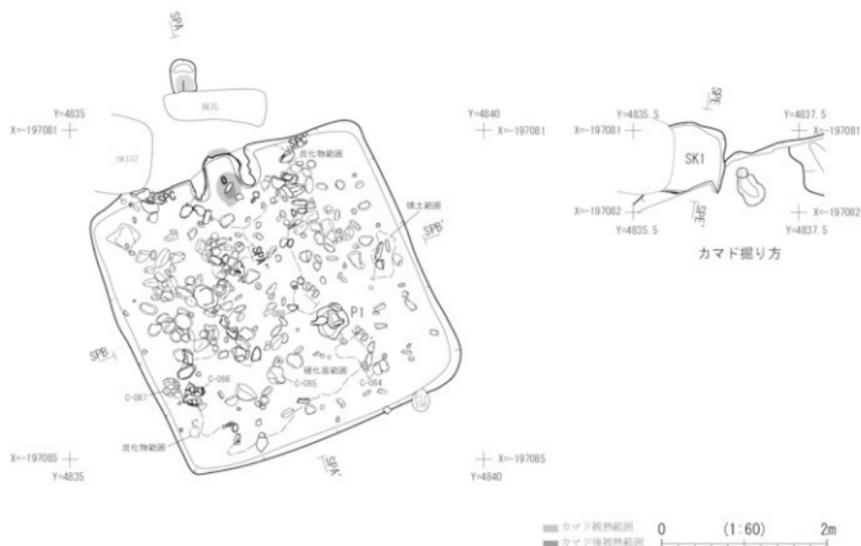
【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西366cm、南北366cmを測る。平面形状はほぼ正方形である。

【方向】住居壁・カマド主軸いずれもN-22°-Wである。

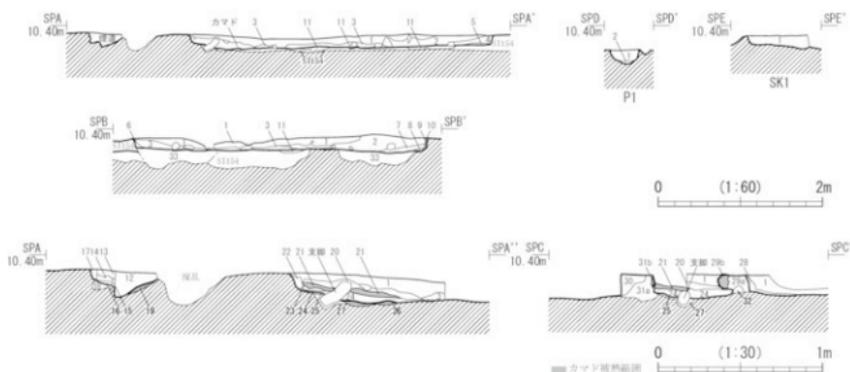
【堆積土】33層に分層された。大部分がグライ化している。1～10層は住居堆積土で、このうち1～3層は基本層IV層ブロックを多量含む人為堆積の砂質シルト層で、大型礫を中心とした遺物を多量含む。4～8層は壁際の自然堆積層で、黒褐色砂質シルトを主体とする。9・10層は住居西壁で確認された層で、壁に沿ってほぼ垂直に立ち上がる。壁構築土ないし、壁材の痕跡の可能性が考えられる。11層は灰白色の貼床で、床面の補修等の痕跡とみられる。12～17層はカマド煙道部先端の堆積土で、14層は炭化物を主体とする層である。18・19層はカマド煙道部掘り方で、19層は被熱している。20～24層はカマド燃焼部堆積土で、20・21層は天井部崩落土である。21層は被熱しており、石製支脚を検出したことから21層上面を当初火床面と認識していたが、21層は下面程被熱が著しく、支脚周辺の21層がブロック状に破砕していることから天井部の崩落と判断した。22・23層は燃焼部流入土である。24層はカマド燃焼部内の堆積土で灰を多量含むことから機能時の堆積層である。25～32層はカマド構築土だが、28層はカマド東袖の東側に分布する炭化物範囲である。焼土や灰も多量含むことから、24層の土を一時的にカマド外に集積した痕跡とみられる。カマド袖は基本層IV層に類似する土を主体として構築され、内面は被熱する。33層は住居掘り方で基本層IV層ブロックを主体とする。

【壁面】ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は西壁付近で21cmを測る。

【床面】床面は平坦である。



第104図 SI153竪穴住居跡(1)



第105図 SI153竪穴住居跡(2)

SI153 施設観覧表

遺構名	平面形	規模(m)	高さ(m)	備考
P1	不規則	49×28	17	

遺構名	平面形	規模(m)	高さ(m)	備考
SK1	不規則	060×040	17	カマド西側袖の掘穴周囲のみ。

SI153 土層観覧表(1)

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物		備考	
						基本層IV層 ブロック	固定物		
住居 基礎土	1	T, D1K5/2	灰白～灰色	砂質シルト	固	強	径10mm 多数	径10～20mm 多数	径70～300mm程度多数、遺物包含。人為基礎土のグライ化範囲。
	2	10YK3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1～10mm 多数	径1～2mm 多数	径50～300mm程度やや多数、遺物包含。人為基礎土。
	3	10YK4/4	褐色	砂質シルト	弱	強	径1～10mm 少数	径1～2mm 多数	酸化鉄分粒少量、径50～100mm小塊少量、遺物包含。人為基礎土。
	4	10YK3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～3mm 少量	自然基礎土。
	5	10YK5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～2mm 多数	自然基礎土。
	6	10YK3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～3mm 少量	自然基礎土。
	7	10YK3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～3mm 少量	自然基礎土。
	8	10YK3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～2mm 多数	自然基礎土。
	9	10YK6/1	灰白色	砂質シルト	弱	普通	径1～10mm 少量		礫質土。
	10	10YK5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	普通	径1～10mm 少量		礫質土。
	陥没	11	10YK7/1	灰白色	砂質シルト	弱	強	径1～10mm 少量	

【カマド】カマドは燃烧部と袖、煙道部の先端のみ確認した。カマド袖下端は基本層IV層と極めて類似した土で構築されている。住居壁をカマド燃烧部奥壁とし、住居壁から75cm北側に煙道が確認された。住居壁から煙道先端までは127cmを測る。カマド燃烧部底面及び天井部崩落土は著しく被熱する。石裂の支脚が出土した。支脚は手前側に向かって斜めに据えつけられており、支脚上端のやや手前側の火床面が最も被熱していることから、斜めの支脚は元位置を保っていると推測される。カマド東側袖は火床面付近で大きくオーバーハングしている。カマド袖上部が埋没過程において地すべりに崩落した可能性もある。カマド西側袖奥に土坑状の掘り込み(SK1)が確認されたが、本遺構の西半はSI154堆積土を掘り込んでいるため、カマドを構築する際に締まりの弱い部分の土を入れ替え補強する目的で一度掘り込んだものと判断し、カマド掘り方の一部としている。

【柱穴】ピットは1基検出した。住居中央よりやや南東側に位置する。底部に柱痕の下部にみられる粘土化範囲が確認された。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

SI153 土層観察表(2)

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーンの位置	埋入物		備考
							礎土	埋込物	
カマド 煙道	12	2.014/4	オリーブ褐色	砂質シルト	普通	強	径1.5~6.5mm 地盤量	径0.5~10mm 少量	下底焼物、器物片、漆塗器礎土、10YR6/1 砂質シルト下底に散見、10YR7/3 砂質土ブロック散見。
	13	2.014/4	オリーブ褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 中量	径0.5mm 地盤量	漆塗器礎土、10YR6/3 砂質シルト・漆・漆器に散見。
	14	10YR2/1	黒色	砂質シルト	強	普通	径1~10mm 中量	径0.5mm 地盤量	漆塗器使用時礎土。
	15	10YR5/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	弱	径1~10mm 地盤量		
	16	2.014/4	オリーブ褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 地盤量		
	17	10YR4/6	褐色	砂質シルト	強	強	径1~10mm 中量		
	18	10YR4/6	褐色	砂質シルト	強	強	径1~10mm 中量		
煙道 開口方	19	10YR4/6	褐色	砂質シルト	弱	普通		径1~2mm 地盤量	漆塗器焼結物。
	20	2.016/4	にじみ黄色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径0.1mm 中量	灰土層基礎土。
カマド	21	2.014/4	オリーブ褐色	礎土	無	強	径1~25mm 地盤量	径10~30mm 少量	灰土層ブロック少量、灰土層土被膜赤化散見。下底焼物少ない。
	22	10YR7/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強	径10~30mm 中量	径0.1mm 地盤量	灰土上。
	23	2.015/2	暗灰黄色	砂質シルト	弱	弱	径0.5mm 地盤量	径0.1~2mm 地盤量	灰土上。
	24	10YR4/1	暗灰色	砂質シルト	弱	強	径20mm 少量	径1~100mm 少量	灰多量 上面に層理があること、21層を礎土と判別した。灰土上。
カマド 開口方	25	2.016/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強	径20mm 少量	径1~50mm 少量	礎築土。
	26	2YR4/6	赤褐色	礎土	弱	普通	径1~25mm 地盤量		灰土上。
	27	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	普通	普通	径2mm 少量	径10~30mm 少量	土層下方基礎土。
	28	10YR4/1	暗灰色	砂質シルト	弱	強	径20mm 少量	径1~100mm 少量	灰多量 灰土層で被膜した。東縁構築土。
	29a	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強	径20mm 少量	径0.5mm 地盤量	東縁構築土。
	29b	2.016/5/6	明赤褐色	礎土	弱	強			29a層の焼物赤化散見。東縁構築土。
	30	2.016/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強			SK1層土を埋め戻した西縁構築土。
	31a	2.016/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径0.1mm 地盤量	径0.5mm 地盤量	SI154層土を埋め戻した西縁構築土、10YR7/3 砂質土少量、10YR7/1 砂質土少量。
	31b	2.016/5/6	明赤褐色	礎土	弱	強			21a層の焼物赤化散見。西縁構築土、10YR7/3 砂質土少量、10YR7/1 砂質土少量。
	32	2.016/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 地盤量	径1mm 地盤量	基本層IV層に属する東縁構築土、10YR7/6 砂質土径0.1~30mm散見。
開口方	33	10YR5/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	普通	径1~5mm 少量	径0.5mm 地盤量	酸化鉄分散径0.5~10mm散見。

SI153 灰土層観察表

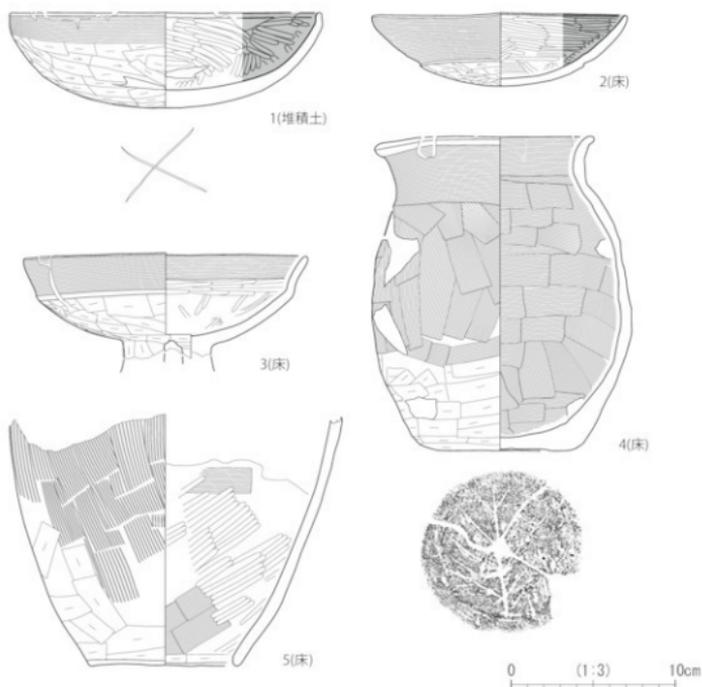
部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーンの位置	埋入物		備考
							礎土	埋込物	
SK1	1	2.016/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強		径0.5~1mm 地盤量	2.5YR3/3 砂質土中量・2.5YR6/1 砂質土粒少量・2.5YR2/8 砂質土ブロック中量 が互層状に堆積。酸化鉄分散径0.1~1mm散見。
PI	1	10YR5/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	強	普通	径1~10mm 少量	径0.1mm 地盤量	
	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径0.5mm 地盤量		

【出土遺物】住居堆積土から多量の礫が出土した。礫は数cmから数十cmまで様々な大きさのものが出土しているが、礫には使用痕は認められない。礫は住居全体に分布しているが壁際には殆ど無く、やや住居北東部の密度が高い。礫は石英安山岩を主体とする。土器も少量出土しているが、住居南側から中央にかけて集中する。これらの出土遺物は床面に密着しているものもあるが使用に伴うものではなく、本遺構廃絶直後に意図的に廃棄されたものとみられる。また堆積土の状況から、床面出土遺物と堆積土中の遺物の廃棄時期にそれ程の差異はないものと考えられる。

出土遺物のうち、土師器5点を掲載した(第106図)。第106図-1は堆積土出土の土師器環で、扁平な丸底で緩やかに内湾しながら立ち上がり、口脣部が短くわずかに内傾する。口縁部と体部の境界に稜はもたない。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ黒色処理が施されている。底部に「×」の刻書がある。2は床面出土の土師器環で、器高に対し体部が短く口縁部が長い。丸底から緩やかに内湾する器形を呈しており、口縁部と体部の境界は外面に段を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。3は床面出土の土師器高環で、丸底の環部は内湾し、口縁部と体部の境界で屈曲し、口縁部は外反して開く。口縁部と体部の境界は外面に段、内面に稜を有する。脚部は三方を穿孔している。脚の欠損部はほぼ水平で摩滅が観察されることから、脚部欠損後に再生利用されたものとみられる。4は床面出土の土師器裏で、内湾する胴部から口縁部で外反して開く。口縁部と胴部の境界に段はない。調整は、胴部外面上半はヘラ

ナデ、下半はヘラケズリ、内面はヘラナデの後、口縁部内外面にヨコナデが施される。底部外周に粘土が貼り付けられる。第106図-5は床面出土の土師器甕である。単孔式で、わずかに内湾しながら立ち上がる。調整は、外面はハケメ後下部にヘラケズリを施し、内面はヘラナデ後ヘラミガキ、内面下端はヘラケズリを施している。

【時期】上記の遺物のうち4点は床面から出土しているが、本遺構機能時に直接関連するかは不明であるが、遺構廃絶直後に堆積中の遺物も合わせて短期に遺物が廃棄されたと推測される。第106図-1は住社式土器の特徴を有しており、本遺構の廃絶についてもこの時期に近いと推測されるため、本遺構は本書時期区分4期に属すると考えられる。



ID取番付	登録番付	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
								口径	底径	器高				
1	C-084	中区南側	SI153	堆積土	土師器	杯	口縁~底	18.7	18.7	5.8	口縁:22PF, 体:49XF	49LF	内面白色処理, 底部に十字痕	62-1
2	C-089	中区南側	SI153	床	土師器	杯	口縁~底	15.5	10.0	4.5	口縁:22PF, 体:49XF	49LF	内面白色処理	62-2
3	C-087	中区南側	SI153	床	土師器	高杯	口縁~脚	17.2	-	10.5	口縁:22PF, 杯~脚:49XF	口縁:22PF, 杯:49LF	脚部に方穿孔, 脚部矢形部摩滅, 後高付に再平化	62-3
4	C-086	中区南側	SI153	床	土師器	小型甕	口縁~底 (12.8)	7.8	19.3	口縁:22PF, 胴上半:49PF → 胴下半:49XF, 底:木葉痕	口縁:22PF, 胴:49PF		62-4	
5	C-085	中区南側	SI153	床	土師器	甕	胴~孔	-	5.0	胴:49PF~胴下半:49XF	胴:49PF~胴中半:49XF, 孔周辺:49XF		62-5	

第106図 SI153竪穴住居跡出土遺物

SI154 竪穴住居跡(第107～111図)

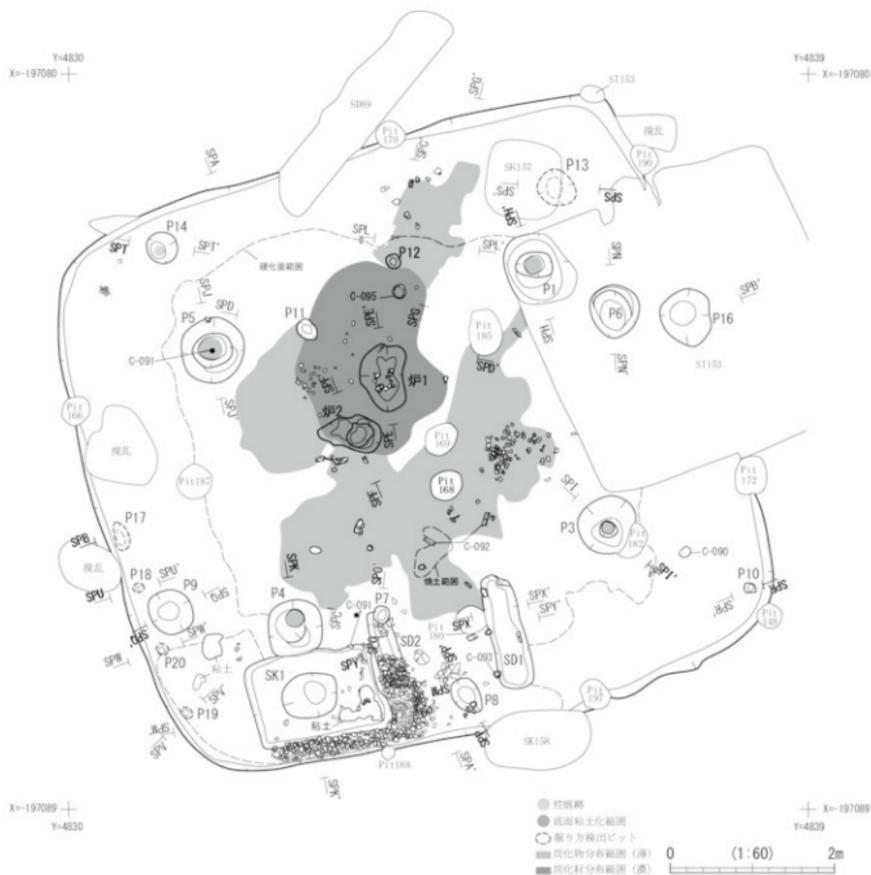
【位置・確認】中区南側に位置する。竪穴住居跡やピット等に削平されるが、遺存状況は良好である。

【重複】SI153、SD89、SK157・158、Pit148・166・168～170・172・182・185・187・188・190・197と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西746cm、南北740cmを測る。平面形状は隅丸方形である。

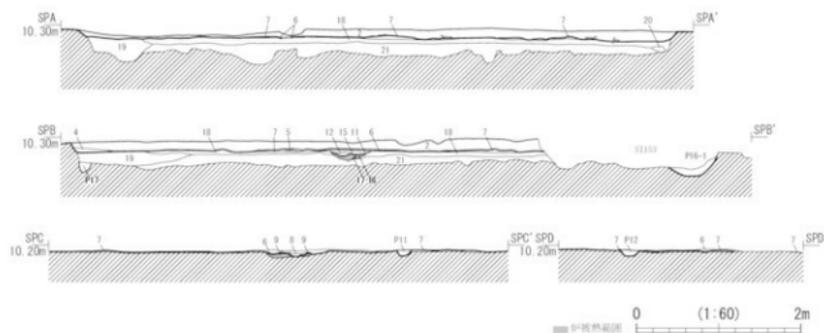
【方向】N-17°-Wである。

【堆積土】22層に分層された。1層は炭化物が混入する層で、住居中央では薄い炭の層が炉の周辺を中心に床面に広く分布、住居北側では床面から浮いた状態で分布する。遺構は均質な褐色のシルト質砂で埋まっており、土性・土質ともに本調査区で検出した他遺構とは明確に区分できる。2層は洪水等による堆積と考えられ、炉周辺の炭化物が散逸し



第107図 SI154竪穴住居跡(1)

たのが炭化物を含む1層とみられる。なお、住居堆積土2層と同一層と考えられる層がP1-2層とP5-2層で確認されていることから、洪水等による住居が埋没する時点では柱は抜き取られていたと考えられる。5～7層は炉1周辺の薄い貼床で、貼床下面では炉2を検出している。炉2から炉1への造り替え時のものである。8～10層は炉1の堆積土で、8層は炉機能時の堆積土で焼土・炭化物・灰を混入する。9・10層は炉被熱範囲である。11から17層は炉2の堆積土で、11・12層は炉2直上の貼床である。13・14層は炉2機能時の堆積土で焼土・炭化物を混入する。15～17層は炉の被熱範囲である。18～22層は掘り方、18層は基本層IV層を主体とする貼床で、住居北東隅ではこの貼り床下からP13が掘り込まれている。



第108図 S1154竪穴住居跡(2)

S1154 土層観察表

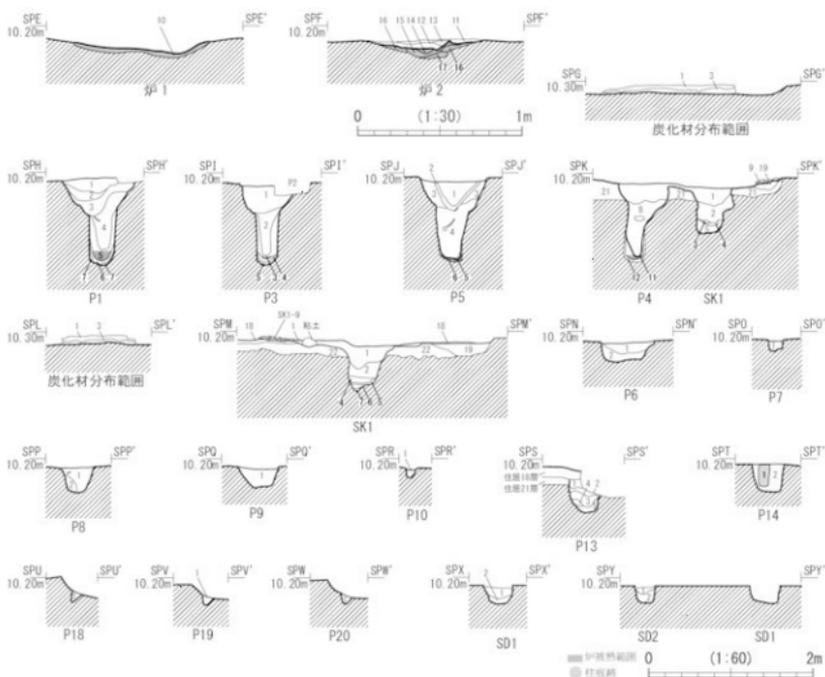
部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーン(1)区	混入物	炭化物	備考
住居 基礎土	1	7.0YR4/6	褐色	シルト質砂	弱	強	径1～20mm 少量	径0.1～40mm 中量	酸化鉄酸銅質、P1-2層、P5-2層と同一層。
	2	7.0YR4/6	褐色	シルト質砂	弱	普通	径1mm 微量	径0.1～2mm 微量	土質に可変。決本層機1号遺物包含。10YR7/8 砂質土少量、10YR7/1 砂質土少量。
	3	7.0YR4/6	褐色	シルト質砂	弱	普通	径30mm 少量	径0.1～2mm 微量	
炉1 貼床	4	7.0YR4/6	褐色	シルト質砂	弱	強	径30mm 少量	径0.1～2mm 微量	炉壁一次焼成。
	5	2.0YR3/2	暗赤褐色	壤土	弱	普通	径10mm 微量	径0.1～2mm 微量	焼土集中範囲。
	6	10YR3/2	灰褐色	シルト質砂	弱	強	径30mm 中量	径0.1mm 微量	遺物包含。
	7	10YR4/8	褐色	シルト質砂	弱	強	径30mm 中量	径0.1mm 微量	
	8	10YR4/1	暗灰色	シルト質砂	普通	普通	径30.1～30mm 少量	径0.1～2mm 中量	灰多量。
炉1 貼床	9	2.0YR3/6	暗赤褐色	壤土	弱	強	径30mm 少量	径0.1～2mm 微量	被熱範囲。
	10	10YR4/8	褐色	壤土	弱	普通		径0.1mm 微量	使用時の堆積土。南側はより明るい。下面は被熱範囲。
	11	10YR3/2	黄褐色	シルト質砂	弱	強	径1mm 少量	径0.1～20mm 微量	灰少量。貼床焼成土。
	12	10YR3/2	暗褐色	壤土	弱	強	径1mm 微量	径0.1mm 微量	貼床焼成土。
炉2 貼床	13	2.0YR3/2	暗赤褐色	壤土	弱	強		径0.5mm 微量	
	14	2.0YR3/2	暗赤褐色	壤土	弱	強	径30mm 中量	径0.1～2mm 微量	
	15	2.0YR3/8	暗赤褐色	壤土	無	極強	径1mm 中量	径0.1～0.5mm 微量	使用時の強被熱範囲。
	16	2.0YR3/2	暗赤褐色	壤土	強	強	径1～30mm 微量	径0.1mm 微量	使用時の半被熱範囲。
	17	2.0YR3/2	暗赤褐色	壤土	強	強	径10mm 微量		使用時の弱被熱範囲。赤化が強い。
掘り方	18	10YR5/6	黄褐色	シルト質砂	弱	強	径30mm 中量	径0.1～2mm 微量	酸化鉄分約20.1mm中量。貼床焼成土。東側S1153に埋め込まれた範囲21(1)は焼成時の土質とみられる。
	19	10YR5/6	黄褐色	シルト質砂	弱	強	径30mm 中量	径0.1mm 微量	酸化鉄分約20.1mm中量。遺物包含。
	20	10YR3/2	灰褐色	シルト質砂	普通	強		径0.1mm 微量	10YR7/8 砂質土 微量、10YR7/1 砂質土 微量。
掘り方	21	10YR6/8	暗黄褐色	シルト質砂	普通	強	径30mm 中量		管状に掘れ込みがある。
	22	10YR4/4	褐色	シルト質砂	強	強	径30mm 少量		

【壁面】開いて立ち上がる。残存する壁高は西壁際で14cmを測る。

【床面】ほぼ平坦で水平だが、中央がわずかに高く、周辺が3cm程低い。住居南壁際が最も低く、住居中央に比べ6cm下がる。

【炉】住居中央付近で炉を2基検出した。炉2廃絶後に床の貼り直しを行ない、炉1を作り直しているため、同時に機能はしていない。炉はいずれも平面不整形円形を呈し、浅く窪み、火床面は著しく被熱する。

【柱穴】ピットは18基検出した。このうち、規模と配置からP1・3・4・5が4本柱の主柱穴である。明瞭な柱痕跡は確認できなかったが、いずれも柱底面に粘土化範囲が認められる。P1-2層とP5-2層は炭化物を含み、住居堆積土1



第109図 S1154竪穴住居跡(3)

S1154 検出竪穴表

検出穴	平面形	縦径(cm)	横径(cm)	備考
P1	不整形円形	88×90	89	主柱穴
P2	円形	70×86	72	主柱穴
P4	円形	66×86	78	主柱穴
P5	円形	80×76	79	主柱穴
P6	円形	64×66	55	
P7	円形	32×38	14	
P8	楕円形	44×32	33	
P9	円形	54×54	27	
P10	円形	14×18	12	
P11	楕円形	36×28	7	
P12	円形	16×16	9	

検出穴	平面形	縦径(cm)	横径(cm)	備考
P13	楕円形	48×46	43	
P14	円形	38×38	35	
P16	不整形円形	16×16	9	
P17	楕円形	72×62	52	
P18	円形	14×12	13	
P19	円形	14×12	12	
P20	円形	16×14	14	
SK1	長方形	163×113	65	
SD1	楕円形	144×48	21	
SD2	楕円形	88×31	20	

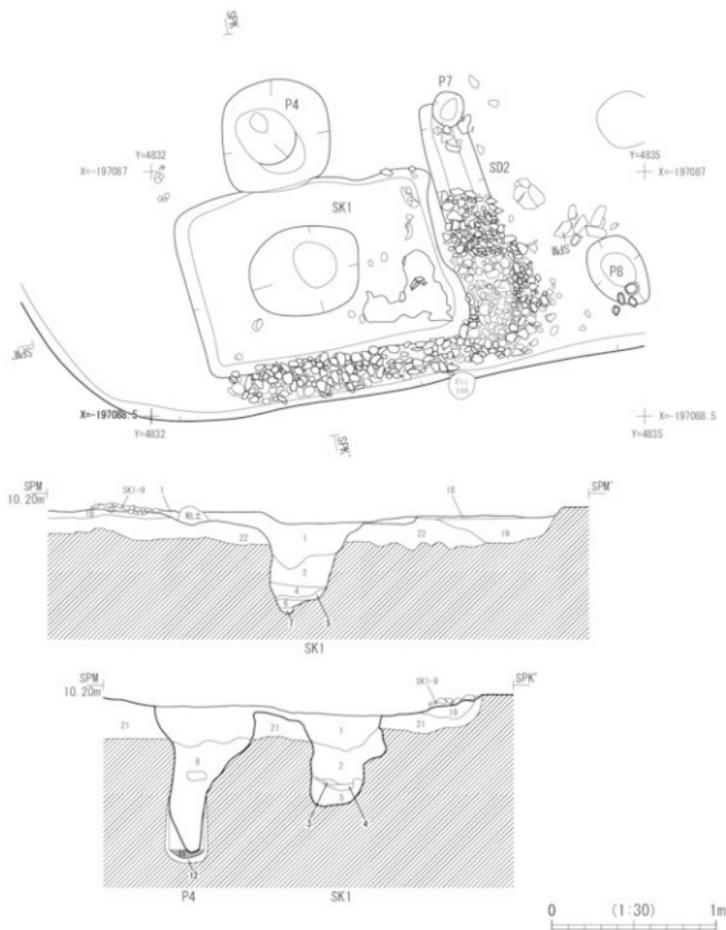
※P2・15欠番

SI154 施設土層観察表(1)

階位	層位	土色	土性	粘性	結核	結核径	埋入物		備考	
							基本調査管 P110-101	地土 埋入物		
SK1 F4	1	7.0YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通		埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	遺物包含、SK3とのP4まで同層。	
	2	7.0YR3/4 暗褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	3	2.0Y5/6 黄褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1mm程度。主体土ブロック状を呈す。	
	4	2.0Y5/1 黄灰色	シルト質砂	極強	弱				埋入物 埋入物	2.0YR4/6径1～2mm少量、10YR7/8径砂質約0.1mm程度。
	5	2.0Y3/1 黒褐色	砂質シルト	極強	弱	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	6	2.0Y3/2 黒褐色	砂質シルト	強	弱	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	7	2.0Y3/1 黒褐色	砂質シルト	極強	強					酸化鉄分約0.5mm少量。
	8	7.0YR3/4 暗褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	P4層土。	
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト質砂	弱	強		埋入物	埋入物	硬木の繊維充塞土。	
	10	10YR4/4 褐色	シルト質砂	強	普通					10YR7/8 径砂質土径1～2mm少量、上層の影響か。
	11	10YR6/2 濃い黄褐色	シルト質粘土	強	普通					
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	強	強					
SK3	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	弱	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1mm程度。	
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	弱	弱	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1mm程度。	
SK2	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	弱	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1mm程度。	
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	弱	弱	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1mm程度。	
P1	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	遺物包含。	
	2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	層1類似、同一層小。	
	3	10YR4/6 褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	4	10YR2/2 暗褐色	シルト質砂	強	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	遺物包含。	
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	強	普通					下部10YR7/8 径土径5mm多量。
P3	7	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	強					
	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	強	普通					10YR7/8 径土径5mm多量。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質砂	強	普通					
P5	5	10YR4/6 褐色	シルト質砂	強	強					
	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	遺物包含。	
	2	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄約0.1mm程度。層1類似、同一層小。	
	3	10YR4/6 褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	4	10YR2/2 暗褐色	シルト質砂	強	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	遺物包含。	
P6	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	強	強					
	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	10YR7/8 径土径5mm多量。	
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1～1mm程度。	
	3	10YR4/4 褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	4	10YR4/4 褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P7	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	普通	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	小塊・遺物 他無。	
	2	7.0YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P9	1	7.0YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
	2	7.0YR3/4 暗褐色	シルト質砂	強	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P9	1	7.0YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P10	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	普通	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P11	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P12	1	10YR4/4 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物		
P13	1	10YR4/6 褐色	シルト質砂	弱	普通	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.5mm程度。	
	2	10YR4/4 褐色	シルト質砂	普通	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.5～1mm程度。	
	3	10YR4/1 黄灰色	砂質シルト	強	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	酸化鉄分約0.1～1mm少量、遺物包含。	
	4	10YR5/1 黄灰色	砂質シルト	強	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	粗砂中量、酸化鉄分約0.1～1mm程度。	
	5	2.0Y5/2 濃い赤褐色	シルト質砂	強	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	粗砂中量、酸化鉄分約0.1mm径以下少量。	
	6	10YR5/6 黄褐色	シルト質砂	強	強	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物 埋入物	埋入物以上層とP13類似の影響小。	

S154 施設土層観察表(2)

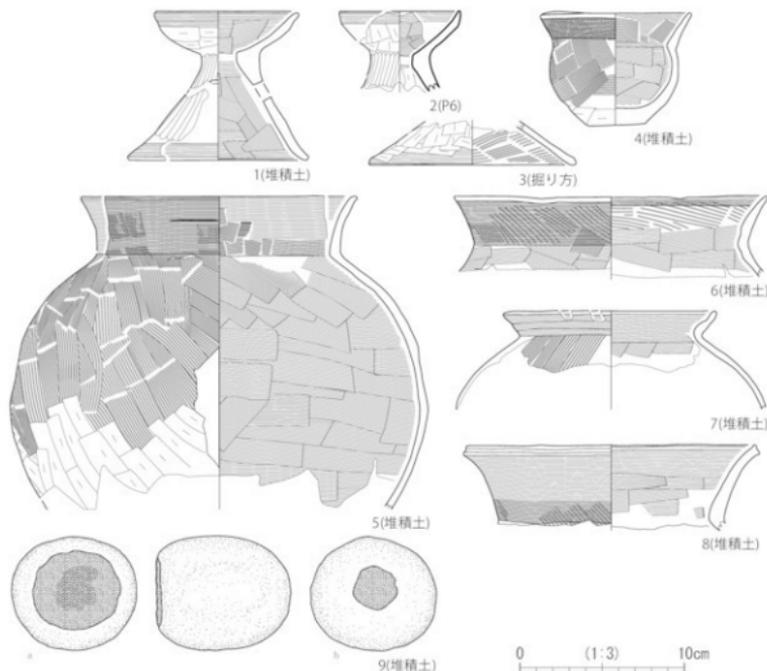
部位	層位	土色	主性	粘性	締り	埋入物			備考
						瓦木器瓦管 等(100~10)	障土	灰化物	
P14	1	10B3/2	シルト質砂	普通	弱	1001~1mm 少量		1001.1mm 埋断面	
	2	10B3/0	黄褐色	シルト質砂	弱	普通	101~5mm 少量	1001.1mm 埋断面	細粒成分約0.5~1mm程度、遺物含む。
P16	1	10B3/4	紅土・黄褐色	シルト質砂	弱	強	101~1mm 少量	1001.1mm 埋断面	
P17	1	10B3/0	黄褐色	シルト質砂	普通	強	101~1mm 少量	1001.1mm 埋断面	
P18	1	10B3/0	黄褐色	シルト質砂	普通	強	101~1mm 少量	1001.1mm 埋断面	
P19	1	10B3/0	黄褐色	シルト質砂	普通	強	101~1mm 少量	1001.1mm 埋断面	
P20	1	10B3/0	黄褐色	シルト質砂	普通	強	101~1mm 少量	1001.1mm 埋断面	



第 110 図 S154 竪穴住居跡 (4)

層と類似する。その他、柱痕跡を確認したP 14をはじめ、住居外周部にピットが認められる。住居西壁際南側では掘り方底面でP 17～20を検出した。

【その他の施設】住居南西隅に方形の浅い掘り込みの中央に柱穴状に掘り込まれたSK 1がある。SK 1中央の掘り込みは深さ56cmを測るが柱痕跡は確認されていない。SK 1と南壁の間及び東側の床面に小礫がほぼ隙間無く敷き詰められている。SK 1の方形部分は住居堆積土2層と同一層で埋まっている。小礫は、上下に概ね二重に重なっており、東辺の礫より南片の礫の方が径の大きいものを使用している。礫はやや扁平な円礫を主体とし、破碎や被熱したものはみられ



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	種類	部位	法長 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版	
								口徑	底径					
1	C-096	中区南側	SI54	堆積土	土師器	器台	口縁～底	8.5	10.7	9.1	口縁:32F, 受:49X Ⅱ, 付:49X Ⅱ, 裏:32F	口縁:32F, 受:49F, 付:49F	内外面一部赤彩有, 右面下部円形透孔	62-6
2	C-187	中区南側	SI54	P6	土師器	器台	口縁～台	(7.8)	-	(5.1)	口縁:32F, 受:49X Ⅱ, 付:49X Ⅱ	口縁:32F, 受:49F, 付:49F		62-7
3	C-188	中区南側	SI54	掘り方	土師器	高杯	胴	-	(12.6)	(2.7)	胴:32F→付:49X Ⅱ	付:49F		62-8
4	C-093	中区南側	SI54	堆積土	土師器	鉢	口縁～底	9.2	3.5	6.9	口縁:32F→付:49X Ⅱ 胴下部:49X Ⅱ, 裏:49X Ⅱ	口縁:32F→付:49F, 胴:49F		62-9
5	C-091	中区南側	SI54	堆積土	土師器	甕	口縁～胴	(16.6)	-	(19.1)	口縁:32F→32F 胴:49F→胴下半:49X Ⅱ	口縁:32F→付:49F, 胴:49F		62-10
6	C-092	中区南側	SI54	堆積土	土師器	甕	口縁～胴	19.0	-	(5.0)	口縁:32F→32F, 胴:49F	口縁:32F→32F, 胴:49F		62-11
7	C-094	中区南側	SI54	堆積土	土師器	甕	口縁～胴	(12.8)	-	(6.0)	口縁:32F, 胴:49F	口縁:32F, 胴:49F		62-12
8	C-095	中区南側	SI54	堆積土	土師器	甕	口縁	18.0	-	(5.2)	口縁:32F→32F	口縁:32F→32F	口縁部欠損	62-13
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	原種	法長 (cm)		石材	備考	写真図版			
							全長	幅						
9	Kc-003	中区南側	SI54	埋積土	礎石	礎石	8.1	7.6	7.0	062:01(2)201	物門礎, 礎面2面, 程度程度の土は平ら。	63-1		

第111図 SI54竪穴住居跡出土土遺物

SI154-SK1周辺出土碑 個体重量別の数量・重量一覧表

個体重量(g)	数量	重量(g)	個体重量(g)	数量	重量(g)	個体重量(g)	数量	重量(g)	個体重量(g)	数量	重量(g)	個体重量(g)	数量	重量(g)
0.0~4.9	231	630.2	70.0~74.9	13	935.5	140.0~144.9	3	429.5	210.0~214.9	-	-	280.0~284.9	-	-
5.0~9.9	149	1058.9	75.0~79.9	14	1086.4	145.0~149.9	2	293.5	215.0~219.9	-	-	285.0~289.9	-	-
10.0~14.9	107	1314.7	80.0~84.9	7	580.2	150.0~154.9	3	455.6	220.0~224.9	-	-	290.0~294.9	-	-
15.0~19.9	85	1470.0	85.0~89.9	6	521.3	155.0~159.9	3	473.5	225.0~229.9	1	226.0	295.0~299.9	-	-
20.0~24.9	62	1410.5	90.0~94.9	8	745.8	160.0~164.9	2	328.3	230.0~234.9	-	-	300.0~304.9	-	-
25.0~29.9	65	1761.2	95.0~99.9	11	1080.1	165.0~169.9	1	168.0	235.0~239.9	-	-	305.0~309.9	1	309.0
30.0~34.9	47	1525.9	100.0~104.9	4	414.0	170.0~174.9	2	346.3	240.0~244.9	2	487.5	310.0~314.9	-	-
35.0~39.9	52	1962.3	105.0~109.9	3	321.9	175.0~179.9	2	355.3	245.0~249.9	-	-	315.0~319.9	1	315.5
40.0~44.9	24	1013.9	110.0~114.9	8	905.4	180.0~184.9	3	547.2	250.0~254.9	-	-	320.0~324.9	-	-
45.0~49.9	17	806.1	115.0~119.9	6	703.8	185.0~189.9	2	372.5	255.0~259.9	-	-	325.0~329.9	1	327.3
50.0~54.9	21	1101.1	120.0~124.9	3	366.6	190.0~194.9	2	385.9	260.0~264.9	-	-	-	-	-
55.0~59.9	18	1033.0	125.0~129.9	4	510.2	195.0~199.9	2	394.6	265.0~269.9	-	-	-	-	-
60.0~64.9	26	1621.8	130.0~134.9	3	394.9	200.0~204.9	2	406.0	270.0~274.9	1	274.5	-	-	-
65.0~69.9	20	1351.0	135.0~139.9	2	275.1	205.0~209.9	-	-	275.0~279.9	-	-	-	-	-

総計		
個体数	1,052点	
重量	33,791.1g	

ない。またSK1内部南東とSK1の北西側から灰白色で純度の高い粘土塊が出土している。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】出土遺物は破碎して出土している。土師器8点と石製品1点の計9点を掲載した(第111図)。第111図-1は堆積土出土の土師器器台で、受部は内湾し口縁部はわずかに外反する。台部には三方に円形の透孔があり、外反気味に開く。調整は、受部外面はヘラズリ後口縁部ヨコナデ、胴部外面はヘラミガキで下端にヨコナデ、内面は受部、胴部共にヘラナデ後口縁部にヨコナデが施される。また内外面に一部赤彩が残存する。2はP6出土の土師器器台で、受部は1より強く立ち上がり口径が小さい。調整は1と基本的に同一だが、台部内面にヘラズリが施され、赤彩はみられない。3は掘り方出土の土師器高杯の脚部で、胴部は直線的に1の器台より開く。調整は外面下端にヨコナデ後ヘラズリ、内面はハケメが施される。4は堆積土出土の土師器鉢で、球形の体部に「く」字状に屈曲して直線的に開口縁部を有し、いわゆる小型丸底鉢の範疇に入るが底部は平底である。体部最大径の張りは弱く、頸部径とあまり変わらない。調整は、外面はハケメ後口縁部はヨコナデ、体部下端と底部にヘラズリ、内面は体部にヘラナデ、口縁部はヨコナデ後ハケメが施される。5は堆積土出土の土師器甕で、球形で頸部は「く」字状に屈曲し口縁部はわずかに外反し立ち上がる。調整は、外面は胴部から口縁部までハケメ後、胴部下半にヘラズリ、口縁部にヨコナデ、内面は胴部にヘラナデ、口縁部にヨコナデ後ハケメが施される。6は堆積土出土の土師器甕口縁部で、頸部は湾曲し、頸部内面に稜を持たない。調整は、外面は胴部にヘラナデ、胴部から口縁部にかけてハケメ後口縁部ヨコナデ、内面は口縁部にハケメ後頸部にヘラナデ、口唇部にヨコナデが施される。7は堆積土出土の土師器甕で、球形で器壁は薄く、頸部は屈曲して開くが頸部内面に「く」字状の稜はない。口縁部は短く、外側に直線的に開く。調整は、胴部外面はハケメ、胴部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共に強くヨコナデが施される。8は堆積土出土の土師器甕口縁部で、外反して開く頸部は「く」字状に屈曲し内面に稜がみられる。口唇部は方形を呈し沈線状に窪む。調整は、外面は胴部から続くハケメ後ヨコナデ、内面はヨコナデ後下半にヘラナデが施される。

第111図-6と8は胴部下端部が水平に揃い摩滅が観察されること、同一個体とみられる胴部破片が認められないことから、器台として転用されたものとみられる。

また、SK1を取り囲む小礫は、1052点、33791.1g出土した(一覧表参照)。20g未満の小礫が過半数を占めるが、100gを越えるものも70点程あり、300gを超えるものも3点出土している。石材は石英安産岩・石英安山岩質凝灰岩・花崗岩などがみられ、硬質で粗粒な石材が多い。

【時期】本遺構から出土した遺物はいずれも塩釜式土器で、第111図-1や4・5などは塩釜式土器の中でも新しい時期の特徴を有しており、本遺構の時期を示している。

SI155 竪穴住居跡(第112・115図)

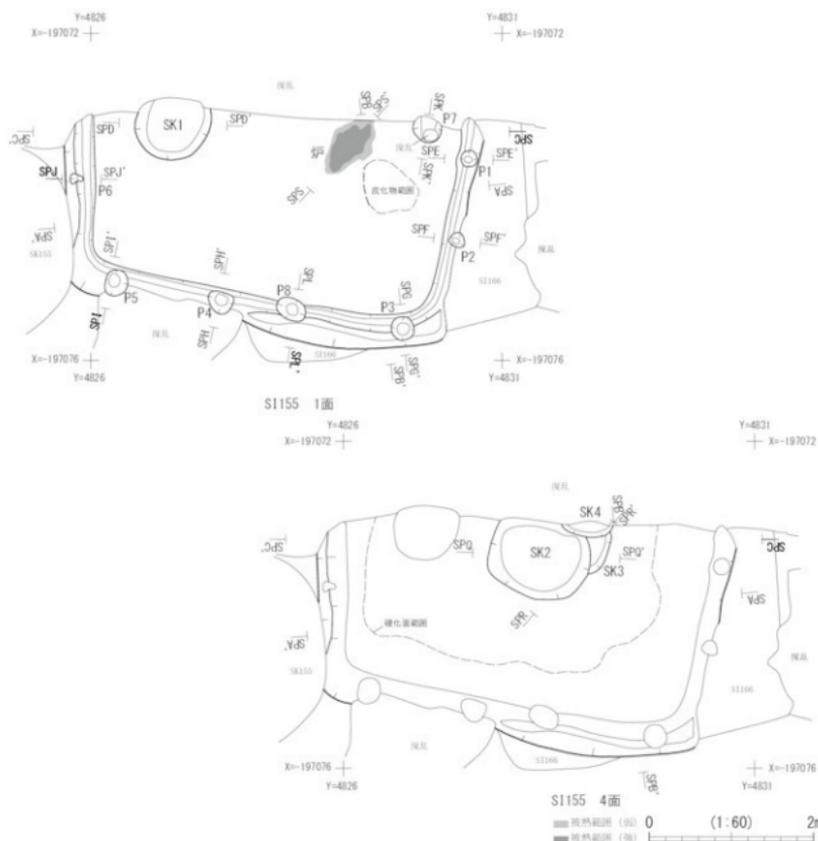
【位置・確認】中区南側に位置する。北半は擾乱に削平される。当初SI 166と同一遺構として掘削を開始し、SI 166の床面を検出した時点で再精査により新田の竪穴住居跡として区分している。

【重複】SI156・166、SK 155と重複関係にあり、SK 155よりも古く、SI156・166より新しい。

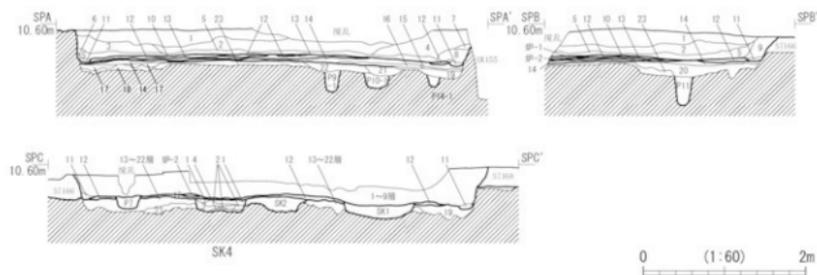
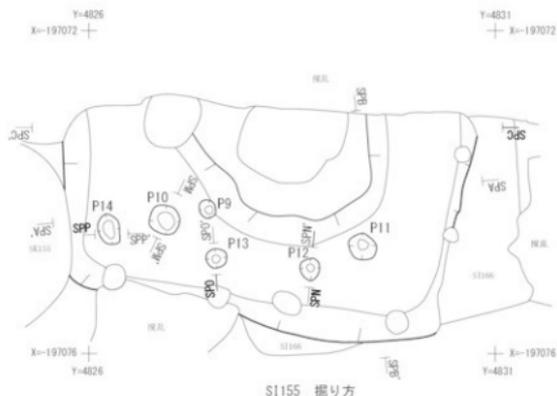
【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西493cm、南北278cm以上を測る。平面形状は方形とみられるが、西壁はやや北側に開く。

【方向】南壁・東壁基準ではN-10°-Wで、西壁はほぼ真北方向を向く。

【堆積土】23層に分層された。1～10層は住居堆積土で、暗褐色や褐色土を主体とする。10層は炉の西側床面に分布する炭化物層である。11層は周溝堆積土である。12～16層はにぶい黄褐色土などの住居堆積土よりも明るい土を



第112図 SI155竪穴住居跡(1)



第113図 S1155竪穴住居跡(2)

主体とする貼床で、それぞれの上面が床面をなしている。17～23層は掘り方堆積土で、基本層IV層ブロックを多量含む。

【壁面】東壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南壁・西壁は上方で開く。残存する壁高は西壁際で床面1面まで38cmを測る。

【床面】床面は貼床を繰り返した痕跡が確認され、合計4面の床を確認した。上から床面1面、2面と呼称し、最も古い床面4面である。4面床面はほぼ水平であるが、住居南西側には床の貼りなおしがあり行われず結果として床面1面時点では住居北東側が南西より9cm高くなっている。床面1面では炉と土坑1基、4面では土坑3基を確認したが、2面・3面に伴う床は認められない。

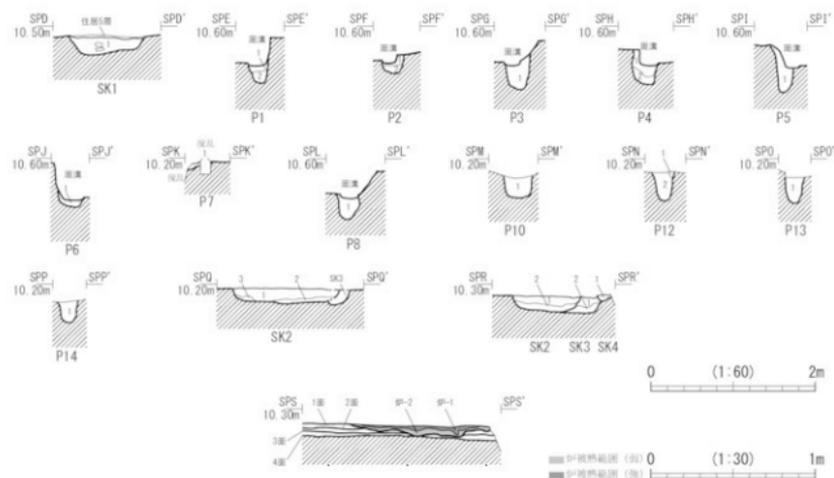
【炉】床面1面では住居中央より東に寄った位置に炉跡を確認した。炉は南西から北東方向に長く、床面と同じ高さで窪みを持たず、火床面は強く被熱している。炉の南東床面には炭化物の集中する範囲がみられる。

【柱穴】ピットは14基検出した。床面1面では住居壁際の周溝に沿って7基の壁柱穴が確認された。柱痕跡は認められない。掘り方で検出したP9～14は住居南壁から約70～120cm離れて並んでおり、4面床面以前の壁柱穴の可能性もある。

【周溝】周溝は確認された床面範囲を全周する。調査では深く掘り下げているが、断面観察では浅い。

SI155 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層別層 ゾーンの別	試人物		備考
							粘土	炭化物	
住居 棟柱土	1	10TK3/4	暗褐色	シルト	普通	強	径1~2mm 少量	径1~5mm 少量	
	2	10TK3/4	暗褐色	シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
	3	10TK3/4	暗褐色	シルト	普通	強	径1~2mm 少量	径1~20mm 少量	
	4	10TK3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	5	10TK3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	6	10TK4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~20mm 少量	径1~5mm 少量	
	7	10TK4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量		
	8	10TK3/4	暗褐色	シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	9	10TK3/4	暗褐色	シルト	普通	強	径1~5mm 少量		2.5TK/1灰白色の風化した鱗片、径1~10mmを中量含む。
	10	N2/0	黒色	泥	別	普通			炭化物の少量。
	11	10TK3/2	暗褐色	シルト	普通	強	径5~10mm 少量		
基礎	12	10TK3/4	暗褐色	シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	1面鉛床。
	13	10TK4/2	にじみ-黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~2mm 少量	径1~5mm 少量	2面鉛床。
	14	10TK4/2	緑灰色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	3面鉛床。
	15	10TK4/2	にじみ-黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	3面鉛床。
	16	10TK4/2	反黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	3面鉛床。
	17	10TK3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
壁下方	18	10TK4/6	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	19	10TK3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	
	20	10TK3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
	21	10TK3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 少量	
	22	10TK3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量	径1~5mm 少量	
	23	10TK4/6	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 少量	10TK3/2暗褐色土、径1~10mmを中量含む。



第114図 SI155壁穴住居跡(3)

SI155 施設十層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーンの状況	埋入物		備考
							様式	位置物	
S1	1	33K5/8	明赤褐色	砂質シルト	普通	強			被熱により明赤褐色化した土。
	2	33K3/2	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強			被熱により暗赤褐色化した土。
SK1	1	10Y3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～5mm 散在	径1～10mm 散在
	1	10Y3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～5mm 散在	径1～5mm 散在
SK2	2	10Y3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 中量	径1～10mm 少量	径1～5mm 散在
	3	10Y3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 中量	径1～10mm 少量	径1～10mm 中量
SK3	1	10Y3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 中量	径1～5mm 少量	
	2	10Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	強	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 散在	
SK4	1	7.5Y3/4/2	灰褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～10mm 少量	基本層IVは被熱により黒色化。
	2	10Y3/4	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～5mm 散在	基本層IVは被熱により黒色化。
	3	10Y3/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～10mm 多数	径1～10mm 散在	基本層IVは被熱により黒色化。
	4	10Y3/4	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～20mm 多数	径1～5mm 散在	基本層IVは被熱により黒色化。
P1-2/4	1	10Y3/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 散在	
	2	10Y3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 中量	
P3-5/6/8	1	10Y3/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 中量	径1～5mm 散在	
P7	1	7.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強		径1～10mm 中量	
P9-10	1	10Y3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		
	2	10Y3/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 多数		
P11	1	10Y3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 散在	
P12	1	10Y3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 散在	
	2	10Y3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		
P13-14/15	1	10Y3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		
P16	1	10Y3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		

SI155 施設観覧表

遺物名	平面形	縦横(cm)	厚さ(cm)	備考
P1	円形	19×19	36	柳釘穴
P2	円形	19×17	33	柳釘穴
P3	円形	29×27	60	柳釘穴
P4	木槌円形	30×27	43	柳釘穴
P5	円形	33×27	38	柳釘穴
P6	木槌形	33×33	34	柳釘穴
P7	木槌	33×33	7	
P8	楕円形	37×27	59	柳釘穴
P9	円形	33×36	38	

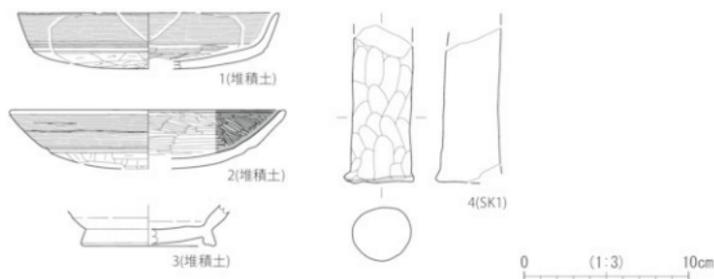
遺物名	平面形	縦横(cm)	厚さ(cm)	備考
P10	円形	37×35	27	
P11	円形	35×31	37	
P12	円形	28×24	36	
P13	円形	24×24	33	
P14	楕円形	28×26	27	
S31	円形	80×90	25	
S32	楕円形	123×90	20	
S33	木槌	140×11	20	
S34	木槌	80×200	16	

【その他の施設】床面1面でSK1を、床面4面でSK2～4を検出した。4面の土坑はSK3が古く、SK2と4が新しい。

【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】土師器2点、須臾器1点、土製品1点の計4点を掲載した(第115図)。SK1から出土した土製品を除いて堆積土中からの出土である。第115図-1は平底の土師器環で、体部はごくわずかに内湾して口縁部との境界で屈曲し、直線的に上方に立ち上がる。口縁部と体部の境界に段を有する。また、段の上方に沈線状の細い2条の段を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、体部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。2は平底気味の土師器環で口縁部までなめらかに内湾する。口縁部と体部の境界には段を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。3は須臾器の高台付碗の高台部及び底部である。底部は回転ヘラケズリでやや丸底気味である。4はナデで調整された土製の支脚で、一方が破損している。被熱の痕跡はみられない。

【時期】前述の通り、SI166と同時に掘削しているため、SI166の遺物が混入している可能性があるが、郡山II期官衙、本書時期区分6期の中でも新しい時期に属するとみられる特徴を有する第115図-1から、SI166より新しい本遺構の時期は、この遺物が示していると考えられる。



P06 番付	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法基 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
								上径	底径	高さ				
1	C-098	中区南側	SI155	堆積土	土師器	环	口縁~底	(15.8)	(14.4)	(3.4)	口縁:237°、 底:49°	口縁:237°、 体:49°		63-2
2	C-099	中区南側	SI155	堆積土	土師器	环	口縁~底	(16.8)	(11.8)	(3.6)	口縁:237°、 体:49°	口縁:237°、 体:49°	内面黒色処理	63-3
3	E-018	中区南側	SI155	堆積土	須恵器	高付円筒	体・高付	-	(8.0)	(2.1)	体:39°調整、 底:100°調整	39°調整		63-4
P06 番付	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	法基 (cm)			重量(g)	特徴・備考	写真 図版		
							口径	底径	高さ					
4	P-002	中区南側	SI155	3B1	土製品	支脚	14.0	10.0	13.6	77			63-5	

第115図 SI155竪穴住居跡出土遺物

SI156 竪穴住居跡(第116～118図)

位置・確認 中区南側に位置する。北側及び住居中央を他遺構と掘乱に削平される。

【重複】SI155・166、SK151と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西510cm、南北470cm以上を測る。平面形状は方形と推測される。

【方向】南壁基準でN-33°-Wである。

【堆積土】13層に分層された。1～8層は住居堆積土のうち6層は壁際のいわゆる三角堆積である。9・10層は周溝堆積土で黒褐色砂質シルトを主体とする。11～13層は掘り方で、基本層IV層のブロックを主体とする。

【壁面】急角度で立ち上がる。残存する壁高は南壁際で7cmを測る。

【床面】床面は住居東壁際から南側がやや高く、住居西側に向かって約6cm下がる。

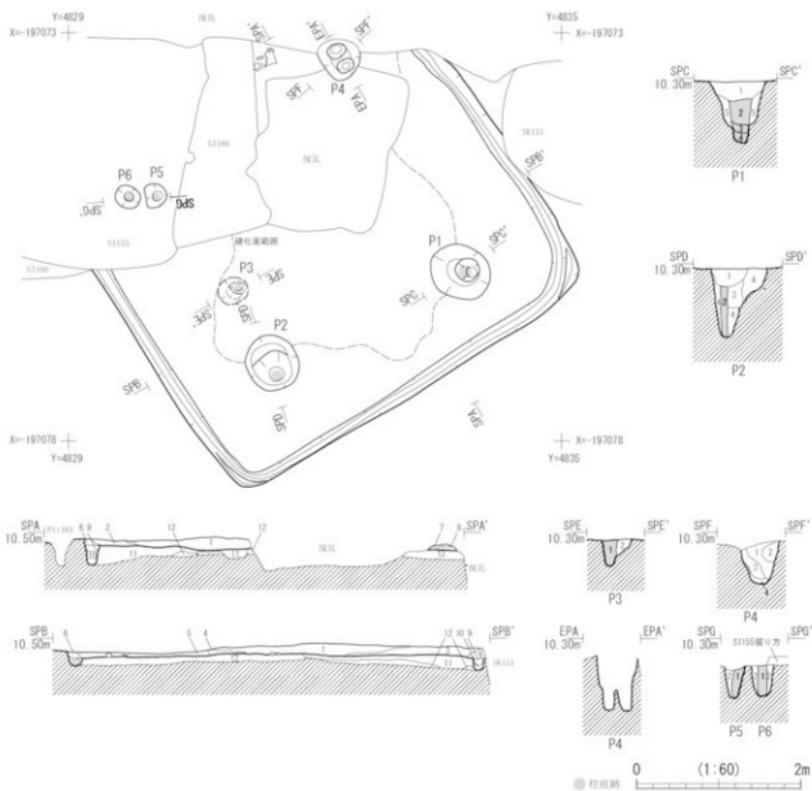
【柱穴】ピットは6基検出した。配置や規模からP1・2・4・5の4基は4本柱の主柱穴である。また、P4には柱穴状の窪みが二箇所確認されること、北西のP5の柱際に柱痕を持つP6が位置することから、柱の建替えが行われた可能性がある。

【周溝】検出した範囲において全周する。周溝は深く、10～25cmを測る。住居南西・南東隅ではわずかに住居壁から離れ、細いテラス状部分を残す。

【その他の施設】柱痕跡を持つP3を確認している。

【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】土師器4点と須恵器1点を掲載した(第117・118図)。いずれも堆積土出土である。第117図-1は土師器環で、丸底で口縁部までなめらかに内湾する。口縁部と体部の境界に浅い段を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はココナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2は最大径を口縁部に有する土師器鉢で、体部から垂直な口縁部までなめらかに内湾する。口縁部と体部の境界にはごく浅い段を有する。調整は、



第116図 S1156竪穴住居跡

S1156 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	硬さ	基本層内容 フナコ、砂	遺人物		備考
							焼土	瓦片類	
住居 層様土	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~5mm 中量	焼1~5mm 微量		
	2	10YR4/2 じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~10mm 少量			
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~10mm 少量	焼1~5mm 微量		
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~5mm 少量			
	5	10YR4/2 じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~10mm 少量			
	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~5mm 微量			
	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~10mm 少量	焼1~5mm 微量		
	8	7.5YR4/2 暗灰色	砂質シルト	普通	強	焼1~5mm 微量	焼1~10mm 少量		
	9	10YR4/4 褐色	砂質シルト	普通	普通	焼1~5mm 中量	焼1~5mm 微量		
	10	10YR4/6 褐色	砂質シルト	普通	普通				
	11	10YR4/2 じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~10mm 少量			
敷き方	12	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	普通	強				10YR3/4暗褐色土、焼1~10mm少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	砂質シルト	普通	強	焼1~10mm 中量			

S1156 施設土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層否 ツリノ層	埋人物	炭化物	備考
P1	1	10YR4/2	17.5%黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
	2	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 微量		
	3	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	普通	径1~5mm 微量		径1~5mm 微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強			粒面粘。
	5	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む。
P2	1	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強		径1~5mm 微量	10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む。
	2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 微量		10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む。 粒面粘。
	3	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/3暗褐色土、径1~5mm少量含む。
	4	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強			
P3	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 微量	粒面粘。
	2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む。
P4	1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~10mm 少量	
	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強			10YR6/6黄褐色土、径1~30mm; 10YR3/4暗褐色土、径1~30mm混在。
	3	10YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 微量	
	4	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量含む。
P5-6	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		粒面粘。
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強			10YR5/6黄褐色土、径1~30mm; 10YR3/3暗褐色土、径1~30mm混在。

S1156 施設観覧表

遺構名	平面形	短径(cm)	長径(cm)	備考
P1	円形	36×63	77	土柱式。
P2	円形	32×49	84	土柱式。
P3	円形	37×33	39	

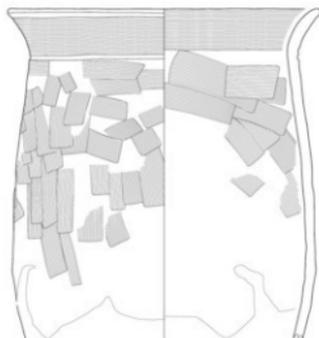
遺構名	平面形	短径(cm)	長径(cm)	備考
P4	楕円形	101×147	154	土柱式。
P5	木塀円形	29×26	40	土柱式、S1155-P52-5変型
P6	円形	31×27	39	S1155-P52-5変型



1(堆積土)



2(堆積土)

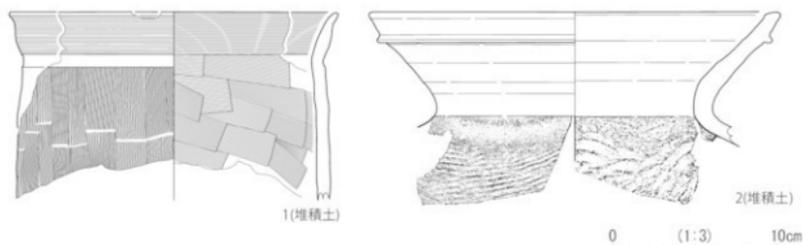


3(堆積土)

0 (1:3) 10cm

調査番号	発掘者	調査区	地上地	層位	構別	器種	部位	法量 (mm)		外面調整	内面調整	備考	写真 図例	
								口径	底径					
1	C-100	中区南側	S1156	堆積土	土器器	杯	118~底	14.8	11.0	4.5	118: 23°、底: 9°	92.1°	内面黑色包埋	63-6
2	C-101	中区南側	S1156	堆積土	土器器	鉢	118~体	115.0	-	(12.0)	118: 23°、底: 9°	118: 23°、底: 9°		63-7
3	C-102	中区南側	S1156	堆積土	土器器	鉢	118~胴	18.8	-	(20.2)	118: 23°、底: 9°	118: 23°、底: 9°	内外面下平の磨面所	63-8

第117図 S1156竪穴住居跡出土遺物(1)



図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	口径	高さ				
1	C-202	中区南側	SI156	埴輪土	土師器	甕	口縁-胴	20.0	-	口上.20	口縁.17°、胴.30°	口縁.17°、胴.30°	外面磨り着	63-9
2	E-019	中区南側	SI156	埴輪土	須恵器	甕	口縁-胴	24.5	-	口上.11	口縁.19°調整、胴.33°	口縁.19°調整、胴.39°	青黄皮文	63-10

第118図 SI156竇穴住居跡出土遺物(2)

内外面共に体部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第117図-3は長胴の土師器甕で、胴部最大径は胴部中位かやや下位とみられる。口縁部と胴部の境界に段を有し、口縁部はやや屈曲し外反し開く。調整は内外面共に体部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。第118図-1は長胴の土師器甕の上半部で、胴部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部はわずかに屈曲し外傾して直線的に外傾する。口唇部はわずかに外反する。口縁部と胴部の境界には幅が広い段を有する。調整は、胴部外面は細かいハケメ、胴部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。外面に煤が付着している。2は須恵器甕の口縁部で、頸部は胴部から屈曲し一度ほぼ垂直に立ち上がり、口縁部はさらに湾曲して外方に直線的に開く。内面に青海波文がみられる。

【時期】出土遺物は部山Ⅱ期官衙、本書時期区分6期の特徴を有しているが堆積土出土遺物であり、本遺構の時期はそれより以前と考えられる。

SI157 竇穴住居跡(第119・120図)

【位置・確認】中区南側に位置する。中央を削平され、東半は攪乱が床面直上まで及んでいるため、遺存状態は悪い。

【重複】SI159と重複関係にあり、SI159より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西452cm、南北435cmを測る。平面形状は方形である。

【方向】東壁基準でN-17°Eである。

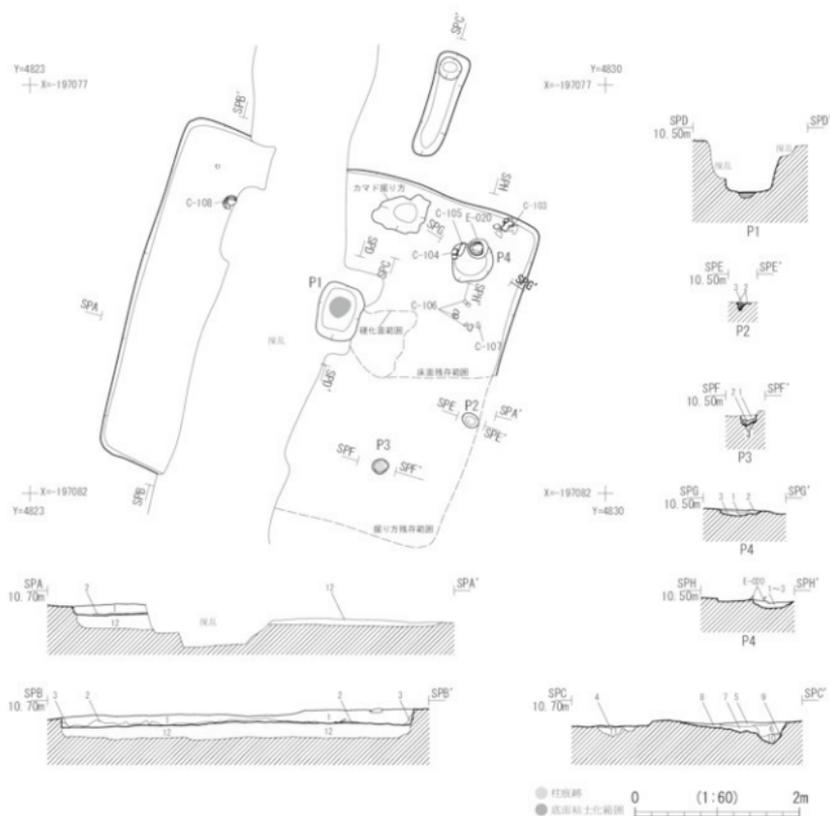
【堆積土】12層に分層された。1～3層は住居堆積土、4～11層はカマド堆積土、12層は掘り方堆積土である。住居堆積土は暗褐色土を主体とし、床面付近(2層)と壁際(3層)は基本層IV層ブロックを多く含む。4層と11層はカマド燃焼部掘り方で焼土を含む。5～10層はカマド煙道部堆積土で、9層は炭化物を含む。12層は基本層IV層を主体とする。

【壁面】ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は北壁西隅で20cmを測る。

【床面】ほぼ水平で平坦である。

【カマド】住居北壁やや東寄りにカマドを検出した。燃焼部及び袖は残存せず、焼土の混入する燃焼部掘り方のみ確認された。煙道部先端は住居床面より深く下っており、煙道部先端では炭化物を含む9層を確認し、先端奥壁に若干の被熱を確認した。住居北壁からカマド煙道部先端までは164cmを測る。

【柱穴】ピットは4基確認され、住居ほぼ中央で検出したP1は底面に柱痕下面にみられる粘土化した範囲を確認してい



第119図 S1157竪穴住居跡

S1157 施設観覧表

施設名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	隅丸形	661×523	23	
P2	P1形	34×30	30	

施設名	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P3	P1形	17×17	13	
P4	P1形	48×42	9	

る。規模と位置から、P1の1本柱を主柱穴とする竪穴住居跡とみられる。

【その他の施設】住居北東隅で浅い窪みのP4を検出した。2層は焼土粒を含み、3層は灰を主体とする。P4上部北側には胴部をほぼ水平に打ち欠いた須恵器甕が正位で出土している。須恵器甕は器台に転用されたものとみられ、直下に焼土や灰が堆積するP4と関連するものと考えられる。住居南東部でP2・3を確認している。いずれも柱痕を確認している。

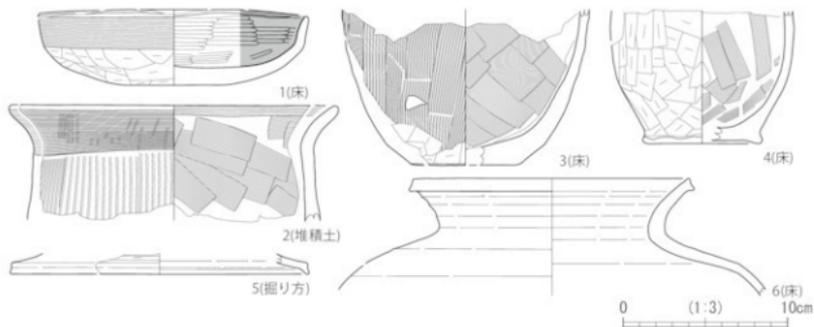
【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

SI157 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	砂入り	基本層厚(層厚)	埋入物		備考
							積土	炭化物	
住居 床積土	1	10YR3/3	砂質シルト	弱	強	厚1~5mm 少量	厚1~5mm 少量		
	2	7.5YR3/3	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 多量	厚1~5mm 少量		
	3	7.5YR3/3	砂質シルト	弱	強	厚1~20mm 少量	厚1~5mm 少量		
カマド	4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~5mm 少量	厚1~10mm 少量	
	5	10YR4/3	にじみ赤褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~5mm 少量	焼熱により基本層IV層IYR3/1黒褐色化。
	6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~5mm 少量	焼熱により基本層IV層IYR3/1黒褐色化。
	7	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~5mm 少量	焼熱により基本層IV層IYR3/1黒褐色化。
	8	10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~5mm 少量	焼熱により基本層IV層IYR3/1黒褐色化。
	9	10YR3/3	緑褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~10mm 少量	焼熱により基本層IV層IYR3/1黒褐色化。
	10	10YR4/4	褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~5mm 少量	焼熱により基本層IV層IYR3/1黒褐色化。
	11	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量	厚1~5mm 少量	
	12	10YR6/6	褐色	砂質シルト	普通	強	厚1~30mm 少量		

SI157 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	砂入り	基本層厚(層厚)	埋入物		備考
							積土	炭化物	
P2	1	7.5YR3/4	緑褐色	粘土質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量		
	2	10YR3/4	緑褐色	粘土質シルト	弱	強	厚1~10mm 多量		
	3	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	弱	強			
P3	1	10YR3/4	緑褐色	粘土質シルト	弱	強	厚1~10mm 少量		
	2	10YR3/2	茶褐色	粘土質シルト	弱	強	厚1~5mm 少量		
	3	7.5YR3/4	緑褐色	粘土質シルト	弱	強			
P4	1	10YR3/2	緑褐色	砂質シルト	普通	強	厚1~5mm 少量	厚1~10mm 少量	
	2	10YR4/4	にじみ赤褐色	砂質シルト	普通	強	厚1~10mm 少量	厚1~10mm 少量	
	3	10YR4/1	灰褐色	泥	普通	強	厚1~5mm 少量	厚1~5mm 少量	



図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法層 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図録
								上縁	底縁	器底				
1	C-108	中区南側	SI157	床	土師器	杯	口縁~底	16.5	15.8	4.6	口縁:22F、体:49X5	49X5		63-11
2	C-104	中区南側	SI157	埋積土	土師器	甕	口縁~胴	20.0	-	17.0	口縁:22F→22F、胴:10F	口縁:22F、胴:49F		63-14
3	C-106	中区南側	SI157	床	土師器	甕	胴~底	-	65.0	69.5	胴:49F→胴:49X5	49F		63-12
4	C-107	中区南側	SI157	床	土師器	甕	胴~底	-	7.3	68.1	胴:49X5、底:49X5	49F		63-13
5	E-039	中区南側	SI157	掘り方	須恵器	甕	口縁	118.0	-	11.2	内外調整→49X5	内外調整		63-15
6	E-020	中区南側	SI157	床	須恵器	甕	口縁~胴	16.6	-	17.2	内外調整	内外調整		63-16

第120図 SI157竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】土師器4点、須恵器2点の計6点を掲載した(第120図)。第120図-1は床面出土の平底の土師器杯で、体部外周で内湾し、口縁部と体部の境界に屈曲し、口縁部はわずかに外傾して立ち上がる。口縁部と体部の境界に段はもたない。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理

が施される。口縁部は多数の敲痕が観察される。2は堆積土から出土した長胴の土師器甕で、口縁部と胴部の境界は極低い稜を有し、口縁部は外反して開く。調整は、外面の胴部から口縁部にかけて幅の広いハケメを施した後に口縁部をヨコナデ、内面はヘラナデ後口唇部にヨコナデを施している。第120図-3は床面出土の土師器甕底部である。調整は、胴部外面はハケメ後下端部をヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。4は床面から出土した長胴の土師器甕下半部で、底部は外周に張り出す。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。5は掘り方出土の須恵器蓋で、カエリを持たず口縁部は短く下垂する器形である。6は床面出土の須恵器甕で、頸部で強く湾曲し口縁部は外方に開く。肩部にタタキメはみられず、ロクロ調整で整形される。底部は水平に打ちかかれており、床面で水平に出土した状況からも器台に転用されたものとみられる。

【時期】床面から出土した第120図-1や6は郡山Ⅱ期官衙、本書時期区分6期の特徴を有しており、本遺構の時期を示している。

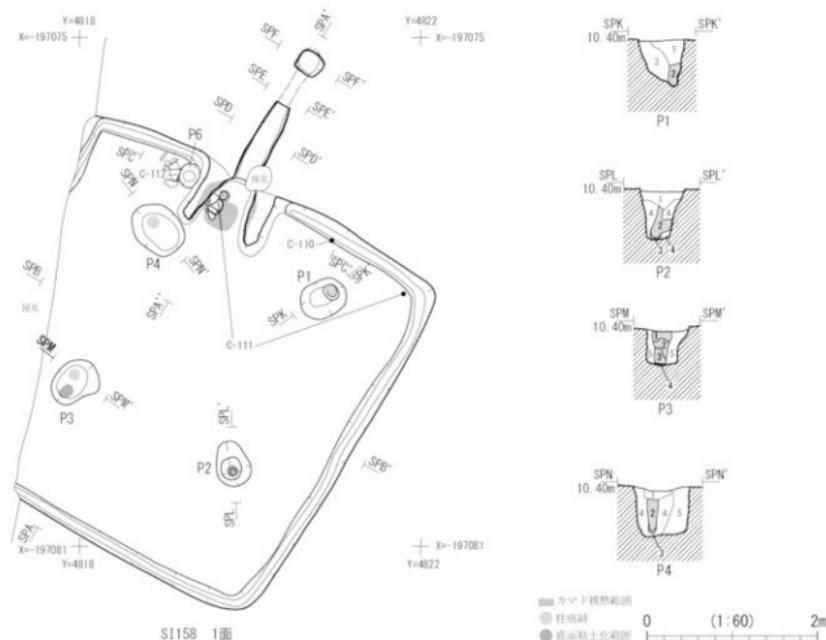
SI 158 竪穴住居跡(第121～125図)

【位置・確認】中区南側に位置する。西側を視乱に削平される。

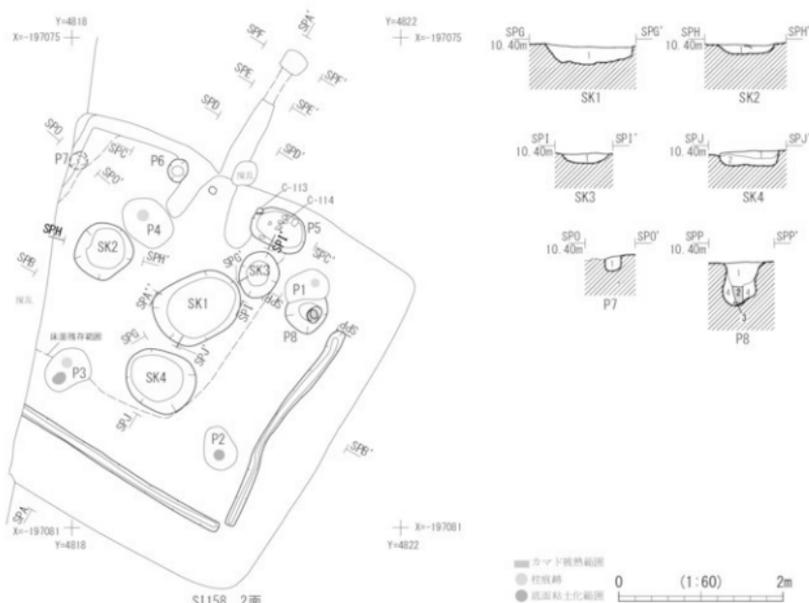
【重複】SI159、SD95、P210と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西462cm以上、南北470cmを測る。平面形状は方形である。

【方向】カマド主軸及び東壁・南壁基準でN-30°Eである。



第121図 SI158竪穴住居跡(1)



SI158 2面

第122図 SI158竪穴住居跡(2)

SI158 竪穴跡表

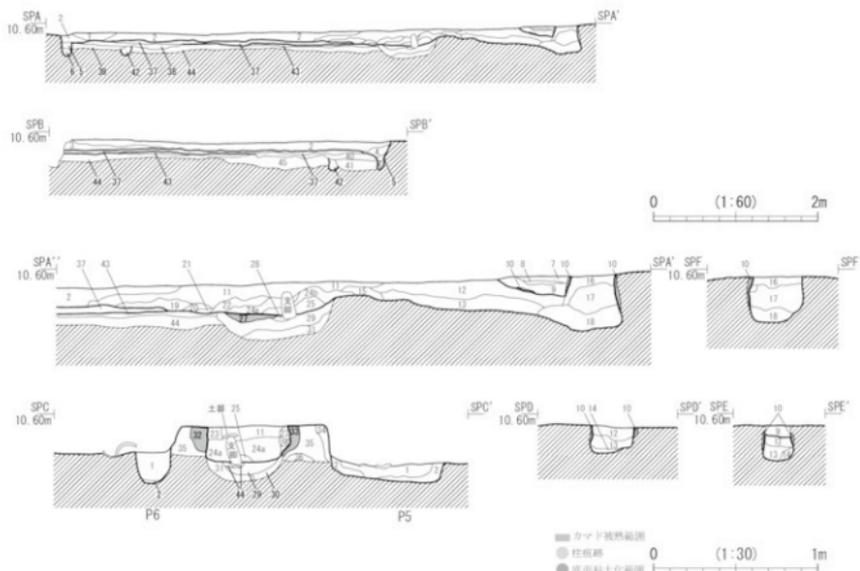
遺構名	平面形	距離(m)	深さ(m)	備考
P1	楕円形	51×43	30	主柱穴、1面検出
P2	本型楕円形	54×41	40	主柱穴、1面検出
P3	本型楕円形	58×44	54	主柱穴、1面検出
P4	楕円形	67×51	46	主柱穴、1面検出
P5	楕円形	70×60	12	2面検出
P6	円形	28×24	22	2面検出

遺構名	平面形	距離(m)	深さ(m)	備考
P7	本型円形	32×29	19	2面検出
P8	円形	51×47	54	2面検出
SK1	楕円形	107×79	20	2面検出
SK2	本型円形	68×65	12	2面検出
SK3	円形	38×47	13	2面検出
SK4	楕円形	87×72	19	2面検出

【堆積土】45層に分層された。1～4層は住居堆積土、5・6層は周溝、7～26層はカマド堆積土、27～36層はカマド掘り方、37～41層は1面床面の掘り方、42層は2面周溝、43～45層は2面の掘り方である。7～10層はカマド煙道天井部が元位置を保っているが、焼土や炭化物を含み、基本層IV層ブロックとの混土であることから、煙道はトンネル状に掘り込んだのではなく、天井部を構築している。10層は煙道部の被熱した範囲で、構築した天井部上面と側面上部にみられる。11～18層は煙道部堆積土で、被熱したブロックを含み、煙道先端は黒褐色土の17・18層が厚く堆積する。20・21・23・25層はカマド燃焼部内の被熱した天井部崩落土で、24層は焼土粒を多量含む。27層は火床面、32・33層はカマド袖でいずれも強く被熱する。カマド袖は基本層IV層と極めて類似した土で構築されている。37層は1面床面の貼床で、薄い互層が認められる。38～41層は1面床面掘り方のうち外周部を深く掘り込んだ部分で、2面床面を壊している。43層は2面の貼床だが、1面貼床と異なり薄い互層はみられない。

【壁面】やや開いて立ち上がる。残存する壁高は東壁で床面1面まで14cmを測る。

【床面】床面は2面確認した。上から床面1面、2面の順に呼称している。床面1面では4本柱の主柱穴とカマド西側袖



第123図 SI158竪穴住居跡(3)

際のP6及び周溝、床面2面でそれ以外のピットとSK、住居壁より内側を巡る周溝を確認した。竪穴住居跡床面は2面床面から1面床面への変更に伴い南側と東側へ拡張されており、2面床面は1面の掘り方により部分的に壊されている。

【カマド】住居北壁やや西寄りで確認した。2面の周溝との位置関係からは北壁ほぼ中央に位置している。カマド燃焼部手前は床面の貼替えがなされておらず、1面から継続して使用されたとみられる。カマドは袖と燃焼部、煙道部が確認された。カマド燃焼部は床面2面とほぼ同じ標高を測り、カマド燃焼部奥壁は住居壁と一致する。燃焼部火床面及び袖側面は被熱する。カマド煙道部は煙道部奥壁から一段上がって続き、先端に向かって傾斜しており、煙出し部は住居床面より深い。煙出し付近の天井部は残存し、トンネル状を呈する。煙出し部分は平面が隅丸方形を呈し、煙道部より一段下って立ち上がる。燃焼部には円柱状の土製支脚が残存し、裏の底部が逆位に被せられている。

【柱穴】ピットは8基検出した。このうち、規模と配置からP1～4は4本柱の主柱穴である。いずれも柱痕跡を確認している。P4はカマド袖先端に極めて近い。床面2面ではP1際で柱痕跡を有するP8が、P3では柱痕とは別の位置の底面に柱の下部にみられる粘土化範囲が認められることから、住居の拡張に伴い柱が建替えられたとみられる。

【周溝】床面1面では検出した範囲において全周する。また床面2面では南壁から70cm、東壁から50cm離れた位置で周溝を確認している。

【その他の施設】2面床面ではピットの他にも土坑4基を確認しており、このうちカマド袖東側に位置するP5とSK2・4には焼土が混入する。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

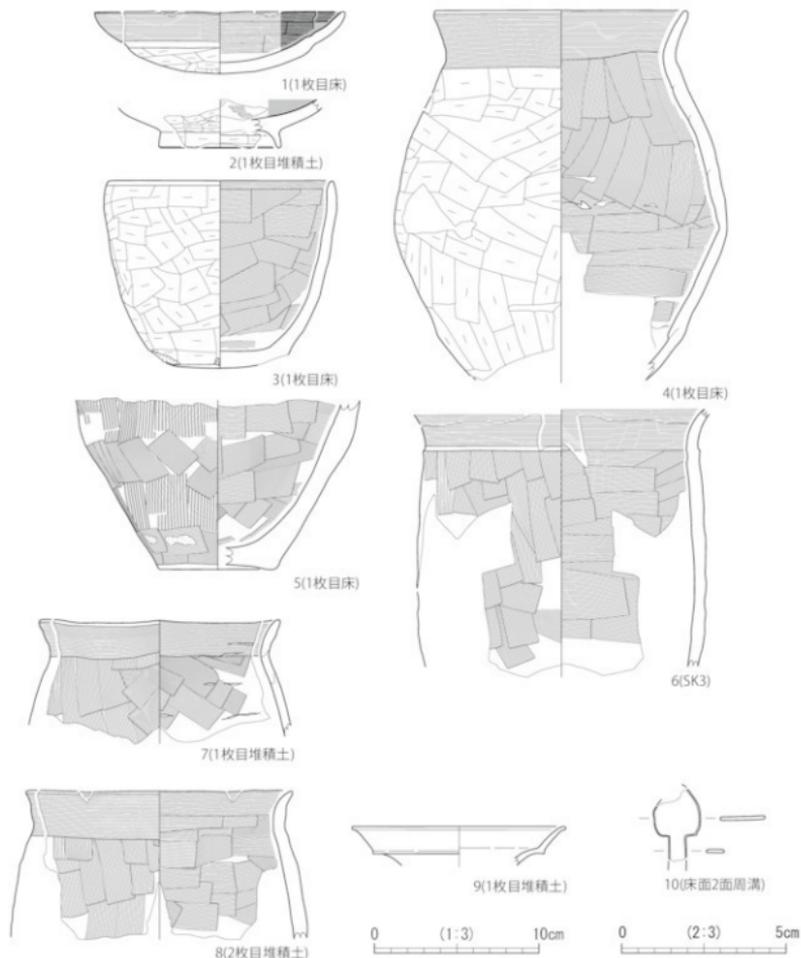
S1158 土層観覧表

階位	部位	土色	土性	粘性	締まり	近人跡			備考	
						基本掘り留 下の土質	根土	埋込物		
1面 基礎土	1	10YR4/2	にじみ・黄褐色	砂質シルト	普通	強				
	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
	3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 少量	径1～5mm 少量	
	4	10YR2/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量			
	5	10YR4/3	にじみ・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
2面	6	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量			
	7	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量			埋込天井部。
	8	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量			埋込天井部。
	9	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量			埋込天井部。
	10	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強				埋込天井部、固結により黒褐色化する。
カマツ 壁	11	10YR2/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	
	12	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強		径1～2mm 微量	径1～5mm 微量	焼熱した2.5YR3/1黒褐色土、径5～10mm少量含む。
	13	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量			焼熱した2.5YR3/1黒褐色土、径1～10mm少量含む。
	14	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強				焼熱した2.5YR3/1黒褐色土、径5～10mm少量含む。
	15	7.5YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～10mm 少量		焼熱した2.5YR3/1黒褐色土、径1～5mm微量含む。
	16	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強				焼熱した4.5YR2/1黒褐色土、径1～5mm少量含む。
	17	10YR2/1	黒褐色	シルト	普通	強	径1～10mm 少量			
	18	10YR2/1	黒褐色	シルト	普通	普通	径1～5mm 微量			(1層よりやや細り部)
	19	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
	20	2.5YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	普通	強				天井脱落土。
	21	10Y3/4	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強				天井脱落土。
	22	10Y3/2	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強		径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	
	23	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強				天井脱落土。
	24	7.5YR2/2	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
	24b	10Y3/2	暗赤褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	
	25	10Y3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	天井脱落土。
	26	7.5YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量	径1～2mm 微量	径1～5mm 微量	
	27	2.5Y4/4	赤褐色	砂質シルト	普通	強				火床部。
	カマツ 壁の方	28	7.5YR5/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量		
29		10YR4/6	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 微量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
30		10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 微量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
31		10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 微量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
32		7.5YR5/4	明黄褐色	砂質シルト	無	強	径1～10mm 少量			
33		7.5YR5/6	明黄褐色	砂質シルト	無	強			径1～5mm 微量	
34		2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	無	強	径1～5mm 微量		径1～5mm 微量	
35		2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	無	強			径1～5mm 微量	
36		10YR4/4	褐色	砂質シルト	無	強	径1～5mm 微量		径1～5mm 微量	
1面 壁の方		37	10YR4/1	黒灰色	シルト	普通	強			
	38	10YR4/3	にじみ・黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	
	39	10YR5/4	にじみ・黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	
	40	7.5YR2/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量		径1～5mm 微量	
	41	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 少量			
2面 陥床	42	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～5mm 少量			
	43	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 多量			2面陥床。
陥 床 方	44	10YR5/4	にじみ・黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 多量			
	45	10YR4/6	褐色	砂質シルト	普通	強	径1～10mm 多量	径1～5mm 微量	径1～5mm 微量	

S158 施設十層観察表

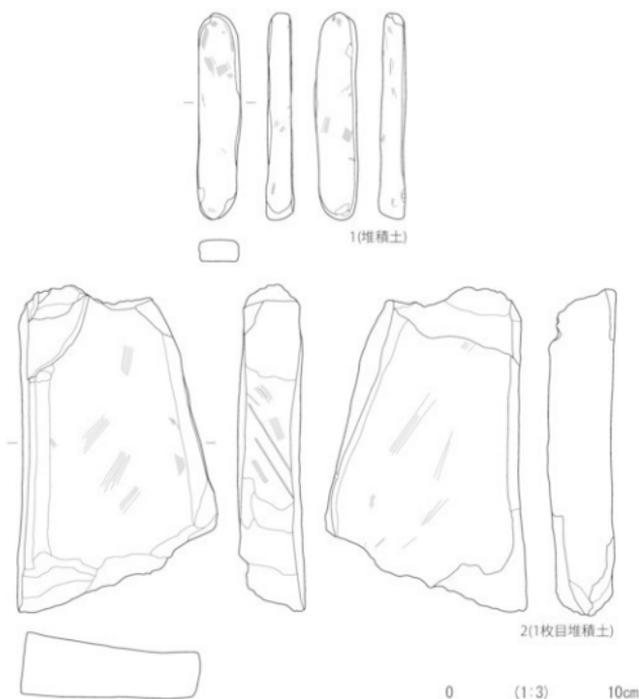
部位	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層番号 (ゾーンの始)	埋人物		備考
							焼土	炭化物	
SK1	1	10YR4/2	粘土質シルト	普通	強	埋1~20mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~10mm 少量	
SK2	1	2.5YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~20mm 少量	埋1~10mm 少量	埋1~10mm 少量
SK3	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~20mm 少量	埋1~10mm 少量	埋1~5mm 少量
SK4	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~5mm 少量
	2	10YR4/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~5mm 少量
P1	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~5mm 少量		埋1~5mm 少量
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~5mm 少量		埋1~5mm 少量
	3	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~20mm 少量		
P2	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量		
	2	10YR2/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量		
	3	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強			柱状結。
	4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量		
P3	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~10mm 少量
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~10mm 少量
	3	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強		埋1~5mm 少量	埋1~10mm 少量
	4	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強	埋1~20mm 少量		柱状結。
	5	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量		
P4	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~5mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~5mm 少量
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~5mm 少量
	3	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強			柱状結。
	4	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量		
	5	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量		
	6	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強			柱状結。
P5	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量	埋1~5mm 少量	埋1~10mm 少量
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強		埋1~5mm 少量	埋1~10mm 少量
P6	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~10mm 少量		
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強			柱状結。
P7	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強		埋1~5mm 少量	
P8	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量	埋1~5mm 少量	
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~5mm 少量		
	3	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強			柱状結。
	4	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	普通	強	埋1~30mm 少量		

【出土遺物】土師器8点、須恵器1点、金属製品1点、石製品2点の計12点を掲載した(第124・125図)。第124図-1は1面床出土の丸底の土師器環で、底部から口縁部まで内湾する。口縁部と体部の境界で内外面に段を有し、口縁部は体部より器壁が薄い。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、体部内面はヘラナデ後口縁端部にヨコナデがなされ、内面に黒色処理が施される。2は堆積土出土の土師器の高台付付て、丸底気味の器形に高台が付く。調整は、高台部内外面及び体部外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。3は床面1面出土の土師器鉢で、内湾して立ち上がり、最大径が口縁部に位置する器形を呈する。底部外周は剥離している。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。4は床面1面出土の土師器甕で、胴部中位の最大径の位置で変形状に強く屈曲する。口縁部は屈曲し直線的に外傾する。口縁部と胴部の境界に段はもたない。調整は、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面はヨコナデが施される。5は床面1面出土の土師器甕下半部で、胴部は直線的に外傾する。調整は、体部外面はハケメ後ヘラナデ、内面はヘラナデが施される。6はSK3出土の土師器甕で、口唇部と下半部は欠損している。ごくわずかに内湾するが胴部はほぼ垂直である。口縁部と胴部の境界に段を有し、口縁部は外反して開く。調整は内外面共に胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。7は堆積土出



図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (mm)		外面測型	内面測型	備考	写真 図号	
								全径	底径					
1	C-119	中9区南側	SI158	1枚目床	土師器	杯	1床~底	(15.2)	(11.1)	3.8	1床:122F、体:09E'1	1床:122F、体:09E'1	内面黒色処理	64.1
2	C-109	中9区南側	SI158	1枚目埋積土	土師器	高台付杯	体~高台	-	(7.2)	3.0	体~高台:09E'1	体~高台:1上、高台:09E'1	内面黒色処理	64.2
3	C-110	中9区南側	SI158	1枚目床	土師器	鉢	1床~底	13.6	7.4	11.5	09F'1	1床:122F、体:09F'1	底部外縁割縁	64.3
4	C-111	中9区南側	SI158	1枚目床	土師器	甕	1床~甕	(15.0)	-	(22.0)	1床:122F、製:09E'1	1床:122F、製:09F'1		64.4
5	C-112	中9区南側	SI158	1枚目床	土師器	甕	製~底	-	(7.0)	(10.3)	製:09F~09F'1、底:木製	製:09F'1		64.7
6	C-116	中9区南側	SI158	SK3	土師器	甕	1床~甕	(18.0)	-	(16.0)	1床:122F、製:09F'1	1床:122F、製:09F'1		64.9
7	C-117	中9区南側	SI158	1枚目埋積土	土師器	甕	1床~甕	(14.0)	-	(7.0)	1床:122F、製:09F'1	1床:122F、製:09F'1		64.5
8	C-118	中9区南側	SI158	2枚目埋積土	土師器	甕	1床~甕	(16.2)	-	(9.0)	1床:122F、製:09F'1	1床:122F、製:09F'1	内外面磨減	64.6
9	E-021	中9区南側	SI158	1枚目埋積土	須恵器	甕	1床	(9.2)	-	(2.4)	09G'物	09G'物		64.8
10	N-015	中9区南側	SI158	床面2面周溝	金銅製品	不明鉄製品		(2.2)	1.4	0.1	0.8	下部断面に溝(溝口の粗線石、糸巻痕か。	特徴・備考	64.10

第124図 SI158竪穴住居跡出土遺物(1)



第125図 SI158竪穴住居跡出土遺物(2)

図録 番号	調査区	丘上地	階位	種別	器種	法量 (cm)			石材	備考	写真 図版		
						全長	幅	厚					
1	Kd-009	中区高柳	SI158	埴積土	石製品	砥石	12.6	2.8	16.7	889.2	石英安山岩質凝灰岩	表面4面	64-11
2	Kd-010	中区高柳	SI158	1枚目埴積土	石製品	砥石	20.5	11.9	4.3	1274	砂岩	表面3面、内面側有	64-12

土の土師器裏上半部で、内湾する胴部から屈曲し、口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部と胴部の境界に段はもたない。調整は内外面共に胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施されている。第124図-8は床面2面の埴積土出土の土師器裏上半部で、わずかに内湾する胴部から口縁部で外反し口唇部が開く器形を呈する。口縁部と胴部の境界に段は持たない。調整は内外面共に胴部はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。9は埴積土出土の須恵器壺の口縁部である。薄手で中程の括れは頸状を呈する。10は床面2面の周溝出土の薄い板状の不明鉄製品で、両端が欠損し、細い棒状部分の側面に糸巻き痕跡の可能性のある薄く溝状の痕跡が観察される。第125図-1は埴積土出土の砥石で、棒状で4面を砥面としている。石材は石英安山岩質凝灰岩である。2は埴積土出土の砥石で、3面を砥面とし、側面に刃物痕がみられる。石材は砂岩である。

【時期】床面出土遺物が多いが、時期決定資料に欠ける。他遺構との新旧関係からも、時期を明確にはできないが、第124図-1の特徴は郡山官衙Ⅰ期～Ⅱ期、本書時期区分5～6期に相当し、本遺構の所属時期を示しているものと考えられる。

SI159 竪穴住居跡(第126～128図)

【位置・確認】中区南側に位置する。北東・北西を他遺構に削平される。

【重複】SI157・158、SD97・99と重複関係にあり、SI157・158よりも古く、SD97・99より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西590cm、南北604cmを測る。平面形状は方形である。

【方向】南壁基準でN-32°-Eである。

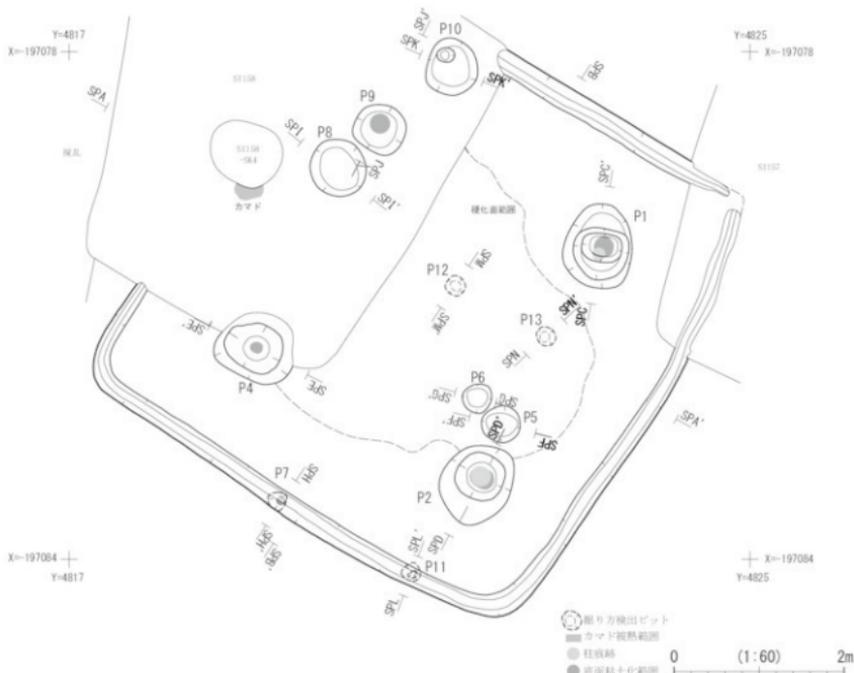
【堆積土】17層に分層された。1～6層は住居堆積土で、このうち1・2層は基本層IV層ブロックを多量含む人為堆積層であり、埋没過程の竪穴住居跡を埋め戻したとみられる。7～9層は周溝、10・11層はカマド掘り方で、SI158掘り方に削平されわずかに残ったカマド燃焼部で10層は被熱している。12～17層は掘り方で基本層IV層ブロックを含む。

【壁面】やや開いて立ち上がる。残存する壁高は北壁で24cmを測る。

【床面】中央が高く、外周に向かって4～6cm低くなり、北壁際とは約12cmの比高差がある。

【カマド】SI158に削平された西壁際中央付近に被熱した範囲があり、カマド燃焼部とみられる。袖や煙道部は削平され遺存しない。

【柱穴】ピットは12基検出した。このうち、規模や配置から、P1・2・4・9は4本柱の主柱穴である。いずれも底面に粘土化範囲が確認され、P1と2には柱痕跡が残る。



第126図 SI159竪穴住居跡(1)

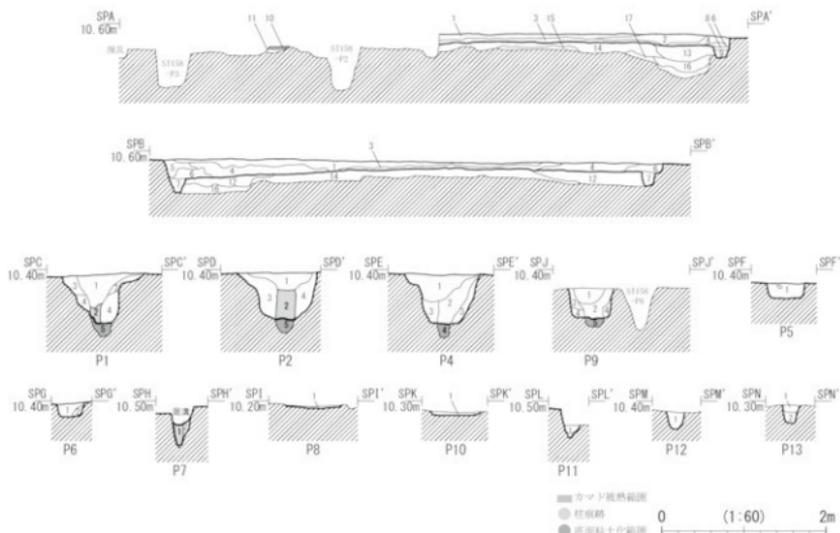
【周溝】床面が遺存する範囲では全周する。

【その他の施設】P7、P11～13は掘り方で検出している。うちP7とP11は南壁際周溝下面で検出し、P7には柱痕跡が認められる。P7は住居南壁中央に位置し、出入口施設の可能性がある。

【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】石製品1点を掲載した(第128図)。第128図-1は乳白色を呈する瑪瑙で、外周部は敲打によるハクリがみられ、火打石と推測される。

【時期】本遺構は出土遺物が少なく遺物からは時期を特定できないが、本遺構より新しいSI 157は郡山Ⅱ期官衙、本書時期区分6期に属しており、本遺構の所属時期はそれ以前である。



第127図 S159竪穴住居跡(2)

S159 施設観覧表

遺構名	平面形	幅長(m)	深さ(m)	備考
P1	楕円形	100×80	72	主柱穴
P2	楕円形	96×85	75	主柱穴
P4	楕円形	802×683	79	主柱穴
P5	円形	80×44	30	
P6	円形	35×35	17	
P7	円形	32×30	47	

遺構名	平面形	幅長(m)	深さ(m)	備考
P7	円形	780×643	6	
P9	円形	913×521	42	主柱穴
P10	円形	863×663	5	
P11	円形	32×31	14	
P12	円形	33×32	22	
P13	円形	32×32	33	

※P3欠番

S159 土層観覧表(1)

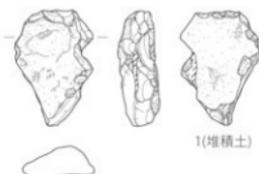
部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	説人物		備考	
						基本層IV層ブロック層	残土		
住居層積土	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	厚1～5mm 少量	厚1～5mm 微量	人為堆積
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	厚1～20mm 少量		人為堆積
	3	10YR4/1	暗褐色	砂質シルト	普通	強	厚1～5mm 少量	厚1～5mm 微量	
	4	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	厚1～10mm 少量	厚1～5mm 微量	
	5	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	厚1～5mm 少量		
	6	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	厚1～20mm 少量		

S159 土層観察表(2)

部位	層位	土色	土性	粘性	結核	結核径	炭化物		備考
							基本層内層の土質	塊土	
溝溝	7	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~15mm 少量		
	8	10YR4/3	にがい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		
	9	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 微量		
カマシ 掘り方	10	2YR4/6	赤褐色	砂質シルト	無	強			穴底部
	11	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	無	強			
掘り方	12	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量		
	13	10YR4/6	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量		
	14	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
	15	10YR4/3	にがい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
	16	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量		
	17	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	弱	径1~10mm 少量		

S159 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	結核	結核径	炭化物		備考	
							基本層内層の土質	塊土		炭化物
P1-2	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~30mm 微量		
	2	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 微量		柱状部	
	3	10YR4/3	にがい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量		10YR4/6明黄褐色土、径1~30mm; 10YR3/3暗褐色土、径1~30mm程度	
	4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量		10YR4/6明黄褐色土、径1~30mm; 10YR3/3暗褐色土、径1~30mm程度	
P4	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強			粘土化凝固	
	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 微量		
	2	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 微量		
	3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強			10YR4/6明黄褐色土、径1~30mm; 10YR3/3暗褐色土、径1~30mm程度	
P5	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強			粘土化凝固	
	1	10YR4/3	にがい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			
P6	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 微量			
	2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強				
P7	1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量		柱状部	
	2	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強				
P8	1	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強		径1~5mm 微量	径1~10mm 少量	
	1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~20mm 少量		径1~10mm 少量	
P9	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			
	3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~30mm 少量		径1~5mm 微量	
	4	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 微量		径1~5mm 微量	
	5	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強				粘土化凝固
	1	10YR4/3	にがい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	
P11	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 微量		径1~5mm 微量	
	1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 少量			
P13	1	10YR4/3	にがい黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 微量		
	2	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	強				



1(堆積土)

0 (2:3) 5cm

図録 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	図録 番号	法量 (cm)	重量 (g)	石材	備考	写真 掲載
1	Rd-011	中丘南側	S159	埋藏土	石製品	火打石	3.5 2.4 1.2	9.7	黒燐	黄白色	64-13

第128図 S159竪穴住居跡出土遺物

SI160 竪穴住居跡(第129図)

【位置・確認】中区南側に位置する。北側の大部分を擾乱に削平され、南壁際のみ遺存する。

【重複】SI168、SD95・100と重複関係にあり、これらの遺構より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西334cm以上、南北34cm以上を測る。平面形状は不明である。

【方向】南壁基準でN-5°-Eである。

【堆積土】12層に分層された。1～4層は住居堆積土で基本層IV層ブロックを多量含む人為堆積土である。5層は床面1面の周溝、6～8層は床面2面堆積土で、住居堆積土に比べやや灰色がかかる。9層は周溝、10～12層は掘り方で基本層IV層ブロックを多量含む。

【壁面】急角度で立ち上がる。残存する壁高は東壁で床面1面まで30cmを測る。

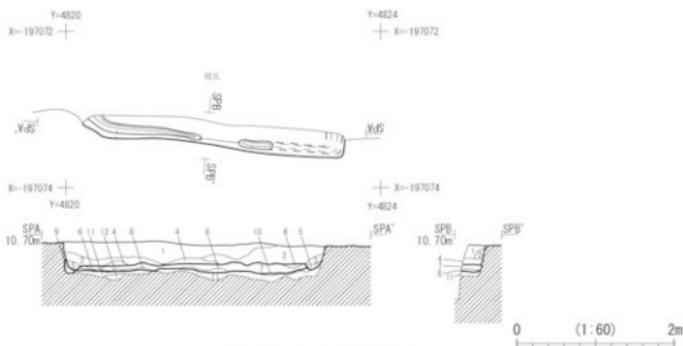
【床面】断面観察では、調査した床面の下にもう1面貼床がなされており、床面は2面存在する。床面はいずれもほぼ水平だがやや起伏している。

【周溝】床面1面の南壁西側で確認されている。また、断面では東壁際にも確認でき、さらに巡っているものとみられる。2面床面では周溝は確認できなかった。

【掘り方】浅く、起伏する。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】土師器片が少量出土しているが、掲載遺物はない。

【時期】出土遺物、他遺構との新旧関係からも所属時期は不明である。



第129図 SI160竪穴住居跡

SI160 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	硬さ	基本層IV層ブロックの有無	出土物		備考
							土	石	
住居面 堆積土	1	2.5R3/4	砂質シルト	弱	強	径10～30mm 多量	径1～5mm 中量	径1～5mm 微量	人為堆積。
	2	10YR4/3	褐色	砂質シルト	弱	強	径10mm 少量	径1～5mm 微量	人為堆積。
	3	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径10～15mm 少量	径1～5mm 微量	人為堆積。
	4	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	弱	強	径10～20mm 多量	径1～5mm 微量	人為堆積。
1面周溝	5	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径10mm 少量	径1～5mm 微量	
	6	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	弱	強	径10～20mm 少量	径1～5mm 微量	ヤシゴケ等の堆積多量。
住居面 堆積土	7	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	弱	強	径10～20mm 多量	径1～5mm 微量	ヤシゴケ等の堆積多量、グライ化。
	8	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径10～20mm 多量	径1～5mm 微量	
2面周溝	9	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	普通	弱	径10～20mm 多量	径1～5mm 微量	
	10	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	弱	普通	径10～15mm 多量	径1～5mm 微量	
掘り方	11	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	普通	径10～30mm 多量	径1～5mm 微量	
	12	10YR4/3	2.5Y～黄褐色	砂質シルト	普通	弱			

SI161 竪穴住居跡(第130～132図)

【位置・確認】中区北側に位置し、北東隅は調査区外に続く。東側は掘乱に削平される。

【重複】SI162・163・170・172、SB3、SD90・94・96、SK162・164・176と重複関係にあり、SB3・SD90・94・96より古く、SI162・163・170・172、SK162・164・176より新しい。調査時にはSB3より先行して調査しているが、整理作業時に断面写真等の検討によりSB3より古いと判断した。

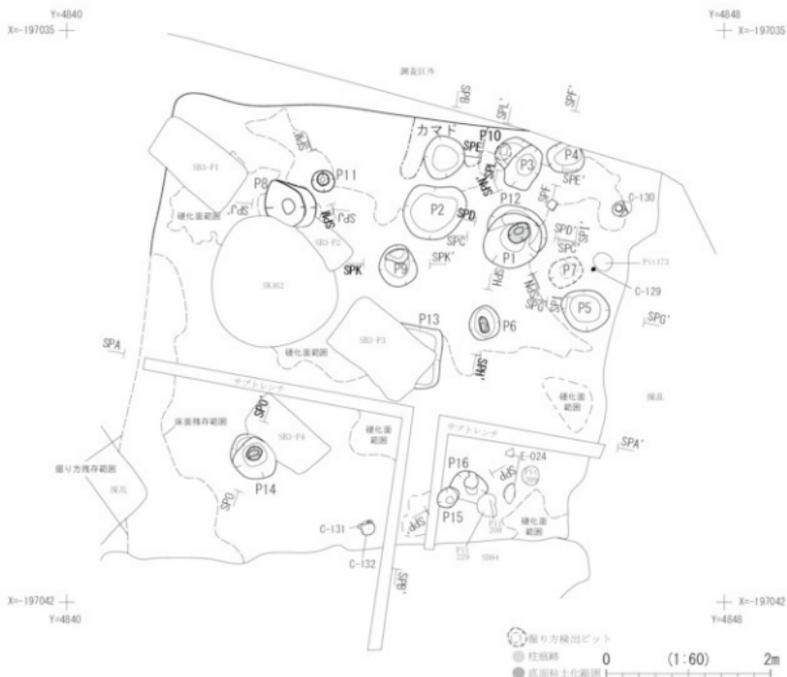
【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北572cm以上、東西593cm以上を測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】西壁基準でN-8°-Eである。

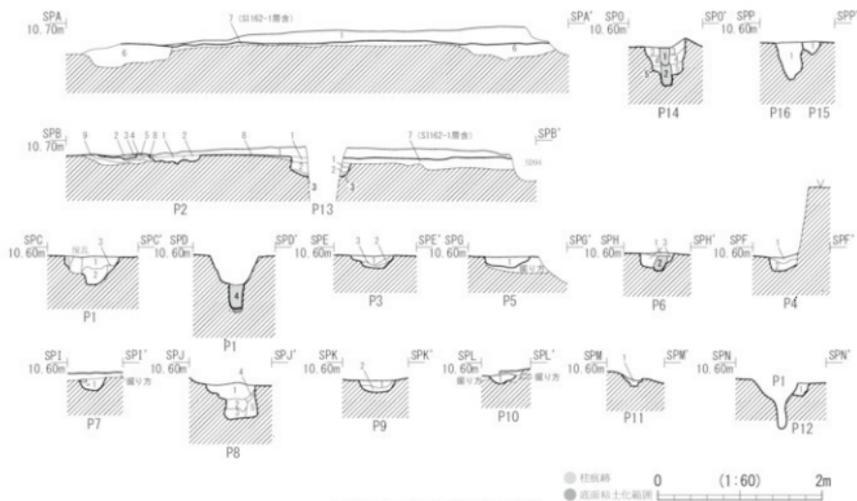
【堆積土】9層に分層された。1層は住居堆積土にふい黄褐色粘土質シルトを主体とする。2・3層はカマド掘り方で、2層は燃焼部被熱範囲である。4～9層は掘り方堆積土で、4層は灰黄褐色、5層以下はふい黄褐色の粘土質シルトを主体とする。このうち、7層はSI162の住居堆積土を含むが、本遺構の掘り方と区分できなかった。

【壁面】遺構検出面で北側は床面が露出しており、壁面の立ち上がりは確認できなかった。住居南側での残存する堆積土の高さは22cmである。

【床面】床面はほぼ平坦であるが、住居北側から中央にかけて、周辺より5cm程高い。6～8層上面を床面としている。床面は住居北側を中心に硬化面が広くみられる。



第130図 SI161竪穴住居跡(1)



第131図 SI161竪穴住居跡(2)

SI161 施設観覧表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	68×66	20	主柱穴
P2	不整形	28×28	12	
P3	不整形	39×36	15	
P4	円形	46×34	22	
P5	不整形	69×20	14	
P6	円形	44×36	21	
P7	楕円形	42×34	15	
P8	不整形	20×40	44	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P9	円形	50×46	15	
P10	円形	39×24	12	
P11	円形	28×26	14	
P12	楕円形	24×30	12	
P13	楕円形	22×42	22	
P14	楕円形	42×47	42	主柱穴、S1162-P3
P15	不整形	29×23	26	S1162-P2
P16	不整形	42×34	46	主柱穴、S1162-P2

SI161 土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本調査層 ゾーン/部	掘人物		備考
							機土	掘人物	
柱穴	1	10YR4/3	2:50-黄褐色	粘土質シルト	弱	強			
	2	2.5R4/3	2:50-赤褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量		
	3	10YR4/2	2:50-赤褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量		
カマド 掘り方	4	10YR4/2	2:50-赤褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量	10cm 少量	古段階のカマド痕跡か。
	5	10YR3/2	2:50-黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量	10cm 少量	古段階のカマド痕跡か。
	6	10YR4/2	2:50-赤褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量	10cm 少量	SI143の影響で西側のみに堆積物多量混入。
	7	10YR4/2	2:50-赤褐色	粘土質シルト	普通	強	10cm 少量	10cm 少量	SI143床面直上層土の区分不可能。SI162-1層と同一。
掘り方	8	10YR4/2	2:50-赤褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量	10cm 少量	
	9	10YR3/2	2:50-黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	10cm 少量	10cm 少量	

【柱穴】ピットは16基検出した。規模と位置関係からP1・8・14・16は4本柱の主柱穴に相当すると考えられる。P14には柱痕跡が、P1ピット底面には柱の底面が接触したと考えられる円形の粘土化範囲が確認できた。

【カマド】カマドは住居北壁中央付近で燃焼部底面の被熱範囲が認められた。また、検出時にはカマド袖の痕跡がわずかに認められるが、調査時の精査により失われている。煙道部は削平され遺存しない。

【周溝】検出した範囲においては、周溝は認められない。

【掘り方】掘り方は外周が深く、中央とカマド周辺は浅い。

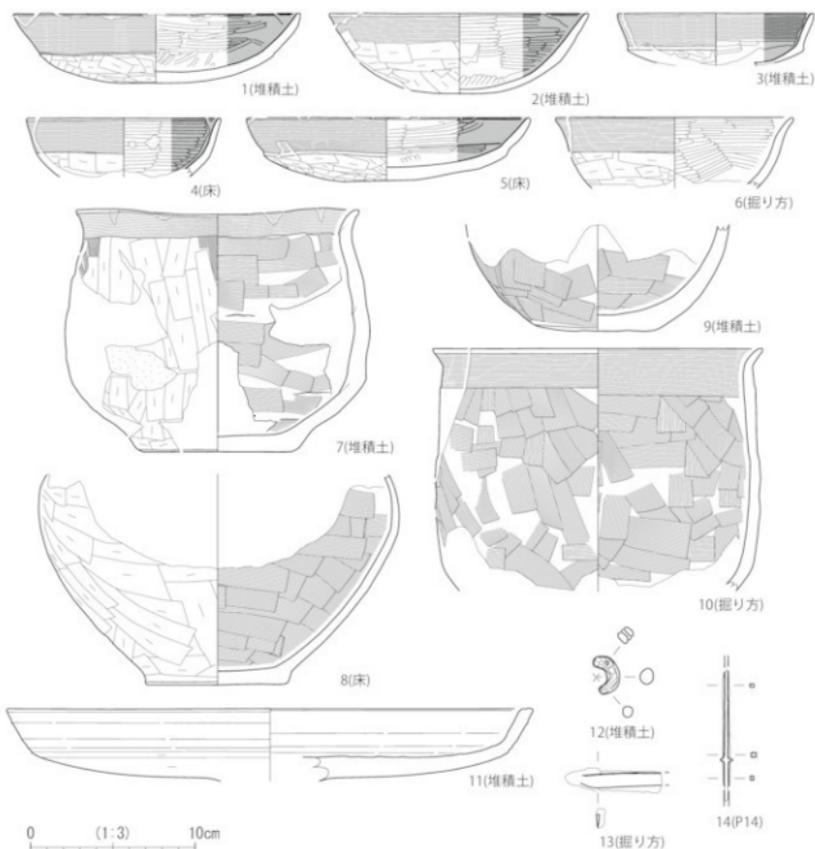
【出土遺物】土器器10点、須恵器1点、土製品1点、金属製品2点の計14点を掲載した(第132図)。このうち第

SI161 雑器土層調査表

調査 部位	土色	土性	粘性	結核	結晶	基本層IV層 の厚さ	原土物		備考
							塊土	炭化物	
P1	1 10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	同様に10YR3/4暗褐色土層1~2mm少量。
	2 10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
	3 10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	弱	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
	4 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~15mm 少量		10~15mm 少量	柱状部。
	5 10YR3/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				上下層界面に酸化鉄塊。
P2	1 7.5YR4/3	褐色	粘土質シルト	弱	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	灰少量。
	2 7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	弱	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	灰少量。
P3	1 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	弱	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	5YR3/2赤褐色土層1~2mm少量, 7.5YR4/6褐色砂少量。
	2 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~15mm 少量		10~15mm 少量	
	3 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~15mm 少量		10~15mm 少量	5YR4/2灰褐色土少量。
P4	1 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	マンガン粒径1~2mm散見。
	2 10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	マンガン粒径1~2mm散見。
P5	1 10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	弱	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	マンガン粒径1~2mm少量。
	2 10YR4/2	灰黄褐色	シルト	弱	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	酸化鉄径1~2mm散見。
P6	1 10YR3/2	黒褐色	シルト	普通	普通	10~10mm 少量		10~15mm 少量	酸化鉄径1~2mm散見, 柱状部。
	2 10YR3/2	黒褐色	シルト	普通	普通	10~20mm 少量		10~15mm 少量	酸化鉄径1~2mm散見。
P7	1 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	マンガン粒径1~2mm少量。
	2 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	
P8	1 10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~15mm 少量		10~15mm 少量	
	2 10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~15mm 少量		10~15mm 少量	
	3 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	弱	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
	4 10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	普通	強	10~15mm 少量		10~15mm 少量	
	5 10YR4/6	褐色	粘土質シルト	強	強				10YR3/2暗褐色土層1~20mm少量。
P9	1 10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強				酸化鉄径1~2mm少量。
	2 10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	普通	強				10YR4/2橙1~20mm少量, 酸化鉄径1~2mm少量。
P10	1 5YR3/4	暗赤褐色	シルト	普通	普通				
P11	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
P12	1 10YR3/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR3/2赤褐色粘土質シルト径30mm少量。
P13	1 10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR7/2にぶい黄褐色粘土質シルト径20mm少量。
	2 10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR7/2にぶい黄褐色粘土質シルト径20mm少量。
	3 10YR7/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト径20mm少量。
	4 10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				
P14	1 50R6/1	オリーブ灰色	粘土質シルト	普通	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	柱状部。
	2 10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	普通	10~15mm 少量		10~15mm 少量	柱状部。
	3 10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			10~15mm 少量	
	4 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
	5 10YR4/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
P15	1 10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	10~20mm 少量		10~20mm 少量	
P16	1 10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	10~20mm 少量		10~20mm 少量	柱状穴。

132図・4・5・8は床面出土、14は主柱穴であるP14出土で遺構に伴う遺物である。

掲載した土師器のうち坏6点は、掘り方から出土した6を除きいずれも内面黒色処理が施されている。また、土師器坏の調整はいずれも体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキで、3のみ口縁部内面にヨコナデが施される。1と2は口縁部と体部の境界に外面は段を、内面に稜を有し、底部は平底気味で口縁部は内湾する。2・4・6は口縁部と体部の境界を持たず口縁部は外傾して開く。このうち6は口縁端部が外反する。3は平底気味で口縁部は直立気味に立ち上がる。7は堆積土出土の口縁部径に対し器高の低い土師器裏で、口縁部と胴部の境界に段をもたず最大径は下半にある。調整は、胴部外面にハケメ後ヘラケズリ、胴部内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともヨコナデが施される。8は住居北東部の床面から逆位で出土した球形の土師器裏下半で、胴部最大径は中位に位置するとみられる。調整は、外面はヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。9は土師器裏底部で、平底で体部は球形を呈する。調整は、内外面ともにヘラナデが施される。10は掘り方出土の土師器裏で口縁部と胴部の境界にわずかに段を有するが、胴部から口縁部までほぼ垂直に立ち上がり、口縁端部で屈曲して開く。11は須恵器高環の環部で、平底で器高が低く盤状を呈する。12は勾玉状土製品、13は刀子の刃部、14は棒状鉄製品である。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	形状	種類	器種	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	高さ				
1	C-126	中区北側	SI161	埴輪上	土師器	杯	口縁~底	17.5	10.6	4.3	口縁:237°,体:293°	5918°	内面黒色処理	65-1
2	C-127	中区北側	SI161	埴輪上	土師器	杯	口縁~底	13.8	12.4	4.9	口縁:237°,体:293°	5918°	内面黒色処理	65-2
3	C-128	中区北側	SI161	埴輪上	土師器	杯	口縁~体	12.0	10.6	3.2	口縁:237°,体:293°	5918°	内面黒色処理	65-3
4	C-131	中区北側	SI161	埴	土師器	杯	口縁~体	11.8	10.6	3.1	口縁:237°,体:293°	5918°	内面黒色処理	65-4
5	C-132	中区北側	SI161	埴	土師器	杯	口縁~底	17.0	14.8	3.9	口縁:237°,体:293°	5918°	内面黒色処理	65-5
6	C-189	中区北側	SI161	埴り方	土師器	杯	口縁~体	14.2	12.7	4.3	口縁:237°,体:293°	5918°		65-6
7	C-129	中区北側	SI161	埴輪上	土師器	甕	口縁~底	27.0	9.0	14.9	口縁:237°,胴:293°	5918°		65-7
8	C-130	中区北側	SI161	埴	土師器	甕	胴~底	-	8.6	12.0	5918°	5918°		65-11
9	C-133	中区北側	SI161	埴輪上	土師器	甕	胴~底	-	7.1	16.5	5918°	5918°		65-8
10	C-190	中区北側	SI161	埴り方	土師器	甕	胴~底	20.0	-	14.8	口縁:237°,胴:293°	口縁:237°,胴:293°		65-10
11	E-024	中区北側	SI161	埴輪上	土師器	行付甕	甕	口縁	-	14.1	胴:293°調整~胴底:186°,91°	口縁:237°調整		65-14

図版番号	登録番号	調査区	出土地	形状	種類	器種	法量 (mm)			特徴・備考	写真図版	
							全長	幅	厚			
12	P-003	中区北側	SI161	埴輪上	土製品	写玉	2.3	0.8	1.0	2.7	特	65-9
13	N-005	中区北側	SI161	埴り方	金属製品	刀子	45.9	1.5	0.7	8.9		65-12
14	N-009	中区北側	SI161	P14	金属製品	棒状鉄製品	88.0	0.4	0.3	4.6	下部両側にびる突起部(右側は欠損)	65-13

第132図 SI161竪穴住居跡出土遺物

【時期】出土した土師器等は、郡山Ⅱ期官衙の新しい時期、本書時期区分6期の特徴を有しており、本遺構の所属時期を示している。

SI162 竪穴住居跡(第133～136図)

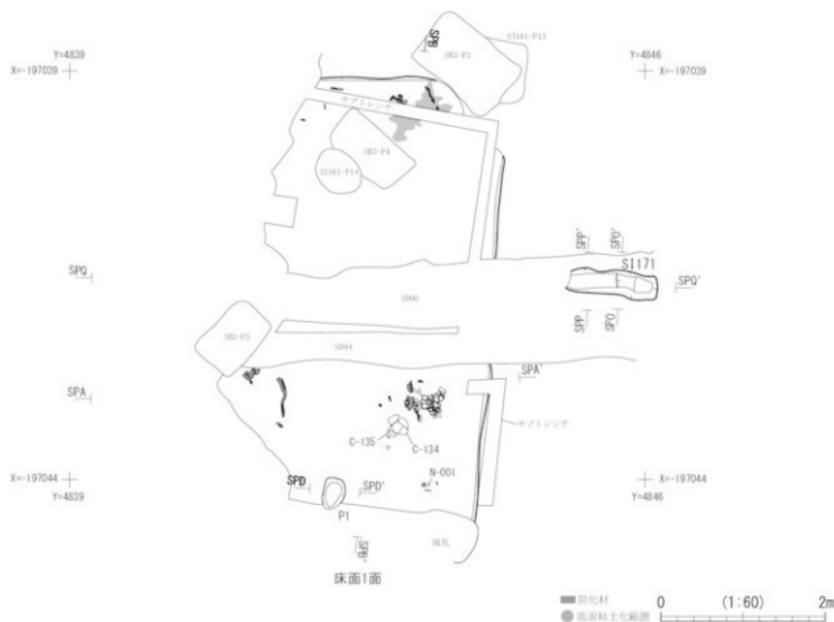
【位置・確認】中区北側に位置する。他遺構や掘乱に削平され遺存状態は悪い。1面床面上面には炭化物が認められ、焼失住居の可能性はある。

【重複】SI161・163・170・172、SB3、SD90・94・96、SK162・164・176、SX18と重複関係にあり、SI161、SB3、SD90・94・96、SX18より古く、SI163・170・172、SK162・164・176より新しい。調査時にはSB3より先行して調査しているが、整理作業時に断面写真等の検討によりSB3より古いと判断した。

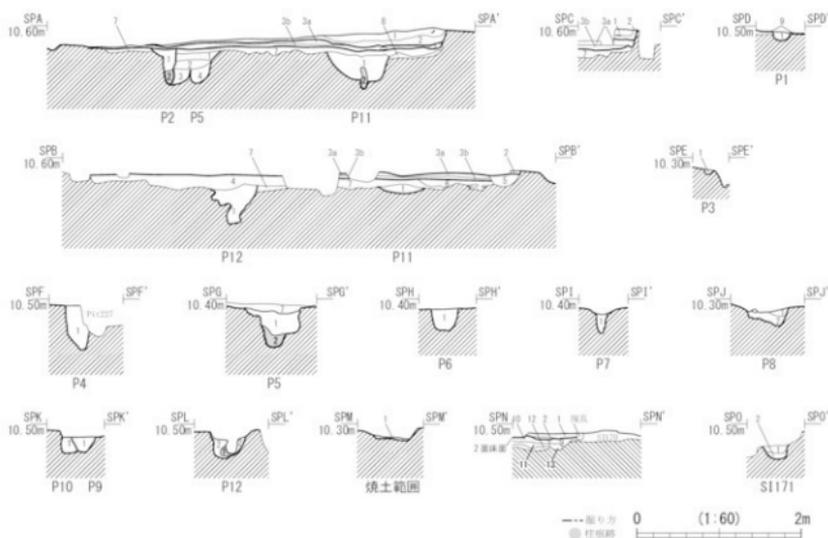
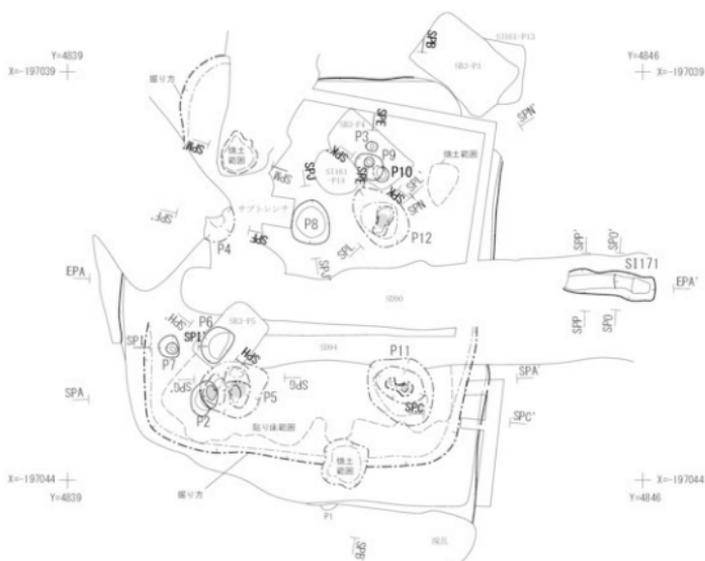
【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北530cm以上、東西448cmを測る。平面形状は、やや南北に長い方形と推定される。

【方向】東壁基準でN-4°-Eである。

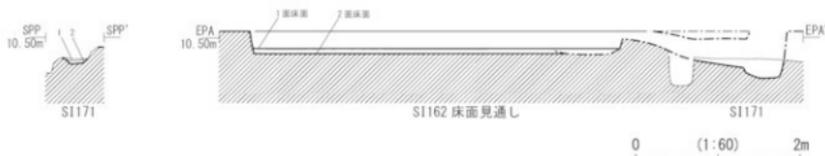
【堆積土】大別13層、細別14層に分層された。1・2層はにぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする住居堆積土で、うち1層はSI161の掘り方堆積土と細分できなかった層を含む。2層は基本層IV層ブロックを多量含む床面直上の堆積土で下部に炭化物を多量含む。東壁南側では2層が壁に沿ってほぼ垂直に立ち上がっているのが確認されているが、板材の痕跡は確認できなかった。3層は上半の3a層と下半の3b層に分層された1面床の貼床土であり、3層を除去した



第133図 SI162・171竪穴住居跡(1)



第134図 SI162・171竪穴住居(2)



第135図 SI162・171壁穴住居(3)

SI162 施設観覧表

階層名	平面形	短辺 (cm)	長辺 (cm)	備考
P1	不整形円形	39×39	11	
P2	不整形円形	43×31	46	
P3	円形	13×11	7	010162-2-13
P4	不整形	330×200	35	主柱穴、010162-P14
P5	不整形	73×67	49	主柱穴
P6	不整形円形	45×33	36	

階層名	平面形	短辺 (cm)	長辺 (cm)	備考
P7	不整形円形	38×36	30	
P8	円形	54×46	13	
P9	楕円形	36×30	18	
P10	円形	223×18	36	
P11	不整形	91×74	47	主柱穴
P12	楕円形	79×54	34	主柱穴

SI162 土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	取人物		備考		
						基本層内層 ゾーン7-9層	取人物 粘土			
住居 棟上	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径30mm 上出少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	SI161掘り方区分不可能、SI161・171掘り方と同一。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	
	3a	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 上出少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	南半部1面掘り床土層。
	3b	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	南半部1面掘り床土層。1面は床面の可能性が高い。
掘り方	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	北半部1面掘り方。
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	硬土銀削。
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト30mm少量。
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	
	9	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	
	10	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	
	11	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	
	12	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	弱	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量	10YR6/2褐色粘土径30mm少量、10YR7/1灰白色粘土中層帯状。
13	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	普通	普通	径30mm 少量	径5mm 少量	径5mm 上出少量		

下面を2面床面として確認している。3b層上面はほぼ水平に層離面が認められることから別の床面であったと考えられる。4～13層は掘り方堆積土である。にぶい黄褐色粘土質シルトを主体とする。2・3層はカマド掘り方で、2層は燃焼部被熱範囲である。4～9層は掘り方堆積土で、4層は灰黄褐色、5層以下はにぶい黄褐色の粘土質シルトを主体とする。このうち、7層はSI162の堆積土を含むが、本遺構の掘り方と区分できない。

【壁面】遺構検出面で北側は床面が露出しており、壁面の立ち上がりは確認できなかった。住居南側での残存する堆積土の高さは22cmである。

【床面】床面は平面的に2面検出された。3b層上面も床面とみられる。床面はほぼ平坦であるが住居西側が低くなる。

【柱穴】ピットは12基検出した。規模と位置関係からP4・5・11・12は4本柱の主柱穴に相当すると考えられる。主柱穴はいずれも掘り方下面で検出しており、柱を建てた後に貼り床が施されている。いずれも柱痕跡は確認できなかったが、P5底面では柱痕跡状の窪みが3箇所確認され、P11・12底面に弧形状の窪みがみられ、柱の建て替えが行われた可能性がある。主柱穴は住居壁面に対しやや軸が西に傾く。

【カマド】カマド及び地床が確認されていないが、住居東壁際中央付近では堆積土に灰土が含まれており、SD90の堆積土中には、本遺構東壁際周辺のみ焼土境が多量出土することから東カマドの可能性が高い。東側に位置する、カマド煙道のみ検出したSI171は、本遺構との位置関係から同一遺構の可能性が高い。

【周溝】検出した範囲においては、周溝はない。

SI162 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	細まり	埋入物			備考
						基本埋入物 の深さ	積土	埋入物	
P1	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質粘土	強	普通	埋10mm 少量	埋10mm 少量	
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		下部10YR7/2にぶい黄褐色粘土中量。
	3	10YR4/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
P2	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通			埋162-P12。
P4	1	10YR4/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			5GV3/1オリーブ灰色粘土質シルト埋10mm中量、埋162-P14。
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量	埋10mm 少量	
P5	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通	埋10mm 少量		
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
	4	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通	埋10mm 少量		
P6	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		10YR3/2黒褐色粘土質シルト埋10mm中量。
P8	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
P9	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
	1	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
P11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通	埋10mm 少量		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量		
P12	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通	埋10mm 少量		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通			柱状部。
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト埋10mm少量、柱状部。

SI171 土層観察表

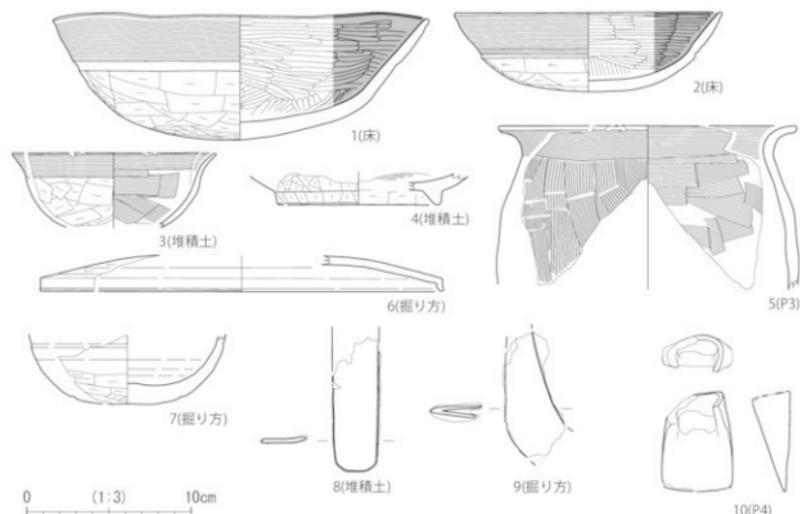
部位	層位	土色	土性	粘性	細まり	埋入物			備考
						基本埋入物 の深さ	積土	埋入物	
カブツ	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	埋10mm 少量	埋10mm 少量	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			2,5R2/3暗褐色粘土質シルト埋10mm中量(津波沖積堆積物のブロック)。

【掘り方】掘り方は全体に起伏しており、住居南半分では住居中央がやや小さい方形に深くなっている。深い中央下部と上部に掘り方堆積土の境界は確認できなかったため、住居の拡張や別遺構の痕跡の可能性もあるが判然としない。

【出土遺物】土師器5点、須恵器2点、金属製品3点の計10点を掲載した(第136図)他、石製品2点を写真のみ掲載している(写真図版66-1・2)。このうち第136図-1・2は床面出土、5はP3、10はP1出土で遺構に伴う遺物である。

1は丸底の土師器環で、体部途中で屈曲し口縁部は直線的に開く。口縁部と体部の境界の外面に浅い沈線状の段を有し、調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヘラナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2は土師器環で、口縁部と体部の境界外面に段を有し、口縁部は直線的に開く。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。3は器壁の薄い土師器環で、口縁部と体部の境界に段を持たず、口縁部は屈曲して開く。調整は、体部外面はヘラケズリ、体部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。4は高台付土師器環の高台部破片である。5は土師器甕で、口縁部と胴部の境界に段を持たず、口縁部は強く外反して開く。6はカエリを持たない須恵器蓋で、わずかに内湾し口唇部は垂下する器形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリが施される。7は小型の壺ないし甕とみられる。8は不明板状鉄製品である。9は鋤ないし鎌先と考えられる。10は袋状鉄斧で、主柱穴のP4から出土している。Kc-004・005は堆積土中より出土した磨石で、写真のみ掲載している。

【時期】上記の遺物のうち、掘り方から出土した第136図-6は郡山II期官衙以降、本書の時期区分6期の特徴を有し、本遺構の時期を示している。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			外面調整		内面調整		備考	写真掲載
								口径	底径	高さ	1層調整	2層調整	1層調整	2層調整		
1	C-134	中区北側	SI162	床	土器器	杯	116~底	227	196	7.8	1層:DPF, 2層:DPX	調整	調整		内面黒色処理	65-13
2	C-135	中区北側	SI162	床	土器器	杯	116~底	16.4	-	4.9	1層:DPF, 2層:DPX	調整	調整		内面黒色処理	65-16
3	C-137	中区北側	SI162	堆積土	土器器	杯	116~体	(12.3)	(11.0)	(4.0)	1層:DPF, 2層:DPX	調整	調整			65-17
4	C-136	中区北側	SI162	堆積土	土器器	高台付杯	体~高台	-	9.8	9.0	1層:高台:DPX	調整	調整			65-18
5	C-138	中区北側	SI162	P3	土器器	盤	116~体	(18.0)	-	(10.0)	1層:DPF, 2層:DPX	調整	調整			65-20
6	E-026	中区北側	SI162	掘り方	土器器	蓋	天井~116	24.6	-	(2.2)	調整~天井:調整:DPX	調整	調整			65-19
7	E-025	中区北側	SI162	掘り方	土器器	蓋	体~底	-	4.6	4.2	調整~底:DPX	調整	調整			65-21
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	特徴・備考		写真掲載			
8	N-001	中区北側	SI162	堆積土	金属製品	砲丸製品	8.3	(2.9)	(0.3)	14.0	全体に薄い砲丸で端部が丸くおさまる。右側に若干の曲がりあり。		65-22			
9	N-002	中区北側	SI162	掘り方	金属製品	鍔・鍔先	(12.0)	3.5	0.8	42.8			65-23			
10	N-014	中区北側	SI162	P4	金属製品	器以詰	6.2	4.3	2.2	118.8			65-24			
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載			
-	Rc-004	中区北側	SI162	堆積土	礎石器	磨石	23.5	13.4	6.0	34.4	花崗岩		66-1			
-	Rc-005	中区北側	SI162	堆積土	礎石器	磨石	17.8	14.4	7.6	19.0	礎石		66-2			

第136図 SI162竪穴住居跡出土遺物

SI171 竪穴住居跡(第133～135図)

【位置・確認】中区北側に位置する。東西方向に延びるカマド煙道部のみ検出した。

【重複】SD90と重複関係にあり、SD90よりも古い。

【規模・形態】検出した煙道部の規模は、東西112cm以上、南北32cmを測る。底面は東側に向かって下がり、東端で一段下がって立ち上がる。

【方向】煙道主軸でN-85°-Wである。

【堆積土】上下2層に分層された。1層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックを少量含み、炭化物粒を混入する。2層は基本層IV層ブロックを主体とし、被熱し極暗赤褐色を呈する天井部崩落土粘土質シルトブロックを含む。

【壁面】ほぼ垂直に立ち上がり、東端の北側は一部オーバーハングする。

【床面】西側に位置するSI162は本遺構の床面と考えられる。カマド煙道部は住居壁から195cm延び、煙出し部は

SI 162の床面1面より35cm低い。

【出土遺物】出土遺物はない。

【時期】SI 162と同一遺構であるなら、SI 162の新旧関係から郡山Ⅱ期官衙以前、本書時期区分6期以前となる。

SI 163 竪穴住居跡(第137～139図)

【位置・確認】中区北側に位置する。住居南半は他遺構や擾乱に削平される。

【重複】SI 161・164B・172、SB 3、SK 162と重複関係にあり、SI 161、SB 3、SK 162より古く、SI 172より新しい。

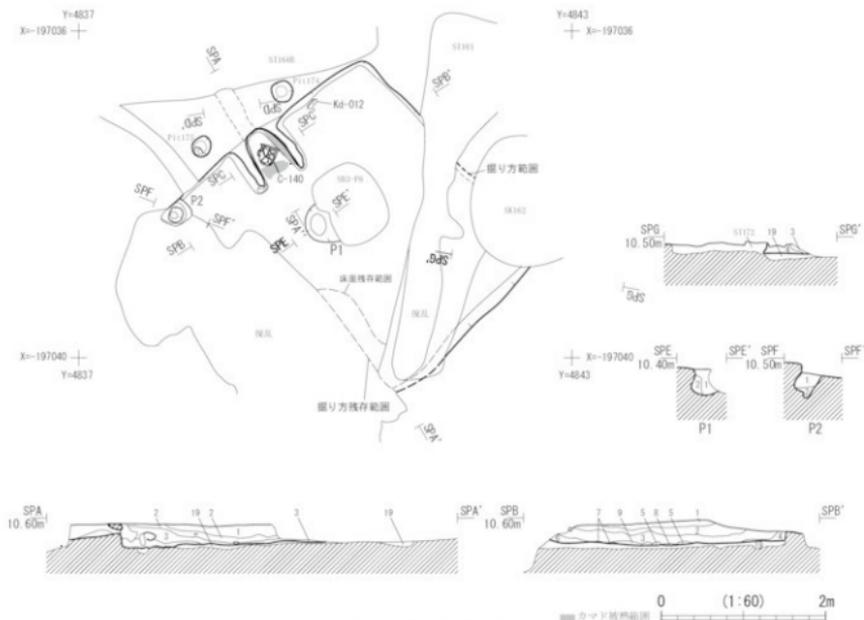
SI 164Bとの関係は調査の不備により不明であるが、出土遺物から本遺構の方が新しいと思われる。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、カマドを有する北西壁から南東壁まで366cm、北東壁から南西まで318cm以上を測る。平面形状は、方形と推定される。

【方向】住居壁基準でN-41°-Wである。

【堆積土】19層に分層された。1～8層は住居堆積土で、このうち1層のみ基本層Ⅳ層を多量含む人為堆積土である。

6・7層は住居北西隅に集中する焼土・炭化物を含む床面直上の堆積土である。9・10層はカマド燃焼部堆積土で、9層は焼土・炭化物・灰を多量含む。11・12層はカマド煙道部堆積土で、被熱した天井部の崩落土である。13～18層はカマド掘り方である。カマド袖は基本層Ⅳ層と極めて類似する土で構築されている。17層は支脚の掘り方で、焼土・炭化物を多量含む。19層は掘り方で基本層Ⅳ層に類似する。



第137図 SI163竪穴住居跡(1)

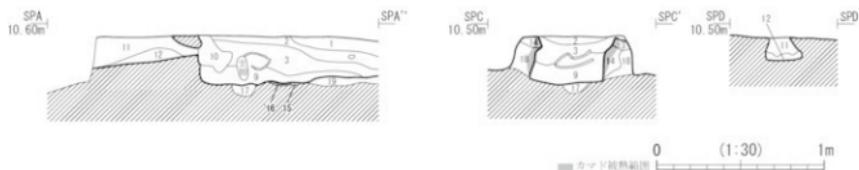
【壁面】垂直に立ち上がる。住居中央での残存する堆積土の高さは28cmである。

【床面】床面はほぼ平坦で、やや南西側が高い。

【柱穴】ピットは床面から2基検出した。いずれも柱痕跡は認められない。カマドの位置する北西の住居壁外に Pit 174・175がカマドを扶むように位置するが、本遺構との関連は不明である。

【周溝】検出した範囲においては、周溝は認められない。

【カマド】カマドは住居北西壁で検出した。燃焼部及び袖と煙道部を検出した。燃焼部奥壁は住居壁と一致する。煙道部先端は他遺構に削平され不明である。煙道部は天井が崩落し、燃焼部奥壁付近はトンネル状に残るもの、天井は



第138図 SI163竪穴住居跡(2)

SI163 施設観覧表

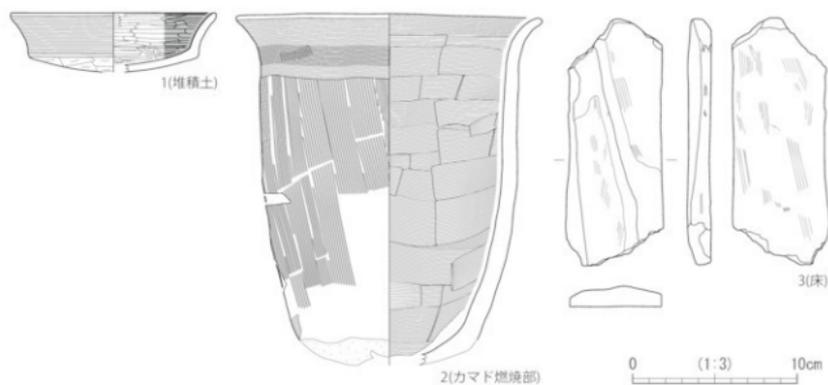
遺構名	平面図	規模(m)	高さ(m)	備考
P1	不明	54×32	32	
P2	不明	37×28	32	

SI163 土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	埋入物		備考	
						基本層目録 プロット付	出土		炭化物
住居 南壁土	1	10YR4/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 片量	径5mm 片量	人為堆積。
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通		径5mm 片量	
	3	10YR4/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	強	普通		径5mm 片量	1層10YR7/2.12.0A・黄褐色粘土土塊15cm厚、10YR4/2粘土質シルト粒20mm中量、 15cm底土厚層土。
	4	10YR2/2	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			10YR4/2.12.0A・黄褐色粘土質シルト粒20mm中量。
	5	10YR5/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 片量		10YR4/2.12.0A・黄褐色粘土質シルト粒5mm少量。
	6	10YR4/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通		径15mm 片量	10YR4/2.12.0A・黄褐色粘土質シルト粒20mm中量。
	7	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	弱	普通	径5mm 片量	径5mm 片量	
	8	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	強	普通			10YR7/2.12.0A・黄褐色粘土土塊15cm厚。
	9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	弱	弱	径5mm 片量	径5mm 少量	人為堆積。
カマド	10	10YR6/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	強			10YR4/2.12.0A・黄褐色粘土質シルト粒20mm少量。
	11	10YR5/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			7.5R2/2燻焼赤褐色粘土質シルト粒10mm中量、カマド煙道部。
	12	10YR5/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			7.5R2/2燻焼赤褐色粘土質シルト粒20mm中量、カマド煙道部奥壁土。
カマド 側壁土	13	10YR4/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 片量	径5mm 1層片量	
	14	10YR5/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			10YR4/2.12.0A・黄褐色粘土質シルト粒5mm中量。
	15	10YR2/2	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	弱		径5mm 少量	
	16	7.5R4/4	12.0A・赤色	粘土質シルト	弱	普通			カマド大床面崩落部底面。
	17	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	径5mm 少量	径5mm 少量	カマド支脚部下方。
	18	10YR6/2	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	強			10YR4/2.12.0A・黄褐色粘土質シルト粒5mm少量、カマド天井部下方。
	19	10YR7/2	12.0A・黄褐色	シルト質粘土	強	強			10YR3/2燻焼赤褐色粘土質シルト粒10mm少量。

SI163 施設土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	埋入物		備考	
						基本層目録 プロット付	出土		炭化物
P1	1	10YR4/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 片量	径15mm 片量	10YR6/1褐色土塊1×15mm中量、マンガン粒径1×2mm中量。
	2	10YR4/3	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径15mm 片量	径15mm 片量	マンガン粒径1×2mm中量。
P2	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	弱	普通	径15mm 片量	径15mm 片量	マンガン粒径1×3mm少量。
	2	10YR6/2	12.0A・黄褐色	粘土質シルト	弱	普通	径15mm 片量	径15mm 中量	10YR3/2燻焼赤褐色土塊1×3mm中量、マンガン粒径1×3mm中量。



図録番号	発掘番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (mm)			外面調整		内面調整		備考	写真図版
								全長	幅	厚	1段	底径	器高	調整		
1	C-139	中区北側	SI163	堆積土	土師器	杯	1段-底	116.2	110.2	3.6	1段: 2段、体: 3段	調整	調整	内面黒色処理	66-3	
2	C-140	中区北側	SI163	カマド燃焼部	土師器	罎	1段-底	184	11.0	12.5	1段: 2段→2段、胴上平: 3段、胴上平: 3段	調整	調整	外面底面剥離	66-5	
3	Rd-012	中区北側	SI163	床	石製品	砥石	法量 (mm)	15.5	5.9	1.4	193.4	粘板岩	砥面4面		66-4	

第139図 SI163竪穴住居跡出土遺物

下がり潰れて狭くなっている。煙道部は奥に向かって下がっている。袖は基本層IV層に類似した土で構築され、東側袖先端には袖石が立った状態で据えられている。カマド燃焼部内面は箱状を呈し、袖は著しく被熱する。燃焼部中央には石製の支脚が据えられている。支脚の上には土師器罎(第140図-2)が横位で出土した。

【掘り方】掘り方は全体に浅く平坦である。

【出土遺物】土師器2点、石製品1点の計3点を掲載した(第140図)。第140図-1は堆積土中出土の土師器杯で、平底気味の扁平に内湾する体部が強く屈曲し、口縁部が外反して開く器形を呈する。口縁部と体部の境界は内外面ともに段がみられる。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2はカマド燃焼部から出土した長胴の土師器罎で、胴部最大径は口縁部と胴部の無段の境界にあり、口縁部は外反して開く。調整は、胴部外面はハケメ、胴部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。底部外面は剥離する。3はカマド北東側の床面壁際から出土した板状の砥石で、板状の両面及び側面の4面に砥面がある。石材は粘板岩である。

【時期】上記の遺物のうち、堆積土から出土したC-139は栗原式土器の特徴を有しているが、本遺構よりも新しいS I 161竪穴住居跡は本書時期区分6期、本遺構より古いS I 164 Bは5～6期に属することから、本遺構の所属時期は5～6期と考えられる。

SI164 竪穴住居跡(第140～142図)

SI 164は1基の遺構として調査したが、整理段階で2軒の竪穴住居跡であると判明したため、新しい竪穴住居跡をSI 164 A、古い竪穴住居跡をSI 164 Bと呼称して報告する。

SI164 A 竪穴住居跡(第140・141図)

【位置・確認】中区北側に位置する。北西を擾乱に削平される。北側は調査区外に続く。検出時に既に2面床面が露出

しており、SK1・2調査後、SI164B掘り方底面まで掘り下げている。掘り方は断面観察にて確認した。

【重複】SI164Bと重複関係にあり、SI164Bより新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西462cm以上、223cm以上を測る。平面形状は方形とみられる。

【方向】南壁基準でN-17°-Wである。

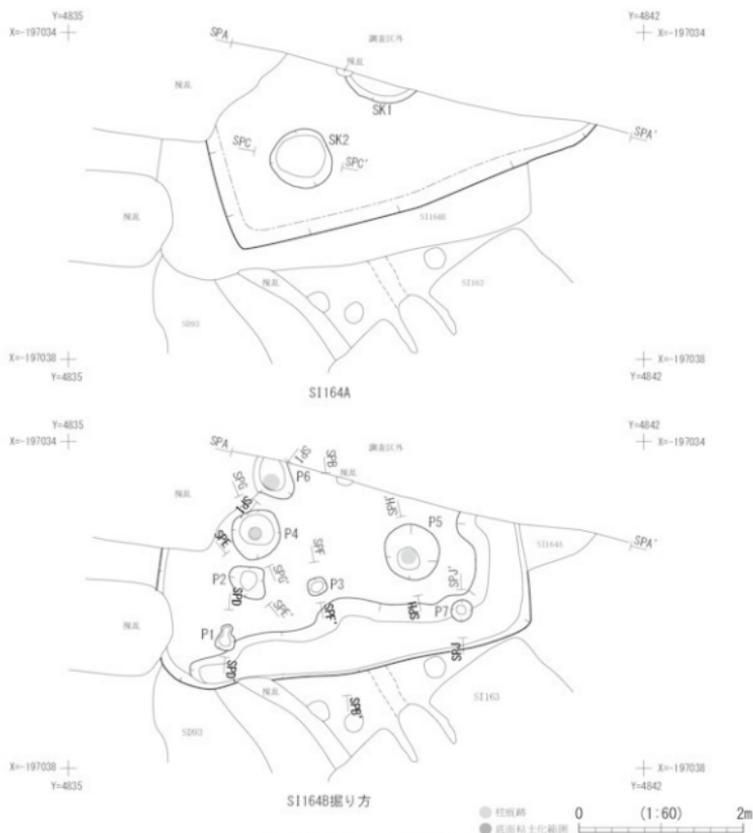
【堆積土】3層に分層された。1層は基本層IV層ブロックを多量含む人為堆積の住居堆積土で、調査区北壁でのみ確認した。2層は床面2面貼り床、3層は基本層IV層ブロックを多量含む掘り方である。

【壁面】ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は調査区北壁で26cmを測る。

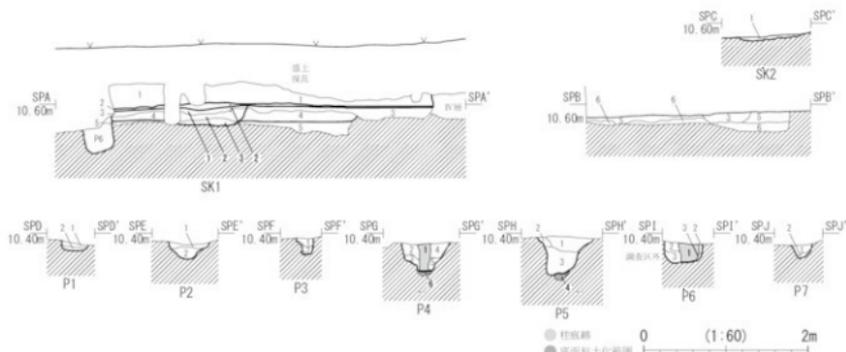
【床面】床面は調査区北壁断面で2面確認された。いずれも平坦で、ほぼ水平である。

【柱穴】ピットは確認されていない。

【その他の施設】浅い土坑を2基確認した。SK1は1面床面に覆われ2面床面に伴う。SK1・2共に堆積土に焼土を多く



第140図 SI164竪穴住居跡(1)



第141図 SI164竪穴住居跡(2)

SI164 施設観覧表

階層名	平面形	規模(cm)	高さ(cm)	備考
P1	不整形	33×24	15	SI164Bに伴う。
P2	不整形	42×20	23	SI164Bに伴う。
P3	円形	33×21	22	SI164Bに伴う。
P4	円形	40×39	43	SI164Bに伴う。
P5	円形	48×45	54	SI164Bに伴う。

階層名	平面形	規模(cm)	高さ(cm)	備考
SK1	不整形	100×140	22	SI164Bに伴う。
SK2	円形	22×25	18	SI164Bに伴う。
SK3	不整形	100×120	25	SI164B東面跡に伴う。
SK4	円形	28×23	8	SI164Bに伴う。

SI164 土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	腐り	基本層IV層ブロック	説人物	炭化物	備考
SI164A 西側壁	1	10YR3/4	凝褐色	砂質シルト	弱	強	柱土	炭化物	人為堆積
SI164A 北面壁	2	10YR4/1	暗灰色	砂質シルト	弱	強	柱土 柱1~20mm 上柱多数	柱1~5mm 炭化物	
SI164A 掘り方	3	10YR4/6	褐色	砂質シルト	弱	強	柱土 柱1~20mm 上柱多数	柱1~5mm 炭化物	
SI164B 床面	4	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	普通	柱1~10mm 少数	柱1~5mm 炭化物	
SI164B 掘り方	5	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	普通	柱1~10mm 少数	柱1~5mm 炭化物	
	6	10YR4/6	褐色	砂質シルト	普通	普通	柱1~30mm 多数		

含む。

【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】SI164Aからの出土遺物はない。

SI164B 竪穴住居跡(第140～142図)

【位置・確認】中区北側に位置する。西側を擾乱に、上面をSI164Aに削平される。調査では掘り方のみ検出しており、整理事業時に断面観察により床面を確認している。

【重複】SI163・164Aと重複関係にあり、SI163・SI164Aより古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西451cm以上、南北274cm以上を測る。東壁・南壁に対し、西壁は東傾する。平面形状はやや北側が狭い方形とみられる。

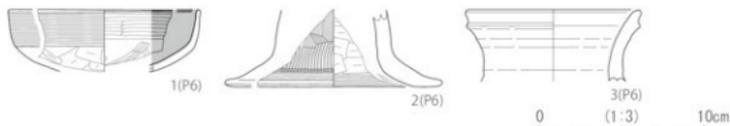
【方向】南壁基準でN-8°-Wである。

【堆積土】3層に分層された。ただし、SI164Aから連続で層位名を振っているため、4～6層と呼称している。4層は住居堆積土で、黒褐色砂質シルトを主体とし基本層IV層ブロックをあまり含まない。5・6層は掘り方で5層は黒褐色砂質シルトを主体とし基本層IV層ブロックを含む。

【壁面】開いて立ち上がる。残存する壁高は調査区北壁で15cmを測る。

SI164 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ブロック・瓦	混入物		備考
							残土	混入物	
SK1	1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	弱	強	径1~20mm 片瓦		SI164A-2面床面に付く。
	2	2.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~20mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	3	10YR4/6	褐色	砂質シルト	弱	強	径10mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
SK2	1	2.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径10mm 片瓦	径1~10mm 片瓦	概ね、穴10YR3/2(黒色土、径1~20mm)少量含む。SI164A、
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	SI164B、
P1	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	弱	強	径1~20mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	SI164B、
P2	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 片瓦		
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~20mm 片瓦		SI164B、
P3	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	2	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	SI164B主柱穴。
P4	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~20mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 片瓦	径1~10mm 片瓦	
	3	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 片瓦	径1~10mm 片瓦	
	4	10YR4/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	5	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	強			粗質化顕微。
P5	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~20mm 片瓦		SI164B主柱穴。
	2	10YR4/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/4暗褐色土、径1~5mm少量含む。
	3	10YR5/6	茶褐色	砂質シルト	普通	強			10YR6/6明黄褐色土、径1~30mm・10YR3/2黒褐色土、径1~30mm混状。
	4	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	普通	強			粗質化顕微。
P6	1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	SI164B、
	2	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~20mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
	3	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	径1~10mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	
P7	1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	普通	強	径1~5mm 片瓦	径1~5mm 片瓦	SI164B、
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強			10YR3/2黒褐色土、径1~5mm少量含む。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	施設	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 200μ
								口径	底径	高さ				
1	C-141	中区北側	SI164	P6	土師器	杯	口縁~体	(11.6)	(10.8)	(3.8)	口縁:口折リ、体:口折リ	内面黒色処理	66-6	
2	C-142	中区北側	SI164	P6	土師器	高杯	脚	-	(13.4)	(4.7)	脚:口折リ~口折リ、脚:口折リ~口折リ	内面黒色処理	66-7	
3	E-028	中区北側	SI164	P6	須恵器	壺	口縁	10.4	-	(4.4)	口縁調整	口縁調整	66-8	

第142図 SI164竪穴住居跡出土遺物

【床面】平面的に検出できず、床面は調査区北壁で確認している。床面は平坦で、貼り床が施される。

【柱穴】ピットは掘り方調査時に7基検出した。P4・6からは柱痕跡を確認したが、位置関係からはP2・5が4本柱の主柱穴となる可能性がある。

【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】SI 164Bからの出土遺物は、土師器2点、須恵器1点の計3点を掲載した(第142図)。いずれもP6からの出土である。第142図-1は土師器杯で、丸底で内湾する体部から口縁部との境界で屈曲しほぼ垂直に立ち上がる器形を呈する。口縁部と体部の境界には内外面に稜を有する。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2は土師器の高杯脚部で、わずかに外傾する脚部から裾部が屈曲しラッパ状に開く。調整は、外面はハケメ後ヘラナデ、内面はヘラケズリ、裾端部はヨコナデが施される。3は須恵器の壺口縁部で、外反して立ち上がる器形を呈する。調整はロクロ調整である。

【時期】P6出土の第142図-1は部山I～II期、本書時期区分5～6期の特徴を有し、新旧関係をもつSI 163の出土遺物よりもやや古い様相を呈することから、本遺構はSI 163よりも古く、第142図-1は本遺構の時期を示している。

SI165 竪穴住居跡(第143・144図)

【位置・確認】中区北側に位置する。住居北西側を除き、SD91と攪乱に削平され遺存状況は悪い。

【重複】SD91と重複関係にあり、SD91よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北393cm以上、東西377cm以上を測る。平面形状は方形とみられる。

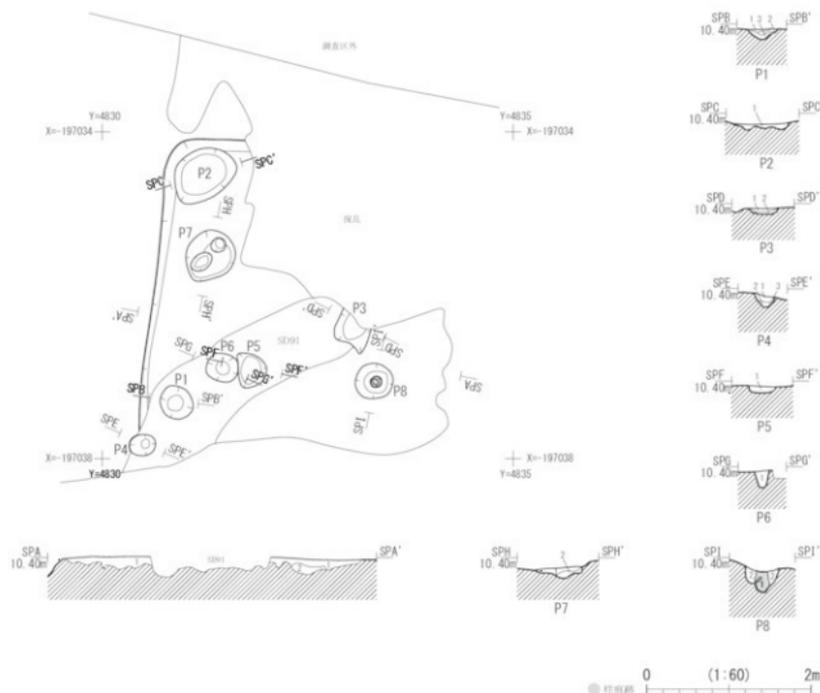
【方向】西壁基準でN-7°Eである。

【堆積土】2層に分層された。いずれも掘り方で、基本層IV層ブロックを多量含む。

【壁面】ゆるやかに立ち上がる。掘り方のみ検出したため壁高は不明である。

【床面】床面は遺存しない。

【柱穴】ピットは8基検出したP8のみ柱痕跡が確認されているが、主柱穴等は不明である。



SI165 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	38×33	14	
P2	楕円形	29×60	9	
P3	不明	49×132	8	
P4	楕円形	31×25	17	

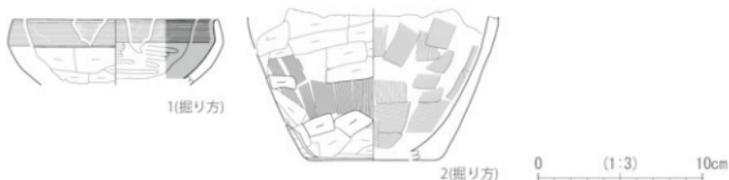
遺構名	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P5	不整形円形	44×36	9	
P6	楕円形	29×24	6	
P7	不整形円形	42×32	15	
P8	円形	42×43	23	

SI165 土層観察表

掘り方	部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物		備考
							基本層百景 プロフィール	種土 炭化物	
掘り方	1	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 多数		
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 中量		

SI165 施設土層観察表

掘り方	部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物		備考
							基本層百景 プロフィール	種土 炭化物	
P1	1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強			
	2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強			
	3	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強			
P2	1	10YR3/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 中量		
	2	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	強	強			
P3	1	10YR3/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 少量		
	2	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	強	強			
P4	1	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	強	強			
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	強	強			
	3	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 少量		
P5	1	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 少量		
	2	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強			
P7	1	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 増多量		
	2	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 少量		
P8	1	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 少量	径20mm 増多	巨丸物、
	2	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 少量		
P9	1	10YR4/2	にじい・黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径20mm 増多量		
	2	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	強			



調査番号	登録番号	調査区	出土地	掘り方	層位	種別	器種	法量 (mm)			外面調整		内面調整		備考	写真 採取
								口径	底径	器高	口縁:22F、体:9Y2.5	口縁:22F、体:9Y1.5				
1	C-108	中区北側	SI165	掘り方	1部器	杯	口縁一体	(12.2)	(13.0)	(4.0)	口縁:22F、体:9Y2.5	口縁:22F、体:9Y1.5	内面黒色処理	66-0		
2	C-206	中区北側	SI165	掘り方	1部器	蓋	胴一底	-	7.6	(7.2)	胴:9M-9Y2.5、底:本葉面	9Y1	照片上部輪縁みに土に 粘り目	66-10		

第144図 SI165竪穴住居跡出土土物

【掘り方】全体に掘り下げられ、起伏は顕著である。

【出土土物】土師器2点を掲載した(第144図)。いずれも掘り方出土である。第144図-1は土師器杯で、内湾する体部から口縁部で屈曲し、口縁部が内傾する器形を呈する。口縁部と体部の境界は内外面共に稜をもつ。調整は、体部外面はヘラケズリ、体部内面はヘラミガキ、口縁は内外面共にヨコナデがなされ、内面に黒色処理が施される。2は長胴の土師器裏下半部である。胴部は直線的に外傾する。調整は、体部外面は細かいソケメ後ヘラケズリ、内面はヘラナデが施される。

【時期】第144図-1は住士式土器、本書時期区分4期の特徴を有しているが、掘り方からの出土であり、本遺構の所属時期はそれ以降とみられる。

SI166 竪穴住居跡(第145図)

【位置・確認】中区南側に位置する。SI155及び攪乱に削平される。

【重複】SI155・156と重複関係にあり、SI155よりも古く、SI156より新しい。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西360cm以上、南北242cm以上を測る。平面形状は方形とみられる。

【方向】東壁基準でN-6°-Wである。

【堆積土】6層に分層された。1～4層は床面堆積土、5・6層は掘り方堆積土である。

【壁面】やや外傾して立ち上がる。残存する壁高は南壁で17cmを測る。

【床面】SI156床面検出時に床面を壊している本遺構を確認したため、確認できた床面は南西隅のみである。床面はほぼ平坦である。

【その他の施設】付属施設は確認されていない。

【掘り方】掘り方底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】土師器が少量出土しているが、掲載遺物はない。

【時期】新旧関係から、郡山Ⅱ期官衙、本書時期区分6期に属する。

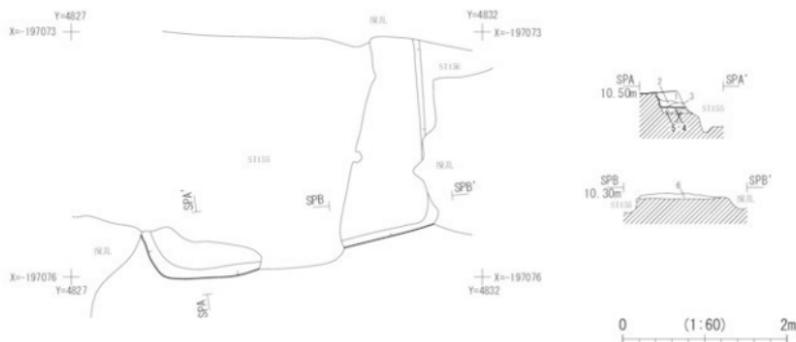
SI167 竪穴住居跡(第146・147図)

【位置・確認】中区北側に位置する。南半は攪乱に削平される。

【重複】SD90と重複関係にあり、SD90より古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西318cm以上、南北225cm以上を測る。平面形状は不明である。

【方向】カマド主軸基準でN-21°-Eである。



第145図 SI166竪穴住居跡

SI166 土層観察表

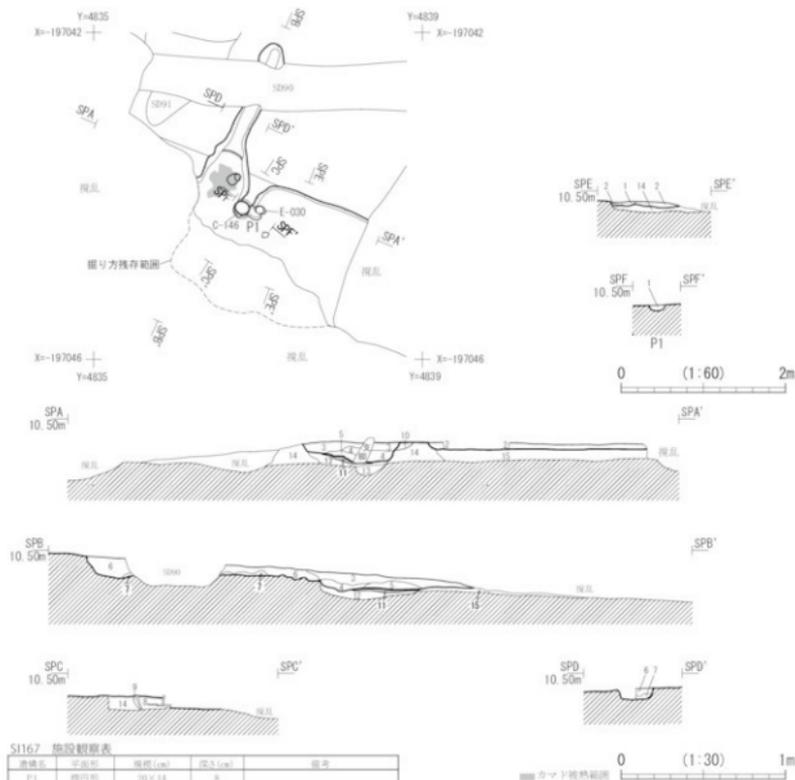
部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーンの別	掘込物		備考
							障土	凹込物	
住居 床積土	1	10YR4/4	砂質シルト	普通	強	障1～5cm 少量			
	2	10YR2/3	砂質シルト	普通	強	障1～5cm 少量		障1～10cm 少量	
	3	10YR4/3 に5Y黄褐色	砂質シルト	普通	強	障1～10cm 少量			
掘り方	4	10YR2/3	砂質シルト	普通	強	障1～10cm 少量			
	5	10YR6/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	障1～10cm 少量		
	6	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強	障1～30cm 少量		

【堆積土】15層に分層された。1・2層は住居堆積土で、1層はカマド東側に円形に分布する被熱した黒褐色土を含む層、2層は明黄褐色砂質シルトを主体とし基本層IV層と類似する層である。3～5層はカマド燃焼部堆積土で、4・5層は焼土・炭化物を多く含む。6・7層は煙道部堆積土、8～14層はカマド掘り方、15層は掘り方堆積土である。11層は被熱した火床面である。

【壁面】北壁のみ確認された。残存する壁高は4cmを測る。

【床面】床面は水平で、平坦である。

【カマド】北壁で確認された。カマドは燃焼部、袖、煙道部が残存する。燃焼部は床面からわずかに窪み、燃焼部奥壁は住居壁よりわずかに外に出る。袖は基本層IV層に極めて類似する土で構築され、東袖先端には土師器表(第147図-2)が構造材として逆位で据えられている。燃焼部には石製支脚が東側に偏って据えられている。火床面の被熱範囲は中央で、支脚も西側が強く被熱する。煙道は燃焼部から浅い段で上がり、緩やかに上昇し、煙出し部で一段窪んで立ち上がる。天井部は遺存しない。煙道部は住居北壁から160cm北側へ延びる。



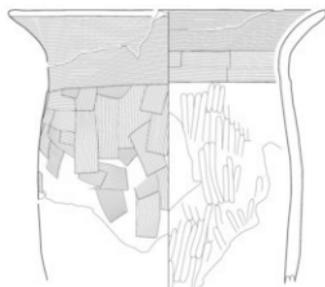
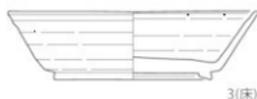
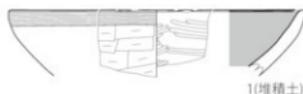
第146図 SI167竪穴住居跡

S167 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーン区分	埋入物		備考
							様土	炭化物	
位置 層積土	1	10YR3/2	灰黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 程度		焼熱した10YR3/1黒褐色土、径1~10mmを中量含む。
	2	10YR3/6	明黄褐色	砂質シルト	弱	強			10YR3/4暗褐色土、径1~10mmを微量含む。
カマド	3	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 程度	径1~5mm 程度	
	4	7.5YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 程度	
	5	10YR3/2	にじみ赤褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 程度	径1~5mm 程度	
	6	10YR3/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 少量	径1~5mm 程度	
	7	10YR3/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 程度	径1~5mm 程度	焼熱した10YR3/1黒褐色土、径1~5mmを微量含む。
	8	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強	径1~30mm 中量	径1~5mm 程度	焼熱した10YR3/1黒褐色土、径1~5mmを微量含む。
	9	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	弱	強	径1~5mm 程度		
カマド 壁下方	10	10YR3/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強			
	11	10YR4/6	赤褐色	砂質シルト	弱	強			
	12	10YR3/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強			10YR4/2灰黄褐色土、径1~5mmを微量含む。
	13	10YR4/1	焼灰色	砂質シルト	弱	強			
	14	10YR6/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強			基本層IV層に属して類似する。
	15	10YR3/4	にじみ黄褐色	砂質シルト	弱	強			10YR3/4暗褐色土、径1~10mmを少量含む。

S167 施設土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV層 ゾーン区分	埋入物		備考
							様土	炭化物	
P1	1	10YR3/6	明赤褐色	砂質シルト	弱	強	径1~10mm 程度	径1~10mm 程度	焼熱した10YR3/1黒褐色土、径1~10mmを中量含む。



0 (1:3) 10cm

2(カマド袖構築材)

図号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 50枚
								口径	底径	高さ				
1	C-207	中区北側	S167	層積土	土師器	鉢	1皿・体	118.00	117.00	14.31	1皿:339°、体:297°	5/12°	内面黒色処理	66-11
2	C-146	中区北側	S167	カマド 袖構築材	土師器	壺・胴	1皿・胴	119.00	-	117.7	1皿:339°、胴:297°	5/12°	1皿:339°→437°、 胴:512°	66-13
3	E-030	中区北側	S167	床	須恵器	高台付鉢	1皿・ 高台	15.4	9.6	4.2	0°調整→底:100°/93°	0°調整		66-12

第147図 S167竪穴住居跡出土土物

【その他の施設】カマド東袖先端の東側には焼土・炭化物を混入するP1を確認した。

【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土土物】土師器2点、須恵器1点の計3点を掲載した(第147図)。第147図-1は堆積土出土の土師器坏で、わずかに内湾する体部から口縁部の破片である。口縁部と体部の境界に段をもたない。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。2はカマド袖先端の構築材に転用された長胴の土師器甕で、最大径は中位ないしやや上に位置し、口縁部と胴部の境界に浅い段を有する。口縁部は長く、外反して開く。調整は、胴部外面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデ後、内面下半にヘラナデ、胴部内面はヘラミガキが施される。3はカマド際の床面から出土した須恵器高台付坏で、平底から屈曲し、直線的に外傾して開く器

形を呈する。底面は回転ヘラケズリが施される。

【時期】第147図-3は郡山Ⅱ期官衙以降、本書時期区分6期の特徴を有しており、本遺構の時期を示している。

SI168 竪穴住居跡(第148図)

【位置・確認】中区南側に位置する。他遺構と攪乱に削平され遺存状況は悪い。

【重複】SI155・160、SD100、SK155と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北330cm以上、東西242cm以上を測る。平面形状は不明である。

【方向】西壁基準でN-27°-Wである。

【堆積土】9層に分層された。1～6層は住居堆積土で、ほぼ水平に堆積し、基本層Ⅳ層ブロックの混入は少ない。7～9層は掘り方で、基本層Ⅳ層ブロックを主体とする。

【壁面】ゆるやかに立ち上がる。残存する壁高は西壁で29cmを測る。

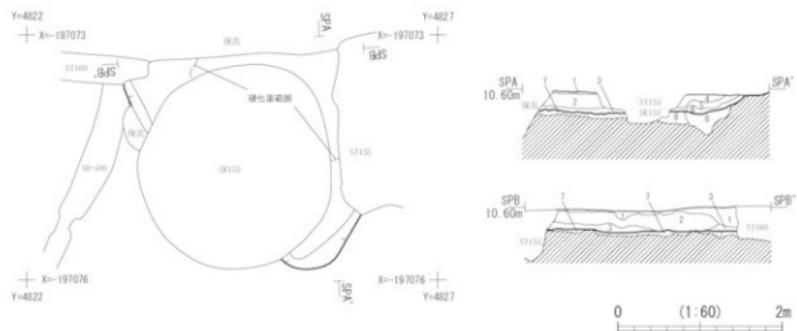
【床面】床面はわずかに起伏する。

【その他の施設】付属施設は確認されていない。

【掘り方】住居南西隅が深くなるが、それ以外はわずかに底面が起伏するが平坦である。

【出土遺物】土師器片が少量出土しているが、掲載遺物はない。

【時期】新旧関係から、郡山Ⅱ期官衙以前、本書時期区分6期以前に属する。



第148図 SI168竪穴住居跡

SI168 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層区分 ゾーン区分	混入物	備考
住居 堆積土	1	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	弱	強	塊1～5mm 散在	塊1～5mm 散在
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	塊1～10mm 少量 散在	塊1～5mm 散在
	3	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	塊1～5mm 散在	塊1～5mm 散在
	4	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	塊1～5mm 散在	
	5	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	普通	強	塊1～5mm 少量	
	6	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR3/4暗褐色土、塊1～10mm少量含む。
掘り方	7	10YR5/4	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR3/2暗褐色土、塊1～10mm少量含む。
	8	10YR4/2	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強	塊1～20mm 少量	
	9	10YR5/4	じいい黄褐色	砂質シルト	普通	強		10YR3/2暗褐色土、塊1～10mm少量含む。

SI169 竪穴住居跡(第149・150図)

【位置・確認】中区南側に位置する。東壁際の一部を除き大きく擾乱に削平される。

【重複】他遺構との重複関係はない。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西179cm以上、南北165cm以上を測る。平面形状は不明である。

【方向】東壁基準でN-32°-Eである。

【堆積土】9層に分層された。1～7層は住居堆積土、8・9層は掘り方である。いずれも砂質シルトを主体とするが、8層は上部に黄褐色粘土質シルトブロックを含む貼床である。

【壁面】中位で中端をもち、内湾して立ち上がる。壁面が円弧滑りで崩落したとみられる。残存する壁高は34cmを測る。

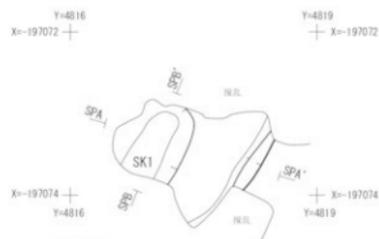
【床面】床面を誤認し掘り過ぎているが、断面観察により確認できる。やや西側に傾斜している。

【その他の施設】土坑を1基検出した。黒褐色から褐色を呈する粘土質シルトを主体とし、上部は基本層IV層ブロックを多量含む。

【掘り方】掘り方は深く、平坦である。

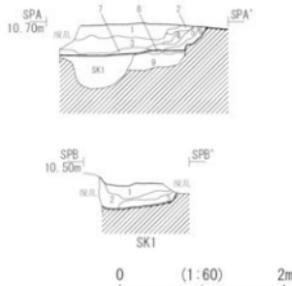
【出土遺物】土師器環2点を掲載した(第150図)。第150図-1はSK1出土の土師器環で、内湾する体部から短い口縁部が屈曲し内傾する器形を呈し、鬼高系土師器(南小泉型関東系土器)の特徴に類似する。調整は、体部外面はヘラミガキ、体部内面はヘラナデ、口縁部はヨコナデが施される。2は堆積土上の土師器環で、口縁部と体部境界に段を有し、口縁部は内湾して開く。調整は、体部外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、内面はヘラミガキが施される。

【時期】出土遺物はいずれも破片で、新旧関係からも時期は不明である。



SI169 施設観視表

施設名	平面形状	規模(cm)	深さ(cm)	備考
SK1	不明	190×190	30	



第149図 SI169竪穴住居跡

SI169 土層観視表

部位	層位	土色	土性	粘性	締り	基本層IV層ブロック有	出土物	備考	
住居 堆積土	1	10YR4/2	12.5%黄褐色	砂質シルト	普通	強	段1~20mm 少量	段1~5mm 微量	
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強		段1~5mm 微量	
	3	10YR4/2	12.5%黄褐色	砂質シルト	普通	強	段1~30mm 中量	段1~5mm 微量	
	4	10YR4/2	12.5%黄褐色	砂質シルト	普通	強	段1~10mm 少量	段1~5mm 微量	
	5	10YR4/2	12.5%黄褐色	砂質シルト	普通	強	段1~5mm 微量	段1~1mm 微量	
	6	10YR4/4	褐色	砂質シルト	普通	強	段1~5mm 少量	段1~5mm 微量	
	7	10YR5/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	段1~10mm 中量	段1~5mm 微量	
掘り方	8	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	普通	強	段1~10mm 中量	段1~5mm 微量	上部10YR5/4黄褐色粘土質シルト層状、厚50cm。
	9	10YR4/6	褐色	砂質シルト	普通	強		段1~5mm 微量	10YR5/6黄褐色粘土質シルトと10YR4/2に2%黄褐色粘土質シルト、段1~30mm程度。

SI169 竪穴土層観察表

層位	土色	土性	粘性	締り	基本層IV層 ブロック状	埋込物		備考
						礎土	炭化物	
1	10YR3/4	凝褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 多量	径1~5mm 少量	
2	10YR3/2	凝褐色	粘土質シルト	強	強	径1~10mm 少量		
3	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	強	強			10YR3/6明褐色土と10YR3/2黒褐色、径1~20mm程度。



1(SK1)



2(堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真枚数
								口径	底径	高さ				
1	C-186	中丘南側	SI169	SK1	土師器	杯	118~体	(15.0)	(15.4)	(3.1)	118°:32°、体:49°	118°:32°、体:49°		67.1
2	C-208	中丘南側	SI169	堆積土	土師器	杯	118~体	(17.0)	(12.6)	(3.0)	118°:32°、体:49°	40°		67.2

第150図 SI169竪穴住居跡出土遺物

SI170 竪穴住居跡(第151~153図)

【位置・確認】中区北側に位置する。他遺構や掘乱に削平される。

【重複】SI161~163・171、SD90・94・96、P208・209・229・230と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、南北378cm、東西390cm以上を測る。平面形状は方形と推測される。

【方向】南壁基準でN-30°-Wである。

【堆積土】8層に分層された。1・2層は竪穴住居跡1面の堆積土で、灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、2層は壁際に堆積する。3層はカマド燃焼部堆積土で、焼土粒を多量含む。4・5層はカマド掘り方で、このうち4層はカマド袖で基本層IV層に類似する。5層は火床面被熱し赤色化する。6層は床面2面の堆積土で、基本層IV層ブロックを主体とする。7層は床面2面の周溝で、暗褐色粘土質シルトを主体とし床面堆積土よりも暗い。8層は掘り方で基本層IV層ブロックを主体とする。

【壁面】急角度で立ち上がる。残存する壁高は、北壁で確認面から床面1面まで13cm、確認面から床面2面まで18cmを測る。

【床面】床面は2面確認された。いずれも平坦で、ほぼ水平である。2面床面の南西部、P2の南側には白色の粘土塊が出土している。

【カマド】燃焼部と東袖を確認した。煙道部は認められない。燃焼部奥壁は住居壁と一致する。

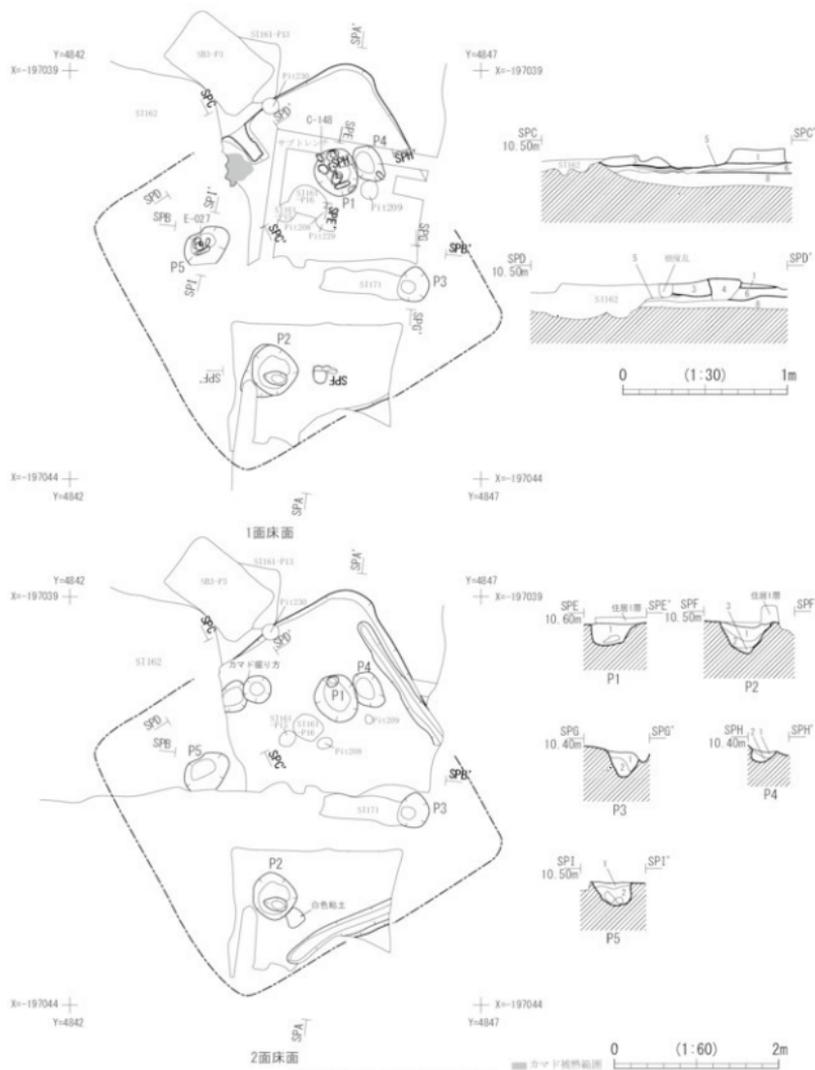
【柱穴】ピットは5基検出した。いずれも床面1面で検出している。いずれも柱痕跡は確認されていないが、規模と位置関係から、P1~3・5は4本柱の主柱穴である。P5からは礎3点と共に完形の須恵器平瓶(第153図-3)が出土している。本遺構廃絶後に埋納されたものとみられる。

【周溝】2面床面の東壁と南壁で確認された。

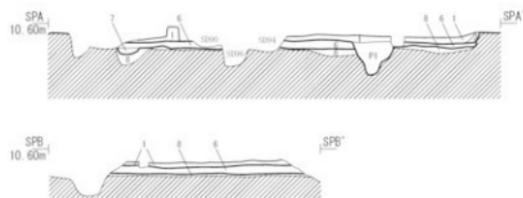
【掘り方】外周が深く中央が高い。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】土師器1点、須恵器2点の計3点を掲載している(第153図)。第153図-1は床面出土の土師器杯で、裏底部のような厚い平底から立ち上がる体部外面がすぐに屈曲し、内湾し口縁部は垂直に立ち上がる。調整は、内外面共に体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデがなされ、内面に黒色処理が施される。2はカマド燃焼部出土の須恵器蓋口縁部で、カエリをもたず直線的に開く。口唇部は「コ」字状を呈する。調整は内外面共にロクロ調整が施される。3はP4から出土した完形の須恵器平瓶で、平底で胴上部との境は明瞭な稜線を有し、胴下部はわずかに内湾する。口縁部にわずかに自然軸がかかる。底部は整理ヘラケズリ後ナデ調整が施される。

【時期】第153図-3は郡山II期官衙以降の特徴を有しており、また本遺構より新しいSI 161～163も郡山II期官衙、本書時期区分6期に相当することから、第153図-3は本遺構の所属時期を示している。



第151図 SI170竪穴住居跡(1)



第152図 S1170竪穴住居跡(2)



S1170 施設観覧表

遺構名	平面形	幅径(cm)	深さ(cm)	備考
P1	円形	87×82	29	主柱穴。
P2	不整形円形	87×82	30	主柱穴。SIS1170-P4。
P3	不整形円形	87×82	33	主柱穴。SIS1170-P5。

遺構名	平面形	幅径(cm)	深さ(cm)	備考
P4	不整形円形	87×82	29	副柱穴-P1。
P5	不整形円形	60×42	29	主柱穴。SIS1170-P4。

S1170 土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	結まり	基本層IV層 アゾウノ粒	埋人物		備考
							焼土	炭化物	
柱礎上	1	10YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	10mm 少量		
カマド	3	7.5B/4	緑赤色	粘土質シルト	弱	普通			10YR3/2黒褐色粘土質シルト径10mm中量。
	4	10YR7/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	強			10YR4/3じいい黄褐色粘土質シルト径3mm中量・下部赤化。カマド焼痕あり。
瓦葺土層	5	7.5B/4	赤色	粘土質シルト	弱	弱			赤土層。一部焼色。
	6	10YR3/4	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			10YR4/3じいい黄褐色土径30mm中量。
焼土層	7	10YR3/4	緑褐色	粘土質シルト	強	強	15-20mm 少量		
	8	10YR3/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			10YR4/3じいい黄褐色土径30mm中量。

S1170 施設土層観覧表

部位	層位	土色	土性	粘性	結まり	基本層IV層 アゾウノ粒	埋人物		備考
							焼土	炭化物	
P1	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		主柱穴。
	1	10YR3/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		主柱穴。直上に炭化物帯あり。
	2	10YR6/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		
P2	3	10YR3/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		
	3	10YR3/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		主柱穴。
P3	1	10YR4/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		
	2	10YR4/2	じいい黄褐色	シルト質粘土	強	強	15-20mm 少量		
P4	1	10YR5/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	強	弱	15-20mm 少量		
	2	7.5B/4	じいい赤色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		
P5	1	10YR4/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		主柱穴。
	2	10YR4/2	じいい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	15-20mm 少量		



1(床)



2(カマド燃焼部)



3(P4)



図面番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	石目調
								1目	底径	高さ				
1	E-148	中区支那	S1170	床	土器	坪	1目～底	12.0	6.2	4.0	1目:2目, 底:2目	1目:2目, 底:2目	内面彩色処理	67.3
2	E-031	中区支那	S1170	カマド燃焼部	瓦	1目	00.01	-	12.0	0%	調整	0%	彩色処理	67.4
3	E-027	中区支那	S1170	P4	瓦葺	平瓦	完形	5.8	7.8	7.2	体:0%調整, 底:0%調整	0%	調整	67.5

第153図 S1170竪穴住居跡出土遺物

SI172 竪穴住居跡(第154図)

【位置・確認】中区北側に位置する。他遺構に削平され。北壁と床面の一部のみ残存する。

【重複】SI161～163・172、SK162・172、SB3と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。

【規模・形態】検出した範囲の規模は、東西220cm以上、南北197cm以上を測る。平面形状は不明である。

【方向】北壁基準でN-72°-Wである。

【堆積土】3層に分層された。

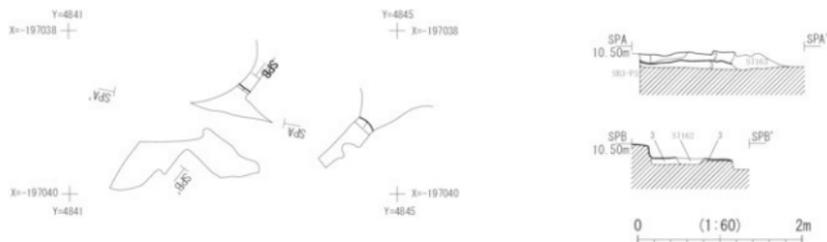
【壁面】ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は北壁で10cmを測る。

【床面】床面はわずかに起伏する。

【掘り方】外周が深く、中央が高い。堆積土は、外周部は暗褐色土で埋まるが、中央部は基本層IV層ブロックを主体とする。

【出土遺物】出土遺物はない。

【時期】他遺構との新旧関係から、郡山II期官衙以前、本書時期区分6期以前に相当する。



第154図 SI172竪穴住居跡

SI172 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	結晶性	基本層IV層ブロック有無	掘入物		備考
							検土	炭化物	
堆積土	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	弱	強	10.50cm以上		
	2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	普通	強	10.50cm以上		
掘り方	3	10YR6/3	濃い黄褐色	粘土質シルト	弱	普通	10.50cm以上		

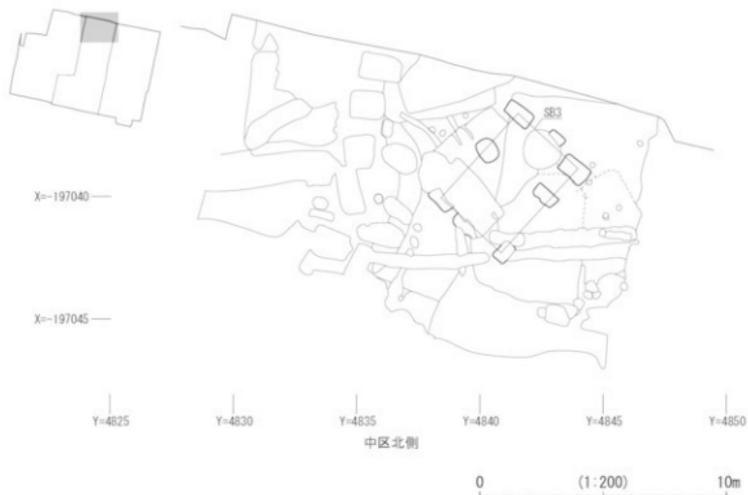
(2) 掘立柱建物跡(第155～174図)

掘立柱建物跡は、東区北側で1棟(SB1)、東区南側で9棟(SB2・4～11)、中区北側で1棟(SB3)の計11棟を検出した(第155・156図)。この掘立柱建物のうち調査中に確認したのはSB1～3のみで、その他は整理作業による図上復元を行なっている。東区南側ではその他ピットも多数検出されており、掘立柱建物と認定したものも、現場調査では竪穴住居跡の付属ピットとして調査したものがあつた。掘立柱建物跡はいずれの竪穴住居跡よりも新しい。

2間×3間程度の規模のものが多いが、全体が検出された遺構が少なく、詳細は不明である。柱穴は方形を呈するものが多く、一部長方形を呈する柱穴がみられる。主軸方位はわずかに東傾するものとやや西傾するものに大別できるが、中区北側で検出されたSB3は他の掘立柱建物跡とは主軸が大きく異なる。

検出した掘立柱建物跡の時期は、少量の共伴遺物からは特定できないが、竪穴住居跡との新旧関係から、SB9を除いて郡山II期官衙、本書時期区分で6期の最も新しい段階に位置づけられる。

以下、掘立柱建物跡について個別に報告する。



第155図 中区SB掘立柱建物跡位置図(古墳時代～古代)



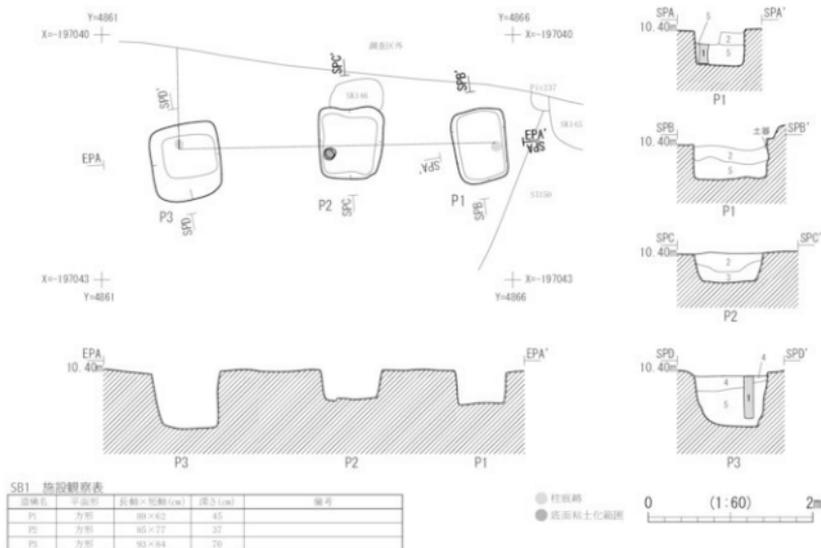
第156図 東区SB掘立柱建物跡位置図(古墳時代~古代)

SB1 掘立柱建物跡 (第157・158図)

東区北側に位置する。検出した柱穴は3基で、東西2間以上の建物として検出された。北側は調査区外に続くと推定され、桁行・梁行の方向は不明である。

本掘立柱建物跡の南側柱穴列を基準とした軸方位はN-89°-Eである。各柱穴のうちP2は、SK146と重複関係にあり、これより新しい。南側柱穴列は総長386cm以上、柱間寸法は西から184cm、202cmを測る。柱穴の規模は長軸85～93cm、短軸62～84cm、検出面からの深さ37～70cmを測る。平面形状は、隅丸方形ないし隅丸長方形、断面形は箱形・逆台形を基調とする。柱痕跡は、全ての柱穴で確認された。また柱痕跡の底面はいずれも粘土化している。

遺物は、P2から土師器・石製品の破片が出土し、そのうちの石製模造品1点を掲載した(第158図)。第158図-1は剣形模造品で先端部を欠損している。平面形は多角形で、断面は平坦で錆は認められない。石材は滑石である。



第157図 SB1掘立柱建物跡

SB1 土層観察表

層位	土色	土性	粘性	締まり	遺造物		備考
					基本層(厚さ・量)	遺造物	
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	強	強	厚1～10mm 少量	厚1～10mm 少量	柱痕跡、底面はP1・P2も粘土化している。
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	強	強	厚1～30mm 少量	厚1～10mm 少量	
3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	強	強	厚1～20mm 少量	厚1～5mm 微量	
4	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	強	強			10YR3/2暗褐色土、厚1～30mm少量。
5	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	強	強			10YR3/2暗褐色土、厚1～50mm少量。



図名	登録番号	調査区	丘上地	階位	種類	器種	法長 (cm)				重量 (g)	石材	備考	写真掲載
							全長	幅	厚	口				
1	K4-015	東区北側	SB1-P2	埋藏土	石製品	卵形楕圓品	3.5	1.7	2.8	2.6		燧石	先端部欠損、平面多角形で、縁はない。	07-6

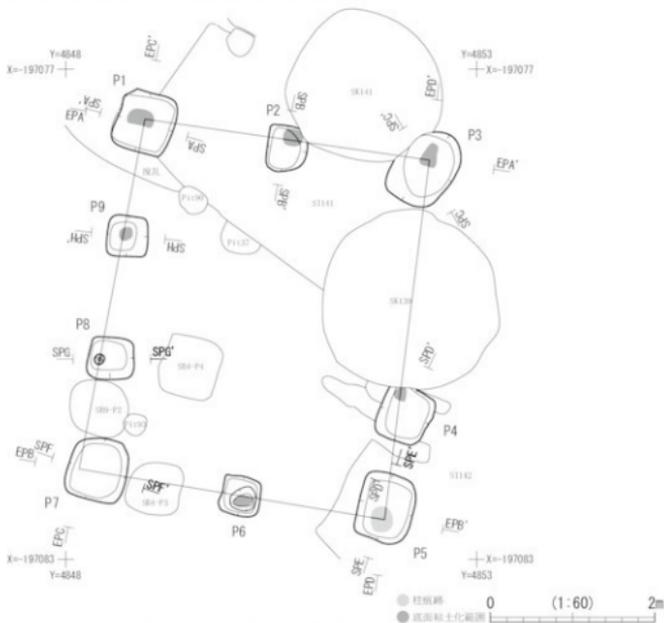
第158図 SB1掘立柱建物跡出土遺物

SB2 掘立柱建物跡 (第159・160図)

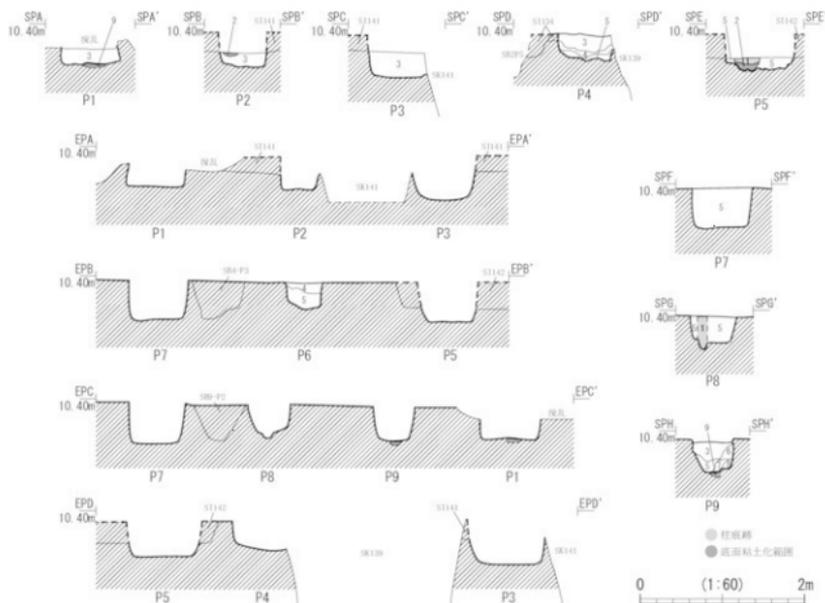
東区南側に位置する。検出した柱穴は9基で、南北3間、東西2間の南北棟建物として検出された。

本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-8°Eである。各柱穴のうちP1はSI141、Pit35と、P2・3はSI141、SK141と、P4はSI142、SK141と、P5はSI142と重複関係にあり、それぞれSI141・142、Pit35より新しく、SK139・141より古い。建物範囲ではSB4・9と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。

桁行は総長434cm、柱間寸法は北から142cm、155cm、137cm、梁行は総長350cm、柱間寸法は西から182cm、168cmを測る。柱穴の規模は長軸48～98cm、短軸47～73cm、検出面からの深さ25～52cmを測る。平面形状は、隅丸方形ないし隅丸長方形、断面形は箱形・逆台形を基調とする。



第159図 SB2掘立柱建物跡(1)



SB2 施設観察表

遺構名	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P1	隅丸方形	73×70	35	
P2	隅丸長方形	56×49	42	
P3	隅丸長方形	86×73	52	
P4	隅丸方形	62×62	33	
P5	隅丸長方形	84×67	45	

遺構名	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P6	隅丸方形	48×47	33	
P7	隅丸方形	72×72	50	
P8	隅丸方形	55×51	41	
P9	隅丸方形	80×50	41	

第160図 SB2掘立柱建物跡(2)

SB2 土層観察表

層位	土色	土性	粘性	硬まり	層内容			備考
					基本層IV層 (7.10m～7.15m)	粘土	柱石跡	
1	30FR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	50～70mm 少量			柱石跡。
2	30FR3/3 褐色	粘土質シルト	強	普通	50～70mm 少量			粘土化範囲、腐化跡を少量含む。
3	30FR3/4 暗褐色	粘土質シルト	普通	普通	50～70mm 少量		1～5mm 散見	P412、粘土(径5mm)散見、灰化物を含む。
4	30FR3/2 黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	50～70mm 少量			P412、粘土(径5mm)散見、灰化物(径5mm)散見、灰少量を含む。
5	30FR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	50～70mm 少量			P412、粘土(径5mm)散見、灰化物を含む。
6	30FR3/3 暗褐色	粘土質シルト	強	普通	50～70mm 少量	50～70mm 散見	50～70mm 散見	
7	30FR3/3 暗褐色	粘土質シルト	強	普通	50～70mm 少量	50～70mm 散見	50～70mm 散見	
8	30FR3/4 黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				30FR3/2黒褐色土、径1～10mm少量。
9	30FR7/3 灰白色	粘土質シルト	強	強				底面粘土化範囲。

柱痕跡は、P5・8で確認された。柱の底面部の痕跡と見られる粘土化範囲は、P7を除く柱穴で確認された。

各柱穴のうち建物の四隅にあたるP1・3・5・7は比較的規模が大きく、また深さの比較でも四隅の柱穴のうちP3・5・7が、その他の柱穴に比べてより深く掘り込んでいることが確認された。各柱穴の位置関係を見ると、梁行の中間部分にあたるP2・6は、いずれも建物の中心軸よりやや東寄りに配置されていることが確認された。

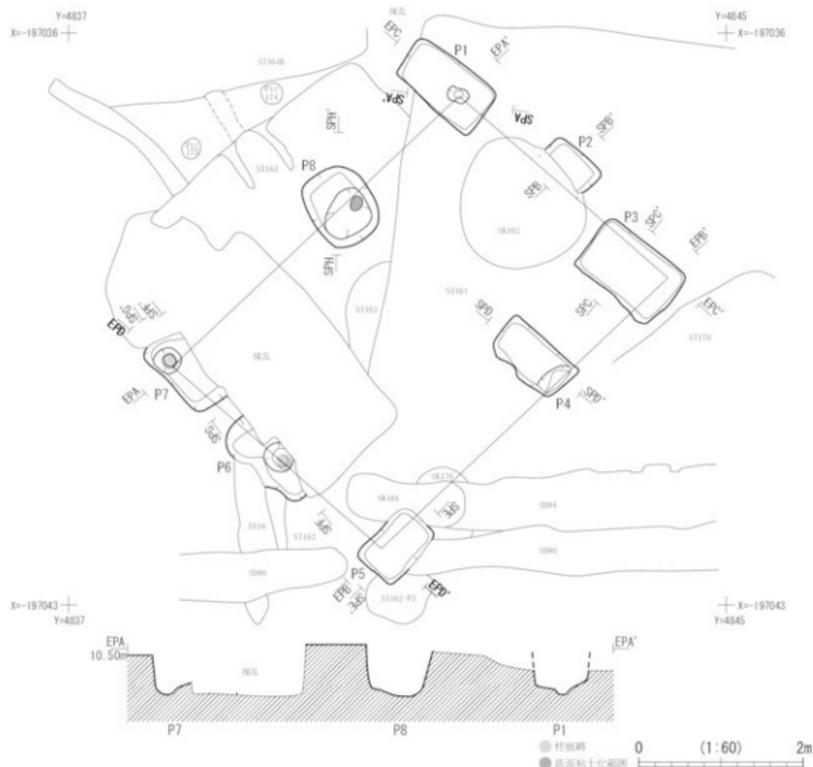
遺物は、P8を除く柱穴から土師器・須恵器の破片が出土したが、図示した遺物はない。

SB3 掘立柱建物跡(第161・162図)

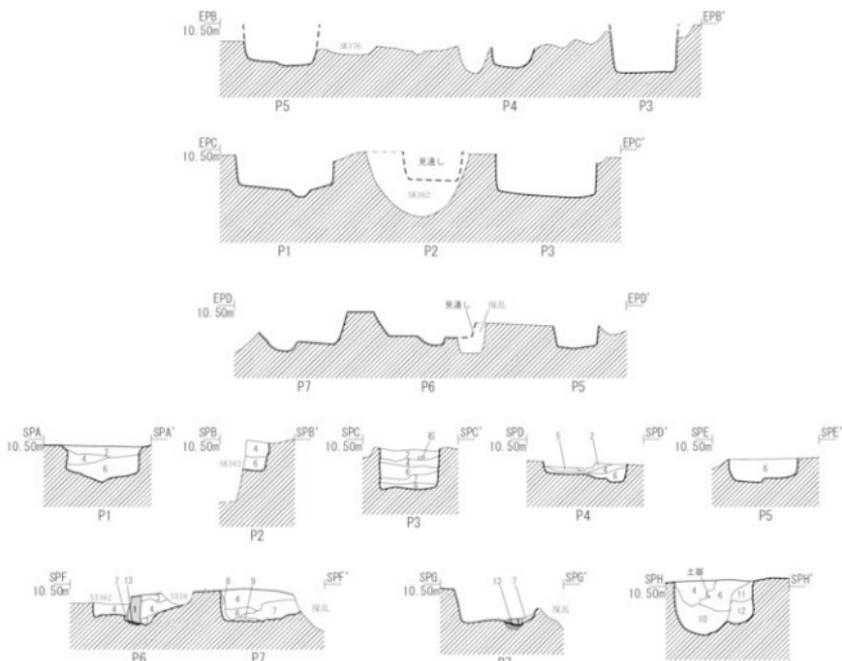
中区北側に位置する。検出した柱穴は8基で、南北2間、東西2間の東西棟建物として検出された。

本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-46°Eである。各柱穴はSI161～163・172、SK162・164・176、SD90・94、SX18と重複関係にあり、SI161～163・172、SK164・176より新しく、SK162、SD90・94、SX18より古い。桁行は総長479cm、柱間寸法は西から298cm、181cm、梁行は総長338cm、柱間寸法は北から178cm、160cmを測る。柱穴の規模は長軸72～123cm、短軸32～79cm、検出面からの深さ25～67cmを測る。平面形状は隅丸長方形を基調とする。北西から南東方向を主軸とするが、P2・5は北東から南東を主軸としており、ピットの主軸方位に規則性がみられない。断面形は箱形・逆台形を基調とする。柱痕跡は、P6・7で確認された。

遺物は、P3・4を除く柱穴から土師器・須恵器・石製品の破片が出土したが、図示したものはない。



第161図 SB3掘立柱建物跡(1)



● 柱痕跡
● 底面粘土化範囲

0 (1:60) 2m

SB3 施設観察表

設備名	平面形	長軸×短軸(L×B)	深さ (cm)	備考
P1	長方形	(119)×(65)	41	
P2	長方形	(72)×(23)	36	
P3	長方形	(123)×(74)	51	
P4	長方形	(102)×(52)	25	

設備名	平面形	長軸×短軸(L×B)	深さ (cm)	備考
P5	長方形	(66)×(54)	28	
P6	長方形	(123)×(49)	40	
P7	長方形	(109)×(44)	45	
P8	長方形	(98)×(74)	67	

第 162 図 SB3 掘立柱建物跡 (2)

SB3 土層観察表

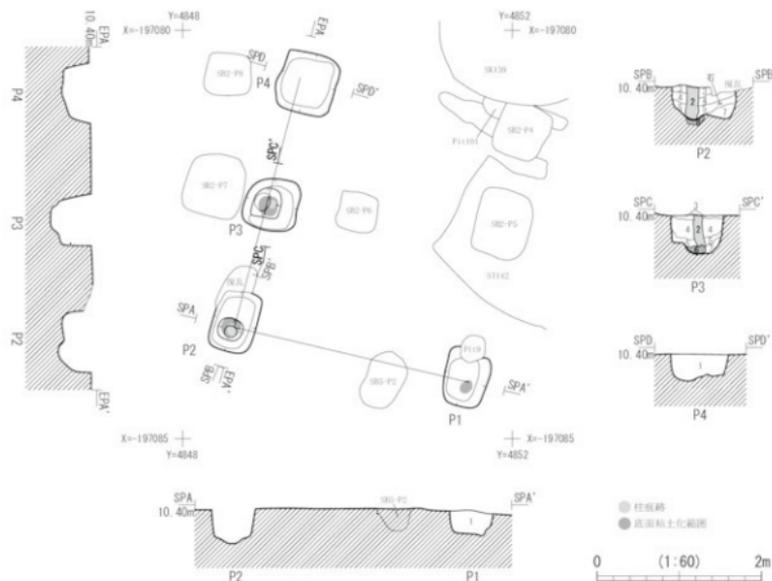
層位	土色	粘性	粘性	締まり	層人物			備考
					基本層(凡層) ゾナゾナ(層)	硬土	灰化物	
1 10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	弱	普通	径1~10mm 多数	径1~2mm 多数	径2~3mm 少量	柱痕跡。
2 10YR6/3	12.5Y・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト。径2mm少量。
3 10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	弱	強			径2~3mm 多数	10YR4/6褐色土ブロック。径5~10mm程度少量。
4 10YR4/2	灰黄褐色	シルト	普通	普通	径1~20mm 少量	径1~2mm 多数	径1~2mm 多数	
5 10YR6/3	12.5Y・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				10YR4/2灰黄褐色土。径10mm少量。
6 10YR5/6	黄褐色	シルト	普通	普通			径1~2mm 多数	10YR4/2灰黄褐色土。径1~2mm程度少量。
7 10YR4/6	褐色	シルト	弱	強				10YR3/4暗褐色土ブロック。径10~15mm多数。
8 10YR4/2	12.5Y・黄褐色	砂質シルト	弱	強				10YR3/2黒褐色土ブロック。径5~10mm程度少量。ツングシ粒多数。
9 10YR4/6	褐色	シルト	普通	普通				10YR3/2黒褐色土ブロック。径10~15mm程度少量。
10 7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	弱	強		径1~2mm 多数		3.5YR4/4褐色土。径50~100mmブロック状によく散る。
11 7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	弱	普通				10YR4/2に12.5Y・黄褐色土混在。
12 7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	弱	普通		径1~2mm 多数		10YR4/4褐色土ブロック。径5~10mm多数。
13 10YR3/2	12.5Y・黄褐色	粘土質シルト	普通	普通				掘断面と底面に間に約100mm厚。底面粘土化範囲。

SB4 掘立柱建物跡(第163図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は4基で、南北2間、東西1間の南北棟建物として検出された。

本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-15°-Eである。各柱穴のうちP1はPit9と重複関係にあり、これより古く、P3・4はSD87と重複関係にあり、これより新しい。また、建物範囲ではS1142、SB2・5、Pit94・111・216と重複関係にあるが、柱穴との直接の重複はないため、新旧関係は不明である。桁行は総長317cm、柱間寸法は北から158cm、159cm、梁行は総長292cm、柱間寸法は292cmを測る。柱穴の規模は長軸65～76cm、短軸54～67cm、検出面からの深さ30～48cmを測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形、断面形は逆台形を基調とする。柱痕跡は、P2・3で確認された。

遺物は、全ての柱穴から土師器の破片が出土したが、図示したものはない。



SB4 施設観察表

遺構名	平面形	長軸・短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P1	隅丸方形	70×54	30	
P2	長方形	76×54	40	

遺構名	平面形	長軸・短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P3	隅丸方形	63×44	45	
P4	方形	75×67	33	

第163図 SB4掘立柱建物跡

SB4 土層観察表

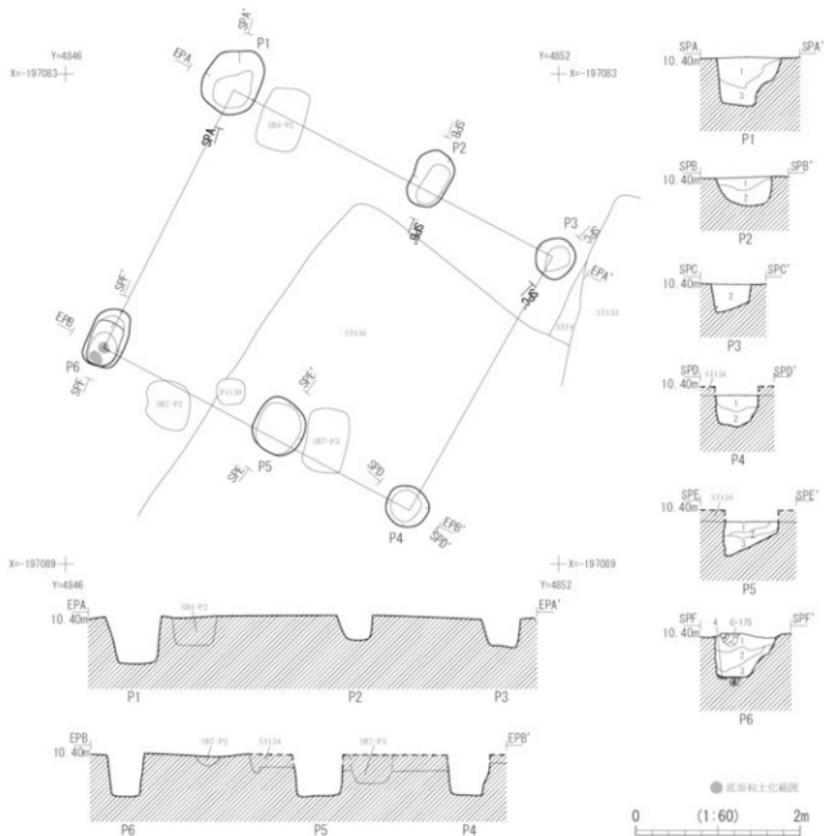
層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層IV面 (プロット・計)	遺人物		備考
						雑土	居住跡	
1	10YR5/3	じぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~20mm 少量		
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~30mm 微量	径1~3mm 少量	柱痕跡。
3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~30mm 少量	径1~3mm 微量	
4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~30mm 少量	径1~3mm 微量	
5	10YR3/3	橙褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~20mm 少量		
6	10YR2/2	じぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通			粘土粘菌。
7	10YR5/3	じぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	径1~30mm 少量		10YR5/4黄褐色土、径1~10mmと10YR4/2灰黄褐色土、径1~10mm混在。
8	10YR7/2	じぶい黄褐色	粘土質シルト	強	普通			泥面粘土粘菌。

SB5 掘立柱建物跡(第164～166図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は6基で、南北1間、東西2間の東西棟建物として検出された。

本掘立柱建物跡の桁行を基準とした軸方位はN-62°-Wである。各柱穴のうちP1はSB9-P3と、P4・5はSI134と、P6はPit134と重複関係にあり、全てこれらより新しい。また建物範囲ではSB4・7、Pit30・73・82・132・216と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。桁行は総長422cm、柱間寸法は西から235cm、187cm、梁行は総長353cm、柱間寸法は353cmを測る。柱穴の規模は長軸50～85cm、短軸44～68cm、検出面からの深さ35～59cmを測る。平面形状は円形ないし不整楕円形、断面形は逆台形を基調とする。柱痕跡は確認されなかったが、P6の底面で粘土化範囲が確認された。

遺物は、全ての柱穴から土師器の破片が出土し、そのうちP6堆積土から出土した土師器1点を掲載した(第166図)。第166図-1はほぼ完形の土師器の球胴甕で、胴部にはヘラケズリが施される。口縁部と胴部の境界に段はなく、



第164図 SB5掘立柱建物跡(1)



SBS 施設観察表

遺構名	平面形	長軸×短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	全形残存形	83×68	39	
P2	全形残存形	71×44	36	
P3	円形	50×42	35	
P4	円形	52×50	49	
P5	隅丸方形	66×62	36	
P6	隅丸長方形	74×66	31	



第165図 SBS掘立柱建物跡(2)

SBS 土層観察表

層位	土色	土性	粘性	締まり	基本層厚(層厚) (cm)	遺人物	炭化物	備考
1	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	普通	10~20mm 少量			P4上、径1~5mm炭土層散見、径1~5mm炭化物集積層を含む。
2	10YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	強	10~20mm 少量			
3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	強	10~5mm 散見			
4								底面粘土化顕著、断面写真、及び土層図記入し。



1(SB5-P6 堆積土)



BSR 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 採取
								口徑	底径	高さ				
1	C-175	堀川南側	SBS-P6	1層	土器類	椀	口縁~底	16.7	8.0	22.3	口縁: 32°P、胴: 59°P → 59°P 土、底: 木製底	口縁: 32°P、胴: 59°P		67.7

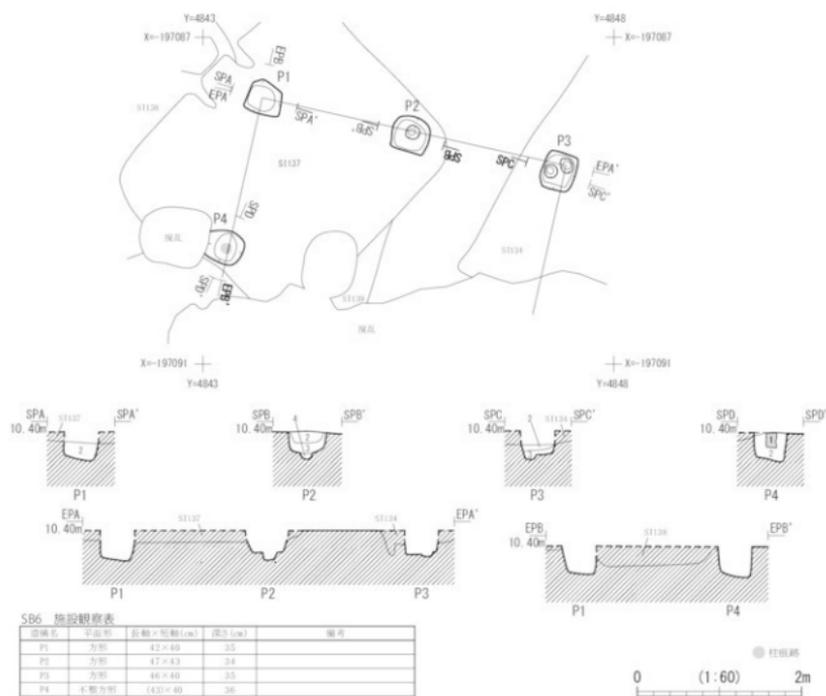
第166図 SBS掘立柱建物跡出土遺物

口縁部は湾曲して外反する。出土場所は柱底面の粘土化範囲の真上に位置することから、柱が抜き取られた後に埋設されたものとみられる。

SB6 掘立柱建物跡(第167図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は4基で、南北1間以上、東西2間の建物として検出された。南側は攪乱により失われており、桁行・梁行の方向は不明である。

本掘立柱建物跡の東西柱穴列を基準とした軸方位はN-77°-Wである。各柱穴のうちP1はSI137～139と、P2はSI137・139と、P3はSI134と、P4はSI138・139と重複関係にあり、すべてこれより新しい。また建物範囲ではSB7、Pit151と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。南北柱穴列は



第167図 SB6 掘立柱建物跡

SB6 土層観表

層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物		備考
					基本層(深部)	表土	
1	10YR3/2 橙褐色	シルト	普通	強	101~102mm 少量	101~102mm 少量	柱底縁
2	10YR4/3 2:20~黄褐色	シルト	普通	強	101~102mm 少量	101~102mm 少量	
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	普通	強	101~102mm 少量	101~102mm 少量	
4	10YR3/1 黒褐色	シルト	普通	強	101~102mm 少量	101~102mm 少量	

総長187cm以上、柱間寸法は187cm、東西柱穴列は総長378cm、柱間寸法は西から186cm、192cmを測る。柱穴の規模は長軸42～47cm、短軸40～43cm、検出面からの深さ34～36cmを測る。平面形状は隅丸方形、断面形は逆台形を基調とする。柱痕跡は、P4で確認された。

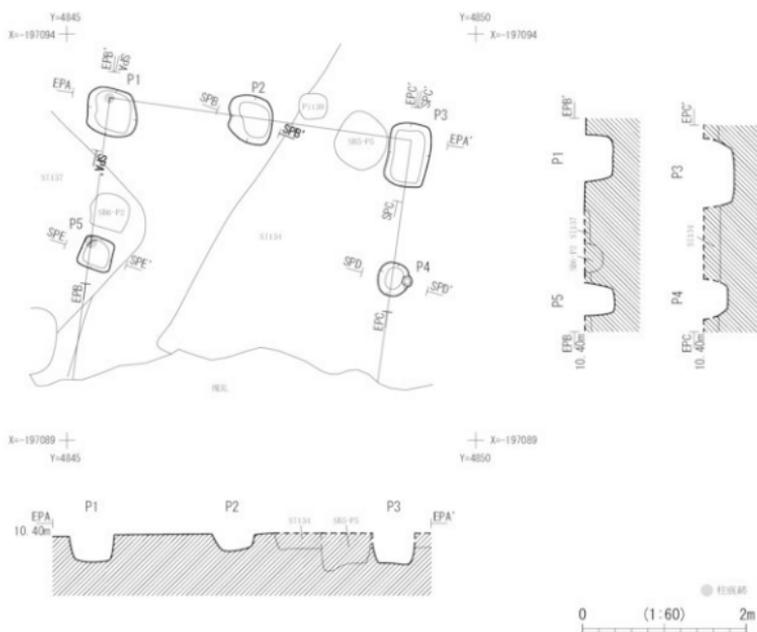
遺物は、P3を除く柱穴から土師器・須恵器の破片が出土したが、図示したものはない。

SB7 掘立柱建物跡(第168・169図)

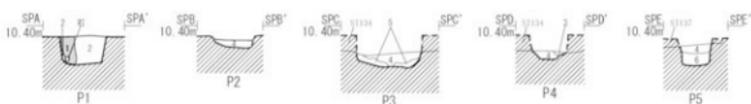
東区南側に位置する。検出した柱穴は5基で、南北1間以上、東西2間の建物として検出された。南側は攪乱により失われており、桁行・梁行の方向は不明である。

本掘立柱建物跡の南北柱穴列を基準とした軸方位はN-7°-Eである。各柱穴のうちP3・4はSI134と、P5はSI137・139と重複関係にあり、これより新しい。また、建物範囲ではSB5・6、Pit153と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。南北柱穴列は総長178cm以上、柱間寸法は178cm、東西柱穴列は総長371cm、柱間寸法は西から177cm、194cmを測る。柱穴の規模は長軸40～79cm、短軸39～57cm、検出面からの深さ15～40cmを測る。平面形状は隅丸方形・不整形、断面形は逆台形を基調とする。柱痕跡は、P1・5で確認された。

遺物は、P4を除く柱穴から土師器・須恵器・石製品の破片が出土したが、図示したものはない。



第168図 SB7 掘立柱建物跡(1)



SB7 施設観察表

基礎名	平面形	長軸×短軸(cm)	厚さ(cm)	備考
P1	本型方形	62×52	34	
P2	本型方形	58×52	15	
P3	長方形	79×50	40	
P4	円形	41×39	39	
P5	方形	40×40	33	



第169図 SB7 掘立柱建物跡(2)

SB7 土層観察表

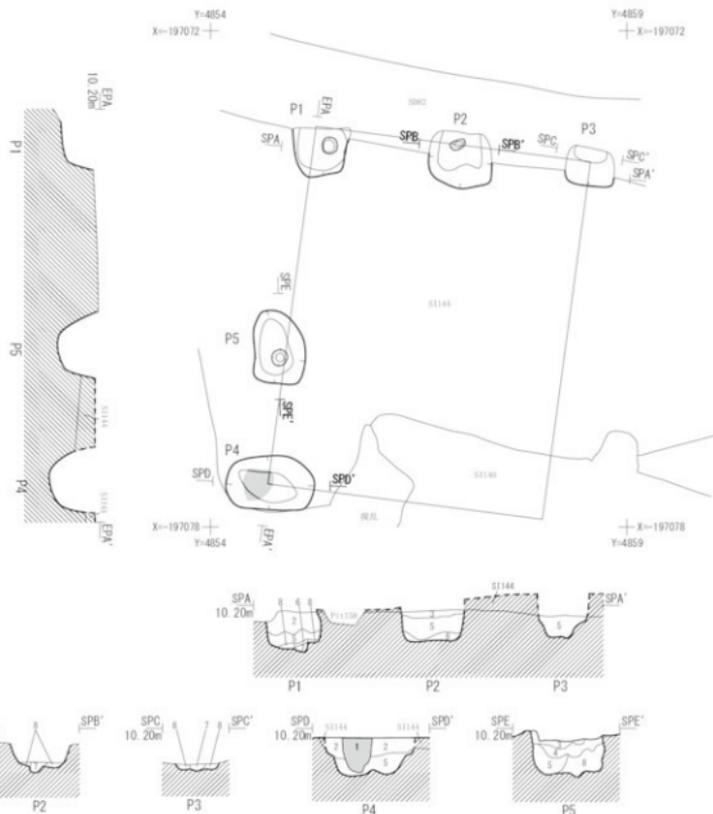
層位	土色	土性	粘性	締まり	混入物			備考
					基本層IV層 ブロック・砂	礫土	円石物	
1	10YR4/1 黄灰色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量			柱痕跡。
2	10YR4/2 濃い黄褐色	シルト	普通	強				10YR5/6黄褐色土、径1~30mmと10YR4/2黄褐色土、径1~30mm混入。
3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 微量			
4	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	P4は基本層IV層ブロックの混入多量。
5	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	強	強	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	10YR6/6明黄褐色土、径1~30mmと10YR3/2黒褐色土、径1~30mm混入。
6	10YR3/2 黒褐色	シルト	普通	強	径1~5mm 少量	径1~5mm 微量	径1~5mm 微量	

SB8 掘立柱建物跡(第170図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は5基で、南北2間、東西2間の南北棟建物として検出された。

本掘立柱建物の桁行を基準とした軸方位はN-8°Eである。各柱穴のうちP1~3はSI144、SD82と、P4・5はSI144と重複関係にあり、それぞれSI144より新しい。また、建物範囲ではSI140・141、Pit26・158と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。SD82との新旧関係は、SD82を先行して掘削しているが、調査不備のため新旧関係については不明である。桁行は総長436cm、柱間寸法は北から282cm、154cm、梁行は総長332cm、柱間寸法は西から172cm、160cmを測る。柱穴の規模は長軸59~106cm、短軸46~69cm、検出面からの深さ47~65cmを測る。平面形状は不整方形ないし不整長方形、断面形は逆台形を基調とする。柱痕跡は、P4で確認された。

遺物は、全ての柱穴から土師器・須恵器の破片が出土したが、図示したものは無い。



SB8 施設観察表

遺構名	平面形	直径×軸長 (cm)	厚さ (cm)	備考
P1	不整形方形	63×136.3	51	
P2	不整形方形	76×169.7	60	
P3	不整形方形	103.7×166.3	65	
P4	不整形円形	104×65.2	47	
P5	不整形円形	85×64.1	56	

第170図 SB8掘立柱建物跡

SB8 土層観察表

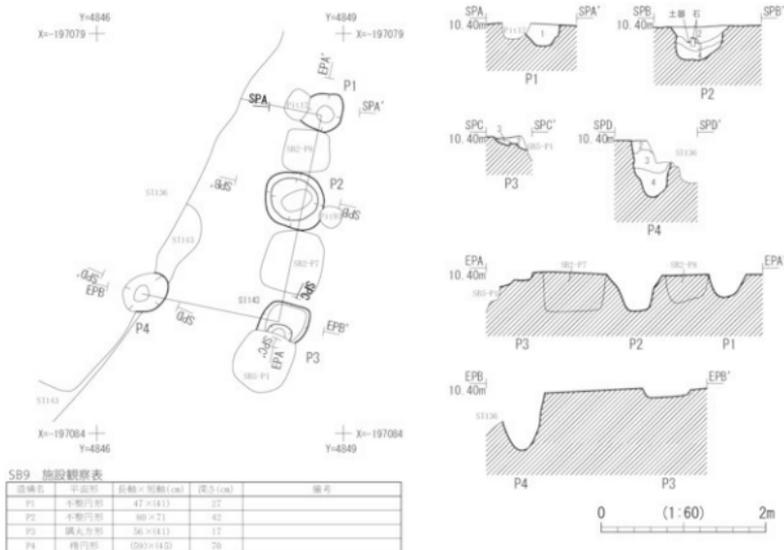
層位	土色	土性	粘性	結晶性	基本層位層 アロソク・シルト	埋入物		備考
						雑土	炭化物	
1	10YR4/3	粘土質シルト	強	普通	径1~10mm 炭屑			紅瓦片。
2	10YR6/4	粘土質シルト	普通	強				10YR3/3暗褐色土、径1~50mm中量、マンガン粒、径1~5mm炭屑。
3	10YR3/3	粘土質シルト	普通	強	径1~30mm 炭屑		径1~5mm 炭屑	
4	10YR4/3	粘土質シルト	普通	強				10YR5/4黄褐色土、径1~10mm/10YR4/1褐色土、径1~10mm炭屑。
5	10YR3/3	粘土質シルト	普通	普通	径1~30mm 多量		径1~5mm 炭屑	
6	10YR7/6	粘土質シルト	普通	普通				マンガン粒、径1mm炭屑10YR3/3暗褐色土、径1~10mm少量。
7	10YR3/2	粘土質シルト	普通	普通	径1~30mm 少量			
8	10YR5/6	粘土質シルト	普通	普通				P2は雑土、径1~5mm炭屑を含む。

SB9 掘立柱建物跡(第171・172図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は4基で、南北2間、東西1間以上の建物として検出された。西側はSI136により失われており、桁行・梁行の方向は不明である。

本掘立柱建物跡の南北柱穴列を基準とした軸方位はN-12°-Eである。各柱穴のうちP1はPit12と、P2はPit93と、P3はSB5-P1と、P4はSI136・143と重複関係にあり、それぞれSI143より新しく、SI136、SB5、Pit12・93より古い。また、建物範囲ではSB2と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。南北柱穴列は総長258cm、柱間寸法は北から106cm、152cm、東西柱穴列は総長170cm以上、柱間寸法は170cmを測る。柱穴の規模は長軸47～80cm、短軸41～71cm、検出面からの深さ17～70cmを測る。平面形状は不整形円形ないし隅丸方形、断面形は逆台形・「U」字形・皿状を基調とする。柱痕跡は確認されなかった。

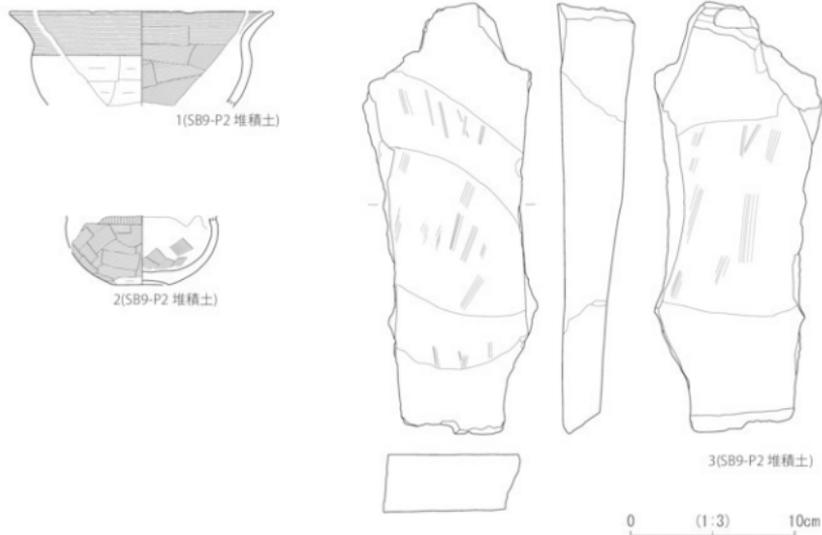
遺物は、全ての柱穴から土師器・石製品の破片が出土し、そのうちP2堆積土から出土した土師器2点と石製品1点の計3点を掲載した(第172図)。第172図-1は土師器鉢で、体部上部は半球形を呈し外面はヘラケズリが施され、口縁部は外反し開く。2は壺釜式期の土師器小型丸底鉢で、遺構の新旧関係から混入である。3は砥石で両面を砥面としている。石材は砂岩である。



第171図 SB9掘立柱建物跡

SB9 土層観察表

層位	土色	土質	粘性	硬さ	経年劣化	遺造物	備考
1	SB9A/2	灰黄褐色	粘土質シルト	普通	強	基本層(IV層) P1・P2・P3・P4	焼土 炭化物
2	SB9B/4	褐色	砂質シルト	弱	強	15～19cm 少量	径1～2mm 焼炭
3	SB9C/3	暗褐色	砂質シルト	普通	強	15～19cm 少量	径1～2mm 焼炭
4	SB9D/2	黒褐色	砂質シルト	普通	普通	15～19cm 少量	径1～2mm 焼炭



図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
								口径	底径	高さ				
1	C.181	東区南側	SB9-P2	埴輪土	土師器	鉢	口縁~体	16.0	-	(5.8)	上面:22F, 体:40Y1	上面:22F, 体:40Y1		67.8
2	C.180	東区南側	SB9-P2	埴輪土	土師器	小型丸底鉢	体~底	-	3.3	(4.2)	体:37F~40F, 体下縁:49Y1	体:40Y1		67.9
図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	法量 (cm)			石材	備考	写真掲載		
3	K4-001	東区南側	SB9-P2	埴輪土	石製品	砥石	全長	幅	厚				重量	
							27.3	10.7	4.5	1650	砂岩	砥石(2面)		67.10

第172図 SB9掘立柱建物跡出土遺物

SB10 掘立柱建物跡(第173図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は6基で、南北2間、東西3間の東西棟建物として検出された。

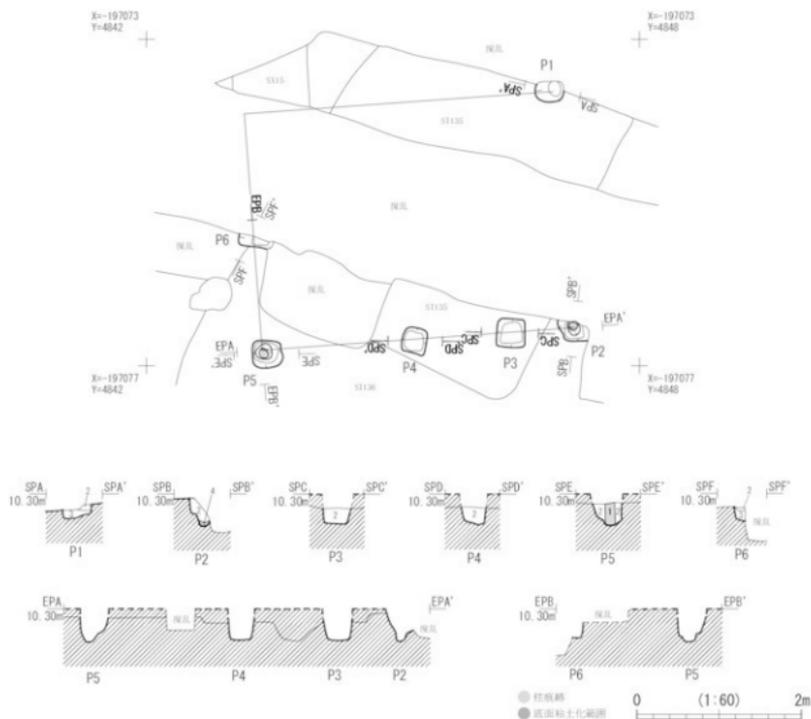
本掘立柱建物の桁行を基準とした軸方位はN-86°-Eである。各柱穴のうちP1・3・4はSI135と、P5はSI136と重複関係にあり、これらより新しい。また、建物範囲ではSX15と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。桁行は総長380cm、柱間寸法は西から186cm、119cm、75cm、梁行は総長290cm、柱間寸法は北から155cm、135cmを測る。柱穴の規模は長軸31～43cm、短軸13～34cm、検出面からの深さ17～40cmを測る。平面形状は方形・不整楕円形・不整形、断面形は逆台形を基調とする。柱痕跡は、P2・5で確認された。

遺物は、P1・2・5から土師器の破片が出土したが、図示したものは無い。

SB11 掘立柱建物跡(第174図)

東区南側に位置する。検出した柱穴は4基で、南北1間以上、東西2間以上の建物として検出された。

本掘立柱建物跡の南北柱穴列を基準とした軸方位はN-5°-Wである。各柱穴のうちP3はSI135と、P4はSX15と重複関係にあり、SI135より新しく、SX15より古い。また、建物範囲ではSD82と重複関係にあるが、柱穴の直接の重複はないため、新旧関係は不明である。南北柱穴列は総長427cm以上、柱間寸法は427cmを測る。ただ



SB10 施設観表

遺構名	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P1	楕円形	33×22.5	17	
P2	半楕円形	33×12.5	34	
P3	楕円方形	35×34	36	

遺構名	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P4	楕円方形	31×30	37	
P5	楕円方形	37×34	40	
P6	楕円長方形	43.5×13.5	19	

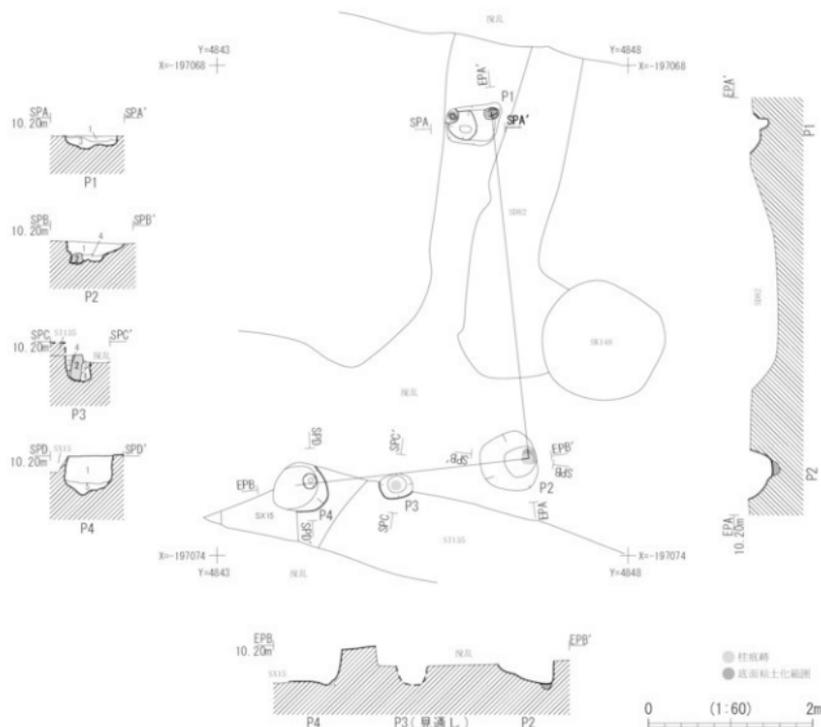
第173図 SB10掘立柱建物跡

SB10 土層観表

層位	土色	土性	粘性	締まり	遺人物		備考
					基本層(D層) ブロック・瓦	炭化物	
1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	普通	強		径1~2mm 燐灰	柱痕跡。
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	普通	強	径1~2mm 燐灰		
3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	普通	普通			10YR3/4黄褐色土、径1~20mm± 10YR4/2灰黄褐色土、径1~20mm散在。
4	10YR4/2 褐色	粘土質シルト	普通	強			柱痕跡。

し、SD82が本遺構より新しい場合、P1・2間の柱穴がSD82により失われている可能性は考えられる。東西柱穴列は総長286cm、柱間寸法は西から123cm、163cmを測る。柱穴の規模は長軸40～74cm、短軸30～69cm、検出面からの深さ16～49cmを測る。平面形状は円形・不整形長方形、断面形状は皿状・「U」字形を基調とする。柱痕跡は、P3で確認された。

遺物は、全ての柱穴から土師器の破片が出土したが、図示したものはない。



SB11 施設観覧表

遺構名	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P1	不整形長方形	64×47	16	
P2	不整形円形	74×69	26	

遺構名	平面形	長軸×短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P3	円形	180×180	32	
P4	不整形円形	76.5×60.5	49	

第174図 SB11掘立柱建物跡

SB11 土層観覧表

層位	土色	土性	粘性	硬さ	基本層片層 (プロット・%)	遺人物 層土	遺物	備考
1	10YR4/3 じぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強	151～20mm 少量		151～1mm 少量	
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	強	普通	151～10mm 少量		151～3mm 少量	柱痕跡、 散見
3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	普通	普通	151～20mm 少量		151～3mm 微量	
4	10YR4/3 じぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	普通	151～10mm 少量			
5	10YR3/2 じぶい黄褐色	粘土質シルト	普通	強				10YR5.6黄褐色土、径1～10mmと10YR4.2灰黄褐色土、径1～10mm散見。

(3) 溝跡(第175～181図)

古墳時代～古代の溝は東区で5条(SD82・83・86・87・91)、中区南側で9条(SD88・89・92・95・97～101)、中区北側で1条(SD93)、西区トレンチ1で1条(SD102)の計16条を検出した。このうち、SD91・93は円形周溝である。また、中区南側で検出した溝のうちSD88とSD97、SD98とSD99、SD95とSD99・100はそれぞれ併走しており、堆積土の下半に地山ブロックが多量含まれている特徴から、小溝状遺構群の可能性もある。この小溝状遺構群の可能性のある溝は古墳～古代の遺構のいずれよりも古い。東区でL字状に屈曲するSD82は西側の3次調査、北側の11次調査側の調査区外へ続いている。

以下、古墳時代～古代と考えられる溝について検出地点毎に個別に報告する。

SD82 溝跡(第175・176図)

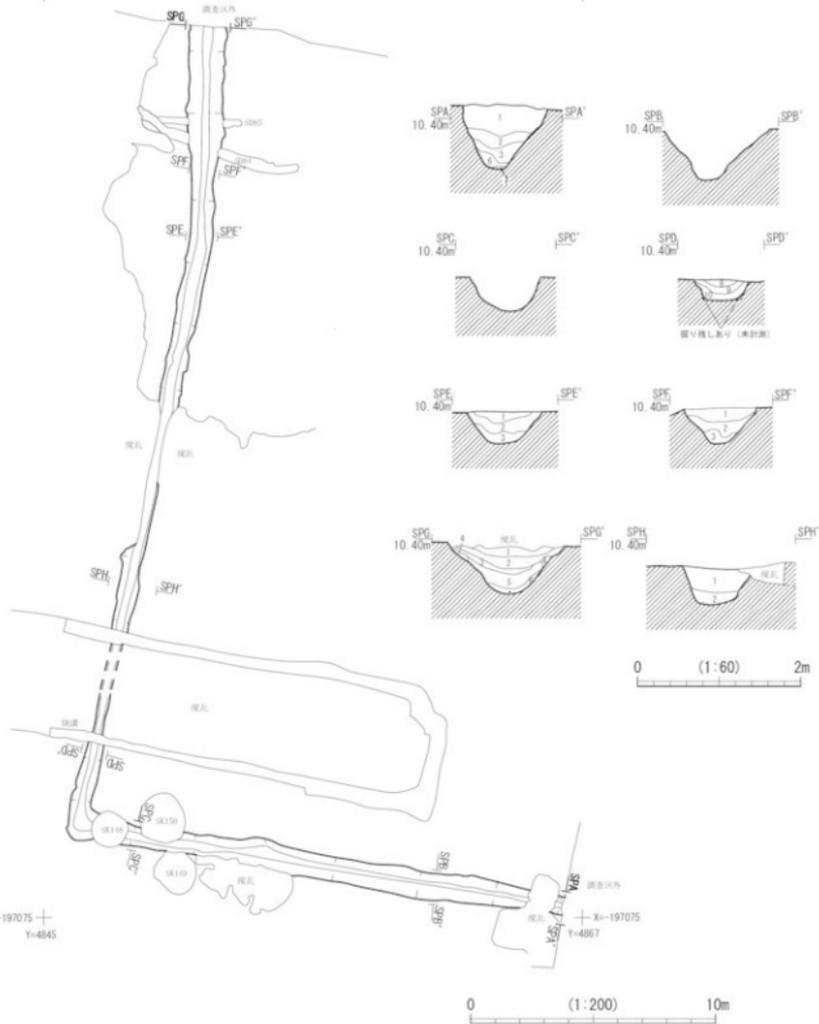
東区で確認した。L字状に屈曲しており、東端及び北端は調査区外に続く。重複関係は、SD84・85、SK148～150より古く、SI144・148・149、SB8、SX11・13よりも新しい。検出した規模は、東西方向20.40m、南北方向39.90m、総長54.30mで、上端幅は最大で156cm、深さは調査区東壁で最大78cmを測る。走行方向は、東西方向ではN-80°-W、南北方向はN-12°-Eで、南西の屈曲部から北に約24.5m、断面Eベルト付近以北はN-3°-Eとやや北側に傾く。断面形は概ね逆台形を呈し上方に開くが、底面幅や底面と壁面の立ち上がり角が地点により異なる。特に断面Eベルト以北では下端幅が狭く、壁面中断に緩やかな段がみられるのに対し、以南では底面幅は広がり、壁面も直線的に立ち上がる。底面もわずかな段差を有し、Eベルト以南が低くなる。このEベルト付近で溝がわずかに屈曲している。また、南側の東西方向に走る部分においても、東半と西半では同様の断面形の差異が認められ、これらは掘削作業の単位と推測される。底面標高は9.56～9.87mで、南西の屈曲部がやや低い。堆積土はベルト毎に3～6層に細分され、褐色から暗褐色土を主体とする。いずれも下層は基本層IV層ブロックを多量混入している。

遺物は土師器3点、須恵器1点、石製品1点の計5点を掲載した(第176図)。いずれも堆積土中からの出土である。第176図-1は土師器高環の環部は内外面共に段を有し、丸底気味で、口縁部はやや内湾する。内面は黒色処理が施される。脚部は短い柱状中実から裾部がラッパ状に開く。2は土師器甕で、口縁部径に対し器高が低く、胴部最大径は下半にある。口縁部と胴部境界に段は無く、外反して開く。3は直線的に外傾する台付甕の台部である。4は須恵器長頸壺の体部で、肩部で屈曲し、丸底で底面付近に高台部が剥落した痕跡がみられる。内面はヘラナデが施される。5は方形の砥石で、石材は砂岩である。

本遺構は、その規模から区画施設と考えられるが出土遺物は全て堆積土中からの出土であることから時期は不明である。しかし、調査区内において他遺構との新旧関係では、古代～中世の遺構と考えられる井戸跡(SK148～150)より古く、古墳時代～古代の遺構のいずれよりも新しく、郡山II期に属するSI144より新しいことから、本遺構の時期は郡山II期以降、本書時期区分6期と考えられる。

Y=4845
X=197037

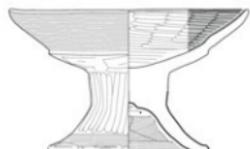
Y=4867
X=197037



第175図 SD82溝跡

SD82溝跡観察表

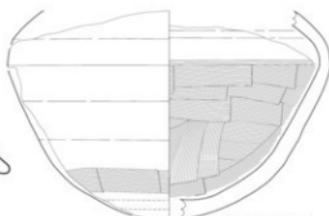
遺構名	調査区	方向	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	
			全長	上幅	下幅					深さ
SD82 南側 (A-D ~A-1)	東区	N-90°-W	DB44	179	36	76	1	10B3/6	黄褐色 砂質シルト	厚1~5mmの基本層IV層粒を少量、炭化物を微量に含む。
							2	10B3/4	褐色 砂質シルト	厚1~5mmの基本層IV層粒、厚5~20mmの基本層IV層ブロックを少量、炭土・炭化物を微量に含む。
							3	10B3/3	暗褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒を少量、炭土・炭化物を微量に含む。
							4	10B3/4	暗褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒・炭化物を微量、炭土を微量に含む。
							5	10B3/4	暗褐色 粘土質シルト	厚1~5mmのブロックを少量、厚1~20mmの基本層IV層ブロックを少量、炭土・炭化物を微量に含む。
							6	10B3/6	褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒を少量、炭土・炭化物を微量に含む。
							7	10B3/1	暗褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒を微量に含む。
							8	10B3/6	褐色 粘土質シルト	厚1~5mmの基本層IV層粒を少量、炭化物を微量に含む。
							9	10B3/6	褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒を少量、炭土・炭化物を微量に含む。
							10	10B3/6	黄褐色 粘土質シルト	厚1~5mmの基本層IV層粒を少量、炭化物を微量に含む。
SD82 北側 (E~H ~E-1)	東区	北側 N-2°-E 南側 N-12°-E	DB31	156	49	64	1	10B3/3	暗褐色 砂質シルト	厚1~5mmの基本層IV層粒を少量、炭土を微量に含む。
							2	10B3/3	同上(黄褐色)	厚1~5mmの基本層IV層粒を少量、炭土を微量に含む。
							3	10B3/4	褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒を少量、炭土を微量に含む。
							4	10B3/6	褐色 粘土質シルト	下部に炭の塊あり、ラメ化。厚1~10mmの基本層IV層粒を少量、炭土を微量、炭化物を微量に含む。
							5	10B3/6	明黄褐色 砂質シルト	下部に炭の塊あり、ラメ化。厚1~5mmの基本層IV層粒を少量、炭土を微量、炭化物を微量に含む。
							6	10B3/2	暗褐色 粘土質シルト	厚1~10mmの基本層IV層粒を少量、炭土を微量、炭化物を微量に含む。H-10Lにて炭化物ブロックを少量含む。
							7	2. 3B7/6	明黄褐色 粘土質シルト	厚1~20mmの暗褐色土を少量、炭化物を微量に含む。H-10Lにて炭化物ブロックを少量含む。



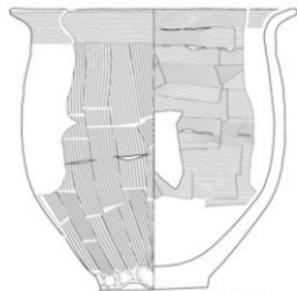
1(SD82堆積土)



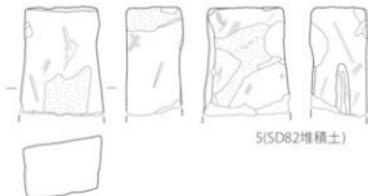
3(SD82堆積土)



4(SD82堆積土)



2(SD82堆積土)



5(SD82堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版	
								口径	直径	高さ					
1	C-178	東区南側	SD82	堆積土	土師器	高杯	口縁~脚	14.6	9.8	8.8	口縁:23°、杯~脚:4° 脚:23°	厚:5.0mm、脚:5.0mm 脚:2.0mm	杯内面黒色地埋	67-12	
2	C-177	東区南側	SD82	堆積土	土師器	甕	口縁~底	17.5	6.5	17.3	口縁:23°、 脚:5.0°	口縁:23°、脚:5.0°		67-14	
3	C-210	東区北側	SD82	堆積土	土師器	付付器	付	-	11.1	(3.9)	5.0°×5°	付:5.0°~脚:2.0°		67-13	
4	E-040	東区北側	SD82	堆積土	高脚器	鉢~甕	鉢~甕	-	12.7	-	10°調整	脚:1.0mm~5.0°	甕:調整	甕面高径同高	67-15
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	法量 (cm)		重量	石材	備考	写真図版		
5	Kd-002	東区南側	SD82	堆積土	石製品	磁石	磁石	径	厚	重				67-16	
								65.7	5.6	3.4	10.7g				

第176図 SD82溝跡出土遺物

SD83 溝跡(第177図)

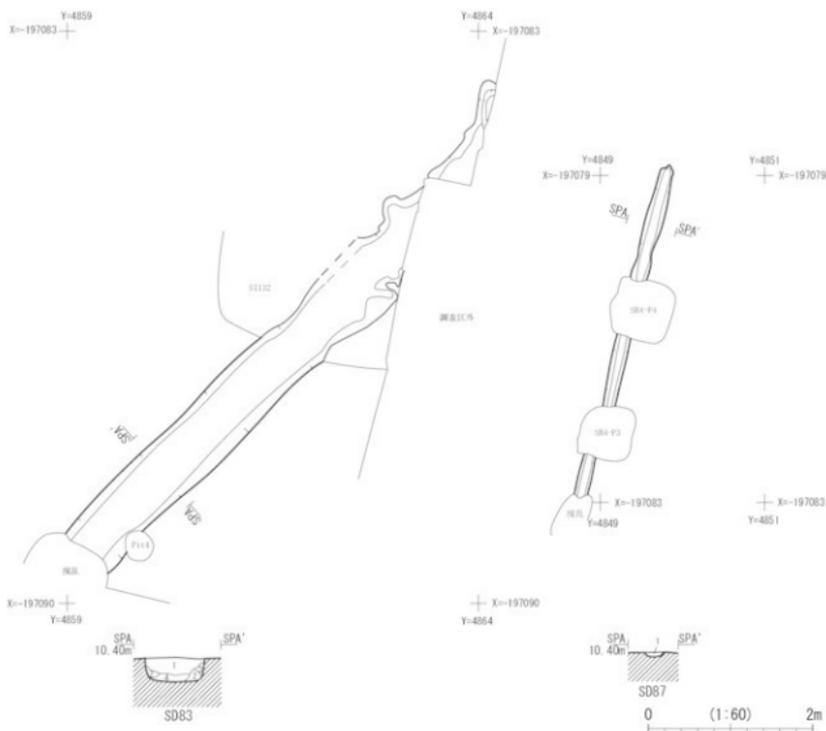
東区南側に位置する。SI 132、Pit 4・34・71・221と重複関係にあり、SI 132、Pit 4より古く、Pit 34・71・221より新しい。検出した規模は全長7.60m以上、上端幅74cm、下端幅53cm、深さ30cmを測る。N-60°-Eに延び、南側は攪乱により失われている。北側は調査区外に続く。断面形は「凹」字形を呈し、壁面はほぼ垂直、底面は平坦である。壁面を垂直に整形した際の工具痕が壁際底面に残る。堆積土は4層に分けられる。溝下部は基本層IV層ブロックを多量含む。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD87 溝跡(第177図)

東区南側に位置する。SB 4と重複関係にあり、SB 4より古い。検出した規模は全長4.20m以上、上端幅22cm、下端幅11cm、深さ6cmを測る。N-14°-Eに延び、南側は攪乱により失われている。断面形は「凹」字状を呈し、底面は平坦である。SB 4の柱穴の並びと重なっており、関連する遺構の可能性もある。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。



第177図 SD83-87溝跡

SD86 溝跡(第178・179図)

東区北側に位置する。SI148・149と重複関係にあり、いずれの遺構より古い。検出した規模は全長1.78m以上、上端幅68cm、下端幅45cm、深さ14cmを測る。N-52°-Wに延び、南側は攪乱に、北側はSI148により失われている。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD91 円形周溝(第178・179図)

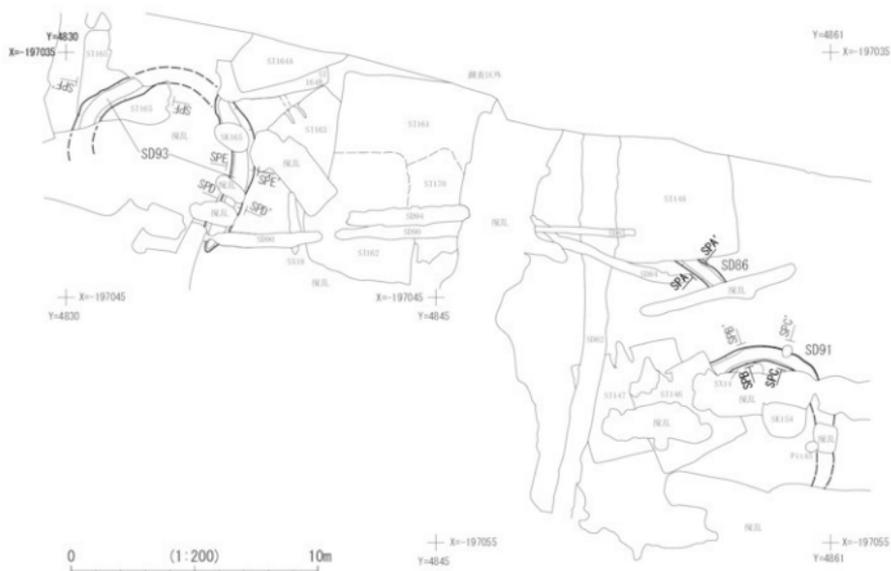
東区北側に位置する。SI146、SK154、SX14、Pit45と重複関係にあり、SI146、SK154、Pit45より古く、SX14より新しい。中央を東西方向に長い攪乱に削平される。また、南側に向かって攪乱による削平が深くなって

SD83溝跡観察表

遺構名	調査区	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD83	東区南側	N-40°-E	0760	74	53	30	1	107B2.3	暗褐色	粘土質シルト	1段~5segの基本層内層位を少量含む。
							2	107B3.4	褐色	粘土質シルト	1段~10segの基本層内層位を少量含む。
							3	107B3.4	紅褐色	粘土質シルト	1段~5segの107B3.3層位を少量含む。
							4	107B.4	明褐色	粘土質シルト	1段~5segの107B3.3層位を少量含む。

SD87溝跡観察表

遺構名	調査区	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD87	東区南側	N-14°-E	820	22	11	6	1	107B2.3	暗褐色	シルト	5段~10segの褐色土ブロックを少量、図示物を微量に含む。



第178図 東区・中区北側SD溝跡(古墳時代~古代)(1)

いるため、南半部は欠失している。やや東西方向に長い楕円形状に走る溝で、西側及び南側は他遺構や掘乱に削平される。検出した範囲の規模は外径6.82m、内径5.55m以上を測るが、南西側を掘乱に削平され、全体の規模は不明である。溝幅は47～70cmで、確認面からの深度は14cmを測る。底面はわずかに起伏する。溝内側に付属施設は認められない。堆積土は上下2層に分層された。上層の1層は黒褐色粘土質シルト層、下層の2層はぶい黄褐色土で、2層は炭化物を微量混入する。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD93 円形周溝(第178・179図)

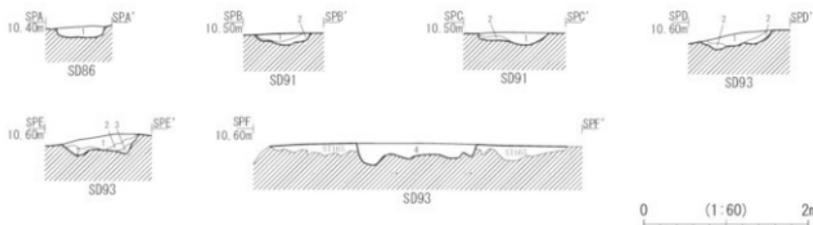
中区北側に位置する。SI164B・165、SD90、SK165と重複関係にあり、SI165より新しく、その他の遺構より古い。検出した規模は円形周溝は外径約7.50m、内径5.50mで、上端幅100cm、下端幅66cm、深さ26cmを測る。南北共掘乱により削平され、東西に分かれている。断面形は逆台形を呈し、底面は起伏が顕著で、溝の両端が深く、中央がやや高い。工具痕が底面両端に列をなしている。堆積土は4層に分けられ、2・3層は基本層IV層ブロックを多量含み、溝の両脇の深い部分に対応する。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD88 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SD98・99と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。検出した規模は全長7.44m以上、上端幅92cm、下端幅50cm、深さ19cmを測る。周辺の小溝状遺構群の可能性のある溝の中では比較的上端幅が広く、深さもやや深い。N-77°-Eに延び、途中でややクランク状に蛇行する。両端は掘乱により失われている。断面形は逆台形を呈し、底面はやや起伏する。北側約270cmに位置するSD97と並走する。堆積土に粒径の大きい炭化物が含まれる。

堆積土中から土師器破片や礫が少量出土しているが、図示遺物はない。



第179図 東区・中区北側SD溝跡(古墳時代～古代)(2)

東区・中区北側SD溝跡観察表

遺構名	調査区	方向	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	
			全長	上端幅	下端幅					深さ
SD96	東区北側	N-32°-W	(170)	68	45	1	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	10YR6/8黄褐色土基本層IV層・10YR3/3暗褐色土の混入。
SD91	東区北側	外径68cm 内径50cm	70	60	14	1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	
						2	10YR4/3	ぶい黄褐色	粘土質シルト	径1~3mmの炭化物を微量含む。
SD93	中区北側	外径70cm 内径50cm	100	66	26	1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	径1~3mmの炭化物を微量含む。
						2	10YR4/3	ぶい黄褐色	粘土質シルト	径2~3mmの10YR4/4褐色土ブロックを多量、10YR3/4暗褐色土を混入して少量含む。多量に10YR4/4褐色土を混入。
						3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	径1~3mmの10YR4/4褐色土ブロックを中量、10YR3/4暗褐色土を混入して少量含む。多量に10YR4/4褐色土を多く含む。
						4	10YR4/3	ぶい黄褐色	粘土質シルト	径50mmの基本層IV層ブロックを多量、径30mmの10YR4/3・7.5Y黄褐色粘土質シルトを中量含む。

SD89 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SI154と重複関係にあり、SI154より新しい。検出した規模は全長3.08m以上、上端幅64cm、下端幅38cm、深さ43cmを測る。N-51°-Wに延びる。断面形は「凹」字状を呈し、底面はやや起伏し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり、上方で開く。堆積土は3層に分けられ、下層ほど基本層IV層ブロックが多量混入し底面に自然堆積土がないことから長期間開口していないものとみられる。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD92 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SI156、SK151と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。検出した規模は全長4.05m以上、上端幅77cm、下端幅64cm、深さ12cmを測る。N-78°-Wに延び、北側はSK151により失われている。断面形は浅い皿状を呈し、底面はやや起伏する。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD95 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SI158・160、Pit210と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。検出した規模は全長3.00m以上、上端幅51cm、下端幅26cm、深さ19cmを測る。N-11°-Eに延び、やや蛇行する。北側はSI160により失われている。断面形は楕円状を呈し、底面は平坦である。東側約1.8～2.2mに位置するSD100と併走する。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD97 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SI159、SD98と重複関係にあり、SI159よりも古く、SD98より新しい。検出した規模は全長7.98m以上、上端幅52cm、下端幅28cm、深さ22cmを測る。N-78°-Wに延び、西側は擾乱により失われている。断面形は「凹」字状を呈し、底面は平坦である。南側約2.70mに位置するSD88と併走する。堆積土は上下2層に分けられ、2層は基本層IV層ブロックを含む。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

SD98 溝跡(第180図)

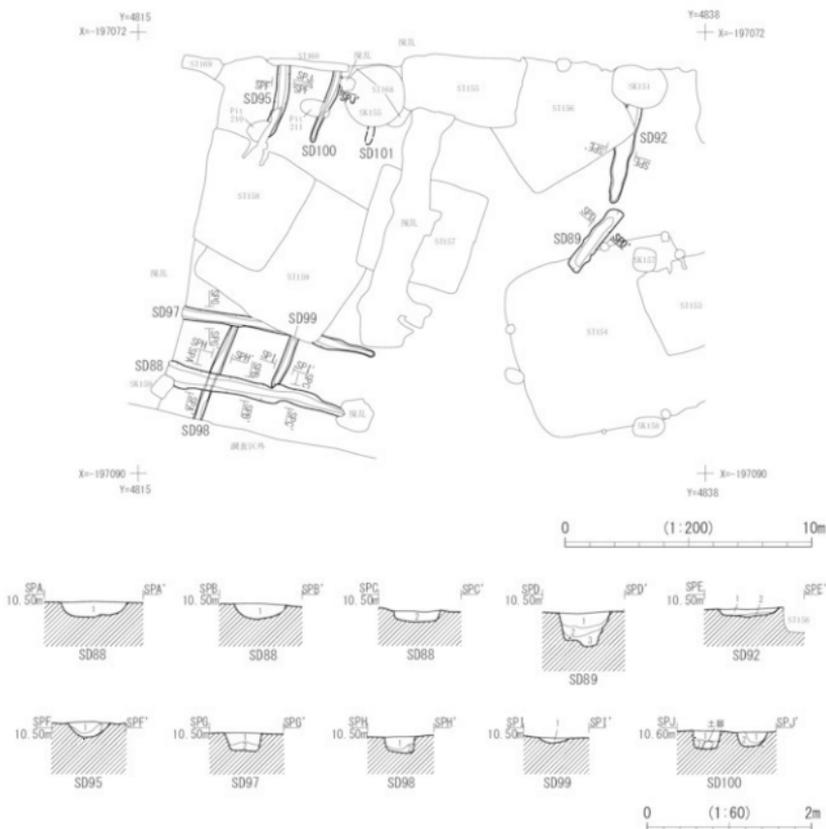
中区南側に位置する。SD88・97と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。検出した規模は全長4.10m以上、上端幅42cm、下端幅28cm、深さ20cmを測り、南側は調査区外に続く。N-22°-Eに延び、北側はSD97により失われている。断面形は「凹」字形を呈し、底面は平坦である。東側約2.5mに位置するSD99と併走する。堆積土は上下2層に分けられ、2層は基本層IV層ブロックを含む。出土遺物はない。

SD99 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SI159、SD88と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。検出した規模は全長2.24m以上、上端幅38cm、下端幅22cm、深さ7cmを測る。N-22°-Eに延び、北側はSI159により失われている。断面形は皿状を呈し、底面は平坦である。西側約2.5mに位置するSD98と併走する。出土遺物はない。

SD100 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。SI160・168、Pit211と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。検出した規模は全長



第180回 中区南側SD溝跡(古墳時代~古代)

中区南側SD溝跡観察表

遺構名	調査区	方向	規模(m)				層位	土色	土性	備考
			全長	上幅	下幅	深さ				
SD88	中区南側	N-77°-W	0741	92	50	19	1	10YR3/3	①:赤い黄褐色 砂質シルト	深1~10cmの基本層IV層粒を少量、凹状物を微量に含む。
							2	10YR3/4	暗褐色 砂質シルト	深1~10cmの基本層IV層粒+凹状物を少量含む。
SD89	中区南側	N-51°-W	0080	64	38	43	1	10YR3/4	褐色 粘土質シルト	深1~10cmの基本層IV層粒を少量、凹状物を微量に含む。
							2	10YR3/4	褐色 粘土質シルト	深1~10cmのIV層粒を黄褐色土と深1~10cmのIV層粒を黄褐色土の混土。
SD92	中区南側	N-78°-W	1405	77	64	13	1	10YR3/3	赤い黄褐色 粘土質シルト	深1~10cmのIV層粒を少量含む。
							2	10YR3/4	暗褐色 粘土質シルト	深1~10cmのIV層粒を少量、凹状物を少量含む。
SD95	中区南側	N-17°-E	0000	51	26	19	1	10YR3/4	褐色 砂質シルト	10YR3/3黄褐色土を少量、凹状物を微量に含む。
							2	10YR3/4	褐色 砂質シルト	10YR3/3黄褐色土と10YR3/4褐色土の混土。
SD97	中区南側	N-78°-W	0280	22	28	22	1	10YR3/4	褐色 砂質シルト	10YR3/3黄褐色土と10YR3/4褐色土の混土。
							2	10YR3/4	褐色 砂質シルト	10YR3/3黄褐色土と10YR3/4褐色土の混土。
SD98	中区南側	N-22°-E	1410	42	28	20	1	10YR3/4	褐色 砂質シルト	10YR3/3黄褐色土と10YR3/4褐色土の混土。
							2	10YR3/4	褐色 砂質シルト	深1~10cmの基本層IV層粒を少量含む。
SD99	中区南側	N-20°-E	0244	38	22	7	1	10YR3/3	赤い黄褐色 砂質シルト	10YR3/3黄褐色土と10YR3/4褐色土の混土。
							2	10YR3/4	褐色 砂質シルト	深1~10cmの基本層IV層粒を少量、凹状物を微量に含む。
SD100	中区南側	N-21°-E	0060	40	17	17	1	10YR3/3	赤い黄褐色 砂質シルト	深1~10cmの基本層IV層粒を少量、凹状物を微量に含む。
							2	10YR3/4	褐色 砂質シルト	深1~10cmのIV層粒を黄褐色土と少量含む。
SD101	中区南側	N-14°-E	070	077	-	-	-	-	未調査	

3.09m以上、上端幅40cm、下端幅17cm、深さ17cmを測る。N-21°-Eに延び、やや蛇行する。北側はSI160により失われている。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。西側180～220cmに位置するSD95、東側約2.2mに位置するSD101と併走する。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。

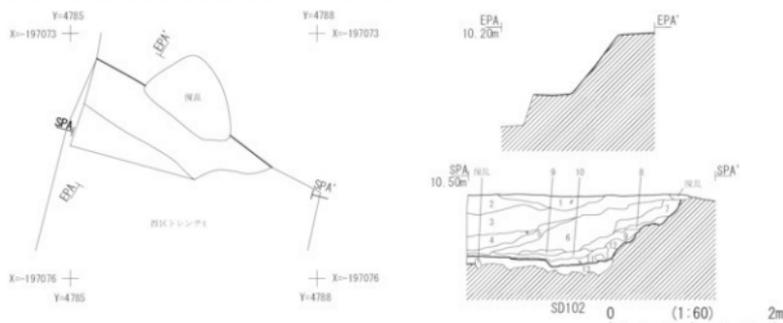
SD101 溝跡(第180図)

中区南側に位置する。検出時に範囲のみ確認したが、精査により欠失している。SK155と重複関係にあり、SK155より古い。検出した規模は全長0.75m以上、上端幅27cmを測る。N-14°-Eに延び、北側はSI155により失われている。西側約2.20mに位置するSD100と併走する。出土遺物はない。

SD102 溝跡(第181図)

西区南西のトレンチ1に位置する。検出した規模は全長2.50m以上、下端幅107cm以上、上端幅51cm以上、深さ99cmを測る。N-58°-Wに延びる溝で、北壁と底面の一部のみ確認した。南側は擾乱により失われている。断面形は逆台形と推定され、13層上面が平坦面をなし、機能時の底面とみられる。底部に工具痕が観察される。

堆積土中から土師器破片が少量出土しているが、図示遺物はない。



第181図 SD102溝跡

SD102溝跡縦断表

遺構名	調査区	方向	規模(cm)			層位	土色	土性	備考		
			全長	上端幅	下端幅					深さ	
SD102	西C	N-58°-W	0260	0673	013	99	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒・径5～10mmのIVR2/2に赤い黄褐色砂質シルトブロックを少量、径5～30mmの基本層IV層ブロックを少量含む。
							2	10YR4/4	褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒・径5～10mmの基本層IV層ブロックを少量含む。
							3	10YR2/4	暗褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒・径5～10mmの基本層IV層ブロック・径5～30mmのIVR2/2暗褐色シルトブロックを少量含む。
							4	10YR3/4	暗褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒・径5～10mmの基本層IV層ブロックを少量含む。
							5	10YR5/4	赤い黄褐色	シルト	径1～5mmのIVR2/2暗褐色シルトブロックを少量含む。
							6	10YR4/4	褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒を少量、径5～10mmの基本層IV層ブロック・径5～30mmのIVR2/2暗褐色シルトブロックを少量含む。
							7	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	径1～5mmの粘土粒を少量、径5～10mmの基本層IV層ブロックを少量含む。
							8	10YR7/4	赤い黄褐色	シルト	径0.1mmのIVR4/2黄褐色シルトを少量含む。
							9	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒を少量、径5～10mmの基本層IV層ブロックを少量含む。
							10	10YR6/4	赤い黄褐色	砂質シルト	径1～5mmの基本層IV層粒を少量、径5～10mmのIVR2/2暗褐色シルトブロックを少量含む。
							11	10YR4/3	赤い黄褐色	シルト	径1～5mmの基本層IV層粒・径5～30mmのIVR2/2暗褐色シルトブロックを少量、径5～10mmの基本層IV層ブロックを少量含む。
							12	10YR5/6	黄褐色	シルト	
							13	10YR5/8	黄褐色	砂質シルト	径5～30mmのIVR2/2黄褐色土ブロック・径5～30mmのIVR4/2赤い黄褐色土ブロックを少量、径5～30mmのIVR6/2灰黄褐色土ブロックを少量、複数含む。上部は平坦で、機能時の底面とみられる。

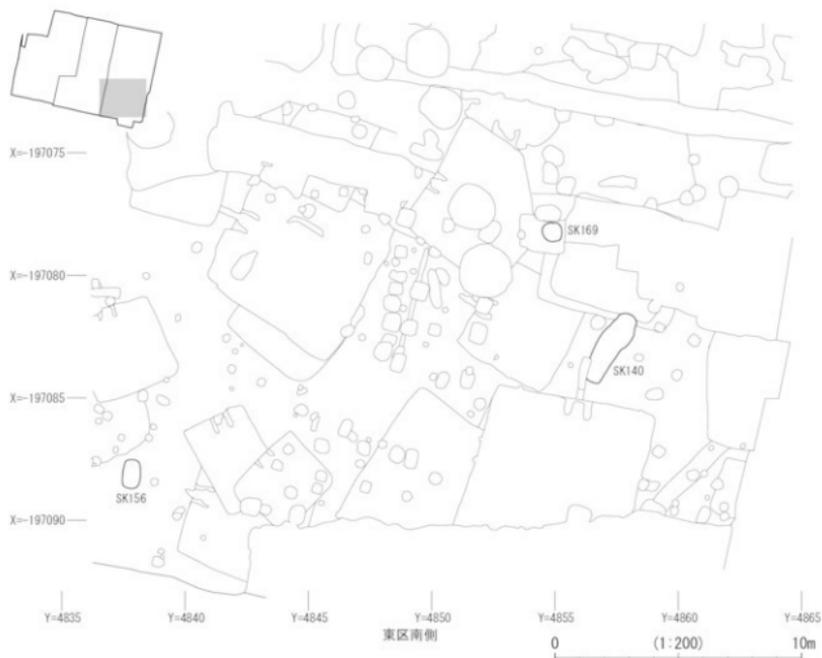
(4) 土坑(第182～192図)

古墳時代～古代の土坑は、東区南側で2基(SK140・169)、東区北側で5基(SK145～147、152・153)、中区南側で5基(SK156～160)、中区北側で3基(SK164・165・176)の計15基を確認した(第182～184図)。また、その他に古墳時代～古代の土坑として14基を調査しているが、これらは整理作業において図上で掘立柱建物跡の柱穴と判明した。掘立柱建物跡との対応関係は下記の表を参照されたい。中世以降の土坑は全て井戸であったが、古墳時代～古代の土坑に井戸はない。方形ないし不整形を呈する土坑が多く、一部は柱穴の可能性はある。

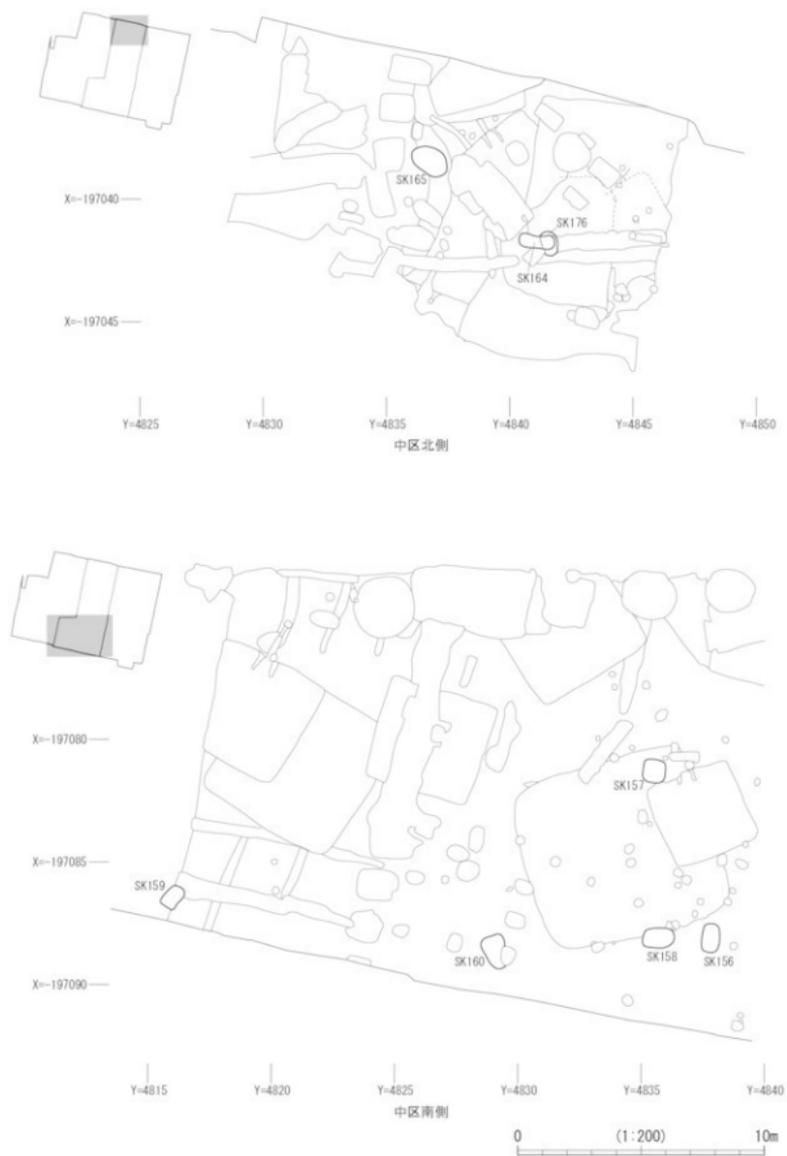
以下、古墳時代～古代の土坑について個別に報告する。

遺構番号変更土坑一覧表

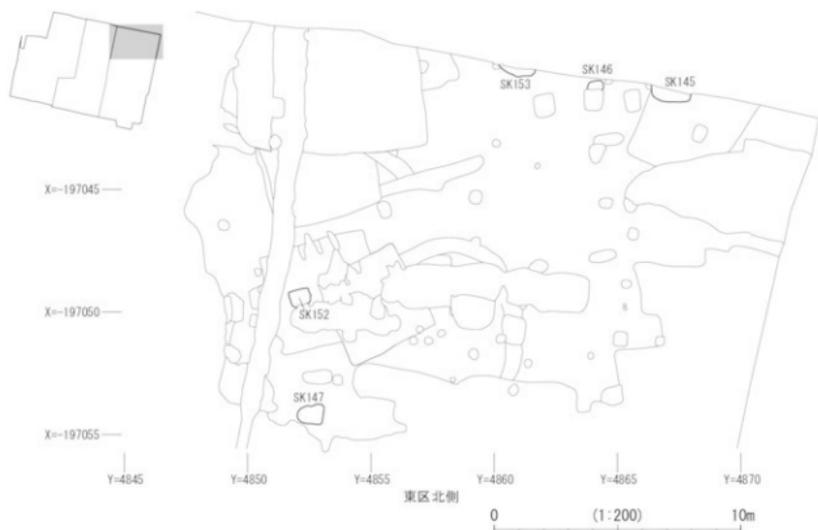
遺構名	変更後の遺構番号								
SK142	SK1-P3	SK363	SK3-P9	SK368	SK3-P3	SK172	SK3-P1	SK175	SK3-P2
SK143	SK1-P2	SK366	SK3-P1	SK170	SK3-P6	SK173	SK3-P2	SK177	SK3-P4
SK144	SK1-P1	SK367	SK3-P2	SK171	SK3-P7	SK174	SK3-P5		



第182図 東区南側SK土坑位置図(古墳時代～古代)



第183图 中区SK土坑位置图(古墳時代~古代)



第184図 東区北側SK土坑位置図(古墳時代～古代)

SK140 土坑(第185・186図)

東区南側に位置する。SI133・140と重複関係にあり、SI140より新しく、SI133より古い。検出した規模は長軸317cm、短軸109cm、深さ48cmを測る。平面形は長方形、断面形は箱形を呈し、底面は起伏し、壁面はゆるやかに開いて立ち上がる。堆積土は9層に分けられ、うち6層は竪穴住居跡の床面にみられる明黄褐色粘土質シルトブロックを主体とし、上下の層とは土色が全く異なる。6層上面を使用面としていた可能性がある。

堆積土から出土した金属製品1点を掲載した(第186図)。第186図-1は断面方形の棒状の不明鉄製品で、一方は薄く加工され、もう一方は欠損しており、鉄製の可能性がある。その他、堆積土中から土師器が出土している。

SK145 土坑(第185図)

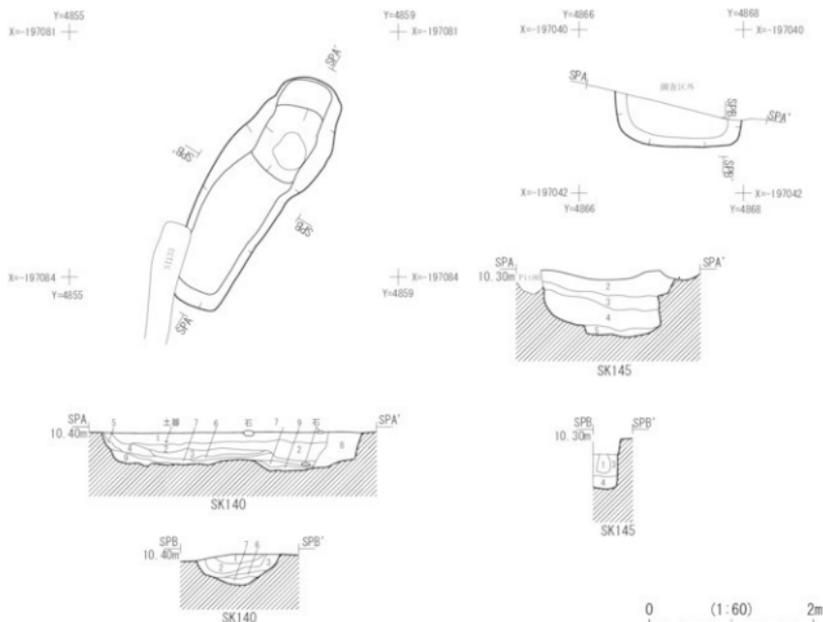
東区北側に位置する。SI150、Pit237と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。北側は調査区外に続く。検出した規模は長軸152cm、短軸56cm以上、深さ53cmを測る。平面形は方形と推定され、断面形は箱形を呈し、底面はほぼ平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は5層にわけられる。1層は柱痕跡とみられ、調査区北側に展開する掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。

SK146 土坑(第187図)

東区北側に位置する。SB1と重複関係にあり、SB1より古い。検出した規模は長軸65cm、短軸44cm以上、深さ53cmを測る。平面形は円形、断面形は箱形を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は柱痕状に窪む。堆積土は3層に分層され、底面に粘土化範囲が確認された。調査区北側に展開する掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

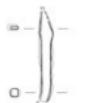
堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。



第185図 SK140・145土坑

SK140・145土坑観察表

遺構名	調査区	平面形	規模 (cm)	層位	土色	土性	備考	重複		
									長軸×短軸	深さ
SK140	東区南側	長方形	117×109	48	1	10YR3/4	褐色	砂質シルト	層1～5mmの基本層数層粘・堆土・団化物を微量に含む。	SK140内別く、SK133参照。
					2	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	層1～10mmの基本層数層粘・団化物を少量含む。一部アライ化。	
					3	10YR3/1	暗褐色	粘土質シルト	層1～10mmの基本層数層粘を少量含む。	
					4	10YR4/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	層1～5mmの基本層数層粘・堆土を微量。団化物を少量含む。	
					5	10YR4/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	団化物を微量に含む。	
					6	10YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	層1～5mmの10YR3/2暗褐色土を少量含む。	
					7	10YR3/1	暗褐色	粘土質シルト	層5～30mmの基本層数層アライ化を少量。団化物を微量に含む。	
					8	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	層1～5mmの基本層数層粘・団化物を微量に含む。	
					9	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	層1～10mmの10YR3/2暗褐色土を少量含む。	
SK145	東区北側	方形か	152×106	53	1	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	存在。層1～5mmの基本層数層粘を少量。団化物を微量に含む。	SK130、P12SK140別く参照。
					2	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	層1～50mmの10YR6/6明黄褐色土・層1～50mmの10YR3/2暗褐色土の混上。	
					3	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	層1～50mmの10YR3/2暗褐色土を少量含む。	
					4	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	層1～30mmの10YR6/6明黄褐色土・層1～50mmの10YR3/2暗褐色土の混上。	
					5	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	層1～5mmの基本層数層粘を少量含む。	



1(堆積土)



図版番号	撮影者	調査区	出土地	層位	種類	面積	法尺 (mm)				特徴・備考	写真ID
							全長	幅	厚	重		
1	N.007	東区南側	SK140	埋積土	金属製品	不明	15.0	0.9	0.5	4.6	埋積土のわずかに折れ曲がる。鉄製の。	08-11

第186図 SK140土坑出土遺物

SK147 土坑(第187図)

東区北側に位置する。他遺構との重複関係はない。本遺構は東区北側下層調査の断面にて検出したため、東端は欠失している。規模は長軸105cm以上、短軸83cm、深さ25cm以上を測る。平面形はやや瓢箪形に中央が括れる不整形円形で断面形は皿状を呈し、底面は平坦で、壁は開いて緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられるが、層の境界がほぼ垂直に立ち上がる。堆積土や平面形状から本来2基のピットであった可能性がある。

堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。

SK152 土坑(第188図)

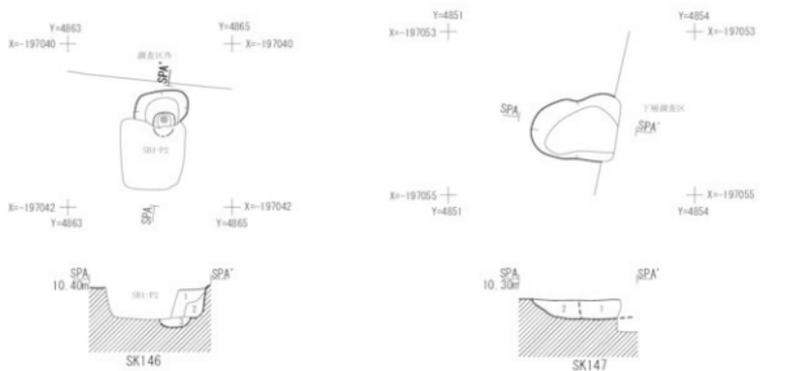
東区北側に位置する。SI147と重複関係にあり、SI147より新しい。検出した規模は長軸105cm、短軸83cm以上、深さ74cmを測る。平面形は方形、断面形は箱形を呈し、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は4層に分けられ、1層は柱痕跡とみられる。

堆積土中から土師器が出土しているが図示遺物はない。

SK153 土坑(第188図)

東区北側に位置する。Pit81と重複関係にあり、Pit81より新しい。北側は調査区外に続く。検出した規模は長軸150cm、短軸35cm以上、深さ64cmを測る。断面形は揺鉢状を呈し、底面は湾曲し、壁面は開いて立ち上がる。堆積土は3層にわけられ、下層の3層は基本層IV層の小ブロックを多量含む。

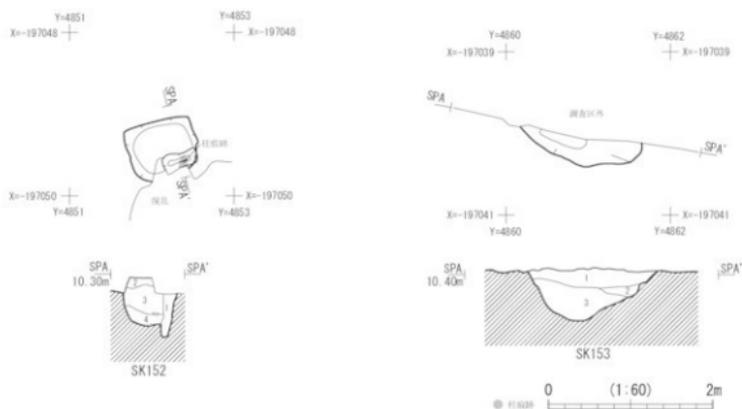
堆積土中から礫が出土しているが、図示遺物はない。



第187図 SK146・147土坑

SK146・147土坑観察表

遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺物		
			長軸×短軸	深さ							
SK146	東区北側	円形	65×140	46	1	10YR5/4	粘土質シルト	溝1～30cmの10YR7.5暗黄褐色土と溝1～30cmの10YR4.2灰黄褐色土の混在。	SI1-P229.035、		
					2	上部2cm	黄色			粘土質シルト	溝1～10cmの10YR4.2灰黄褐色土を少量含む。
					3	10YR4/2	灰黄褐色			粘土質シルト	溝1～10cmの基本層IV層土を多量に含む。
SK147	東区北側	不整形円形	105×83	25	1	10YR3/3	粘褐色	粘土質シルト	溝1～30cmの基本層IV層土ブロックを多量に含む。		



第188図 SK152・153土坑

SK152・153土坑観察表

遺構名	調査区	平面形	規模 長×幅 深	層位	土色		土性	備考	遺物	
					上	下				
SK152	東区北側	方形	85×20	24	1	10YR2/2	灰褐色	粘土質シルト	竹筒類、径1～10mmの基本層IV層ブロックを少量含む。 径1～30mmの基本層IV層ブロックを少量、炭化物を少量含む。 径1～30mmの10YR2/4明黄褐色土と径1～50mmの10YR4/2灰黄褐色土の混生。径1～30mmの基本層IV層ブロックを少量含む。 径10～30mmの基本層IV層ブロックを少量、径1～5mmの10YR4/2灰黄褐色土を少量含む。	SI142.9取し。
					2	10YR4/1	褐色	粘土質シルト		
					3	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト		
					4	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト		
SK153	東区北側	楕円形	130×220	64	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	径1～30mmの基本層IV層ブロックを少量、炭化物を少量含む。 径1～10mmの基本層IV層ブロックを少量、径10～30mmの基本層IV層ブロックを少量、径1～10mmの10YR4/1褐色土を少量含む。 径1～10mmの基本層IV層ブロックを少量、径10～30mmの基本層IV層ブロックを少量、径1～10mmの10YR4/1褐色土と径1～10mmの2.5Y6/2灰黄褐色土を少量含む。	P018.2取し。
					2	10YR4/3	灰黄褐色	粘土質シルト		
					3	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト		

SK156 土坑(第189図)

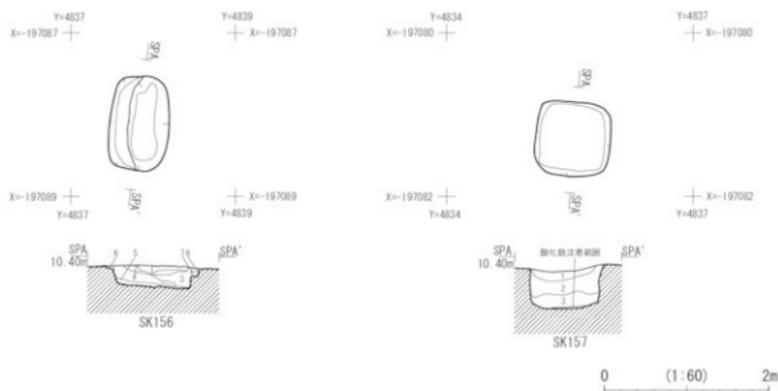
中区南側に位置する。他遺構との重複関係はない。検出した規模は長軸115cm、短軸72cm、深さ88cmを測る。平面は隅丸方形、断面形は「凹」字状を呈し、壁面はほぼ垂直に立ち上がり上端西半は外側に開き、テラス状を呈する。底面は平坦である。堆積土は7層に分層された。1～4層は灰色がかった褐色で粘性が少ない砂質土で、炭化物を含む。5層は底面付近に堆積する基本層IV層ブロック主体の層で5層上面はほぼ平坦である。6・7層は上端外周に分布する層で、6・7層の内側でほぼ垂直に立ち上がる。5～7層は掘り方の可能性がある。遺構平面形や堆積土はSK158に類似する。

堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。

SK157 土坑(第189図)

中区南側に位置する。SI153・154と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。検出した規模は長軸91cm、短軸91cm、深さ54cmを測る。平面形は方形で断面形は箱形を呈し、底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は上下3層に分層された。遺構底面の3層下面には酸化鉄と灰白色砂質シルトが認められる。

堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。



第189図 SK156-157土坑

SK156-157土坑観察表

遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複	
			長軸・短軸	深さ						
SK156	中区南側	隅丸方形	115×72	38	1	10YR7/3	に少し黄褐色	砂質シロト	深1~30cmの10YR5/2黄褐色砂質土を少量、微上・炭化物を極微量に含む。	
					2	10YR4/4	褐色	砂質土	10YR7/3に少し黄褐色砂質シロトを少量、微上ブロック・炭化物ブロックを少量含む。	
					3	10YR4/4	褐色	砂質土	深10~30cmの10YR7/3に少し黄褐色砂質シロトを少量、炭化物を微量に含む。	
					4	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	10YR6/4に少し黄褐色砂質土を少量、炭化物・融化物を微量に含む。	
					5	10YR6/6	明黄褐色	砂質シロト	10YR4/4褐色砂質土・融化物を少量含む。土塊上はブロック状。	
					6	10YR6/6	黄褐色	砂質土	融化物を少量含む。	
					7	10YR5/4	に少し黄褐色	砂質土	炭化物を微量に含む。	
SK157	中区南側	方形	91×91	34	1	10YR5/1	褐灰色	砂質土	深1~30cmの10YR6/6明黄褐色砂を少量、微上を極微量、炭化物を微量に含む。底部に10YR7/3灰白色砂を薄層互層的に含む。	SD53・SD419のA、Bを含む。
					2	10YR3/1	黒褐色	砂質土	深1~30cmの10YR6/6明黄褐色砂を少量、微上を少量、炭化物を少量含む。	
					3	10YR4/4	褐色	砂質土	10YR2/4暗褐色砂質土を少量に含む。下部に10YR2/10C白色砂質シロトを融化物を互層的に含む。	

SK158 土坑(第190図)

中区南側に位置する。SI154、Pit193と重複関係にあり、いずれの遺構より新しい。検出した規模は長軸123cm、短軸82cm、深さ34cmを測る。平面形は隅丸方形、底面は起伏顕著で壁面は緩やかに開く。堆積土は6層に分層された。1層は灰色がかかった褐灰色の堆積土で、炭化物粒を含み、遺構検出面の外周部では灰白色砂を含み明る。5・6層は起伏の深い部分に堆積し、基本層IV層ブロックを含む。遺構平面形や堆積土の色調はSK156に類似する。出土遺物はない。

SK159 土坑(第190図)

中区南側に位置する。SD88と重複関係にあり、SD88より新しい。西半を擾乱に削平される。検出した規模は長軸104cm以上、短軸66cm以上、深さ34cmを測る。平面形は方形で、断面形は箱形を呈し、底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は上下2層に分けられ、1層は炭化物を含み、2層は基本層IV層の小ブロックを混入する。出土遺物はない。

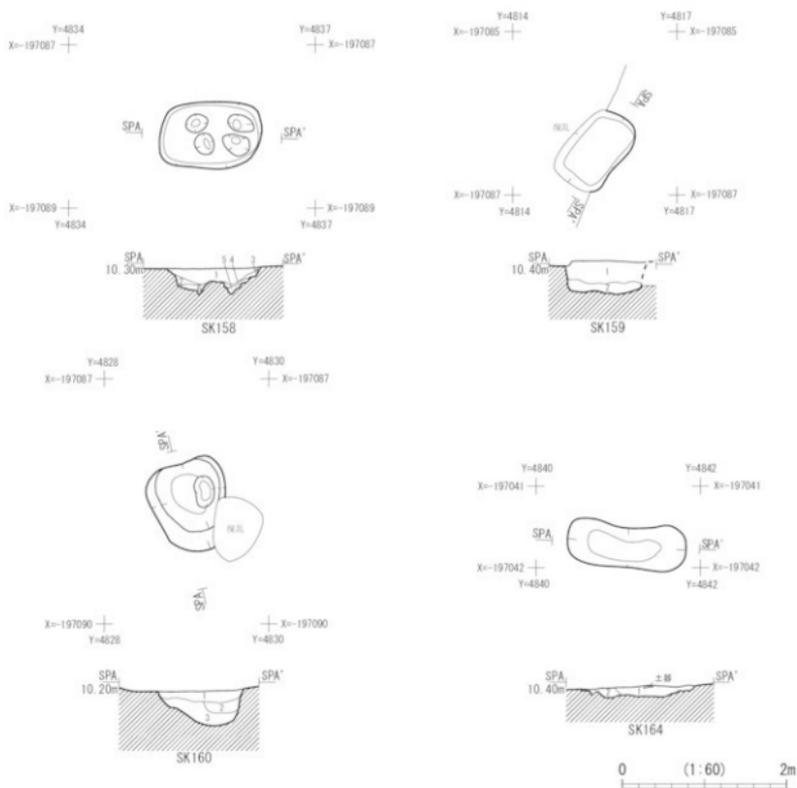
SK160 土坑(第190図)

中区南側に位置する。他遺構との新旧関係はないが、南東を攪乱に削平される。検出した規模は長軸112cm、短軸97cm、深さ45cmを測る。平面形は不整楕円形、断面形は開いた挿鉢状を呈し、底面に柱穴状の窪みを有する。堆積土は3層に分層され、焼土・炭化物を微量含む。出土遺物はない。

SK164 土坑(第190図)

中区北側に位置する。SI161・162、SB3、SD96、SK176と重複関係にあり、SI161・162、SB3、SD96より古く、SK176より新しい。検出した規模は長軸145cm、短軸157cm、深さ15cmを測る。平面形は不整長方形を呈し、底面は起伏顕著である。堆積土は2層に分けられ、炭化物を微量含む。

堆積土中から土師器、礫が出土しているが、図示遺物はない。



第190図 SK158~160・164土坑

SK158-159-160-164土坑観察表

遺構名	調査区	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	重複	
			長軸×短軸	深さ						
SK158	中区南側	隅丸方形	123×92	34	1	10YR5/1	褐色色	砂質土	特に西側に10YR7/1灰白色砂をレンズ状に含む。炭化物・細化砂を少量含む。	SI54、PS19339別、 い、
					2	10YR2/4	暗褐色色	砂質土	10YR2/4に多い黄褐色砂質シルトを少量、炭化物を微量、細化砂を少量含む。	
					3	10YR6/6	明黄褐色色	砂質土	細化砂・ベンガラを中量含む。	
					4	10YR4/6	褐色色	砂質土	10YR2/4暗褐色砂質土を中量、焼土を微量、炭化物を少量含む。	
					5	10YR2/4	暗褐色色	砂質土	10YR2/4に多い黄褐色砂質シルトを少量、炭化物を微量に含む。	
					6	10YR2/4	暗褐色色	砂質シルト	10YR2/4暗褐色砂質土・細化砂を少量、ベンガラを微量に含む。	
SK159	中区南側	長方形	104×66	41	1	10YR2/2	暗褐色色	粘土質シルト	深1～30cmの基本層断面ブロックを多量、炭化物を微量に含む。	SD98.29別、 い、
					2	10YR4/4	褐色色	粘土質シルト	深1～30cmの10YR2/4黄褐色土(厚1～30cm)の10YR2/2暗褐色土の層上。	
SK160	中区南側	不整形円形	112×92	45	1	10YR4/2	にぶい黄褐色色	砂質シルト	深1～10cmの基本層断面ブロックを多量、焼土・炭化物を微量に含む。	
					2	10YR4/2	灰黄褐色色	砂質シルト	深1～10cmの基本層断面ブロックを多量、焼土・炭化物を微量に含む。	
					3	10YR4/2	にぶい黄褐色色	砂質シルト	深1～30cmの基本層断面ブロックを多量、焼土・炭化物を微量に含む。	
SK164	中区北側	不整形長方形	145×32	15	1	10YR2/2	暗褐色色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物を微量に含む。	SI161-162、SI59-PS、 SD96.69別、SK179 29別、い、
					2	10YR2/4	暗褐色色	粘土質シルト	焼土粒を中量含む。	

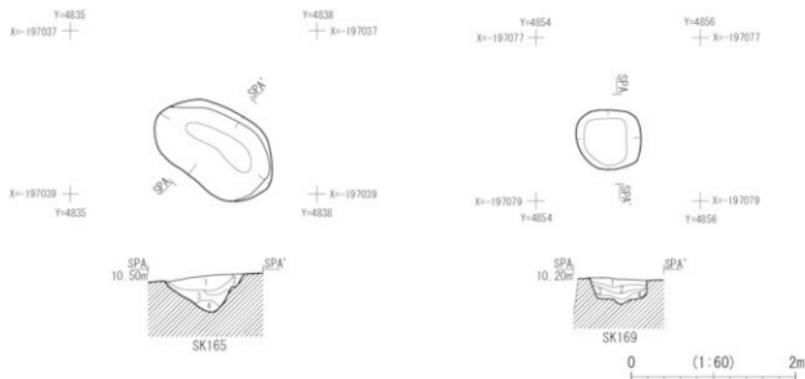
SK165 土坑(第191図)

中区北側に位置する。SD93と重複関係にあり、SD93より新しい。検出した規模は長軸160cm、短軸100cm、深さ47cmを測る。平面形は不整形円形を呈する。底面は狭く、直線的に開き、上方で緩く屈曲し立ち上がる。堆積土は4層に分層された。1層はにぶい黄褐色粘土粒を中量含んでいる。

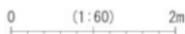
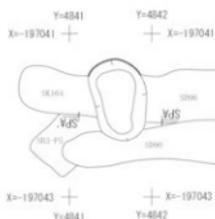
堆積土中から土師器、礫が出土しているが、図示遺物はない。

SK169 土坑(第191図)

東区南側に位置する。SI140と重複する位置にあるが、上部を擾乱し削平され新旧関係は不明である。検出した規模は長軸79cm、短軸73cm、深さ32cmを測る。平面形は不整形、断面形は箱形を呈し、底面は平坦でやや中央が窪み、壁面はやや開いて立ち上がる。堆積土は4層に分けられ、暗褐色土粘土質シルトを主体とする層と、基本層IV層ブロックを主体とする層が互層をなしている。出土遺物はない。



第191図 SK165-169土坑



第192図 SK176土坑

SK165-169-176土坑観察表

遺構名	調査区	平面形状	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複	
			長軸×短軸	深さ						
SK165	中区北側	不整形円形	160×130	47	1	10Y3/4.4	褐色	粘土質シルト	深30mmの10Y3/6.2に2.5～5.0%黄褐色粘土を中量含む。	SI93.29取Li、
					2	10Y3/4.4	褐色	粘土質シルト	深30mmの10Y3/5.2に2.5～5.0%黄褐色粘土を中量含む。	
					3	10Y3/4.3	にじみ～黄褐色	粘土質シルト	深30mmの10Y3/5.2に2.5～5.0%黄褐色粘土を中量含む。	
					4	10Y3/6.3	にじみ～黄褐色	粘土質シルト	深30mmの10Y3/4.4褐色土を少量含む。	
SK169	東区南側	不整形方形	79×73	32	1	10Y3/3.3	暗褐色	粘土質シルト	深1～10mmの基本層IV層粘土を少量含む。	SI40.29取Li、
					2	10Y3/2.4	明黄褐色	粘土質シルト	深1～30mmの10Y3.3暗褐色土を少量、ソーン 粘土を微量に含む。	
					3	10Y3/3.3	暗褐色	粘土質シルト	深1～10mmの基本層IV層粘土を少量含む。	
4	10Y3/2.6	明黄褐色	粘土質シルト	深1～10mmの10Y3.3暗褐色土+ソーン 粘土を微量に含む。						
SK176	中区北側	楕円形	101×66	11	1	10Y3/4.6	褐色	砂質シルト	10Y3/2.1灰白色粗砂を微量、10Y3/6.9明黄褐色砂質シルト(粘土土)を多量、酸化鉄を微量に含む。	SI162、SI33-P5、SK164、SD90-94+96.25取Li、

SK176 土坑(第192図)

中区北側に位置する。SI162、SB3、SD90・94・96、SK164と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。検出した規模は長軸101cm、短軸66cm以上、深さ11cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状である。堆積土は褐色砂質シルトに明黄褐色の基本層IV層ブロックを多量含む単層である。出土遺物はない。

(5) 性格不明遺構(第193～203図)

古墳時代～古代の性格不明遺構は、東区南側で4基(SX1・15・16・19)、東区中央で3基(SX3・4・12)、東区北側で10基(SX2・5～11・13・14)、中区北側で1基(SX9)の計18基を確認した(第193・194図)。これらのうち、SX1は竪穴状の遺構、SX16はSI136の埋没過程時の窪みに遺物が廃棄されたものである。東区北側西端ではSXが6基重複している。

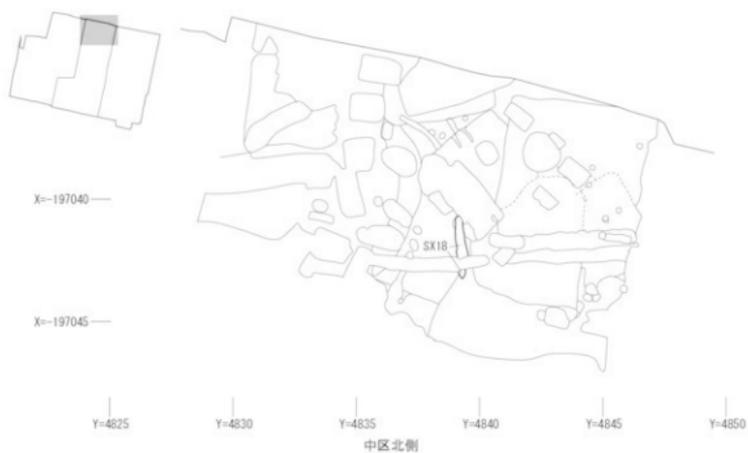
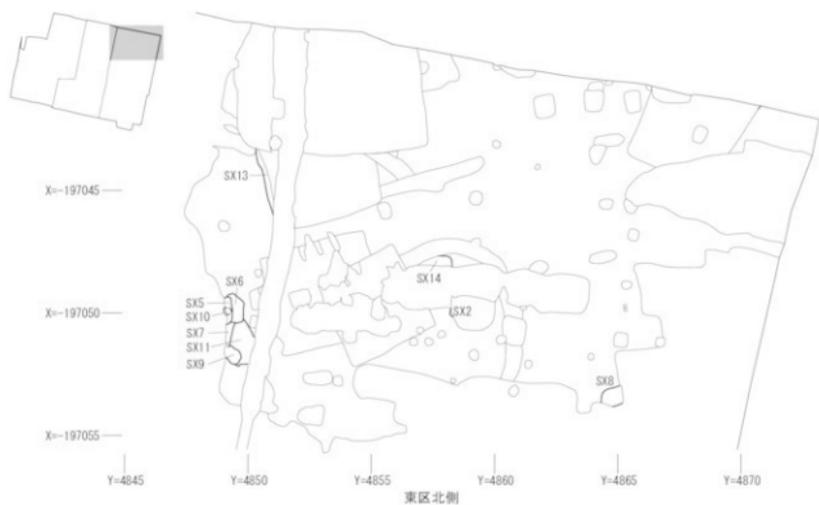
以下、古墳時代～古代の性格不明遺構について個別に報告する。



第193図 東区南側・中央部SX性格不明遺構位置図

SX1 性格不明遺構(第195図)

東区南側に位置する。Pit 1・2・74と重複関係にあり、これらより古い。東側は調査区外に続く。全体形は不明であるが、概ね方形の竪穴状遺構で、上面は削平により失われている。検出した規模は、南北238cm、東西96cm以上、深さ33cmを測る。平面形状は方形と推定される。床面は平坦で水平である。壁はやや外傾しながら立ち上がる。遺構の方向は西壁基準でN-18°-Eである。堆積土は5層に分層された。1層は暗褐色粘土質シルトを主体とし、焼土を極微量含む。2層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、焼土・炭化物が混入する。3層は黄褐色粘土質シルトを主体とする。4・5層は掘り方で、灰黄褐色ないし褐色粘土質シルトを主体とする。4層は貼床で、5層には



0 (1:200) 10m

第194図 東区北側・中区北側SX性格不明遺構位置図

黒褐色土ブロックと黄褐色土ブロックが斑状に混入する。断面の観察から、調査区外の遺構北壁にカマドが付設されている可能性があり、3層はカマド袖構築土の可能性もある。

掘り方から土器器裏の破片が出土しているが、図示遺物は無い。

SX2 性格不明遺構(第195図)

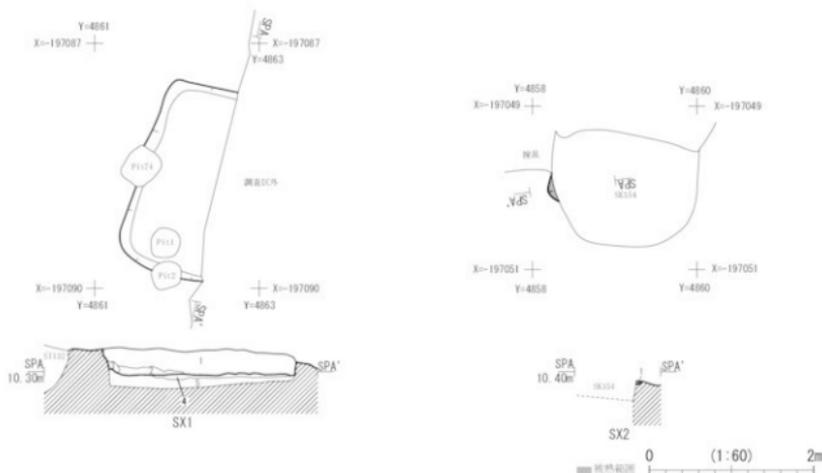
東区北側に位置する。SK154と重複関係にあり、これより古い。SK154により大半が削平される。検出した規模は、長軸46cm以上、短軸9cm以上、深さ4cmを測る。平面形状、断面形はいずれも不明である。堆積土は焼土と炭化物を含む灰黄褐色粘土質シルトの単層で、上部が被熱している。竪穴住居のカマド、あるいは炉の掘り方の可能性がある。本遺構を削平するSK154の西壁際にも本遺構由来とみられる被熱した基本層IV層ブロックが含まれている。出土遺物はない。

SX3 性格不明遺構(第196図)

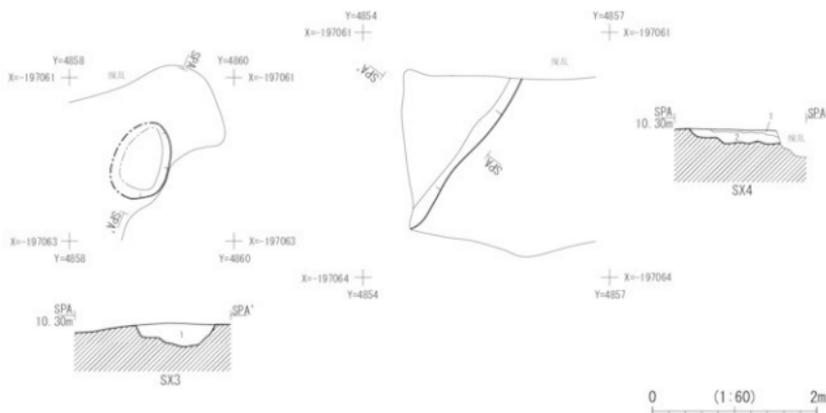
東区中央部に位置する。他遺構との重複関係は無い。平面楕円形を呈する土坑状の掘り込みで、堆積土は基本層IV層ブロックを多量混入する。検出した規模は、長軸95cm、短軸は推定66cm、深さ29cmを測る。断面形状は「U」字形を呈する。底面はやや起伏する。堆積土にふい黄褐色粘土質シルトを主体とし、明黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックを斑状に含む単層である。堆積土中から須恵器の鉢破片が出土しているが、図示していない。

SX4 性格不明遺構(第196図)

東区中央部に位置する。東側立ち上がり部を除く三方が攪乱により欠失するため、平面形状は不明であるが、東片は直線的である。検出した規模は、長軸230cm以上、短軸126cm以上、深さ16cmを測る。断面形は皿状と推定される。底面はやや起伏するが、全体的には平坦である。堆積土は2層に分層された。1層目は炭化物の混入が目立つ。2層は基本層IV層粒がブロック状に混入する人為堆積層である。出土遺物はない。



第195図 SX1・2性格不明遺構



第196図 SX3・4性格不明遺構

SX1～4性格不明遺構観覧表

遺構名	調査区	平面形状	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	参照	
			長軸	短軸						
SX1	東区北側	方形	238 × 90	33	1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	径1～10mmの基本層IV層土粒を微量、粒上を微量に含む。	Fig.1-274,275,276
					2	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	粒上・灰化物を少量含む。	
					3	2.5Y7.4	黄褐色	粘土質シルト	2.5Y6.6明黄褐色土上10YR3/3暗褐色土の層上。	
					4	10YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	粒9mm、径1～10mmの基本層IV層土粒を少量含む。	
					5	10YR3/4	褐色	粘土質シルト	粒9mm、径1～30mmのIV層土粒・粒上を中量、灰化物を微量に含む。	
SX2	東区北側	不明	540 × 91	4	10YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	2.5Y6.6明黄褐色土上10YR3/2暗褐色土上径1～30mmの2.5Y7.4黄褐色土の層上。	SX154,275占5%	
SX3	東区北側	楕円形	93 × 223	29	1	10YR3/3	にぶ・黄褐色	粘土質シルト	径1～30mmのIV層土粒・粒上を中量、灰化物を微量に含む。	SX154,275占5%
SX4	東区北側	不明	220 × 120	16	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	径1～10mmの基本層IV層土粒・灰化物を少量、粒上を微量に含む。	Fig.1-274,275,276
					2	10YR3/2	暗褐色	砂質シルト	人為堆積、径1～10mmの基本層IV層土粒を中量、灰化物を微量に含む。	

SX5 性格不明遺構 (第197図)

東区北側に位置する。SX6・7・10と重複関係にあり、これらより新しい。西側は攪乱に削平される。検出した規模は、長軸113cm、短軸28cm以上、深さ37cmを測る。平面形状は隅丸方形と推定される。断面形は「U」字形を呈し、南半にテラス状の段を持ち、北側に窪む。堆積土は5層に分層された。南側の3層は灰色がかり、粘性が弱く、南半は別遺構の可能性ある。本遺構及びSX6を掘削中、須恵器表が出土しているが、どちらに伴う遺物かは不明である。

SX6 性格不明遺構 (第197図)

東区北側に位置する。SX5・7・10・11と重複関係にあり、SX7・10・11より新しく、SX5より古い。西側はSX5と攪乱により失われている。検出した規模は、長軸123cm、短軸70cm以上、深さ44cmを測る。平面形状は不整形を呈す。断面形は逆台形で、北側にテラス状の段を持つ。底面は平坦である。堆積土は4層に分層された。1・3層は黄褐色ないし褐色粘土質シルトを主体とし、明黄褐色土ブロックと灰黄褐色ないし黒褐色土ブロックが斑状に混入する。2・4層は黒褐色粘土質シルトを主体とする。本遺構及びSX5を掘削中、須恵器表が出土しているが、どちらに伴う遺物かは不明である。

SX7 性格不明遺構(第197図)

東区北側に位置する。SX5・6・9～11と重複し、SX9～11より新しくSX5・6より古い。北側はSX5・6により、西側は攪乱に削平されている。検出した規模は、長軸138cm以上、短軸45cm以上、深さ40cmを測る。平面形状は不明であるが、東側立ち上がりは直線的である。断面形は不整形で、底面は起伏する。堆積土は4層に分層された。1層は黒褐色粘土質シルト、2層は灰黄褐色粘土質シルト、3層は褐灰色粘土質シルトを主体とする。4層は黒褐色粘土質シルトを主体とし、明黄褐色土ブロックと褐灰色土ブロックが斑状に混入する。堆積土中から土師器環が出土しているが、小片のため図示していない。

SX8 性格不明遺構(第197図)

東区中央部に位置する。南側の一部と東側は、攪乱により失われている。検出した規模は、長軸91cm以上、短軸75cm、深さ11cmを測る。平面形状は不明で、断面形は皿状を呈する。底面は平坦である。堆積土は、単層で、灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックを多量に含む。図示遺物はない。

SX9 性格不明遺構(第197図)

東区北側に位置する。SX7・11と重複関係にあり、SX11より新しくSX7より古い。西側の一部はSX7と攪乱により失われている。ビット状の掘り込みである。検出した規模は、長軸89cm以上、短軸59cm、深さ52cmを測る。平面形状は楕円形を呈する。断面形は筒形を呈し、底面は平坦である。堆積土は3層に分層された。褐灰色ないし黒褐色粘土質シルトを主体とし、それぞれ基本層IV層ブロックを含む。1・2層は炭化物を微量に含む。図示遺物はない。

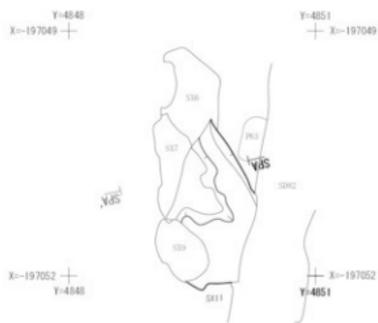
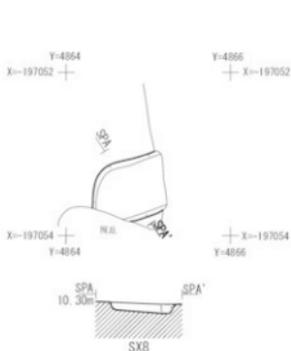
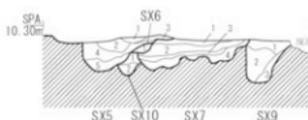
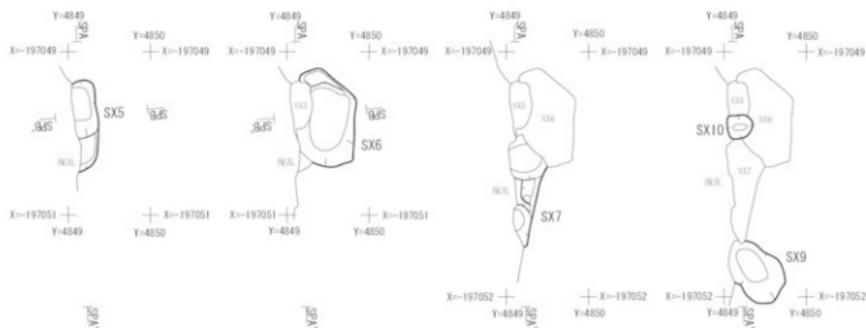
SX10 性格不明遺構(第197図)

東区北側に位置する。SX5～7と重複関係にあり、これより古い。遺構上部はSX5～7と攪乱により削平されている。検出した規模は、長軸31cm以上、短軸29cm以上、深さ27cmを測る。平面形状は円形で、断面形は「U」字形を呈するビット状の遺構である。堆積土は2層に分層された。1層は暗褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックを中量含む。2層は褐色粘土質シルトを主体とし、明黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックを斑状に含む。図示遺物はない。

SX11 性格不明遺構(第197・198図)

東区北側に位置する。SD82、SX6・7・9と重複関係にあり、これより古い。東側はSD82により、西側はSX6・7・9により失われている。検出した規模は、長軸210cm以上、短軸100cm以上、深さ24cmを測る。平面形状は不明だが東壁の平面プランは直線的で、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。断面形は浅い段を持つ逆台形と推定される。底面はやや起伏する。堆積土は単層である。灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックを多量に、焼土を微量混入する。

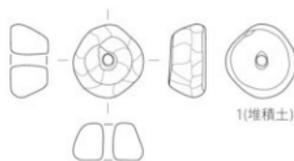
堆積土中から完形の土製紡錘車(P-004)が出土している(第198図)。



第197図 SX5~11性格不明遺構

SX5～11性格不明遺構観察表

遺構名	調査区	平面形	平面積 (cm) 長軸×短軸	階位	土色		備考	遺構		
					土色	土性				
SX5	東区北側	隅方形状	113×28	37	1	10YR5.3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	①1～20mmの基本層質ブロックを少量含む。 ②1～10mmの基本層質ブロックを少量含む。図示物を微量に含む。 ③黄褐色 ④10YR3.1 褐色色	SX6-7・10,19類似。
					2	10YR3.2	灰黄褐色	粘土質シルト		
					3	10YR3.4	褐色色	粘質シルト		
					4	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
					5	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
SX6	東区北側	不整形	123×70	44	1	10YR5.6	黄褐色	粘土質シルト	①1～30mmの10YR6.6明黄褐色土層1～30mmの10YR4.2/3灰褐色土の混在。 ②1～10mmの基本層質ブロックを少量、図示物を微量に含む。 ③1～30mmの10YR3.2/3褐色土の混在。 ④10YR3.1 褐色色	SX7・10・11,19類似。 SX8,13,15。
					2	10YR3.2	灰褐色	粘土質シルト		
					3	10YR3.4	褐色色	粘土質シルト		
					4	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
SX7	東区北側	不明	130×143	40	1	10YR3.2	灰黄褐色	粘土質シルト	①1～30mmの10YR3.4明黄褐色土層1～30mmの10YR3.2/3褐色土の混在。 ②1～5mmの ③10YR3.1 褐色色	SX9・11,19類似。 SX5・6,19,15。
					2	10YR3.2	灰褐色	粘土質シルト		
					3	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
					4	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
SX8	東区北側	不明	101×173	31	1	10YR3.2	灰黄褐色	粘土質シルト	①1～30mmの基本層質ブロックを少量、図示物を微量に含む。 ②1～30mmの10YR3.1 褐色土を少量含む。	SX11,19類似。 SX7,2 9,15。
					2	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
SX9	東区北側	隅方形状	180×38	32	1	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト	①1～30mmの基本層質ブロックを少量、図示物を微量に含む。 ②1～10mmの基本層質ブロックを少量含む。 ③10YR3.1 褐色色	SX5・6,19,15。
					2	10YR3.2	灰褐色	粘土質シルト		
					3	10YR3.1	褐色色	粘土質シルト		
SX10	東区北側	内側	131×129	27	1	10YR3.4	褐色色	粘土質シルト	①1～10mmの基本層質ブロックを少量含む。 ②1～30mmの10YR6.6明黄褐色土層1～30mmの10YR3.2/3褐色土の混在。	SX5・6,19,15。
					2	10YR3.4	褐色色	粘土質シルト		
SX11	東区北側	不明	171cm×118cm	24	1	10YR3.2	灰黄褐色	粘土質シルト	①1～20mmの基本層質ブロックを少量、図示物を微量に含む。	SD82, SX10・P84,19,15。



0 (1:3) 10cm

図面番号	登録番号	調査区	出土地	階位	種別	法長 (cm)			重量(g)	特徴・備考	写真掲載	
						全長	幅	厚				
1	P-004	東区南側	SX11	堆積土	土製品	粘鉢布	4.5	4.3	2.3	48.0	※ P2, 孔外径1.1cm・内径0.6cm.	69.1

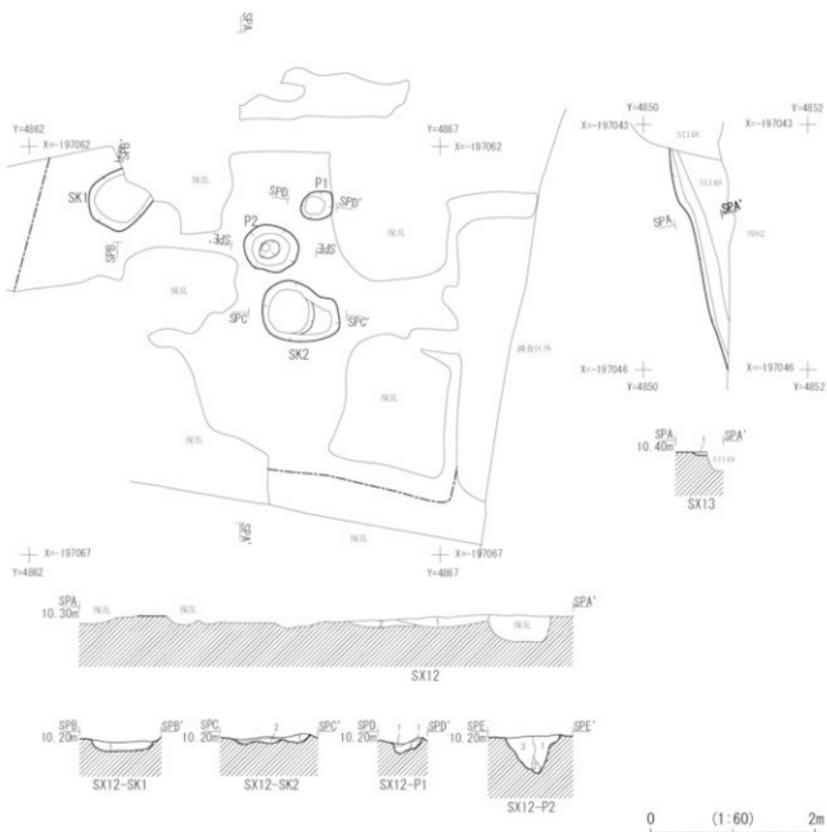
第198図 SX11性格不明遺構出土遺物

SX12 性格不明遺構(第199図)

東区中央に位置する。他遺構との新旧関係はないが、攪乱に削平され遺存状態は悪い。検出した規模は東西557cm以上、南北495cm以上、深さ15cmを測る。平面形は不明だが、南辺と西辺は直線的である。底面は起伏し、壁面の明瞭な立ち上がりはない。SX12の範囲内には付属施設とみられる掘り込みが4基確認された。うち、P2は底面に柱状の窪みがみられる。堆積土は2層に分層され、黒褐色土と基本層IV層ブロックにより構成される。堆積土中から土師器が出土しているが、図示遺物はない。

SX13 性格不明遺構(第199図)

東区北側に位置する。SI148・149、SD82と重複関係にあり、これらより古い。検出した規模は、上端が長軸280cm以上、短軸22cm以上、深さ4cmを測る。平面形状・断面形はいずれも不明であるが、西壁は直線的でSI149の西壁と並行することから、SI149との関係が考えられる。底面は平坦である。堆積土は明黄褐色粘土質シルトの単層である。出土遺物はない。



第199回 SX12・13性格不明遺構

SX12-13性格不明遺構観察表

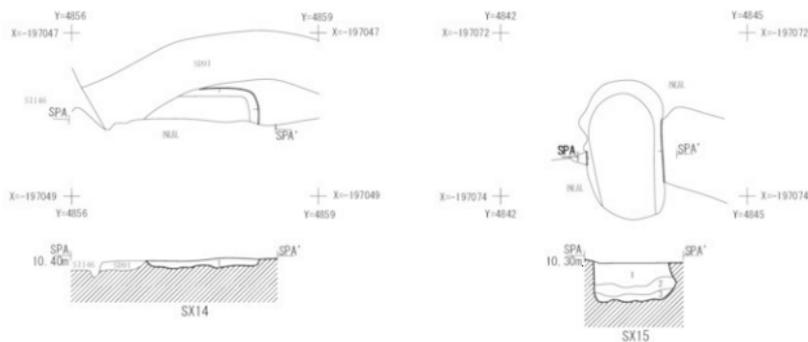
遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺存	
			長軸×短軸	厚さ						
SX12	東区北側	掘り方	不明	0327×1493	15	1 H9R3/2	黒褐色	粘土質シルト	層1～30mmの基本層砂質層ブロックを多量、地上・同化物を微量に含む。	
				0318/5/3	2	10R3/3	にがい黄褐色	粘土質シルト	層1～10mmの10YR3/3黒褐色土を少量含む。	
		SK1	不整 楕円形	710×67	13	1 H9R3/3	暗褐色	粘土質シルト	層1～10mmの基本層砂質層を多量に含む。	
						2 3. 03R7/3	2	10R4/2	にがい黄褐色	粘土質シルト
		SK2	不整 楕円形	93×72	11	1 H9R3/3	暗褐色	粘土質シルト	層1～10mmの10YR3/3黒褐色土を少量含む。層下部に同化物を帯状に含む。	
						2 10R2/1	2	10R3/3	黒褐色	粘土質シルト
		P1	不整 円形	44×36	18	2 10R4/4	褐色	粘土質シルト	層1～30mmの基本層砂質層ブロックを少量、地上・同化物を微量に含む。	
						1 10R2/4	2	10R2/4	暗褐色	粘土質シルト
P2	不整 円形	64×41	45	2 10R2/2	暗褐色	粘土質シルト	層1～5mmの基本層砂質層を微量に含む。			
				3 10R2/3	3	10R2/3	暗褐色	粘土質シルト	層1～5mmの基本層砂質層を少量、地上土を微量に含む。	
SX13	東区北側	不明	2340×225	4	10Y36/6	明黄褐色	粘土質シルト	層1～10mmの10YR4/2灰黄褐色土を少量含む。	SK48・149、SK02・215 253	

SX14 性格不明遺構(第200図)

東区北側に位置する。S D 91と重複関係にあり、これより古い。西側と南側は、SD91と攪乱により失われている。底面はほぼ水平で、SD91の底面とほぼ一致するが、関連はないと思われる。検出した規模は、長軸139cm以上、短軸42cm以上、深さ11cmを測る。平面形状は隅丸方形ないし隅丸長方形と推定される。断面形は皿形を呈し、底面はやや起伏する。堆積土は単層で、灰黄褐色粘土質シルトを主体とし、基本層IV層ブロックが混入する人為堆積である。出土遺物はない。

SX15 性格不明遺構(第200図)

東区南側に位置する。Pit 123と重複関係にあり、これより新しい。南側と北側は、攪乱により失われている。検出した規模は、長軸170cm以上、短軸101cm以上、深さ49cmを測る。断面形は箱形で、平面形状は不明であるが、長方形ないし溝状を呈しているとみられる。西壁は垂直に立ち上がり、東壁は「く」字状にオーバーハングする。底面はやや起伏する。堆積土は、3層に分層された。1・2層は褐色粘土質シルトを主体とし、明黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックを稗状に含む人為堆積である。遺物は殆ど出土せず、図示遺物はない。



第200図 SX14・15性格不明遺構

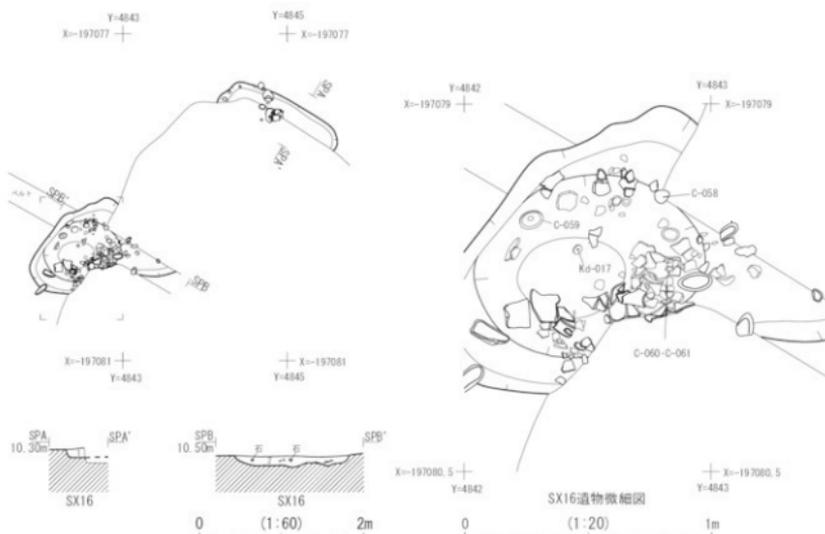
性格不明遺構観覧表

遺構名	調査区	平面形 (隅丸方形・隅丸長方形)	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SX14	東区北側	(139×42) (隅丸長方形)	11	1	10Y34.7	灰黄褐色	粘土質シルト	人為堆積。径1~30mmの基本層IV層ブロックを多量に含む。 径1~30mmの10Y34.6明黄褐色土と径1~30mmの10Y33.3暗褐色土の混入。 径1~30mmの10Y36.6明黄褐色土と径1~30mmの10Y33.3暗褐色土の混入。	SD91, S1141
				2	10Y34.6	褐色	粘土質シルト		
				3	10Y35.6	黄褐色	粘土質シルト		
SX15	東区南側	不明 (170×101)	49	1	10Y34.4	褐色	粘土質シルト	S1147, S1149, S1145, S1146	
				2	10Y34.6	褐色	粘土質シルト		
				3	10Y35.6	黄褐色	粘土質シルト		

SX16 性格不明遺構(第201・202図)

東区南側に位置する。SI136と重複関係にあり、SI136より新しい。SI136の調査中、遺物の多量出土した範囲及び平面の観察からSX16とした。SI136のベルト設定部分以外は調査により削平したため、平面プランは北側と南側に分かれる。南側の最も低い部分の直下には、SI136の主柱穴があることから、住居廃絶後に柱の抜けた穴を中心とした凹みと堅穴住居全体の凹みに外部から遺物が廃棄されたものとみられる。検出した規模は、長軸417cm、短軸113cm、深さ13cmを測る。平面形状は不整形で、断面形は皿状を呈する。底面はやや起伏する。堆積土は6層に分層され、黒褐色粘土質シルトを主体とする。

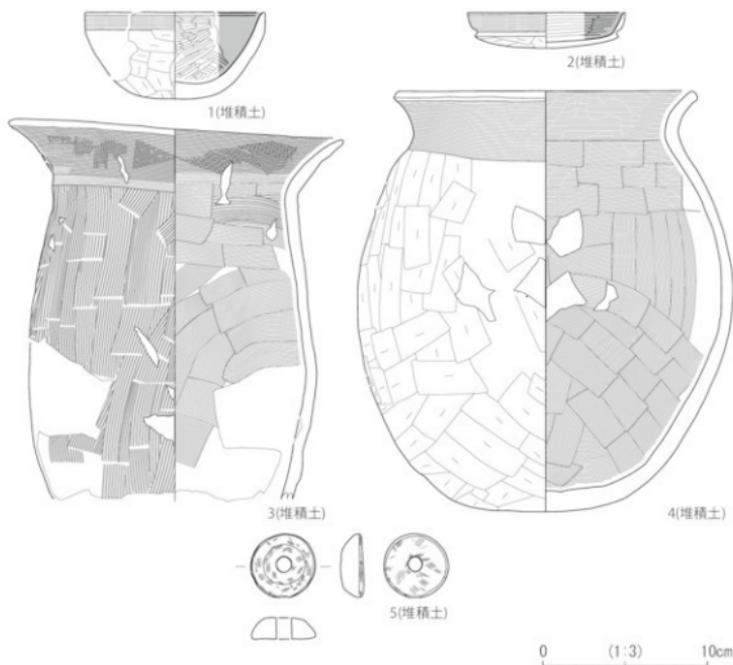
遺物は、土師器・須恵器・石製品・礫が遺構底面から多量に出土しており、そのうちの土師器4点と石製紡錘車1点の計5点を掲載した(第202図)。第202図-1と2は内面黒色処理が施された土師器環である。1は口縁径に対し器高が高い環で、底径は小さく、外部は外方に直線的に開き、口縁部と体部の境界に段はない。2は口縁径に対し器高が低い環で、口縁と体部の境界の段は明瞭である。環は両者共に体部外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキが施される。3は胴部外面にハケメが施される長胴の土師器甕で、口縁部と胴部の境界に段はなく、胴部最大径は体部中央ないしやや下である。胴部内面及び口縁部内面にハケメが施された痕跡がみられる。4は胴部外面にヘラケズリが施される胴部球形の土師器甕で、胴部最大径は胴部中央で、底面までヘラケズリが施され、やや丸底気味である。口縁部と胴部の境界に段はなく、口縁部は外反する。5は完形の紡錘車で、石材は滑石である。



第201図 SX16性格不明遺構

性格不明遺構観察表

遺構名	調査区	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺物	
			長軸	短軸						
SX16	東区南側	不整形	19170	113	1	HV32/2	黒褐色	粘土質シルト	層1-Spaの基本層敷層粒+地上を敷層に含む。	SI136より新しい。
			113		2	HV32/3	黒褐色	粘土質シルト	層1-Spaの基本層敷層粒+埋込物を地上を敷層に含む。	



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	法量 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
								口径	底径	高さ				
1	C-058	東区南側	SX16	埴輪土	土師器	杯	口縁	11.0	8.2	5.3	口縁: 32PF, 体: 49PF 1	52PF 1	内面着色処理	60-2
2	C-059	東区南側	SX16	埴輪土	土師器	杯	底部	9.6	8.6	2.2	口縁: 32PF, 体: 49PF 1	52PF 1	内面着色処理	60-3
3	C-060	東区南側	SX16	埴輪土	土師器	甕	口縁	20.0	-	23.2	口縁: 30F+32PF, 胴: 30F	口縁: 30F+32PF, 胴: 30PF	外面磨石	60-4
4	C-061	東区南側	SX16	埴輪土	土師器	甕	口縁	17.8	7.5	25.8	口縁: 32PF, 胴: 49PF 1	口縁: 32PF, 胴: 49PF		60-5
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (mm)			石材	備考	写真掲載		
							全長	幅	厚					
5	Rd-017	東区南側	SX16	埴輪土	石製品	粘押布	3.9	3.9	0.9	29.9	磨石	空	60-6	

第202図 SX16性格不明遺構出土遺物

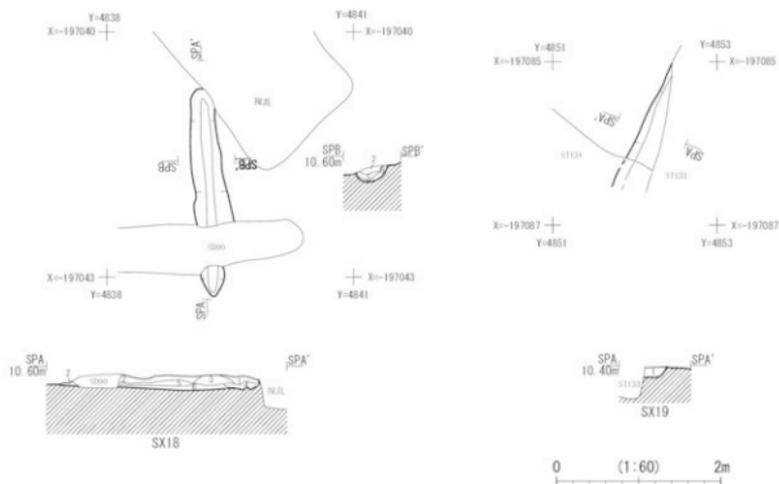
SX18 性格不明遺構(第203図)

中区北側に位置する、ほぼ真北方向に走る溝状の遺構である。SK170、SD90と重複関係にあり、SK170より新しく、SD90より古い。埴輪土に炭化物・焼土が混入することから、検出時カマドの煙道部を想定したが、対応する竪穴床面の掘りこみが無く、SXとした。

検出した規模は、長軸248cm、短軸45cm、深さ20cmを測る。平面形状は溝状で、断面形は「U」字形を呈する。埴輪土は、6層に分層された。暗褐色ないし褐色砂質シルトを主体とし、1・2層に焼土・炭化物が集中的に混入する。出土遺物はない。

SX19 性格不明遺構(第203図)

東区南側に位置する。東側をSI133に削平される。SI133・134と重複関係にあり、SI133より古い。SI134との新旧関係は不明である。SI133調査開始時に本遺構を含んだ範囲までを想定していたため、南側は掘り過ぎ、欠



第203図 SX18-19性格不明遺構

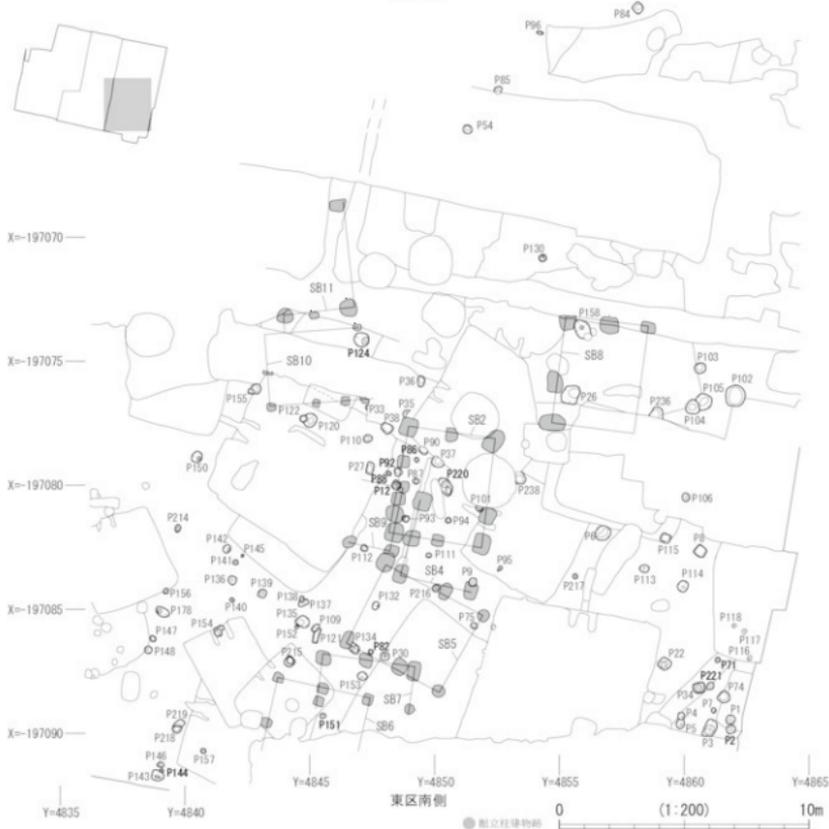
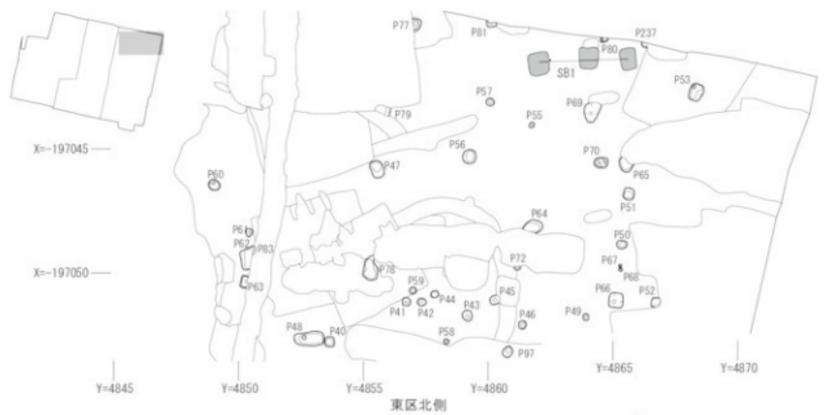
SX18-19性格不明遺構観察表

遺構名	調査区	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	参照	
			長	幅						
SX18	中区北側	溝状	348	43	30	1	HVY3/4	暗褐色	砂質シルト	径2~3mmのZIVY4-4褐色土・炭化物ブロックを多量に含む。径上は中央部重点に多い。
						2	HVY3/4	暗褐色	砂質シルト	径0.5~10mmのHVY3-4褐色土・炭化物を中量。炭土を微量に含む。上面の一部がごく薄く崩壊している。
						3	HVY3/4	暗褐色	砂質シルト	HVY3/3暗褐色土より混ざる。HVY3/3暗褐色土は下面近くに多い。炭化物を微量に含む。
						4	HVY3/3	暗褐色	砂質シルト	径1~2mmのZIVY4-4褐色土ブロックを多量に含む。ZIVY3/2暗褐色土を細量(1mm)程度に含む。
						5	HVY3/4	暗褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。土層下部に少なく、粒状。
						6	HVY4/4	褐色	砂質シルト	径2~3mmのHVY3/3暗褐色土を微量的に少量。炭化物を微量に含む。
SX19	東区南側	不明	190	106	12	1	HVY3/4	暗褐色	砂質シルト	下部に径1~30mmの黒木炭屑ブロックを中量含む。

失している。検出した規模は、東西36cm以上、南北は調査した範囲で127cm以上、深さ12cmを測る。平面形状は不明だが、西側壁は直線的である。西壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色砂質シルトを主体とし、層下部に地山ブロックを混入する。本遺構は、竪穴住居の可能性がある。出土遺物はない。

(6) ピット(第204~206図)

今次調査で確認されたピットは、238基確認された。このうちpit 107~109は東区北側火葬調査Ⅳ層上面で検出された。その他のピットはいずれもⅣ層上面で検出され、堆積土の特徴から、古墳時代~古代に属すると考えられる。ピットのうち36基は掘立柱建物跡等の別遺構に変更し欠番となっている。東区南側への集中が認められる。東区南側にはいずれの竪穴住居跡よりも新しい掘立柱建物跡も多くみられることから、竪穴住居跡の検出面にて見落としたピットと組む掘立柱建物跡が存在する可能性がある。中区南側でも東側にピットが集中している。Pit 166・186・187・180・198はN-62°-Wで等間隔に直線的に並ぶが、直行するピット列が認められず、掘立柱建物跡とは認められない。

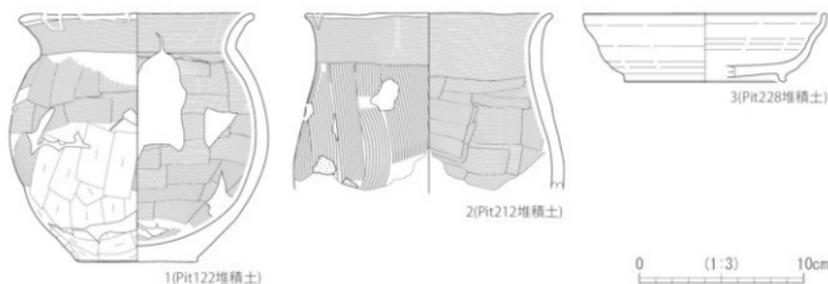


● 創立建物跡
 第204図 東区ビット位置図



第205図 中区ビット位置図

出土遺物はPit 122・170・228から各1点の計3点を掲載した(第206図)。第206図-1はPit 122堆積土出土の土師器甕で、平底で胴部は球形を呈し、口縁部は屈曲し外反して開く器形を呈する。調整は、胴部外面はヘラナデ後下半部にヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。2はPit 212出土の土師器甕で、わずかに内湾する胴部から緩やかに口縁部が外反して開く器形を呈する。調整は、胴部外面はハケメ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。3はPit 228出土の須恵器高台付坏で、底部と体部の境界は湾曲し、やや蛇行しながら外傾して開く。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	原径	部位	法線(㎜)			外面調整	内面調整	備考	写真部数
								11径	底径	器高				
1	C-171	東区南側	Ph122	埴輪土	土師器	甕	11縁~底	142	7.4	15.2	11縁:DPF、体:DPF、体下半:DPF	11縁:DPF、体:DPF		68-12
2	C-170	東区南側	Ph212	埴輪土	土師器	甕	11縁~胴	115.0	-	11.0	11縁:DPF、胴:DPF	11縁:DPF、胴:DPF		68-13
3	E-034	中区北側	Ph228	埴輪土	須恵器	高台付坏	11縁~高付	112.8	9.8	4.2	DPF調整、底:DPF	DPF調整		68-14

第206図 ビット出土遺物

ビット観察表(1)

図版と	調査区	平面形	縦横(mm)		層位	土色	土質	備考	重複	
			長径	短径						
Ph1	東区南側	不整形	36×35	36	1	10Y5/4-7	黒灰色	粘土質シルト	打虫跡、基本層IV層土粒を微量に含む、高線色土と黒褐色土の混在。	SK129新しい。
						10Y5/4-3	褐色	粘土質シルト		
Ph2	東区南側	不整形	37×32	32	1	10Y5/4-4	褐色	粘土質シルト	高線色土と黒褐色土の混在。	SK129新しい。
						10Y5/3-2	黒褐色	粘土質シルト		
Ph3	東区南側	隅丸方形	72×46	43	1	10Y5/4-2	黒褐色	砂質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
Ph4	東区南側	不整形	31×28	25	1	10Y5/4-2	灰青褐色	砂質シルト	基本層IV層土粒を微量に含む。	SK84、Ph525新しい。
						10Y5/4-4	褐色	粘土質シルト		
Ph5	東区南側	不整形	67×33	31	1	10Y5/3-1	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	Ph42新しい。
Ph6	東区南側	円形	42×37	13	1	10Y5/4-2	灰青褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を微量、凹凸物を微量に含む。	
Ph7	東区南側	円形	19×19	20	1	10Y5/4-2	灰青褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を微量に含む。	
Ph8	東区南側	隅丸方形	45×43	26	2	10Y5/5-9	灰青褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を微量に含む。	
SK173	東区南側	不整形	34×31	15	1	10Y5/5-9	灰青褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量、凹凸物を微量に含む。	SK41より新しい。
						-	-	-		
Ph10	-	-	-	-	-	-	-	-	SK37-P6に定定。	
Ph11	-	-	-	-	-	-	-	-	SK4-P4に定定。	
Ph12	東区南側	不整形	36×27	20	1	10Y5/3-3	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	SK9-P1より新しい。
Ph13	-	-	-	-	-	-	-	-	SK9-P1に定定。	
Ph14	-	-	-	-	-	-	-	-	SK37-P6に定定。	
Ph15	-	-	-	-	-	-	-	-	SK37-P7に定定。	
Ph16	-	-	-	-	-	-	-	-	SK37-P12に定定。	
Ph17	-	-	-	-	-	-	-	-	SK37-P11に定定。	
Ph18	-	-	-	-	-	-	-	-	SK36-P21に定定。	
Ph19	-	-	-	-	-	-	-	-	SK36-P41に定定。	
Ph20	-	-	-	-	-	-	-	-	SK4-P11に定定。	
Ph21	-	-	-	-	-	-	-	-	SK37-P4に定定。	
Ph22	東区南側	隅丸方形	47×46	37	1	10Y5/3-1	黒褐色	粘土質シルト	打虫跡、基本層IV層土粒を微量に含む。	SK41より新しい。
						10Y5/3-2	黒褐色	粘土質シルト		
Ph23	-	-	-	-	-	-	-	-	SK39-P11に定定。	
Ph24	-	-	-	-	-	-	-	-	SK41-P11に定定。	
Ph25	-	-	-	-	-	-	-	-	SK41-P11に定定。	

ビッド観察表(2)

品名	調査区	平面形	規模(m)		階位	土色		備考	備註		
			長軸	短軸		土色	土性				
						1	19YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土ブロックを中量含む。	
						2	19YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P926	東区南側	不整形	75×66	64	2	3	19YR3/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
						4	19YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P927	東区南側	楕円形	48×29	26	2	1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	柱状砂、基本層IV層土粒を少量含む。	
						2	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト		
P929							—	—	—	5156-92に大変。	
P929	東区南側	不整形	35×31	14	3	1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P931							—	—	—	5156-92に大変。	
P932							—	—	—	5156-92に大変。	
P932	東区南側	不整形	43×25	36	3	1	19YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土ブロックを中量含む。	
P934	東区南側	楕円形	50×43	34	3	1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P935	東区南側	不整形	18×14	19	1	1	19YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P936	東区南側	不整形	44×29	14	3	1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P937	東区南側	不整形	52×36	36	3	1	19YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P938	東区南側	楕円形	47×28	27	3	1	19YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P939							—	—	—	5156-92に大変。	
P940	東区北側	楕円形	41×39	36	3	1	19YR4/4	褐色	シルト	層上部アラ化、基本層IV層土ブロックの多量を含む。	
P941	東区北側	楕円形	33×32	32	3	1	19YR4/1	褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P942	東区北側	不整形	33×32	14	3	1	19YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P943	東区北側	円形	45×29	22	3	1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	柱状砂、炭化物を微量含む。	
P944	東区北側	円形	37×28	4	3	1	19YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を少量含む。	
P945	東区北側	円形	41×37	15	3	1	19YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P946	東区北側	円形	35×31	18	3	1	19YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P947	東区北側	不整形	71×51	13	3	1	19YR4/2	灰黄褐色	シルト	基本層IV層土ブロックを少量含む。	
P948	東区北側	長楕円形	136×58	23	3	1	19YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P949	東区北側	不整形	27×23	14	3	1	19YR4/1	褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P949	東区北側	不整形	42×35	18	3	1	19YR3/1	黒褐色	砂質シルト		
P951	東区北側	不整形	48×43	14	3	1	19YR3/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	炭化物と黒褐色土との混入、炭化物を微量含む。	
P951	東区北側	楕円形	40×36	17	3	1	19YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P952	東区北側	楕円形	70×55	15	3	1	19YR4/1	褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P953							1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。
P953	東区南側	円形	37×24	27	2	1	19YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	柱状砂、基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P954							3	19YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。
P955	東区北側	円形	24×19	7	3	1	19YR3/2	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P956	東区北側	楕円形	58×53	14	3	1	19YR4/1	褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P957	東区北側	円形	33×31	30	3	1	19YR3/1	黒褐色	砂質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P958	東区北側	円形	21×21	15	—	—	—	—	—	5156-92に大変。	
P959	東区北側	円形	28×25	15	3	1	19YR4/1	褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P960	東区北側	円形	46×43	11	3	1	19YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P961	東区北側	円形	42×30	12	3	1	19YR3/1	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P962	東区北側	不整形	36×29	22	3	1	19YR2/2	黒褐色	シルト	基本層IV層土ブロックを中量、炭化物を微量含む。	
P963	東区北側	楕円形	50×27	30	3	1	19YR3/1	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P964	東区北側	不整形	60×55	12	3	1	19YR5/6	黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。	
P965	東区北側	不整形	45×50	16	3	1	19YR3/1	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P966	東区北側	楕円形	60×57	21	2	1	19YR5/6	黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。	
P967	東区北側	不整形	13×12	10	3	1	19YR3/1	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P968	東区北側	不整形	14×14	5	3	1	19YR3/1	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P969	東区北側	不整形	70×67	27	3	1	19YR4/1	褐色	シルト	基本層IV層土ブロックを中量含む。	
							3	19YR5/6	黄褐色	シルト	
P970	東区北側	楕円形	57×41	8	2	1	19YR4/1	褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
P971	東区南側	円形	22×16	13	3	1	19YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P972	東区北側	円形	28×20	14	3	1	19YR4/1	褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P973							—	—	—	5156-92に大変。	
							1	19YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。
P974	東区南側	楕円形	46×45	39	2	1	19YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	柱状砂、基本層IV層土粒を少量含む。炭化物を微量含む。	
							4	19YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。
							6	19YR3/7	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。
P975	東区南側	楕円形	24×17	21	2	1	19YR3/2	黒褐色	シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
							3	19YR3/4	褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。
P976							1	19YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。
							—	—	—	5156-92に大変。	
P977	東区北側	楕円形	31×30	30	3	1	19YR3/3	にじみ黄褐色	シルト	基本層IV層土ブロックを少量、炭化物を微量含む。	
P978	東区北側	不整形	106×59	11	3	1	19YR4/1	褐色	砂質シルト	基本層IV層土ブロックを少量含む。	
P979	東区北側	不整形	404×35	18	—	—	—	—	—	5156-92に大変。	
P980	東区北側	不整形	32×21	36	3	1	19YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	柱状砂、基本層IV層土粒を少量含む。	
P981	東区北側	不整形	182×22	56	2	1	19YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層IV層土粒を少量含む。	
P982	東区南側	円形	21×12	12	2	1	19YR4/1	褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。	
							2	19YR4/3	にじみ黄褐色	シルト	

ビッド観察表(3)

番地	調査区	平面形	規模 (cm)		方位	土色	土性	備考	遺構	
			長軸	短軸						
P603	東区北側	不整円形	83×553	36	2	1. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	柱状跡、基本層作埋土粒を少量含む。	3D62、P602.9(古)
						2. 0YR3/2	灰黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 0YR6/1	褐色	粘土質シルト		
P604	東区北側	隅丸方形	40×39	22	2	1. 0Y3/7.1	明褐色	砂質シルト	グライト、基本層作埋土粒を少量含む。	
						2. 0YR3/2	黒褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
P605	東区北側	不整円形	32×29	27	2	1. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト		
						3. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト		
P606	東区南側	円形	21×17	15	2	1. 0Y4/1	灰色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
P607	東区南側	不整円形	24×21	13	2	1. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
P608	東区南側	不整円形	30×16	6	1	1. 0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒・灰化物を微量含む。	
						2. --	--	--		
						3. --	--	--	S04 P23:変更	
P609	東区南側	不整円形	37×26	13	1	1. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を微量、埋土・灰化物を微量含む。	3D42.9(新)
						2. 0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. --	--	--	S04 P23:変更	
P610	東区南側	不整円形	32×30	39	1	1. 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡、基本層内層土粒・ブロックを少量、埋土を微量含む。	
						2. --	--	--		
						3. 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡、基本層内層土粒を少量含む。	
P611	東区南側	不整円形	27×26	12	2	1. 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	P6149.2(新)
						2. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	黄褐色土と暗灰色土の混土、埋土を微量含む。	
						3. 0YR4/4	褐色	砂質シルト		
P612	東区南側	円形	23×23	14	1	1. 0YR3/3	じいし黄褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を微量含む。	
						2. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
P613	東区南側	不整円形	25×13	20	1	1. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量、灰化物を少量含む。	3D42.9(新)
						2. 0YR3/2	黒褐色	砂質シルト		
						3. 0YR3/2	黒褐色	砂質シルト		
P614	東区北側	不整円形	27×13	28	1	1. 0YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	1層グライト、暗褐色土を少量含む。	
						2. 0YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量含む。	
						3. 0YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト		
P615	東区北側	不整円形	47×39	13	1	1. 0YR6/6	明黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量含む。	
						2. --	--	--		
						3. --	--	--	S04 P23:変更	
P616	東区北側	不整円形	30×21	26	1	1. 7.5YR/4	褐色	粘土質シルト	黄褐色土・ブロック・灰黄褐色土・ブロックの混土、埋土を微量含む。	3D42.9(新)と、3D2-24、3D129.2(古)
						2. --	--	--		
						3. 0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒・ブロックを少量含む。	
P617	東区南側	不整円形	45×43	42	2	1. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土・灰化物を微量含む。	3D44.9(新)
						2. 0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量、灰化物を少量含む。	
						3. 0YR4/2	黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土・灰化物を微量含む。	
P618	東区南側	円形	36×35	42	2	1. 7.5YR/2	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を微量、埋土・灰化物を微量含む。	3D44、P6105.2(新)
						2. 7.5YR/2	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量、灰化物を少量含む。	
						3. 7.5YR/2	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土・灰化物を微量含む。	
P619	東区南側	不整円形	68×64	26	2	1. 7.5YR/2	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土・灰化物を微量含む。	3D42.9(新)と、3D164.2(古)
						2. 7.5YR/2	暗褐色	砂質シルト	黄褐色土・ブロック・灰黄褐色土・ブロックの混土、埋土を微量、灰化物を微量含む。	
						3. 7.5YR/2	暗褐色	砂質シルト	黄褐色土・ブロック・灰黄褐色土・ブロックの混土、埋土を微量、灰化物を微量含む。	
P620	東区南側	不整円形	34×30	13	2	1. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	黄褐色土・ブロック・灰黄褐色土・ブロックの混土、灰化物を微量含む。	3D42.9(新)と、3D164.2(古)
						2. 0YR4/6	褐色	砂質シルト		
						3. 0YR4/6	褐色	砂質シルト		
P621	東区北側 下層調査区	円形	31×41	39	1	1. 7.5YR/4	褐色	粘土質シルト	黄褐色土を少量含む。	3D40.2(新)
						2. 0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト		
						3. 0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	灰化物を少量含む。	
P622	東区北側 下層調査区	円形	48×39	11	1	1. 0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	灰化物を少量含む。	
						2. --	--	--		
						3. 0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	灰化物を微量含む。	
P623	東区南側	不整円形	35×31	23	1	1. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒・灰化物を微量含む。	3D36.9(新)
						2. 0YR4/2	黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 0YR3/2	黒褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量含む。	
P624	東区南側	隅丸方形	21×19	23	1	1. 0YR4/2	黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量含む。	
						3. 0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量含む。	
P625	東区南側	円形	28×27	26	2	1. 0YR4/2	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土を微量含む。	
						2. 0YR3/6	黄褐色	砂質シルト	黄褐色土を少量、埋土・灰化物を微量含む。	
						3. 0YR4/4	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土・灰化物を微量含む。	
P626	東区南側	不整円形	37×30	26	2	1. 0YR4/2	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡、基本層内層土粒を少量含む。	
						3. 7.5YR/3	暗褐色	砂質シルト	黄褐色土を少量、灰化物を微量含む。	
P627	東区南側	不整円形	37×30	26	2	1. 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡、基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR4/2	黄褐色	砂質シルト	黄褐色土を少量、灰化物を微量含む。	
						3. 7.5YR/3	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
P628	東区南側	円形	45×40	61	2	1. 0YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	柱状跡、基本層内層土粒を少量含む。	
						2. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を微量含む。	
						3. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量、埋土・灰化物を微量含む。	
P629	東区南側	不整円形	40×34	27	2	1. 0YR4/4	褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量、灰化物を微量含む。	3D40.2(新)
						2. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	柱状跡、基本層内層土粒を微量、灰化物を微量含む。	
						3. 0YR7/1	灰白色	粘土質シルト	埋土・灰化物を微量含む。	
P630	東区南側	不整円形	24×18	23	1	1. 0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量、灰化物を微量含む。	3D32.9(古)
						2. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	埋土・灰化物を少量含む。	
						3. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	埋土・灰化物を少量含む。	
P631	東区南側	不整円形	30×17	22	2	1. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	柱状跡、基本層内層土粒を少量、灰化物を微量含む。	3D32.9(古)
						2. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	埋土・灰化物を少量含む。	
						3. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土と暗褐色土の混土、埋土を少量含む。	
P632	東区南側	円形	25×20	18	1	1. 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒・灰化物を微量含む。	3D33.6(古)
						2. 0YR3/2	黒褐色	シルト	基本層内層土粒を微量、灰化物を微量含む。	
						3. 0YR3/2	黒褐色	シルト	埋土を微量含む。	
P633	東区南側	不整円形	37×22	22	2	1. 0YR3/4	暗褐色	シルト	埋土・灰化物を微量含む。	P6121.2(新)
						2. 0YR3/2	黒褐色	シルト	埋土・灰化物を微量含む。	
						3. 0YR3/2	黒褐色	シルト	埋土・灰化物を微量含む。	
P634	東区南側	円形	36×30	43	2	1. 0YR3/2	暗褐色	シルト	埋土・灰化物を微量含む。	3D36、P6122.9(新)
						2. 0YR3/4	暗褐色	シルト	埋土・灰化物を微量含む。	
						3. 0YR6/6	黄褐色	粘土質シルト	灰褐色土を微量含む。	

ビット観察表(4)

番付名	調査区	平面形	規模 (cm) 長軸 × 短軸	層位	土色	土性	備考	遺構
Pa121	東区南側	不整形方形	500×22	1	0YR3/3	暗褐色	基本層内層土粒を多数含む。	
Pa122	東区南側	円形	29×29	12	0YR3/3	にがい黄褐色	粘土質シルト 基本層内層土粒を多数含む。	Pa122a新し Pa122b新し Pa122c新し
Pa123							粘土-P4に由来。	
Pa124	東区南側	円形	60×57	19	1 0YR3/3 2 0YR3/2	にがい黄褐色 灰黄褐色	粘土質シルト 灰褐色土と灰黄色土との混生	Pa124a新し
Pa125							灰黄色土を多数含む。	
Pa126							粘土-P4に由来。	
Pa127							粘土-P4に由来。	
Pa128							粘土-P4に由来。	
Pa129							粘土-P4に由来。	
Pa130	東区南側	円形	30×26	20	1 0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト 基本層内層土粒を多数、炭化物を微量含む。	
Pa131							粘土-P4に由来。 粘土-P5に由来。	
Pa132	東区南側	不整形円形	33×26	27	1 0YR3/4 2 0YR3/4	暗褐色 褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を多数、炭化物を微量含む。	
Pa133							粘土質シルト 基本層内層土粒を多数、炭化物を微量含む。	
Pa134	東区南側	不整形円形	480×34	27	1 0YR3/3 2 0YR3/4	暗褐色 暗褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を多数、粘土を微量含む。	Pa134a新し
Pa135	東区南側	不整形円形	52×44	47	1 0YR3/4 2 0YR3/3 3 0YR3/3 4 0YR3/2	暗褐色 暗褐色 暗褐色 暗褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒と炭化物を多数含む。	
Pa136	東区南側	不整形円形	36×34	17	1 0YR3/4 2 0YR3/4	暗褐色 暗褐色	砂質シルト 砂質シルト 基本層内層土粒を少量、粘土を微量含む。	
Pa137	中央区南側	不整形	23×16	11	1 0YR3/4	褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量、粘土を微量含む。	Pa137a新し
Pa138	中央区南側	不整形円形	43×33	12	1 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト 基本層内層土粒を少量、粘土を微量含む。	Pa138a新し
Pa139	東区南側	不整形円形	34×32	30	1 0YR3/3	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	
Pa140	中央区南側	不整形円形	18×16	19	1 0YR3/4	褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を少量、粘土を微量含む。	
Pa141	中央区南側	不整形円形	31×26	11	1 0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	
Pa142	中央区南側	円形	35×29	19	1 0YR3/3 2 0YR3/4	にがい黄褐色 褐色	砂質シルト 砂質シルト 基本層内層土粒を多数含む。	
Pa143	東区南側	不整形円形	46×42	15	1 0YR3/3 2 0YR3/6	にがい黄褐色 黄褐色	砂質シルト 砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa143a新し
Pa144	東区南側	円形	15×15	5	1 0YR3/4	褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa144a新し
Pa145	東区南側	不整形円形	12×10	7	1 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	
Pa146	東区南側	不整形	22×19	9	1 0YR3/4	褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	
Pa147	東区南側	不整形円形	36×23	12	1 0YR3/3	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	
Pa148	東区南側	不整形円形	29×28	17	1 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa148a新し
Pa149							粘土-P4に由来。 粘土-P5に由来。	
Pa150	東区南側	不整形円形	45×40	30	1 0YR3/3 2 0YR3/4 3 0YR3/4	暗褐色 暗褐色 褐色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 基本層内層土粒を少量、粘土を微量含む。	
Pa151	東区南側	円形	23×20	15	1 7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量、炭化物を微量含む。	
Pa152	東区南側	円形	14×14	9	1 0YR3/3	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量、炭化物を微量含む。	
Pa153	東区南側	円形	37×34	20	1 0YR3/4 2 0YR3/3 3 0YR3/4 4 0YR3/4 5 7.5YR3/4	褐色 暗褐色 暗褐色 暗褐色 褐色	砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 基本層内層土粒を少量、炭化物を微量含む。	
Pa154	東区南側	円形	47×38	17	1 0YR3/3 2 0YR3/2	にがい黄褐色 灰黄褐色	シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa154a新し
Pa155	東区南側	不整形円形	36×40	32	1 0YR3/4 2 0YR3/4	暗褐色 褐色	砂質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa155a新し
Pa156	東区南側	不整形円形	23×19	19	1 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa156a新し
Pa157	東区南側	不整形円形	21×19	10	1 0YR3/3 2 0YR3/3	にがい黄褐色 暗褐色	シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	Pa157a新し
Pa158	東区南側	不整形円形	463×58	24	1 0YR3/2 2 0YR3/3	暗褐色 暗褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 基本層内層土粒を多数、炭化物を微量含む。	Pa158a新し
Pa159	中央区南側	不整形円形	29×20	8	1 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を多数、炭化物を微量含む。	Pa159a新し
Pa160	中央区南側	不整形円形	26×25	20	1 0YR3/4	暗褐色	砂質シルト 基本層内層土粒を多数、炭化物を微量含む。	Pa160a新し
Pa161							粘土-P4に由来。	
Pa162	中央区南側	円形	33×29	43	1 0YR3/3 2 0YR3/3	暗褐色 にがい黄褐色	砂質シルト 砂質シルト 基本層内層土粒を少量含む。	
Pa163	中央区南側	円形	38×21	34	1 0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト 基本層内層土粒を多数含む。	
Pa164	中央区南側	円形	23×20	17	1 0YR3/2	暗褐色	シルト 基本層内層土粒を多数含む。	
Pa165	中央区南側	不整形円形	38×49	19	1 2.5Y3/3	オレンジ褐色	粘土質シルト 中ゾーンの、基本層内層土粒を多数含む。	

ビット観察表(5)

番線名	調査区	平面形	規模 (cm)		層位	土色	土性	備考	遺構
			長軸	短軸					
P6166 中区南側	木彫門形	37×36	30	1	1	0YR5/3	暗褐色	粘土質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6167 中区南側	木彫門形	30×15	11	3	1	0YR4/4	褐色	粘土質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR5/3	暗褐色	シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6168 中区南側	木彫門形	40×27	23	1	1	0YR5/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6169 中区南側	木彫門形	43×36	43	3	1	0YR5/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR5/1	暗褐色	砂質シルト	やがアゾビ、基本層IV層土人アゾビを多量、後土・炭化物を露出させる。
P6170 中区南側	円形	34×33	30	3	1	0YR5/3	暗褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量、炭化物を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量露出させる。
					3	0YR3/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量露出させる。
P6171 中区南側	円形	19×17	18	2	1	0YR5/1	暗褐色	砂質シルト	やがアゾビ、基本層IV層土人アゾビを中量、後土・炭化物を露出させる。
					2	0YR5/3	暗褐色	砂質シルト	炭化物を露出させる。
P6172 中区南側	木彫門形	47×41	26	3	1	0YR5/1	暗褐色	砂質シルト	炭化物を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層IV層土人アゾビを中量、後土・炭化物を露出させる。
					3	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	後土・炭化物を露出させる。
P6173 中区東側	木彫門形	24×21	41	2	1	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	後土・炭化物を露出させる。
					2	0YR3/2	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、後土・炭化物を露出させる。
P6174 中区北側	円形	22×22	14	1	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	柱状跡あり、赤土の層を含む。基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量露出、炭化物を露出させる。
P6175 中区東側	木彫門形	37×28	8	1	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。	
P6176	-	-	-	-	-	-	-	-	539-P41参照。
P6177 中区東側	溝と土形	41×33	15	1	0YR5/3	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。	
P6178 東区南側	木彫門形	57×24	18	3	1	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、後土・炭化物を露出させる。
					2	0YR3/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。層下部に酸化土。
P6179	-	-	-	-	1	0YR5/6	暗褐色	砂質シルト	柱状跡あり、基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	砂質シルト	533-9からの上へ変更。
P6180 中区南側	円形	35×35	18	1	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出、後土・炭化物を露出させる。
					2	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。
P6181 中区南側	木彫門形	27×44	16	3	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、後土・炭化物を露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。
P6182 中区南側	木彫門形	40×32	16	1	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。
P6183 中区南側	木彫門形	40×35	17	1	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出、炭化物を露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	柱状跡、層下部に酸化土。
P6184 中区南側	木彫門形	39×19	16	1	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	やがアゾビあり。基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	砂質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。
P6185 中区南側	木彫門形	36×41	13	1	1	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
P6186 中区南側	円形	37×29	18	1	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	柱状跡。基本層IV層土柱を露出させる。
P6187 中区南側	木彫門形	42×46	24	3	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6188 中区南側	木彫門形	13×13	5	1	1	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0Y3/2	オリーブ褐色	砂質シルト	アゾビ、黒褐色土を中量露出させる。
P6189 中区南側	木彫門形	21×21	15	1	1	2.5Y 4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	アゾビ、基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	アゾビ、基本層IV層土柱を露出させる。
P6190 中区南側	円形	38×27	22	2	1	2.5Y 2/2	暗オリーブ褐色	砂質シルト	アゾビ、基本層IV層土柱を露出させる。
					2	2.5Y 2/2	暗オリーブ褐色	砂質シルト	アゾビ、基本層IV層土柱を多量露出させる。
P6191 中区南側	円形	32×18	7	1	1	2.5Y 2/2	暗オリーブ褐色	砂質シルト	炭化物と土色土・暗褐色土を露出させる。
					2	-	-	砂質シルト	5364に相当。
P6192	-	-	-	-	1	0YR5/3	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、後土・炭化物を露出させる。
					3	0YR3/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	層下部に酸化土。
P6194 中区北側	木彫門形	680×260	39	3	1	0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。
					3	0YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					4	0YR3/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、炭化物を露出させる。
P6195 中区北側	木彫門形	30×32	12	2	1	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR3/4	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					3	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6196 中区北側	木彫門形	37×39	9	1	1	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出、炭化物を露出させる。
					2	0YR4/3	にじみ黄褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6197 中区南側	円形	39×25	9	1	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を中量露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を中量露出させる。
P6198 中区南側	木彫門形	18×12	24	2	1	0YR4/6	褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を中量露出、後土・炭化物を露出させる。
					2	0YR4/6	褐色	砂質シルト	暗褐色土人アゾビを露出させる。
					3	0YR3/2	にじみ黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量露出させる。
					4	0YR3/2	にじみ黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量露出させる。
P6199 中区南側	円形	31×29	15	1	1	0YR5/8	黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量露出させる。
					2	0YR4/2	灰黄褐色	シルト	暗褐色土と黒褐色土の層土。
P6200 中区南側	円形	30×26	11	1	1	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR4/4	褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
P6201 中区南側	円形	22×22	11	3	1	0YR4/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					3	0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					4	0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					5	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					6	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					7	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6202 中区東側	木彫門形	36×48	30	4	1	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
P6203 中区東側	木彫門形	30×29	22	3	1	0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					2	0YR3/2	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出させる。
					3	0YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	基本層IV層土柱を少量露出、後土・炭化物を露出させる。
					4	0YR3/6	黄褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
P6204 中区南側	木彫門形	45×42	43	3	1	0YR3/2	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					2	0YR3/6	黄褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。
					3	0YR3/6	黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量露出させる。
					4	0YR3/2	暗褐色	砂質シルト	基本層IV層土柱を露出させる。

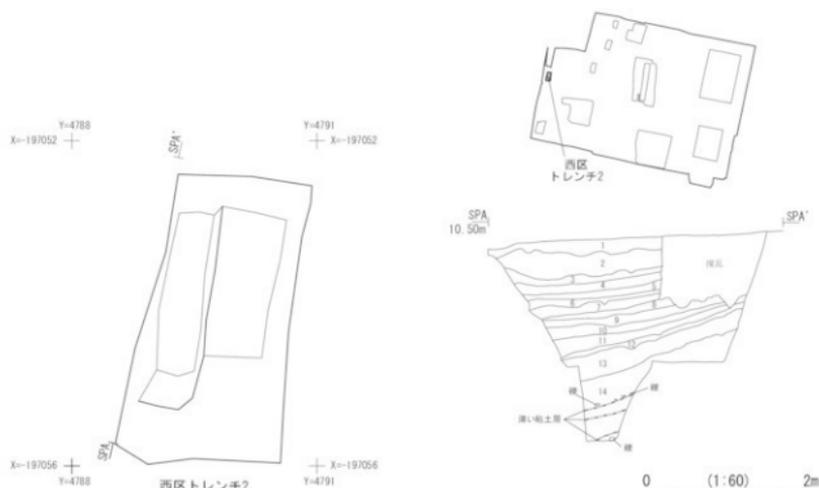
ビット観察表(6)

番地	調査区	平面形状	規模(m)		層位	土質		備考	遺構	
			長軸	短軸		土質	土性			
Pt265	中央区	不整形円形	71×41	21	1	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	SI044, SI9329が高い。
Pt266	中央区	不整形円形	40×35	11	1	0YR3/3	棕色	粘土質シルト	黄褐色土と灰黄褐色土の混生。基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR3/6	黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土を少量含む。堆土を少量含む。	
Pt267	中央区	不整形円形	30×25	24	1	0YR3/2	黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒と灰化物を少量含む。	SI7119弱く、SI99129が高い。
Pt268	中央区	不整形円形	23×21	13	1	0YR3/3	棕色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR3/3	棕色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt269	中央区	不整形円形	23×20	17	1	0YR3/3	棕色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR3/3	棕色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt270	中央区	不整形円形	27×20	18	1	0YR3/3	棕色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR5/6	黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。	
Pt271	中央区	楕円形	121×68	11	1	0YR5/4	黄褐色	砂質シルト	黄褐色土ブロックと灰黄褐色土ブロックの混生。	SI010629高い。
					2	0YR3/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt272	中央区	円形	34×34	23	1	0YR3/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト		
Pt273	中央区	円形	26×27	15	1	0YR3/1	黒褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt274	東区	不整形円形	32×31	14	1	0YR3/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR5/1	黒褐色	砂質シルト	層下部に酸化層。	
Pt275	東区	楕円形	41×26	11	1	0YR3/2	灰黄褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	SI3729高い。
					2	0YR5/1	黒褐色	砂質シルト	酸化層。基本層内層土粒を少量含む。	
Pt276	東区	不整形円形	34×26	16	1	0YR5/1	黒褐色	砂質シルト	酸化層。基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR5/1	黒褐色	砂質シルト	酸化層。基本層内層土粒を少量含む。	
Pt277	東区	円形	21×19	12	1	2.5Y2/1	黒褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt278	東区	不整形円形	32×22	7	1	0YR3/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	PI2129高い。
Pt279	東区	不整形円形	30×27	8	1	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	PI2129高い。
					2	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。堆土を少量含む。	
Pt280	東区	不整形円形	26×44	35	3	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					4	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。堆土・灰化物を少量含む。	
					5	0YR5/1	黒褐色	粘土質シルト	層下部に酸化層。	
					6	0YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量含む。酸化土を少量含む。	
Pt281	東区	不整形円形	29×29	26	1	0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR5/1	黒褐色	砂質シルト	堆土を少量含む。	
Pt282	中央区	不整形円形	16×16	35	1	0YR3/4	褐色	粘土質シルト	層下部に酸化層。	SI3519高い。
					4	0YR5/4	黄褐色	砂質シルト	黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混生。	
Pt283	中央区	不整形円形	16×16	35	2	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト	黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混生。	
					3	0YR3/2	灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。	
Pt284	中央区	不整形円形	53×37	36	1	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。灰化物を少量含む。	SI54, PI22429高い。
					2	0YR7/6	黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色土と灰黄褐色土の混生。	
Pt285	中央区	不整形円形	24×21	34	3	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	SI5429弱く、PI22429高い。
					2	0YR5/1	黒褐色	粘土質シルト	酸化層。層下部に酸化層。	
Pt286	中央区	不整形円形	27×23	22	1	0YR3/3	暗褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。	
					2	0YR5/6	黄褐色	砂質シルト	黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混生。	
Pt287	中央区	不整形円形	30×44	18	1	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	PI22829弱く、PI19429高い。
					2	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。堆土を少量含む。	
Pt288	中央区	不整形円形	32×33	15	1	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	SI0619高い。
					2	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土と灰黄褐色土を少量含む。	
Pt289	中央区	不整形円形	40×33	26	1	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土を少量含む。基本層内層土粒を少量含む。	PI19429高い。
					2	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土ブロックと基本層内層土粒を少量含む。	
Pt290	中央区	不整形円形	27×19	12	1	0YR3/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	SI7229弱く、PI20029高い。
					2	0YR3/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt291	中央区	円形	21×20	17	-	-	-	-	計測なし。	SI7629弱く、SI01129高い。
Pt292	中央区	不整形円形	40×29	19	1	0YR4/4	褐色	砂質シルト	基本層内層土ブロックを少量含む。灰化物を少量含む。	PI22429高い。
Pt293	中央区	円形	33×31	11	1	0YR3/4	褐色	砂質シルト	黄褐色土と灰黄褐色土の混生。	PI26129高い。
Pt294	中央区	不整形円形	22×23	15	1	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	基本層内層土と灰黄褐色土を少量含む。	
Pt295	中央区	不整形円形	29×23	15	1	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	黄褐色土と灰黄褐色土の混生。基本層内層土と灰黄褐色土を少量含む。	PI20029弱く、SI2129高い。
					2	0YR5/6	黄褐色	砂質シルト	暗褐色土を少量含む。	
Pt296	中央区	不整形円形	32×33	15	1	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
					2	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt297	中央区	不整形円形	30×30	44	1	0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	酸化層を少量含む。	
					2	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。酸化土を少量含む。	
Pt298	東区	不整形円形	35×48	26	2	0YR3/2	灰黄褐色	シルト	暗褐色土を少量含む。	
					3	0YR5/1	黒褐色	粘土	酸化層。層下部に酸化層を伴う。	
Pt299	東区	不整形円形	35×48	26	1	0YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	堆土を少量含む。	SI401429高い。
					2	0YR3/2	灰黄褐色	粘土質シルト	堆土・灰化物を少量含む。	
Pt300	東区	不整形円形	37×37	29	1	0YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	暗褐色土を少量含む。	SI3019弱く、SI14129高い。
					2	0YR3/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。	
Pt301	東区	不整形円形	47×42	32	1	0YR3/4	褐色	粘土質シルト	基本層内層土粒を少量含む。灰化物を少量含む。	SI4114129弱く、SI2129高い。

(7) 河川跡(第207図)

西区トレンチ2では自然堆積層が今次調査区の他の地点とは全く異なる様相で確認された。自然堆積層は1～14層が確認され、下層ほど北から南に向かって下る傾斜が強くなる傾向がみられ、下層は砂を主体とする。北壁は攪乱が多く図化していないが、堆積はほぼ水平である。12層はいわゆる十和田a火山灰とみられる灰白色のシルトブロックの堆積層で、14層は流水の影響によりラミナ状に堆積するシルト質砂層で、途中に薄い粘土の堆積を3面確認し、最上層の粘土の上部には扁平な円礫が認められる。

14層の最下部から、青海波文のタタキメを有する須恵器裏体部破片が出土した。



第207図 西区トレンチ2 旧河道

西区トレンチ2 土層観察表

部位	層位	土色	土性	粘性	締まり	埋入物		備考
						基本調査用 サンプル名	図化物	
西区 ト レン チ 2	1	2.04/2	橙灰黄色	シルト質砂	弱	強		径20mm以下オレンジ色土少量、グライ化。
	2	06/2	灰オリーブ色	シルト質砂	弱	強		径20mm以下黄色土下部少量、グライ化。
	3	2.04/2	橙灰黄色	砂質シルト	普通	普通		径20mm以下オレンジ色土少量、グライ化。
	4	06/2	灰オリーブ色	砂質シルト	弱	普通		径20mm以下黄色土少量、グライ化。
	5	2.04/2	橙灰黄色	粘土質シルト	強	普通		オレンジ色土少量、グライ化。
	6	06/3	オリーブ黄色	砂質シルト	弱	普通		オレンジ色土少量、グライ化。
	7	2.04/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	強	普通		灰オリーブ色土少量、グライ化。
	8	05/3	灰オリーブ色	砂質シルト	弱	普通		オレンジ色土少量、グライ化。
	9	2.03/2	黒褐色	粘土	極強	普通		径5mm以下土少量、下部に多い、グライ化。
	10	7.04/1	灰色	粘土質シルト	強	普通		灰色土、径5mm少量、グライ化。ただし、北側グライ化せず。にんい黄褐色。
	11	7.06/1	灰色	シルト質砂	弱	普通		グライ化。ただし、北側グライ化せず。灰黄褐色。
	12	7.08/1	灰白色	シルト	普通	普通		灰色土少量、灰白色土10%、グライ化。ただし、北側グライ化せず。にんい黄褐色。
	13	7.05/1	灰色	シルト質砂	極弱	普通		上部黄褐色。下部に多い黄褐色。北側はグライ化せず。
	14	7.05/1	灰色	シルト質砂	極弱	強		ラミナ状の厚層、グライ化。

西区トレンチ2は断面観察による堆積状況及び傾斜角から東西方向に走る河川跡であり、時期は灰白色火山灰及び最下層出土の須恵器喪から10世紀初頭以前であると推測される。この河川跡に対応する地形及び堆積は東区や中区、西区北東隅で確認されておらず、下層調査でも認められないが、下層調査区Dの北壁西隅は西側に向かって下がる傾斜が確認されている(第7図)ことから、河川跡は下層調査区Dの北西隅で立ち上がり、河川の幅はおよそ15m程度と推測される。

3 遺構外出土遺物(第208図)

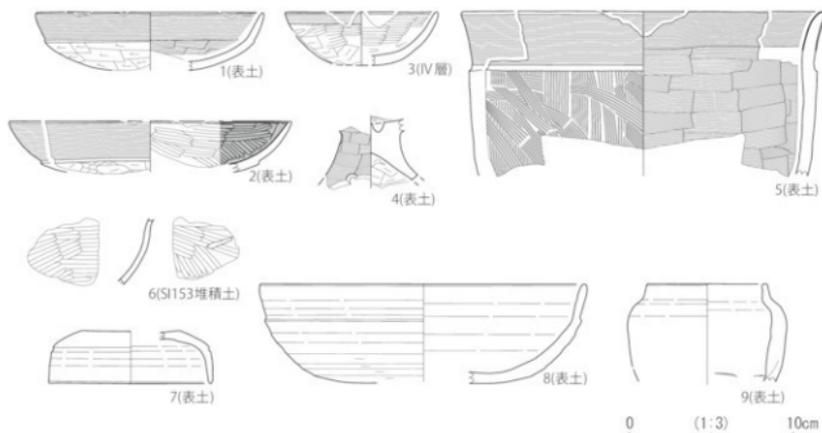
(1) 土師器(第208図)

遺構外から出土した遺物のうち、土師器は6点掲載した(第208図-1～6)。このうち第208図-3は東区北側下層下層調査のIV層調査時に出土しているが、見落としたビットなどの遺構の堆積土中からの出土の可能性がある。また6はSI 153堆積土出土で、遺構の所属時期と明確に異なるため本項に掲載した。それ以外の掲載遺物は表土出土である。第208図-1は土師器環で、内湾する体部から口縁部と体部の境界でわずかに屈曲し、口縁部は直線的に外傾して開く器形を呈する。口縁部と体部の境界外面には段を有し、調整は体部外面はヘラケズリ、体部内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。2は土師器環で、体部から内湾しながら立ち上がる器形を有し、外面は口縁部と体部の境界に段を有する。調整は、外面は体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ、内面はヘラミガキがなされ、内面に黒色処理が施される。3は半球形の土師器環で、内湾し外傾して開く器形を呈する。調整は、外面は口縁部にヨコナデ、体部はヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキが施される。4は土師器器台の台部で、受部には中心からずれた位置に孔がみられる。台部は外反して開き、円形の透孔が2箇所認められ、間隔から6箇所穿孔されていたものと推測される。調整は、受部内面はヘラミガキ、脚部外面はヘラナデ、内面はヘラケズリが施される。5は長胴の土師器喪で、胴部最大径は口縁部との境界にあり、胴部はわずかに内湾し、口縁部はわずかに外傾する器形を呈する。口縁部と胴部の境界に段を有する。調整は、胴部外面は縦方向のハケメ後斜めのハケメが施され、内面はヘラナデ、口縁部は内外面共にヨコナデが施される。6は薄手の土師器環で、内湾して立ち上がる体部の破片である。調整は内外面共にヘラミガキがなされ、内外面共に赤彩が施されている。

時期は、1～5は郡山期Ⅰ～Ⅱ期官衙の時期、本書時期区分5～6期の特徴を有し、6は壺釜式土器の時期、本書時期区分3期の特徴を有する。

(2) 須恵器(第208図)

遺構外から出土した遺物のうち、須恵器は3点掲載した(第208図-7～9)。第208図-7は須恵器の蓋で、天井は平坦で、側面は湾曲し、沈線が施された部分以下はほぼ垂直に垂下する。口縁部にカエリはない。8は須恵器環で、平底から湾曲して立ち上がり、体部と口縁部の境界に段を有し、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる器形を呈する。体部下半には回転ヘラケズリが施される。9は須恵器短頸甕で、体部最大径は肩に位置し、体上部は内湾し、口縁部はほぼ垂直に屈曲して短く垂直に立ち上がる器形を呈する。ロクロ調整のみ認められる。



図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	輪別	器種	部位	径長 mm			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-183	東区北側	表土	-	土師器	杯	口縁~体	14.0	12.6	3.4	口縁:229°,体:292°	口縁:229°,体:292°		69-7
2	C-185	中区北側	表土	-	土師器	杯	口縁~体	11.7(0)	11.3(3)	3.2	口縁:229°,体:292°	口縁:229°,体:292°	内面黑色処理	69-8
3	C-212	東区北側	下層調査区	M層	土師器	杯	口縁~底	19.4	18.8	3.3	口縁:229°,体:292°~302°	口縁:229°,体:292°~302°		69-9
4	C-182	東区北側	表土	-	土師器	蓋付	台	-	-	14.5	台:299°	受:292°,台:292°	透孔遺存残存,非定在陶片	69-10
5	C-184	東区北側	表土	-	土師器	甕	口縁~胴	22.2	-	10.1	口縁:229°,胴:292°	口縁:229°,胴:292°		69-11
6	C-200	中区南側	SI153	堆積土	土師器	杯	体	-	-	-	口縁:229°	口縁:229°	内外面赤彩	69-12
7	E-036	東区南側	表土	-	須恵器	蓋	天井~口縁	16.0	10.0	3.2	口縁調整~化粧	口縁調整		69-13
8	E-037	東区南側	表土	-	須恵器	杯	口縁~底	20.0	13.0	6.1	口縁調整→下層:口縁:292°	口縁調整		69-14
9	E-035	東区北側	表土	-	須恵器	短頸甕	口縁~体	17.2	-	6.1	口縁調整	口縁調整		69-15

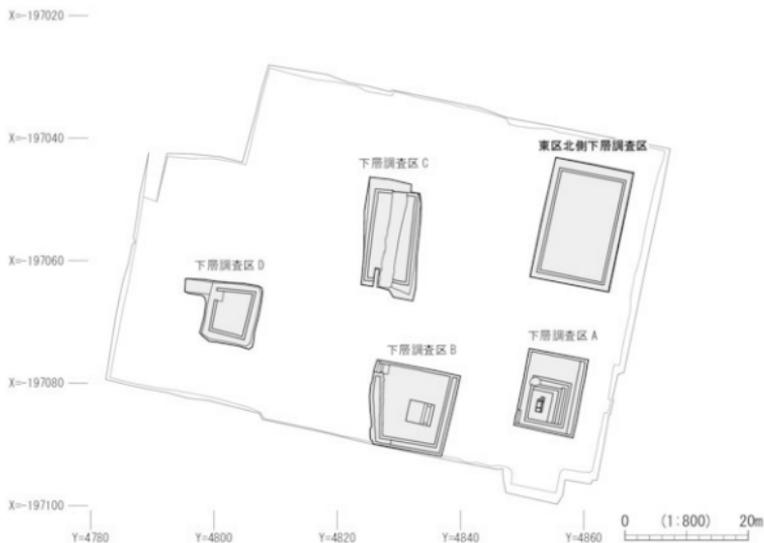
第208図 遺構外出土遺物

第2節 縄文時代～弥生時代の遺構と遺物：IV～X層の調査(第209～234図)

基本層IV層上面での調査終了後、掘削等の影響が少なく、古墳時代以降の遺構検出面としたIV層及びそれ以下の層が良好に残存していると考えられた範囲に下層調査区を設定し、弥生時代以前の遺構・遺物の確認・記録を目的とした調査(下層調査)を実施した。下層調査区の地点名は、それぞれ東区北側下層調査区、下層調査区A、下層調査区B、下層調査区C、下層調査区Dと呼称した(第209図)。中区中央部および西区では、広範囲にわたって掘削が基本層IV層にまで達したため、試掘トレンチによってV層以下を確認した範囲で下層調査のみ実施している。

調査は、基本層IV層は重機にて掘り下げ、基本層V層以下は人力にて掘り下げた。東区北側下層調査区では、層位の誤認によりV層ないしVI層まで重機にて掘り下げている。V層以下は層位的に掘り下げ、各層上面にて遺構や遺物の残存状況を確認し、遺構が確認された場合は各遺構の精査に着手した。基本層V層以上の各層中から出土した遺物は層位毎の一括取り上げを基本とし、基本層VI層以下の各層中からの出土遺物は出土地点と標高値を記録した。東区北側下層調査区および下層調査区C・Dでは基本層VIII層まで、下層調査区A・Bでは基本層XI層まで調査を行った。

その結果、東区北側下層調査区ではVIIa層上面で性格不明遺構1基、VIII層上面でピット3基を、下層調査区A・BではVIIa層上面で水田跡を、下層調査区CではVIIc1層上面で水田跡を検出した。遺物は、東区北側下層調査区のVIIa層、下層調査区A・BのVIIa・X層から集中的に出土したほか、VIII・IX層を除く各層からも少量ながら出土した。また、古墳時代以降の遺構堆積土や遺構検出面からも少量の縄文土器、弥生土器が出土している。これらの遺物の出土地および内訳は、次ページの表に示したとおりである。



第209図 下層調査区配置図

1. 検出遺構(第210～214図)

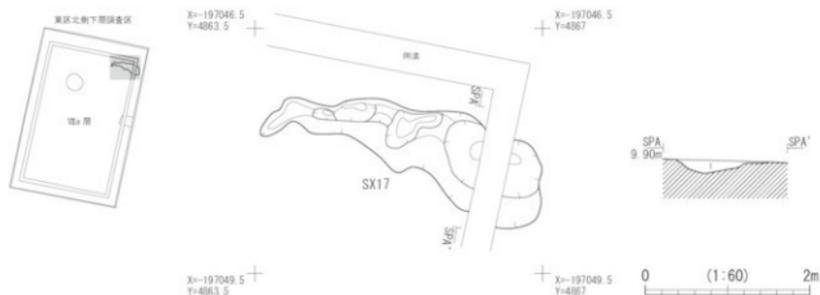
縄文時代～弥生時代の遺構は、VIIa層上面、VIIc1層上面、VIII層上面で確認された。VIIa層上面では、東区北側下層調査区で性格不明遺構1基、下層調査区A・Bで水田跡を、VIIc1層上面では、下層調査区Cで水田跡を、VIII層上面では、東区北側下層調査区でピット3基を検出した。以下、検出遺構について層別別に報告する。

(1) VIIa層上面検出遺構(第210図)

東区北側下層調査区において性格不明遺構1基、下層調査区A・Bにおいて水田跡を検出した。

SX17 性格不明遺構(第210図)

検出した規模は、長軸353cm、短軸116cm、検出面からの深さ16cmを測る。平面形状は不整形、断面形状は皿状を呈し、底面は起伏する。堆積土は、灰オリーブ色砂質シルトを主体とする。比較的均質な単層で、上層のVb層に類似する。遺物は、弥生土器破片が2点、打製石器が4点出土した。このうち、弥生土器破片1点がV～VIIc層出土の弥生土器表に接合し、VI層出土遺物の項において掲載した(第221図-1)。



遺構名	調査区	平面形	規模(m)		層位	土色	土性	備考	重版
			長軸×短軸	深さ					
SX17	東区北側下層調査区	不整形	353×116	16	1	7.5/16/2	灰オリーブ色 砂質シルト	酸化鉄分を多量、褐色土粒を中量含む。全体にグライ化。	

第210図 VIIa層上面検出遺構

水田跡(第211・212図)

下層調査区Aにおいて畦畔を1条、溝跡を1条、水田区画を2区画検出し、下層調査区Bにおいて畦畔を3条、溝跡を1条、水口を1箇所、水田区画を3区画検出した。検出した畦畔、溝跡および水田区画は、いずれも調査区外へ続く。

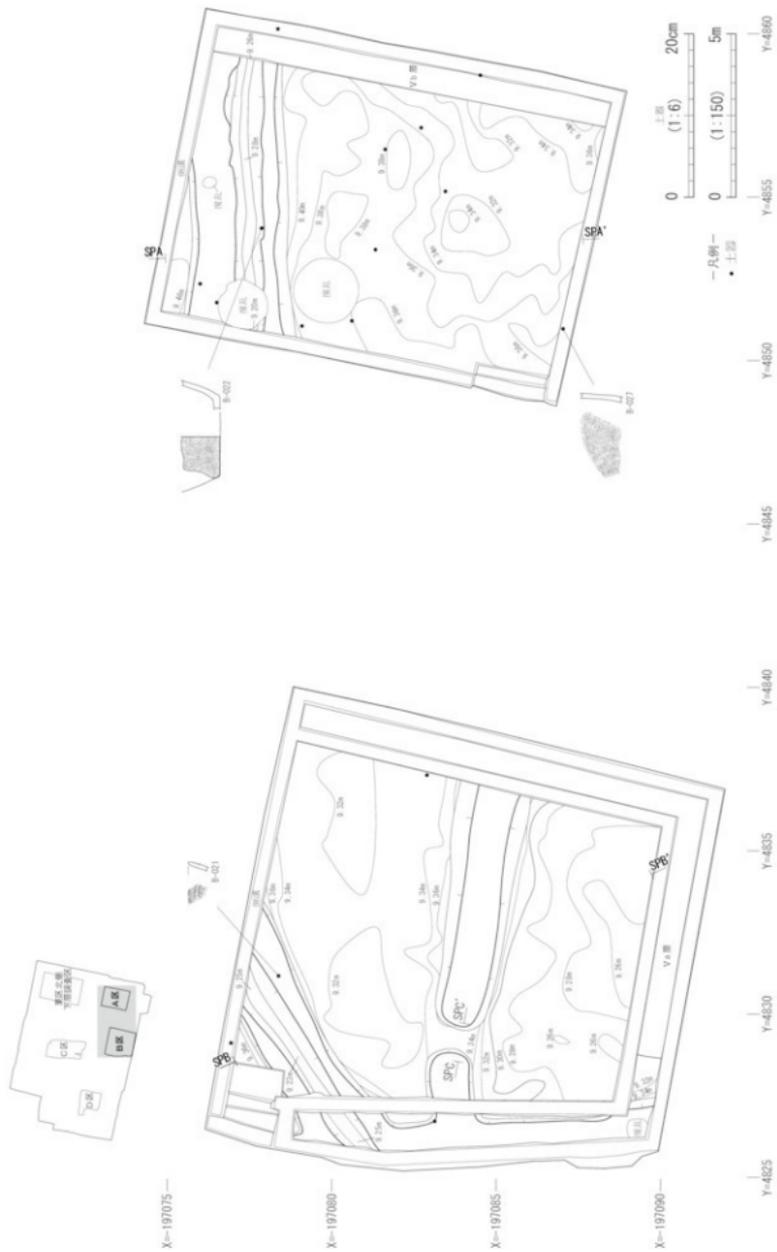
畦畔は、下層調査区Aで東西方向の畦畔を1条、下層調査区Bで東西方向の畦畔2条と、その西端でこれらに交わる南北方向の畦畔を1条検出した。検出した規模は、下層調査区Aの畦畔は走行方向N-89°-E、長さ8.28m以上、上端幅228～277cm、下端幅289～332cm、高さ1～4cmを測り、下層調査区Bでは、東西方向の畦畔のうち北側の1条は走行方向N-60°-E、長さ8.38m以上、上端幅171～207cm、下端幅197～232cm、高さ2～5cm、南側の1条は走行方向N-83°-W、長さ10.35m以上、上端幅110～127cm、下端幅142～225cm、高さ2～10cm、南北方向の畦畔は走行方向N-4°-W、長さ10.95m以上、上端幅89cm以上、下端幅118cm以上、高さ2～8cmを測る。いずれの畦畔も、明確な疑似畦畔は確認されなかった。ただし、下層調査区Bの東壁面において、VIIa層水田耕作土の下層に水田耕作土母材層と考えられるVIIa2層が認められ、畦畔の下面で疑似畦畔状に起伏する状況が確認された。VIIa2層の土質は上層のVIIa層水田耕作土と酷似するため、層理面を平面的に検出することはできなかった。下層調査区Aの畦畔と、下層調査区Bの東西方向の畦畔のうち北側の1条は、畦畔上に同規模の溝跡を伴う。位置関係からも、これら2条は同一の畦畔と考えられる。溝跡を伴う畦畔の上部には、VIIa層水田耕作土よりやや粘性の高い層の堆積が認められる。

畦畔上の溝跡の検出した規模は、下層調査区Aでは長さ8.20m以上、上端幅70～122cm、下端幅19～35cm、深さ16～19cmを測り、下層調査区Bでは長さ7.11m以上、上端幅77～116cm、下端幅28～42cm、深さ12～17cmを測る。いずれも断面形状は皿状を呈する。底面はほぼ平坦で、底面標高は9.20～9.28mを測り、明確な傾斜方向はみられない。溝跡の堆積土はともに3層で、1層はにぶい黄褐色、2層は黄褐色、3層は黒褐色ないし暗褐色を呈す。2層は水田区画を覆うVIb層で、水田区画廃絶時まで開口している。また、1層は畦畔上の堆積土の崩落土由来である。

水口は、下層調査区Bの東西方向の畦畔のうち南側の1条にて検出した。南北方向の畦畔との交点から210cmの位置に設けられ、検出した規模は、上端幅83～127cm、下端幅62～141cm、深さ3cmを測る。堆積土は、接続する水田区画の堆積土と同一(基本層VIb層)で、常時開口している。

水田区画は、下層調査区Aで北側区画・南側区画の2区画、下層調査区Bで北側区画・中央区画・南側区画の3区画を検出した。検出した規模は、下層調査区Aでは、北側区画が長さ4.72m以上、幅84cm以上、南側区画が長さ9.98m以上、幅8.32m以上を測り、下層調査区Bでは、北側区画は長さ4.00m以上、幅88cm以上、中央区画は長さ10.75m以上、幅5.97m以上、南側区画は長さ10.00m以上、幅5.75m以上を測る。各水田区画内の比高差は、下層調査区Aで3～10cm、下層調査区Bで2～8cmを測る。水田区画同士の比高差は、下層調査区Aの北側区画・南側区画間で6cm、下層調査区Bの北側区画・中央区画間で2cm、中央区画・南側区画間で4cmを測り、それぞれ南へ向かって低下する。平面形状はいずれも不明である。ただし、下層調査区Bの中央区画は、南傾する畦畔と東西方向に走る畦畔に挟まれ、三角形の角の形状を呈する。壁面で確認した水田耕作土の層厚は、7～28cmを測り、下面はわずかに起伏する。

遺物は、下層調査区A・BのVIIa層耕作土中から弥生土器20点が出土した。このうち、弥生土器鉢1点、弥生土器深鉢or甕1点、器種不明弥生土器1点の計3点を、VIIa層出土物の項で掲載した(第223～225図)。



第211図 下層調査区A・B Villa Mura di Todi(1)

下層調査区A水田跡



下層調査区B水田跡

SPC
9.50m

Yb

Yc



下層調査区A水田跡土層観察表

標高(m)	土色	土作	備考
Yb	10YR7/4	シルト状粘土	目1~2mmの10YR5/4に多い黒褐色シルトを少量、目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yb	10YR5/3	シルト状粘土	目1~2mmの黒褐色を少量、目1~2mmのヤング土粒を少量含む。
Yb	10YR5/4	砂質シルト	目10~25mmの10YR5/4を黒褐色土層シルト状土層中、目1~5mmの暗褐色を中層含む。
Yc	10YR5/4	シルト	目1~2mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量、目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yc	10YR5/4	砂質シルト	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量、目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yc	10YR5/2	粘土	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量、目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yc	10YR5/3	シルト	目1~2mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量、目1~2mmのヤング土粒を少量含む。黒褐色に富む。(目録掲載1)

下層調査区B水田跡土層観察表

標高(m)	土色	土作	備考
Yb	10YR7/4	シルト	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量含む。黒褐色に富む。黒褐色に富む。黒褐色に富む。
Yb	10YR5/3	シルト	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量含む。黒褐色に富む。黒褐色に富む。黒褐色に富む。
Yb	10YR5/6	砂質シルト	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量含む。目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yc	10YR5/3	砂質シルト	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量含む。目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yc	10YR5/3	粘土	目1~5mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量含む。目1~2mmのヤング土粒を数個含む。
Yc	10YR5/2	粘土	目1~2mmの10YR5/4を黒褐色土層シルトを少量含む。目1~2mmのヤング土粒を少量含む。黒褐色に富む。(目録掲載1)

第212図 下層調査区A・B (Vla清水田跡(2))

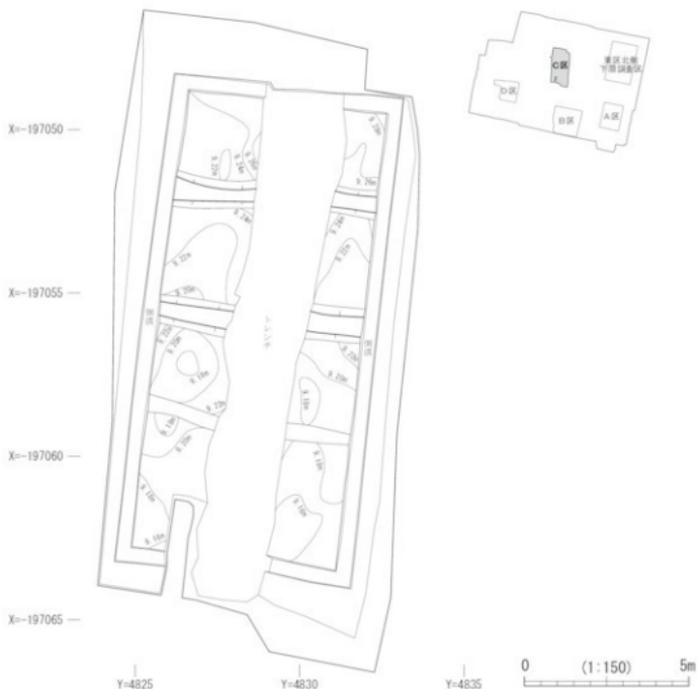
(2) VIIc1層上面検出遺構(第213図)

下層調査区CのVIIc1層において水田跡を検出した。

水田跡は、畦畔を3条、水田区画を4区画検出した。検出した畦畔および水田区画は、いずれも東西方向に走り、両端は調査区外へ続く。3条の畦畔のうち南側の1条は遺存状況が悪く、プランのみを検出した。

畦畔の規模は、北側畦畔は走行方向N-85°-W、長さ6.14m以上、上端幅36～72cm、下端幅82～110cm、高さ1～2cm、中央畦畔は走行方向N-85°-W、長さ6.20m以上、上端幅42～61cm、下端幅87～110cm、高さ1～2cm、南側畦畔は走行方向N-81°-W、長さ6.20m以上、幅31～54cmを測る。いずれの畦畔も、上下面ともに疑似畦畔は確認されなかった。

水田区画の規模は、北端の区画は長さ6.09m以上、幅2.88m以上、中央北側の区画は長さ6.14m以上、幅3.39m、中央南側の区画は長さ6.22m以上、幅2.98m、南端の区画は長さ6.24m以上、幅4.16m以上を測る。平面形状はいずれも不明である。各水田区画は、4～6cmの比高差を測り、全体では南へ向かって12cm低くなる。壁面で確認した水田耕作土の層厚は、4～15cmを測る。出土遺物はない。

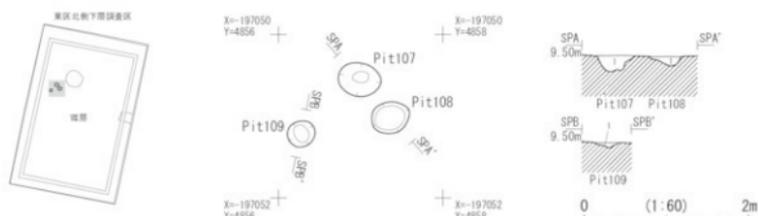


第213図 下層調査区C VIIc1層水田跡

(3) VIII層上面検出遺構(第214図)

東区北側下層調査区のVIII層上面においてピットを3基検出した。

Pit107～109は、集中して検出され、他遺構との重複関係はない。平面形状はいずれも円形で、断面形状は皿状を呈し、底面は起伏する。木根跡の可能性もあるが、堆積土は炭化物を含み、基本層VII層より暗い。出土遺物はない。



遺構名	調査区	平面形	規模(m)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit107	東区北側下層調査区	円形	51×41	20	1	10YR5/1	粘灰色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。
Pit108	東区北側下層調査区	円形	48×39	11	1	10YR5/1	粘灰色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
Pit109	東区北側下層調査区	円形	34×32	7	1	10YR5/1	粘灰色	粘土質シルト	炭化物を微量に含む。

第214図 VIII層上面検出遺構

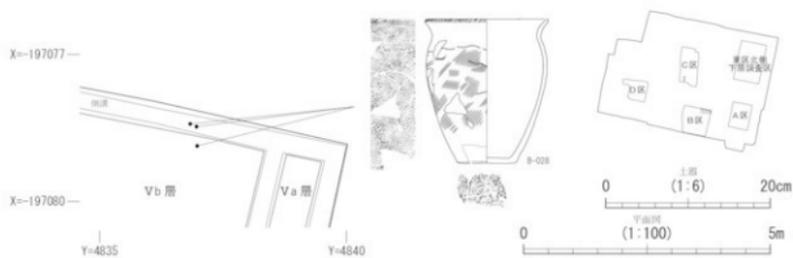
2. 出土遺物(第216～234図)

縄文時代～弥生時代の遺物は、IV層から4点(約26.3g)、V層から57点(約1028.5g)、VI層から30点(約775.4g)、VIIa層から187点(約3068.3g)、VIIb層から19点(約216.9g)、VIIc層から13点(約182.7g)、V～VII層から105点(約3339.3g)、X層から86点(約771.3g)、層位不明は25点(約297.9g)出土し、今次調査全体では526点(約9706.6g)が出土した。このうち、弥生土器24点、縄文土器5点、打製石器2点、石製品1点の計32点を掲載した。また、出土地点は層位別に、出土標高値はVIII層以上とX層に分けて図示し、出土標高値については、東区北側下層調査区は第217図にて、下層調査区A・Bは、弥生土器は第223・224図、縄文土器は第230・231図にて掲載した。以下、出土遺物について層位別に報告する。

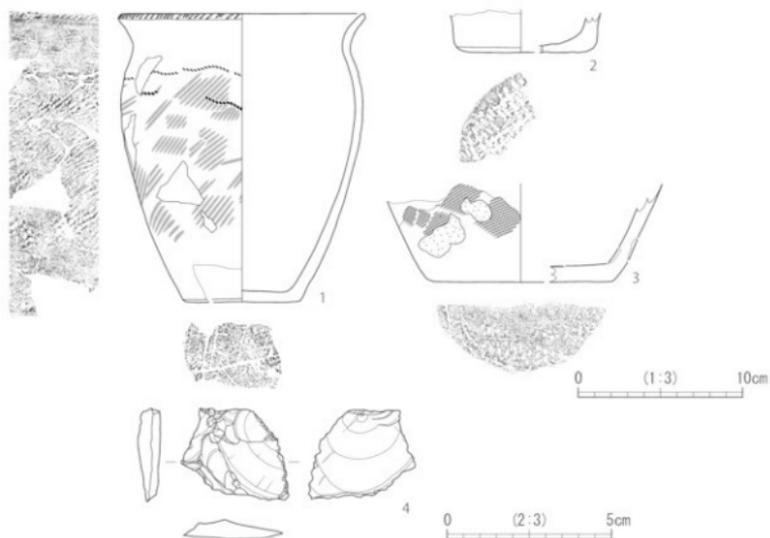
(1) V層出土遺物(第215・216図)

東区北側下層調査区のV層から総数37点(約637.5g)、下層調査区BのVa層から総数20点(約391.0g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)(第215図)。このうち、東区北側下層調査区から弥生土器鉢or壺1点・深鉢or甕1点、剥片石器1点、下層調査区Bから弥生土器甕1点の計4点を掲載した(第216図)。ここでは、V層とVa層出土遺物を合わせて報告する。

弥生土器甕(第216図-1)は、最大径を口縁部に持ち、体部下半が直線的に外傾したのち体部上半で内湾し、直線的に外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口唇部に刻み、体部内面にナデが施され、体部外面には無節のL縄文を施文したのち、体部上半に縄文押圧が施される。底部には木葉痕がみられる。



第215图 下層調査区B Va層遺物出土状況



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	法量 (cm)			備考	写真 採取
										口径	底径	高さ		
1	B-028	下層調査区B	-	Va層	弥生土器	甕	口縁一截	口縁: 斜文, 体上縁文様位同斜文・丸縁文様位, 底: 木葉文	斜	15.0	7.2	17.7		70-1
2	B-013	北區北側 下層調査区	-	V層	弥生土器	钵	体下部 一底	体下部: 斜文・丸縁文, 底: 網代文	斜	-	(8.2)	(2.4)		70-2
3	B-012	北區北側 下層調査区	-	V層	弥生土器	深鉢 or 甕	体下部 一底	口縁文様位同斜文, 体下部: 斜文・丸縁文, 底: 網代文・斜文	斜	-	(11.2)	(6.0)		70-3
図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (cm)				備考	写真 採取		
							全長	幅	厚	重量 (g)				
4	Ka-001	北區北側 下層調査区	-	V層	打製石器	刮片	2.3	3.3	7.0	5.4		流紋岩		70-4

第216图 V層出土遺物

弥生土器鉢or壺(第216図-2)は、底部から体部下端の破片資料で、平底の底部から体部下端がほぼ垂直に立ち上がる器形を呈する。体部外面にケズリのちミガキ、内面にミガキが施され、底部には網代痕がみられる。

弥生土器深鉢or甕(第216図-3)は、底部から体部下半の破片資料で、平底の底部から体部が直線的に外傾する器形を呈する。体部外面はLR縄文が施文され、体部下端と内面にミガキが施される。底部には網代痕がみられ、ミガキが施される。

剥片石器(第216図-4)は剥片で、石材は流紋岩である。微細剥離があるが、使用痕は観察できない。

(2) VI層出土遺物(第217～221図)

東区北側下層調査区のVI層から総数26点(約628.3g)、V～VII層から総数105点(約3339.3g)、下層調査区AのVIb層から総数1点(約32.7g)、下層調査区BのVIb層から総数3点(約114.4g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)(第217～219図)。このうち、東区北側下層調査区から弥生土器鉢2点・深鉢1点・深鉢or壺1点・甕1点、下層調査区Aから弥生土器蓋1点、下層調査区Bから弥生土器鉢1点の計7点を掲載した(第220・221図)。V～VII層出土と位置付けた遺物は、各層中から出土し層位をまたいで接合したもので、ここではVI・VIb層出土遺物と合わせて報告する。

弥生土器甕(第220図-1)は、最大径を口縁部に持ち、直線的に外傾する体部から短く外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部内外面にヨコナデ、体部上端に列点刺突文、体部内面にミガキが施され、口唇部と体部外面にはLR縄文が施文される。樹形囲式の特徴を持ち、時期は弥生時代中期中葉と思われる。

弥生土器鉢(第220図-2・3)は、2は、最大径を口縁部に持ち、体部から口縁部まで連続して直線的に外傾する器形を呈する。口縁部および体部の内外面にナデのちミガキが施される。3は、底部から体部下半の破片資料で、平底の底部から体部が直線的に外傾する器形を呈する。体部外面は燃糸文が施文され、体部下端にケズリ、内面にケズリのちミガキが施される。底部には網代痕がみられる。

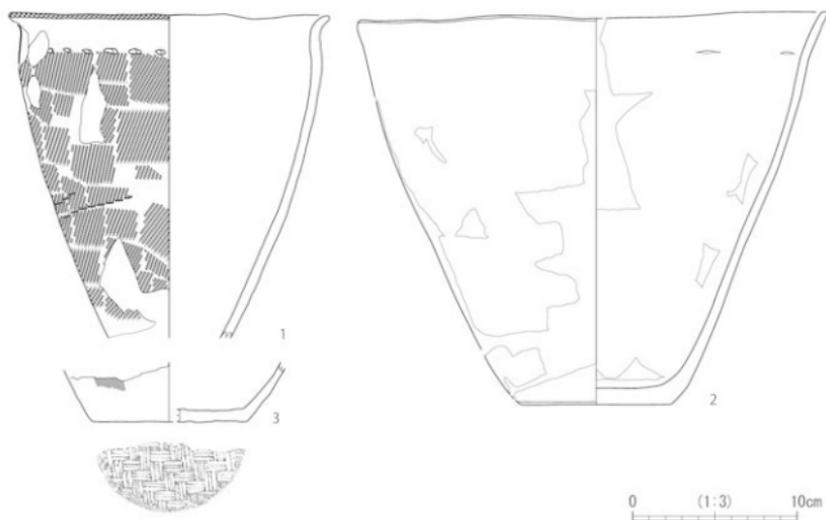
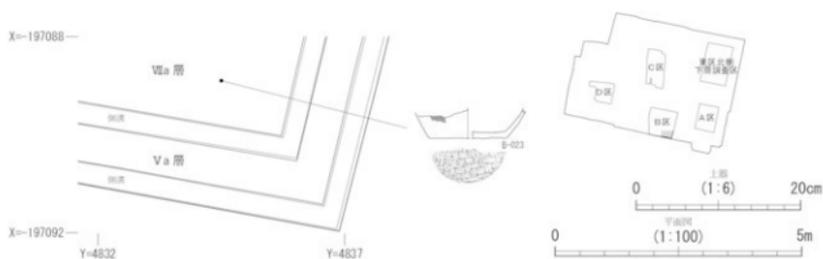
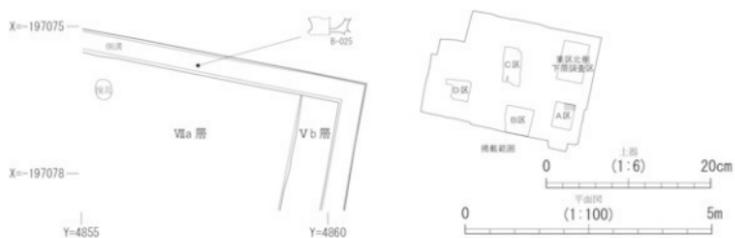
弥生土器深鉢(第221図-1)は、最大径を体部上端に持ち、直線的に外傾する体部から緩やかに内湾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁・体部の外面に燃糸文が施文され、口縁部外面には3条の沈線による横位直線文の施文のち、数箇所に切り込みが施される。体部下端と内面にミガキが施され、底部には木葉痕がみられる。体部内外面に、煤の付着がみられる。弥生土器深鉢or壺(第221図-2)は、底部から体部下半の破片資料で、平底の底部から体部が直線的に外傾する器形を呈する。体部外面はLR縄文が施文され、内面にナデのちミガキが施される。底部には木葉痕がみられる。

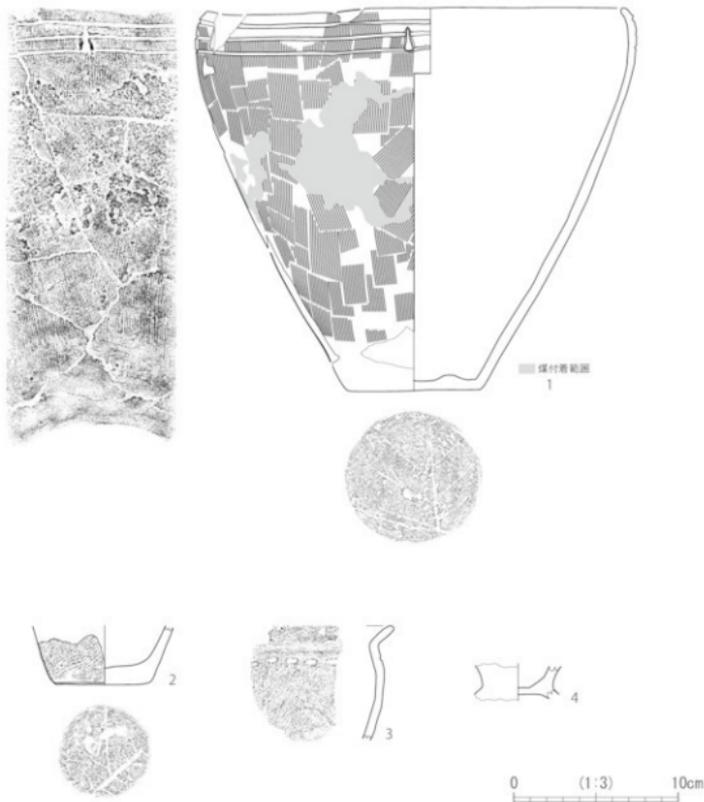
弥生土器甕(第221図-3)は、口縁部から体部上半の破片資料で、緩やかに内湾する体部上半から直線的に外傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部上端に列点刺突文が施され、体部はLR縄文が施文される。

弥生土器蓋(第221図-4)は、つまみ部の破片資料で、外面にヨコナデ、内面にミガキが施される。



第217図 東区北側下層調査区 VI層遺物出土状況





DBS 番号	登録 番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	法量 (cm)			備考	写真 図版
										口径	底径	高さ		
Z20-1	B-002	堀区北側 下地調査区	-	V~Ma層	弥生上層	甕	1層~1底	1層:1層間文様位同軸→1層:2層 →1層:3層間文様(→1層)	2層:2層 →1層	20.2	-	(19.8)		70-5
Z20-2	B-010	堀区北側 下地調査区	-	V~Ma層	弥生上層	鉢	1層~1底	1層:1層間	1層:1層間	28.4	9.2	24.0		70-6
Z20-3	B-023	下地調査区B	-	Ma層	弥生上層	鉢	1層~1底	1層:1層間同軸→1層:1層間同軸 →1層:1層間同軸	1層:1層間 →1層	-	0.3	0.8		70-7
Z21-1	B-019	堀区北側 下地調査区	SX17	V~Ma層	弥生上層	深鉢	1層~1底	1層:1層間同軸→1層:1層間同軸 →1層:1層間同軸 (横位参照文)	1層:1層間	25.5	8.0	23.4	内外面煤付着	70-11
Z21-2	B-003	堀区北側 下地調査区	-	Ma層	弥生上層	深鉢 or 盆	1層~1底	1層:1層間同軸→同位同軸。底:木葉直	1層:1層間	-	5.5	0.0		70-8
Z21-3	B-016	堀区北側 下地調査区	-	Ma層	弥生上層	甕	1層~1底	1層:1層間同軸→1層:1層間同軸 →1層:1層間同軸	1層:1層間 →1層	-	-	-	煤付	70-9
Z21-4	B-025	下地調査区A	-	Ma層	弥生上層	甕	1層~1底	1層:1層間同軸→1層:1層間同軸 →1層:1層間同軸	1層:1層間 →1層	-	-	-		70-10

第221図 VI層出土遺物(2)

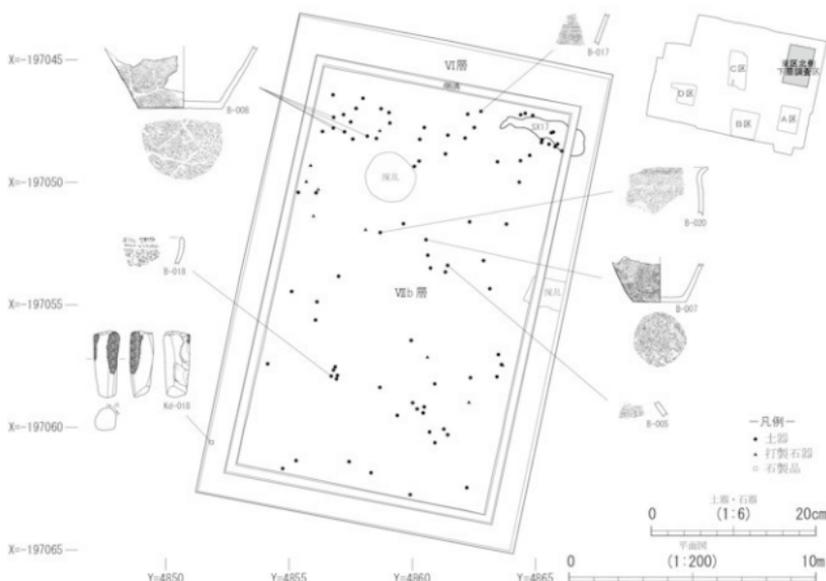
(3) VIIa層出土遺物(第222～225図)

東区北側下層調査区から総数162点(2798.7g)、下層調査区Aから総数15点(207.8g)、下層調査区Bから総数5点(約25.6g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)(第222～224図)。このうち、東区北側下層調査区から弥生土器壺1点・壺or鉢1点・鉢2点・深鉢1点・甕1点、器種不明石製品1点、下層調査区Aから弥生土器深鉢or甕1点、器種不明弥生土器1点、下層調査区Bから弥生土器鉢1点の計10点を掲載した(第225図)。

弥生土器壺(第225図-1)は、体部の破片資料で、体部外面は横位直線文と方形文が施される。時期は、弥生時代中期中葉(樹形Ⅲ式)～中期後半と思われる。

弥生土器鉢or壺(第225図-2)は、底部から体部下半の破片資料で、平底の底部から体部が直線的に外傾する器形を呈する。体部外面はLR縄文が施文され、体部下端にナデのちミガキ、内面にミガキが施される。底部には木葉痕がみられる。

弥生土器鉢(第225図-3～5)は、3は、底部から体部下半の破片資料で、平底の底部から体部が直線的に外傾する器形を呈する。体部外面はLR縄文が施文され、体部下端にヘラケズリ、内面にナデのちミガキが施される。底部に網代痕がみられる。4は、体部の破片資料で、体部外面に3本同時施文の横位・斜位直線文、内面にミガキが施される。時期は、弥生時代中期中葉～中期後半と思われる。5は、口縁部の破片資料で、口縁部外面にLR縄文の施文と沈線を用いた磨滑縄文手法による横位直線文・方形文、口縁部内面にミガキが施され、地紋部には赤彩が残る。時期は、弥生時代中期と思われる。



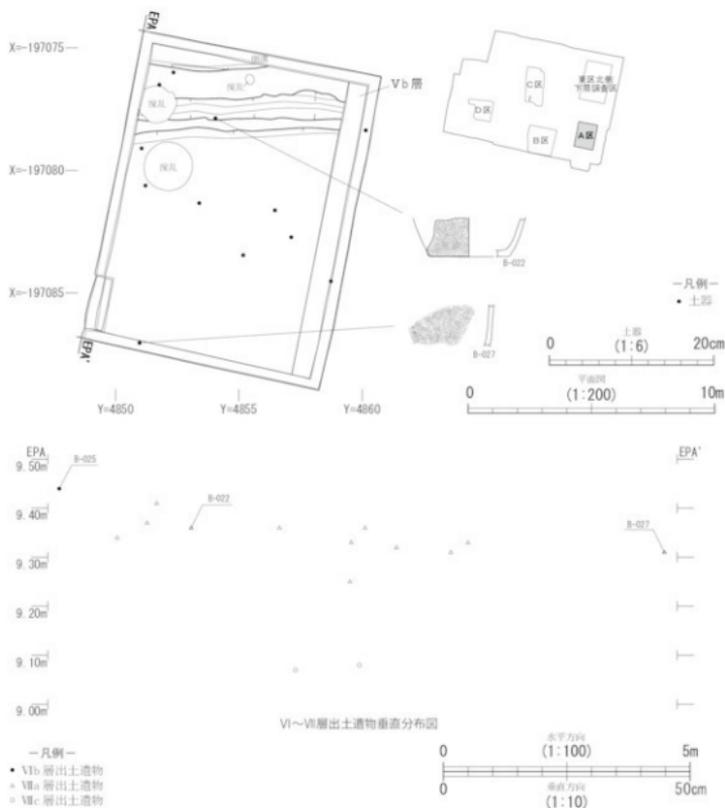
第222図 東区北側下層調査区 VIIa層遺物出土状況

弥生土器深鉢(第225図-6)は、口縁部の破片資料で、口縁部外面にLR縄文の施文と横位直線文、内面にミガキが施される。

弥生土器深鉢or甕(第225図-7)は、底部から体部下半の破片資料で、平底の底部から体部が直線的に外傾する器形を呈する。体部外面はLR縄文が施文され、体部下端と内面にミガキが施される。

弥生土器甕(第225図-8)は、口縁部から体部上半の破片資料で、わずかに内湾する体部上半から外反する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部内外面にヨコナデ、体部上端に列点刺突文、体部内面にミガキが施され、口唇部と体部外面はLR縄文が施文される。時期は、弥生時代中期中葉と思われる。

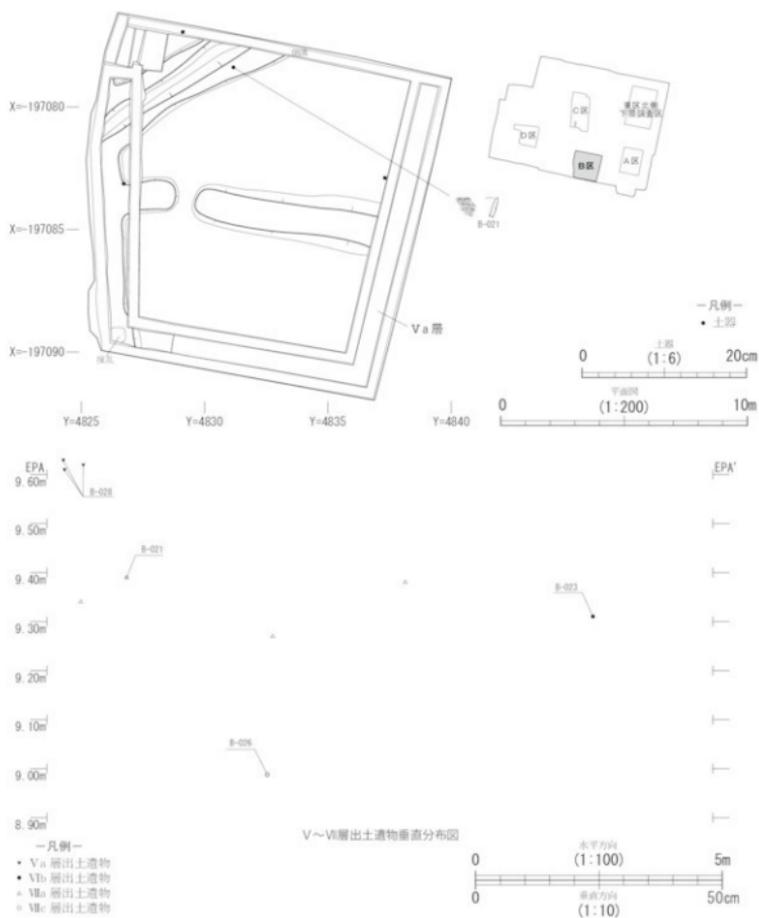
器種不明弥生土器(第225図-9)は、わずかに内湾する体部資料である。外面はLR縄文が施文され、内面にケズ



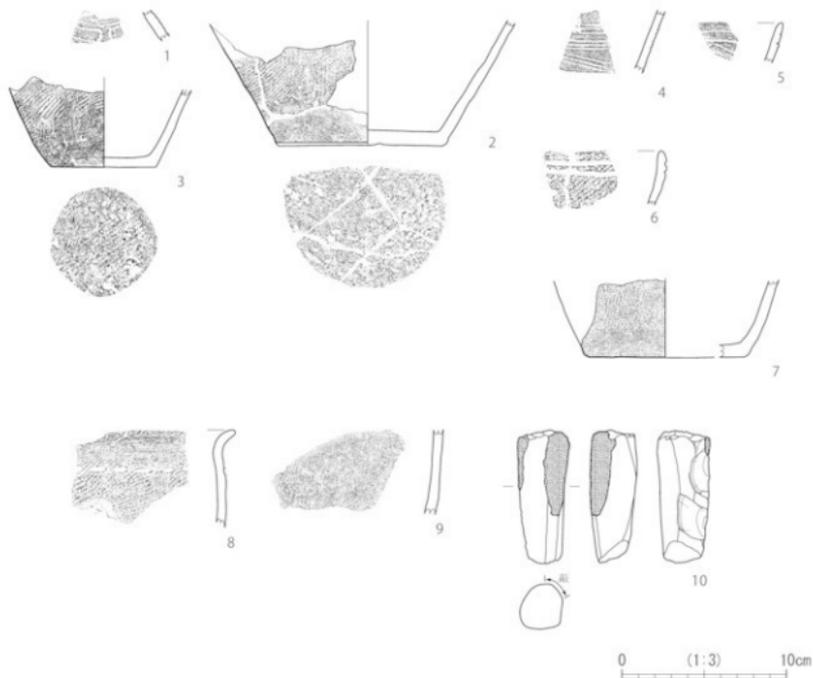
第223図 下層調査区A VIIa層遺物出土状況

りのちミガキが施される。

石製品(第225図-10)は器種不明石製品で、石材は砂岩である。両端が欠損する棒状を呈し、側面に敲痕がみられる。



第224図 下層調査区B Vlla層遺物出土状況



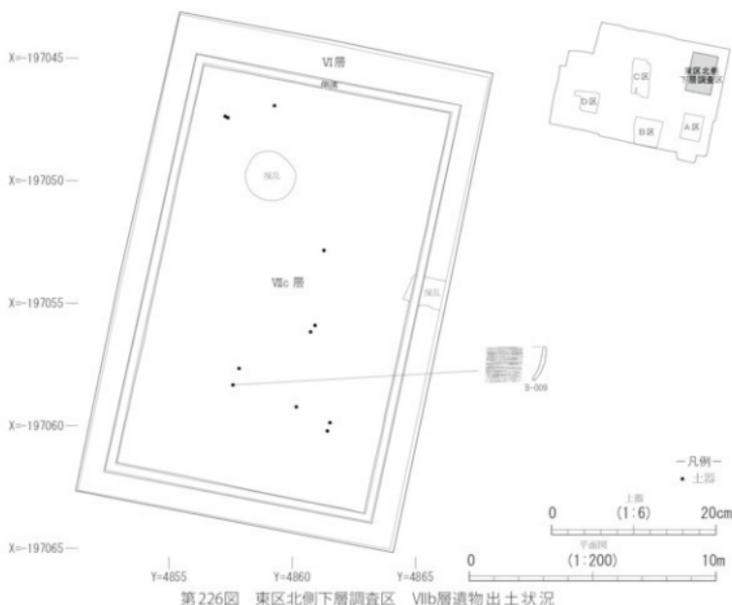
図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調整(文様)		内面調整(文様)			備考	写真掲載	
								上縁	底縁	上縁	底縁	高さ			
1	B-005	東区北側下層調査区	-	Vla期	赤牛土層	甕	体	沈積横位直線文・方形点	-	-	-	(1.8)	内面摩滅	71-1	
2	B-008	東区北側下層調査区	-	Vla期	赤牛土層	Boce甕	体下半~底	L80度文横位・斜位同軸・体下部:「フ」→「フ」・底:木型直	沈*	-	-	10.5	(7.7)	-	71-2
3	B-007	東区北側下層調査区	-	Vla期	赤牛土層	鉢	体下半~底	体下部:「フ」→「フ」・底:木型直	沈*	-	-	(5.4)	(5.5)	-	71-3
4	B-017	東区北側下層調査区	-	Vla期	赤牛土層	鉢	体	沈積横位・斜位直線文	沈*	-	-	(3.8)	-	外面沈積143本(同形)直文	71-4
5	B-021	下層調査区B	-	Vla期	赤牛土層	鉢	L口縁	L80度文横位同軸→沈積→「フ」→木型直(二ホ直)	沈*同軸	-	-	(2.5)	-	-	71-5
6	B-018	東区北側下層調査区	-	Vla期	赤牛土層	深鉢	L口縁~体下部	L80度文横位・斜位同軸→沈積(横位直線文)	沈*	-	-	(3.2)	-	-	71-6
7	B-022	下層調査区A	-	Vla期	赤牛土層	深鉢or甕	体下半~底	L80度文横位・斜位同軸→体下部:「フ」	沈*同軸	-	-	(9.5)	(4.8)	-	71-7
8	B-020	東区北側下層調査区	-	Vla期	赤牛土層	甕	L口縁~体下半	L80度:「フ」→「フ」(体L80度文横位・斜位同軸→体:両山形直(二→右))	L口縁:沈*	-	-	(5.0)	-	-	71-8
9	B-027	下層調査区A	-	Vla期	赤牛土層	不明	体	L80度文横位同軸	沈*	-	-	(5.1)	-	-	71-9
図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量(mm)		材質			備考	写真掲載		
10	Kd-018	東区北側下層調査区	-	Vla期	石製品	不明	全長	幅	厚	重量(g)			石材	71-10	
							8.2	3.2	2.7	108.6(99)					

第225図 Vla層出土遺物

(4) VIIb層出土遺物(第226・227図)

東区北側下層調査区のVIIb層から総数19点(約216.9g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)(第226図)。このうち、弥生土器跡1点を掲載した(第227図)。

弥生土器跡(第227図-1)は、やや外傾する口縁部の破片資料である。口縁部外面にヨコナデと横直線文、内面にミガキが施される。時期は、弥生時代中期と思われる。



第226図 東区北側下層調査区 VIIb層遺物出土状況



図録番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種類	器種	部位	外面調査(文様)		法相(cm)		備考	写真掲載	
								文様	形状	上径	高さ			
1	B-009	東区北側下層調査区	-	VIIb層	弥生土器	鉢	口縁	(波)横直線文	(波)横直線文	-	-	(4.2)	-	(71-11)

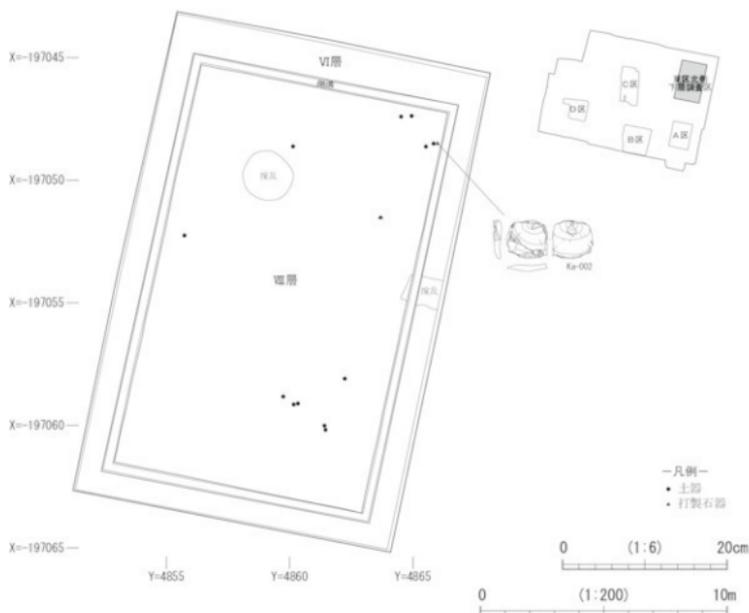
第227図 VIIb層出土遺物

(5) VIIc層出土遺物(第228～230図)

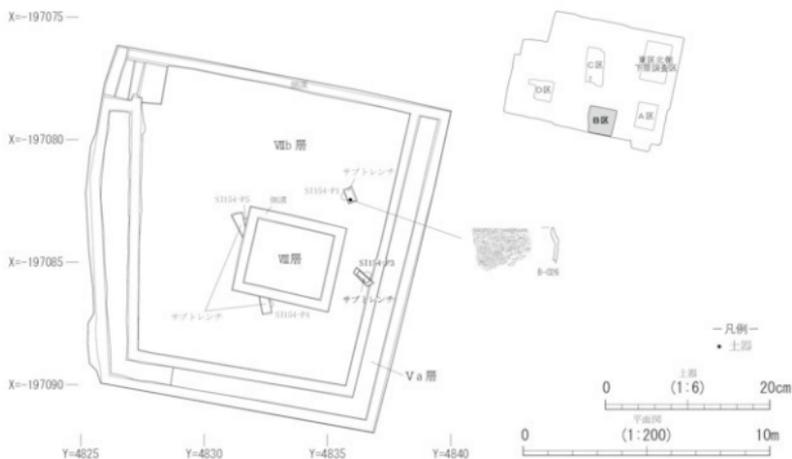
東区北側下層調査区のVIIc層から総数11点(約154.2g)、下層調査区AのVIIc層から総数1点(約5.9g)、下層調査区BのVIIc1層から総数1点(約22.6g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)(第228・229図)。このうち、東区北側下層調査区から剥片石器1点、下層調査区Bから弥生土器深鉢1点の計2点を掲載した(第230図)。ここでは、VIIc・VIIc1層出土遺物を合わせて報告する。

弥生土器深鉢(第230図-1)は、口縁部から体部上半の破片資料で、直線的な体部上半から内傾する口縁部にいたる器形を呈する。口縁部外面に横位直線文が施される。内外面ともに摩滅が著しい。

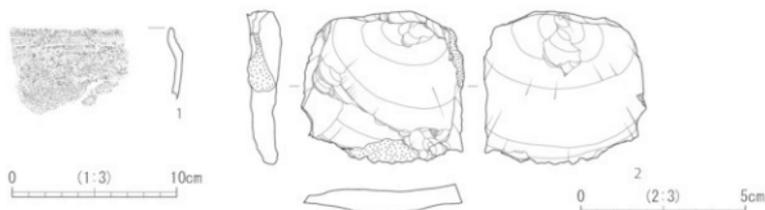
剥片石器(第230図-2)の石材は安山岩で、自然面が一部残る。



第228図 東区北側下層調査区 VIIc層遺物出土状況



第229図 下層調査区B Vlc1層遺物出土状況



図録番号	発掘番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外周測線 (支線)	内周測線 (支線)	法量 (mm)			備考	写真 掲載
										口径	口径	高さ		
1	B-026	下層調査区B	-	Vlc1層	赤土器	深鉢	口縁 ~体1/4	(口縁:沈線)横位直線文	-	-	-	(4.4)	内外面に厚減	71-12
図録番号	発掘番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	法量 (mm)			備考	写真 掲載			
							口径	口径	厚					
2	Ka-002	東区北側 下層調査区	-	Vb層	打製石器	刮削	4.7	4.9	5.2	22.0	燧石打	自然面一部残存	-	71-13

第230図 Vlc層出土遺物

(6) X層出土遺物(第231~233図)

下層調査区Aから総数80点(約680.6g)、下層調査区Bから総数6点(約90.7g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)。このうち、下層調査区Aから縄文土器鉢2点・深鉢2点、下層調査区Bから器種不明縄文土器1点の計5点を掲載した(第231・232図)。

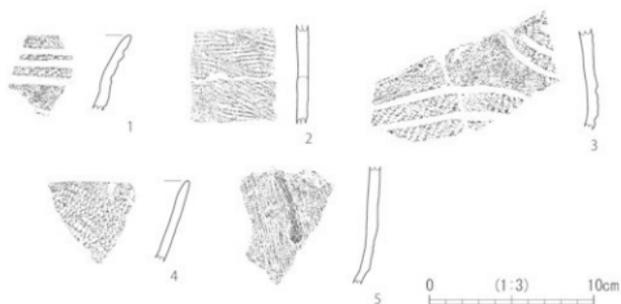
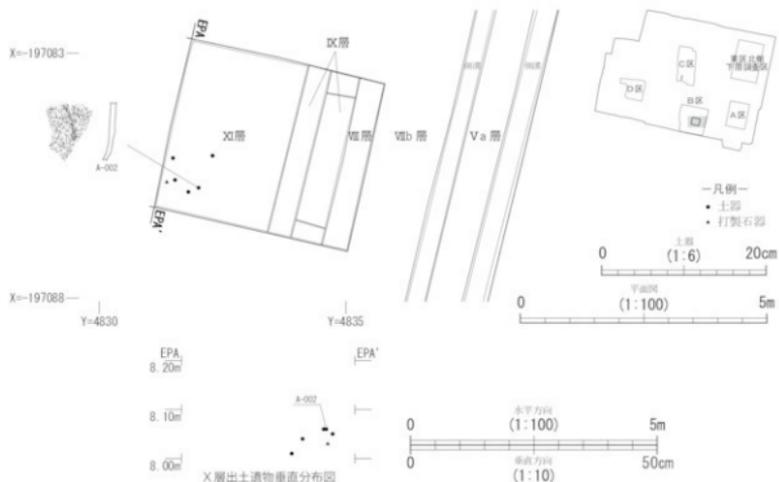
縄文土器鉢(第233図-1・2)は、1はほぼ直線的に外傾する口縁~体部上端の破片資料で、口縁部外面にはLR縄文の施文と沈線を用いた磨消縄文手法による横位直線文が施文される。2は直線的な器形を呈す体部の破片資料で、外面はLR縄文が施文され、内面にケズリのちミガキが施される。縄文土器深鉢(第233図-3・4)は、3はわずかに

内湾する体部の破片資料で、外面はRL縄文の施文と沈線を用了磨消縄文手法による弧状文が施文される。時期は縄文時代後期後半と思われる。4は直線的に外傾する口縁部の破片資料で、外面はヨコナデを施したのちRL縄文が施文され、内面にはナデが施される。

器種不明縄文土器(第233図-5)は、わずかに内湾する体部の破片資料で、外面は燃糸文が施文され、内面にはヘラナデが施される。



第231図 下層調査区A X層遺物出土状況



調査番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	形状	部位	外面測線 (文相)	内面測線 (文相)	法相 (mm)			備考	寸法 (mm)
										口径	底径	高さ		
1	A-001	下層調査区A	-	X層	縄文土器	鉢	口縁 ~体上端	〔法相: 縄文横位測線~(沈線)→FF (横位測線文(器)的縄文)〕	-	-	-	4.7	内面浮線	71-14
2	A-003	下層調査区A	-	X層	縄文土器	鉢	体	〔法相: 縄文斜位測線〕	FF	→	→	-	-	71-15
3	A-004	下層調査区A	-	X層	縄文土器	深鉢	体	〔法相: 縄文横位~斜位測線~(沈線)→FF (器口文相的縄文)〕	-	-	-	-	内面浮線	71-16
4	A-005	下層調査区A	-	X層	縄文土器	深鉢	口縁 ~体上端	〔法相: 沈線~(沈線)→(器口文相的縄文)〕	FF	-	-	-	-	71-17
5	A-002	下層調査区B	-	X層	縄文土器	不明	体	〔法相: 縄文横位測線〕	FF	-	-	-	跡分付若	71-18

第233回 X層出土遺物

(7) 層位不明出土遺物 (第234図)

東区北側下層調査区から総数17点(約153.0g)、下層調査区Bから総数2点(11.4g)、下層調査区Cから総数1点(45.6g)、後世遺構から総数1点(38.1g)、東区表土から総数4点(49.8g)の遺物が出土した(出土遺物一覧表参照)(第234図)。このうち、東区北側下層調査区から弥生土器深鉢1点、下層調査区Cから弥生土器蓋1点、後世遺構のSI142から弥生土器壺1点の計3点を掲載した。

弥生土器壺(第234図-1)は、内傾する肩部の破片資料である。外面にRL縄文の施文と沈線を用いた磨消縄文手法による横位直線文・楕円文・弧状文、内面にミガキが施される。時期は、弥生時代中期前葉と思われる。

弥生土器深鉢(第234図-2)は、口縁部から体部上端の破片資料で、口縁部はやや外傾し、口縁部と体部の境に括れを持つ器形を呈する。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデのちミガキが施され、体部外面にLR縄文が施文される。

弥生土器蓋(第234図-3)は、つまみ部の破片資料で、外面にナデ、内面にナデのちミガキが施される。



図版番号	登録番号	調査区	出土地	層位	種別	器種	部位	外面調査 [文様]	内面調査 [文様]	法量 (mm)			備考	写真 現拠
										口径	底径	高さ		
1	B-001	東区南側	SI142	埋藏土	弥生土器	壺	肩部	横位直線文・楕円文・弧状文	ミガキ	-	-	(5.2)		71-19
2	B-015	東区北側 下層調査区	-	-	弥生土器	深鉢	口縁	口縁:ヨコナデ・LR縄文 体部:LR縄文	ナデ・ミガキ	-	-	(4.2)		71-20
3	B-024	下層調査区C	-	-	弥生土器	蓋	つまみ	ナデ	ナデ・ミガキ	-	-	(2.3)		71-21

第234図 層位不明出土遺物

第6章 総括

仙台市あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査は、平成10年から主に道路計画部分を対象に開始し、西台畑遺跡(平成10～13・17・19年度)、郡山遺跡(平成13・16～18・20・21年度)、長町駅東遺跡(平成13～21年度)の発掘調査が行われている。その後は事業の進捗に伴い、供用が開始された事業用地を対象とした発掘調査が、西台畑遺跡(平成24・25・27年度)、郡山遺跡(平成22・25年度)、長町駅東遺跡(平成23・25年度)で行われている。

西台畑遺跡の調査では、総数250軒を超える竪穴住居跡のなかで、第1～3次調査(平成10～13年)で、竪穴住居跡の配置や構造に一定の規格を持った区域があることが想定されるほか、郡山Ⅱ期官衙外郭大溝のさらに外側に配置された溝(Ⅱ期官衙外溝)が初めて確認された。また、その周辺からは郡山官衙と同時期あるいは前後する時期の竪穴住居跡が多数確認され、郡山官衙造営時を含めて官衙城西側の様相を検討するうえでの良好な資料となっている(第252図)。このほか、弥生時代中期の遺物包含層や墓域に加え、第5・7次調査(平成17・19年)、そして今回報告する第9次調査では同時期の水田跡が確認された。また、縄文時代後期～晩期の遺物包含層も確認されるなど、昭和32年(1957)の遺跡発見から半世紀以上が過ぎ、遺跡の内容について新たな知見が得られている(仙台市教委2010a・2010b・2011、2013a・2013b)。

郡山遺跡の調査では、平成13年に行われた第144次調査において、L字形に伸びる溝跡が確認されている(仙台市教委2010a)。この溝跡は、Ⅰ期官衙西辺の推定ラインから西75mに位置し、南北方向に伸びる部分では平行している。Ⅰ期官衙に関連する施設が、官衙周辺の土地割に伴う施設と考えられる。また、平成16・17年度(2004・2005)の第167次調査では、Ⅱ期官衙外溝の北西コーナー部および北辺が検出され、同時期に国庫補助により行われた第166次調査で検出された東辺とともに、これまで南辺と西辺で確認されていた外溝は、官衙の西辺に存在していることが明らかになっている(仙台市教委2013Cほか)。

長町駅東遺跡の調査では、350軒以上の竪穴住居跡が発見されており、集落を区画する大規模な溝跡や材木列跡、これに先行して造られた一本柱列跡が確認され、集落の構造が明らかになってきている。また、第3・4次調査(平成15・16年度)において、弥生時代中期中葉に形成された居住域(竪穴住居跡)・生産域(水田跡)・墓域(土器棺墓・土壇墓)が確認されている(仙台市教委2007・2008a・2008b・2009・2012ほか)。

あすと長町に關係する発掘調査の開始から18年が経過した現在、郡山遺跡官衙の構造に関わるような遺構の発見だけでなく、官衙の西側に大規模な関連集落が形成され、官衙の成立と共に発展し、官衙の機能が終焉をむかえるのに合わせるように衰退していく状況が明らかになってきた。

西台畑遺跡の南西部で行われてきた7次～13次調査の成果から、集落としての初現は古墳時代前期にあることや、西側を南北方向に伸びる旧河川(広瀬川)に沿うように材木列が延びることが想定される。調査開始当初に北半部で行われた1次～6次調査とあわせれば、調査範囲は現状で調査可能な遺跡登録範囲のほぼ全域に及んでいるが、西台畑の集落は長町駅東遺跡の集落のような区画施設を持たないことが明らかになってきた。

本章では、出土した遺物についてこれまでの報告書の時期区分を基にした区分を行い、その時期区分に沿って検出遺構を整理した。さらにカマドが残り竪穴住居跡の構造が判断できるものについて属性を整理し、まとめとした。

第1節 出土遺物

今次調査では、縄文時代後期～晩期、弥生時代中期、古代、中近世の遺物が出土している。遺物の時期は、仙台平野における土器編年やこれまでの先行研究(一迫町教育委員会1985・1998、国土館大考古学論文篇2009、仙台市教委1994・2005・2010b、仙台市史編さん委員会1995、斎野2008、長島2009ほか)と、既刊の西台畑遺跡調査報告書を基本とし、8時期に区分される。このうち、7・8期の遺物は、今次調査では図示していない小片が数

点出土したのみであり、詳細は第5章第1節1.古代～中世の遺構と遺物(3)遺構外出土遺物に記載した。

以下、本節では、まとめて遺物が出土した1～6期の遺物について報告する。

1.1期：縄文時代後期～晩期の遺物(第235図)

基本層X層からは少量の縄文土器片が出土したが、全体の器形がわかる資料は無い。A-004は縄文時代後期後葉の金剛寺式(楯付土器)に位置づけられ、その他の土器も概ね縄文時代後期中葉の宝ヶ峰式～晩期中葉の大洞C式までの時期に位置づけられると考えられる。

2.2期：弥生時代中期の遺物(第236図)

基本層IV～VII層から出土した土器のうち型式学的特徴から弥生土器に位置づけられるものを第236図に示した。出土した遺物のうち全体の器形がわかるものは、下層調査区BのV層から出土したB-028、東区下層調査区VI～VIIc層から出土したB-010・002・019点の4点のみで、他は全て破片資料である。そのため時期のわかる資料は少なく、中期前葉の壺(B-001)、中期中葉の鉢(B-017)、鉢(B-021)が確認される。他の土器については、これまでの西台畑遺跡出土土器と同様に、中期中葉～中期中葉古段階を中心としてやや時期幅が認められる。

3.3期：古墳時代前期の土器(第237図)

SI154竪穴住居跡から出土した遺物を基準資料とする。SI154竪穴住居跡は均質性のある堆積土で占められており、今次調査で確認された他の竪穴住居跡の堆積土と明確に異なり、出土遺物の特徴も他遺構とは明確に区別される。本項では、SI154竪穴住居跡出土遺物について概要を報告する。対象となる遺物は土師器器台2点、高坏1点、鉢1点、甕4点の計8点で、P6出土のC-187、掘り方出土のC-188を除き、堆積土からの出土である。

土師器器台はC-187とC-096の2点が出土した。2点ともに受部は内湾し、台部には三方に円形の透孔があり、外反気味に開く。調整は、受部外面はヘラケズリ後口縁部ヨコナデ、裾部外面はヘラミガキで下端にヨコナデが施される。また、C-096の内外面には赤彩が残存する。

高坏はC-188の1点が出土している。坏部は欠損しており、裾部は直線的に器台より開く。調整は外面下端にヨコナデ後ヘラケズリ、内面はハケメが施される。

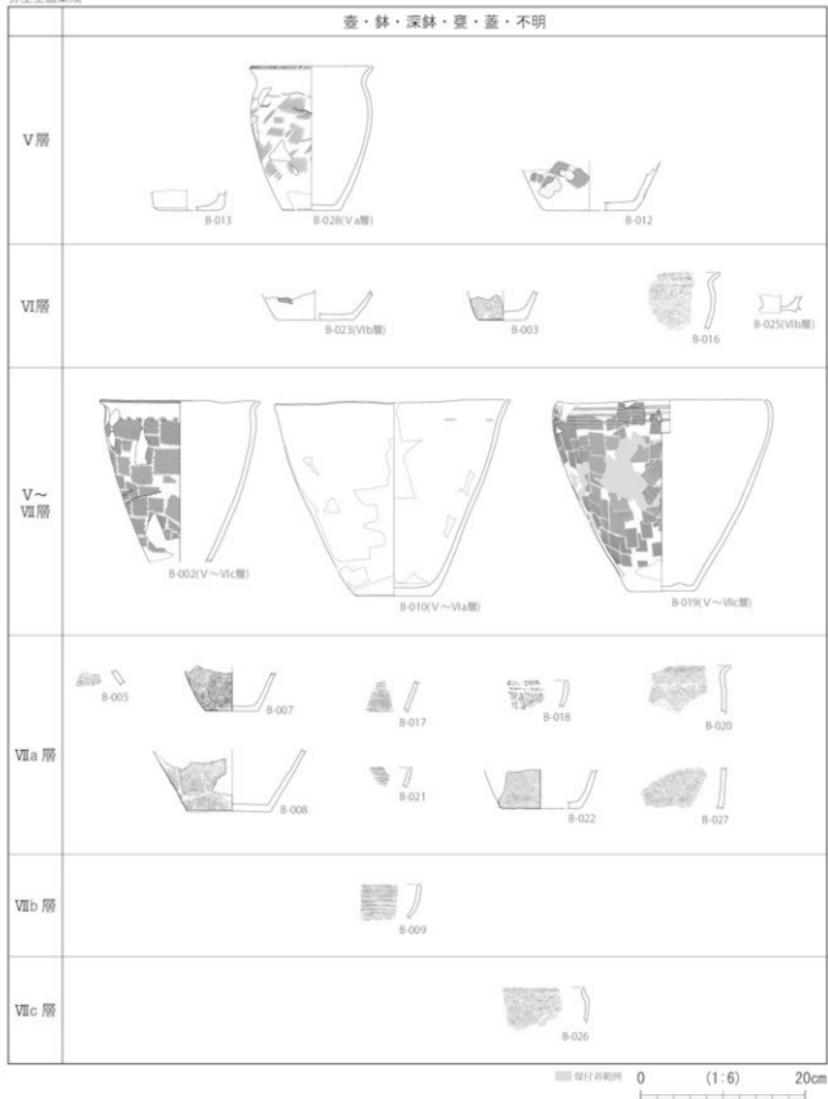
鉢はC-093の1点で、球形の体部に「く」字状に屈曲して直線的に開く口縁部を有し、いわゆる小型丸底鉢の範疇に入るが底部は平底である。体部最大径の張りは弱く、頸部径とあまり変わらない。調整は、体部外面と口縁部内面にハケメが施される。

縄文土器集成



0 (1:6) 20cm

第235図 下層調査区出土縄文土器集成

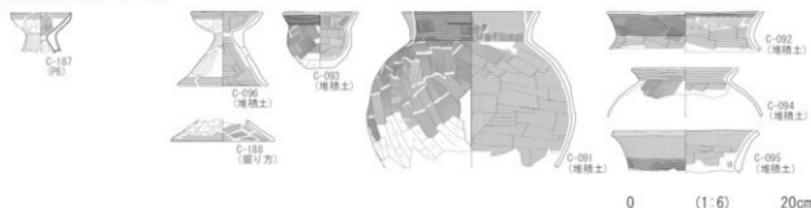


第236図 下層調査区出土弥生土器集成

3期

SI154出土土器

(時期決定基準資料：すべて)



第 237 図 3期竪穴住居跡土器集成

裏はいずれも球形で、C-091は胴部最大径が中位に位置し、調整は胴部外面にハケメ後、下半にヘラケズリが施される。C-091・C-095の頸部は「く」字状に屈曲する。C-094は、器壁は薄く、頸部は屈曲して開く。

これらの出土遺物は、器形や調整等の特徴から塩釜式の新段階、古墳時代前期後葉に位置づけられると考えられる。

4.4～6期の土器(第238～245図)

基本層IV層上面で検出した竪穴住居跡から出土した遺物の中には、床面直上及びカマド燃焼部や床面施設から出土した、竪穴住居跡に伴うと判断される土師器や須恵器がある。これらの土器は、その器形や調整等の特徴から、住社式期の土器群と栗園式期に後続し国分寺下層式期に先行する土器群に区別される。なお、栗園式期に相当する土器群の基準資料は認められなかった。西台畑遺跡では栗園式期の竪穴住居跡の検出例が少なく、今次調査地点においても同様の傾向にあったと考えられる。

本書では、過去の西台畑遺跡調査報告を基本とし、塩釜式期を3期とし、住社式期(新段階)4期、栗園式期に後続して国分寺下層式期に先行する時期のうち、郡山I期官衙期を5期、郡山II期官衙期を6期とした。5期は、今次調査区では明確な基準資料がまとまって出土する竪穴住居跡が認められず、4期の特徴を持つ遺物を伴う竪穴住居跡と、6期と判断できる竪穴住居跡にやや先行する特徴を有する土器群を伴う竪穴住居跡を抽出するに留まった。そのため本書では4期の項にて4～5期の基準資料の特徴について、5期の項にて5～6期の基準資料の特徴をそれぞれ記述する。

4～6期における時期区分及び年代の対応関係は次のようになる。過去の調査における時期区分との対応関係は凡例の時期区分表を参照されたい。

4期:住社式期(新段階).....	古墳時代後期(6世紀末葉)
(栗園式期).....	古墳時代終末期(7世紀初頭～前葉)
5期:郡山I期官衙期.....	古墳時代終末期(7世紀中葉～後葉)
6期:郡山II期官衙期.....	古墳時代終末期(7世紀末葉～8世紀初頭)

なお、「栗園式期」の時期、「関東系土師器」の名称については第3次調査報告に準じている(仙台市史編さん委員会1995、仙台市教委2010a・2011)。

(1)4期：住社式期新段階の土器(第238・239図)

SI141・143・147・153竪穴住居跡床面出土土器を基準資料とする。

この時期は、鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)の特徴を有する環を主体とし、在地系の住社式期の土師器はわずかに共存することを特徴とする時期である。

土師器環はSI141竪穴住居跡のカマド燃焼部から1点、SI143竪穴住居跡床面から6点、SI147竪穴住居跡床面から1点、SI153竪穴住居跡床面から1点の計9点が出土している。このうち、SI143竪穴住居跡P3出土のC-055を除き、須恵器坯身を模倣した鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)である。C-055は、丸底で内湾する体部から外傾する口縁部まで稜や屈曲はなく、内面に黒色処理が施される。C-089は口縁部と体部の境界に段を有し、口縁部は内湾する。

土師器高環はSI147竪穴住居跡からC-124の1点、SI153竪穴住居跡からC-087の1点の計2点が出土した。C-124は環部外面に段を有し、脚部は柱状柱夾で裾部は大きく外反する。C-087の環部は内湾する体部から口縁部との境界に内外面共に稜を有し、口縁部は外反して開く。脚部は三方に形状不明の穿孔がみられる。脚部は剥離面が摩滅しており、高台の付いた環として転用されていたとみられる。この高環の胎土は赤色を呈し、その他の環類や高環とは明確に異なる。

土師器甕は胴部最大径を中位に持つ長胴の甕と大型の球胴がみられ、頸部は段を持つものと持たないものが認められる。調整は、胴部外面にハケメを施したものが卓越し、長胴のC-063・066、球胴のC-064ではハケメの後、胴部下部にヘラケズリが施されている。C-086は口径に対し器高が低い器形を呈する。頸部の境界に段はなく、口縁部は外反して開く。

土師器甕はSI153竪穴住居跡からC-085の1点が出土した。無底式で調整は外面にハケメ後下部にヘラケズリ、内面はヘラナデ後ヘラミガキが施される。

須恵器は伴わない。

これらの竪穴住居跡のうちSI153竪穴住居跡は、壁際の堆積土を除いて人為堆積で埋め戻されており、堆積土中及び床面から多量の大きい礫が出土している。その他、堆積土中から土師器環のC-084が出土している。C-084は丸底で口縁部まで段、稜ともに持たず、口縁部が短く内湾する。これら、堆積土中出土のC-084を含めSI153竪穴住居跡出土の環、高環の特徴は、4期(住社式新段階)の中でやや古い様相を示している。

SI165竪穴住居跡掘り方出土のC-168は住社式期の特徴を有していることから、4期以後に構築されたと考えられる。この他に、SI134・142竪穴住居跡からも須恵器蓋模倣の鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)が出土している。しかし、SI134の掘り方からは、半球形に内湾する体部から「S」字状に緩やかに外傾する口縁部に至る器形を呈する北武蔵型土師器(清水型関東系土師器)の特徴を持つC-017が出土していることや、5期の特徴を有する甕が出土することから、上記2軒の竪穴住居跡は4期に後続し、5期にやや先行する4～5期として時期区分を設定した。この2軒の竪穴住居跡からは、カマド掘り方と堆積土中ではあるが、カエリを持たない内湾する形状の須恵器蓋が出土している。この蓋はTK217型式まで存続し、7世紀中葉に消滅する器形であり、本書時期区分と矛盾しない。

(3)5期：郡山Ⅰ期官衙期の土器(第239～241図)

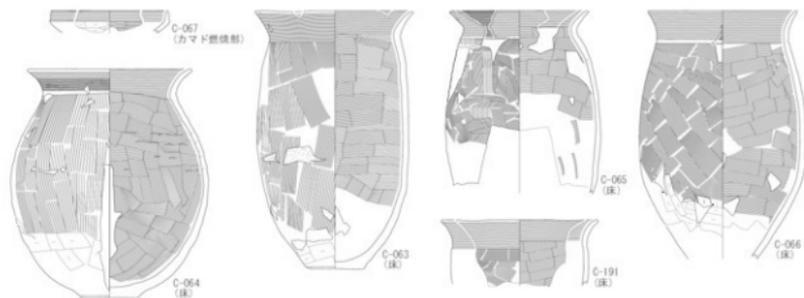
この時期は、4期に主体を占める鬼高系土師器(南小泉型関東系土師器)がみられなくなり、在地系の栗園式土器に後続する土師器環が主体を占めるようになり、北武蔵型土師器(清水型関東系土師器)の特徴を持つ土師器環を少量伴うことを特徴とする。土師器の器種・器形や法量は多様化し、須恵器はカエリがつくものが多い傾向がある。

前述したように、5期として抽出できた竪穴住居跡はないが、6期に先行する5～6期として、

4期

SI141出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



SI143出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



SI147出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



0 (1:6) 20cm

第 238 図 4～6期竪穴住居跡土器集成(1)

4期

SI153出土土器

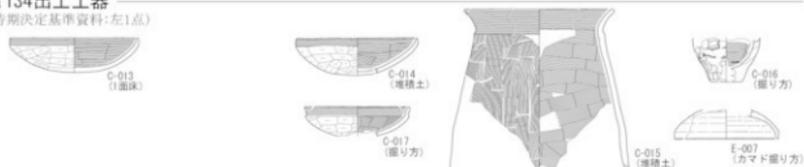
(時期決定基準資料:左4点)



4~5期

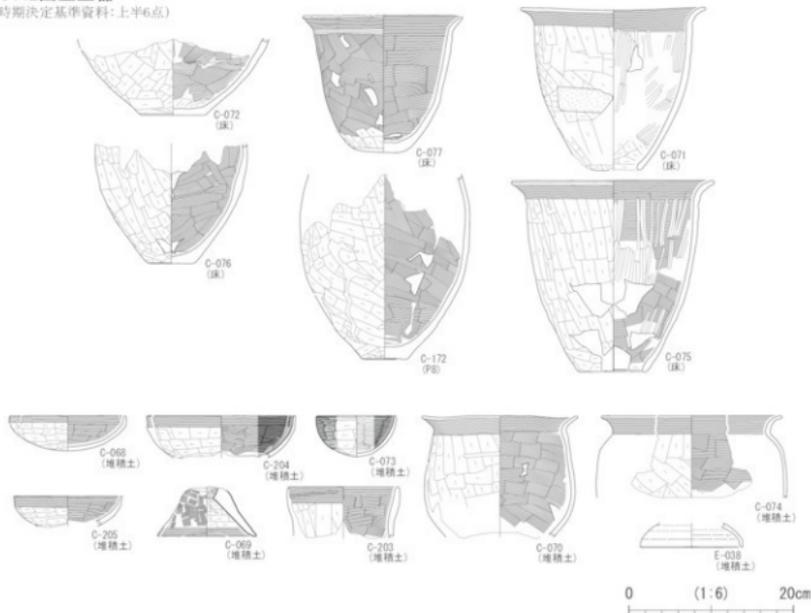
SI134出土土器

(時期決定基準資料:左1点)



SI142出土土器

(時期決定基準資料:上半6点)



第 239 図 4 ~ 6 期竪穴住居跡土器集成 (2)

SI 136・146・148・164B 竪穴住居跡床面・カマド燃焼部や付属施設出土土器を基準資料とした。器形は多種に及び、須恵器も共伴が認められる。

土師器環はSI 136 竪穴住居跡から3点、SI 148 竪穴住居跡から7点、SI 146 竪穴住居跡から1点、SI 164B 竪穴住居跡から1点の計12点が出土している。口縁部と体部の境界の段は明瞭さを欠くものが多く、口縁部は外反・直線・内湾のいずれも認められる。焼失住居であるSI 148 竪穴住居跡からは半球形を呈する碗型の環が6点出土している他、堆積土中から北武蔵型土師器(清水型関東系土器)の特徴を持つ土師器環(C-163)が出土している。法量の分化がみられ、半球形の碗状の環は比較的大型である。SI 146 竪穴住居跡出土のC-122は体部がほぼ垂直に立ち上がり口縁部が短く内傾する器形である。外面にヘラミガキ調整がなされ、内外面に黒色処理が施される異形の環である。高環はSI 164B 竪穴住居跡P6から脚部の破片が出土している(C-142)。裾部はラッパ状に屈曲して開く。鉢はSI 148 竪穴住居跡出土のC-159・160 竪穴住居跡の他、SI 136 竪穴住居跡堆積土出土の球形平底で口縁部が内傾するC-044やSI 148 竪穴住居跡出土のC-150も出土している。これらは全て異なる器形を呈し、SI 148 竪穴住居跡出土のC-159・160の2点は内面に黒色処理が施されている。C-150は口縁部に2箇所、焼成後の穿孔が認められる。

土師器甕は長胴と球胴があり、大型のものを主体とする。頸部に段はあるものといないものが認められ、口縁部は外反するものが主体を占める。長胴甕の胴部最大径は中位ないし上位にみられるが、やや寸胴気味である。須恵器はSI 136 竪穴住居跡の3面床面から環(E-011)と蓋(E-010)が出土している。E-010はカエリを有し擬宝珠状つまみを持つ。SI 164B 竪穴住居跡P6からは壺の口縁部(E-028)が出土した。その他、高盤状の環部を有する高環のE-012や、異形の三角フラスコ状の器形の底部とみられるE-009がSI 136 竪穴住居跡の堆積土から出土している。

(4)6期：郡山Ⅱ期官衙期の土器(第241～245図)

SI 132・133・135・138・139・144・150・157・158・161・162・167・170 竪穴住居跡床面・カマド燃焼部・床面施設出土土器を基準資料とする。ただし、SI 138 竪穴住居跡は廃絶後の堆積土2層一括遺物を基準資料としている。

この時期は器種・器形がさらに多彩になり、環や甕の法量の分化がさらに明瞭にみられるようになる。須恵器の出土量も増加共伴率が増加することを特徴とする。なお、郡山Ⅱ期官衙の後半から国分寺下層式にみられる平底化の著しい土師器環の基準資料は今調査の竪穴住居跡から出土していない。

土師器環はSI 132 竪穴住居跡から1点、SI 133 竪穴住居跡から2点、SI 135 竪穴住居跡から1点、SI 138 竪穴住居跡から1点、SI 140 竪穴住居跡から1点、SI 144 竪穴住居跡から2点、SI 155 竪穴住居跡から1点、SI 157 竪穴住居跡から1点、SI 158 竪穴住居跡から1点、SI 161 竪穴住居跡から2点、SI 162 竪穴住居跡から2点、SI 170 竪穴住居跡から1点の計16点が出土している。大中小の分化がみられ、平底状の丸底の環が増加する。外面に外面の段は弱いものが多く、口縁部が外反するものはみられなくなる。器形は段を持たない碗形や皿状などがある。調整は、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデないしヘラミガキ、口縁部は外面のみ、あるいは内外面ともにヨコナデを基調とするが、SI 133 竪穴住居跡出土の碗形の器形を呈するC-008は外面上半にヘラミガキが施されている。SI 138 竪穴住居跡のC-023は体部外面にヘラナデが施され、胎土が均質で今調査で出土した土器の中では唯一焼成の色調も異なっている。SI 170 竪穴住居跡のC-148の底面は厚い平底を呈する。

土師器高環はSI 139 竪穴住居跡からC-020の1点、SI 150 竪穴住居跡からC-169の1点の計2点が出土している。C-020は環部は口縁部と体部の境界に内外面ともに段を有し、脚部は短脚で外反して開く。C-169は脚部の破片で、柱状中空で下方に向かってやや開く。脚部に縦のスリット状の透孔がある。いずれも環部内面は黒色処理が施

されている。

土師器鉢は、SI140竪穴住居跡SK3から1点(C-174)、SI158竪穴住居跡から1点(C-110)の計2点が出土している。両者とも口縁部と胴部の境界は明瞭ではなく、胴部からの湾曲のまま口縁部に至る。C-174は平底で球形の器形を呈し、口縁部は内傾する。C-110は内面が平底でわずかに内湾して立ち上がる胴部をもつ器形を呈し、口縁部はほぼ直立する。C-110の底面外周は剥離しており、高台が付いていた可能性がある。

土師器甕は長胴と球胴があり、両者とも法量の分化が著しい。胴部最大径の位置は、上位に位置するものが増える。調整は、体部外面全面にヘラケズリ、ヘラナデ、ハケメを施すものがみられる他、ハケメやヘラナデ後に下部や下端にヘラケズリを施すものが散見される(C-010・033・019・080)。

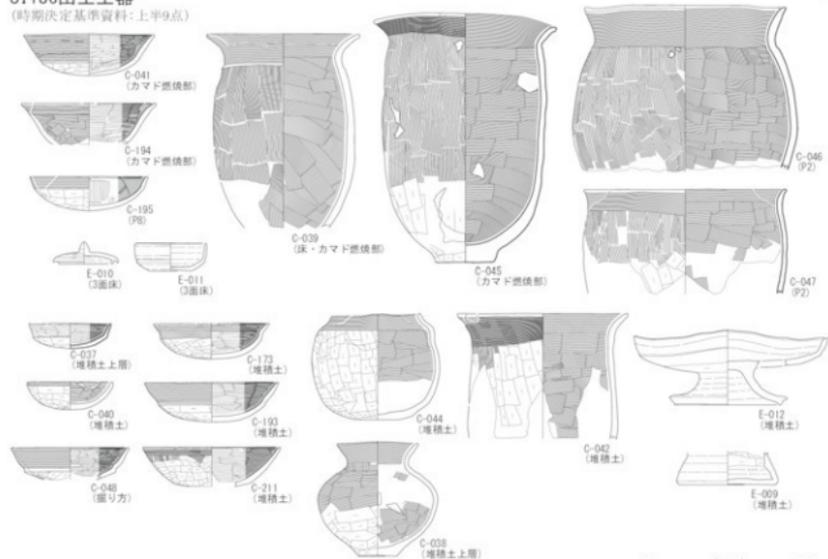
土師器瓶は、SI138竪穴住居跡から2点、SI139竪穴住居跡から2点の計4点が出土した。いずれも無底式で胴部最大径は上位に位置する。

須恵器はSI133竪穴住居跡から平瓶口縁部1点(E-005)、SI135竪穴住居跡から瓶が1点(E-008)、SI140竪穴住居跡から壺と甕の破片2点(E-014・015)、SI157竪穴住居跡から器台に転用したとみられる甕1点(E-020)、SI167竪穴住居跡から高台付瓶が1点(E-030)、SI170竪穴住居跡から蓋口縁部と完形の平瓶2点(E-031・E-027)の計8点が出土した。SI170竪穴住居跡のE-031蓋口縁部はカエリを持たず、垂下せず直線的に開くE-027の平瓶

5～6期

SI136出土土器

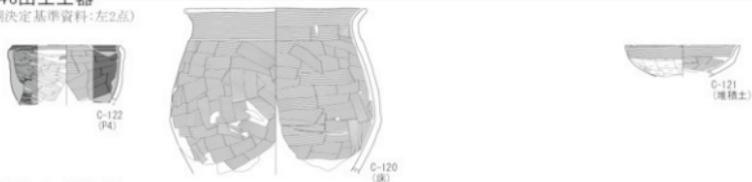
(時期決定基準資料:上平9点)



5～6期

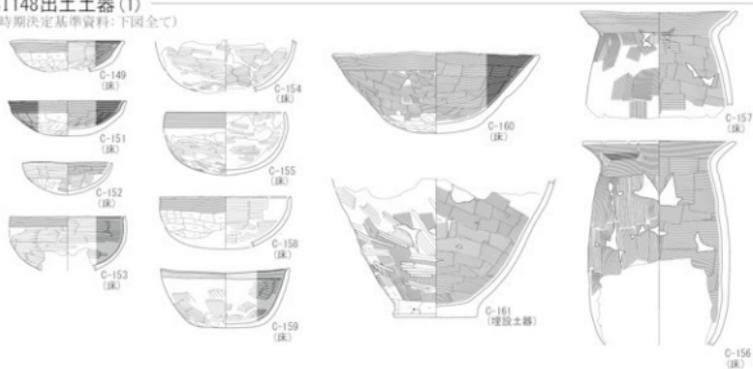
SI146出土土器

(時期決定基準資料:左2点)



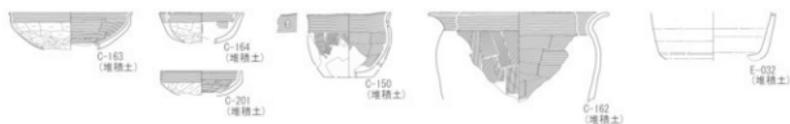
SI148出土土器(1)

(時期決定基準資料:下図全て)



SI148出土土器

(時期決定基準資料:前ページ12点)



SI164B出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



6期

SI132出土土器

(時期決定基準資料:左1点)



6期

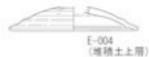
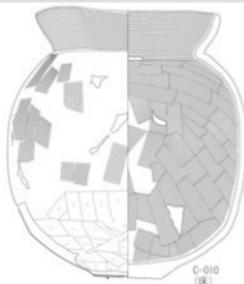
SI132出土土器

(時期決定基準資料：左1点)



SI133出土土器

(時期決定基準資料：上半5点)



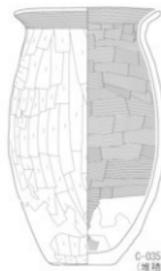
SI135出土土器

(時期決定基準資料：すべて)



SI138出土土器

(時期決定基準資料：堆積土2層一括資料)



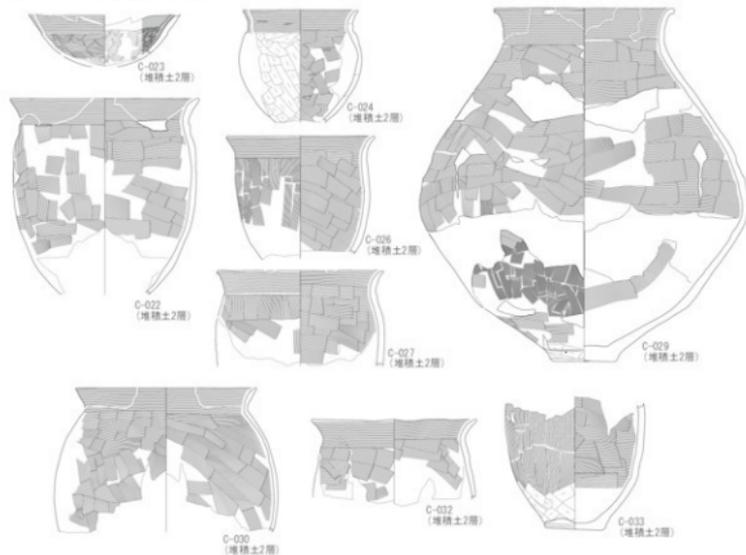
0 (1:6) 20cm

第242図 4～6期竈穴住居跡土器集成(5)

6期

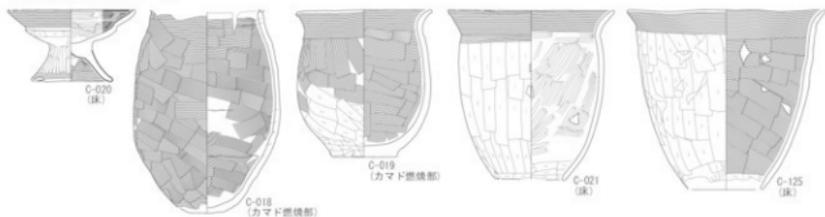
SI138出土土器

(時期決定基準資料：堆積土2層一括資料)



SI139出土土器

(時期決定基準資料：すべて)



SI140出土土器

(時期決定基準資料：左4点)



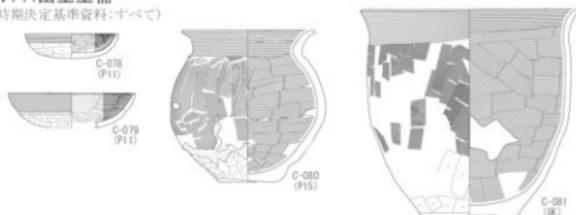
0 (1:6) 20cm

第243図 4～6期竪穴住居跡土器集成(6)

6期

SI144出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



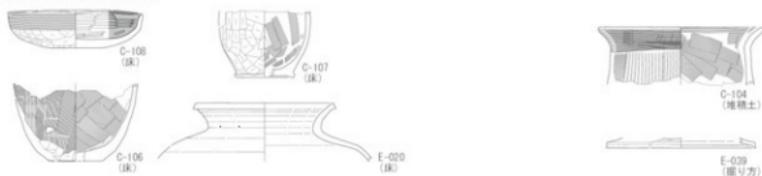
SI150出土土器

(時期決定基準資料:左2点)



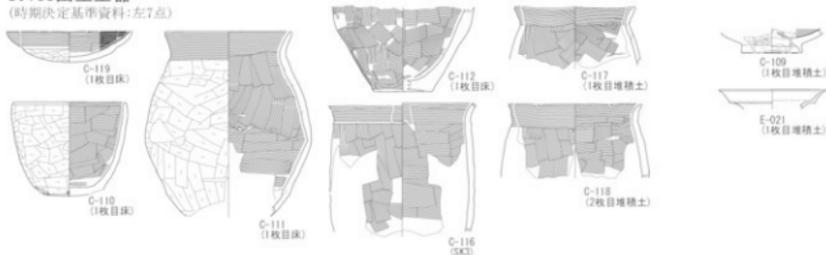
SI157出土土器

(時期決定基準資料:左4点)



SI158出土土器

(時期決定基準資料:左7点)



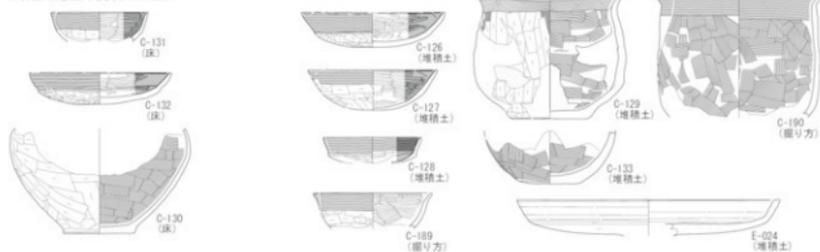
0 (1:6) 20cm

第 244 図 4～6 期竪穴住居跡土器集成(7)

6期

SI161出土土器

(時期決定基準資料:左3点)



SI162出土土器

(時期決定基準資料:左3点)



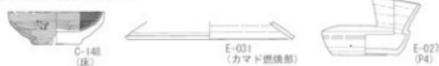
SI167出土土器

(時期決定基準資料:左1点)



SI170出土土器

(時期決定基準資料:すべて)



第 245 図 4～6 期竪穴住居跡土器集成 (8)

は平底で胴上部との境は明瞭な稜線を有し、胴下部はわずかに内湾する。これら SI170 出土須恵器は TK48 型式に位置づけられる特徴を有している。また、郡山Ⅱ期官衙に特徴的な、口縁部が垂下する蓋が SI157 竪穴住居跡掘り方から 1 点 (E-029)、SI162 竪穴住居跡掘り方から 1 点 (E-026) 出土しており、竪穴住居跡の時期が郡山Ⅱ期官衙以降であることを示している。

第2節 検出遺構(第246～251図)

本節では、今次調査で検出された遺構群について、前節で記載した出土遺物による時期区分に沿って記載する。

1.1～2期：縄文時代後期～弥生時代中期(第246図)

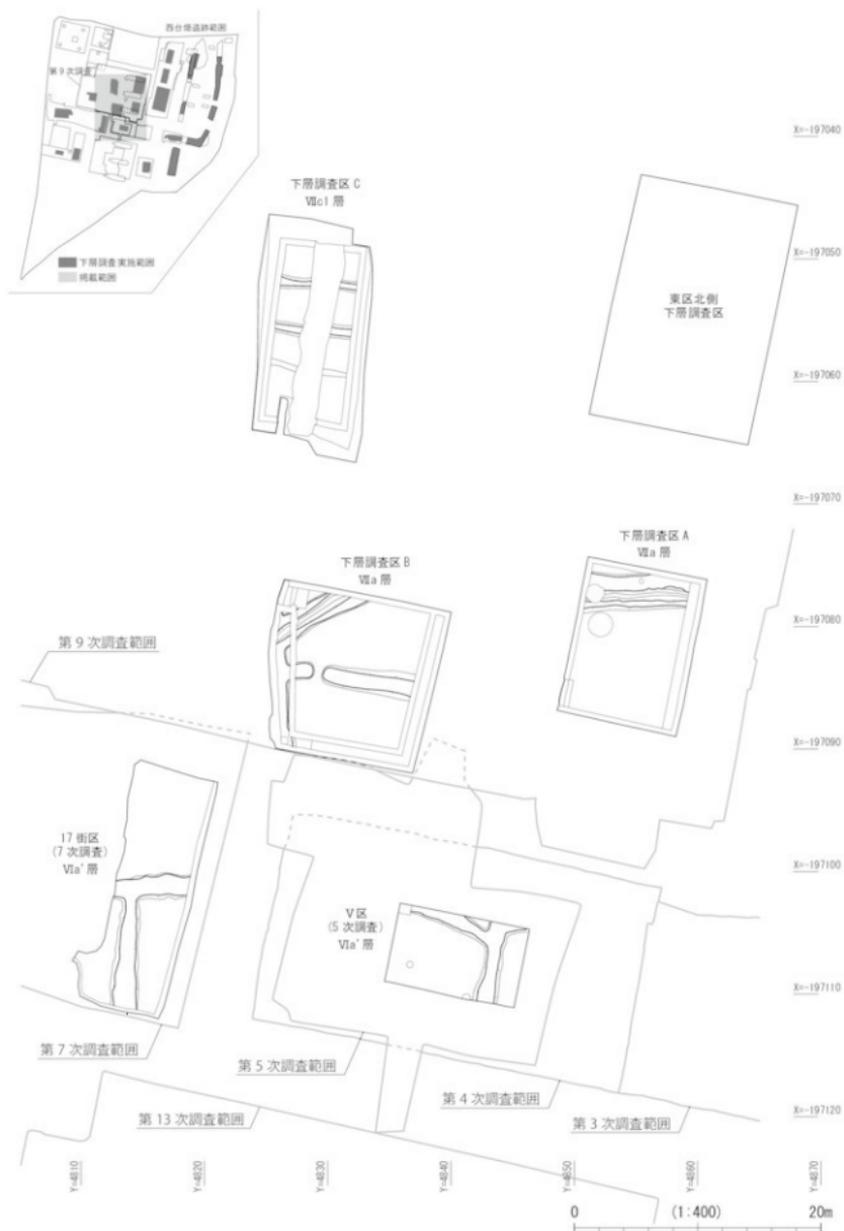
東区北側下層調査区のⅦa層で検出したSX 17性格不明遺構、下層調査区A・BのⅦa層で検出した水田跡、下層調査区CのⅦc1層で検出した水田跡、東区北側下層調査区のⅧ層で検出したPit 107～109が該当する。いずれも検出した層に共存する遺物から、弥生時代中期中葉に属するとみられる。当該期は、第9次調査の北側は微高地で、南西に向かって下がっている(第9図)。縄文時代後期～晩期の土器が出土したⅩa層から遺構は確認されなかった。

SX 17は、上端長軸353cm、短軸116cmで平面形は東西に長い不整形を呈し、深さ16cmを測る。堆積土は灰オリーブ色砂質シルトを主体とし、上層のⅤb層と類似する。本遺構は下層調査のサブトレンチで検出面を確認している。SX 17から出土した土器片が東区下層調査区の南東のⅤ～Ⅷ層出土土器と接合し、B-019となった。ピットからは遺物は出土していない。

下層調査区A・BのⅦa層水田跡は、水田区画を5区画、畦畔を4条検出した。水田区画、畦畔とも調査区外へかかり完結するものはないが、検出した範囲の規模は、最大で水田区画は1075cm、畦畔は長さ1095cm、上端幅277cm、下端幅332cm、高さ10cmを測る。下層調査区Aの畦畔と下層調査区Bの北側の畦畔上には流水の痕跡のみられる溝が検出されている。溝の堆積土の中層には水田区画を覆うⅥb層が堆積しており、溝跡は水田跡の廃絶時まで機能していたものとみられる。畦畔の方向や溝の堆積状況から、この二本の畦畔は同一のものと考えられる。また、下層調査区Bの南側の畦畔には水口が確認されている。水田面の標高は、それぞれ北から南の水田区画に向かって2～6cm下がっている。水田耕作土の層厚は7～28cmを測り、下面はやや起伏する。擬似畦畔は確認されなかったが、下層調査区Bの東壁の畦畔下面及び畦畔以北の水田面の下面には、Ⅶa層とⅦb層の間にⅦa2層が確認されている。このⅦa2層は、Ⅶa層水田跡を伴わない東区北側下層調査区や下層調査区C・DのプライマリーなⅦa層に対応するものと考えられ、このⅦa2層を母材としⅦa層水田跡が耕作されたものと推測される。水田跡を伴わない北側に延びる溝を伴う畦畔が同一のものとみられる。遺物は、耕作土中から2期(弥生時代中期中葉)の土器が出土しており、本水田跡も同時期に属すると考えられる。

下層調査区CのⅦc1層水田跡は、東西方向に延びる畦畔に区画され、水田区画を4区画、畦畔を3条検出した。水田区画、畦畔とも調査区外へ延び完結するものはないが、検出した範囲の規模は、最大で水田区画は6.24m、畦畔は長さ6.20m、上端幅61cm、下端幅110cm、高さ1～2cmを測る。Ⅶa層水田跡と比べ畦畔が低い。水田面は下層調査区Cの中北から南に向かって全体で12cm低くなる。水田耕作土の層厚は4～15cmを測り、下面はやや起伏する。擬似畦畔は確認されていない。Ⅶc層水田跡からの出土遺物はないが、周辺の下層調査区の出土遺物の様相から、弥生時代中期中葉の水田跡と推測される。

今次調査区の南に位置する第5・7次調査区では下層調査区Ⅵa'層で水田跡が検出されている(第246図)。今次調査で確認された水田跡と基本層名が異なるが、第4章に前述したように、基本層は今次調査区において北東から南西の傾斜の低い方に向かって増えており、過去の調査区においても同様の傾向がみられる。基本層Ⅳ～Ⅶ層は、過去の西台畑遺跡の基本層においても今次調査区で確認されたものと同様、粘土質の暗褐色土とシルト質の黄褐色土の互層が続き、その組み合わせをa層とし前者をa層、後者をb層として分層している。そのため過去の調査回数の基本層序と今次調査の基本層序は、特にⅣ～Ⅶ層において対応関係がずれていることが充分に考えられるため、今次調査区で検出された水田跡と第5・7次で検出されたⅥa'層水田跡との関係から検討を要する。なお、基本層序、水田跡や遺構確認面標高は過去の西台畑遺跡調査報告書を参考とした。ただし、過去の報告書の標高は東



第246図 西台遺跡跡水田跡全体図

日本大震災以前の数値であり、今次調査との標高とは若干のずれがあるものと考えられる。

まず、今次調査区内では、下層調査区A～Dは同時に掘削作業を行ない基本層序の対応関係の把握に努めており、下層調査区A・Bの水田跡と下層調査区Cは別の面の水田区画であることが明らかとなっている。そのため、第5・7次で確認されたⅥa'水田跡は、今次調査で確認されたⅦa層水田跡、Ⅶc1層水田跡のどちらかと同一の水田面である可能性が考えられる。第246図をみると畦畔の走行方向や幅が類似し、水田面の区画されている大きさ等からⅦa層水田跡と連続している印象を受ける。そこで、今次調査Ⅶa層水田跡の水田面標高、畦畔の走行方向、基本層序の対応関係について検討する。

水田面標高に注目すると、今次調査の下層調査区Aの北側の水田区画は9.46m、南側の水田区画は9.46～9.32mである。下層調査区Bの北西隅の水田区画は9.36m、北側の水田区画は9.36～9.32m、南側の水田区画は9.34～9.26mである。一方、南東に位置する第5次調査の水田区画は、東側が9.24～9.20m、西側が9.22～9.16m、北側が9.30mを測り、南西に位置する第7次調査の水田区画は北側が9.24～9.16m、南東が9.22～9.16m、南西が9.22～9.12mを測る。Ⅶa層水田跡、Ⅵa'層水田跡、いずれの水田区画においても、畦畔を挟んで北より南、東より西が低くなっている傾向が一致する。また、下層調査区Bの南側水田区画の標高は9.34～9.26m、第7次調査北側水田区画の標高が9.24～9.16mであり、水田面標高からはⅦa層水田跡とⅥa'層水田跡は連続する同一面の水田跡の標高として矛盾はない。よって、今次調査のⅦa層と1～8次調査のⅥa層は同一であり、この2つの水田跡は同一時期のものと考えられる。

次に第5・7次で報告されている水田区画の畦畔の走行方向に注目すると、第5次調査で確認された南北方向の畦畔と第7次調査で確認された南北方向の畦畔との距離は約30mを測る。今次調査の下層調査区Bの南北方向の溝を南側に延長すると、南西の第7次調査の南北方向の溝から約14.5mと第5・7次で確認された南北方向の畦畔のほぼ中央に位置する。また、第5次調査の東西方向の畦畔と第7次の東西方向の畦畔の延長線上と下層調査区Bの畦畔との距離は約18mを測る。溝を伴う畦畔は方向が異なるため検討できないが、それぞれの水田区画を延長すると、おおよそ15～18m四方の方形の水田区画が想定される。

西台畑遺跡全体の弥生時代の旧地形を、今次調査のⅦa層上面、1～8次調査のⅥa層上面の標高からみてみると最も高いのが第9次調査の北東に位置するⅢ区の北側にあたり、標高は9.85mを測る。そこから南西に向かって緩やかに、東側に向かってやや急に傾斜し、今次調査区南西隅では9.2m、東の4トレンチでは8.95mを測る。水田跡のみられる第5・7・9次のうち、水田面は標高9.46～9.12mの範囲に分布している。水田跡より南西の第8次調査区南東隅では8.95m、南東のⅦ区では9.05mと水田跡よりもさらに低く下がっているが、水田跡は確認されていない。弥生時代の遺構は、他に北東に位置するⅠ区南半部のⅤ層上面から土器埋設遺構、土壇墓、土坑が確認されており、また今次調査でも東区北側ではⅦa層で性格不明遺構が検出されたほか、遺物が出土している。さらに7次調査の西端では、9.7mを測り、水田跡よりも0.6m程高くなっている箇所では、Ⅵa層上面で炭化物範囲が5箇所確認された。

以上から、西台畑遺跡での弥生時代中期中葉の土地利用は、微高地に墓域や生活の痕跡がみられ、やや低い第5・7・9次調査に水田跡が展開していたと考えられる。

2.3期：古墳時代前期

古墳時代前期の遺構は、中区南側でSI154竪穴住居跡1軒を検出した。平面形状はやや隅丸の形で、軸方位はやや西に傾く。平面規模は一边が7.4mを測り、今次調査で確認された竪穴住居跡の中でも最も大きい部類である。床板が貼りなおした床面を挟んで2基確認されている。本遺構は他の竪穴住居跡と明確に異なる均質な砂質の堆積土で埋まっていることを特徴とする。また、床面南西に方形の窪みを有し、その南側及び東側に小礫が散き

訪められる施設(SK1)を確認したが、その性格については不明である。

当該期の竪穴住居跡は、過去の調査において南西に位置する第7次調査の西半からSI105・122・124竪穴住居跡の3軒を検出している。いずれも古墳時代前期後葉に位置づけられる。

3.4～6期：古墳時代後期～奈良時代

この時期の遺構は、竪穴住居跡40軒、掘立柱建物跡11棟、溝跡16条、土坑15基、性格不明遺構18基、ピット237基が該当する。ただし、竪穴住居跡SI164はA・Bの2軒にわかれるため、総数は41軒である。

これらの遺構群は、いずれも伴う遺物の特徴や遺構の重複関係、堆積土から、郡山遺跡に造営された官衙が機能した時期及びそれ以前の時期幅(6世紀後葉～8世紀初頭)に収まる。竪穴住居跡を含む多くの遺構が検出されたことから、以下では、今次調査で確認された居住域を形成する主要な遺構である竪穴住居跡と、それ以外の遺構に分けて記述する。

(1) 竪穴住居跡について(第247～251図)

第9次で検出された3～6期の竪穴住居跡42軒について、属性を一覧表にまとめた282ページの表にまとめたほか、第247～250図には、重複関係模式図、変遷図を示した。ここではこれらの表・図を基に、竪穴住居跡の分布、主軸方位、平面形状や規模、カマドの構造、その他の施設について報告する。

1) 分布

第9次調査で検出された竪穴住居跡のうち、伴う遺物から竪穴住居跡の時期が特定できるのは25軒(3期:1軒、4期:4軒、4～5期:2軒、5～6期:4軒、6期:14軒)で、4期に属する竪穴住居跡が4軒、4～5期に属する竪穴住居跡が2軒に対し、5～6期になると4軒、6期では14軒と、郡山Ⅱ期官衙以降に激増している。軒数の増加に伴い、重複も激しくなり、郡山Ⅰ期官衙造営以後の竪穴住居跡は最大で4軒重複している。このような状況は、過去の西台畑遺跡の調査でも報告されており、今次調査でも同様な成果が確認された。また、第9次調査では、後述する掘立柱建物跡が竪穴住居跡より新しい時期に多く作られており、建物構造の変化が確認された。

時期毎の分布については第248～250図に示した。4期ないし4～5期の竪穴住居跡は隣接するが、同時期での重複関係がみられず、5～6期においても、時期決定の確度の低い竪穴住居跡を含めても重複関係は最大で1回である。6期に入ると東区南側と中区北側で重複して竪穴住居跡が構築されるようになる。また、この範囲は掘立柱建物跡が後続し、集中的に遺構が築かれているが、掘立柱建物跡の時期は基準資料が出土していないため、出土土器を基準とした時期区分は行わず、第250図において6期の中でも先行する竪穴住居跡の時期を6期(1)、後続する掘立柱建物跡の時期を6期(2)として表示した。

2) 主軸方位

カマドの主軸方位が確認されたのは4期:3軒(SI141・147・153竪穴住居跡)、4～5期:2軒(SI134・142竪穴住居跡)、5～6期:1軒(SI136竪穴住居跡)、6期:12軒(SI132・133・137～140・157・158・161～163・167竪穴住居跡)の計18軒である。これらの主軸方位をみると、4期は北を基準として西に12～22°に小さく傾くSI147・153竪穴住居跡と、西に58°と大きく傾く大別二種類に分けられる。4～5期は57～63°西に大きく傾いている。5～6期ではSI136は西に60°と大きく傾き、SI148は西に5度と小さく傾く。郡山Ⅰ期官衙までの時期の竪穴住居跡の主軸は一貫して西に傾き、その中で10～20°程度の小さい傾きの一群と、50～60°程度の大きい傾きの一群に分けられる。

西台遺跡跡第9次調査 竪穴住居跡の属性一覧表

遺跡番号	平面形状	平面形・面積		方位		カマド		煙道		土柱穴	その他の施設	時期区分	備考		
		面積(㎡)	長短(m)	方位	方位	位置	位置	開口	開口					開口	開口
SI32	(方) 46.3× 2~3m	10.21	10.16	N4°E-W	西壁	北壁?	内?	壁土?	-	-	-	4B柱	-	6期	床3面検出
SI33	(方) 89.6× 5.0	10.27	-	(N10°E)	北壁	北壁	内	壁土	173	下がる	ピット状	4B柱 壁柱穴	土坑5基	4~ 6期	床2面検出
SI34	(方) 63.8× (546)	10.16	2m 10.08	N5°7'W	北壁	西壁	内	壁土	-	-	-	4B柱	土坑2基	4~ 5期	床2面検出
SI35	(方) 37.9× (327)	10.14	-	(N26°E)	南壁	-	-	-	-	-	-	-	-	6期	-
SI36	(方) 65.2× 618	2m 10.03	3m 9.94	(N60°W)	東壁	西壁	内	壁土 (白灰層)	84	平削	-	4B柱	-	5~ 6期	床3面検出
SI37	(方) 31.8× 286	10.20	-	N4°2'W	東壁	北壁	内	壁土	-	-	-	-	-	6期 以降	-
SI38	(長方) 42.0× 266	10.07	-	N2°7'W	カマド	北壁	内	壁土 (白灰層)	-	-	-	-	-	6期	-
SI39	(方) 52.1× 486	10.01	-	(N70°W)	西壁	西壁	内	壁土 (白灰層)	180	平削	ピット状	4B柱	-	5~ 6期	-
SI40	(方) 65.0× 1435	10.13	2m 10.14 3m 10.06	(N15°E)	南壁	北壁	内	壁土	-	-	-	4B柱	土坑3基	6期	床3面検出
SI41	(方) 54.4× 502	10.07	-	N58°W	カマド	西壁	内	壁土 (白灰層)	-	-	-	-	-	4期	-
SI42	(方) 43.5× 410	9.95	-	N63°W	カマド	西壁	内	壁土	78	上がる	-	-	-	4~ 5期	-
SI43	(方) 42.2× 1419	10.14	-	(N40°E)	南壁	-	-	-	-	-	-	4B柱	-	4期	-
SI44	(方) 65.6× 841	10.16	2m 10.13	(N11°W)	南壁	-	-	-	-	-	-	4B柱	-	6期	床2面検出
SI45	(方) 36.5× (236)	10.03	-	(N14°E)	南壁	-	-	-	-	-	-	-	-	5~ 6期	-
SI46	(方) 37.8× 377	10.22	-	N2°7'W	カマド	北壁	内	壁土 (白)	163	下がる	平削	4B柱	-	5~ 6期	-
SI47	(方) 44.7× 420	9.98	-	N1°2'W	カマド	北壁	内	壁土 (白灰層)	142	上がる	-	4B柱	-	4期	-
SI48	(方) 75.5× 499	10.18	-	N5°W	東壁	-	-	-	-	-	-	4B柱	-	5~ 6期	-
SI49	(方) 45.5× 438	10.21	-	(N17°W)	南壁	-	-	-	-	-	-	4B柱	-	5期 以降	-
SI50	(方) 44.9× 380	10.16	-	N23°E	西壁	-	-	-	-	-	-	-	-	6期	-
SI51	(方) 13.2× (115)	-	-	N33°W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	-	5期 以降	掘り方のみ検出
SI52	(方) 40.3× (234)	10.27	-	N3°7'W	西壁	-	-	-	-	-	-	-	-	5~ 6期	-
SI53	(方) 36.6× 366	10.10	-	N2°2'W	カマド	北壁	内	壁土	-	-	ピット状	-	土坑1基	4期	煙道は、壁出し部のみ残存
SI54	(長方) 74.6× 740	10.10	-	N1°7'W	西壁	-	-	-	-	-	-	4B柱	-	3期	-
SI55	(方) 49.3× (278)	1~4m	10.08	N10°E	東壁	-	-	-	-	-	-	壁柱穴	地床中2基 土坑1基 土坑2基	6期	床4面検出
SI56	(方) 51.0× 470	10.26	-	(N3°W)	南壁	-	-	-	-	-	-	4B柱	-	6期 以降	-
SI57	(方) 45.2× 435	10.37	-	N1°7'E	東壁	北壁	内	-	164	下がる	ピット状	4B柱	-	6期	カマドは、燃焼部のみ残存
SI58	(方) 47.0× 462	10.34	2m 10.32	N30°E	カマド	北壁	内	壁土	175	下がる	ピット状	4B柱	土坑4基	6期	床2面検出
SI59	(方) 60.4× 590	10.26	-	(N32°E)	南壁	西壁	内	-	-	-	-	4B柱	-	6期 以前	カマドは、燃焼部のみ残存
SI60	(方) 53.4× 534	10.30	2m 10.21	(N5°E)	南壁	-	-	-	-	-	-	-	-	5~ 6期	床2面検出
SI61	(方) 59.3× 572	10.41	-	N8°E	西壁	北壁	内	-	-	-	-	4B柱	-	6期	カマドは、燃焼部のみ残存
SI62	(方) 53.0× 448	10.34	2m 10.29	N4°E	東壁	東壁か	-	-	-	-	-	4B柱	-	6期	床2面検出 カマド煙道は、SI171か
SI63	(方) 36.6× 318	10.27	-	N41°W	東壁	北壁	内	壁土	85	下がる	-	-	-	5~ 6期	-
SI64A	(方) 46.2× 423	10.54	2m 10.51	(N17°W)	南壁	-	-	-	-	-	-	-	土坑2基	5~ 6期	床2面検出
SI64B	(方) 45.1× (274)	10.39	-	(N8°W)	南壁	-	-	-	-	-	-	4B柱?	-	5~ 6期	-
SI65	(方) 59.3× 577	-	-	N7°E	西壁	-	-	-	-	-	-	-	-	4期 以降	掘り方のみ検出
SI66	(方) 50.6× 524	10.24	-	N6°W	東壁	-	-	-	-	-	-	-	-	6期	-
SI67	(方) 51.8× 525	10.28	-	N21°E	カマド	北壁	やや外	壁土 (土灰層)	160	上がる	やや窪む	-	-	6期	-
SI68	(方) 53.0× 524	10.29	-	N2°7'W	西壁	-	-	-	-	-	-	-	-	5~ 6期	-
SI69	(方) 57.9× 552	10.29	-	N32°E	東壁	-	-	-	-	-	-	-	土坑1基	不明	-
SI70	(方) 59.0× 578	10.35	2m 10.28	(N30°W)	南壁	北壁	内	壁土	-	-	-	4B柱	-	6期	床2面検出
SI71	(方) 51.2× 529	-	-	N63°W	カマド 煙道	東壁か	-	-	(112)	下がる	ピット状	-	-	6期か	カマド煙道部のみ検出 SI162の煙道部か?
SI72	(方) 52.0× 5197	10.29	-	N7°2'W	北壁	-	-	-	-	-	-	-	-	6期	-

※柱掘りかけの平面形状は、推定。

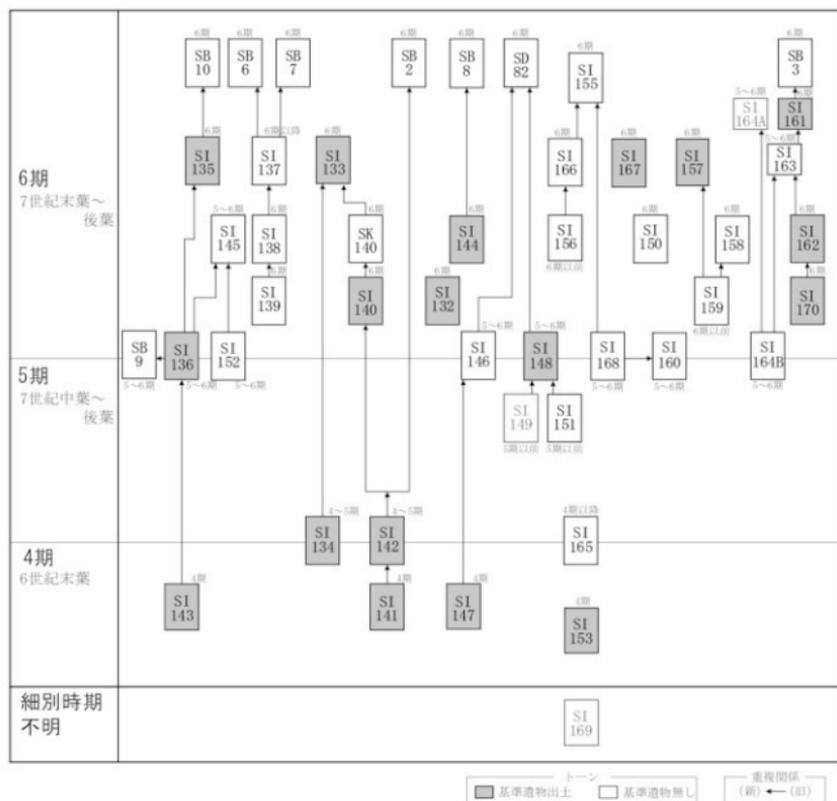
※柱掘りかけの掘削は、掘り直し。

※床面積は、各自掘削における掘り直し・床面積。

※柱掘りかけの方位は、主軸方向の埋蔵状況が判明した、主軸と直交する埋蔵をもとに算出した値。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に構築されるものを「外」と表記した。

※カマド煙道部位置は「下がる・上がる」の表記は、壁出し部方向を指す。



第247図 西台畑遺跡第9次調査 4～6期竪穴住居跡の重複関係模式図

6期に入ると、前述の小さい傾きの一群(SI138・144竪穴住居跡)と大きい傾きの一群(SI137・139・163・170竪穴住居跡)の他に、東に10°～30°程度傾く一群(SI132・133・140・157・158・161・167竪穴住居跡)7軒及びほぼ真東を向くSI162竪穴住居跡が出現する。これらの成果は、郡山官衙の主軸方向の変遷と連動した変遷を示す第1・2次調査や継続的に北方向を指向する第3次調査の成果とは異なるが、第4・5・7次調査の成果とはほぼ一致する傾向を示している。

3) 平面形状・規模

第9次調査で検出された竪穴住居跡の多くは重複関係と視乱により遺構の一部が欠失しており、全体が検出された遺構は少ない。そのため規模については不明な竪穴住居跡が多いが、平面形状を確認ないし推定できるもの的大

3・4期



4～5期

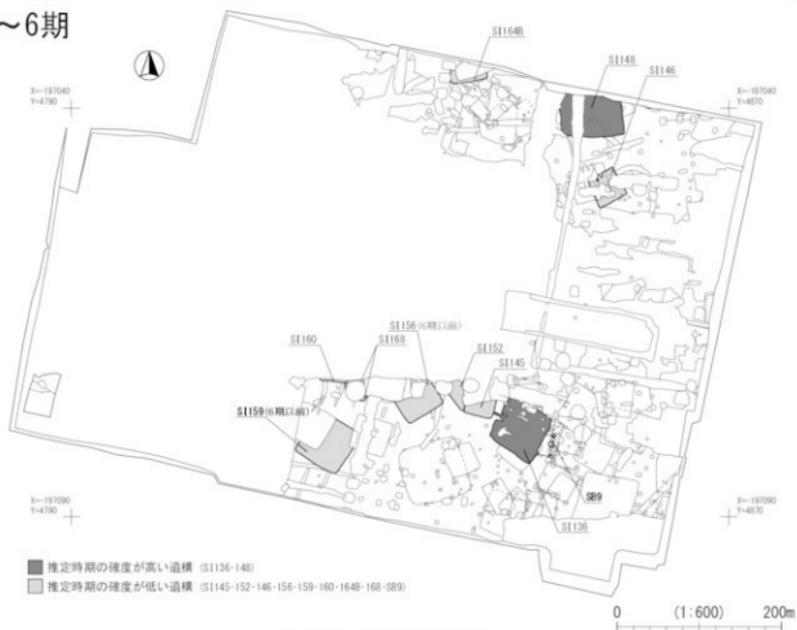


第248図 主要遺構変遷図(1)

5期



5～6期



第249図 主要遺構変遷図(2)

6期(1)



6期(2)



第250図 主要遺構変遷図(3)

半は方形ないし長方形を呈する。

いずれの時期においても、一辺4.5～6m前後を測る竪穴住居跡が多く、一辺が4m以下の竪穴住居跡は、4a期に属するSI 153竪穴住居跡、6期に属するSI 137・163竪穴住居跡と、長辺約4.2m、短辺2.7mを測るSI 138竪穴住居跡の4軒のみである。また、一辺6mを超える竪穴住居跡は、4～5期に属するSI 134竪穴住居跡、5～6期に属するSI 136・148竪穴住居跡、6期に属するSI 133・144竪穴住居跡の計5軒である。このうち最大のものはSI 148竪穴住居跡で、一辺が7.55mを測る。対象としたそれぞれの時期の竪穴住居跡が少ないが、時期毎の規模の差は認められず、過去の調査とほぼ一致した成果となった。

4) カマド

カマドが検出されたのは4期:3軒(SI 141・147・153竪穴住居跡)、4～5期:2軒(SI 134・142竪穴住居跡)、5～6期:1軒(SI 136竪穴住居跡)、6期:12軒(SI 132・133・137～140・157・158・161～163・167竪穴住居跡)の計18軒である。ただし、このうちSI 162竪穴住居跡はSI 171竪穴住居跡をカマド煙道部と理解した場合である。このうちSI 133・136竪穴住居跡ではカマドの造り替えが確認されている。カマドはいずれも壁面中央に敷設され、カマド燃焼部奥壁は住居壁面と一致する。袖はいずれも盛土によって構築され、うちSI 167竪穴住居跡には袖先端に土師器甕が、SI 136・138・147竪穴住居跡には自然礫の袖石が据えられている。カマド支脚はSI 138・147・153・158・167竪穴住居跡が自然礫を原位置で残している。煙道部は、部分的に残存しているものや、検出時には確認できたものを含め11軒で検出した。このうち、煙道底面が外方に向かってほぼ水平ないしやや上っているものが7基(SI 134・136・139・142・146・153・163竪穴住居跡)で、下るものが4基(SI 133・157・158・162竪穴住居跡)で確認されている。また、カマド焚口天井石とみられる砂質岩の礫がSI 133・146竪穴住居跡で出土した。これらのカマド袖のうち、SI 138・142竪穴住居跡では、焚口先端にオーバーハンクが認められた。オーバーハンクの上面は被熱しており、火床面との間には炭化物の混入が認められる。灰の掻き出しによる挟れか、カマド袖の緩やかな崩落によるものかは不明である。

これら、上記した各要素の組み合わせは様々で、特定の様相の組み合わせや時期別の偏りなどは認められない。唯一、煙道底面が先端に向かって下がり、竪穴住居跡床面より低くなるものは6期にのみ存在するが(SI 133・157・158・162竪穴住居跡)、過去の調査では郡山I期官衙以降にはみられる傾向のようである。

5) その他の施設

竪穴住居跡に伴うカマド以外の施設としては、土坑状の掘り込みやピット状の小穴、周溝がある。検出された竪穴住居跡の多くは4本柱の主柱穴を有するが、小型の竪穴住居跡は無柱穴またはSI 163のように住居中央に1本柱の主柱穴の可能性のあるピットを持つのみである。また一辺が6mを超える竪穴住居跡のうち、SI 133竪穴住居跡からは壁柱穴も確認されている。SI 170の主柱穴からは、須恵器の礫と一緒に完形の平瓶(E-027)が出土している。居住域からの出土は少ない資料であり、竪穴住居跡廃絶時の儀礼行為に伴うものと考えられ、郡山官衙との関連も含め注目される出土状況である。

周溝は、全周を巡るもの、一部に存在するもの、極細い周溝が巡るものや確認できないものなど多様な状況が確認されている。中でもSI 147竪穴住居跡ではP1内部とその上部に堆積する焼土と竪穴住居壁の間にほぼ垂直な分層が確認されており、板材の痕跡の可能性が注目される。

土坑状の掘り込みでは、カマドの周辺に円形に掘り込まれ、焼土が多量混入しているものが多数見つまっている。焼失住居のSI 133竪穴住居跡では炭化材がこれらの土坑の直上に乗っており、焼失時には埋まった土坑の上面が床面として機能していたと考えられる。またSI 139竪穴住居跡では、カマドの南側の床面に焼土・炭化物が平

壇に分布し、土師器高坏が逆位で出土するなど貼床としての使用が認められる。さらに、SI147では住居北東隅のP1に焼土が充填され、カマドとP1の間に焼土が零れたように床面に散らっている。これらの焼土の検出状況は、カマドの使用に伴って発生した焼土の竪穴住居跡内での保管や廃棄、利用を示すものと考えられる。

(2) その他の遺構(第251図)

掘立柱建物跡は、SB9掘立柱建物跡を除き、竪穴住居跡よりも新しく、今次調査の竪穴住居跡に郡山Ⅱ期官衙後半以降～国分寺下層式の土器を伴わないことから、郡山Ⅱ期官衙後半は掘立柱建物跡が展開する土地利用に変化したと考えられる。

溝跡のうち、SD82溝跡はL字状に屈曲し、東側の第5次及び北側の第11次調査区の方へ続いている区画溝で、新旧関係を持つ当該期の竪穴住居跡全てより新しい区画溝である。区画溝としての繋がりは第11次調査にて報告するため、詳細は割愛する。

中区南側では、南北や東西に平行して走る溝跡(SD88・95・97～101)が重複して検出された。堆積土は単層ないし上下に分層され、下層は基本層Ⅳ層のブロックを多く含んでいる。これらの溝跡は5～6期ないし6期の竪穴



第251図 第9次調査周辺の小溝状遺構群配置図

住居跡よりも古く、当該期の居住域に先行する。南側に隣接する第7次調査、南東に位置する第5次調査で確認された第7次のSM1の西端の溝とSI98は平面がほぼ一致して連続している(第251図)。SM1は基本層Ⅲ層の上から掘り込まれており、古代～中世の遺構として報告されているが同一の遺構の可能性が高い。第7次調査のSM1は竪穴住居跡との新旧関係はないが、第7次調査のSM3小溝状遺構群、第5次調査のSM1・2小溝状遺構群はいずれの竪穴住居跡よりも古い。以上から、今次調査で確認された中区南側の平行して走る溝跡は、第5次調査のSM1・2や第7次調査のSM3と近似した時期の小溝状遺構群である可能性が高い。

東区・中区の北側で確認されたSD91・93溝跡は攪乱に削平されるものの円形周溝状を呈する。時期はSD91溝跡より新しいSI146竪穴住居跡が5～6期、SD93溝跡より古いSI165竪穴住居跡が4期以降であり、おおよそ当該期の遺構群の時期に該当するが、基準資料が無く詳細な時期については不明である。なお、第9次調査の南側に隣接するV区では性格不明遺構が郡山官衙の居住域が広がる以前の小溝状遺構群より古い平面形が弧状をなすSX1・2が検出されており、本遺跡の遺構群変遷を示している可能性がある。

また、遺構ではないが、西区トレンチ2は他の基本層序と全く異なる様相を示しており河川跡であるとみられる。灰白色火山灰の堆積と、下層調査区Dの北西側の傾斜と合わせ、10世紀初頭以前にほぼ東西方向に流れていたものと考えられる。

4.7期：平安時代～中世

第9次調査区では、溝跡5条、井戸跡11基が検出された。井戸跡は直線的な配列を示し、溝跡の走行方向とほぼ一致している。SD90・96溝跡、SK139・151井戸跡からは中世陶器が出土している。これらの出土した陶器のうち年代の判るものは13世紀前半から14世紀前半頃までの時期幅に収まる。これらの溝跡、井戸は当該期の同時期のもと考えられ、中世における土地区画の軸を示しているものと推測される。

5.8期：近世

遺構外から極少量の近世陶磁器が出土しているのみである。

第3節 まとめ

西台畑遺跡は、仙台市太白区郡山二丁目に所在し、標高約11mの自然堤防上に立地する。「仙台市あすと長町土地区画整理事業」におけるマンション建設事業に伴う今次発掘調査の結果、縄文時代後期から中世にかけての遺構や遺物が検出された。これらは、出土遺物の特徴及び過去の調査成果から、1期：縄文時代後期、2期：弥生時代中期中葉、3期：古墳時代前期、4期：古墳時代後期、5期：古墳時代終末期(郡山I期官衙)、6期：古墳時代終末期(郡山II期官衙)、7期：中世、8期：近世に区分される。これらは今次調査区による時期区分である。

1～2期

基本層Xa層から縄文時代後期～晩期の土器・石器が少量出土した。出土した土器はいずれも破片資料で、基本層中からの出土で遺構は認められない。

1期の土器の器種類は鉢ないし深鉢が認められる。いずれも破片資料のため、細別時期は不明である。

2期に属する土器は、基本層IV～VII層から出土した。器種には、壺、甕、深鉢、鉢、蓋が認められる。このうち細別時期がわかる土器は弥生時代中期中葉(椀形甕式)に位置づけられる。遺構は、下層調査区A・BでVIIa層水田跡、下層調査区CでVIIc1層水田跡が検出された。このうちVIIa層水田跡は、第5・7次調査で確認したVIa層水田跡と同一の水田跡と考えられる。

3期

竪穴住居跡1軒を検出した。伴う土器の特徴から塩釜式期の新段階、古墳時代前期後葉に位置づけられる。同時期の竪穴住居跡は第7次調査でも確認されており、当該期の居住域の広がりが確認された。

4～6期

竪穴住居跡42軒、掘立柱建物跡11棟、溝跡16条、土坑15基、性格不明遺構18基、ピット235基を検出した。竪穴住居跡に伴う土器の特徴から、4期は住社式新段階位置づけられる。栗岡式土器の時代を挟み、継続性を有する居住域が今次調査区にも展開することが確認された。

遺物は土師器を主体として須恵器、土製品・金属製品・石製品・石器が出土した。土師器は、鬼高系土師器(関東系土師器)を主体とする竪穴住居跡を確認したほか、北武蔵型土師器(清水型関東系土器)も極少量出土している。

今次調査においては、掘立柱建物跡の殆どが、新旧関係を有する竪穴住居跡よりも新しい。郡山Ⅱ期官衙後半以降に位置づけられる土器の基準資料が無く、郡山Ⅱ期の後半は出土遺物による時期設定はできないものの、竪穴住居跡から掘立柱建物跡への建物構造の変化があったことが確認された。

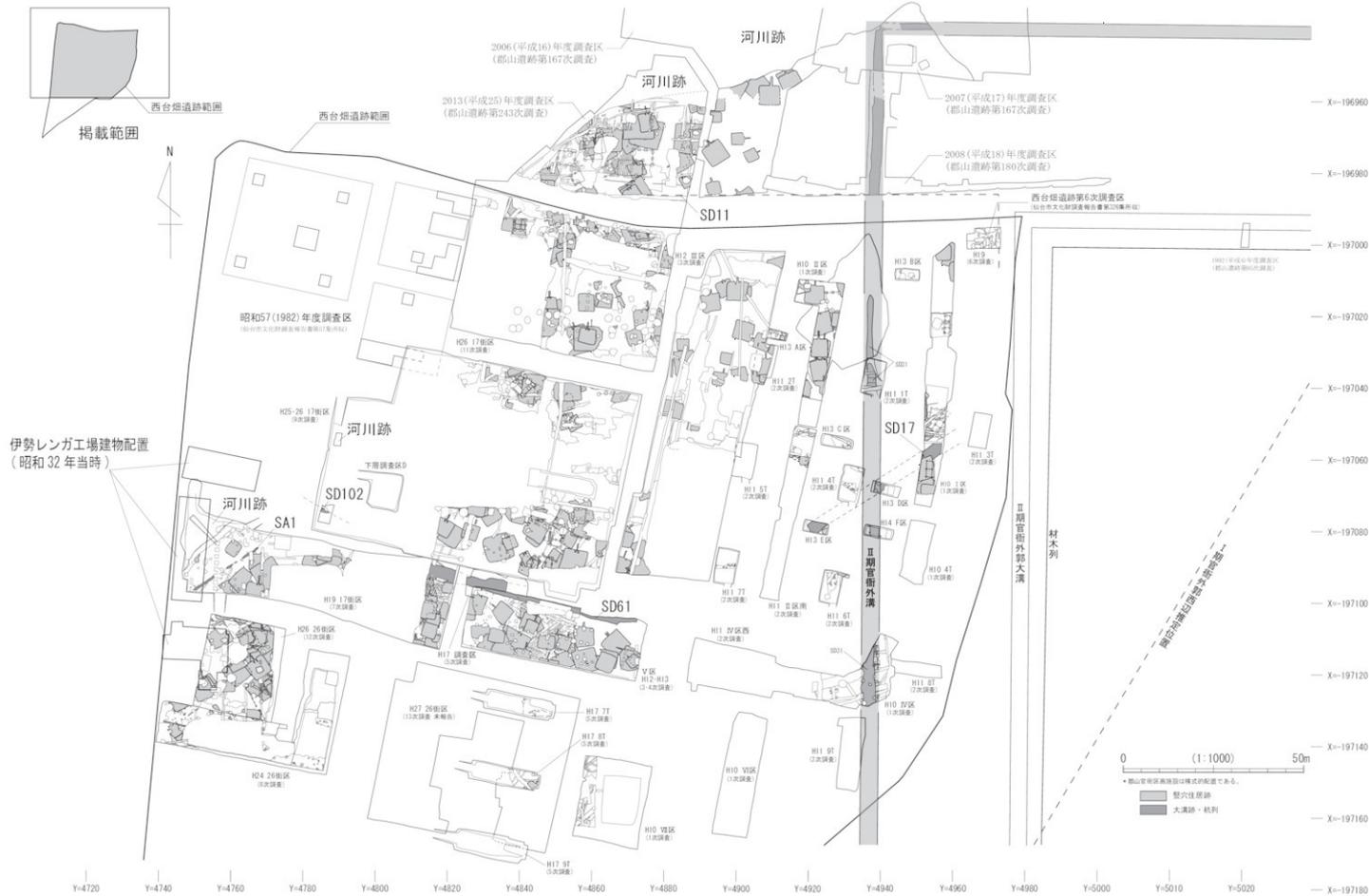
その他、西区トレンチ2からは河川跡を検出し、堆積層上部に灰白色火山灰の堆積を確認している。

7期

溝跡5条、井戸跡11基が検出された。溝跡はほぼ同一位置で3期の変遷がみられる。井戸跡と溝跡は同一の軸方位を示しており、中世における土地区画と土地利用の一旦を示している。溝跡・井戸跡からは、少量ではあるが13世紀前葉～14世紀前半の年代幅に収まる陶器が出土している。

8期

この時期の遺構は検出されておらず、遺物も時期のわかるものは19世紀前葉以降の陶磁器類が極少量出土しているのみである。



第252号 郡山官衛所西辺と西台畑遺跡